

アナスタシア・ノヴィク



АЛЛАТРА

アラトラ

キエフ

2013

日本語訳、
日本
2023年

ALLATRA

世界と人間に関する基本的な知識を含むアナスタシア・ノヴィフの重要な本は、アラトラの本です。この作品の原本は、アナスタシア・ノヴィフの他の本と同様に、ロシア語で書かれています。これらの本を他の言語に翻訳する対象となるものはすべて、もはやオリジナルではないことを理解する必要があります。むしろ、これらの翻訳を実行し、この情報を他の人に伝えようとする人々の意味と理解の翻訳です。本当に知っている人は、原始的な意味だけでなく、この本の印象的な力と精神を理解するために、オリジナルの本だけを読んでください。



服を着た天使の叫びか、魂の代わりに天使を持つ人の苦しみか。

誰に、なぜ私はこれらの文を書いているのですか? 多分自分のために。

聖なる場所に何年も滞在していた私が、心から自由な魂を持つ神の意志によって、人々に認識されたのは2回だけでした。人間の心はつまずきの石であり、魂の前に立っている大きな岩。

岩を回って飛び越えることはできません。誰もが鋭い石を登り、爪を血に引き裂き、滑りやすく甘い意識の棚から落ちて、再び起き上がり、精神的な力を得て、再び這うことができるわけではありません。

結局のところ、崖のふもとはとても美しく、居心地が良く、甘くて暖かいです。そして意識は、あなたが望むものの幻想を作り出します。

あなたが望むもの全て。とにかく、彼は燃えている家、生命を続けるための子供、金、有名、どうでもいい。あなたが望むものだけ。願ってさらに願って、すべてが与えられるでしょう。どちらか一方の幻想において、それは重要ではありません、願っていた、願っていたのだ! 地上のものを。

「しかし、とても難しい!」 多くの人は叫びます。いいえ、難しくありません。私は何度も服を着ました。私は鍵を握って無限の道のために歩き、見つけたものによってのみ肉を養いました。そして彼は王であり、数えられなかった国々によって長い間支配されていました。そして、服が私を押しつぶすたびに、恥ずかしくなり、私が生きることを妨げました。



彼女は恐怖と傷を負って揺れ、他の皆と同じように、最初は彼女が彼女を飼いならすまでたくさん欲しかった。彼らがすべての服を織ったその野生の獣は、所有者だけである魂だけを恐れています。しかし、多くの魂は、私の服が、私が生きることを妨げるので、彼らが生きることを妨げる魂、獣以上のものを恐れています。私はそのような人々を理解することはできません。一瞬永遠に交換しますか？意味は何なのか？獣の皮膚の腕に苦しみ、毎日倒すズボンとして機能します。そして、この人生で？人生は無限です！苦しみはありません。魂を心配することは不可能であるため、壊れません。しかし、服は家にいません。一時的に保管されているクローゼットしかありません。魂だけが眞の家を持っています！で、特に、この魂が家でこの気持ちを生み出します。人間がずっと探している気持ちを。

リグデン・ジャッポー：





最初の本の出版から数年が経ち、多くの出来事が起こり、人々を助けたいという一人の誠実な願望が、彼の実際の行動と自己改善と相まって、本当に驚くべき結果をもたらすことをもう一度確信しました。

そして、それは本についてでさえありませんが、それらで提供される知識の理解と実用化についてです。

本は知識を伝達する手段です。知識は、「所有物」や「自分の結論」の概念ではなく、時代を超えた上からの知恵の概念です。

開かれた門としての知恵は、すべてを創造した方から光がもたらされる驚くほど高い精神性の状態に入るためのものです。

人間のガイドの記憶が何世紀にもわたってほこりの中に消えたときでさえ、常にそうであり、今もあり、そしてこれらもそうなるでしょう。

真の種子のようなこの知恵は、人に良い新芽を与え、人間の恐怖のニッチから心を解放し、妄想の暗闇の狭い金庫室を助け、物質的思考の硬さを克服し、無限の領域を発見するのを助けます、真実の認識の。

それは、偏見や物質的な目隠しをせずに、精神的な観点から世界を見るために、彼自身のありふれた重要性を超えて立ち上るのに役立ちます。

知恵は人に誠実さと目的を与え、理解を豊かにし、精神的な生活の質に対する責任を高めます。



靈的な人にとってのこの永遠の知恵は、良い種からの大きな耳に命を与える水分のようなものです。

人間の問題の根源を理解し、精神生活の雰囲気を改善することができます。

それは、人間と世界の複雑な現実を理解するための主な鍵を提供し、物質的な動物の心の残酷な世界で人間が創造的な精神社会を創造する際に独特の条件を作り出すための源として役立ちます。

永遠の知恵は、過去と未来の出来事の本質を知るために、人が精神的に自分自身を変えることを可能にします。

この叡智は神によって創り出された創造的な原則であり、それを受け入れたすべての人に神の永遠への道を開きます。





リグデン: 知識から質問をする人と、真実の探求への渴望に突き動かされている人との間には、大きな違いがあります。

世界では、彼らは論理からの心、記憶、知識だけを教えています。そして、真実を認識するとき、魂から来る深い精神的な感情の自己改善、意識、理解の高い段階を習得する必要があります。精神的な経験は心を超えているからです。

アナスタシア: はい、あなたは以前にこれについて話しましたが、何年にもわたって毎日自分自身に取り組んだ後、私が情報を感じ、大量に理解し始めたとき、私は精神的な経験とは何か、心の外にあることに実際に気づきました。そして、あなたを通して世界にもたらされる独自の知識のおかげで、私は世界と私自身の精神的な理解に大いに助けられました。

知恵の霊的な穀物が人々に伝えられた最初の本が出版されてから、まだ何年も経っていません。人々はただ感謝して本を受け取ったわけではありません。それらの多くの魂は、傷ついた弦のように、この叡智と衝突し、聞こえない莊厳な音を発します。それだけでなく、これらの本は、意識が動物の性質に支配されている人々でさえ、その選択を躊躇させます。

人々は自分自身をコントロールしようと、より懸命に働き始めた。



彼らの考え、彼らの発達における動きの方向、彼らの精神的なニーズの本質を理解すること、伝統的な信念の永遠の粒子を見ること。これらの本の読者は、目覚め始めただけでなく、靈的に成長し始めました。そして、これは彼らの質問の進化に見ることができます。ほとんどの人が慌てて最初に思いつく疑問は、人間の頭から出てくる疑問です。本の主人公は本当に存在するのか、それともフィクションなのか、それとも真実なのか、特に主人公の先生は? (リグデンは優しく微笑んだ。)

他の人々は、内なる喜びから、消費者の思考のステレオタイプな形式で質問を急いでいます。「あなたは新しい本を読みましたか?

さらに、本に書かれている精神的な実践に従事しようとする人もいますが、実際には物質的な優先順位を変えずに、常に自分自身との論争の状態にあります。

そして、それから来る質問は同じ性質のものです。たとえば、私は精神的な実践に従事していますが、奇跡は起こらず、私の人生は何も変わりません。

リグデン: 人間は本質的に二重です。人間の心は、ある極端から別の極端に簡単に移動できるため、混乱と不安定が生じます。外側は内側の反映にすぎません。

アナスタシア: しかし、知識の深さを染み込ませている人がいます。それは彼らの人生をひっくり返しました。彼らは、精神の論理に対する精神の優位性の証拠を必要としません。彼らは人生の選択において安定しています。これらの人々は魂が純粋であり、彼らの意識は、世界の自己中心主義のパターンと個人的な疑問の沼に行き詰まることはありません。彼らは、心が綺麗です。



彼らは蓮の花のようなものです： 太陽の光に照らされると、光に引き寄せられます。

したがって、内部に関する質問の質は完全に異なります。彼らの質問は、魂の間に目に見えないコミュニケーションがあるかのように、論理や人間の心からではなく、深い感情から来ています。

リグデン： 深い感情は、人間とは異なる特別な言語です。人は自分の根底にあるものを克服し、日々自分自身に取り組み、成長し、人間として精神的に変容するとき、悟りを開きます。人が靈的に成長するとき、彼は心の疑問に直面します。

スピリチュアルな実践の経験は、物質的な脳がその認識において制限されており、体を指していること、そして体は腐りやすく有限であることを彼に認識させます。そこに住む魂は目に見えませんが、永遠です。彼は、感覚的な経験は心から言葉で確実に伝えることができないことを理解しています。

スピリチュアルな実践は、人の深い感情を明らかにし、認識し、発展させるのに役立つ単なるツールであり、その助けを借りて、彼は彼らの言語、つまり深い感情の言語で最高のものとコミュニケーションをとります。

したがって、どんな考えも寓意にすぎないため、神について直接話すことはできません。

神は別の言語であり、心の言語ではなく、深い感情の言語であり、すべての人の魂によって理解されます。これは人間の魂の唯一の言語です。これが真実の言語です。

アナスタシア： はい、そのような経験は実際に練習に伴います。心の連想と、最も深い感情を正確に理解することとの間には、大きな違いがあることに気づきました。自分の経験を言葉で伝えるのは難しい。



あなたと人々が同じ精神的な波長にあり、言葉なしであなたを理解してください。

リグデン：自分のスピリチュアルな経験をどのように共有し、本当の現実を人々に説明するかという問題は、真実を本当に知っている人々を常に悩ませてきました。個人的な靈的経験の内容は、物質的な世界とは異なる、まったく別の世界を知る経験であるため、言葉で伝えるのは困難です。

あなたが言うことはすべて、この世界の経験のプリズムを通して物質的思考によって知覚されるため、誤解されるか、知覚が歪められます。

何千人のリスナーのうち、実際に聞くのはごくわずかです。それはあなたの残りの部分に何の役にも立ちません。実在の諸相は、実在を観察する者だけが知っている。

アナスタシア：人生経験豊富な読者もいます。人間の基準では、彼らは人生で多くの方法で成功し、多くのことを達成し、周囲の世界で多くを変える機会を得ました。知識は彼らの魂に触れましたが、心の博学との接触からの共鳴は彼らに休息を与えません。

そして、彼らは人生の経験に基づいた論理から質問をしますが、質問の本質は彼らの精神性から来ています。

これらの人々は、心の怠惰からではなく、世界をより良く変える必要性から答えを知りたがっていると感じられます。これらの質問の 1 つは、私があなたに尋ねることが重要で不可欠であると考えたものです。その答えは、人々の世界観を変え、文明の世界的な選択に影響を与える可能性があるからです。

次の質問、「人々が軍事目的で使用できないような知識はありますか？



公的科学を搖るがし、探究心を導き、精神世界からの物質世界の起源、つまり神による世界の創造の科学的証拠を導くことができるでしょうか?」

リグデン: はい、この質問は真実を渴望している人からのものだと思います。

人々がすでにこの質問をしている場合は、それに対する答えを開く時が来ました。はい、そのような知識は存在します。それらは天文学の分野、または宇宙空間の現象、宇宙体とそのシステムの進化と相互作用を研究する天体物理学の科学に関連しています。

天体物理学の現在の開発段階では、現代物理学の新しい発見が使用され、科学的および技術的進歩の最新の成果が適用されるため、それを補完する情報は物理学自体の開発に大きく貢献します。自然現象の一般法則を研究する科学として。そして、人々が物理法則を十分に深く掘り下げれば、精神世界の優位性と物質世界の二次的性質を科学的に証明することができます。

これは人々の生活の質と意味を変え、真実を理解する別の道、つまり科学を通じて道を開くでしょう。

アナスタシア: この知識は確かに非常にタイムリーです。

私の知る限り、天体物理学者は進化の問題を探求し、「何が起ったのか?」という質問に答えようとしています。「そしてそれは?」。

しかし、現代の科学の飛躍にもかかわらず、人々がこれを行うことは非常に困難です。そして、それには多くの理由があります。

今日、多くの点で星についての知識があることが知られています。



天体の電磁放射のスペクトル分作、つまり、天体から地球に来る電磁波の弱い流れの研究を通じて得られた情報に基づいています。

そして、これらすべては、可視光に加えて、電波、赤外線、紫外線、X線放射、ガンマ線、つまり人間の目に見える光線よりも大きいいか小さいさまざまな波長の電磁波です。

科学の最新の成果のおかげで、人々が発明したデバイスを彼らは見ました。

リグデン： 最も多様な性質の多くの波の宇宙の海の中で、現代科学に知られているこれらの電磁波は、スペクトル内の放射のわずかな間隔しか占めていません。

アナスタシア： それが問題だ。結局のところ、現代の天体物理学者の仕事は、限られた領域だけを示す狭いスリットを通して、現在ではなく遠い過去を見て、今日の全世界が何であるかを見つけようとしている人のようなものです。未来に言及。

同じ光とは何かと問われれば、現代科学によれば、この概念の狭義の意味では、人間の目が知覚する周波数範囲の電磁波であり、広義の光放射であるという答えが返ってきます。

科学者に知られている光の速度を考えると、彼らがずっと前に起こった星に関連する現象の多くを見ていることは驚くべきことではありません。つまり、実際、彼らは何百万年も前に起こったプロセスを観察しています。



リグデン: (微笑みながら): ええ、そうです。ホモサピエンスという種がまだこの惑星に存在していなかった頃の話です。

アナ斯塔シア: 興味深いことが判明しました。科学者たちは、現代人が4万年以上前に登場し、最初の「信頼できる」ホモサピエンスが地球上の人類の代表として約200万年前に登場したと信じています。そして、近くの銀河の1つと同じアンドロメダ星雲からの光が200万年以上にわたって私たちに来ていることを考慮すると、現在のものではなく、当時のものであることがわかります。地球上に人間の存在の兆候がなかったとき。

リグデン: その通りです。そして、遠く離れた銀河系外の天体について何が言えるでしょうか?人々はそれらを数十億年前の状態で見ています。

星は、最も寿命が短いものでも、人間の文明よりもはるかに長く生きます。

私は、「合理的な主題」としてのつかの間の存在の間、しばしば彼の本当の運命を理解していない普通の人について話していくのではありません。彼の命は湯気のように一瞬現れては消えていく。

人類は、急速に失われた文明の 1 つです。人々は定期的に知識を与えられますが、多くの場合、この知識は世界に現れる時間がありません。これは、動物性に対する人間の選択です。

この知識をスピリチュアルな成長のために利用できる人はごくわずかです。



選考結果 水のように、あれこれの器の形をとる。

アナスタシア: 残念ながら、これは現在の文明でも見られます。そこでは、人は自分の有害な情熱の奴隸になっています。

最近の例: 近地球宇宙の探査は、弾道ミサイルと核爆弾の作成直後に始まりました。

リグデン: 人類が世界的にスピリチュアルな考え方の優先順位を変えなければ、悲しい運命が文明を待ち受けています。そのような文明は短命である傾向があり、戦争で自らを破壊するため、比較的短い時間枠で存在します。

アナスタシア: うーん、100 年も 1000 年も、宇宙にとっては、は何も変わりません。もちろん、ここで宇宙物体の地球規模での実用的な観察について話す必要はありません。

リグデン: 人間の命は一瞬です、それは本当です。しかし、人は単なる体以上のものです。そのため、人間の目には見えない現象について、最初から多くの知識が人々に与えられました。古代から、人々は世界の構造、宇宙、そして人間の多次元性、その本質と目的について知っていました。

もう 1 つの問題は、この知識が人間の自我によって奪われ、物質に制限された心によって認識を超えてねじ曲げられた方法と、それが今日までどのような形で保存されているかということです。



アナスタシア： 残念ながら、私たちの時代には、世界の人々に関するこの古代の知識はすべて、神話や古代の「原始的な信念」として人々に提示されています。そして、最近まで現代科学でさえ知らなかった、古代の人々の同じ知識を証明する「不都合な事実」についてはコメントされていません。

すべての科学は唯物論的思考のみに基づいて構築されています。

天体物理学では、宇宙現象を研究するために、分析手法を使用してモデル、理論、および予測を構築することがよくあります。

リグデン： (笑)：純粹に唯物論的な世界観のきしむカートでは、実際の科学では遠くまで行くことはできません。

いずれにせよ、遅かれ早かれ、真の科学者はそのような科学的地平に到達し、そこでは人間の結論の連鎖全体が支えられている既存のサポートが使用できなくなります。

今日、人々は目に見えるものを例にして、目に見えないもの説明しようとすることがあります。多くの場合、理論と偶然発見された事実との間に矛盾があります。

たとえば、電流とは何か、重力とは何か、ブラックホールとは何かなどについて、科学者はまだ明確な考えを持っていません。それでも、彼らはこれらの用語を使用します。しかし、これらの現象の性質をグローバルに理解し、掘り下げるためには、物質的な世界観とは質的に異なる、根本的に異なる世界観を持つ必要があります。



アナスタシア: 精神世界の現象を理解する?

リグデン: その通りです。

アナスタシア: あなたはかつて「宇宙は人間の心に収まらないほど大きい。しかし、最も細い医療用針を突き刺して、その先端が何かに当たらないように、何かに接触しないようにすることができます。」

リグデン: これは本當です。そして、尋ねられた質問に答えて、天体物理学のいくつかの非常に重要なトピックだけに、自然に、人間の思考にアクセス可能な形で触れます。しかし、言わされたことの本質を理解することは、科学者に世界秩序に対する世界的に異なる見方を与えることができます。

科学者によると、宇宙の誕生時に起こったビッグバンについての仮定である、現代の理論の現在の教育を受けた心のためのテンプレートから始めましょう。彼らは、この一般的な仮説理論を熱力学の法則で論じています。この仮定によれば、宇宙は点に圧縮され、その爆発の後、約10億トンの質量と陽子の大きさの物体が現れました。

アナスタシア: 彼らが言うように、彼らが今日知っていることは彼らが主張することです。科学者たちは、熱平衡の法則と熱の他の形態のエネルギーへの変換を研究する物理学のこのセクションを非常によく習得したと信じています。そして、ギリシャ語から翻訳された「熱力学」という用語自体は、科学界における彼らの論争を非常によく特徴付けています。「熱」-「熱」、「暖かさ」。「ダイナミックス」 - 「強い」。そこには、どんな議論があっても、熱意と熱気があります。



リグデン: 热烈なスピーチはまだ学習していません。1つの嵐はまだ梅雨ではありません。争いに強い者は一人の勝利を喜ぶが、知っている者は何千人の人々に勝利をもたらす。

アナスタシア: 私の知る限り、現代科学では、「強い」と「知識が豊富」の比率は、前者が多く、後者が著しく欠如しているという点で壊滅的です。

科学チームの知識豊富な人は貴重です。彼は陽子のようなものです(ギリシャ語から翻訳されたものは「protos」-「最初の」を意味します)、この素粒子のように、常に正の電荷を持ち、すべての原子核の一部です。このチームのすべての科学がかかっていると言う人もいるかもしれません。

リグデン: その通りです。人々が受け取る知識が、科学だけでなく社会でも知っている人の数を増やし、宇宙の起源についての質問を含め、世界の理解を変えることを願っています。

私が言ったように、今日、人々は宇宙が点に圧縮され、その「ビッグバン」の後、質量が約10億トンで陽子の大きさの物体が現れたと単純に思い込んでいます。さらに、頭脳からのこの誤った仮定は、これらの物体は微視的なブラックホールにすぎないと言っています。残念ながら、熱烈な「理論家」を失望させなければなりません。陽子のサイズで約10億トンの重さのそのような物体は存在しません。

しかし、宇宙の性質には次の現象があります-これらは、物質からの情報の放出中に情報クラスター(クラスター)から形成されるオブジェクトであり、物質がブラックホールの作用域に入るときに発生します。



情報クラスターを形成できる最大かつ「最も重い」化合物は、陽子より少し大きく、重さが 1 グラム弱、つまり 0.8 グラムの物体です。これらのオブジェクトは短命です。つまり、ほんの一瞬しか存在せず、その後、個別の「レンガ」に分割されます。

このような天体の形成は、人間による宇宙のいわゆるブラックホールに直接関係しています。

アナスタシア: 陽子より少し大きい物体? 最近の研究によると、陽子半径は 0.84184 フェムトメートル ($1 \text{ fm} = 10 \sim 15 \text{ メートル}$) です。これらのオブジェクトの質量が 1 グラム未満であるというあなたの発言を考慮に入れると、小宇宙としては本当に「重い」オブジェクトが得られます。これは実に興味深い情報です。この点に関して、人々は少なくとも 3 つの質問をするかもしれません。情報クラスター、「ブリック」とは何ですか? 物質からの情報の解放とは? そして、これらの粒子の形成は、宇宙のブラックホールとどのように関係しているのでしょうか?

リグデン: この物質世界のすべては、亜原子粒子から原子まで、靴のほこりの粒子から深宇宙の銀河団まで、今日人々が知っていることを含め、すべてが順序付けられた情報のおかげで存在します。

物質を作成し、その特性、体積、形状、質量、およびその他の特性を設定するのは、順序付けられた情報です。私たちが今話しているのは、人間の脳になじみのある「情報」の概念ではなく、それのわずかに異なる表現について話しているという事実に注意を向けています。



人の通常の意味では、「情報」という言葉には、「考える、教える、説明する」、「姿を現す、形状、形狀する、作成する」など、いくつかの意味があります。

理解を容易にするために、この順序付けられた情報を条件付きで「情報ブリック」と呼びましょう。実際の情報ブリックとは何ですか？おそらく、連想的な例でこれを説明します。ある種の実験を行うことにしたと想像してみてください。これを行うには、水、ガラスの水槽、形を追加するための小さなレンガ、泡でできているかのような光、そしてそれらの色が通常の白ではなく透明であるとしましょう。

あなたの行動：空のガラスの水槽の中で、透明なフォーム プラスチック ブロック（子供のデザイナーのように）から、多くの部屋や塔などを備えた美しい城を組み立てます。

透明なブロックを別のブロックに接続すると、特定の色が表示され、目に見えます。つまり、頭の中に城を作る方法があり、城を作る意志があり、適用した力があり、この珍しい素材の助けを借りて構築します。次に、そのようなつながりのおかげで城が見えるようになり、その美しさ、ボリューム、建築の複雑さをすでに賞賛することができます。

次に、実験を続けて、水槽に水を入れます。何が起こるか？水が水族館をそのような力（圧力）で満たし、あなたが建てた城を破壊するとします。



同時に、壁、屋根、および要素の発泡プラスチック レンガ あなたの城の水面に浮かびます。あるものは、別々に、再び目に見えないものに変わり、あるものは、グループになっていきます。それらは相互に接続されているため、まだ目に見えるままでです。

最後に、水の圧力の下で、構造全体が分解して別々のレンガになり、それが再び透明になり、彼らが言うように、城の痕跡はなくなります。水槽の水を完全に抜くと、透明な発泡スチロールのレンガが底に沈みます。あなたの計画、意志、力の行使がなければ、それらは整然とした城を形成することはありません。それは、目に見えない透明な発泡プラスチックのレンガの混沌とした束になります。水槽を好きなだけ揺すってもいいし、永遠に混ぜても、新たに建てるまでお城にはなりません。

したがって、これらの非常に条件付きの透明なレンガは、物質を作成する情報との比喩的な比較であり、特定のパラメーター、形状、体積、質量などを与えます。そして、目に見える城は、すでに秩序化された情報の物質的な産物の1つであり、そこから原子、分子、化合物などを構成する基本的なサブ粒子、つまり宇宙の問題が形成されます。そして最後に、意志、建設計画、および適用の力は、この世界に現れる精神世界の力の主要な構成要素です。

アナスタシア：あなたは、すべてのものが情報に基づいていると言いたいですか？



リグデン: そうですね。同じ原子は基本的なサブ粒子で構成されており、これは特定の数の情報ブリックで構成されています。そして、あなたが宇宙で触れるものは何でも。しかし、私たちが物質と呼んでいるものは、食べた後のドーナツの穴のように消えるので、情報を取り除くだけで十分です。

アナスタシア: つまり、イベントの基本的な見方、ベーグルがある限り穴があり、ベーグルが食べられるとすぐに穴が消えます。これが物質が消える方法ですか？情報なし、物質の出現なし？

リグデン: その通りです。ちなみに、興味深い事実：宇宙の物質の量は絶えず変化しており、これらの変動は、増加方向と減少方向の両方で非常に重要です。同時に、情報量は常に安定しています。そのおかげで、宇宙の総質量は、創造の日から今日まで、10億分の1グラムも変化していません。

アナスタシア: はい、考えるべきことがあります。

リグデン: つまり、宇宙の情報量は、その作成日から一定です。しかし、少なくとも1つの情報ブリックが消失すると、宇宙全体が消失します。

アナスタシア: 一部が消えたらすべてが消えた。今、私は宇宙の膨張を伴う物語がどのように終わるかを理解し始めています。

リグデン: 宇宙は単に特定の膨張に達して消滅します。



すべてが独創的です。いつものように、単に。宇宙のこれらの情報の構成要素はどこにも消えることはありません。つまり、宇宙の限界(この例では水族館)を離れず、厳密に順序付けられた形で存在します。

明確な構造計画とビルダーの意志がなければ、それらはそれ自体では、秩序のない束(水槽の底の混乱)に過ぎないことを強調します。そして、宇宙の物質世界に関しては、すでに述べたように、物質形成の他の特徴の中でも、これらの非常に情報的なビルディングブロックも、その質量のパラメーターを設定します。それらは、作成された物質の宇宙の特定の場所を定義します。

それらは、作成された物質の宇宙の特定の場所を定義します。クォークとクエーサーを区別するのは、順序付けられた情報、厳密にその場所にあるまさに情報ブリックです。「マスター・プラン」に従って情報の順序付けを行うことで、宇宙が生きているとだけ言っておきましょう。

アナスタシア: つまり、この世界のすべては厳密に秩序化されており、ビルダーの特定の計画、意志、および力に従って存在しているということです。しかし、これはまた、私たちの宇宙が人工的に作成されたものであり、想定されているようにランダムに形成されたものではないことも証明しています!

リグデン: その通りです。これは科学的に証明できます!以前の本で示された方向に進み、ここに提示された情報と科学の最新の成果を要約すれば、それほど難しくありません。

宇宙の生命は、絶え間ない情報交換で明らかになり、それが物質を動かし、



宇宙の生命は、絶え間ない情報交換で明らかになり、それが物質を動かし、互いに相互作用し、主要な物理的および化学的反応を引き起こします。その結果、大質量星の爆発、新しい星の誕生など、さまざまなプロセスが発生します。

アナスタシア： ところで、大質量星の爆発について。ご存知のように、アガピット・ペチエルスキーの生涯と活動中に、特に1054年の夏に、あなたがそう言った直後に、私は天文学と関連する科学に興味を持ちました。明るい星が空に現れ、日中でも見えました。次に、銀河のおうし座にある超新星の爆発から地球に到達したのは光であると指定しました。この超新星の爆発の残骸が、拡大するかに星雲とその中心に位置する中性子星（パルサー）の形で現在観測されていると読みました。

興味深いのは、同じパルサーからの電波のビームがまだ地球上を滑走していることです。これは、船の信号として海の上を回転するビーコンのビームのようです。

驚くべきことに、それは宇宙で最初の中性子星であり、科学者はそれを超新星の残骸と特定し始めました。

わずか 25 km、つまり都市ほどの大きさの星であり、それが巨大な中に星雲に動力を与えていることに驚きました。中性子星の密度は非常に高いです。最も興味深いのは、カニ星雲にあるこのパルサーからの予想外に強力なガンマ線の閃光が最近記録され始めたことです。



リグデン: 最近、地球上だけでなく、宇宙でも興味深いことがたくさん起こっています。

アナスタシア: はい、新しい星の誕生のプロセスは非常に興味深く、有益です。

リグデン: (微笑みながら):もちろんですが、現代の多くの理論にとっては非常に破壊的でもあります。

事実は、科学者が今日観察できる星形成の目に見えるプロセスは、いわゆる「前星核」の形成から始まるということです。言い換えれば、天文学者は、最新の機器にもかかわらず、高密度のガスと塵の塊が形成される段階でのみ、新しい星の誕生を「検出」(見る、修正する)ことができます。つまり、相互作用の結果として、物質がエネルギー、特に人々が「光」と呼ぶものを放射し始めるときです。そして、ガス雲の個々のセクションの圧縮、圧縮を明確に示すスペクトルを研究した後でのみ、新しい星の形成についての結論が得られます。しかし、天文学者は、これらの塊がどのように相互作用し、何が収縮するのかという疑問に答えることはできません。

彼らはまた、これらのガスと塵の雲自体がどこから来て、なぜなのか、さらには、単一の星だけでなく、星団全体がこれらの雲の中の少量の物質から形成される理由と方法についても答えられません。

実際のところ、アインシュタインの一般相対性理論から熱力学の法則に至るまで、すべての現代理論は「目に見える物質」またはその論理の関係に基づいています。



予測可能な行動。ここには多くの事件がありますが。たとえば、宇宙の同じブラックホールを取り上げてみましょう。これらは神秘的で、物質を吸収する現代の科学では未踏の物体です。しかし、これらの事件を検討し、その形成がブラックホールに直接関係している天体の問題を明らかにする前に、ブラックホールについて何を知っているかをまず聞きたいと思います。

アナスタシア: まあ、私たちが望んでいるほどではありません。ブラックホールは、内部から光を放出したり、科学的に知られている他の放射線や物体を放出したりしないため、外部の観察者には見えません。

今日まで、彼らは周囲の物質との相互作用の研究を通じて、間接的な兆候によってのみそれらを検出しようとしています。ブラックホールはそれ自体の周りの空間と時間の幾何学を曲げると考えられています。

天体物理学の発展のこの段階では、ブラックホールは、巨大な宇宙体の無制限の重力圧縮中に形成された、宇宙空間の特定の局在化されたセクションであると想定されています。

私が理解しているように、これは一種の重力墓であり、何かが落ちて消えました。この領域の境界は事象の地平線と呼ばれます。そしてその半径は重力半径です。それは、この穴に引き込まれる物質の量に直接依存すると考えられています。ブラックホールの質量が大きくなるにつれて、そのサイズは直線的に増加します。つまり、半径が増加します。このオブジェクトのサイズは異なる場合があります。



現代の星の進化論では、ブラックホールの形成は、大質量星と超大質量星の崩壊。

私が理解しているように、核燃料が枯渇し、星の内部での熱核反応が停止すると、星が崩壊するのを防いでいた高温と圧力が、自身の重力の影響で低下します。恒星の質量が太陽質量の3倍未満の場合、ブラックホールにはならず、中性子星または白色矮星になるだけです。しかし、恒星の質量が太陽質量の3倍を超えると、科学者たちは壊滅的な崩壊を避けることができなくなると考えています。すべての物質は事象の地平線の下に急速に沈み込み、星はブラックホールになります。

同じ現代の星の進化理論に基づくと、1,000億個の星の間に少なくとも1億個のブラックホールがあるはずです。私たちの銀河だけで、何千ものブラックホールがうろつき、その経路上に「過失によって」現れたガスとダストのクラスターと星を完全に吸収するとされています。銀河系の中心には、数十億個の太陽の質量を持つ超大質量ブラックホールがある可能性があるという提案があります。

リグデン：まあ、悪くない。あなたは、世界の科学が現在踏みにじっているものを大まかに理解しており、議論を巡回しています。

アナスタシア：たぶん、私はこれらすべての議論の微妙な点を完全には知りませんが、彼らが言うように、私は一般的な考えを持っています。ブラックホールの内部では、巨大な重力によって時間と空間が大きく歪んでいると考えられています。普通のユークリッド幾何学はあるかもしれない。



平行線は交差する可能性があるため、公平です。

理論的には、ブラックホール内のすべてのものがその中心に落ちるべきであるという意見さえあります。その後、星の物質が収縮して、最終的に無限に密集した点に変わります。つまり、特異点が発生する可能性があります。

リグデン： はい、これらは、ビッグバンのとてつもない理論に自分たちの結論を当てはめようとしている理論家にすぎません。彼らの考えによれば、彼は、宇宙のすべての物質が集中して圧縮されたとされる無限に密集した点から来ており、何かがこの「点」でビッグバンを引き起こしたとき、物質はあらゆる方向に散らばり始め、宇宙の膨張のプロセスが始まりました。

科学者が物質的な世界観の立場から答えることができない多くの質問があるという事実のために、混乱した現代の理論が生じます。著者はお互いを行き止まりに導くだけです。彼らは、自分が知っているデータベースの観点から説明しようとします。その結果、宇宙の起源と同じブラックホールについての理論を構築することで、象についての自転車のようになります。

つまり、ゾウがどこから来たのか、なぜ移動して食べたいのかという問題を考慮する代わりに、アフリカのサバンナでのゾウの移動の軌跡、途中でどのような種類の植物を食べができるかの確率が考慮されます。その地域で育つもの、これらの植物が持つ特性。これが科学者にとっての結果です。科学者が見たり推論したりするものと、彼らが見ないものと彼らの世界観の形式に適合しないもの、つまり彼らにとって自然界には存在しないものです。



アナスタシア: でも、私の考えでは、この現代の理論でおそらく最も面白いのは、「原始ブラックホール」と呼ばれる。

科学者によると、宇宙の膨張が始まった約 140 億年前のビッグバンの直後に形成されたと言われています。ブラックホールは常に放射線や物質を吸収する準備ができているため、質量が増加するという意見があります。

おそらく、科学者によると、ブラックホールのサイズはさまざまである可能性があります。超小型(質量がわずか1015グラムで、宇宙の広がりで今日まで生き残った可能性があるとされています)から、超巨大および超大質量、仮説的に配置されたものまで銀河の中心で。

ビッグバンの後、100万年もの間、物質があらゆる方向に最高速度で散乱し続け、たった1015グラムの超小型ブラックホールが1つ形成されたという彼らの考えを認めて、飽くことのない「鋭い美食の欲求」で、今や宇宙の代わりに1つのとても巨大な、ブラックホールがあるでしょう。

リグデン: ご理解いただけて嬉しいです。このような理論上のレイアウトでは、宇宙は少なくとも 50 億年前には存在しなくなっていたでしょう。

アナスタシア: まったくもって公正な意見です。しかし、一般的に、ブラックホールは興味深くエキサイティングなトピックです。特に、宇宙の秘密を発見し、人々のために書くために、知識を求めて努力している人々の作品を読む場合はなおさらです。しかし、確かに、著者がブラックホールについて語るそのような作品は、明らかに退屈であることが多いのです。



ロシアのことわざにあるように、「人間は、何もわからず自分がわかる道だけを選ぶ」彼らは自分たちの作品を作りました。

だから私は、科学の浮き沈みの外側の観察者として、その冗談のようにブラックホールについての印象を受けました。「科学はこれについて何も知られていないことを知っています。」

リグデン: どこかでは、こんな感じです。多くの科学者は、行き止まりの理論の展開にエネルギーを集中させ、時には人生を無駄にすることさえあります。

人々は、研究の方向性について十分な初步的な知識とガイダンスを持っていません。それらがあれば、科学だけでなく社会の発展においても革命的なブレークスルーを起こすことは十分に可能です。人間の選択があれば、私がすでに話し、将来話す情報は、多くの点でこれに貢献すると確信しています。

アナスタシア: では、ブラックホールとは一体何なのでしょうか？

リグデン: 実際、宇宙規模のブラックホールと呼ばれるものは、一時的な現象であり、それ自体に質量はありません。宇宙でのブラックホールの出現と消滅は、宇宙の総質量の不变の法則に違反しません。最も巨大なブラックホールでさえ、一般にかなり短い期間で存在し、その質量はゼロです。しかし、宇宙の天体物理学的变化におけるその役割は大切です。



連想的に、私はそれを思考と比較します。結局のところ、思考は目に見えません。

計量できない、または 感じますが、私たちの心に現れたので、それは存在します。

思考にはボリュームがあります(少なくとも情報提供)。それはすぐに他の考えに取って代わられるので、その存在は儚いものです。思考には質量はありませんが、物質世界で巨大な結果をもたらす可能性があります。基本的に、それは何もありません。

アナスタシア: 何も?!現在の人間の理解では、せいぜい真空であるとは言えません。

リグデン: この真空はそれほど空ではありません。簡単な例。星間空間では、いわゆる高真空が優勢です。その平均密度は 1 立方センチメートルあたり 1 分子未満です。そして、人間が作り出した希薄な真空を比較すると、1立方センチメートルあたり約100,000個の分子があります。

科学者たちは、粒子が完全に存在しないと仮定される完全な真空でさえ、特性を持たない「絶対的な空虚」ではないことをすでに理解しています。現在でも、科学者が量子化されたフィールドの最低エネルギー状態と呼んでいるように、現代物理学は物理的真空の理論に近づいています。この理論における物理的真空は、実際の粒子が存在しないことを特徴としていますが、同時にあらゆる種類の仮想粒子を含んでいます。

しかし、別の理論があり(頑固に「公的科学」によって認められていませんが)、スピン成層化による一次真空からの粒子と反粒子(6つのクラス)の誕生と、一種の触媒である左右のねじれ場の出現を考慮しています。ラフマターの誕生を誘発する。



もちろん、誰が真実に近いかは、時間が判断します。問題は、真実を理解したいと願う多くの科学者が、実際には心の中で誤った反省に直面していることです。彼らは、自分にとって最も都合の良い理論を発表することを急いでおり、長い間自分の「正しさ」を擁護し、その根底にある原因について考えずに、自分の人生、自分自身と他人の「神経」をこれに費やしています。彼らの心の逆転。

実際、人々は目に見えない世界について、動物の心がこの世界でどれほど強いか、そしてすべての人が自分の精神的な純粋さを大事にすることがどれほど重要であるかについて、まだあまり知りません。結局のところ、本来の性質の向こう側の真実を明らかにするのは後者です。

アナ斯塔シア: はい、粒子と反粒子の誕生に関するこの理論的なスキームを思い出しました。驚くべきことに、そこにあるすべてのものも斜めの十字架のスキームに従っています。

そして、この比喩的な比喩を海と比較して考えると、宇宙のブラックホールとは何ですか？

リグデン: 宇宙のブラックホールは、比較的言えば、海の水の中の気泡のように見えます。しかし、それは見えるだけで対応していません。海の水の泡は空気で満たされ、宇宙の広がりのブラックホールは、少なくともこれに対する人間の理解では、何も満たされていない現象だからです。

ナスタシア: つまり、ブラックホールは、物質世界の特徴ではないエイリアン インクルージョンですか？



リグデン: そう言えます。

ナスタシア: 宇宙の天体物理学的変化におけるブラックホールの役割は需要であるとおっしゃいました。これについて、ブラックホールの主な機能について、少なくとも連想例を使用して、詳しく教えてください。

リグデン: おそらく、ブラックホールの機能は、免疫応答と非常に大まかに比較できます。より正確には、さまざまな病原体から体を保護する人体の免疫細胞と比較することができます。体そのもの(腫瘍細胞)など。

ウイルスや病原性微生物などの異物が体内に入ると、免疫細胞がそれらを見つけて破壊します。

または、一部の細胞、細胞群に欠陥が生じ、機能秩序が乱れ、例えば制御不能な分裂を開始すると、免疫細胞がそのような「いたずらな」細胞を破壊することによって秩序を整えます。

しかし、宇宙のブラックホールに関しては、そのような比較も完全に正しいわけではありません。免疫細胞は、許可されている境界の「違反者」を探して私たちの体の広がりを絶えずサーフィンしているためです。

しかし、ブラックホールはどこからともなく宇宙の意味のない場所にだけに現れ、その後どこかに、消えていきます。さらに、それらは瞬時に消滅し、多くの場合(常にではありませんが)、星の破片の塊全体と塵とガスの巨大な雲を物質世界に残しますが、これらは現代の機器を使用して簡単に検出できます。



主な「病原性」物質が破壊された後のこの残留物は、たとえば、石の粉碎および処理ワークショップのコンベアから落ちたゴミに似ています。

がどこからともなく出現し、時には星団全体を破壊し、どこにも消えていく様子を説明するのは難しい。

ブラックホールはそれ自体の周りの時空を非常に大きく歪め、巨大な引力を持ち、周囲の物質に影響を与えます。

ブラックホールは、本物の空虚と呼べる唯一のものです。人間の理解では、そこには物質が存在しないため、何もありません。

アナスタシア: 「うーん、科学的・唯物論的な世界観を持っている人にはわかりにくいでしょうね、」

結局のところ、上記の情報を考えると、この場合、疑問が生じ、誰がどこからともなくこのプロセスを担当しているのでしょうか？

宇宙におけるそのような欠陥の存在を明らかにし、それらの領域でのブラックホールの出現と消滅に貢献しているのは誰なのか？

リグデン: これらのプロセスを理解するには、数式の形での形式化は言うまでもなく、根本的に異なる世界観を持っている必要があります。

アナスタシア: ブラックホールの質量はゼロだとおっしゃいましたね。そして、それが吸収した物質はどのように処理されますか？宇宙で最も重い微小物体の形成は、ブラックホールに直接関係しているとおっしゃいました。では、やはり質量があるのではないか？



リグデン: ブラックホールの「仕事」の原理そのものを理解すると、疑問は自然に消えると思います。では、ブラックホールはどのようにして物質を引き付け、どこに消えていくのでしょうか？

ブラックホールは一種の異常領域です。無形の構造であるため、フィールドに一定の摂動がある宇宙の部分に現れます。その目的は、これらの妨害を引き起こす物質を破壊することです。宇宙の特定の場所にブラックホールが存在するという事実そのものが、時空の変形を引き起こします。

つまり、彼女自身が特定のメカニズムを起動し、空間の特定のセクションでスムーズな時間の経過を歪めます。

これは特定の相互作用につながり、その結果、巨大な重力が発生し、材料構造を引き付け始めます。これは理解できますか？

アナスタシア: はい。

リグデン: それでは、先に進みましょう。物質が引き寄せられると、例えば月の大きさの破片は、巨大な重力のために接近しても変形し始めます。そして、物質が降着帯に入り始めると、ここで最も強力な重力場が作られ、物質は粉々に引き裂かれます。それは一種の肉挽き器であることがわかります。

アナスタシア: はっきりさせてください。ここで使われている「降着帯」という用語は、現代の科学者が理解しているのと同じ意味ですか？

これは、ブラックホールの周りを回転し、物質の落下（降着）中に形成される強力な放射線の源としての降着円盤を指します。



その重力場の影響下で、このオブジェクト上の近くの隣接する星または星間ガス。それで？

言い換れば、物質がブラックホールに衝突すると、ブラックホールの周りの軌道を動き始め、この最も急速に回転する円盤が形成されるのでしょうか？

リグデン： はい。そのような「問題の切断」の間に、非常に重要な瞬間が発生します。ここでの力は、情報ブリックを互いに押し離すようなものであり、特定の厳密に定義された位置にあることができなくなり、情報の順序から抜け出します。情報システムが失われるとすぐに、この問題が作成された順序により、情報は物質構造からダンプされ、問題は消えます。

ブラックホール自体は情報構成要素に影響を与えず、物質に直接影響を与えるため、ここにはパラドックスがあります。後者は非常に強く引き付けられ、情報レンガがはじかれ、その結果、問題は消えます。

アナスタシア： つまり、情報は破棄されません。物質は情報に基づいて生成され、情報がリセットされると物質は存在しなくなります。

リグデン： そうですね。このプロセス全体を条件付き実験の連想例で表すと、次のようにになります。

目に見えないフォームブロックで城を作って、見えるようにしたと想像してみてください。次に、そっとそれを拾い、水と一緒に水槽に投げ入れました。何が起こるか？



当然、城が水と衝突すると、小さな部品が粉々になります。もし、私たちの場合、別の状態に入るということです。物質は消え、情報だけが、水面に浮いたままの同じ最初の目に見えないフォームプラスチックレンガの形で残ります。

質問:「城(物質)はどこに行きますか?」私の質問があなたを笑顔にした理由は理解できます。「食べた後のベーグルホールと同じ場所」と言うでしょう。そして、あなたは絶対に正しいでしょう。

次に、水槽が少し大きくなり、水槽の上に少なくとも 10 人のあなたののような人が鍵を手に持って立っていると想像してください。そしてここで、ほぼ同時に、城を水族館に放り込みます。

城が水と接触した瞬間にのみ、発泡プラスチック製のレンガ(別の情報レンガまたはブロックで接続されたもの)は水面に浮かんだままではなく、すぐに(超高密度のものから)反発します。コンクリートからのテニスボール。提示されましたか?さて、これはブラックホールの「仕事」のやや歪んだモデルです。

アナスタシア: 情報ブロック、これらのクラスターはどうなりますか?結局のところ、それは最小ではありますが、まだ目に見えるものです。それらはまだ目に見えない情報ブロックに分割されていませんよね?

リグデン(笑顔で): よくやった、状況を監視しているのですね。ブラックホールの形は球形です。物質からの情報の解放中に、情報ブリックが処理された物質から引き裂かれると、それらのいくつかはグループ全体、つまりクラスターによって分離されます。

これらの形で、重さ0.8グラムの短命のオブジェクトになるのはこれらのクラスターです。



放射線背景は、この球体の「極」から直接来ます。そして、この球体における「極」の概念そのものは相対的なものです。なぜなら、観察者の位置と、この球体に関連する処理された物質の蓄積がここでは重要だからです。

アナスタシア: ブラックホールの近くの物質で行われるこのプロセスは、ディスク上のすべての情報が破壊されたときに、コンピュータ内のディスクの次のフォーマットと比喩的に比較できるようです。そして、なぜこれらのオブジェクトは寿命が短く、ほんの一瞬しか存在しないのでしょうか？

リグデン: 彼らには人生のためのプログラムがないからです。それらは、別々の情報ブリックに分解されるだけです。パラドックスは、情報ブリックがエネルギーと物質の 2 つの状態に同時ににあるということです。（これらの情報ブリックが物質粒子を形成するときの蓄積の形です）。つまり、彼らは不在のようであり、存在しているようです。

個々の情報ブリックには質量がありません。しかし、質量、空間、重力、時間とともに物質を生み出すのは情報です。そして、その情報はすべてを創造した方によってコントロールされています。彼は、（人間の理解において）物質を形成するエネルギーを生成できる力として情報を作成しました。

ちなみに、これらの同じビルディングブロックは、低情報粒子（ニュートリノなど）を形成するときに、AINシュタインの「調和のとれた」相対性理論を大幅に歪めます。

事実は、これらの粒子のいくつかは、それらの構造の「単純さ」のために、少なくとも宇宙の他の粒子と弱く相互作用するということです。



私たちの次元 であり、光の速度を大幅に超える速度で宇宙の広大な範囲を移動することができます。

アナスタシア： 光速を超える速度で?この場合、そのような粒子が存在するという事実そのものが、AINシュタインの理論だけでなく、現代物理学の他の多くの側面を再考することを余儀なくさせます。

リグデン： 確かに、まだ何かを再考する必要があります。しかし、これにより、宇宙における物質の相互作用のプロセスの理解が大幅に深まります。そして、おそらく、それは人類を空間のような時間の物理的な現れの知識に近づけるでしょう。したがって、この世界で最も速くて重いマイクロオブジェクトは、他のすべてのものと同様に、情報ブロックで構成されています。

アナスタシア： そして仮に想像してみると、例えば。中性子星は非常に重くて寿命の短い天体で構成されていて、サイズは数百倍も小さくなり、質量は増加することがわかります。、これは、この星の重力収縮が増加することを意味します。大雑把に言えば、完全な重力崩壊を経てブラックホールの状態に陥る可能性はありますか?

リグデン： もちろん、仮説としては、何でも想像できます。しかし、これは物質構造の性質と相容れないため、実際には不可能です。

そのような重力圧縮力を持つ物質構造は、単純に崩壊します。つまり、ペイジ以来、それは物質として存在しなくなります。



このプロセスでは、情報ブリックを互いに反発させる条件が必然的に発生します。はい、重力には限界があるため、これはまったく不可能です。たとえば、ブラックホールの近くで発生するプロセスを考えてみましょう。私が話したこれらの短命のオブジェクトは、それらを結合するエネルギーが減少し始めるとすぐに、かなり急速に情報レンガに崩壊します。

純粹に唯物論的な世界の認識に従事している心にとって、これらのプロセスを理解することは困難です。結局のところ、遅かれ早かれ、人は精神的な発達において、そのような限られた理解の限界に直面し、その背後には完全に異なる世界と他の法律があります。

星がどんなに大きくても、太陽質量がいくつあっても、物質が完全な重力崩壊を起こすことは決してないため、現代的な意味でのブラックホールに入ることができません。結局のところ、物質は情報ブリックで構成されています。そして、情報構成要素は破壊不能であり、破壊も変更もできず、宇宙で量的に安定して一定です。

アナスタシア: ブラックホール自体の質量がゼロである理由がわかりました。非物質的な世界からのオブジェクトとしてのブラックホールは、主なアクションが発生する条件、つまり力を単に作成します。つまり、大まかに言えば、不要な物質の処理が行われます。まるで消しゴムのように、紙に書いた文字の表面をきれいにします。物質は完全に消滅し、ブラックホール自体には入りません。ブラックホールの大きさは何で決まるのか？



リグデン: ブラックホールのサイズは、たとえば、宇宙の特定のセクションで破壊される「病理学的物質」(この物質を呼び出す他の方法はありません)の量に依存します。ブラックホールのサイズは、大きくとも小さくともかまいません。宇宙でのこれらのプロセスをよりよく理解するために、おそらく、人間の活動に関連する非常に条件付きの連想的な例を挙げます。

人が空き地の特定の領域で雑草を刈る必要があると想像してください。彼はこの領域を見て、どのくらいの力を加える必要があるか、この作業にどれだけの時間を費やさなければならないかを計算します。そして、ある晴れた朝、彼はこの空き地に現れ、計画された作業を実行します。

別のことば、そのような雑草の全分野がある場合です。ここで、人はそれらを破壊するために、たとえば技術の形で、人的資源を引き付けるなどの大きな力を使用します。

つまり、力の作用点は「病理」部位の存在に依存し、力の作用方法は特定の仕事の量に依存します。

アナスタシア: 良い例です。一般に、現代物理学では、質量自体の起源の問題は未解決のままです。さらに、科学者自身がそれを基本的なものの1つとして区別しています。多くの理論や仮定にもかかわらず、一部の粒子に質量があり、他の粒子には質量がない理由は確実に確立されていません。

私自身、この問題に深く関心を持つまでは、質量は当たり前のことであり、あらゆる物体の特定の特性であると考えていました。象はハエよりも重いため、その質量は大きいことを誰もが理解しています。



しかし、結局のところ、小宇宙に飛び込むと、ここですべてがスムーズになるわけではありません。

科学者たちは、質量がゼロに等しい「素粒子」と呼ばれる粒子があることを発見しました。そのような（静止している）質量のない粒子の代表の 1 つは、光の量子であるよく知られた光子です。

リグデン：これは確かに、提案された理論の枠組みによってのみ制限されるため、科学がまだ答えられない問題です。そして、これらの理論は、複雑さが増す傾向にあるにもかかわらず、宇宙の構造をより深く理解するための重要な質問に信頼できる答えを与えることができません。粒子の質量が違う？

物体の質量は、それに含まれる原子からなる物質に直接依存すると考えられています。しかし、原子の基礎は何ですか？現代の概念によれば、原子は電子、陽子、中性子で構成されています。陽子と中性子はクォークから作られると考えられています。そして、人々が真の素粒子と考えているのは電子とクォークです。

アナスタシア： はい、想定することは処分することではありません。「信じるか信じない」という三次元次元の住人の論理の永遠のゲーム：今日利用可能なツールの助けを借りて私が見ることができないもの、それは自然界には存在しません。

リグデン： 人はそれぞれ、時には多くの試行錯誤を乗り越えて、真実を知る独自の方法を持っています。しかし、思考の純粹さと心の柔軟性により、本物の科学者は世界をより広く見て、課されたパターンを取り除くことができます。



問題は知識ではなく、問題は人の認識にあります。

アナスタシア：面白いことに、過去 100 年間に提案された素粒子の挙動の理論的記述を公平に見てみると、新しい理論はそれぞれ、前任者がひび割れた穴をふさごうとしているという印象を受けます。新しい実験的発見によるものです。

この問題に対しては、まったく異なるアプローチが必要です。教えてください地球規模で質量とは何ですか？

リグデン：それは実際には人々が考えるよりも簡単です。物質の量（その体積、密度など）と、それが宇宙に存在するという事実そのものは、宇宙の総質量には影響しません。人々は、3 次元空間の位置からのみ、固有の質量で物質を知覚することに慣れています。しかし、この質問の意味をよりよく理解するためには、宇宙の多次元性について知る必要があります。

目に見えるものの体積、密度、およびその他の特性、つまり、その多様性のすべてにおいて人々に馴染みのある物質（いわゆる「素粒子」を含む）は、5次元ですでに変化しています。しかし、それは6次元までのこの物質の「生命」に関する一般的な情報の一部であるため、質量は変わりません。

物質の質量は、特定の条件下での 1 つの物質と別の物質の相互作用に関する情報にすぎません。すでに述べたように、順序付けられた情報は物質を作成し、質量を含むそのプロパティを設定します。物質宇宙の多次元性を考慮すると、その質量は常にゼロに等しくなります。



宇宙の物質の総質量は、3 次元、4 次元、5 次元の観測者にとってのみ巨大になります。

アナ斯塔シア： 宇宙の質量はゼロなのか？これはまた、世界の人々の多くの古代の伝説で言及された、世界の幻想的な性質そのものを示しています。

リグデン： 未来の科学は、あなたの著書に示されている道を選択すれば、宇宙の起源とその人工的な創造についての疑問に答えることに近づくことができます。

アナ斯塔シア： もう一つ質問があります。現代科学では、ほとんどすべての大きな銀河の核に超大質量ブラックホールがあるという提案があります。これは本当ですか？

リグデン： いいえ、この仮定は、活動銀河が非常に強力な放射線を放出し、これらの中心の周りの星が、現代の技術では見えないが非常に巨大なものに引き寄せられたかのように動くため、科学者の間で生じました。しかし、銀河の核にはブラックホールはありません。彼らはわずかに異なる法律を持っています。

アナ斯塔シア： 涡巻銀河は最初に発見された銀河の 1 つです。スパイラルの形状は、宇宙のミクロ宇宙とマクロ宇宙において特別な役割を果たしていますか？

リグデン： はい、これはエネルギーの構造化されたコース、情報の保存、および一般的に高度な物理学との交換に関連しています。この問題を注意深く研究すれば、物質世界の多くが螺旋状に配置されているか、螺旋状に動いており、ミクロのものからマクロのものまであることが理解できます。



たとえば、私たちの世界の微小物体、真核細胞の同じ細胞骨格を考えてみましょう。生物学での定義を覚えているように、真核生物は細胞が形成された核を持つ生物です。

アナスタシア: はい、この超王国には、すべての高等動植物、菌類、単細胞および多細胞藻類、原生動物が含まれます。

リグデン: そうですね。それらの細胞骨格には、直線的になじれたらせん、二重らせん、およびスーパーコイル構造が見られます。

アナスタシア: まさにその通りです！彼らの細胞には、膜に囲まれた核と、生体の一部でもある二本鎖 DNA 分子であるバイオポリマーを含むらせん状の染色体があります。ほとんどの場合、DNA は同じ二重らせん構造を持っています。原核生物（未分化な核を持つ生物）に属する一部の細菌でさえ、環状鎖の形で単一の二本鎖 DNA 分子を持っています。

リグデン: その通りです。細胞分裂のプロセス、女性細胞の染色体、男性細胞の染色体の参加も覚えておいてください。細胞周期のすべての段階で、染色体は染色体に基づいています。



アナスタシア： はい、はい、はい。これらの糸状構造。ねじれが解かれ、いわば脱螺旋化され、細胞分裂中は、2つの絡み合ったヘビの形で比喩的に言えば、らせん状にしっかりとねじれています。ご存じのように、DNAの機能には、情報の保存、その伝達、および遺伝子発生プログラムの実行が含まれます。

一般に、人間を含む動物の生体の生化学をより詳細に検討すると、非常に多様な種類のらせん（左巻きらせん、右巻きらせん、三重らせんなど）を見つけることができます。たとえば、典型的なコラーゲン分子は、3つの異なるタイプのポリペプチド鎖（ α -ヘリックス）で構成されています。それらは、原則として、右巻きの三重らせんの形でねじれています。コラーゲンとは？動物に最も多く存在する纖維状タンパク質で、総タンパク質の約25%を占めます。結合組織のコラーゲン纖維の基礎を形成し、強度と柔軟性を提供します。つまり、骨（同じ頭蓋骨、脊椎など）、軟骨、腱で構成されています。

または別の例。人間の髪の毛、爪、そして動物の羽毛、爪、針、羊毛とは何ですか？ケラチン（角質物質）を主成分とする構造です。構造タンパク質であるケラチンも、主にらせん状に作られています。たとえば、髪や羊毛と同じ構造タンパク質が α -ケラチンです。その中で、ほとんどのペプチド鎖は右 α -ヘリックスに折り畳まれています。そして、すでに2つのペプチド鎖が1つの左側のスーパーコイルを形成しています。

比喩的に言えば、2匹のヘビの形をしたそのようならせん織り。次に、スーパーコイルが組み合わされて四量体になり、それらが組み合わされてより複雑な構造になります。

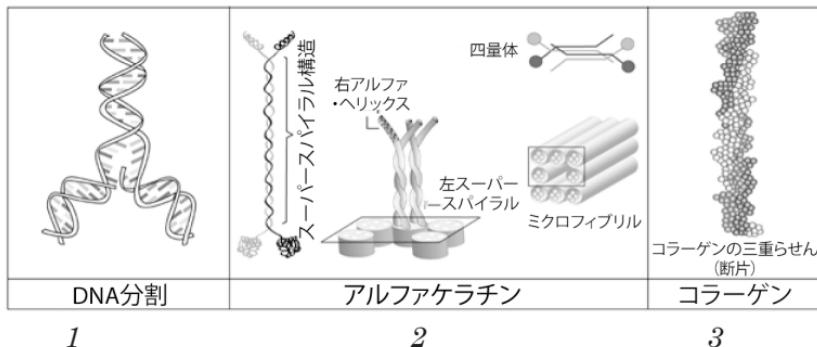


図1. スパイラル構造:

- 1) DNA分裂。
- 2) ア-ケラチンタンパク質;
- 3) トリプルコラーゲンスパイラル。

このような 8 つの複雑な構造が、すでに毛髪や羊毛のミクロフィブリルを構成しています。これらは、物質界で目に見えるプロセスであり、物質組織の目に見えないエネルギー レベルで発生します。スパイラル構造は、情報を長期間保存する最も便利な形式の 1 つです。今日まで、科学はこの理解に近づいているだけです。たとえば、DNA検査方法のおかげで、生物学的関係を確立するための遺伝子検査を行うなど、人について多くのことを知ることができます。以前は、血液をDNA分析に使用していました。現在、そのような分析は、人間の唾液、髪の毛、爪を使用して行われています。

法医学では、法医学者はすでに髪の毛一本で人の年齢と性別を判断できます。彼らはまた、どの物質、微量元素が髪に含まれているか、個人の人生のどの期間に、それらが彼の体に多かれ少なかれ蔓延していたかを判断することもできます。次に、これらのデータは、人の人生について語っています。どのような薬を服用したか、どのように食べたかなどです。



他のサンプルに対して髪の DNA を分析することで、専門家はその「所有者」を特定できます。

この方法は、考古学者がさまざまな埋葬、古代の墓の研究にも使用しています。これは、髪の毛が骨よりも保存状態が良いためです。

確かに、これは知識の限界にはほど遠いです。科学は、物質とエネルギーの関係であるらせん構造(人間にもかなりの量で存在する)の秘密の認識の限界にまだあります。ちなみに、これに関する知識は古代に利用可能でした。

そしてこれは、儀式用の物、石、埋葬からの遺物、または建築の象徴的な詳細に関する記録の形で残された古代の人々の兆候とシンボル、さまざまな人々の間でほぼ世界中で一般的な魔法の儀式のエコーによって証明されています。ちなみに、儀式が、たとえば髪、爪、骨、つまり力(情報)を保存および伝達できるらせん構造に関連付けられたのは偶然ではありませんでした。

情報、または以前は「睡眠力」と呼ばれていたように、呪文、つまり特定の音の振動または思考力と注意力の集中の助けを借りて活性化(覚醒)されました。この知識は、良い意味でも悪い意味でも人々によって利用されてきました。もちろん、そのような儀式は今日まで生き残っていますが、ほとんどの場合、それらはすでにばかげて人々によってねじ曲げられており、これはすでに意味を失った空の模倣です。

アナスタシア: 多くの国は、同じ髪と爪に関連する禁止事項でさえ、異なる信念を持っています。



たとえば、切られた髪や爪は、所有者に関する特定のエネルギー情報を運び、それらを使用して彼に危害を加える可能性のある悪意のある人に到達する可能性があるため、不用意にどこにも散らばるべきではないと考えられていました。また、唾を吐くことを禁止している国もあります。魔術師が人にダメージを与えるためにこの唾液を手に入れることができると信じられているため、どこにも唾を吐くことはできません。唾吐きの禁止だけが都市住民のルールとして導入されれば、おそらく文化が増し、歩道がきれいになり、そしておそらく、人々はあらゆる種類の障害や原因不明の病気に苦しむことが少なくなるでしょう。

リグデン：もちろん、文化が傷つくことはありません。それは健康、禁止、魔術師、そして信念に関するものではありません。これはすべて外的ですが、それは内なる人自身から来ています。それは習慣の問題であり、日常の選択における個人の特定の思考の優位性です。人がイデオロギーの荒廃の心を取り除き、人生のルールとして創造的な精神的な優先順位を設定する場合、信念を持つ魔術師は彼の邪魔になることはありません。

アナスタシア：私はあなたに完全に同意します。今日の社会の広範な文献で、これらのらせん構造の助けを借りた悪影響の例がほぼすべての段階で説明されていることは驚くべきことではありません。しかし、ネガティブなものがあれば、ポジティブなものもあるはずです。この知識はプラスにも使われているとおっしゃいました。

リグデン：最初は、知識が積極的に人々に与えられたとだけ言っておきましょう。



ここで、同じ髪を取ります。それらは、人、彼の物理的およびエネルギー構造との関係に関する情報を保存します。現代科学がまだ理解していないエネルギー構造と髪の関係は、古くから知られていました。

今ではその反響だけを見つけることができます。たとえば、古代スラブ人は、他の人々と同様に、抜け毛が女性に魔法の力を与える、または男性(戦士)が頭のてっぺんから取った肩まで成長した小さな髪の毛の束を持っていると信じていました。魔法の力を持っています。これはすべて、人のエネルギー構造と、精神的な道を助けるために人生でそれを正しく使用する可能性についての過去の知識の名残です。

カットされた髪の束でさえ、人とのつながりを保ちます。以前は、コミュニティの誰かが特定の目的のために長い旅に出されたとき、その人は自分の髪の束をコミュニティに残していました。会衆は、彼の使命を果たしている間、定期的に輪になって座り、この髪を中央に置き、今日瞑想、祈りと呼ばれることを行いました。つまり、(瞑想中の)意識の変化した状態にあるコミュニティの人々は、彼の使命を果たすためのサポートとして、髪の毛の束を通してこの人に追加の精神的な力を与えました。

これらの目的のために、コミュニティが特定の人を精神的に助けようとしたとき、頭の上の三角形を象徴するかのように、以前は3か所で髪の毛の房が切り取られていました。こめかみ(ポイントに近い耳の上、頭の後ろ)。



そして、いわばコミュニティはこの髪について瞑想しました。

これは、(人の過去に関連する)否定的な状態をブロックし、彼の動物的性質のバーストを消すのに役立ちました。人の前と彼の前のスペースは、精神的な方向、前進する道に関連していると考えられていたので、額は決して剪断されませんでした。

実際、人への弱い、短期的ではあるが、非常に現実的な影響は髪を通り抜けます。しかし、そのような影響は、特定のパーソナリティで支配的なものを強化することしかできません。言い換えれば、良い人の髪を通して、深い内面の感情に影響を与え、別の良い人はポジティブなエネルギーを伝達し、しばらくの間彼のポジティブな力を強化することができます。しかし、もちろん、自分自身に関する主な作業は、パーソナリティ自体にとどまります。

そのような追加の力に関する以前の知識が、人への精神的な助けのためだけに魔法の儀式で使用されたことは興味深いことです。そして今、それらはほとんど歪曲されているか、否定的な方法で使用されています。

人々は、この知識が互いに助け合うために与えられたことをどういうわけか忘れていました。

アナスタシア: 一部の現代宗教では、髪を切る儀式があります。

例えば、キリスト教における僧侶としての剃髪、メッカ巡礼を行うイスラム教徒の間での剃毛の儀式、仏教の修道会における頭の剃毛、中国人、満州人、アイヌ人の間での神へのいけにえとしての前頭部の剃毛。これらの儀式の基礎は何ですか？



リグデン：これらはすでに純粋に象徴的な行動であり、宗教では過去のすべてを持つ人の最後の別れとして解釈され、この宗教に仕えるという彼の決定は「神への犠牲」と見なされます。

実際、人が外向きに髪を切ったり剃ったりしても、内部的に質的に変化していない場合、これはすべて象徴のままです。繰り返しますが、重要なのは道具や服装、外見の特徴ではなく、人の内面的な要素です。同じ十字形の髪の切断、頭頂部の剃毛、額はすでに歪んだ知識の伝達、人々自身の解釈、人と神とのつながりの純粋に象徴的な外的デモンストレーション、精神的な道と帰属に沿った彼の行進である宗教または別の宗教に。

アナ斯塔シア：はい、人々が言えることは無駄ではありません。外見で人を判断しないでください。変わらない時間もスパイラル。

リグデン：自然界の多くの現象は、そのような動きに関連しています。大規模な自然現象、例えば、低気圧、高気圧、巨大な海洋渦(中心が海面下数十メートルにある、いわゆるリング)、渦巻き乱気流場、渦巻き波の発生などに注意してください。など、渦巻き構造や銀河などのマクロ天体の動き。



今日の科学には知られていない、大宇宙の渦巻きの形についても詳しく説明しますが、さまざまな人々の世界の創造に関する古代の伝説に示されています。ところで、賢い人々は、世界の絵の可能なすべてのバリエーションの説明が明らかに多様であるにもかかわらず、さまざまな人々の基本的な情報が驚くほど似ている理由を考える必要がありますか？

さらに、そのような「偶然」が文化間の接触によって説明できる場合はごくわずかです。古代人はどのようにして宇宙とその生命がどのように誕生したか、極宇宙の原理には互いに共通点があることをどのように知ったのでしょうか？

なぜ古代の人々は世界を永遠のものとして認識し、そこに存在するすべてのものを闘争の結果として認識していたのでしょうか？

「さまざまな神と精霊」(3、7、9、またはそれ以上の「天」、「地」、「天地」など)が密集したさまざまな「空間」の存在、「マルチ」についてどうやって知ったのでしょうか。「ステージ宇宙」、世界の形、質、特性を設定する宇宙の単一の基本原則の概念について、それ自体はこれらすべての機能を欠いていますか？

なぜ神話は、要素の量的および質的特性の類似性を明らかにし、水、火、空気、地の 4 つの要素について最も頻繁に語るのですか？ほとんどの場合、これらの 4 つの要素が 5 番目の中心的な要素によって結合され、これらすべてが一緒になって世界の物質的基盤に結び付けられているのはなぜですか？たとえば、古代中国では、世界の 5 つの基本的な要素は、「wu-sin」という用語で指定されていたのか。（「wu」は「5」を意味し、象形文字「sin」は「行為、移動」を意味します）。「永久に動いている5つの要素」。

彼らが再び定義した世界の発展は、陰と陽という 2 つの相反する宇宙原理の相互作用として定義されました。インドの古代の書物では、4 に加えて、

要素、宇宙における重要な役割は、魂(アートマン)、心(マナス)、時間(カラ)、空間(ディク)、および「アカシャ」などの概念に割り当てられました。



アカシヤのエッセンスは、不可分ですべてに浸透するものとして提示されました。それに起因する特徴的な機能は1つだけでした。サウンド。古代インドの説明によると、リストされているすべての物質、つまり4つの物質と4つの非物質を結び付けるのは彼女です。世界の人々の多くの神聖な伝説は、人が5つの主要な部分で構成されているという知識を保持しています。

ちなみに、生と死についての古代の人々の考えは、現代の世界観とは質的に異なっていました。彼らの見解によれば、死は人間の最終的な破壊ではありませんでした。生と死は密接に関係しており、互いに補い合っています。

伝説では、死は別の存在形態への移行と見なされています。しかし、この移行は人の人生の精神的な質に依存するため、人生は死を引き起こし、死は人生をひきおこすと言われてきた。死ぬということは、自分の長所に従って生まれ変わること、またはより良い世界に向けて出発することを意味します。さらに、この別の世界への移行は、「宇宙の水」を通過するだけでなく、人の変容にも関連しています(さまざまな伝説によると、ボート、鳥、馬、ヘビ、または幻想的な生き物で)。

そしてもちろん、世界の人々の伝統では、宇宙がどのように滅びるかが正確に説明されています。賢い人々は、古代人がどのようにしてこれらすべてを知り、そのような大規模なカテゴリーで考えることができたのかを考えるべきです。結局のところ、遠い過去の人々は、ほとんどの場合、その場所よりも遠いです。

生きている彼らは、宇宙は言うまでもなく、宇宙の誕生と死についてほとんど見ませんでした。



しかし、宇宙についての知識は、ありました！そして、世界の人々の宇宙神話が形成された一般的な本質は、現代の用語では次のとおりです。神の世界（伝説では、世界の水、世界の海、原始世界、創造主の世界）、一次音（神話上の鳥、音、最初のロゴス、神の言葉）から現れた。時々、伝説は混沌から世界が形成されたことに言及しています。しかし、ギリシャ語の「カオス」（カオス）-「ぽっかりと」は、「cha-」という語根、「chaino」、「chasco」-「あくび」、「開く」という言葉に由来することを理解しなければなりません。つまり、神話におけるカオスとは、「あくび」、「オープン スペース」、「空のストレッチ」を意味します。

アナスタシア：聖書の冒頭で、世界の創造について次のように述べられているのとほぼ同じです。

リグデン：現在、聖書のロシア語訳では、これは奈落の底という意味です。そして当初、シュメール・バビロニアの宇宙論がユダヤ人の司祭によって借用された古代メソポタミアのテキストでは、これらは「原始世界の水」、「海」でした。

そして、翻訳元の原文の動詞「wore」の意味を見ると、巣の中でひよこを孵化させる「めんどり」にも適用されていることがわかります。そして、「神の精神」（ロシア語の転写では「ruach elohim」）は古代セム語の語源に由来し、アラビア語の「ruh」に関連しています。

このルーツから、巨大な神話上の鳥ルフの名前が形成され、それは今でもアラブ人の古代の物語に登場します。



アナスタシア: この聖書の物語は、原初の世界の海の上をホバリングする大きな鳥によって世界が創造されたという他の人々の初期の神話に基づいて作られたと言いたいですか？一般的に、はい。結局のところ、鳥が原始の水から地球を抽出するという動機は、世界の人々の間でかなり一般的な神話です。ここでの要点は、この世界の上の動き、行動、創造にあることがわかりました。

リグデン: その通りです。それで、プライマリサウンドはボールの形で宇宙を生み出しました（世界、宇宙卵、黄金の胚、プライマリシード）。その表面では、アラットの力（重要な動きを生み出す一次エネルギー）の影響下で、物質が形成され始めました。（エネルギーの一部が物質に変化し始めました）。

アラットの同じ力（神話では、すべてのものの祖先、創造的な神聖な女性原理、創造的で生命を与える起源、母鳥、神の意志、神の思考の力）のおかげで、物質は相互に作用します。

宇宙がどのように正確に形成されたか、アラット、時間、空間、重力が実際に何であるかについては、すでに詳しく説明しました。

アナスタシア: はい、この情報は先生 IV と Ezoosmos（エゾオスモス）の本に含まれています。

リグデン: そうですね、どのプロセスが議論されているかがすでに明確になっているということです。したがって、宇宙のこの初期の球状状態の表面でのアラットの力の最大の集中と作用の場所で、問題が始まりました。

特定のフォーメーションに蓄積します。彼らは、生命が誕生した未来の銀河の「始祖」となった。



さまざまな伝説では、これは、体で宇宙を形成し、後に死後、部分に分割され、他の形成に命を与えた巨大な最初の男、巨人、始祖の姿のイメージに反映されています)。

ちなみに、現在でもマイクロ波範囲にとどまっている熱放射の中心が現れたのは、これらの初期クラスターでした。今日、それらはすでに科学的にマイクロ波背景放射（宇宙マイクロ波背景放射）として知られています。これは、物質世界の創造におけるアラットの力の主要な行動の現れです。

一般に、物質に生命を与え、存在するすべてのものを秩序立てることが始まったのは、アラットのおかげであることに注意する必要があります。

そして、宇宙の形成におけるもう1つの非常に重要な瞬間です。これにより、現在の宇宙が正確に何であるかが理解できます。アラットの力を（神に向かって）单一の秩序ある形にしようとする努力は、宇宙の動きを「内側から外側へ」設定し、それを規則的ならせん状に回転させて拡大させ始めました。それで創造の機能が設定されました。

（後期旧石器時代以降の人々の「内側から外側へ」の動きは、通常のスワスティカ（「まっすぐな」、「正しい」スワスティカ）の形で象徴的に描かれてきました。左に曲がり、右回りの動きを象徴しています。

時計回り、つまり右回りの動きを象徴しています。ちなみに、サンスクリット語からの翻訳では、「ス」からの古代インドの単語「スヴァスティカ」-「善に関連する」、つまり「スアスティ」-「美しい」、「良い存在」)。



しかし同時に、宇宙を規則的ならせん状に回転させ、アラットの力は反対の力を生み出しました。後者は、アラットの主な行動とは反対の方向、つまり「外側から内側へ」という逆スパイラルで宇宙内の動きを回転させ始め、物質を単一の物質的な心(動物の心)に統合しました。

したがって、破壊の機能、アラットの力に対する反作用が設定されました。(人々の間の「外側から内側へ」の動きは、正しくない攻撃的な逆円の形、つまり、端が右側に曲がった十字架の形で象徴的に描かれました。

反時計回り、つまり左回りの動きを象徴しています。神話では水から火が現れるイメージで対抗勢力の起源が記されている)。

アナスタシア: 2つの円のねじれを理解することに関して、あなたの明確化は、お茶の入ったマグカップの中で時計回りに「渦」(じょうご) をスプーンで回転させると、正しい円の波のねじれを観察できるということを助けてくれました。端の周り。そして、この液体が反時計回りにねじれていない場合、逆円の波のねじれ。

リグデン: そうです、これは人が毎日直面する最も分かりやすい例です。このように、宇宙には2つの相反する力が生じました。宇宙を外側に回転させる大きな力と、宇宙自身の内側でそれを打ち消す小さな力です。これら2つの力が現れた後、宇宙は丸い形を失い、それらの作用で平らになり、つまり収縮し、よりフラットになりました。



この瞬間は、世界の人々の宇宙の伝説に、世界の卵を2つに分割し、そこから天と地が作成され、分割(スペース)と水がそれらの間に配置されるという形で記録されています。また、卵子が割れた後に残った成分が膨張して宇宙になったとも言われています。3番目のエピソードでは、世界が正反対の機能を持つ2つの要素または2つの神に分割され、目に見えないペアが作成されることに言及しています。

スパイラル自体は、たとえば、反対の機能を持つ最初の一対の神の形で提示されます(一方は神の本質を持ち、もう一方は悪魔の本質を持ちます)。そこから残りの神々が生まれました。

伝説の別のバージョンでは、半人半蛇の形で(さらに、彼らは創造的で、水の神であり、体の特徴的な緑色をしています)。3つ目は、秩序、生命の水、豊穣、光、そしてそれらの反対を具現化するキャラクター - 無秩序、死、闇、対になつてない生き物(例えば、アフリカの神話によると - 宇宙の支配者になることを望んだジャッカル)。これが、宇宙の形成が神話に記録された方法です。現代人が問題の精神的な側面についての理解をすでに失っており、すべてが古代の伝説の物質的な認識のレベルにまで低下しているだけです。

アナスタシア: 今、アラットの動きにより、宇宙はらせん状に膨張していることが分かりましたか?

リグデン: はい。新しい大きなターンごとに速度が上がり、通過時間は増加します。

ターンはそのまま。そのため、銀河の一般的な動きを含む宇宙の物質の一般的な動きは、らせん状に発生します。



アナスタシア：これは、まったく別の角度から世界を見ることができる、非常に重要な情報です。

リグデン：ちなみに、「らせん」という言葉はラテン語の「spira」が語源で、「カールする、曲がる」、「蛇のようにねじれる」という意味です。最後の呼称は、ヘビが神聖な動物と見なされていました東洋から来ており、世界の目に見えないプロセスについての多くは、彼らが理解した目に見える世界の例を使用して人々に説明されました。同じらせん運動が、蛇のとぐろの明確な例によって示されました。

スピリチュアルな実践においても、エネルギーのらせん状の経路に多くのことが関連しています。たとえば、古代インドの東洋では、人間の隠された巨大な潜在力の象徴はクンダリーニ エネルギーであり、その貯蔵庫は背骨の付け根にあります。古くから、それはシンボルとして描かれていました - 3回転半でらせん状にとぐろを巻いた眠っているヘビ。ちなみに、サンスクリット語で「クンダリーニ」という言葉は、「らせん状に巻かれた」、「蛇の形にとぐろを巻いた」という意味です。

休眠中の「クンダリーニの蛇」の目覚めとその活性化は、スピリチュアルな実践における最高の成果の 1 つと考えられています。しかし実際には、すでにご存知のように、これは精神的発達の段階にすぎず、次のステップに過ぎず、それ以上のものではありません。

世界のさまざまな人々の神話では、ヘビのシンボルは繁殖力、女性に関連していたことに注意してください。

生成力、地球、空気、水、火(特に天)、そして知恵も。これを、すでに知っている情報と比較してください。



例えば、細胞分裂について、電子の動きについて、空気低気圧、高気圧、渦潮について。または、情報の長期保存と伝達に関連するらせん構造(同じDNA)の機能を備えています。これがあなたのための知恵のシンボルです。したがって、これは今日知られていることのほんの一部です。

また、たとえば、地球、宇宙、同じ銀河について多くの知識があり、現代科学は連想言語で説明されている現象をまだ学習していないため、人々はまだ「原始神話」と呼んでいます。この知識が元の形で保存されているとは言いませんが、それでも、人間の想像力が混ざり合っていても、グローバルな物理プロセスの本質を知っていれば、理解できます。

アナスタシア: 可能であれば、そのような知識の例を教えてください。

リグデン: ヨーロッパ、アジア、アフリカ、またはアメリカの同じ宇宙神話を取り上げてください。それらの多くは、リングに巻かれたヘビのイメージに関連付けられています。具体的には、同じ世界の千頭(他の解釈では7頭)のヘビシェシャについて知られている古代インドの少なくとも伝説の本質を掘り下げれば、多くを理解できます。結局のところ、古代の伝説によると、彼は地球を支えるだけでなく、数え切れないほどの指輪のおかげで、ヴィシュヌ神のベッドとしても機能します。さらに、伝説によると、彼は数え切れないほどの唇で、ヴィシュヌ神の栄光と名前を歌うのに常に忙しいとされています。



アナスタシア: はい、ヴィシュヌはヒンズー教の神話で最高の神の 1 つです。ブラフマー、シヴァ、ヴィシュヌは神のトライアド - 「トリムルティ」、つまりサンスクリット語で「3つのイメージ」を構成します。インドの伝統におけるヴィシュヌという名前は、普遍的な活性化の原則として、「包括的な」、「すべてに浸透する」と解釈されています。

リグデン: 確かに、この伝説によると、各世界サイクルの終わりに、蛇シェシャが宇宙を破壊する有毒な火を吐き出すと信じられています。それからヴィシュヌは眠りに落ち、この蛇の上で休み、世界、因果の海に浮かんでいます。ヴィシュヌ神が目覚めたとき、彼は新しい創造を計画し、蛇シェシャの指輪に横たわっています。すると、ヴィシュヌのへそから蓮が生えてきます。ロータスからブラフマーが現れ、宇宙を創造します。そして、新しい世界のサイクルが始まります。

アナスタシア: 無限を表す蛇。 アナンタは無限の象徴です。興味深いので、蛇の輪の下でエネルギーのらせん運動が意図されていたと仮定すると。

リグデン(笑): さらに言いますが、一部の神話では蛇シェシャはヴィシュヌの幻想と見なされ、他の神話ではヴィシュヌの一部と見なされています。もっと「ありふれた」神話を読んでください。たとえば、地球を取り囲むエジプトのヘビ Me-khent(メ や、伝説によれば海に生息し地球全体を取り囲んでいるスカンジナビアのヘビ Midgard-Jörmungandr (メドガルド-イルミガンド)について。または、西アフリカの人々の神話を取り上げると、同じドゴン。



彼らは、地球が一面の塩水に縁のように囲まれていることに言及しています。尻尾を噛む巨大なヘビに巻き付いています。そして地球の中心には鉄の柱があり、地球の円盤はその鉄の軸の周りを日中回転しています。

または、南アメリカの中央部のインディアンの神話に注意してください。それによると、空が地面に落ち、空と地球に巻きついた蛇だけがそれらを引き離すことができたということです。今まで彼はそれらを分離していると信じられています。

アナスタシア: つまり、2つのメディアのバランスを保つ螺旋構造を持つある種の力場ではないでしょうか？

リグデン（笑）：しかし、アマゾン盆地のインディアンは、ボユス蛇が日中に虹の形で世界に現れ（雨の所有者が天の水を飲むように）、夜になるとそれが現れるという神話を守ってきました。それ自体が天の川銀河のブラックホールの形をとっています。

アナスタシア：ブラックホール？それが物事のやり方です！

リグデン：知識はありますが、それを理解するには質的に異なる世界観が必要です。というわけで、宇宙の話に戻ります。ブラックホールは、この世界で唯一の現象です。それは、物質を形成する情報をそれ自体から押しのけながら（それぞれ、保持しながら）、物質を引き付けて破壊します。このプロセスを理解すると、宇宙の創造の問題だけでなく、宇宙の創造の問題にも真の答えが得られるため、賢い人々はこれについて考える必要があります。この答えは、大宇宙の現象に関する歪んだ人間の考えを変え、マイクロワールド。そうすれば、情報がどこにも消えない理由と、ブラックホールによって反発された情報が宇宙の特定の部分に集中する理由が明らかになります。



これらの情報ブロックが整然と並べられ、無から物質が生み出されるのはなぜでしょうか?広大な宇宙のどこからともなく分子雲が現れるのはなぜで、分子雲の中でどのように電磁場が形成されるのでしょうか?分子が合体して巨大な星などの巨視的な物体になる原因は何ですか?そして、最終的には、生命だけでなく、時には合理的な生命を生み出すものは何ですか?

一見すると、これらは難しい質問のように見えます。しかし、好奇心旺盛な人間の心が、あなたの本に書かれているすべての以前の知識と私が今言ったことを比較し、その「泡レンガ」で少し動くと、少なくとも人々の生活の中で多くのことが変わる可能性があります。私はそうではありませんが。tは何も新しいことを言いませんでした。これはすべて、すでに人類に知られています。

アナスタシア: つまり、人々は物質を生み出す情報の存在を知っていたということです。

リグデン: 一部です。たとえば、同じ古代エジプトでは、この知識は後世への遺産として金版に記録されました。その後、人々はこの遺産をトート書と呼びました。

ほとんどの場合、人々は常に知識よりも金を高く評価してきたため、これらのプレートは破壊された、または溶けてしまいました。しかし、それでも、パピルスにコピーされたタブレットのコピー、またはその一部は生き残っています。残念なことに、これらのコピーは、異なる時期に、見つけた場所で司祭によって激しく破壊されました。



なぜならそれらに含まれる情報は、人々に対する司祭の力を文字通り弱体化させた。しかし、何かが残っています。そして、この何かは、19世紀後半にクロアチアの山に保存され、隠され、世界に2人の優れた科学者をもたらしました。しかし、1936 年に悪人の手に渡ったとき、それは取り返しのつかない結果を引き起こしました。その始まりは、広島と長崎の民間人によって目撃されました。

アナスタシア：はい、悪名高い人間の選択です。

リグデン：つまり、一般的に、この情報は将来にとって重要ですが、それは最大の憤慨を引き起こすでしょう。たとえば、現在の「科学の司祭」。

アナスタシア：「科学の司祭」？

リグデン： そうです、私が言いたいのは、科学の発展を目指すのではなく、自分の頭に「王冠」を保持することを熱望し、科学に対する自分の意見は揺るぎないと信じている人々のことです。もちろん、公の場では、彼らは単に怒りを爆発させ、この知識をリンチしようとして、愚かな笑いで真実への恐怖を隠します。

アナスタシア：しかし、世界には真の科学者がいます。真実のために真実を知りたいと切望している人々であり、その意識は「権威」のそのような意見によって盲目にされていません。

リグデン：間違いなく、この知識は真の科学者を見つけることにもなります。人々はこの情報をチェックし、比較し始め、最終的に真実にたどり着きます。私が故意に終わらせなかつたすべて、好奇心旺盛。

心は、方向とすでに述べられている知識を見て、自分自身を発見することができ、真実の知識への道を開きます。



「権威」について言えば、現実の科学には「権威」は存在せず、あり得ない。眞の科学とは、眞実を知るプロセスであり、権力を獲得するための手段ではありません。

ブラックホールと私たちの物質的な宇宙で最も重い微小物体に関するこの情報が確認された場合（これは現代の技術でも可能です）、これらの発見は、現在未解決の科学の問題の多くに答えるだけではありません。小宇宙の粒子の変換への宇宙。

これは、ミクロからマクロに至るまでの世界の構造と、それらの構成要素の現象に関する全体的な理解を根本的に変えるでしょう。これにより、情報（精神的要素）の優位性が確認されます。すべては情報です。それ自体は問題ではなく、二次的なものです。プライマリーとは？情報。これを理解するだけで大きく変わります。これにより、科学の新しい方向性が生まれます。

しかし、最も重要なことは、人が実際にどのように働いているかという質問に人々が答えるということです。結局のところ、それはその本質と、肉体とは異なる一般的なエネルギー構造についてはまだ沈黙しています。この理解は、今度は、多くの人々の見方を物質的なものから精神的なものへと根本的に変えるでしょう。

アナスタシア： はい、それは本当に文明を眞の精神的発達の主流に変えることができます。

リグデン（微笑みながら）： あなたの言葉は。しかし、人々の耳には。



アナスタシア：人々がそれを聞くと信じたい。結局のところ、これは非常にユニークな知識です。

リグデン： それらは、彼の魂が出来事の地平線を超えて努力するとき、彼が物質世界のパターンを超えて多くのことをすでに理解している場合にのみ、人にとってユニークです。しかし、多くの。知識がさまざまな時期に与えられた回数。人々は時間の経過とともにそれらを失う傾向があります。なぜ？人間の心は単純なものを複雑にしすぎて、真実そのものを理解できないからです。

ところで、これについての古代インドのたとえ話があります。それは、女性が男性と権利において平等であつただけでなく、彼女の精神的な知恵が非常に尊敬されていた時代を指しています。

「世界には女性が住んでいました-Vidya(この名前はサンスクリット語で「知識」を意味します)という名前のマスターです。彼女には、アムリット(「不滅」)という名前の生徒がいました。生徒が成長したとき、マスター・ヴィディヤは彼に次のように言いました。世界に行きます。あなたは一粒の真実を見つけて知る準備ができます。」

アムリットは尋ねました。彼らは私に多くのことを教えてくれました。しかし、一粒の真実をどこで探すべきか、少なくともヒントを教えてください。マスター・ヴィディアは微笑むだけで答えた。

アムリットが大都市に行く前に、彼は国の皇帝が人生の意味についての論争と議論が行われる賢者の素晴らしい会議を組織しているというニュースを聞いた。勝者は帝国賞を待っていました-100頭の牛、その

角は金で吊るされています。アムリットは、そこで答えを聞きたいと思って会議に行きました。 そこでは、一粒の真実を見つけることができました。しかし、会議で、彼に予期しないことが起こりました。



賢者に「人生の意味は何ですか?」という質問をすると、それぞれの賢者は自分のやり方で答え始めました。ある賢者の女性はこう言いました。人はこの世界を征服しようとして、握りこぶしを持って生まれてきます。そして、彼は世界からほこりを一片も取ることなく、手のひらを開いて人生を去ります。人生の意味は、死後の運命を生み出す人の欲望の誕生にあります。

賢者は議論を続けました。そして、花崗岩の石のように、人の行為は単一です。人の行いは彼の人生を作り上げます。彼の善行または悪行は、彼の運命の悪行または善行になります。人の人生の意味は、その人が今ここで毎回何をするかで成り立っています。

賢者の別の女性は彼に答えました:「行為は人の考え方の結果です。人が悪い考え方を持って行動すれば、荷車の車輪が牛の足を追うように、苦しみがその人についてきます。人が良い考え方を持って行動するなら、明るい太陽からの影のように喜びが彼についてきます。人の人生の意味は彼の考え方になります。

そんな議論が昼まで続きました。最後に、当時の著名な教師の1人で、法廷でその学識で有名だった人は、次のように述べています。昨日はどんな人でしたが、明日はもうありません。人生から教訓を学ぶことができるということは、二度生きることを意味します。人生の意味は変化の中にある苦労と心配から生まれました。



賢者たちの間に沈黙が生まれた。そして、誰も答えなかつたので、一般の人々の中に立っていたアムリットは、議論に参加することを決定し、次のように述べました。その意味を理解するには、目を覚ます必要があります。外部の変化は、それが人の内面から来る場合にのみ役立ちます。この世界にあるものとないものはすべて、人間の魂の中にあります。この真実の知識は人生の意味です。」

これらの言葉の後、庶民は喜び、賢者は無名の若者の言葉の知恵に同意して、うなずきました。帝国賞はアムリットに授与されました。それである日、彼は突然富と名声を手に入れました。

賢者の会議の後、アムリットは、以前にすべてのライバルを論争で打ち負かし、若い男が予想外に勝利を奪った有名な教師から連絡を受けました。彼はアムリットに、なぜ彼をこれらの場所に連れて行ったのか尋ねました。そして、一粒の真実の探求について知ったとき、彼は喜んでこう言いました。あなたは信じられないほど幸運です。

今日、あなたは富と名声だけでなく、私の中で真の友人であり賢明な教師でもあります。私はその地域でよく知られています。私は、多くの真実の粒が隠されているさまざまな科学を教えていました。有名な教師と話した後、アムリットは彼の生徒になりたいと思い、彼と一緒にさまざまな世俗的な科学を学ぶためにすべてのお金を費やしました。彼はすぐに彼の最高の学生の一人として知られるようになり、多くの言語を習得し、当時のすべての科学を学びました。

成し遂げたことへの誇りに満ちたアムリットは、知恵の家に戻った。ヴィディア様その時、彼女は庭にいました。会議を喜んで、彼は放浪について話し始めました。その日、国の皇帝は賢者の大集会を開きました。私は自分の質問に対する答えを得たいと思ってそこに行きました。会議では、人生の意味についての論争と議論がありました。私は自分の意見を述べました。そして突然、私は帝国賞を授与されました。



ある日、私は富と名声を手に入れました。私は真実の粒を知るために、有名な先生と一緒に勉強することにすべてのお金を使うことに決めました。今、私はさまざまな科学について多くの知識を身につけており、これらの科学のそれぞれにおける多くの真実について話すことができます。」そしてアムリットは彼が学んだことを話し始めました。しかしヴィディア様は、その功績と習得した知識についての話を聞いた後、ただ微笑んでこう言いました：

「あなたは学んだことを示しました。あなたが世界で学んだことはすべて、心からの知識です。しかし、これはあなたが一粒の真実を見つけて認識したという意味ではありません。多くの人が一から生まれます。 Inmost（の本質に浸透するには、官能性、認識、理解が必要です。

マスター・ヴィディアは地面から近くの木の実を拾い上げ、それをアムリタに見せました。 「あなたは目に見える世界が何から編まれているかを研究してきましたが、それが何で構成されているのか、そしてなぜそれが存在するのかを見逃しています。」ヴィディア師は果物を半分に分けました。そこから種を取り出し、それも分割し、種の中の果肉をアムリットに見せた。

「心の助けを借りて、あなたは大きな木が育つ種の目に見える核を知っています。しかし、官能の助けを借りてのみ、目に見えない、生命を与える空虚を知ることができます。そのおかげで、大きな木が成長します。種は創造的な空虚の入れ物にすぎません。



生命を与える空虚は、すべてが生まれ、すべてが再び溶ける一粒の真実から織り込まれています。

あなたが道を始めたとき、この知識はあなたの中にありました。彼を通して、あなたは富と名声を得ました。しかし、あなたは知性のために富を使いました。富は責任を理解するために与えられます。世界の富は、すべてが一時的なものであり、死の対象となるこの世界に属しています。人々の利益のために富を使うなら、あなたは真実の一粒を見つけて知るでしょう。その一粒はあなたの中にもあります。」

「しかし、私は何をすべきか?アムリットは興奮して言った。「過ちを正すための過去の富はもうありません。」マスター ヴィディアは次のように答えました。これまでの経験を活かして、あなたの道を歩み続けてください。

あなたは世俗的な知識を身につけ、人々が感謝し、目に見える世界を知っています。人々にこの知識を教えに行き、目に見える世界が何であるかだけでなく、それが何で構成され、なぜそれが存在するのかを彼らに示してください。」

アムリットは驚いた:「自分が知らないことをどうやって人に見せることができるでしょうか?」マスター ヴィディアは微笑んで答えました。あなたは真実の粒の粒子を持っているので、あなた自身になりなさい。

人間は魂の受け皿にすぎません—彼のエッセンスの源です。その人を見つけて、彼を知ってください。これが最も重要なことです。一粒の真実を知れば、あなたは自分自身を知るでしょう。」アムリットは尋ねた。マスター ヴィディアは答えました。真実のための感情からのあなたの行為が、自我のための心からの言葉よりもはるかに多くなるとき、あなたは真実の一粒を知るでしょう。



アナスタシア: 常に関連性のある興味深いたとえ話です。

リグデン: 現代人類の問題は、エゴイズムが知識を完全に断片化し、この知識の単一の意味と目的が失われていることです。したがって、今日、たとえば、天体物理学者は星だけを見上げることを好み、同じブラックホールについて素晴らしい理論を構築しています。そして、考古学者や民俗学者は、もっぱら見下し、古代に飛び込み、過去についての推測を表現することを好みます。

アナスタシア: 一般的に、人の多面的な知識には統一性がなく、自分の視野を広げることはなく、最も重要なことは、自分自身、彼の真の本質に関する人の知識です。

リグデン: 残念ながら、その通りです。この点に関して、別の興味深い例を挙げましょう。すでに述べたように、西アフリカにはドゴン族がいます。19世紀末、ヨーロッパの主要国がアフリカを植民地に分割し始めたとき、これらの人々が住んでいた地域は、近隣諸国と同様にフランスの支配下にありました。

当時、アフリカ大陸からの奴隸貿易が発達していました。しかし、ドゴン族は遠隔地に住んでいたという事実によって救われました。そのため、彼らの存在を最初に知ったのは、「野蛮な」部族のリストをまとめた植民地軍の従業員でした。

この人々に対する彼の態度は、彼の州の政治家によって作成されたテンプレート、つまり「野蛮人は人ではない」に対応していました。しかし、この人々の文化は、フランスの民族誌学者でアフリカ学者のマルセルによって発見されました（そして、ヨーロッパの専門家の狭い範囲でさえも）、グリオール。彼は主にドゴン族の生活の精神的な側面に興味を持っていたので、結局、この部族の司祭たちは彼に彼らの秘密の秘密を教えました。



アナスタシア：「秘密の知識は、優しい心と純粋な考えを持つ人に明らかにされます。

リグデン：そのとおりです。しかし、世界はこの民族誌学者の作品からではなく、考古学と民族誌の両方が好きで、このすべての知識を比較することに成功した天文学者の作品からドゴン宇宙論システムについて学びました。

そのため、ドゴン族とそれに関連するバンバラ族は、元の情報をほぼ最小限の歪みで保存している数少ない民族の 1 つであり、時にはこの情報の意味を理解することさえありません。そして後者は、現代科学の成果をはるかに上回っています。

アナスタシア：気になる。

リグデン：ドゴン族やバンバラ族の宇宙論では、宇宙の創造における振動、らせん運動の重要な主要な役割についての情報があります。

アナスタシア：ドゴン族は宇宙のらせん運動についての知識を持っていますか?!

リグデン：はい。ドゴン族の神話には最高の神がいます - アンマと呼ばれる世界の創造者である創造神です。ドゴン族の宇宙神話の 1 つで、世界は「アンマ」という言葉から生まれたとされています。

アナスタシア：とても興味深いですね。伝説によると、アフリカのドゴン族には「アンマ」がいて、インディアンには「アンマ」がいます。



宇宙は神聖な音「オーム」の振動から生まれました。ヴェーダでは、この音は魂が神の世界に近づくことの象徴とも考えられており、特別な記号で示されています。

リグデン：もちろん、これらの伝説はすべて、かつては同じ根拠、つまり知識を持っていました。それで、ドゴン族の神話によると、世界は「アンマ」という言葉からきました。その言葉以外には何もありませんでした。最初の単語は、ドゴン族が「キゼ ウジ」(別名キビ粒ポー)と呼ぶ世界の無限に小さな基本要素を生み出しました。

内部振動により、「キゼウジ」は「世界の卵」に変わりました。ドゴン族の神話では、アンマは「回転する旋風」という異名を持ち、動きがらせん状に発生することが示されています。さらに、7つの世界、太陽と月への言及を含め、アンマ自身の創造物がその後に記述されています。

特に、太陽は8回巻かれた赤い銅の渦巻きに囲まれています。しかし、月は同じ渦巻きに囲まれていますが、白い銅ででています。驚くべきことに、現代物理学はこれらの問題を科学的に理解するレベルにまだ達していません。しかし、それは最も興味深い部分ではありません。世界の創造に戻る。「ポーの粒」の創造とらせん状の動きの巻き戻しの後、「見えないアンマ」は、この世界のすべてを決定する兆候を作成し始めました。アンマに属する」、および8つの「主要なもの」。

アナスタシア：サイン?したがって、シャンバラも記号の助けを借りてコミュニケーションを取り、イベントを作成することを考えると。記号は一般的に特別なトピックです。前述の伝説に関連して、読者は、「ガイドと主要な標識」とは何を意味するのか疑問に思うかもしれません。



リグデン：まず第一に、ドゴン族がそのような知識を持っていたという事実は、彼らの祖先が古接触を通じてそれを獲得したことを見ています。2つの「導きのしるし」は、神話でアンマと呼ばれる者だけが使用できるしるしです。しかし、8つの「主な兆候」は創造的な兆候であり、特定の力がそれらに適用されると、比喩的に言えば、鍵の鍵のように、創造と破壊の両方のプロセスを制御する特定の可能性が開かれます。非常にまれですが、人間が「主な兆候」を利用できるようになることがあります。

アナスタシア：めったに人間が利用できるようになることはありません。これが聖杯です！この知識を本「先生IV」に記録しました。聖杯は12のサインで構成されており、ドゴン神話では8つが言及されていますが、私が理解しているように、原則として人々がアクセスできない2つを除いて、あなたはかつて言及しました。

その結果、ドゴン人は不完全な情報を持っていたか、時間の経過とともに部分的に失われたか、神話を記録したヨーロッパの研究者から差し控えられました。しかし、聖杯が自由に世界をモデル化して修正できる「主な兆候」で構成されているという事実は、さまざまな人々の多くの伝説で間接的に言及されています。

リグデン：そのとおりです。この国またはその国のそのような「神聖な」知識は、部族の司祭によって、特にランダムな人々に完全に明らかにされることはほとんどありません。聖杯に関しては、それが隠されているときに、12の記号がそれぞれ3つの記号の4つの部分に分割されたのは偶然ではなかったことを覚えておく必要があります。



これは主に度は、聖杯の記号と音の活性化を追加するプロセスを妨げました。特定のシーケンスにおける聖杯の兆候は、特定の力(プライマリサウンドのサウンドフォーミュラ)の適用の助けを借りて、人の超越的な可能性を開くロックのキーのような形のようなものです。

アナスタシア: 4 つの部分、それぞれ 3 人のキャラクター。

リグデン: ところで、これらの古代の人々は、数字の 4 が女性の原理、3 が男性の原理、そして合計で 7 が人間の基礎(永遠の命の原理)である完全性を表すという言及を保存しています。

アナスタシア: 4 - 女性性を具現化する。聖杯が 4 つの部分で構成されている場合、これは間接的に、女性性の創造的な神聖な力 - アラットとの関係を示しています。

リグデンくすくす笑い): ええと、なぜ間接的に? ところで、アラートについてです。世界の創造の時代を超越した初期段階について語るバンバラの人々の宇宙神話では、世界は動きに恵まれた空虚な「グラ」から始まったという言及があります。「グラ」はダブルサウンドを生み出しました。その結果、「gla gla」というペアができました。

一般に、一連の変換と変換の後、振動のおかげで、まだ作成されていないオブジェクトに配置して指定することを目的とした「サイン」が発生しました。創造行為の過程で、Yoの精神が現れた(そこからペンボとファロの最初の強力な力が生まれ、世界の創造)、22 の基本的な要素とスパイラルの 22 ターン。



さらに、これらの渦巻きの回転がYoを「かき混ぜた」とき、その結果、光、音、すべての行動、すべての存在、すべての感情が生じたことが示されています。神話は、ペンバが旋風で宇宙を移動したと述べています。彼は後にファロと名付けられたものを投げました。ファロは、空気の精霊である7つの天を創造し、地上に水の形で命を吹き込みました。彼は遍在しており、すべての水域を訪れます。実際、ファロは世界の創造を続け、宇宙を秩序立て、そのすべての要素を分類し、人々を創造し、彼らに言葉を教えました。

アナスタシア： ファロは宇宙に命じた。これらがアラットの創造力の機能です。

リグデン： では、何について話しているのですか。ところで、スピーチについて。ドゴン族の神話では、半人半蛇の形をした水の神(双子の神)をノモと呼んでいました。伝説は生き残っており、空からの言葉を欠いた裸の母なる大地を見たとき、彼らは天体植物の纖維の10束から彼女のスカートを作った。

世界の最初の言語である地球に言葉を与えたのは、言葉を含み、Nommo(ノモモ)の完全な本質である、らせん状にねじれた湿った纖維でした。そのため、一部の人々はドゴン族とバンバラ族を「野蛮人」と呼んだ。これらの「野蛮人」は、「文明人」よりもはるかに多くの情報を将来の世代のために保存しています。

もちろん、歪みの要素がないわけではありませんが、それでも何もないよりはましです。

アナスタシア： はい、上記のすべての後、そのような知識がそこに保存されているので、すべてを捨ててアフリカに行きたいという願望があります。



リグデン(笑い): あのアフリカでは、何もすることがありません。チベットに行った気分です。すぐに「正しい道」を見せたいと思う人がたくさんいます。アーリマンまで、そしてあなた自身の費用でさえ。 実際、すべてが人が想像できるよりもはるかに近いです。それはすべて、知識の鍵と一般的な世界観に関するものです。

ほら、あなたは精神的な世界観の観点から、世界を別の知識の方法で見ました。あなたにとって、以前は重要ではなかった情報が重要になりました。物理学、神話、天文学の散在する知識がパズルのピースのように集まり、それぞれが補完し合うように、その場所を占めています。

少なくとも同じ兆候について、この情報を持っていない人々がどう思うか想像してみてください。結局のところ、ほとんどの現代人は、実際に何が危機に瀕しているのかさえ理解していません。現代の世界観によれば、「世界を創造する」記号は、化学元素の表を構成する記号にすぎず、それ以上のものではありません。

しかし、シンボルとしての同じスパイラルは、旧石器時代でも知られていました。そのイメージは、王朝以前のエジプト、古代インド、中国、クレタ島、ミケーネの古代文化、ヨーロッパ、アフリカ、コロンブス以前のアメリカなど、さまざまな大陸に住む人々の間でも見られます。

そして、今日の状況はどうなっているのか、大宇宙のらせん構造、目に見えない世界についての過去の知識から何が残っているのでしょうか?通りに出て、人、特に物理学などの科学に携わる専門家に、スパイラルについて人々が現在知っていることを尋ねるだけで十分です。その結果、せいぜい、標準的な答えが得られますが、残念ながら、ステレオタイプの唯物論的な世界観を反映しています。

目に見える世界の知識を超えない人。



アナスタシア： そうです！ここまで行く必要はありません。それがどのような形で与えられたかは関係ありません。本質 자체が重要であり、人の世界観、ひいては彼の人生に影響を与えます。結局のところ、この情報は、世界が上から制御されていること、この世界のすべてが秩序立てられ、人工的に作成されていることを理解するのに役立ちます。これから、このつかの間の人生とは何か、そして人自身が何を目指して努力すべきか、その力を精神的な発達のためにどのように使用するかについての理解が続きます。

リグデン： 砂漠の蜃気楼のように、この幻想的な世界ではすべてが急速に過ぎ去ります。したがって、物理的な世界で私たちが所有するものはすべて、一時的なものであるため、価値がありません。人間の生活を含むこの物質世界のすべては、海の砂の上の泡の泡にすぎないため、魂を感じて美しいものを理解することを急いで学ぶ必要があります。

人は、自分は二本足の生き物ではなく、自分にはもっと多くのものがあり、自分の内なる世界は周囲とは異なり、異なると感じています。それは精神世界からの魂 - 外部からの粒子 - を持っています。彼女の動きのベクトルは 1 つ、欲望は 1 つです。魂は実際にこの世界から逃れようとします。彼女は神、彼女の世界を熱望しています。しかし、物質世界の状況では、この願望、魂から発せられるこの深い感情は、人間の意識と衝突します。そして、人間の意識はすでにこれらの強いものを解釈しています。この人生で得た知識と経験に基づいて、別のある方法で深い動機を。



そしてここでは、人の支配的な世界観、世界と自分自身についての彼の知識が重要な役割を果たしています。唯物論的な世界観が彼の中で支配的である場合、彼の意識は狭くなり、精神的な知識がない場合、彼の意識には複数の代替が発生します。つまり、パーソナリティはこの力を精神的な発達のためではなく、彼の物質的な欲求の実現のために使用します。意識における単一のスピリチュアルな感情の力は、単純に動物性の多くの欲求に分割されます。

その結果、人は永遠を目指して努力する代わりに、パニックに陥り、この3次元の世界を自分の存在の唯一の現実と見なし始めます。彼は、物質世界で自分のエゴを満足させ、自分の種類に対する力を獲得し、地上の富を蓄積するために、自分の人生の力を浪費します。しかし、体が死ぬと、人はこれらすべてを失い、来世の運命で以前の人生から負のエネルギーの塊だけを残し、それは彼に長い間苦痛と不安をもたらします。

そして、精神的な世界観が人の中で支配的であり、彼が世界と自分自身についての知識を持っているだけでなく、それを意図した目的のために意図的に使用し、自分自身に取り組んでいる場合、彼は質的に変化します。彼の魂から発せられる深い感情のおかげで、彼は人生の精神的なベクトルに沿って動きます。精神的に成熟した人にとって、肉体の死は実際に解放です。これは、質的に異なる状態、永遠の真の自由の状態への単なる移行です。



アナスタシア：多くの読者は、すべての人にとって、さまざまな文献がありますが、魂に関する特定の情報を見つけることは実際には困難です。さらに、現代の消費社会では、「魂」という用語自体でさえ、「心」、「精神」、人間の「私」、「自己意識」など、魂とは正反対の概念にますます置き換えられています。

せいぜい、読者は共通の哲学を見つけ、その後、シェルまたは民族学、または宗教と神秘主義、または心理学、社会学のセクションに封印されます。

古来より、精神的に豊かな魂は真の人間の最も貴重な資産であると信じられてきました。理論的には、スピリチュアルな方向に進んでいる人間社会では、スピリチュアルの研究が最も重要視されるべきです。

結局のところ、魂の知識は、科学を含む他の真実の知識に貢献します。投機的な性質のものを含む、魂、独断的な声明についての幅広い理想主義的および唯物論的な意見があります。しかし、これはすべて、賢人、預言者、聖人から、科学者、教師、自然主義者、そして一般の人々に至るまで、さまざまな時期に多くの人々の探求です。そして、主に知識の欠如のために論争が行われました。

しかし、注目に値するのは、人について、そしてまず第一に魂についての体系的な知識があれば、魂のニーズに導かれて、心の願望を制御する機会があることを人々はまだ理解していることです。自分自身を知ることで、直感、思考、感情、感情、隠された欲求、行動の動機、行動の結果など、人生のすべての要素をよりよく理解できるようになります。

そしてこの場合、そのような知識がアクセス可能になるだけでなく、理解されるようになると

人類が何千年もの間夢見てきた親切で調和のとれた社会を世界に構築し、確立することは、大多数の場合、困難なく可能である。

目に見えない世界の現れを普通の人よりも少しだけ感じる能力を自然に備えている読者がいます。



さらに、彼らは通常、自分の能力を他人から隠しています。基本的に、彼らは人間的な意味すでに「成功した」非常に賢い人々です。彼らは子供を育て、社会で特定の地位に達し、それぞれの分野の主要な専門家になり、学位を取得しています。しかし、彼らは、これらの人間の業績、つまり自分の中で直感的に感じていることに、人生の主な意味を見出していました。そしてそれは彼らを心配させます。彼らは、自分自身と自分の魂を理解し、その結果、自分の人生の主なベクトルの方向を決定するために、この重要な質問に対する答えを見つけようとしています。彼らは、自分の本質、この世での生き方、死後の世界への備えを理解するための知識を欠いています。

結局のところ、目に見えない世界の現れと接触し、貴重な個人的な経験を積んだ彼らの何人かは、彼らの世界観を根本的に変えました。これらの人々が尋ねる最も重要な質問は、「あなたの魂を救う方法とは?」ということです。彼ら、そしてこの知識に触れる将来の世代でさえ、すべての人にとってこの主要で重要な質問に答えていただければ、非常に感謝するでしょう。

リグデン: 魂を救う方法とは? 実際、ここで複雑なことは何もありません。毎日の生活でこれを本当に目指して努力すれば、自分自身の魂を知り、理解することができます。

したがって、それらの存在の意味。もちろん、これには自分自身、自分の性質、そして人の人生における主な行動、つまり自分自身に取り組むことについての知識が必要です。人は自分のエッセンスのさまざまな芽の種を自分の中に隠していますが、そのうちの1つだけが真実です。



なぜ彼は、自分がこの世界に来た意味を探しながら、この世を去るまでの生命の秘密を心配しているのだろうか?彼はここにいて一時的ですが、彼の性質を変えることができるからです。人がこの世界にとどまることの意味は、精神的な成長であり、物質的な意識の低下の状態から抜け出し、精神的な高揚、変容、自分の運命に向かって急上昇し、そこにあるすべての最高のものを開花させることです。人が自己開発の翼を獲得すると、それは彼を真実の認識の高みに引き上げ、彼の性質を質的に変えます。

おそらく、人の内部構造についてもっと詳しく話します。この知識は時の川でほとんど失われていますが、その反響は現代世界のほどりで見つけることができます。

では、ソウルとは?すでに述べたように、魂は真の反物質であり、外部からの粒子です-精神的な世界、神の世界から。魂は人間の構成要素にすぎません。それはその主な可能性であり、ポータルであり、各人と精神世界との直接的なつながりです。それは、植物にも動物にも、知的なものを含む他の物質にも存在しません。

8日目に人の新興エネルギー構造に導入されます。身体の構造に導かれている場合、そのおおよその位置は領域です。

太陽神経叢、つまり人間の実際の中心。しかし、それは太陽神経叢でも、心臓でも、脳、精神、意識、思考、理性、精神的能力を含む他の身体器官やシステムでもありません。



上記のすべては、魂の産物でも財産でもありません。それはすべて、物質世界を指しています。外科的切除、肉体の特定の臓器（心臓など）の移植、または輸血は、魂とは何の関係もありません。私はそれが人のエネルギー構造にあり、この構造の物理的な部分にはないという事実に焦点を当てています。

人の魂は一つしかありません。彼女は一つであり、分割することはできません。男性の魂にも女性の魂にも違いはなく、魂に性別はありません。すべての人の魂は本質的に同じです。そういう意味では、人と人はとても親密で、つながっていると言えます。魂は問題ではなく、すり減ったり、年をとったり、病気になったりしません。物質世界に関しては完全ですが、神の世界に関しては個々に完全ではありません。

物質界での転生を繰り返した結果、魂は情報の殻を背負っている。

人間とは何ですか？生きている人間は多次元の空間オブジェクトであり、魂の周りに構築され、独自の知的な人格を持っています。目に見える身体の見慣れた形と構造は、その物理的および化学的プロセスと制御システム（物質的な脳を含む）とともに、全体的な設計の一部にすぎません。



3次元次元を指す人間つまり、人は、魂とその情報の殻、人格、そしていわば他の次元のさまざまなフィールド(3次元次元にある肉体を含む)からなる構造で構成されています。

知的な人とは?新しい構造では、新しい体で、新しいパーソナリティも形成されます。これは、人が生きている間に感じる人であり、スピリチュアルな性質と動物的な性質のどちらかを選択し、分析し、結論を導き出し、官能的な個人的な荷物を蓄積する人です。そして感情ドミナント。

人生の過程で、人格が魂と融合するほどに精神的に成長すると、人間とは異なる、質的に新しい成熟した存在が形成され、精神世界に入ります。実際、これは「物質世界の囚われからの魂の解放」、「涅槃への出発」、「聖性の達成」などと呼ばれるものです。そのような合併が人間の生活の中で起こらなかった場合、肉体の死とエネルギー構造の破壊の後、このインテリジェントなパーソナリティは、魂を残して再生(生まれ変わり)し、条件付きで言ってみましょう。本質的に、サブパーソナリティに。

肉体が死んでも、人間は存在し続けます。遷移状態では、らせん構造を持つ球形をしています。このフォーメーションには、魂とその情報シェルが含まれています。これは、最近の人生からのパーソナリティを含む、前の化身からのサブパーソナリティです。

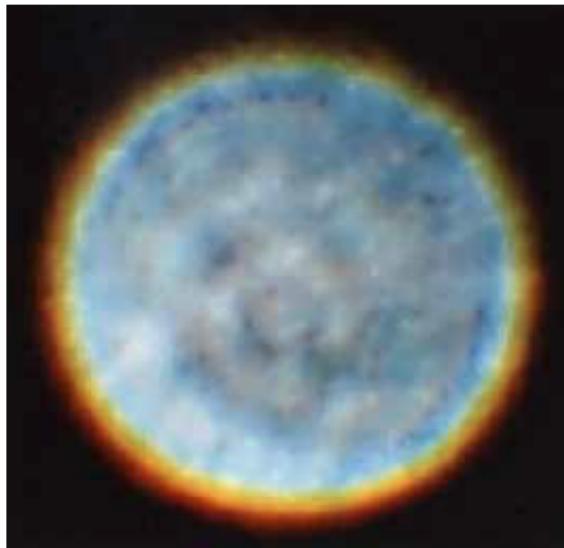


写真1。人間の魂は、肉体の死後、移行状態にあります。

魂の写真では、縁の殻がはっきりと見えます。それは(ボールに向かって深まるにつれて)赤(生命エネルギーの残骸-プラナ)と、他のエネルギーの黄色と白黄色の色で構成されています。球形自体はスカイブルーで、ライトグリーンが少し入っています。中心に向かってねじれた特徴的ならせん構造を持ち、虹色の色合いと白い斑点があります。

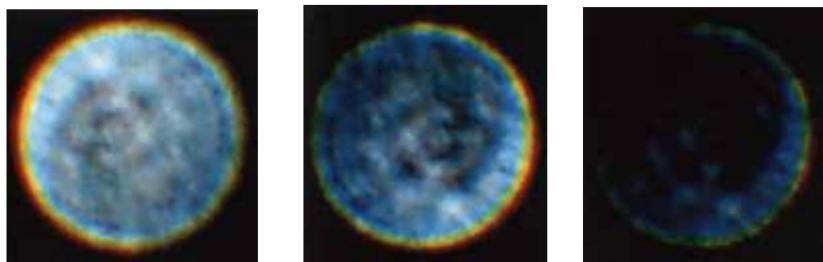


写真2。移行の過程での物質世界から人間の魂の消失。



魂の周りにある情報シェルは、感覚と感情のクラスターであり、より正確には、一種の星雲と連想的に比較できる合理的な情報構造です。簡単に言えば、これらは過去の転生からの元パーソナリティです。人の生まれ変わりの回数に応じて、魂の近くにそのようなサブパーソナリティが多数存在する可能性があります。

アナスタシア: サブパーソナリティは、あなたの魂の過去の転生で活動していた、あなたのようなパーソナリティであることがわかりました。

リグデン: はい。言い換えれば、これは過去の人生からの元パーソナリティであり、彼女が人生の間に蓄積した、つまり彼女の生涯の選択の結果である感覚的・感情的優位性(ポジティブまたはネガティブ)のすべての荷物を持っています。

パーソナリティは、原則として、サブパーソナリティと直接関係がないため、人は過去の生活を覚えておらず、したがって、これらのサブパーソナリティの知識を獲得した経験があります。しかし、まれに、特定の状況が課せられると、漠然とした既視感、または最後の(現在の化身の前の)サブパーソナリティの活動の短期的な自発的な症状が現れる可能性があります。これは、幼児期の人に特に当てはまります。

精神医学の作品に記録されているケースがあり、健康な親を持つ異常のない子供が、境界線に似た短期的な不自然な行動を示す場合があります。

人格障害。例の1つを挙げます。4歳の女の子も同じ夢を見始めました。光を背景に、彼女を呼び寄せるが、彼女を光の中に入れない男の子です。彼女はこの憂鬱な夢について両親に不平を言い始め、夕方には予測不可能で、以前は異常な攻撃的な行動と異常な強さを示し始めました。



怒った4歳の女の子は、テーブル、椅子、重いキャビネットをひっくり返し、母親を認識せず、「あなたは私の母親ではない」、「とにかく死ぬ」などの非難的な方法で彼女にかんしゃくを投げました。つまり、少女の言葉と行動は彼女にとって不自然でしたが、生まれ変わりを生き延び、「地獄」の状態にあり、苦痛と動物の痛みを経験しているサブパーソナリティに非常に特徴的でした。そして翌日、子供は再び正常になり、いつものように振る舞いました。

これは、以前のサブパーソナリティの否定性が短期的に現れた典型的なケースです。この場合にできる最善のことは、子供の知性を積極的に発達させ、世界の知識の視野を広げ、新しいパーソナリティが形成される最初のサージが発生するのを待つことです。

一次サージは、原則として、人の人生の5～7歳までに発生します。事実は、初期の幼児期に、一次サージの前に、以前のパーソナリティ(サブパーソナリティ)の同様の短期間の活性化が発生する可能性があるということです。

後者は、新しいパーソナリティが形成されている間、意識を突破して人を支配しようとしています。

しかし、はるかに多くの場合、サブパーソナリティの発現の他のケースがあります。 3歳～5歳のお子様(新パーソナリティがまだ完成していない時期)の場合です。

形成された)大人の経験豊富な人の立場から推論し始めます。まれに、その年齢では本質的に知ることが不可能な、以前の大人の生活の詳細な詳細である可能性があります。



そして、ほとんどの場合、子供が何らかの理由で予期せず賢明に発言し、明らかに幼稚ではない考えを表明し、これが大人を神秘的に怖がらせることがあります。親はそのような症状を恐れるべきではありませんが、単にその性質を理解する必要があります。子供の人格が形成されると、彼らは合格します。

したがって、それぞれのサブパーソナリティは、過去の意識の個性を、その活動的な生活の中で支配された欲望、願望の形で保持しています。

私が言ったように、パーソナリティはサブパーソナリティとは直接関係ありません。つまり、人は意識的に過去の人生を覚えていません。しかし、潜在意識のレベルでは、パーソナリティとサブパーソナリティの間のそのような接続が保持されます。間接的に、後者はパーソナリティに影響を与え、パーソナリティを特定の行動に「押し込み」、特定の決定を下すように仕向けることができます。これは無意識のレベルで起こります。さらに、比喩的に言えば、サブパーソナリティは「霧の光フィルター」のようなものであり、そのため、魂と新しいパーソナリティとの間の直接的なつながり、いわば、光の源とそれを必要とする人との間の直接的なつながりが大幅に妨げられます。

アナスタシア：「フォギーライトフィルター」？興味深い比較。

リグデン： おそらく、それについてもっと詳しく話します。しかし、これらのプロセスはすべてエネルギーレベルで発生することを理解する必要があります。

より良い認識、比喩的な比較で説明します。したがって、サブパーソナリティは魂の近くにあり、それらを表すことができます。「インテリジェントな」星雲の形で。一方では、彼らは魂に近く、この非常に強力な反物質構造の影響、いわば「永遠の息吹」、「神の世界からの粒子の存在」の近くを経験しています。



一方、サブパーソナリティは、動物の性質の密な物質構造からの強い影響と圧力を経験します。つまり、サブパーソナリティは、精神世界と物質世界の2つの強力な力の間で圧迫された状態にあります。彼らは常に両側からこの信じられないほどのプレッシャーを経験しています。したがって、各サブパーソナリティは、現在のパーソナリティと魂のつながりを実現する過程で、一種の「光フィルター」になります。

そのような「光フィルターサブパーソナリティ」の「暗くなる」程度は、彼女の以前の人生で蓄積された支配的な人生の選択、好み、官能的で感情的な優先順位に依存します。

たとえば、前世の人が善良で親切で、精神的な発達のために多くのことをしたが、最終的に物質世界から自分を解放するのに十分ではなかった場合、彼の与えられたサブパーソナリティにはより多くの平和があり、振動は少なくなります。これは、この「光フィルター」を通して、エネルギー、魂からの衝動が通過するのがより良いことを意味します。

そして、人が物質的価値の優先順位で過去の人生を無駄にした場合、そのような「光フィルターサブパーソナリティ」は、振動の増加、つまり、発する「光」のスループットにより、構造がより密になります。魂からははるかに悪化します。これはガラスと連想的に比較することができ、すすぐ汚れており、それを通して真の光が歪んだり、さらに悪いことに突き抜けたりします。言い換えれば、人生の間に動物側が人を支配すればするほど、物質的価値が優勢になり、彼はより大きな歪みの担い手になるため、後で彼にとってより困難になります。



密な「光フィルター」を持つそのようなサブパーソナリティがたくさんある場合、現在生きているパーソナリティが彼の動物的性質と戦うことは非常に困難であり、物質的な支配者の道をオフにして彼の魂を感じることは非常に困難です。

アナスタシア： そのような人は、いわば問題がより不安定であり、精神的な発達の方向に人生のベクトルを変えることはより困難であることがわかりましたか？

リグデン： はい。しかし、パーソナリティには活力と選択する権利があるため、この状況を逆転させるのに遅すぎることはありません。ちなみに、潜在意識レベルで人の死への恐怖の発現に間接的に影響を与えるのは、サブパーソナリティの経験です。これらのサブパーソナリティが新しいパーソナリティで感じる方法は、宗教の言葉で言えば、彼らにとって本当の「地獄」です。身体の死後、サブパーソナリティとなるパーソナリティは、物質世界とは何か、魂とは何か、そして人間にとってその重要性は何かについて、独自の経験と理解を獲得します。

しかし、新しい身体の構築において、サブパーソナリティはすでに束縛された精神の絶望的な位置にあり、すべてを理解し、強い感覚的感情的苦痛を経験しますが、何もしません。

彼の経験を新しいパーソナリティに移すことを含め、できません。



これは、あなたが体に閉じ込められているという事実と同じですが、この体はあなたの意識に役立たず、従わず、あなたが命じたことを実行しません。つまり、それはあなたにまったく役立たず、自発的に生きています。そして、あなたはこれらすべてを認識していますが、何もできません。信じられないほどひどいプレッシャーを感じ、新しいパーソナリティの同じ過ちを繰り返し、生命エネルギー消費のベクトルの方向を変える自分の無力さを理解しています。ちなみに、閉ざされた空間への恐怖など、恐怖がどこから生じるのか。

人に深い恐怖感とパニックを引き起こす、このような歪んだ空間認識の出現の主な理由の根源は、サブパーソナリティが配置されている人間の構造のセクターに関連しています。

たとえば、多くの宗派や宗教で使われている「体の中で永遠に生きる」という呼びかけに人々が惹きつけられるのはなぜでしょうか。

怖(死恐怖症)に反応して生じる人の隠された欲求と関連付けます。この恐怖症には特定の行動症状があり、その目的は、恐怖症の対象を回避するか、何らかの行動(宗教的規則の遵守、儀式、そのような情報への関心の高まりの表明)の助けを借りて恐怖症の恐怖を軽減することです。、例えば、「体の永遠の命」など)。つまり、人は、いわば、不合理な恐怖によって引き起こされた、彼にとって解決できない内部紛争からこれらすべての背後に隠れており、さらに、通常は悪い予感を伴います。これらはどこで予感とそのような恐怖?



潜在意識から、そしてこれは、死と再生が何であるかについてすでに実際的な理解を持っているサブパーソナリティの官能的で感情的な抑圧的な状態に関連しています。比喩的に言えば、彼らにとって永遠にアクセスできないこと、したがって彼らの必然的な最終的な死への恐れのために、人は「永遠に体の中で」生きたいという願望を持っています。これは、動物の性質の欲求の 1 つにすぎず、魂の願望の（潜在意識レベルでの）置き換えです。

アナスタシア： そして、ある人が人生の中で精神的に成長し、精神的に成熟したパーソナリティとして再生の輪から抜け出すことができた場合、サブパーソナリティはどうなりますか？

リグデン： 彼らはただ全滅します。結局のところ、それは単なる情報構造です。

アナスタシア： これらのサブパーソナリティーが前世でどのようなものであったかに關係なく、良いパーソナリティか悪いパーソナリティですか？

リグデン： 比喩的に言えば、パーソナリティがサブパーソナリティになると、（あなたの理解では）「良い」サブパーソナリティは存在しません。パーソナリティは、意識的に精神的に成長し、魂と一体化した後、一度の生涯で解放することができます！人がこの人生で精神的な方向に発展しようとしたが、十分に努力しなかった場合、次の人生では新しいパーソナリティの条件が良くなります。これにより、彼女の精神的な成長の可能性が広がりますが、動物性の抵抗力も高まります。



そして再びすべて(苦痛の継続または停止サブパーソナリティ、魂の運命、およびパーソナリティ自体)は、新しいパーソナリティの個々の選択に依存します。

アナスタシア: つまり、サブパーソナリティは単なる情報構造なのですか?

リグデン: はい。人を含め、あらゆる事柄は単なる情報の波です。それは、目の前にあるもの、たとえば惑星かバクテリアか、椅子か人かなど、埋め込まれた情報に依存します。しかし、人間には、彼をあらゆる問題から区別する魂があります。

アナスタシア: 魂は情報粒子と呼べますか?

リグデン: いいえ。魂は物質世界に属していません、それは完全に別の世界、つまり永遠の世界からのものです。単なる情報の波です。魂は人にとって本物であり、構造全体が焦点を当てている主要なコンポーネントです!

他のすべては、開発のための追加情報にすぎず、精神的な人格が成熟した後、魂と融合し(精神的な解放)、単に分化し、組織化された構造として存在しなくなります。

アナスタシア: 簡単に言えば、人々の理解では、この情報の波は破壊されますが、実際には、情報 (すべてを構成する情報レンガ) 自体は破壊されないため、別の性質に移行します。



リグデン: その通りです。

アナスタシア: あなたはかつて、十分に強力な媒体が死んだ人を会話に呼び込むことができると言いました。

リグデン: はい、ヒューマン パーソナリティは単に別の形で存在し続けています — サブパーソナリティの形で。媒体が十分に強く、彼の生命エネルギー(プラナ)の一部を故人のサブパーソナリティに移し、このエネルギーで満たすことができる場合、このサブパーソナリティは実際に媒体と通信する一時的な能力を獲得します。サブパーソナリティにとって、生者のプラーナは相対的に言えば「地獄の地獄」における「甘い食べ物」であり、それが顕在化するチャンスを得るための短期間のチャンスです。したがって、メディアは、人々が言うように、コミュニケーションのために死んだ人の「魂を召喚する」。実際、それはサブパーソナリティとの情報のつながりを確立します。そして、これは人の生まれ変わりがすでに起こっていて、このサブパーソナリティが新しいパーソナリティを持つ身体の新しい生きた構造の物質世界にある場合にのみ起こります。

さらに、このすべての連絡は、新しいパーソナリティに対していつの間にか実行されます。そして、人が涅槃に行った場合、まだ再生の段階にあるその人のように(物質世界での新しい転生まで)、単一の媒体が彼をそこから「引っ張って」接触することはありません。なぜ? 媒体のそのような「接触」は、動物の心の化身の1つであり、物質世界でのその現れとつながりであるためです。そして、スピリチュアルな世界はアニマルマインドにはアクセスできません。



アナスタシア： え!したがって、実際の靈媒は、このサブパーソナリティを養うために、プラーナを失う（漏れる）ことがわかります。これは不平等な交換です。サブパーソナリティからのナンセンスな情報に対して、特定の人の精神的な成長を目的とした貴重なエネルギーを費やすことです。実際、そのようなサブパーソナリティの「餌付け」は、動物の心の別のトリックにすぎないことがわかりました。これで、伝統的な宗教が靈媒の行動に反対する理由と、生きている人々が人間の意味で「養おう」とした空腹で飽くなき精神についての伝説がどこから来たのかがわかりました。

リグデン： はい、これはアニマル マインドのトリックの 1 つです。これらの問題に関する今日の人々の無知により、本物の媒体がそれほど多くなく、その模倣者が主に行動し、騙されやすい大衆を純粹に心理的なトリックで楽しませているのは良いことです。

アナスタシア： 死者の記憶は悪くはなく、覚えていれば良いという信念が今日まで生き残っています。そして、死んだ人が夢に出てきたら、「彼の魂は落ち着いていない」と信じられています。これらの信念はどれほど真実ですか？

リグデン： 私が覚えていれば、私は死者について明確にします。さらに、この場合に行われるプロセスを理解する必要があります。まず、すべての場合において、人の魂そのものについて話しているわけではありません。原則として、彼らは人の生涯だけでなく、それについて知りませんでした。



親戚、時には彼自身、そして、私たちは、体の死後にサブパーソナリティになった、周囲の人々によく知られている人のパーソナリティについて話しています。魂自体は、再生のために出発するとき、以前の「投獄」の場所に戻りません。

しかし、サブパーソナリティは、物質世界の合理的な情報構造として、新しい体に「ロック」されていても、この体のエネルギーを使用できます(主に新しいパーソナリティが成熟するまで)。しばらく力をつけた彼女は、投影のおかげで、人生で愛情を持っていた場所や人々を訪れることができます。サブパーソナリティは、生きている人がそれについて(死んだ人について)思い出し始めたときにもその効果を発揮し、注意力を与えます。これは生きている人にとって何を意味しますか？

ここでは、残念ながら、「知識は悲しみを倍増させる」ことが知られているため、広範な大衆に対して、彼らが言うように、すべての詳細を伝えることはできません。

しかし、これらのプロセスの本質を一般的に理解するためには、私は次のように言います。事実、人が故人を思い出し始めると、次のことが起こります。彼の注意、局所化されていない恐怖、無力な感情(悲しみ、落胆、抑うつ)を故人の記憶から生じるこのプロセスに入れ、彼は物理学の言葉で話し、サブパーソナリティに追加の「電荷」を与えます(力を伝達します)。そして、これのおかげで、サブパーソナリティがアクティブになります。つまり、生きている人が死者を思い出すプロセスは、時間と空間に関係なく、ある素粒子から別の素粒子への「電荷」(力)の瞬間的な移動に似ています。サブパーソナリティは新しいボディに残りますが、この通信中に投影されます。



「電荷」はすぐに現れます。より正確には、それを覚えている人のパーソナリティと接触します。後者は、潜在意識のレベルで、故人のサブパーソナリティとのこのつながり、つまり情報の交換を感じます。実際、彼自身がこの接触に生命力を与えています。そこから良いものは何も生まれません サブパーソナリティとのそのような潜在意識の情報交換は、人の動物的性質のバーストを強化するだけなので、待ってはいけません。

そのような情報接触のために、生きている人は、憧れ（「重さ」）、悲しみ、「彼が生きていれば、これは私には起こらなかっただろう」または「もし彼が生きていれば、これは起こらなかっただろう」という考えに取りつかれているという感覚を示し始めます。彼女は生きていました」、「彼は私がこれをすることを許可しませんでした」など。実際、そのような場合、動物的性質は、失われた愛の概念の下で、この人の消費者の欲求（たとえば、自分の重要性を認識したいという欲求）を単に覆い隠し、過去への憧れを引き起こし、差し迫った死への恐怖を生み出します。

記憶者自身がこれに苦しんでおり、動物的性質からの支配的な思考と、彼が覚えているサブパーソナリティの両方を自分自身に示しています。サブパーソナリティにとって、この接触は一方では生命を与える力との接触です。しかし一方で、そのような生きた「チャージ」は、自分の非アクティブな立場と絶望の状態の意識を明確にします。そして、これは以前のパーソナリティ（サブパーソナリティになった）にさらに大きな苦痛を与えるだけです。



さらに、動物の性質からのそのような挑発は、このサブパーソナリティだけでなく、それが位置するエネルギー構造の人のパーソナリティ。

おそらく、生きている人とのそのような接触がサブパーソナリティにとって実際に何を意味するのかをよりよく理解するために、比喩的な例で説明します。暑い砂漠を歩いている人を想像してみてください。彼はすでに運命づけられています。彼はほとんど死の危機に瀕しています。彼は痛みと耐え難い喉の渴きに苦しんでいます。すると空から一滴の水が彼の唇に落ちた。それは彼の喉の渴きを癒すことはありませんが、一方では人生への誤った希望、または過去の人生の記憶を与え、他方では死がすでに避けられないという明確な認識を与えます。この認識は、運命にある人々の苦痛と苦しみをさらに激化させます。

アナスタシア： はい、確かに、私たちは何をしているのかわかりません。実際、私たちの記憶では、以前の親戚に苦しみをもたらし、それから私たち自身がこれに苦しんでいることがわかりました。歴史を振り返ってみたら?これは、歴史的、公的な人格がどのように苦しんでいるのか、あるいは生きている人々が1世紀以上、さらには何千年もの間覚えているサブパーソナリティですか?そのような大量の記憶が彼らの苦しみをさらに悪化させることが判明しました。

リグデン： もし人々が動物的性質の支配下にあり、感情的な強さを投資してそれらを覚えているなら、もちろん、これは覚えている人だけでなく、彼らにも大きな負担をかけます。しかし、彼らはここで自分たちの生活を送っているので、そこで値するものを、そこで値するものを得ました。



そうですね。世界の人々ですが、人類における動物的性質の支配について:誰が誰を支配し、いつ誰と戦争したのか。教えてください、次の現象はどのように説明できますか? 私は、シベリアのシャーマンに関する信念や事例についての民族学に関する著作を読みました。強いシャーマンは、100年ごとに3回、死後、親族に再埋葬を求めました。人々はこの情報を世代から世代へと伝えてきました。何らかの理由で再埋葬が行われなかった場合、シャーマンは彼の子孫の生きている世代に目に見えないように「現れ」、災害を脅かし始めました。新しい世代がこれに反応しなかった場合、この地域の人々は、伝染病、家畜の損失、自然災害など、さまざまな不幸に見舞われ始めました。さらに、これは「良い」シャーマンと「悪い」シャーマンの両方に等しく当てはまりました。「良い」シャーマンについても言及されました。彼らの記憶に敬意を表して、彼らは災害や個人的な逆境から彼らを守りました。

リグデン: ここでは、概念を分離する必要があります。この世界には、物質世界のアニマルマインドからの力と、精神世界からの力があります。基本的に、自然の力に関する現象は、アニマルマインドの行動を指します。人のサブパーソナリティ(パーソナリティとして、それ自体で超能力を開発し、人々に一定レベルの影響を与えた生涯の間に)に関しては、それは人々の動物的性質の急増を引き起こすことしかできず、主に彼らを通して影響を与えます情報交換による潜在意識。サブパーソナリティは自我、自己同一化を保持します。彼女は素材に影響を与える経験、知識、スキルを持っています。



平和ですが、生命力はありません。人々の間に災いをもたらすのは決して死んだシャーマンではなく、この信念に対する人々自身の信念です。これは生者の力によるものです。さらに、力の活性化の瞬間、シャーマンが生涯にわたって働いた兆候、特定の地域の精神を忘れてはなりません。でもそれは別問題 この会話のためではありません。

アナスタシア: サブパーソナリティはすべての記憶を保持していることがわかりました。

リグデン: はい。これらは妥当な構造です。そして、彼らはその後の生まれ変わりに非常に怯え、苦しめられています。これは、一方では彼らの苦しみを長引かせ、他方では最終的な死を近づけます。したがって、生きているパーソナリティが魂と一体になるために、人生で可能なことも不可能なこともすべて行なうことが非常に重要です。パーソナリティの生涯における動物的性質の課題は、それが思考、欲望、行為、行動などであれ、何らかの方法でそれをスピリチュアルな性質から遠ざけることです。地上と死。そして彼にとって、サブパーソナリティの同様の症状を含め、あらゆる手段が良いです。動物の性質に善はありません！それは致命的です。したがって、彼の意図は、他の知的物質と同様に、他の物質に対する力を獲得し、その生命力を自分の目的のために使用することです。動物性は、パーソナリティの生命ベクトルの方向を変え、スピリチュアルな性質から気をそらすために、可能な限りのことを行ないます。何も避けずに使う あなたのすべての武器。そして、これは主に攻撃、攻撃です。これは、精神的に「噛まれた」、感情的に「打たれた」、または別の「甘い」イリュージョンで誘惑するには簡単です。



これは、精神的に「噛まれた」、感情的に「打たれた」、または別の「甘い」幻想で誘惑するだけです。それは常に人に新しい態度を課したり、古い態度を活性化させたりします。動物性とは死人の独裁だ！

アナスタシア：死んだ男の独裁について頭に釘を打ちました。彼らが言うように、すべての死者にとって地球は棺桶です。この物質世界で人が望むものはすべて、本当に一時的なものであり、死に至るものです。

リグデン：動物の本性は、狡猾なトリックで変化します。人が自分自身を理解していない場合、それはこの人生で彼にとって非常に困難であり、その後さらに困難になります。そして重要なのは外部条件ではなく、人間の選択です。人生はあっという間に過ぎていきます。そして、人間の存在における最悪のことは、肉体の死ではありません。最悪のことは、人がこの世界の幻想的な忘却の中で人生を送り、何も理解していなかったとき、彼の人格は精神的に発達しませんでした。ここであなたは一生苦しみ、そこで何世紀にもわたって苦しみ、同時に何も変えることができなくなります。

サブパーソナリティにとって、そのような状況は、立ってガラスの後ろにある非常に多様な食べ物をたくさん見ているが、それを手に入れることができない空腹の人の状況に等しい。

彼女はとても近くにいるようですが、ガラスは彼女がそれを取るのを防ぎます。

シリーズのサブパーソナリティのエゴイズムからの質問が流れ込み始めたのはその時でした。「私ってそんなに良かったの？」はい、彼は永遠の代わりに瞬間的な喜び、物質的な価値を選んだからです。はい、彼の考えでは、彼は密かに他人に対する力を切望していたので、彼は彼の動物を喜ばせました。



最初、彼は良心に反する行動をとった。はい、毎日彼は自分の自己中心主義についての行為と考えの両方で無駄にしたからです。そして、指を突くところはどこでも、短い人生のすべての日にそのような「理由」がたくさんあります。

アナスタシア: はい、悲しいです。しかし、多くの人は、物質の世話を除いて、どのように違う生き方ができるか想像もしていません。人自体は悪くなく、同じ動物性の足枷に苦しんでいますが、これらの苦しみは、社会に課せられたステレオタイプの「理由」と「答え」に起因しています。時間」、「これは私にはそのような運命があります」、「あなたは運命から逃れることはできません」。つまり、彼らは自分自身の変容と運命に関して受動的に行動します。逆に、他の人はアクティブですが、間違った方向に進んでいます。私は生まれながらのリーダーシップの資質を持っている人に会ってきました。子供の頃から、彼らは自分自身の力を感じ、人々に影響を与え、特定の出来事を予見することができます。ところで、この人間本来の力をどのように説明できるでしょうか。これは彼の前世と何か関係があるのでしょうか？

リグデン: もちろん、ケースは異なります。しかし、私たちが人の生来の贈り物について話している場合、これは、この魂の最後の化身で、人格が精神的に発達し、それ自体に取り組み、この世界を理解することで特定の結果を達成したことを意味します。つまり、精神的な発達には大きな飛躍がありましたが、これはアーリマンのシステムを離れ、再生の輪から抜け出すには十分ではありませんでした。しかし、新しい人生では、そのようなを持つ新しいパーソナリティ。



魂は他の人よりもいくつかの利点があります。人は大きなエネルギーの可能性を持って生まれます。これを正しく使用すれば、パーソナリティのスピリチュアルな成長が加速し、魂と融合して再生の輪から抜け出す本当のチャンスが得られます。

そんな才能のある人はたくさんいます。これらの人々は、他の人とは違うと感じています。子供の頃から、彼らは非常に社交的で、リーダーシップの資質、人々に影響を与える生来の才能、出来事に対するある種の感受性、微妙なエネルギーの現れなどを持っています。確かに、大きな可能性を秘めた別のカテゴリーの人々がいます。子供の頃、彼らは自分自身を見つける条件のために、外の世界から閉じて、自分自身で閉じて成長します。そしてその後、大人として、彼らは全力で自分の可能性を明らかにします。

アナスタシア: 明らかに、そのような贈り物は大きな責任ですか？

リグデン: はい、まず第一に、本人のために。偉大なスピリチュアルな可能性を持って生まれた人は、同じ強い反対が動物の性質から来ることを理解する必要があります。

これらの点を説明する知識が社会にない場合、動物の性質の形式で複数の思考パターンがトラップのように配置されている場合、これらの才能のある人々は、社会の優先順位に従って、独自の力を使い始めます。動物的性質のプログラムの実施。



彼らは、一見難しい問題が簡単に解決できることに気づきます。彼らは人々に影響を与えることを理解しており、どのチームでも簡単にリードできます。しかし、自分自身についての適切な知識がなければ、原則として、動物的性質のプログラムを実装するという利己的な目的のために、または一般的に動物の心のプログラム内に存在するシステムのために、この贈り物を使い始めます。したがって、彼らは物質が好きで、より多くの場合、それに有利な選択をし、人生でこの方向性を発展させます。したがって、動物の心は彼らを欺きます。人には動物的性質の活性化があり、動物の精神を支持してこの生来の力を消費することで、物質の代わりに人生のスピリチュアルな方向性を微妙に置き換えていました。そのような才能のある人々が、動物的性質の強い反対を克服して、たとえば精神的指導者になることは非常にまれです。（人々に対して宗教的な力を持っている人ではなく、真に精神的な道をたどり、本当に他の人を助ける人を意味します） 物質の囚われからの意識の解放において、精神的な発達において）。そして基本的に、彼らは自分自身のキャリアを築き、権力を獲得し、物質的な価値を蓄積するなどのために、この贈り物を使用します。

原則として、そのような人々は社会のリーダーになります。誰かが公人、誰かがビジネスマン、誰かが犯罪当局などです。彼らの意見では、高等教育を受けていない明らかに「知的に弱い」人が大きな影響力を持つ金融「帝国」全体を構築するとき、彼らは単に他の人を驚かせ、これが人生でどのように、そしてなぜ起こるのか理解していませんか？



しかし実際には、この人は、彼の動物的性質が絶え間なく支配されているため、物質的な優先事項に向けられた、大きな内なる可能性と狭い意識を持っています。そのような人が視野を広げ、人生で精神的な優先事項を選択した場合、つまり、内部の動きの方向をマイナス記号からプラス記号に根本的に変更した場合、彼は精神的な発達において多くのことを達成できます。意識的に自分自身をより良い精神的な側面に変えることで、彼はこの人生の間に精神的な解放を達成し、輪廻転生から抜け出す本当のチャンス以上のものを持っています。ちなみに、すべての生きている人にはそのようなチャンスがあります。ここでの決定的な役割は、人の個人的な選択、決意、自分自身への取り組み、そして精神的な目標からの粘り強さによって果たされます。そのような変化は、人の内面の変化だけに関連していることを強調します。人が内部を変えずに外部条件を変えようとすると、意味がありません。

アナスタシア：おそらく大多数の人は、自分と一人でいることが好きで、時々、日常の問題に圧倒されていると感じます。彼らは明らかに、彼らが人生で達成したことは本物ではなく、「魂が望んでいた」結果ではなく、これはすべて平凡で表面的なものであることを理解しています。しかし、そのような才能のある人々に対する力がアニマルスタート？

リグデン： それは起こります。しかし、そのような場合、これらの人々は本当の利己的で攻撃的なミュータントであることが判明します。そうでなければ、これらの生き物ははありません。



あなたは名前を付けることができます。サブパーソナリティが一度にかなりの精神的な高みに到達でき、ニルヴァーナ(再生の輪からの最後の出口)への一歩しかなかったとしても、これは次のパーソナリティがこれを取ることをまったく意味しないとだけ言っておきましょうステップ。人生では、原則として、反対のことが当てはまります。そのようなパーソナリティ(スピリチュアルに発達したサブパーソナリティを持つ)は、幼児期であっても動物の精神からより細心の注意を払われるためです。その結果、これらの人々は、精神的な方向への発展を続け、魂との最終的な融合、精神的な解放(涅槃への出口)を達成する代わりに、この贈り物、以前からのこの貴重な「遺伝」を浪費します。パーソナリティは、動物の性質によって課せられた幻想に対して強い力を持っています。その結果、スピリチュアルな観点から想定される飛躍の代わりに、人は後退し、それによって彼のパーソナリティである魂に負担がかかります。当然、彼は再び生まれ変わりの輪に陥りますが、はるかに悪い状況でのみです。実際、このパーソナリティは死を生き延び、サブパーソナリティになり、その後、彼の「致命的な過ち」のために、新しい体で非常に長い間苦しみ、苦しむ必要があります。

アナスタシア: つまり、彼らはこの力を永遠への突破口に費やすのではなく、非常に迅速に過ぎ去るこの「死の瞬間」に自分の種類に対する力に費やします。

リグデン: はい、靈的永遠性から一歩離れて、死すべき物質を優先するのは愚かなことです。いずれにせよ体は死ぬでしょうが、あなたは何を残しますか？



あなた破壊が避けられない前の合理的な物質構造への恐れは、人が動物的性質から来て、神と彼の世界に反抗する主な理由です。同様の対立は、精神世界と物質世界が衝突または交差する場所に現れます。この現象は、一部の宗教では、大天使と墮天使の戦いとして説明されています。しかし実際には、これらはすべて関連付けです。これは、どこかの誰かが人間の魂のために天の戦いを繰り広げているという意味ではありません。これはすべて、すべての人や戦場で今ここで起こっています-彼の意識、思考、感情、欲望。精神的または物質的な面での彼らの優位性は、勝利または 魂のための瞬間的な戦いにおけるパーソナリティの敗北、そして一般的な結果、 それと融合して永遠に移る権利のために。戦いに負けることは恐ろしいことですが、戦争に負けることは悲惨なことです。

なぜ人は神を恐れ、次に愛し、そして憎むのでしょうか?なぜなら、魂の生まれ変わりの繰り返しのおかげで、誰もが無意識のうちに、霊的な世界が存在すること、神が存在すること、神に仕える霊的な存在が存在することを知っているからです。伝説に登場する最後の一人は「天使」と呼ばれる。彼らだけが、宗教の連想カテゴリーで人々が想像する方法とは異なります。これらは、三次元世界とは異なる、別の次元の存在です。やはり、その現実は言葉では言い表せません。その世界をそのように移そうとする試みは、人の思考によってこの世界と連想的に結び付けられ、したがって現実を歪めます。

そして、この情報のその後の転送も動物の性質の支配を通じて行われる場合に、繰り返し遭遇したあなた自身。



これで、どのような「伝説」が発生し、どのような詳細が得られるかを見ました。たとえば、「神の裁き」の物語を考えてみましょう。確かに、実際にはすべてが単純です。物質的な体の死後、毎回、人(より正確には、サブパーソナリティを持つ人格と魂)は、いわば精神世界とクマの代表者と「会議」を行います。生きた人生の答え、その後、この人のさらなる運命が決定されます。したがって、神の裁き、死後の人間の運命などについての世界の人々の間の伝説。しかし、どのようにしてすべてがひっくり返され、同じ宗教、異なる信念で提示されるのですか?!

このすべての誤解は、パーソナリティが生きている間、サブパーソナリティの記憶や経験にアクセスできず、その人が自分自身についての真実をすべて知らないためにも発生します。

過去の人生の記憶がブロックされた新しいシートからのように、人の人生(パーソナリティ)が毎回始まるわけではない場合、選択の条件はありません。人々が意識的に魂のすべての再生と、彼らのサブパーソナリティがまだ経験している信じられないほどの苦痛を覚えていたとしたら、私はあなたに保証します、すべての人はずっと前に天使になったでしょう。しかし、残念なことに、前世の記憶はブロックされています。人が自分のパーソナリティの独立した意識的な精神的成熟のために、再びこの世界に飛び込むことを余儀なくされるたびに。

しかし、新しいパーソナリティの意識のそのような「白紙の状態」がなぜそれほど良いのでしょうか?まず第一に、サブパーソナリティの以前の「メリット」に関係なく、パーソナリティの寿命中に支配的な選択を決定する優先順位を再規定するという事実によって。



つまり、人が自分の人生のベクトルを根本的に変えた場合、スピリチュアルな性質のは、支配的な思考をスピリチュアルなチャンネルに移し、彼の意識を訓練します。そうすれば、彼(パーソナリティ)は彼自身と彼の魂を彼の人生で救う本当のチャンスを得るでしょう。確かに、同時に、彼は質的に自分自身をより良く変え始め、精神的な世界に住み始めます。さて、この人生で人(パーソナリティ)が再び物質的思考の束縛に従事したい場合、動物の性質の考えが常に彼を支配します。その場合、そのようなパーソナリティはサブパーソナリティになる方法しかありません。魂の解放を目的とした力であるため、人は物質に対する果てしない欲望に浪費します 平和。

物質的な支配者の人生と精神的な支配者の人生の基本的な違いは何ですか?心に支配的な物質を持っている人は、物質世界に住んでいて、たまにしか魂について考えません。靈的な修行をしようとしてすることさえあるかもしれません。後者は、原則として、人々への影響力を高めるための「超大国」の開発を助ける趣味または手段の1つとして彼によって考えられています。同時に、もちろん、人は自分の動物の性質を飼いならして、自分自身の仕事にあまり悩まされません。しかし、靈的な優位性を持って、その新しい性質で、パーソナリティは靈的な世界に住み、神への愛を持ち、常にそこにとどまります。そのような状態では、人はすでに動物の性質のすべてのトリックをユーモアを持って見ており、その性質を知っており、彼のさらなる攻撃とその後の行動を予見しています。そして、人は彼らに屈しないので、彼らはもはやパーソナリティに負担をかけることはありません。



そして物質世界とは触れるだけで、体の中に存在し続け、善行を行います。

アナスタシア： はい、確かに、恋に落ちている人は誰でも神の中にいて、神は彼の中にいます。なぜなら、神は愛だからです。

リグデン： 真に聖なる男はこれによって生きています。

アナスタシア： サブパーソナリティについての知識は貴重ですが、人にとっては、この人生で自分自身と魂の完全な精神的解放の状態に発展し、致命的なサブパーソナリティになる時間がないという恐怖を引き起こす可能性もあります。

リグデン： まず第一に、利己心、つまり動物の性質だけがそのような恐怖を引き起こすことができます。第二に、あなた自身が、グループの他の全員と同じように、いわばゼロから知識を受け取った方法を目の当たりにしました。しかし、彼はこれらの真実の粒子に染み込んでおり、精神世界との結合を望んでいたため、精神世界が彼を受け入れるために、彼自身に責任のある仕事を2年しかかりませんでした。そして、これは、グループの他のメンバーと比較して、彼がいたすべての不利な生活条件にもかかわらず。だからそれは願いです！そして第三に、神への愛が人の人生に広がるとき、彼の目標を達成する途中で恐れは消えます。靈的行為の本質を理解するための比喩的な例を挙げましょう。

ある人が祖国を守るために戦争をしていると想像してみてください。彼は彼女をとても情熱的かつ深く愛しているので、彼女のために全力で戦い、勝利を目指し、祖国の解放という1つの目標のために可能なことも不可能なこともすべて行う準備ができます！祖国の愛のために、母国のために彼は死ぬことができるのです。



彼女、彼は自分の体に何が起こっても気になさへん。主なことは、彼が経験する感覚であり、それが彼を戦いに導き、勝利を収めさせます。そして、彼が敵に捕らえられ、そこで苦しむ運命にあることを知っていても、この愛の気持ちは彼を離れることはありません。彼は眞の愛の感覚で満たされているからです。彼はそのために生き、そのために死ぬのです。だから全ては人による! 彼が毎日生きている神への眞の愛で満たされているなら、彼に疑いの余地はありません。彼の目標は 1 つだけです。彼の魂を解放するための勝利です。

アナスタシア: はい、何としても勝利。

リグデン: つまり、人の魂の救いは、人の人生の主なものであり、彼の主な目標であり、彼の存在の意味です。魂の救いは、物質的な世界ではなく、精神的な世界への眞の奉仕です。あなた自身を救い、あなたの周りの何千人もの人々が救われます。そして、この問題には複雑なことは何もありません。欲求があるでしょう。初步から始めるだけです -自分で作業してください。脳はコンピューターのようなものです。脳に何を入れると、結果が得られ、どのような目標を定義し、どのプログラムをインストールすると、その方向に働きます。彼の記憶は生涯を通じて、さまざまな連想感覚、アイデア、思考、感情などの経験を蓄積します。これらの関連付けは、主に周囲の世界から受けた印象に関連付けられています。

スピリチュアルな道をたどる現代人にとって、絶えず視野を広げ、本を読み、さまざまな情報に精通し、知識ベースを補充することが非常に重要なのはなぜですか?



異なる方向にこの場合、彼はより豊富な連想配列、改善された記憶、および世界の3次元認識を持つためです。結局のところ、連想シリーズが引き出される潜在意識はパントリーのようなものです。一度入れたものは、後で見つけることができます。脳の物質構造は、彼女が生前に受け取った画像（ホログラム）を保持しています。たとえば、人が視覚や聴覚を通じて新しい情報を受け取ると、脳の特定の領域でニューロンが興奮します。脳は情報を処理し、特定の、たとえば、すでに明らかな「情報レンガ」のカテゴリの興奮があります。脳は、これまでの知識や経験に基づいて「それが何であるか」を認識します。これには、音、感覚、知識などすべてが含まれます。 等々。比喩的に言えば、脳はコンピューターの検索エンジンのように機能します。たとえば、「優しさ」という単語を入力すると、この単語を含む情報を含むすべてのファイルが返されます。一般に、脳はパントリー潜在意識の中で連想的に類似しているものを探しています。同時に、その特性を備えた新しい情報も記憶し、パントリーに補充します。

人が自分の知識を向上させ、分析能力を発達させ、マスメディアが彼に提示する「既成の」ものだけに自分自身を制限することに怠惰である場合、その人は司祭や政治家が自分の意識を通してコントロールする理想的な対象になります。彼自身の怠惰のために、人は故意に知識の範囲を狭めます。脳の連想が貧弱な場合（そして、ほとんどの場合、物質的な優先事項にループしている場合でも）、人は精神的に弱くなり、コントロールしやすくなり、騙したり刺激したりしやすくなります。



いくつかの設定。なぜ実際に司祭、政治家は人を狭められた意識の状態にしようと努力しています。この状態では、制御するのに便利です。さらに、これには、特定の関連付け、ロールモデルを意識に入れるだけで十分であり、人は従順な人形になります。

アナスタシア： そうです。人がすべてがどれほど悪いかを示した場合、彼は考えの中で悪いことをスクロールし、思わずそれに注意を集中させ、否定的な状況を復活させて実現し、対応する関連付けを思い出します。好きなものは好きなものを引き寄せます。人が良いことを示し、人生の精神的な側面に注意を向け、優しさ、道徳、文化、礼儀正しさ、精神的な考え方のより多くの例を示す場合、彼はすでにこの流れで彼の世界観を形成します。

リグデン： 人は本質的に示唆に富み、最初は模倣する傾向があります。しかし、これらすべてに加えて、彼らは常に何か新しいことを目指して努力しており、時には彼ら自身が何を知らないこともあります。ところで、なぜ人は常に何かを欠いているのですか、そして彼は新しいものを探して知識を持っていますか?魂が彼に彼女の生まれ故郷の精神的な世界を探すように促すからです。そして、サブパーソナリティの形をしたさまざまな「光フィルター」、意識を支配する動物の性質が、検索方向のベクトルを歪めます。物質的な脳の連想的な認識は、人の精神的な探求にも多くの問題を引き起こします。結局のところ、精神世界は物質世界とは異なります。



そして、人がここで知覚するすべてのものは、彼らが言うように、五感を通して、これは、物質世界の三次元次元の取るに足らない部分の認識に過ぎず、連想的な物質的思考のプリズムを通過した。つまり、人間は三次元世界の範疇と連想の観点から考えて、精神世界とは何かを理解しようとします。

アナスタシア： 物質的思考のプリズムを通して？本質を非常に正確に表現した良い声明。

リグデン： はい。ご存知のように、人の誕生から、彼の脳は動物性の周波数に同調しています。これは、後でこれらの設定を変更できないという意味ではありません。多分。いくつかの意識状態がプログラムされています。しかし、変化は本人の個人的な欲求と願望によってのみ可能です。ほとんどの場合、人々はこれらすべてについて知らないため、生活の中で他の知的な問題と同じように行動します。人が世界の認識を拡大する知識に出会うとき、最初に働くのは動物の性質です。大まかに言えば、それは「上昇」し、彼に対する力を失わないように、最初の人間の悪徳であるプライドを人に示します。彼はすでにすべてを知っていて、それができるようです。しかし、彼が知識に飛び込むと、これは事実ではなく、そのような最初の判断は誤りであったことがわかります。

アナスタシア： はい、プライドは多くの人々の惨劇であり、誰もが多かれ少なかれそれにさらされています。少なくともより良くするためにには、すべての人がこの秘密の敵を目で知ることが重要だと思います。



あなた自身を理解し、あなたの性質を理解してください。あなたはかつて会話の中で、プライドは人間のアニマルマインドの導きの現れであると言いました。

リグデン: そうですね。人が自分の「私」を形成する思考が、精神的な性質の意志と動物的な性質の意志のどちらかを選択した結果であると考えるのは、非常に難しいことです。これを理解することは、子供の頃から消費者の優先順位に対応する社会に住んでいる人々にとって特に困難です。たとえば、唯物論的心理学と関連する価値観の優先順位。また、物質世界の価値の支配の原則に基づいて構築され、精神的な仮定で覆われた、1つの宗教的、哲学的、またはその他の概念の枠組みによって意識が制限されている人々にとっても、それは容易ではありません。

人間の思考の多くは、まさにプライドによって動機づけられています。プライドは気持ちです。そして、感情そのものが強さ、エネルギーであり、支配的な思考が生まれる基礎です。思考がどのように「着色」されるかは非常に重要です。つまり、動物的な性質の欲求によって、または精神的な性質の欲求によってです。結局のところ、たとえば同じプライドの感覚がプライドに変わり、したがって自己愛の感覚に変わり、他の人よりも自分を高く評価するか、自分の行為に対する高貴で内なるプライドに変わるかによって異なります神のために努力する精神的な道で。

しかし、ここでおそらく、人間の性質、彼の深い願望の起源、そして物質の世界へのそれらの投影について少し掘り下げる必要があります。人の人生では、どんな感情を持っているかが非常に重要です。



彼は自分の選択によって生成し、生涯にわたって蓄積します。なぜ？この荷物、この情報、または比喩的に言えば、この「私」（人格）で、彼は身体の死後「境界」を超えて、彼のこの選択に責任を負わなければならないからです。

では、感情が生まれるメカニズムを考えてみましょう。感情の主な衝動は、魂から来る深い力から来ています。魂は非物質界からの非常に強力な粒子であるため、常に1つの動きのベクトル、1つの欲求を持っています-この世界から抜け出し、人々が精神的な世界、神の世界と呼ぶ独自の世界に行きたい。この魂からの最初の衝動は、深く強力な感情を生み出す基本原理です。この力が意図的に精神的な方向に使用される場合、過去に關係なく、人は人生の再生のサイクルを離れるだけで十分です。

そのような深い感情が生じると、私たちの物質的な脳がこの力に反応し始め、それに応じて、意識を通じてこれらの感情を独自の方法で解釈します。つまり、彼の協会に導かれた人は、彼の通常の思考パターンに従って生じた感情を「解釈」し始めます。しかし、この段階では、人の世界観が非常に重要な役割を果たします。これは、子供の頃から彼の意識に埋め込まれてきたものであり、彼の人生経験、形成された行動パターンと考え方（メディアのおかげを含む）は、彼の潜在意識に根付いており、彼の個人的な視野も同様です。知識、思考を制御し、注意を集中させる能力。



支配的な世界観から人の能力は、魂から発せられる力がどこでどのように使われるかによって異なります。

結局のところ、この内なる単一の力（深い感情）は、多くの場合、支配的な思考のプリズムを通して意識によって単純に押ししつぶされ、歪められます。

アナスタシア： このプロセスは、たとえば太陽の光線が三角形のガラスプリズムで屈折する方法、つまり、光線が多色の虹のスペクトルに分解される方法と比較できますか？

リグデン： その通りです。このプロセスは、1つの単一の波が異なる長さの波に分割されるときの光の分散と比喩的に比較できます。その関連の蓄積された経験を持つ意識は、単一の力を分割し、それを多くの小さな構成要素に導く同じプリズムのようなものです-この力に陰を与える思考。人の心に支配的なものがあるのは、思考の色であり、欲望です。動物の性質からの思考は、この力のおかげで、幻想的に欲望自体を非常にカラフルで魅力的なものにします。つまり、支配的な思考 ひとつの深い感情の力を人間の欲望の実現に向けます。

アナスタシア： 彼らが言うように、強さは強さです。彼がこの力を指示する人の選択は重要です。



その通りです。同じ誇りや憎しみを感じてください。そのような現代のことわざ：「愛から憎しみへ一歩」。神経生理学者は、憎しみや口マンチックな愛の感情が人に現れると、「何らかの理由で」脳の同じ部分が活性化することを確認しましたが、これらの感情には根本的な違いがあります。科学者が支配的な思考の基礎となる力を科学的に理解するようになると、彼らはこれが起こる「理由」を理解するでしょう。 実際、すべてが単純です。結局のところ、重要なのは外見ではなく、誰かが男性の誇大妄想に触れたり、気分を害したり、言ったり、何か間違ったことをしたという事実ではありません。ポイントは、最も「気分を害した」人の内面の感情だけです。彼の意識を支配する動物の性質が同じ深い感情の力を使用し、それを他の思考に色付けするだけです。 すべてを否定的な状況として提示する想像力。さらに、彼はこの架空の「描かれたプロット」を、そのような状況で課せられた行動モデルから人が学んださまざまな関連付けで補足します。ここが争点です。

動物の性質が単に概念をゆがめたり置き換えたりすることができます。たとえば、ある人が「私は他人のために何でもするが、誰も私のために何もしてくれない」と不平を言い始めます。これは単なる代用です。動物性は消費者です。靈的原則は恩人です。恨みの根源をたどれば、それは自分の中にある。誰かに対する外部の恨みは、あなたの動物的性質を失った結果です。彼女は、自分の前でそもそもあなたが間違っていたと言います。自己不信と疑いは、真実を知らないことから生じます。真実があるからといって、自分の内面を見ようとしないことによる真実の無知。真実は生か死か。



動物の本性から発する真実への恐怖は、それを歪め、遠ざけようとなります。しかし、人間がどのような選択をしようとも、それは避けられません。ダンジョンでさえ明るい魂の自由を奪うことではなく、死に運命づけられた動物を地上の力で解放することはできません。

アナスタシア： 実際、人々は精神的な成長を目的とした紛争状況で無駄に力を浪費していることが判明しましたか？

リグデン： さらに、彼らは愚かにもそれを浪費し、動物の性質を選択します。そのためには、後で答えを持たなければなりません。魂のビーコンへ。そして、動物の性質、物質の動物の心は、魂のビーコンの光から永遠から気をそらすために、一時的で重要でないもので心を占有しようとする、すべてに浸透する敵と比較されました。結局のところ、物質の錯覚への中毒は地平線を狭め、心をポートの問題に限定し、その端から1メートル以上伸びません。そのため、人間の敵は、人をコースから外そうとします。ただし、幻想の海とポートでの短い滞在にだまされないでください。人が航海を終えると、船は一時的なものとして海岸に残され、もはや旅には必要なく、腐敗と破壊の対象となります。燃えているろうそくが消えるように、目に見えるものはすべて消えて無になります。目に見えるものに執着しない人だけ、魂の世話をします。賢者はこう言いました。毎時毎分を守り、あなたの魂の救いのためにあなたの人生を使ってください。



アナスタシア: 目に見えるものに執着していないだけが魂を気にはします。しかし、それは本当にそうです。人々は、目に見えるものによって思考の中でさまざまな方法で誘惑されます。彼らの中には、深い感情を通して彼らが知っている目に見えない側面の発見は、魂の世界を感じるだけでなく、物質的な世界で何よりもそれを望むのに役立ちます。私はスピリチュアルな道を歩み、動物的性質をあきらめない多くの人々に会ってきました。はい、彼らはある時点で彼に負けることがあります。その後これに気づき、彼の同様のトラップを回避して貴重な経験を積む。そのような人々は、動物の性質の攻撃から身を守る方法と、その症状を防ぐ方法、それらを認識し、自分自身の否定的な状況の発生を防ぐ方法をよく尋ねます。

リグデン: 動物の性質の攻撃のメカニズムとその性質を知り、自分をコントロールする方法を学ぶ必要があるだけです。人が精神的な波に乗っているとき、自分自身の仕事、精神的な実践に従事しているとき、彼は意識の状態が拡大していることに注意してください。同じ瞑想の中で、彼は自分の意識がいわば、世界の知覚の通常の境界を超えていると感じています。そして最も重要なことは、人は魂の外側から、つまり、まるで彼の内側から、感情の深みから、彼の周りの外界に発する喜び、幸福感を経験することです。脳が連想的にこの感情を、この世のものとは思えないほどの幸福、喜び、自由の感情として認識します。意識は明確になり、正確になります。地球上のすべての問題は、この家の感覚、計り知れない平和、永遠に比べれば些細なことのように思えます。したがって、気分は高揚して明るくなり、行動は力に満ちています。



今動物の性質に襲われたとき人に何が起こるかを分析してみましょう。

動物の性質の攻撃は異なり、彼らが言うように、敵は目で知る必要があります。まず、「人生は成功しない」（「犠牲者」の立場）という一般的なスローガンの下で、恨み、自分自身への不満、自己批判に基づく動物性の荒々しい攻撃を考えてみましょう。第一に、この動物性の荒々しい攻撃は、外圧として特徴付けることができます。この圧力が物理的なレベルでさえ感じられるスピリチュアルな性質からの観察者の位置から注意深くたどると、まるで側面からの圧力のように、外側から、上から下まで正確に感じられます。頭または背中から胸まで。動物の性質によるこのような荒々しい攻撃の結果、文字通り短時間で、人は活動的な個人から受動的な個人に変わり、方向感覚を失います。彼は土台、土台を失っているようです。彼の心の中で、否定的なイメージ、考え、とてつもない問題が突然現れてスクロールし始め、それが自分自身に注目を集めて集中させます。 これが起こると、人は不満の状態、感情的な経験を経験し、それは主に標準的なパターンに従って現れます。胸の中で何かが圧迫されているかのように、内部は悪くなり、不快になります。無関係な考えが常に同じ痛みを伴うトピックについて考えるよう気を散らしているため、一部の作業に集中することは困難です。彼らが言うように、「心痛」または恨みが生じたり、悪い考えが抑圧されたりすると、が始まります。



自己批判、自己憐憫。否定的な考え、連想、感情のもつれが現れます。一般に、動物の性質によって引き起こされている問題に注意が向けられています。人間の意識は、この問題の点まで縮みます。彼は彼女だけを見始め、それ以上のものは何も見ません。たとえば、人はテレビの電源を入れて、これらの考えから気をそらそうとします。しかし、意識は意図的にしがみついているようで、その深刻な問題に影響を与えるプログラムやプログラムの断片に注意を向けています。または別の例として、人はこの状態にあるときに、抽象的なトピックについて誰かとコミュニケーションを取り始めます。しかし後で、彼は意識がまだ無意識のうちに会話を同じとてつもない問題のチャネルに変えていることにさえ気づきません。そして抑圧された意識状態はアニマルスタートによる残酷な攻撃の始まりです。

アナスタシア: つまり、いわば人は一方的に状況に反応します。

リグデン: そうです、世界の絵の全体的な認識は単に消え、意識の狭窄が起こります。人は何かの問題に夢中になります。比喩的に言えば、彼はそれ以前にさまざまな色を見ていましたが、動物の性質の攻撃の間、彼は1つの黒い色だけに焦点を合わせ、残りは彼のために存在しなくなり、彼はそれらに気づいていないようです。

動物の性質のそのような荒々しい攻撃の意味は何ですか？その目標は、パーソナリティと魂とのつながりをブロックすることです。そのため、外部から内部への一種の圧力があります。



そのような攻撃の間、比喩的につまり、魂からの信号は純粹な形でパーソナリティの意識に到達せず（スピリチュアルな実践で起こるように）、「汚れたフィルター」の活性化によって大幅に歪められます。

基本的に、動物の性質は人を自分の弱点に引っ掛けことを知っておくことが重要です。結局のところ、それは人のすべての弱点、彼の過去と現在、彼がかつて注意を向け、この世界のこれまたはその祝福を自分自身に切望していたすべての秘密の夢を知っています。はい、そして、人。またはむしろ彼の新しい人格の精神的な道に負担をかける欲望は、再び空の場所には現れません。基本的に、これらは、周囲の社会を支配する、物質的なバイアスを伴う伝統的なステレオタイプの態度です。そのため、ほとんどの人は、自己中心主義、ねたみ、計り知れない貪欲、自己憐憫などの動物的性質に支配されています。

アナスタシア： はい、人は非常に急速に動物性からの刺激に感染します。

リグデン： ちなみに、動物の性質の攻撃の間、人は自分自身を「善人」の鍵でしか見ないことに注意したいと思います。彼らは、彼はあらゆる点で「超」であり、残りはすべて「忍び寄る野郎」に他ならないと言います。人がそのような状態にあるときは、彼の否定的な性質の現れのために彼自身がすべての責任を負っていることを彼に直接伝えてみてください。彼の動物的性質はすぐに積極的に自分の立場を守り始めます。事実、そのような状態にある人は、自分の性格に関するそのような説明やコメントを意識的に認識していません。なぜこうなった？



まず、今の意識が狭くなっているせいで、自分のエゴイズムに執着している。結局のところ、人にとってこの状態では、さまざまな形の「私、私、私」を除いて、何も存在せず、誰も存在しません。

アナスタシア： はい、何か、でも誰かに責任を負わせ、外部の理由を発明する 動物の性質は、巧みに理解する理由を与える方法を知っている、と彼らは言います。そして、動物の性質のもう 1 つのお気に入りのトリックは、悪循環に陥る考えを人に滑り込ませることです。ちなみに、読者は、たとえこれが人の気分を悪くするだけであっても、なぜそのような思考の循環が同じサークルで起こるのかとよく尋ねます。

リグデン： 理由は 2 つあります。まず、これは動物性の働きです。人が選択するための内部条件を作成します。そして、パーソナリティがその短い人生で優先するもの(スピリチュアルな性質または動物の意志、良い考えまたは悪い考え)はすでに彼の権利です。しかし、人が毎日選択する優先事項から、死後の運命も形成されます。第二に、否定的な思考を円にループすることは、動物の性質の方法の 1 つにすぎません。これにより、人の注意を自分自身に集中させ、パーソナリティをそれぞれ動物の心の気まぐれに仕えさせ、生命エネルギーを無駄にします。致命的。事実、そのようなサイクルを持つ人は、自己批判を始め、怒り、常に過去について考え始めます。簡単に言えば、彼の意識は、ある種の「個人的な」問題に対する感情的で一方的な認識のポイントに絞り込まれ、同時に 彼は、誰が、なぜ、なぜ、この特定の考え方の方向性を彼に設定したのかさえ理解していません。



そして、ここでは、特定のとてつもない問題の問題ではありません(これは解決されますが、別の問題は確実に発生します)。事実は、自分自身を管理する方法を学ぶ必要があるということです。そうすれば、人の人生の外部状況が成長するのは彼らからであるため、内部の問題は減少します。

アナスタシア: そうです、さもなければ、この円を描くような歩き方は人生の終わりまで続きます。その民謡のように、「あなたが引っ張ると、彼は引っ張る:誰が誰を引っ張っても、両方とも落ちる」。

リグデン: 人は、この物質世界での生活を改善するという意味で、かつて実現できなかった機会を得るために、自分の人生の半分を自分自身でかじっていることがあります。彼は満たされていない「幸せ」について夢の中にいて、それを自分にとって良い光の中でのみ見ています。人は、動物の性質が彼にとって別の理想的な幻想を引き出し、彼の夢が人生で実現された後、彼が想像していたものとは完全に異なって見えることを考慮に入れていません。この状態では、人は、すべてが異なって起こった場合、自分が今どのようになるか、自分がどのようになるか、現在の条件と機会があるかどうかはまだ不明であることを理解していません。結局のところ、人生の各ステップには変化が伴い、一連の出来事が形成されます。人の未来。

アナスタシア: はい、人は自分の性質を理解し始めるまで、自分の本当の「幸せ」が何であるかを理解するのは難しいでしょう。



リグデン： 動物の性質による別の種類の攻撃があります。ブルートアタックとは正反対です。動物の性質によるそのような攻撃の間、人はすべてが彼にとって素晴らしい、すべてが捕らえられているように見え始めます。しかし、この状況をスピリチュアルな性質のオブザーバーの側から見て、これらの自己賞賛の瞬間を分析すると、それらがすべて自己中心主義と利己主義に関与していることがわかります。人の意識も同じように狭くなり、愛する人によって自分自身を閉じられますが、反対方向にのみ閉じられます。比喩的に言えば、彼はナルシストのように、自分以外の誰も気づかない。そして、圧力は再び外側から内側に感じられますが、それは荒くなく、柔らかく、愛撫し、満足し、外側を楽しむ性格を持っています。

アナスタシア： そして、動物の性質から期待できる他のトリックは何ですか？

リグデン： その影響の方法はさまざまです。たとえば、最終的には多くの人々とその生活に良い影響を与える重要なことを行っているとします。そして、すでにこのビジネスの実装の初期段階にあるZverushka(動物の性質)は、主なビジネスと同じくらい多くの時間と労力を費やす必要があるアイデアを失い始めています。現時点ではまったく重要ではないこれらのアイデアは、「緊急の決定」を必要とする多くの質問で注意をそらし始めます。したがって、あなたは単にこれらの問題に巻き込まれ、彼らが言うように、多くの騒ぎがあり、ほとんど役に立たないでしょう。しかし、結局のところ、自分の行動の効用係数を評価すると、無駄なことは、ではないことがわかります。



あなたが完了しなかった最初の重要な仕事が与えることができたのと同じくらい重要な結果をもたらしました。時間とエネルギーが無駄になります。これが微妙な変化です。

一連の概念の置換からの動物性攻撃の別の変形。たとえば、攻撃を修正し、ポジションを維持することができました。しかし、突然、次のような一種のパニックが内部で始まります。永遠に行きたい!何をすべきか?!どのくらい緊急に救われますか?これもジュエリーの代用です。残念ながら、そのような代替品はたくさんあります。動物の性質の影響下にあり、自分自身に取り組むことをあまり気にしない人は、個人的な精神的発達における彼の「成果」を他人に自慢するだけです。彼は、自分の動物を「完全な鎧」で「守っている」と(プライドから)誤って信じています。しかし、実際には、この状況はオオカミとハンターの物語のようなものです。

「あるとき、オオカミは単独で出撃することを決心し、後で自分だけがその男を狩りに行つたことを群れに自慢できるようになりました。同時に、男は一人で狩りに行くことに決めたので、後でハンターに一人でオオカミを捕まえに行つたことを自慢できるようになりました。そして、オオカミとハンターの両方が行き、両方とも恐れていて、夜に恐怖で震えました。二人とも森の端に心地よく座り、「暖かい木」にもたれかかった。それで彼らは夜明けまで座って、お互いに背中を合わせて恐怖に身を寄せ、一人で狩りに行つたことを自分に自慢する方法を考えて自分を慰めただけでした。彼らは暖かく快適で、安全で健全であることを信じられないほど喜んでいました。ハンターが捕まらなかったオオカミは幸せだったし、オオカミが捕まらなかったハンターは幸せだった。」



アナスタシア： そうです。多くの人は自分自身の本当の仕事を気にしませんが、お世辞の考えで自分自身を楽しませるだけです。そして、彼らは動物を何度も「狩りに行った」ので、なぜ彼らの精神的発達に大きな結果が得られないのか疑問に思います。微妙な差し替えの多さに驚く。知識が増えるだけでなく、アニマルは眠らず、他の獲物を常に改善しているようです。

リグデン： その通りです。面白いことに、動物の性質のプログラムは同じタイプの標準的なものです。人々は同じレーキを踏んでおり、誰もが彼だけが額を打ったと思っています。誰もが、自分がこの人生で最も困難な時期を過ごしていると信じており、最も困難で乗り越えられないのは自分の人生の障害であると信じています。しかし、このすべての落胆は、人が自分の態度に注意を集中できるようにするための、動物的性質のもう 1 つの罠です。しかし、これらのトリックを知っていれば、次の攻撃を簡単に予測して回避し、設定されたトラップをバイパスできます。動物の性質の最も一般的なプログラムは、プライド、自己中心主義、恐怖に基づいています。これらのネガティブな感情から、ねたみ、嫉妬、悲しみ、恨み、自己憐憫、他人を支配したい、話し合う、誰かを責める、変化への恐怖、病気への恐怖、身近な人を失う(喪失)、孤独への恐怖、老いに近づく年齢、死など。同時に、私がすでに話したのと同じ意識の狭窄のプロセスが起こります。しかし、彼らが古代に言ったように、高い山に登る人は誰でも、世俗的な騒ぎに笑われるでしょう。



本気になりたい人なら彼自身の靈的発達のために、彼はまず第一に自分の考えを訓練しなければなりません。できるだけ頻繁に、経験した感情、考え方を説明し、それらの性質とは何か、発生のメカニズムを分析してください。状況、日常生活を超えるように。動物の性質からの観察者の通常の位置からではなく、精神的な性質からの観察者の位置から世界を知覚できるようにすること。

動物の性質は、パーソナリティの自我を強調して、人の内なる世界が何であるか、そして彼の解釈では、おそらくこの自我に仕えるはずの外界とは何かについて、人に大きな幻想を常に描きます。この幻想の観点から、それは世界について、他の人々についてパーソナリティに誤った判断を課し、それによってその人を真実の認識から遠ざけます。実際には、すべてが異なります。

アナスタシア: その通りです。私たちは、自分自身にスピリチュアルな働きを始めるまで、この世界ではすべて幻想であると言えます。そして、私たちが靈的に成長し始めると、この世界も幻想であることを理解します。毎日自分自身に取り組む実践的な経験を積んでいるので、このオブザーバーが結論を導き出すことに基づいて、この世界を見ているのはあなたの内で誰であるかを正確に理解することがいかに重要であるかをより深く理解しています。

リグデン: オブザーバーは観察されたものから決して分離されないことに注意してください。彼は自分の経験を通して観察されたものを知覚するからです。実際、彼は自分自身の側面を観察します。世界について考える 実際、人は自分の解釈についてのみ意見を表明します。



彼の考え方と経験した経験に基づいた世界のですが、より高い次元の位置からのみ理解できる本格的な現実の絵についてではありません。

アナスタシア：意識の習慣的な状態では、主に自分自身との関係で、対象の類似性または相違点について比較、判断することによって、人がそのような観察を行うことは明らかです。

リグデン：その通りです。人間の本性には、模倣や連想的な考え方を通じて、より速い学習、経験の獲得と習得、スキルの習得、行動様式の借用などのための比較のメカニズムがあります。このおかげで、人はさまざまな行動、行動パターンを非常に迅速に学び、自分の周りの世界を学びます。ただし、これはすべて、識別、比較、つまり比較に関連しています。結局のところ、判断には比較が必要です。そしてここでは、観察者としてのパーソナリティを支配するもの、つまりスピリチュアルな性質または動物的な性質に大きく依存します。

スピリチュアルな性質が支配的である場合、比較は二次的な役割を果たします。特定の協会を通じて自分の精神的な経験を移すことだけが必要です。同じスピリチュアルな実践における認識のプロセスは、直感的な感覚、拡大された意識、そして何も比較する必要のない、すべてのプロセスの意識の明確さがある人のまったく新しい内なる理解によって進行します。論理では説明できないこと。その人は自分がスピリチュアルの一部であると感じます世界、より大きな全体の一部、現実の現実。



動物性が支配するとき、パーソナリティは完全に物質界の幻想のゲームに没頭します。彼女は常に何らかの基準（知性、専門性、外見、人のタイプなど）で自分を誰かと比較しています。理解を深めるために、典型的な状況を考えてみましょう。そのような状態にある人は、隣人や職場の同僚で、給料が少し高い、または地位が高い人を普段どのように考えているでしょうか。原則として、彼は自分自身と比較し、「彼は私と同じだ、何が私を悪化させるのか。」などと言います。動物の性質からのプライドはまた、攻撃性と怒りの急増を引き起こす羨望のメカニズムを引き起します。人は、自分の内部の過ちを周囲の人々のせいにするか、自己規律に取り組んでいます。動物の本性が自己抑制、自己抑圧の考えを人に強制するのは自然なことであり、他の人と比較して、彼は何か間違ったことをしたり、何らかの形で他の人よりも悪い。この場合、批判するのは動物ではなく、良心であるということを覚えておく必要があります。あなたのアシスタント。

アナスタシア： 人を非難するように駆り立てる正確な理由は何ですか？

リグデン： 第一に、彼の中にある動物的性質からの支配的な資質です。このような批判的な考えが生じた場合、これを考慮に入れる必要があります。

第二に、複数の利己的な幻想は固定観念的な態度であり、動物の仕業です。感情の爆発を引き起こし、人を非難するよう仕向ける始まり。



これらの態度は、たとえば、「私は誰よりもうまくやれる」、「私の意見だけが正しい」などの性質のものです。つまり、彼らはエゴイズム、密かに支配し、自分の種類を指揮し、独自の幻想的な「影響力の帝国」を構築したいという願望に基づいています-実際、これらはすべて、動物の性質が人を制御および操作するツールです。

第三に、人は、実際には存在しない問題を見つけたり発明したりする動物の性質による誰かの試みを非難するように強いられます。どの考えが人に長い間否定的なイメージを心に留めさせることができるかについての考えです。そして後者は、人格の否定的な考え方の習慣の発達に貢献します。つまり、人が何を言ったり考えたりしても、すべてが常に悪く、彼にとって否定的であり、最も重要なことに、彼は非難しますそれは限りなく長い間。リスクは何ですか?このプロセスは、人の注意をこれらの考えに集中させ、長時間維持します。そして注意は力であり、創造の始まりです。注意の集中は、特定の種類のエネルギーを集中させて蓄積することができ、その急増は行動の行為、目に見える世界と目に見えない世界での何か(感情、思考、行動、出来事)の創造を引き起こします。これは、今度は、生きている間と肉体の死後の両方の人の運命を形作ります。この創造の結果がポジティブになるかネガティブになるかは、選択次第です。



人、彼の優先事項、考え方の日常的な習慣、彼ができる限り自分の考えや感情をコントロールし、訓練します。

アナスタシア：では、動物性はどうにして人にいわゆる「理不尽な」攻撃状態を引き起こしますか？

リグデン：「理不尽な」攻撃の状態は、人が自分のプライドに自分の考えを固定し、自分が知っていて親しい人々の輪の中で自分の「権威主義的意見」を支配するための闘争に多くの注意を払うときに特に頻繁に見られます。当然のことながら、そのような人は動物的性質が支配的であり、そのため彼は自分のプログラムや態度に依存するようになります。この場合、人は消費者の価値観のシステムを通じて、物質的なマインドによって容易にコントロールされるようになり、そこでは動物的性質の無限のニーズを満たすことが最優先されます。

アナスタシア：そして、なぜ人は自分についての誰かの意見にそれほど心配し、負担をかけるのですか？

リグデン：自分自身と他人の比較による評価は、実際には人間の動物的な部分に由来します。「アルファ男性」または「アルファ女性」であるという古代の本能。動物は常に、相手の目にはより大きく、より美しく見えるよう努めています。したがって、人は彼についての誰かの意見にとても心配し、負担をかけています。原則として、これは現れたいという欲求に限定されており、なりたくないという欲求に限定されています。ある人は「他の人は何と言うでしょうか」と心配しています。しかし、彼は誰が彼を正確に判断するのかさえ考えていませんか？プライドとうぬぼれから、他の人の動物的性質の意見に対する人の恐れが生じます。



なぜ?他人の批判だからこの場合、自分のエゴの重要性を軽視していると見なされます。これらはすべて1つのプロセスの側面ですが、支配のための闘争、彼ら自身の種類に対する権力のための闘争です。ここから、恨み、憂鬱、攻撃性が生まれます。

アナスタシア: 読者に、これらすべての状況を回避するために何をすべきか教えてください。

リグデン: 人（パーソナリティ）は体の中にあり、体は動物性の財産です。攻撃の可能性を知っていれば、反撃を開始することは常に可能です。知性のようなものです。自分よりもはるかに優れた敵と対峙しなければならない場合、敵の戦力の量と質、場所、戦術、および行動の方法を知って、作戦上の抵抗を作り出すことが重要です。そうすれば、勝率が上がります。

心の中で起こっている比較のプロセスをコントロールしなければなりません。たとえば、次のような性質の質問ができるだけ頻繁に自問する必要があります。人々は「同じ」ではありません。それぞれが個性的であり、構造、遺伝学、性格、才能、勤勉さなどの特徴が異なります。それらは、目に見えるだけでなく、目に見えない構造にも独自の機能を持っています。簡単に言えば、誰もが自分の、自分の十字架、自分の運命を持っています。もちろん、あなたの動物的性質を明らかにすると、「比較するな、誇りに思うな、うらやむな!」というモットーを使用する方が良いでしょう。スピリチュアルな性質からのオブザーバーの立場からあらゆる状況を扱うには、動物の性質の思考と感情から抽象化されています。



状況や人をあるがままに受け入れる必要があります。なぜなら、あらゆる状況、その中のあらゆる人が一種の教師だからです。ネガティブな状況であっても、ポジティブな教訓を学ぶことができなければなりません。あなたが持っているものに満足してください。結局のところ、満足感の根源は外界ではなく、人の内なる世界、彼の最も深い欲求にあります。人が精神的な人格になりたいのなら、精神的な熱意と彼のすべての欲求について。

人間は、現れたいという欲求が存在することを意味するものではないことを覚えておくことが重要です。主なことは、魂から来るものに、内側に頼ることです。他の「動物」の意見ではなく生きてください。最高の判断者は良心です。思考を監視するという個人的な決定を下したので、ハッキングを許可することは非常に困難です。彼は決して一人ではないので、神はいつも彼と一緒にいるので、自分自身の前の内なる啓示の純粹さは人にとって重要です。

多くの場合、人々は自分の行動を分析し、自分の考えを制御し、訓練することを気にせず、アドバイスや教えて誰かの人生に干渉し始めます。人々は対話者が何を心配しているのかについて話すのではなく、自分で何を理解したいのかについて話すことを覚えておく必要があります。ある賢者はこう言いました。他人の人生に干渉する必要は必ずしもありません。しかし、各個人に個人的な選択の権利を与えることは常に必要です。誰もが責任を負う人生を選択します。



模範を示し、責任を負う彼の考え方、言葉、行動は人間にふさわしいものです。求められていないときに助言し、彼らが望まないときに教えるということは、たとえそれが怠惰で過ちを犯したとしても、人格に反するものであっても、暴力行為を犯すことを意味します。

人生はそれぞれの能力に応じて受け取り、外部ではなく内部のメリットに応じてそれぞれに与えます。内なる世界を変え、自分自身に働きかけ、自分の資質を改善すればするほど、これらの変化は外の世界に投影されます。スピリチュアルな性質の支配状態にとどまり、人は自分自身を理解し、落ち着いた明確な意識状態で自分の考え方や行動を分析します。彼自身に対する個人的な仕事の合図として、他の人々からの否定性を引き起こし、自己改善の経験を積むあらゆる外部状況。確かに、原則として、挑発は本人から発せられる対応する衝動から生じるため、思考、言葉、感情を制御する必要があります。内なる疑いが外的な混乱を生む。確かな知識は冷静で秩序です。人が自分自身をコントロールすることを学ぶとき、彼は外部からのプッシュを待たずに、自己改善の道を独自にたどります。覚えておく必要があります。 賢者は敵からさえ学ぶ。

動物の性質の目的と課題は、人を主なものからそらすことです-さまざまな方法で精神的な発達を促し、彼の「弱点」に注意を向けます。動物性攻撃の方法は異なります。しかし、共通点があります。これらの罠は常に何らかの形でエゴイズムに基づいています。



自己憐憫、またはナルシシズム、つまりナルシシズム。これらは、動物の性質の 2 つの主要な極端です。動物の性質が攻撃するたびに、内側から外側への流れが消え、外側から内側への圧力が生じます。これは官能的なレベルではっきりと見られます。あなたがパーソナリティとして精神的な解放を求めて努力するなら、そのような挑発をやめるだけです。後者は非常に重要です。なぜなら、攻撃の始まりに気づいたり感じたりしたとき、すでに動物の性質との戦いに半分勝っているからです。結局のところ、動物の性質の力は秘密の行動にあります。これを知っていれば、いつでも対策を講じることができます。

比喩的に言えば、武道のようなものです。あなたが相手よりも心理的および肉体的に準備が整っていれば、相手の闘い方や習慣を知っており、攻撃のわずかな兆候をタイムリーに予測し、相手の「クラウンブロー」に正しく反応すれば、反撃するので、勝利のチャンスが増えます。打撃を予測し、時間内に横に逸れる必要があります。そして、動物性が相手であることに疑いを持たず、それがあなたのパートナーであると考えているのであれば、もちろん、勝つ可能性について話すことは何もありません。結局のところ、あなたは彼の攻撃と攻撃的な攻撃をあなたの自然な状態として認識し、なぜ、そして何のために人生があなたを苦しめているのかを理解せず、あなたの本当の場所と偽装されている場所を区別せずに、彼のわずかな挑発に常に陥ります。

自己規律を強要すればするほど、動物的性質からの思考に抵抗し、より多くの物を獲得し彼への支配を獲得する。



ここでは、戦争のように、あなたが敵であるか、彼があなたであるかのどちらかです。あなたの仕事は、今ここで、どんな犠牲を払っても勝つことです！時間はつかの間です。魂を救うためには、すべての善と確固たる意思を迅速に得る必要があります。

戦士が密かに敵の陣営にいるとき、彼は珍味、贅沢、楽しみについて考えません。彼は勝つことに集中するだろう。彼は敵の陣営にいるので、戦士は三重に見張ります。彼は戦争のこの瞬間に勝つ方法について考えます。真の戦士は、目に見える世界の罪から最も深い感情を守ります。他人をねたみ、偏愛、嫉妬の目で見ない。世界の幻想によって歪められ、想像力を自由に操ることはできません。世界の幻想は敵のキャンプであり、悲しみは彼らの誘惑から来る。戦士は、現在の戦いに負けても怒りを発散しません。対決の瞬間に敵が彼をどのように焦がしても、すべてが戦士にとって有利になります。彼の精神はより強くなり、その後の彼の行動はより慎重で賢明になるからです。

アナスタシア： そして、どうすれば、動物の性質によって課せられた、自分自身の意識が狭くなっている状態をブロック解除できますか？

リグデン： 自分が動物の性質から攻撃を受けていることを認識すると、常にこの状態のブロックを解除できます。つまり、次のアクションを実行する必要があります。動物性にも実は弱点があります。それは、時間の儻さと肉体の死という二つのことを恐れています。したがって、攻撃中に最初に行なうこと は、身体に執着することから精神的に離れることです。



まるで宇宙から地球を見ているかのように、スピリチュアルな性質、拡張された意識からの観察者の位置から彼を。時間はつかの間であり、すべてが非常に速く過ぎていくということを理解する必要があります。

さらに、スピリチュアルな性質からのオブザーバーの位置からさまざまな角度から状況を分析するために、世界の認識の全体像を拡大する必要があります。自己批判的に自分の内なる自己の問題にアプローチし、人や世界についての利用可能な知識を使用して、あなたの動物的性質の秘密の欲望の底に到達します。原則として、彼の欲望の多くの基礎は、誰かまたは何かに対する権力への渴望です。それだけが、さまざまな巧妙な口実の下でこの欲求をカモフラージュします。

そしてもちろん、その後、そのような攻撃によって興奮したニューロンを抑制する必要があります。簡単に言えば、あなたが本「先生」で説明した「蓮の花」などの精神修行をすることです。この実践のおかげで、世界の全体的な認識が回復し、意識の制限が取り除かれ、魂から発せられる感情の深さが明らかになります。つまり、内側からの深い感情の流入があります。当然のことながら、このような意識状態の変化の後、人は世界に対する肯定的な認識に切り替わります。この情報を解読する脳は、ポジティブな感情で彩られた連想配列を生成します。

したがって、狭窄した意識の状態からの出口は、積極的な反論、一時性と死亡率の理解に関連しています。



スピリチュアルなガイドラインのライフコースを選択し、適切なツールを使用して必要なポジティブな波に同調します。多くの場合、人々は正確に初步的な議論を欠いています。つまり、狭い意識から抜け出し、世界のよりボリュームのある絵を見るために自分自身を納得させる言葉です。自分自身へのすべての責任を理解するために、毎日自分自身に取り組むことが重要なのはなぜですか。意識、またはむしろパーソナリティがその支配的な選択において不安定である一方で、人は不安定であり、疑いを抱いていることを覚えておく必要があります。スピリチュアルな道を安定して歩むためには、人生で何を達成したいのか、最終的な目標は何かを明確に知る必要があります。目的がなければ、人生はありません。人生は目的のある動きだからです。

アナスタシア: 一部の読者は、手紙の中で、精神修行や祈りを行っているときに、突然パニック恐怖を感じることがあるという事実に注意を向けています。これはどのように説明できますか？

リグデン: すべては、その人自身、その人の気分、およびその人の中で起こるプロセスの理解に依存します。自分に何が起こっているのかを正確に把握していれば、どんな状況でも適切な対策を講じができるからです。サブパーソナリティは、過去世での支配的な物質選択のために、魂とその世界（神の世界）に対してほとんど友好的ではありません。スピリチュアルな実践において、瞑想者が魂とのつながりを求めるとき、次のような症状が現れることがあります。その人はすでに精神エネルギーを消滅（停止）させることに成功しているようです。



プロセス、つまり、思考を取り除き、魂との官能的な接触に同調しますが、ここで動物の性質の攻撃の別の兆候が現れる可能性があります。明らかな理由はありませんが、絶対に不合理なパニック恐怖の高まり。ように見え始め、もう少しで死ぬでしょう。この恐怖の根源はどこにあるのでしょうか?彼らは再生の経験、彼らの運命の理解、すべての物質の死の必然性を持っているので、魂の力を恐れているこれらの「光フィルター-サブパーソナリティ」の1つにすぎません。

アナスタシア: では、そのような恐怖が現れたときはどうすればよいのでしょうか?

リグデン: たとえば瞑想でこれが起こった場合は、何があっても魂の光に行き、パニックを無視してより官能的なレベルに深く入り込むだけでよく、そうすればこの恐怖は消えます。恐れは疑いを生むからです。しかし、精神的な高みを達成するには、誠実な信仰の純粋さが必要です。人は、慣れ親しんだ生活と別れることへの疑いや恐れによって、しばしば拘束されます。

これについて興味深い話があります。「かつて男が崖から転落した。しかし、彼が転んだとき、彼はなんとか岩の隙間から伸びた小さな木の枝に引っ掛かりました。崖の真ん中にぶら下がっていると、彼は自分の状況が絶望的であることに気づきました。登る方法がなく、下には固い岩がありました。枝を持つ手が弱ってきた。その男は、「今、私を救えるのは神だけだ。私は彼を信じたことはありませんでしたが、信じているようです。間違っていました。



今彼を信じたら、自分の立場で何を失うのですか?」そして彼は心から神に祈り始めました。私はあなたを信じたことはありませんが、あなたが今私を救ってくれるなら、私はこれからもずっとあなたを信じます。それで彼は何度も電話をかけました。突然、天からの声が鳴り響きました。いや、あなたのような人を知っています。」その男はとてもおびえ、驚いたので、手から枝を離しそうになりました。しかし、その後、彼は自分の感覚に戻って、さらに懇願しました。これからは、私はあなたに最も忠実であり、あなたの意志であるすべてを行います、ただ私を救ってください!」しかし、神は同意しませんでした。その男は、さらに熱心に、より強く神に嘆願し、説得し始めました。最後に、神は彼を憐れみ、こう言いました。私があなたを助けます。糸を放してください。」 "何?!スレッドを解放しますか?男は叫んだ。「私がおかしいと思いますか?」それが人生のやり方です。実際、人間の生活は崖の上に浮かんでいます。そして、彼は自分の状況のすべての死を理解していますが、それを失うことを恐れ、神の意志に頼って、両手で彼の動物的性質の疑いの枝にしがみついています。」

したがって、瞑想後に連想を解読するときは、あなたの内で誰が永遠を恐れているのかを正確に分析することが重要です。「私は誰ですか?」というトピックに関する内省の同様の方法。そして対応する技術は、さまざまな宗教体系のさまざまな人々の精神的、神秘的な学校で長い間使用されてきました。それらは古くから知られており、特に古代インドと東の国々で広く普及していました。それらは、例えば、古代のヨギ、スーアフィー、シャーマンによって実践されました。



覚えているように、このテクニックには、「私は誰ですか?」というトピックに関する瞑想的な思考状態で巻き戻すことが含まれます。ここでは、精神的な答えごとに新しい精神的な質問をする必要があります。さらに、どのような考えが来るかを観察し、その性質を感じ、「私の中で答える人は誰ですか?」と自問することが多くなります。あまり考えたり集中したりせずに、すべての考えがスムーズに流れることが望ましいです。考えが浮かんだら、すぐに質問をして、頭に浮かんだ最初の答えを見送ります。しかし、主なことは、自分自身にどんどん深く飛び込むことです。

アナスタシア: はい、これは思考や感情を認識して、あなたの心を支配する自分自身を理解するための興味深いテクニックです。自分自身を理解し、もみ殻から小麦を分離することは本当に役に立ちます。みんながこのテクニックについてどのように印象を共有したかを覚えています。どのようなバリエーションが聞こえたのか、どのように動物の性質を追い詰めなかったのか。彼らは尋ねました:「私は誰ですか?」「誰が質問しているのですか?」「私は体ですか?」「しかし、体は死にます。」「私は学生です。」「でも、学生はステータスです。」「私は学ぶ人です。」「でも誰が学んでいるの?」「私は人間です。」「私の中で誰が私を人間と呼んでいますか? その理由は?」「私は人を愛する人です。」「でも、私の中で誰が好き?」「私には体があります。」「では、体を持っているあなたは誰ですか?」「体は私ではありませんが、私はその中にいます。」「そして、私は誰ですか?」「くたばれ… 私は私、完全で分割不可能な」動物性にも「ユーモア」があります。あなたの深い「私」、恐れ、問題に到達するのに役立つ非常に良いエクササイズです。

リグデン: はい、動物の性質は災難のようなものです。どのような考えが誰の側から来るのか、これまたはその問題があなたのどこから現れるのか、これまたはその根源に気づきます。



恐れ、あなたはそれを取り除く方法と自分の状態を管理する方法を理解しています。この内省の瞑想的なテクニックを正しく実装すると、その後、意識の明晰さと明晰さが得られます。

すでに述べたように、動物の性質から発せられる感情とスピリチュアルな性質から発せられる感情(本当の深い感情、より高い愛の現れ)には大きな違いがあります。たとえば、精神的な練習「蓮の花」の間に魂との和解の状態に浸り、深い感情を感じるには、まず誠実さ、神への開放性が必要です。なんといってもソウル。この瞑想では、神への愛の深い感情が育ちます。言い換えれば、魂から発せられる力は、本来の目的のために使用されます。真の正しいスピリチュアルな修行は、思考ではなく深い感情を伴う作業であることに注意してください。これらの瞬間、魂のように、1つの精神的な欲求が人を支配します。

アナスタシア: パーソナリティが、魂から発せられる純粋な力の流れと接触することは非常に重要です。

リグデン: もちろん、これは現在のパーソナリティにさらに精神的な強さを与えます。彼女は魂の世界、神の世界をより感じ始め、この世界とあの世界の本質的な違いを理解し始めます。ちなみに、これは身体レベルにも反映されています。体のレベルでは、この状態では力が急増し、エンドルphinやその他の「幸福」のホルモン、人の身体的および心理的状態が大幅に改善されます。



これは、深い瞑想中に特に顕著です。人のマスクイイメージがすべて落ちると、パーソナリティと魂の間で情報交換が行われます。これはすべての瞑想で起こるわけではなく、深い官能的なレベルでの仕事に関連し、魂を目覚めさせることを目的とした瞑想で起こるという事実に注意を向けます(たとえば、精神的な実践「蓮の花」)。人は魂の世界、神の世界の感情で満たされています。理想的には、瞑想者は非常に感覚的に深く靈的な修行に没頭し、精神的・比喩的な知覚をすべてオフにし、すべての思考から完全に抽象化して、魂から発せられる力の流れを直接知覚し始める。

そのような深い瞑想を行っている間、人はその世界を感じ、物質世界には類を見ないプロセスを感じます。したがって、その世界(神の世界、魂の世界)は言葉では言い表せず、感じるしかありません。そのような深い瞑想状態では、人は真の自由が何であるかを理解し、感じ始め、周囲の物質世界の攻撃的な影響から、動物の性質から内部的に独立します。彼は精神的に強くなり、この物質世界は彼の生まれ故郷ではなく、彼の魂にとって攻撃的で危険な環境であることに気づき始めます。しかし、もちろん、これはすべて、人が責任を持って精神的な実践を発展させ、体系的に彼の動物的性質を監視し、彼の考えを制御し、外の世界で善行を実行するときにのみ起こります。



つまり、彼は自分自身の内部作業と善行の荷物の蓄積に徹底的に取り組んでおり、思考と感情。しかし、そのような人々は、原則として少数です。

基本的に、人々が精神修行に取り組もうとすると、物質的な脳、またはむしろ意識のレベルで発生する特定の歪みに遭遇します。これはまさに私が以前に話していたことです。魂からの情報の流れが通過する「光フィルターサブパーソナリティ」に加えて、いわば、脳の連想的な「光フィルター」があります。実際、これらは、私たちの人生経験や印象などが保存されている記憶のパントリーに保存されている私たちの連想です。それらの圧倒的多数は、三次元の世界に関するものです。実際には、体の誕生からの人間の意識の状態は、この世界の認識に合わせて調整されていますが、さまざまな動作モードがプログラムされています。意識の状態を変えることによって、人は他の知覚プログラムに切り替えることができます。

そのため、瞑想中に受け取った情報を脳が処理する際に、連想歪みが発生します。人が意識の変化した状態でそのような情報を知覚する準備がまったくできていない場合(このパーソナリティの非体系的な精神的な働きのため、場合によってはそうです)、脳は受け取った情報を解読します。記憶の中の連想のレベルと、慣れ親しんだ世界の支配的な優先順位でそれを与えてください。言い換えれば、処理中に受け取った情報は、物質世界の連想によって歪められます。



体系的に瞑想しようとしますが、動物の性質から思考を追跡するという点で、自分自身にほとんど働きかけません。

アナスタシア: それが問題です。スピリチュアルな実践に従事し始めた人々は、ここでの意味とは何か、スピリチュアルな喜びの条件を作り出すものとは何かをまだ完全には理解していません。彼らはまだ意識の中で思考と感情を区別していません。どこが動物的性質から、どこがスピリチュアルな性質なのか。後天的な経験があるので、彼らは物質世界でこの機会またはその機会に経験する喜びをより理解しています。そして、パーソナリティがスピリチュアルな世界と接触し、真のスピリチュアルな喜びが何であるかを理解するスピリチュアルな実践は、生きているパーソナリティにとって新しいすべてのものと同様に、最初にその側の積極的な開発、忍耐、忍耐、自信、目的意識を必要とします。言い換えれば、新しい経験を得ること、そして人にとって異常な意識状態でさえあります。

リグデン: その通りです。連想例やたとえ話などを使用して、初心者が主要な情報を理解しやすいのはそのためです。おそらく、「光フィルター」についてすでに述べたことはすべて、理解を深めるために比喩的に説明します。魂は純粹な源、泉のようなものです。あなたが魂を感じるとき、それとの絶え間ない官能的な接触を維持し、それから人生における重要な精神的行为、善行、誰かが上から助けているかのように他の人々が通り過ぎるのを助けます。状況があなたに有利ではないように見える場合でも、すべてが 1 対 1 で加算されます。そして最も重要なことは、のように、このサポートを深いレベルで感じ、理解することです。



あなたがすでにそれを知っているように。しかし、動物の性質がゲームのルールをあなたに指示し始めると、原則として、控えめにそしていつの間にか、魂との官能的なつながりが失われ、より正確には、それははるかに困難になります。比喩的に言えば、あなたの注意が動物の性質の遊びに捕らえられるほど、魂のこの純粋な泉の表面はフィルムで覆われます。そして、動物のプリズムを通してそれらを考えると、日常の問題に深く入り込むほど、このフィルムは厚くなります。したがって、後者は人格と魂、そして当然のことながら神とのつながりを複雑にします。動物の性質に触発された恐怖があなたの中で生じ始め、多くの空虚な騒ぎが現れ、多くの問題が積み重なっていきます。あなたは自分自身に対する精神的な働きの重要性を理解するのをやめ、理由もなくあなたの周りの人々を非難したり腹を立てたりし始めます。このようなことに気づいたら、これはあなたの動物的性質の別の攻撃であり、緊急の措置を講じる必要があることを知ってください — 魂との失われたつながりを回復し、比喩的に言えば、フィルムの厚みが増しました。そして、きれいな水にたどり着くと、とてつもない問題がなくなり、主なことを再び理解し、主な目標が見えます。

パーソナリティは、可能性のある将来のスピリチュアルな存在の個々の意識の胚芽にすぎません。それ自体では、精神的に何も表していません。魂には大きな可能性が秘められています。しかし、魂とパーソナリティの融合がなければ、この可能性は無駄になる可能性があります。そして、相対的に言えば、振動の共鳴、一種の融合、パーソナリティによる魂の「受精」があるときだけ、はそうします。



個人の意識と偉大なスピリチュアルな可能性を備えた、新しく不滅のスピリチュアルな存在が生まれます。これが人間の存在の意味です。生の勝利か、死の敗北かのどちらかです。

アナスタシア： はい、死が続く勝者ではなく、霊的生命が続く勝者です。

リグデン： 間違いなく。霊的生活とは？人生は一連の出来事であり、すべての瞬間がチェーンのリンクのようなものであり、映画のフレームのようなものであり、人のすべての思考と行動を捉えています。ほとんどのフレームが明るくて明るいので、良い映画を見てポジティブな印象を受けることがあります。また、別の映画を見ると、ほとんどのフレームが暗く陰鬱な気分になることがあります。したがって、できるだけ多くの良いショットが含まれるように、ライフフィルムは明るく明るくすることが重要です。そして、各フレームは今ここにある瞬間です。あなたの人生フィルムの各フレームの品質は、あなただけにかかります。生きた瞬間は消せないし、切り取れないし、二度目はない。スピリチュアルな生活とは、優しさ、愛、良い考え、事務。

主なことは、人生におけるスピリチュアルな性質に明確な焦点を合わせ、スピリチュアルな実践に従事し、知識の視野を広げ、動物性の挑発に屈することなく、神への真の愛の感覚を自分の中に生み出すことです。そしてもちろん、より頻繁に善行を行い、生きるため良心によって。



これは日々の仕事であり、徐々に自分自身に打ち勝つことです。これらすべてがあなたの道を構成するものであり、誰もあなたのために通過することはなく、誰もあなたのためにこの精神的な仕事をすることはありません。

アナスタシア： はい、あなたはかつて、あなたの記憶にしっかりと埋め込まれている言葉を言ったことがあります。読者のために、精神的な救いを心から望んでいるなら、精神的な実践へのアプローチはどうあるべきか教えてください。

リグデン： 自分の魂との融合を目指す人にとって、各瞑想を人生で最大かつ最も重要な休日として扱うことが重要です。

また、定評のある瞑想を行う場合でも、できるだけ瞑想に没頭し、そのたびに新しいレベルの知識に到達するよう努める必要があります。そうすれば、人は成長し、停滞することはありません。彼にとって、各瞑想は興味深く、感情の範囲の点で新しく、学習と習得において刺激的です。

多くの人は、これまたはその瞑想テクニックを実行する方法を学ぶだけで十分であり、それだけで十分であると誤って信じています-おとぎ話のように、何か良いことが起こるはずです。いいえ、これは妄想です。人は、自分自身がこれをを目指して努力し、精神的なことを人生の最優先事項にし、毎秒自分の考えをコントロールし、動物性の現れを監視し、善行を最大限に実現するときにのみ、より良く変化します。主な目標はただ一つ、成熟した靈的存在として神のもとに来ることです。



瞑想は自分から何か「良い」ものを作るために、骨の折れる作業を長い間行う必要がある単なるツールです。さらに、このツールは多面的です。たとえば、人は完全に理解することはできません。つまり、精神的な実践「蓮の花」でさえ完全に認識することはできません。知恵のような瞑想には、その知識に境界はありません。「私はこの瞑想を知っていた - 私は別の瞑想をしたい」という怠惰な人や誇りに思っている人だけのために瞑想をするのは退屈です。繰り返しますが、瞑想はツールであり、心から精神的な高みに到達したいと思っていて、怠け者ではない人は、この人生でも最大限に達成できます。

アナスタシア: それはそうです。しかし、多くの人が貴重な時間を無駄にして自分自身を変えようとするのではなく、人生の精神的な人、つまりすでに変わった人の例を探しているという事実に出くわしました。精神的な規範、考え方によれば、誰かがすでにこのように生きていることが彼らにとって重要です。そして、どこかではなく、ここで、彼らと同じ条件で。多くの人にとって、これは重要です。そのような人々は、同様の例を見れば、このように生きることができると信じています。

リグデン: 私はすでに、人は模倣と連想思考によって特徴づけられると言いました。しかし、自分自身が人間になることがより重要であり、同じことを目指す人を探すために貴重な時間を無駄にしないことです。パーソナリティとしての人は、自分自身が他の人の模範になると、自分自身と社会にはるかに大きな利益をもたらすことができます。自分の内面の問題に取り組み、自分自身の動物的性質の障害を克服し、人のために、人のために生きながら、人は自分の道を切り開きます。



すべては人の手の中にある、彼の欲求と努力は、外部の生活要因に依存しません。どういうわけか、誰かが来て、自分を導き、自分のためにすべてをしてくれるという幻想の中で生きていて、そうして初めて幸せに暮らせるのです。誰もが外部のリーダーを待っています。しかし、社会全体のように、人は外部の素材に導かれるべきではなく、精神的な内部に導かれるべきです。これについて、最も幸せで最も裕福な人についてのたとえ話があります。

「ある村に一人の男が住んでいました。彼は貧困の中で暮らしていたにもかかわらず、喜びを持って暮らし、常に無関心に他の人をできる限り助けました。放っておかれたとき、彼は神を賛美し、神が彼に豊かな贈り物を与えてくれたという事実に心から感謝したという噂がありました。これらの噂は著名な司祭に届きました。そして司祭は、彼が神を称賛する豊かな贈り物について彼から知るために、その人を訪ねることに決めました。司祭は、この貧しい男が住んでいた惨めな小屋に来て、こう言いました。

- こんなちは!

男は笑顔でこう答えた：

私は悪い日があったことは、覚えていません。

司祭はこの答えに驚きました。誰もそのように答えたことがなかったので、別の方法で挨拶をすることにしました：

「あなたに神が幸せを与えてくれると願っているだけです。

男も驚いてこう言った：

私は決して不幸になったことはありません。

司祭は、この貧しい人は世俗的な会話をするための高度な訓練を受けていないだけだと考え、次のように言いました：

お前は何を言っているんだ?私は、ただあなたの人生が豊かになることを願うだけです。



男はさらに驚き、真摯にこう答えた：

「はい、私は不運ではありませんでした。善人です。

司祭は、この貧しい男が彼の著名な人物を認識していないことに気づき、急いで仕事に取り掛かりました：

- あなたが自分自身に望むことが叶うように願います。

- 私が自分自身を望む?!男は笑った。

- 「でも、何もいらない。私は欲しいものをすべて持っています。

- どうして?!司祭は驚いた。「あなたは、貧し生活で生きてるのに」裕福な人でさえ、色々と欲しがるのに、貧しい人はそれ以上に必要とするはずです。

男は言った：

-「これらの人々は、地上の幸福を求め、幻想を失い、不幸になることを恐れて生きているため、不幸です。この世界の幻想の中で幸福を求める者は不幸である。結局のところ、ここでの本当の幸せはただ一つ、神としっかりと結びつき、神の意志に従って生きることです。私は一時的な幸福を求めているわけではありません。なぜなら、私が持っているもの、人生で神から与えられたものに感謝しているからです。人々が悲しみと呼ぶものも、悪天候と呼ぶものも、私はすべてを喜んで受け入れます。豊かな賜物を与えてくださったことに感謝します。

司祭は笑った：

「しかし、神はあなたに何も与えません。あなたは神に偽善的に感謝していることがわかります。

男は言った：

「神は私をご覧になり、私のすべての誘惑と可能性をご覧になっています。彼はいつも私を精神的に完璧にするものを与えてくれます。

司祭は尋ねました：

- あなたは何のために住んでいますか？

男はこう答えた。



「私の毎日の関心事は、神としっかりとつながり、神の意志に従って生きることだけです。そうすれば、私の人生は神の意志と完全に結びつき、調和します。これが私の一日の流れです。そして毎晩、寝るときは神様のところへ行きます。

どこで神を見つけましたか？

— 彼が真実を見つけた場所、彼が服のように世俗的なものすべてを疑いの岸辺に置き去りにし、純粋な思考と良心の中で彼の照明の水に入ったとき。

司祭はためらいました。なぜなら、彼はそのような言葉を発するような貧しい人に会ったことがなかったからです。

-「教えてください、あなたは自分の信念からこれを言っていますか？」あなたの魂を地獄に送ることが神に喜ばれるとしたら、あなたは同じことを考えますか？

男は肩をすくめてこう答えた：

— 毎日、私は魂を切り離すことのできないすべての抱擁で神にしがみついています。彼に対する私の心からの愛は計り知れません。私の抱擁はとても強く、彼への私の愛はとても無限なので、神が私をどこに送っても、彼は私と一緒にいたでしょう。そして、もし彼が私と共におられるなら、なぜ私は恐れる必要がありますか？私にとっての人生は彼がいるところです。私の魂にとって、神がいない天国にいるよりも、神と一緒に天国を離れた方が甘いでしょう。

- あなたは誰？司祭は驚きと恐怖で尋ねました。

-「私が誰であろうと、私は自分の人生に満足しています。そして本当に、私はそれを地上のすべての支配者の生命と富と交換するつもりはありません。自分をコントロールし、自分の考えを支配し、神への愛を強く抱きしめることを知っているすべての人は、この世界で最も裕福で幸せな人です。」

-「教えてくれ、哀れな男、誰があなたにそのような知恵を教えたのですか？」



-「私の唯一の先生は神です。私は人生の毎日、この世界で良いことをしようとして、祈り、敬虔な考えを実践しています。しかし同時に、私は常に一つのことを気にかけています。それは、神と、私に対する神の無限の愛としっかりと一体になることです。神との結合だけが私を靈的に完全なものにします。神の愛に満ちた人生は、私にすべてを教えてくれます。」

人はそれぞれ、自分の人生で行うことや選択することすべてに対して主に精神的な責任を負うペーソナリティです。結局のところ、ほとんどの人は責任とは何かを理解しています。彼らは、いくつかの重要な、イデオロギー的、国内的、財政的およびその他の問題を解決する責任を負います。彼らは主に自分のためではなく、家族のため、子供や孫の将来のため、友人のため、身近な人々のためなどに努力しています。ですから、スピリチュアルな面では、すべての人にとって重要なことのように、自分のスピリチュアルな運命に責任を持ち、人生で可能なことも不可能なこともすべて行って、自分の魂と融合し、本当の目的を達成する必要があります。物質世界からの自由。誰かを待つ必要はありません。自分で行動し、まず自分から始める必要があります。あなた自身が他の人にとって良い模範でなければなりません。そうすれば、あなたと社会の前向きな変化はあなたを待たせません。

アナスタシア：はい、あなたの言葉には真実があり、それは魂に深く触れ、興奮させます。すべては、尺度も境界も知らないスピリチュアルな愛によって征服されます！ご存知のように、さまざまな年齢の読者が同じ質問をしていることに気付きました：「本当の愛とは何ですか？」この問題についてあなたが提供した情報を考慮して、

以前、現代社会では、この概念が大幅に置き換えられ、意味と本質が歪められていることがわかりました。



どこを見ても、現代の世界では、子供、ティーンエイジャー、若者、高齢者、「独身」、家族、未婚者など、ほとんどすべての人が真の愛の欠如を感じていることが明らかです。

リグデン： この概念の鍵が現代社会で完全に失われたとは言いません。それらは存在しますが、誤解の厚さの下に隠され、唯物論的な世界観の鎧です。しかし、彼らを見つけるには、少なくとも彼らがどのように見えるかを知る必要があります。もう1つのことは、消費社会では、ほとんどの人がこれらの鍵を見つけられないようにするためにすべてが行われ、動物の本能だけに導かれて苦しみの中でこの知識なしで生きることです。なぜ？はい、本当の愛は人を内部的に解放し、最も価値のある天国の贈り物、つまりこの物質界からの本当の自由を与えるからです。これは魂を目覚めさせる非常に強力な力です。これが神に最も近く、最短の道です。

アナスタシア： これについてもっと教えていただけますか？結局のところ、この問題の本質を独自に理解し、鍵を見つけることができるよう、ヒント、見る方向のヒントで十分な賢い人々がたくさんいます。

リグデン： もっと詳しく説明することもできます。残念ながら、人々は愛をあらゆるものと考えています。「アルファ男性」と「アルファ女性」のエゴイスティックな本能から、配偶者、両親、の関係に至るまでです。



子供、家族、社会、国に対する道徳的責任など。しかし、これらはすべて慣例です。眞の愛は、人々が想像するよりもはるかに強力な力です。

愛についての現在の理解は、子供の頃から課せられたパターンによって、ほとんどの人の心の中で制限されていると言えます。基本的に、大衆にとって、これは地元の伝統を考慮した特定の慣習内のゲームです。社会では、これらの問題について一般に公開されている情報と閉じられている情報が常に存在しています。オープンな情報は、州、公共の利益に焦点を当てていました。これは、機密情報を持つ構造に有益な特定の行動モデルを大衆に広めることを目的として配布されました。秘密情報は、権力、特に宗教的、オカルト志向に関連するさまざまな構造で積極的に使用されました。それは目に見えない世界についての特定の知識に基づいており、それにより大衆への追加の力と影響力を獲得することが可能になりました。

この情報の最後の役割は、人体で最も強力なエネルギーの1つに割り当てられているわけではありません。条件付きで性的エネルギーと呼びましょう。この問題に関する公開情報は、原則として、人の動物的性質に基づいてループされるか、問題の本質から遠く離れた原始的な説明を伴う特定のタブーに限定されます。その結果、人は抑えきれない欲望と墮落に陥るか、精神的な自己批判、このエネルギーのバースト中の過度の制限に苦します。



これは、人の性質に対する誤解と、この力に関する十分な知識の欠如が原因で発生します。どちらの場合も、彼は最終的に待望の幸福と内なる心の安らぎを得ることができませんが、原則として、空っぽまたは過度の緊張を感じます。

性的エネルギーは、人に影響を与える強力な力の 1 つです。人の思考における欲望の対応する意識的または潜在意識的な解釈に従うことによって、その力を確信することができます。簡単に言えば、人々が日中、セックスについて考えるのと同じくらい魂を救うことを考えていたら、誰もがずっと前に聖人になっていたんだろう。そして力、それは力です。それはすべて、誰がそれをどのように使用するか、何に注意を向けるかによって異なります。人が動物の性質の支配の文脈でそれを使用する場合、それは自尊心、欲望、攻撃性、あなたが「アルファ男性」または「アルファ女性」であることの証明のカルトに変わります。消費社会では、子供のゲームのように、誰もが欲しがる最も美しいおもちゃを手に入れることができません。その後、このおもちゃは飽きてしまい、別の美しいおもちゃの追求が再び始まり、その人がさらに良いものを見るまで続きます。そんな人間の欲望に終わりはありません。男性にも同じ欲求があることに注意してください-最高で最も魅力的になりたい- 女性は、車、アパート、衣服など、他の分野にも現れています。これらすべての根源は、常に力を求め、一時的で有限で腐りやすいものを所有するために努力する動物的性質です。そして、全体的な意味では、アニマルマインドが勝利し、このようにして、別の一連の幻想とともに、人が自分の生命力を浪費し、精神的な救いに焦点を合わせる代わりに死すべき者に注意を向けています。



アナスタシア: 一般的に、人は敵に注意を向けます。実際、敵は自分を殺します。

リグデン: はい。人は性的エネルギーを持っており、それは生殖の本能に関連して現れるだけでなく、心理的、生理学的、その他の強力な影響を与えていると想えるのは理にかなっています。それは、創造力が、目に見えるものと見えないものの両方の人間の構造の最後の場所を占めていないことを意味します。結局のところ、ホルモンの急増とは何ですか?これは、エネルギーの仕事の派生物としての化学化合物の形成、つまり、より詳細な物理学です。そしてアクティベーターが考えられます。ちなみに、ホルモンという言葉(「ホルマオ」)は、ギリシャ語から翻訳されたもので、「私は興奮する」、「私は行動に移す」という意味です。生物学的に活性な物質としてのホルモンは、体内に変化をもたらし始め、体内のすべての重要なプロセスに影響を与えます。そして、私たちは生理学のレベルで人々がすでに知っていること、つまり目に見える世界、目に見える物質について話しているのです。そして今、この力が目に見えない世界にとって何を意味するのか想像してみてください。そこでは微妙な影響と変容が起こり、実際にはそこからすべてが生まれます。精神的な意味で、性的エネルギーは力であり、深い感情へのガイドです。たとえば、最高の謎の世界へのガイドです。この神聖な知識は、何らかの形で、多くの伝統的な宗教、世界のさまざまな人々の信念に見られます。そして、おそらく、これについて詳しく説明します。



真実の愛とは、言葉では言い表せない人の最も深い感情です。これが魂の力であり、神への愛の状態です。人々の間の真の愛は、ある人が別人の魂への深い愛を経験し、彼らが言うように、「沈黙の中に驚きがある」とき、彼の本質を見るときに始まります。

違いがわかりますか？

この状態は、人が自分の利己的な目的のために他の人を所有し、支配し、使用したいという欲求を持っている場合、その人にとって習慣的な単純な性的爆発とは大きく異なります。それは、いくつかの瞬間的な気分、不安定な感情、多くの利己的な「欲しい」の優位性で表現される心理的理解とは大きく異なります。これはすべて、人が誰かを支配している、または自分のすべてを与えていると主張しているが、互恵を受けていないという幻想の下にあるときによく起こります。彼らはまた発明しました。実際には、彼は本当の無私の愛を経験していませんが、自分自身や他の人々に彼のアルファの重要性を示そうとしています。人間関係では、これは遅かれ早かれ誤解や緊張に変わり、不和や敵意を引き起こします。これは、本当の深い感情ではなく、動物の性質の欲求に基づいているためです。繰り返しになりますが、人は自分自身ではなく、すべての人を責め始めます。

しかし、これは彼が自分のエゴを主張するだけで、真に愛する方法を知らず、そのような愛を自分自身に必要としていることを示しています。



つまり、「戦争と平和」は、まず心の中で始まります。人の問題は、彼が自分自身に働きかけ、本当の精神的な愛、つまり彼の魂が神に対して感じるまさにその愛を生み出すことを望んでいないことです。

真の愛は、人が過度の深い感情から別の人与える寛大な内なる贈り物です。そのような愛は、自分のことを忘れたとき与えることができます。彼らが長い間耐え、許し、嫉妬せず、誇りに思っておらず、自分自身を求めず、悪を考えていないと彼らが言うのは、そのような愛についてです。

真の愛は魂の統一の回復です。愛する人は、自分の魂の美しさである別のものに親族関係を見ます。人が真の愛にあるとき、彼は表面的な美しさ以上のものを見ます。それは、他の人の精神的、肉体的な美しさ、彼の才能、能力を意味しますが、彼の精神的な性質の内面の美しさを意味します。この場合、彼はまったく別の角度から人を見始めます。そして、その人にも顕著な変化が起こります。後者が外の世界に対して攻撃的に振る舞ったと想像してみてください。突然、彼にとって予想外に、誰かが彼の中に悪人ではなく親切な人を見て、彼の悪い資質ではなく、彼の良い資質に注意を向けました。つまり、彼は彼にも存在する彼の精神的な美しさに注意を向けましたが、意識が支配的ではありませんでした。この誠実な気持ちのおかげで、人は心を開くだけでなく、完全に意識して、より良い方向に変化する愛のボウル。



スピリチュアルな道を歩みたい人は、誰かがやってきて心から愛するのを待つて時間を無駄にすべきではありません。彼らは、自分自身の中にある愛、つまり神への愛、魂への愛を明らかにすることを学ぶ必要があります。そうすれば、それは周囲の世界に反映され、精神的な美しさの観点から人々を見る事ができるようになります。人が想像できるよりも、実際にはすべてが近くにあります。

アナスタシア: はい、人々は本当の愛が何であるかについての基本的な知識を失っているようです。大衆にとって、本質を理解せずに伝統だけが残っています。運命を共にすることを決意した男と女に天の恵みが降り注ぎ、人間関係を天上のものに変えたことを祈ります。あなたが言ったことを考えると、それは単なる言葉ではありません。

リグデン: その通りです。ポイントはまさに本質にあります:魂の神秘です。2人がお互いに真の愛を示し、最も深い感情で団結するとき、正統派で次のように言うように、物理的な団結(「身体のコミュニケーション、人間の肉体の団結」)でさえ助けになります。、それは行動であり、神から直接進み、神に導かれます。それは「すべての自然な関係と状態を超越する奇跡」です。これには深い意味があり、この秘跡には確かに大きな力が隠されています。ここでの優位性は物質ではなく、スピリットです。物質は追加の手段にすぎません。



アナスタシア: はい、愛はすべてを征服します。残念ながら、今日の読者からの伝統的な質問について、もう少しお尋ねする必要があります:「現代人が変わることは本当に可能ですか?」

リグデン: なるほど。人は自分の能力についてあまり知らないというだけです。

アナスタシア: 人の認知を妨げているものは何ですか?

リグデン: 基本的に、動物性からの恐怖は未知への恐怖であり、何よりも想像力をかき立てます。しかし、この恐怖は、未知が知られるようになるまでしか存在しません。未知なるものを探るためには、それに興味を持ち、思考の幅を広げなければなりません。そうでなければ、自分の思考が自分になじみのあるものだけを吸収し、入ってくる情報に適切な制限を加えるとしたら、どうやって新しいものを見ることができるでしょうか? 狹い視野、世界の深い理解の欠如はまた、(動物の性質から)永遠に接触し、比喩的に言えば、人が持っているあの枝、一時的なものを失うことへの恐怖を引き起こします。私が前に話したたとえ話は今も続いています。

アナスタシア: あなたは何かを知るためにには、少なくともそれを知ろうとし始めなければならぬと言いました。

リグデン: はい。古代の聖者が、世界を知るためにには自分自身を知る必要があると言ったのも不思議ではありません。



そして、自分自身を知るためには、通常の認識パターンから離れなければなりません。結局のところ、私たちの内なる世界は、私たちが考えていたよりもはるかに大きく、興味深いものです。その美しさ、スケール、深さは、習慣的な認識だけでは知ることができません。たとえば、瞑想的なテクニックを実行するときなど、未知の深みに飛び込むと、常に自分と一緒にあったものと、世界を完全に理解できるものを見て感じることができます。深い感情（またはいわゆる第六感、特定の瞑想的で精神的な実践によって発達させることができる直観の感覚）により、論理によって制限された意識よりも多くの情報を知覚することができます。彼らは状況を予測し、スピリチュアルな性質から観察者の立場から膨大な知識を与えます。

結局のところ、私たちが目で見ることができる狭いスペクトラルではなく、現実の世界は非常に多面的で多様であるため、3次元空間の位置からのみ研究することは不合理です。人の多次元構造により、スピリチュアルな性質からのオブザーバーは、さまざまな意識の変化した状態で働き、さまざまな場所に同時にとどまるすることができます。これにより、さまざまな代替状態、次元、つまり、さまざまな現実でさまざまな可能性を「見る」または持つことができます。人にとって、この潜在的な「非現実」の多様性は、特定の選択をしない限り現れます。後者は、瞑想者が共鳴する多くの相互に関連した現実の1つを表しています。言い換えれば、瞑想している人は、自分の選択によって、すでにこの現実に変化を起こしています。瞑想は、人生そのもののように、個人の選択があれこれを形作る未来。



そして、ここで驚くべきことは何もありません。これは、これまでまだ研究されていない別の物理学です。ただし、この方向の研究はすでに進行中です。特定の科学的疑問を理解または解決すると、さらに多くの疑問が生じます。たとえば、量子物理学が発見した答えは、この複雑な世界の相互接続と相互依存の複雑な連鎖に沿って、生化学、生物物理学などの問題を引き起こします。ご存知のように、大宇宙は小宇宙の反映です。マクロオブジェクトの構造、よく調整された作業、および機能を理解するには、その小宇宙の研究と理解から始める必要があります。

アナスタシア： 今日まで、人はその驚異的な能力のおかげで、光線の偏光、電磁場、水の特性を変更したり、レーザービームを偏向させたり、他のオブジェクトから情報を読み取ったりできることが実験的に確立されています、等々。つまり、人(少なくとも科学が今日修正できる能力)を考えると、そのような現象のメカニズムを理解するためには、目に見えるものだけでなく、最も重要なことに目に見えないものも研究する必要があります。

リグデン： 確かに。マテリアルオブジェクトは、一連の化学元素で構成されています。人について話すと、彼の体には周期表全体とさらに多くの未発見の化学元素が含まれています。



しかし、注目に値するのは、人間の小宇宙を掘り下げる、その後、

化学元素の数が減少し、それらの相互作用がより複雑になることがわかります。たとえば、分子のサイズに深く進むと、化学元素の数が単位に減少することがわかります。原子の小宇宙にさらに没頭すると、化学は消え、量子物理学は素粒子のレベルにとどまります。ここで、素粒子は境界状態の特性を明らかにします。同じ粒子は、特定の条件下では、物質（粒子）になることも、エネルギー（波動）になることもあります。さらに、多くの隠された驚くべき特性が明らかになります：距離やエネルギー移動に関係なく粒子の相互作用など。しかし、量子物理学もまた限界があると言う人がいるかもしれません；それは、物質（粒子）がエネルギー（波動）に移行する2つの世界の境界に立っています。

さらに深化すると、量子物理学は消え、人類にはまだ知られていない完全に新しい世界が始まります。エネルギーの多次元世界、そして - 情報の世界（上記の非常に基本的な情報構成要素）。人生そのもの。

そのようなパラドックス、私が言うには、人間のパラドックスがあります。例えば、体重70kg、身長1m70cmの中年の人を例にとると、この人を構成する素粒子をすべて合わせると、小さな指ぬきにも満たないほど重さになります。1グラムを超えないでください。そして、この情報構造に従って、これらの素粒子をそれぞれの場所に配置するとします。



空間の特定の時点で、体重 70 kg、身長 1 m 70 cm の大きくて重い中年男性が再び現れます。

アナスタシア: すごい。

リグデン: 質問: その体積と質量はどこに行くのですか?

アナスタシア: たぶん、ドーナツを食べたときのドーナツの穴と同じ場所に 人の体重も錯覚なの? それでも興味深いのは、重さの錯覚を生み出すものは何だろうか?

リグデン: この質問には答えがありますが、それは現代物理学の理解を超えてます。しかし、それは先ほどお話しした宇宙の情報構成要素に関する知識に基づいてます。

ある「計画」に従って、情報ブリックのさまざまな組み合わせが作成されるとしましょう。その結果、同じ化学元素からさまざまな形態の「生物」または「非生物」が形成されます。情報を順序付けするためのさまざまなオプションと、観察プロセスにおけるエネルギーの非常に初期の生成により、たとえば、反対側からのスーパー・オブザーバーが作成されます。人々は彼を神、創造主、至高の心、世界の人々の神話によれば、宇宙を創造し、それを支配する者と呼んでいます。情報がどのように比較されるか、その結果、どのエネルギーまたはその成分が素粒子に変換されるかを決定するのは、このスーパー・オブザーバーです。そしてこれに応じて - 正確に何が現れるでしょう。



そして、比喩的に言えば、足元の石や頭上の星など、物質界で創造されました。結局のところ、私たちを含む私たちの周りのすべては、同じ要素で構成されていますが、接続されています さまざまなプログラムの下で。そして、これらの情報プログラム、これらの主要なエネルギーは、すべてを創造した神の計画の現れにすぎません。形や組み合わせは異なりますが、それにもかかわらず、すべてが相互に関連しており、すべての「生きている」と「生きていない」が相互作用し、それが彼の意志であり、彼の考えです。

人の中には、すべてを創造した方の粒子があります。人々はそれをソウルと呼んでいます。この形での(物質の奴隸化された)存在には、彼の意図があります。それを観察せずに何かを作成しても意味がないからです。人が自分の靈的変容を観察することが価値があるのと同じように、神にとって、魂の観察は価値があり、神に戻った人は価値があります。しかし同時に、選択の自由は本人に留保されています。人はどんな道を選ぶのも自由です。しかし、永遠への道を除いて、すべては一時的で致命的です。精神的な発達と魂との融合の際に、精神的な性質からの観察者になるのはパーソナリティであり、その創造主のように、それ自身の観察のおかげで、物質世界の多くのことを変えることができます。たとえば、自分の運命だけでなく、他の人の運命も変えて、自分の周りの世界に変化をもたらすこと。

アナスタシア: オブザーバーは自分の観察をどのように変更できますか?

リグデン: この質問への答えを明確にするために、量子物理学に少し余談を作りましょう。



科学者が研究すればするほど

この科学が提起する疑問が多ければ多いほど、世界のすべてのものは非常に密接に相互に関連しており、局所的に存在するものではないという結論に達します。

同じ素粒子がつながって存在しています。量子物理学の理論によれば、2つの粒子の形成を同時に誘発すると、それらは「重ね合わせ」の状態になるだけでなく、多くの場所で同時に発生します。

しかし、1つの粒子の状態が変化すると、別の粒子の状態が瞬時に変化します。たとえこの距離が、現代の人間に自然界で知られているすべての力の作用限界を超えていても、それがどれだけ離れていてもです。

アナスタシア: そして、そのような即時の関係の秘密は何ですか？

リグデン: では説明します。たとえば、電子を考えてみましょう。それは、内部の可能性を決定することを含む、その主な特性を設定する情報レンガ（または、古代人がそれらを「ポーの種」と呼んだ）で構成されています。現代の概念によれば、電子は「静止軌道」（軌道）に沿って原子核の周りをいわば動きます。より正確には、その動きはすでに与えられた軌道を持つ質点としてではなく、電荷凝縮の領域を持つ電子雲（原子の体積全体に「塗りつけられた」電子の条件付きイメージ）として表現されています。そして放電。そのため、電子雲には明確な境界がありません。軌道の下（軌道）特定の線に沿った電子の動きではなく、空間の特定の部分、領域を念頭に置いてください。原子（原子軌道）または分子（分子軌道）内に電子を見つける最大の確率が保存される原子核の周りです。

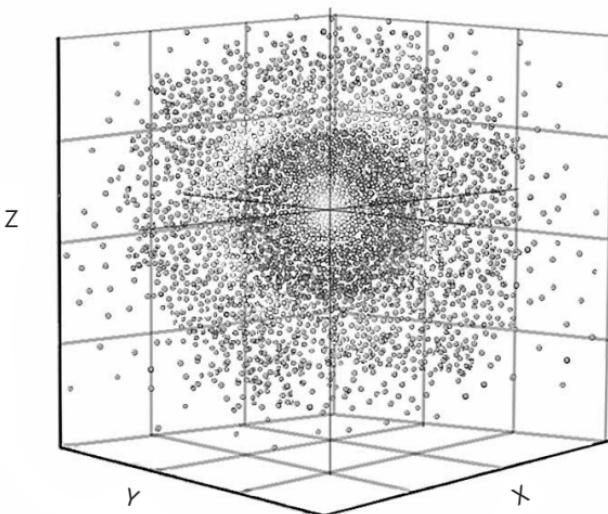


図 2。水素原子の電子雲: 原子核の周囲の 3 次元空間のうち、電子が見つかる可能性が最も高い部分。

内部ポテンシャルと外部電荷の差がこのような軌道を作ります。内部エネルギー（ポテンシャル）の質は、物質的なオブジェクトを特徴付けます。つまり、現代科学の言葉では、そのような原子の電子殻（軌道）は、それらの電子の数と位置に応じて、原子と分子の電気的、光学的、磁気的、化学的特性、およびほとんどの固体の特性。学校の化学の授業で覚えているように、電子雲の形は異なる場合があります。

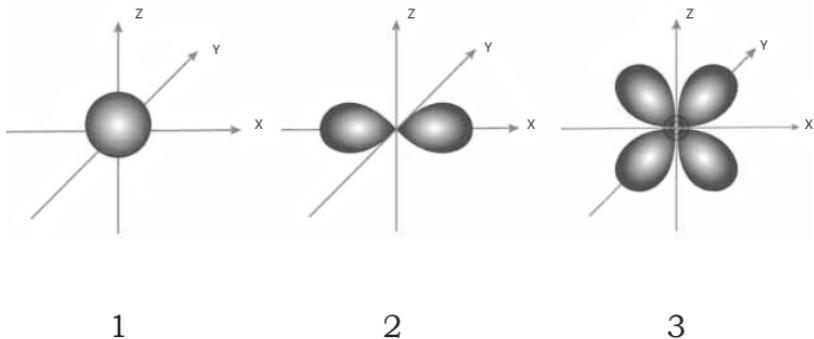


図 3。電子雲のさまざまな形（「量子化学の幾何学」）：ポールの形をした s 軌道電子雲（丸印）。2) p-軌道 - ダンベルまたは二重洋ナシ形（無限大の記号）。3) 4 枚の花びらの花の d 軌道形（斜めの十字の記号）。

つまり、ご存知のように、物質界の電子は、粒子と波という 2 つの状態で同時に存在できます。同じ量子物理学によれば、それは一度にさまざまな場所に現れる可能性があります。原子軌道から離れる、またはより正確には消えると、電子は即座に移動します。つまり、ここで消え、別の軌道に現れます。

しかし、この問題で最も興味深いのは、科学者がまだ知らないことです。たとえば、水、生物、天然資源の一部であり、宇宙で最も一般的な要素の 1 つである水素原子の電子について考えてみましょう。水素原子核の周りにある電子雲は球状です。これは、現段階で科学が修正できるものです。しかし、科学者たちは、電子自体がねじれらせんになっていることをまだ知りません。さらに、このらせん（まったく同じ）場所に応じて、左右の両方にねじることができます。それに充電します。このらせんの形と電荷の集中する場所の変化のおかげで、この電子は粒子の状態から波の状態へ、またはその逆に容易に移行します。



比喩的な例を挙げます。手にオレンジを持っていると想像してください。ナイフの助けを借りて、その頂点の1つから、条件付きで、点Aから別の点Bに、条件付きで言ってみましょう。オレンジの皮、通常の折り畳み形では、オレンジの輪郭を繰り返してボールの形になります。そして伸ばすと波打つ縄のようになります。したがって、オレンジの皮のオレンジ色の面は、私たちの比喩的な例では、点Aの近くの表面に外部電荷があり、内部から点Bの近くに内部電荷がある電子スパイラルになります（白い面）。皮）。ポイントA（ピールのオレンジ色側）での外部変化は、同じ瞬間的な内部変化につながりますが、強度と効果が反対で、ピークBの下のピールの白い側に位置するポイントで変化します。電子の外部電荷が減少し、内部の建物のらせんの影響下で 伸びて電子は波動状態になります。波と物質の相互作用の結果として形成される外部電荷が再び現れると、らせんが収縮し、電子は再び粒子の状態になります。粒子の状態では、電子は外部負電荷と左巻きの螺旋を持ち、波動状態では右巻きの螺旋と外部螺旋を持ちます。正電荷。そして、このすべての変化はエゾオスモスによって起こります。

三次元測定の位置からの観察者は、特定の技術的条件が作成されると、電子を粒子として見ることができます。しかし、私たちの物質世界をエネルギーの形で見る高次元の観察者

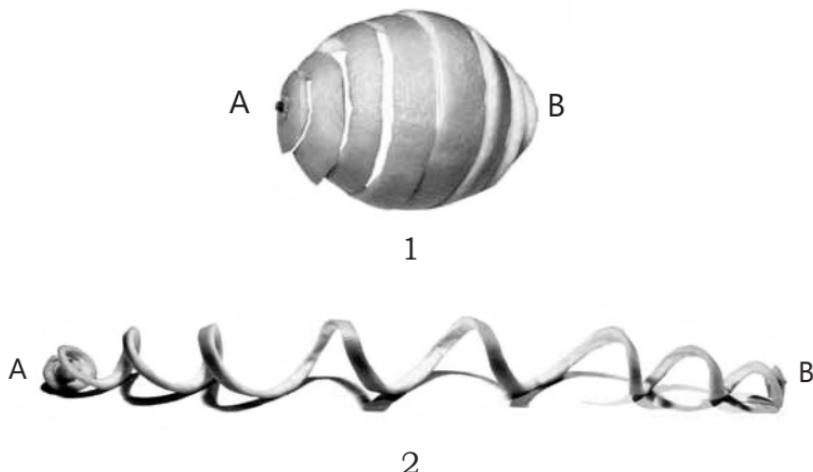


図 4. 電子が粒子から波に変化する例: 1) 粒子の状態。2) 波の状態。

は、同じ電子の構造の別の図を観察することができます。特に、この電子を形成する情報ブリックは、エネルギー波の性質のみを示す（伸びた螺旋）。さらに、この波は空間では無限になります。簡単に言えば、現実の一般的なシステムにおける電子自身の位置は、物質世界のどこにでもあるようなものです。

アナ斯塔シア: 三次元世界のオブザーバーとして見るかどうかに関係なく、存在すると言えますか？



リグデン： はい。これを理解するために、鏡を使った別の例を見てみましょう。いくつかの基本的な情報ビルディング ブロックが、特定のオブジェクトであるローカル ポイントである構造を形成するとします。部屋の真ん中に置きましょう。そこには、特定の角度でたくさんの鏡がそれぞれに映るように配置されています。したがって、オブジェクトは部屋の真ん中にあり、すべての鏡に反映されます。さらに、私たちはそれを見るので、それに関する情報も私たちの心の中にはあります。つまり、このオブジェクトに関する情報は、複数の場所に同時に存在します。そして、鏡の1つを取り除くと、その場所ではこのオブジェクトが観察されなくなります。しかし、鏡を元に戻すと、再び表示されます。したがって、原則として、彼に関する情報は消えませんでした。ただ 情報の明示のための特定の条件下では、オブジェクトが表示されますが、条件が変更されました-オブジェクトは表示されません。しかし、客観的には、このオブジェクトは情報的にその場所に存在し続けます。反射は連続的な流れを持つことができます。つまり、このオブジェクトは、私たちがそれを見るかどうかに関係なく、この部屋のすべてのポイントにあります。(ちなみに、部屋だけでなく、部屋を超えた空間も)。

量子物理学によれば、粒子の状態での電子の滞在は、測定または観察の行為そのものに依存します。つまり、測定も観測もできない電子は、粒子ではなく波のように振る舞います。この場合、彼は今ここに同時に多くの場所にいるため、つまり重ね合わせの状態にあるため、彼には確率の全領域があります。



同時に、電子が複数の位置を占める場合、同じ電子と同じ波になります。

重ね合わせとは、オブザーバーが測定（特定のオブジェクトの計算）を行うまで、選択が行われるまで、すべての可能な代替状態に同時に存在する可能性です。オブザーバーが電子の振る舞いに注意を向けるとすぐに、電子の意味で電子がどのように粒子に崩壊するか、つまり、波から物質的な物体に変わり、その位置を特定することができます。つまり、測定後、いわばオブザーバーの選択後、1つのオブジェクトは1つの場所にのみ存在します。

アナスタシア： おお、それは興味深い情報ですね！量子物理学の発見は、自己改善に取り組んでいる人にとって価値があることが判明しました。これは、ある意味で、人が瞑想に失敗する理由を説明しています。結局のところ、いわば、瞑想のプロセスの「具体化」、つまり、エネルギーが再び物質の特性を獲得する波動状態から物質状態への移行に寄与するものは何ですか？それは動物性からの観察と制御です。というか、うまくいかない 習慣的で日常的な意識状態の特徴である思考プロセスがオンになったときの瞑想。同時に、脳は常に何かを識別し、観察対象を特定しようとしています。このような状況は、瞑想中にパーソナリティが意識の変化した状態に十分に浸っていないか、この状態を制御できなくなったときに発生します。これにより、動物の性質が観察の過程に介入することが可能になり、その結果、連想的なイメージが生まれ、真実が失われます。



波は物質の中を通過します。しかし、思考プロセスで「脳をオフ」にして瞑想に完全に従事するとすぐに、深い感情の現れのおかげで、意識の拡大が起ります。精神的な性質から観察された物質が波に変わります。あなたは世界の本当の現実と融合し、それと一つになり、同時に、あたかもあなたがたくさんいて、どこにでもいるかのように、そのすべての多様性を感じます。次に、真実を知るプロセスとして、真の瞑想が行われます。

リグデン: その通りです。動物性の世界は、物質とその法則の支配の世界です。神の世界は完全なエネルギーの世界です。あなたが意識の変化した状態で瞑想しているとき、あなたはプロセスの一部になり、ここでの神聖な顕現の一部になります。動物の性質からのオブザーバーがあなたの中でオンになるとすぐに、物質に対するあなたのコントロールの事実が確立されているように見えます。実際、物質(アニマルマインド)によってあなたを支配しているという事実が確立されつつあります。結果として 実際、あなたはより明白な物質的な物体になり、実際には、一般的な物質の粒子の物体(小体、ラテン語の小体-「体」、「物質の最小の粒子」)に変わり、その法則に従います。あなたが波動状態に切り替わると、あなたはこの世界の神の顕現の一部、つまり精神的な性質からの観察者になります。それが言われている理由です:あなたがもっと持っているものは、そうなるでしょう。

瞑想の状態では、通常の知覚は消えます。特に経験豊富な瞑想者の場合、精神的な状態を考えるとの実践「蓮の花」は、まさに、意識が大きく広がり、慣れ親しんだ世界の境界を越えていく。



人は同時にどこにでもいると感じます。量子物理学における重ね合わせ、つまり波動状態の獲得は、瞑想において、物質がすでに存在しない高次元への出口の状態の獲得と同じであると言えます。瞑想状態での重ね合わせとは、世界全体とそのさまざまな表現を、深い感情で感じるという意味で「見る」ことです。しかし、オブザーバーが何かに集中するとすぐに、彼の意識は狭くなり、観察対象に限定されます。つまり、選択をして特定の詳細に焦点を合わせるとすぐに、波は物質に変換されます。結局のところ、細部に集中すると、体積知覚 消えて、細部だけが残ります。動物性からの思考は一種の道具であり、物を物質化する力であり、スピリチュアルな性質からの感情は意識を拡大し、より高い次元に入るための力です。

アナ斯塔シア：ええ、この世界はどれほど複雑で、単純なものがどれほど明白であるかということです。

リグデン：では、量子物理学に関しては

一方で、オブザーバーのこの概念は、科学者の知識の境界を拡大しました。結局のところ、スーパーオブザーバーの位置は、宇宙、そのすべてのオブジェクト、およびそこで発生するすべてのプロセスに外部から影響を与えることができるある種の巨大な力があることを証明しています。

アナ斯塔シア： 実際、これは神の存在を科学的に証明する別 の方法ですか？



リグデン： はい。人間は神の力の粒子として魂を持っています。彼が内なる世界を変えれば変えるほど、彼の人格は魂と融合し、神に自分自身を明らかにし、精神的に強くなり、より高い次元から物質界に影響を与える機会を得ます。そして、そのような人々が多ければ多いほど、この影響はより重要で大きくなります。スーパー・ウォッチャーは、すべてに影響を与えることができる神です。そして、スピリチュアルな性質からのオブザーバーとして、人は世界のプロセスに干渉し、マイクロレベルでそれらを変えることができるオブザーバーです。もちろん、動物の性質からの観察者の立場から、物質を操作することができます。しかし、人は、スピリチュアルな性質からのオブザーバーがオンになったときにのみ、真の影響力を受け取ります。

アナスタシア： 精神修行を行い、世界の現実に対する理解が深まると、これが事実であることを理解できます。これは、異なる時期に異なる大陸で起こった信じられないほどの奇跡によっても確認されています。人々が聖人と見なした人々。結局のところ、要素を止めたり、水の構造を変えたり、病気を治したり、人を死から復活させたりすることは難しくありませんでした。

リグデン： もちろん、人は自分がどんな能力を持っているか想像すらしていません。観察は、隠された秘密を知るための最初のステップです。動物的性質または精神的性質からの観察者の立場から熟考すると、私たちはすでに状況自体とその可能性のある結果、私たちには見えない世界での事前決定に影響を与えています。



各状況とは、今ここで与えられた場所にいるあなたの存在だけでなく、あなたがこの瞬間に自分自身をどのように正確に観察するかに対する一種の反応です。

アナスタシア： 実際、私たちは常に環境の中で自分自身の一部を観察し、世界の現実についてではなく、自分の世界観と経験に基づいて世界をどのように解釈するかについて判断しています。

リグデン： そうですね。世界について何かを言っているということは、概して、自分自身について何かを言っているということです。聞き上手な人は、話している人のことを、自分のことを明らかにしようとするよりもずっと多く聞いています。

アナスタシア： 言い換えれば、何らかの方法で、私たちは動物の性質からのオブザーバーの一種の「バラ色のメガネ」を通して外の世界を見ています。内なる世界を変える努力を怠れば減らすほど、それは私たちにとって悪いことになります。実際、この場合、動物の性質からの観察者の支配に関連する経験だけがさらに成長します。つまり、世界認識のさらに歪んだ画像を受け取ることになります。

リグデン： はい。ちなみに、これは、脳、意識、人の考え方、世界観の形成に関する既存の知識の位置からでもたどることができます。原則として、消費社会では、世界は物質的であり、おそらくこれが人にとって唯一の存在する現実であるという、生まれながらの人に特定の態度が植え付けられています。私たちの脳は、さまざまなステレオタイプを非常に迅速に採用するように設計されており、さらにに基づいているとすでに述べました。その人が新しいものを選ぶまで、それらのうちの個。したがって、 実際、子供時代は彼の人生を築き始めます。



実際、誤った態度、動物の性質からの観察者の位置からの世界の一方的なビジョンによると。彼の態度や個人的な選択に対応しないものはすべて、その人は単に無視します。彼は、いわば、世界と自分自身の認識の非常に狭い生活範囲を選択し、それ以上のことには興味がありません。その結果、人は「陳腐な」連想を使用し、自分の行動や意図がかなり予測可能になります。

そして、周囲の世界からのその選択的な情報は何ですか？ そのほとんどは視覚を通じてもたらされます？同じ量子物理学によれば、私たちが見ているのは、与えられた空間の幾何学によって生成された錯覚です。通常の意識状態では、私たちは遠く離れた宇宙や他の観察者の位置からではなく、特定の瞬間に特定の座標にある特定の 3 次元空間に没頭している観察者の位置から世界を知覚します。間に合います。したがって、この時点からのみ、一方的に世界を知覚しますが、ここでは歪みなしではできません。私たちは自分の体を、毎日の意識状態に合わせて脳が知覚する 3 次元の画像として見ていています。意識の状態を変えて、たとえば瞑想状態の肉体を考えると、オーラとそれに対応する殻が見えますが、一般的に、私たちの構造はまったく異なります。高次元からの観察に関連したより複雑な瞑想を行うことで、を含むより大きな一体型構造を見るには、別の次元にあります。したがって、これらすべては、人のエネルギー構造についての理解を深めます。



さらに、脳が頭蓋にあること、つまり外部環境から完全に隔離されていることを考慮する必要があります。私たちを取り巻く物理空間の光と直接接触することはありません。目に入る光は、単純に電気信号に変換されます。そして、比喩的に言えば、脳がその「暗闇」の中で分析し、解読するのはこの信号です。言い換えれば、私たちの脳は「実際の画像」(より正確には、特定の空間の幾何学的な錯覚)を見るのではなく、外部からの変換された信号、つまり画像の「電子コピー」のみを認識します。限られた知覚範囲。

アナスタシア: 一般的に、これは観測されたオブジェクトの過去の瞬間の状態の「電子コピー」であるだけでなく、このコピーは、目に見える、さらには目に見えないさまざまな世界からの情報の塊とは言えません。そして、まだ幻想的な人は、自分はこの世界を知っていて理解していると思っています。

リグデン: はい、人は動物の本性から考える習慣からそう考えるのです。脳は、天文学的な数の要素とそれらの間の接続を備えた生物学的装置であり、環境と直接接触していません。脳は超冗長です。つまり、必要以上に計り知れないほど複雑な機能を実行できます。



地球に住んでいます。脳は、夜も昼も常に働いています。彼は自分の状態を、たとえば睡眠、覚醒などに変更するだけです。それは、そのシステムの絶え間ない自己再編成に固有のものです。通常、0.5秒から2.5秒の間安定しており、固定リンクが常に動作しているにもかかわらず、一部の変数（フレキシブルリンク）がオンになり、他の変数がオフになります。脳は単調さに「退屈」しているようです。絶え間ない思考プロセスが進行中です。その中でさまざまな情報の処理が24時間行われています。脳は、意識と世界の間の仲介者です。彼はコード、つまり五感から来るものを含むさまざまな信号を認識し、解読しようとします。しかし、脳は目に見える世界だけでなく、目に見えない世界から来る他の多くの信号を知覚できることに注意することが特に重要です。現代の科学者にとってこの確認は、特定の瞑想的実践に従事している人々の参加を得て行われた実験であり、彼らの状態を変えています意識。これらは仏教の僧侶であり、シベリアのシャーマン、千里眼などです。さらに、この実験グループには、時折、自然に異常な能力を発揮する人々が含まれます。すぐ一般に、そのような能力は、明らかになれば、誰にでも固有のものです。

アナスタシア： これは実際、基本的な知識を持った人間である証拠です。

彼は部屋から、目を閉じた状態で、技術的手段や既知の感覚器官の助けを借りずに、変性意識状態で世界を認識することができます。



リグデン: 彼のこの知識は、人が通常の意識状態で得ることができるものよりもはるかに有益で豊かになることに注意してくださいなぜ? 彼の意識が別のモードで働き始めるからです。現代の機器の助けを借りても、意識の変化した状態で脳活動がどのように再編成されるかを追跡することは可能です。人が習慣的な意識状態で考えるとき、脳のさまざまな領域の神経細胞の活動は、星空のように、つまりランダムに現れます。しかし、人が意識の変化した状態にあるとき、脳活動の完全に異なる図が形成されます。「星」は、ある形の「星団」のような形で並んでいるように見える - 明確な方向性を持つ球、雲、小川、光線。

また、人間の頭蓋骨自体の内部構造(形状)とそれに隣接する組織にも注意を払う必要があります。前頭骨、頭頂骨、後頭骨に特に注意を払う必要があります。これは、さまざまな周波数の波を集束、吸収、反射することができる凹面鏡の一種の生物学的プロトタイプです。このデザインは、優れた共振器として機能します(ラテン語の「resono」-「応答して鳴る」、「応答する」から)。つまり、振動のエネルギーを蓄積して集中させ、増幅することができます。



アナスタシア: これは非常に興味深い情報です。知られているように、同じ現代の無線工学の例では、凹面鏡は送受信アンテナの特性を持っています。

リグデン: その通りです。したがって、脳は概して、多くの機能を実行するユニークな生物学的デバイスであり、外部の目に見えるものだけでなく、人の内なる世界を含む目に見えない世界からの情報の受信機および送信機としても機能します。

人が瞑想を始めると、特定のチャクラを使用して精神的なコマンドを与え、エネルギー構造の特定のゾーンを活性化する微妙なエネルギーを起動します。そのような精神的命令のおかげで、肉体の脳は意識の変化した状態の動作モードに再構成されます。そして、たとえば、より詳細な瞑想では、かなり興味深いプロセスが発生します。瞑想者は実際に「思考の停止」を生み出します。そして、純粋な形の情報は、人々がまだ力を持っているために受け取られます 古来より第六感、直観 (intuitive knowledge)と呼ばれてきました。そして、そのような知識は、世界の通常の目に見える認識よりもはるかに深く、豊かで、多様です。結局のところ、精神的な性質からの観察者は、本当の現実を認識して、完全かつ明確に、彼の感覚でエネルギープロセスを知覚します。このため、瞑想の後、人間の脳のステレオタイプが3次元の世界で「現実」として認識しているものと、それがまさにあるものとの間に大きな違いがあることが彼には明らかです。



現実、この世界の出来事を形作る。そのようなオブザーバーにとって、この世界の特定のプロセスに関する現代の科学的理解よりもはるかに進んだ情報を抽出することは問題ではありません。

したがって、バイオデバイスの場合と同様に、脳の外界は、内界とオブザーバー自身の選択に従って、オブザーバーによって設定されたタスクに従って知覚される複数のコピーにすぎません。一人一人が自分の選択と内面の認識に従って自分の現実を生きています。

アナ斯塔シア: はい、今では、スピリチュアルな性質からの観察者の立場から、生きて個人的な経験を獲得するために努力すべき理由について、さらに深い理解があります。そうして初めて、多くの妄想で人生を無駄にしたり、動物の性質からの観察の幻想にとらわれたり、運命を変えたり、この人生でも精神的な救いの現実を形成したりする本当のチャンスがあります。結局のところ、私たちが考えていることが作成され、これまたはその現実が私たちに現れます。

リグデン: 彼の知識の中で人は、彼自身が行く信じている限り行くことができます。彼が動物的性質によって形成された制限的な態度から離れようとすればするほど、彼の現実への影響はより明白になります。精神的な性質からオブザーバーの確固たる地位を人生で形成した人は、全世界との深い関係と相互作用を理解することができます。



人間は、動物の性質からの観察者として、周囲の世界で彼にとって重要なオブジェクトを修正し、彼の注意の力によって彼自身にとっての重要性を高めます。これまたはそのオブジェクトに重要性を与えることは、人の世界観、世界と彼自身を知る経験に依存します。人が外部の状況に依存し始めるとすぐに、彼は不安を引き起こす動きを生み出し、彼の注意をさらに引き付ける複数の幻想の現れです。

人間は、精神的な性質からの観察者として、世界を公平に見ています。彼の人生のサポートと重要な目的は魂です。結局のところ、内部の真実を知らずに外部の真実を知ることは不可能です。なぜなら、この世界のすべての秘密が明らかになるオブザーバーがいないからです。

アナスタシア：ご存知のように、私の人生の中で、あなたの言葉の多くを意識的ではなく直感的に認識した時期がありました。それらは私にインスピレーションを与え、生き、人間の困難を克服するのに役立ちました。しかし、特に人の目に見えない構造に関して、真剣な実践が始まったとき、これは私の世界観の境界を大幅に拡大し、並外れた精神的経験の獲得に貢献し、精神的な熟考と深い感情の自己発見の機会を提供しました。この経験のおかげで、あなたが私たちに与えてくれる知識の価値を理解することができました。確かに、瞑想で経験することを言葉で表現することはできませんが、この物質世界全体よりも価値のあるものを実際に感じると、周囲の世界に対するあなたの態度が根本的に変わります。最も興味深いのは、この実践的なものです。

画期的な進歩により、瞑想自体の質が変わりました。



特に深い感情に働きかけることに関しては、ロータス フラワー瞑想の多様性と、ピラミッド瞑想で人のエネルギー構造を知ることができる、あなた自身に関する驚くほど実践的な基礎知識に注目したいと思います。ところで、最後の瞑想について世界に伝えることはできますか?もしそうなら、人々がこの原初の知識についてあなたから直接学ぶことができれば、私はあなたにとても感謝しています。

リグデン: もちろんです。「ピラミッド」は完璧にはほど遠いですが、現代人にはほとんど知られていない人の複雑な構造を理解するだけでなく、あなたの本当の内なる世界を感じるのに役立つ非常に効果的な瞑想です。ただし、この瞑想について話す前に、人の目に見えない構造に関する知識を人々に詳しく知ってもらうことは、まず第一に価値があると思います。古代から、この知識はさまざまな人々が利用できました。それらが完全に失われたとは言いませんが、それらについての言及は部分的に残っていますが、どのような形であるかは別の問題です。とはいっても、なぜ驚くのか 人間の洗練された心には、それ以上の能力があります。私が言ったように、人は単なる物質以上のものです。その構造は非常に複雑で、物理的だけでなくエネルギー的にも複雑です。人間の物理的構造を考えると、最新の機器を使用しても、3次元で存在する構造の一部しか観察できません。さらに、人間の一般的な構造を考えると、ほとんどの構造はそのうちには目に見えない世界に言及しており、微妙なエネルギーのレベルよりもはるかに弱く物理的に保護されていることがわかります。



人の一般的なデザインは、体ではなく魂がより保護されるように作られています。本体は、3次元空間のジオメトリで宇宙に存在する特定の条件のために作成された、追加の交換可能な材料シェルです。それは一時的で致命的です。これは一種のバイオマシンであり、パーソナリティ、つまり、彼のライフパスのイベントや一般的な精神的発達に反映される絶え間ない選択をする人によって制御されます。生まれ変わりにおける体の変化は、比喩的に言えば、肉体における皮膚の再生や日常生活における衣服の変化のように、この追加の外殻の更新にすぎません。当然のことながら、人間の構造のエネルギーと物理的な部分、エネルギーと情報の交換のさまざまなプロセスの間に相互作用があります。

先ほども言いましたが、世の中はすべてつながっています。世界は多次元であり、さまざまな類似点があります。目に見えない世界にいる人は、情報的に複雑な空間志向の主体であり、同時に、6次元で安定しています。これを現代人が理解することはまだ難しいですが、質的に新しい物理学や生物物理学の発展により、科学がこの事実に到達することを願っています。人は常に相互に影響し合う6つの次元で同時に安定しています。

しかし、人には生涯のうちに、人格と魂の融合を達成し、精神的な成熟を得るチャンスがあります。

そして、より高い次元を知りたい場合は、精神的な解放を達成するために、7次元(涅槃、楽園)に行きます。



つまり、あなたの精神的解放を達成し、さらに高次元を知りたい場合です。比較のために、菩薩は精神的な本質として、人間の身体構造の地上での転生中に自由に配置されます（精神的な存在として、菩薩は人間の魂とは異なり、いつでも精神的な世界に行く機会があります。構造）は、72 次元で同時に安定しています。これは、地球規模の宇宙に存在する次元の数です。一言で言えば、菩薩は一時的に構造の中にあり、すべての人と同じように、物質世界の6つの次元に位置しています。しかし、人間の魂の代わりに、彼は神の世界からの完全なスピリチュアルな存在を持っており、同時に72次元に安定して存在し、それらを変化させることができます。

アナスタシア： はい、これは、人が生涯を通じて靈的発達のユニークな機会を持っていることと、そのすべての瞬間がなぜ非常に価値があるかを理解する良い例です。宇宙には72の次元があるとおっしゃいました。読者は宇宙の次元の数を知ることに非常に興味を持つと思います。限定、エゾオスモス、パラレルワールド、パラレルパラドックス、「パラレルディメンション」と「パラレルワールド」の概念の違いについて話したことがあります。

リグデン： はい、平行世界と次元は同じものではありません。多くのパラレルワールドが存在する可能性があります。それは、何らかの形で、さまざまな次元で絡み合っています。しかし、これはすべて 1 つのグローバルな宇宙に存在します。パラレルとは何ですか？



人々の生活を比喩的な例で説明しましょう。

一人一人は、自分の日常の「現実」のように、自分の小宇宙のように生活しています。それは、ある時点で他の人々の生活の中で他の「現実」と交差します。言い換えれば、彼の個々の意識は、あたかもそれ自体が並行しているかのように、別々に生きていますが、すべてに共通の世界にあります。彼と並行して、彼が知らない他の人々が、彼らの生活、思考、内面、外部環境とともに生きています。パラレルワールドも同様で、それらの多くがあり、いくつかは接触しており、いくつかは並行して存在し、個別のままです。しかし、それらはすべて、地球規模の宇宙の 72 次元のシステムに含まれています。

これらの 72 の次元は、主に、この次元またはその次元を形成する特定のエネルギー フィールドを形成する、微妙で総体的なエネルギーによって表されます。それらには明確な区別がありません。同じエネルギーが、1 つの次元、別の次元、および 3 番目の次元に存在する可能性があります。すべての次元は相互に接続されていると同時に分離されています。たとえば、エネルギーーアーキテクチャの違い 各次元。微細なエネルギーが支配する次元では、ほんのわずかな変化でも、より大きなエネルギー（微細なエネルギーで構成される）が支配する他の次元に全体的な変化をもたらす可能性があります。エネルギー構造に関して最も複雑なものの 1 つは 71 次元です。そして 72 次元は、宇宙で最も複雑で、最も高く、最も普遍的な次元です。そこから、任意のディメンションまたはパラレルに影響を与え、そこから変更を加えることができます。つまり、「エゾオスモス」に直接影響を与えます。これは、個人が理解できる最高次元です。スピリチュアルな心は、その発展により、この普遍的な世界において神聖な音を通して現れます。



72 測定は最も複雑ですが、同時に非常に単純です。1つの次元に関連付けられています。実際、最初の次元は主要なプッシュであるエゾオスモスであり、その後のすべての変化を他の次元にもたらし、すべての問題に影響を与えます。時間、空間、重力などについて。エゾオスモスがなければ動きはなく、したがって生命はありません。

ただし、この知識は古代にも存在していましたが、当時の人々が理解できる連想的な形式でした。たとえば、古代インド、中国、エジプトでは、古代から空間の幾何学や宇宙の構造についての知識がありました。72次元の神聖な象徴は、自分の尾を噛む蛇でした。さらに、彼女の体は72のリング（より正確には体の「リンク」）の形で描かれており、その下で宇宙の次元が象徴的に意味されていました。蛇の頭は、71 次元の複雑なエネルギー構造を象徴し、72 次元に移行しました。そして、自分の尾を噛んだ蛇は、複雑なものから単純なものへの移行、72次元と1次元のつながりを象徴していました。

アナスタシア：はい、私は、世界のさまざまな民族の文化や生活をテーマにした考古学作品の中で、この古代の遺物に何度も出会ってきました。読者は、蛇の頭をどのように配置すべきか、時計回りか反時計回りかという重要な説明を知りたいと思うと思います。結局のところ、文化が異なれば、選択肢も異なります。



1



2



3

図 5. 宇宙の象徴は自分の尻尾を噛む蛇です。

- 1)古代エジプト文化の寺院の浅浮き彫り、絵画の画像の断片。
- 2)インダス渓谷での考古学的発見からの、尾を噛む蛇の形をした指輪（「ハラッパン文明」）- |- に存在した親インディアン文明。紀元前千年紀。
- 3)自分の尾を噛む蛇の古代中国のシンボル（このシンボルは、中国では「生命の石」と考えられている翡翠で作られています。）

リグデン：蛇の頭の元の位置はまさに時計回りで、創造と発展の象徴でした。スケールリングの形での測定数の条件付き画像がそれぞれ左から右に配置されています。円（蛇のとぐろ）は、宇宙の創造的な螺旋運動（時計回り）の象徴でもありました。



矢印、正しい卍)、つまり、アラートの力(物質に対する聖靈の支配)の主な作用に応じた動き。古代、このシンボルは神の知識を伝える神聖なシンボルとして寺院の絵画によく使用されました。しかし、反時計回りに、蛇の頭は、原則として、物質的な心(アニマルマインド)の信奉者によって、宇宙を破壊と消滅の方向に反時計回りに内側に回転させる小さな力(逆卍)の象徴として描かれました。これらの人々は、動物の心の意志に従い、精神に対する物質の優位性を自ら宣言し、物質的な力の支配の原則を体現しました。

アナスタシア: 実際、これはプラスからマイナスへの符号の変化です。フリーメーソンの建築区画で、頭を反時計回りに回転させたそのようなヘビをよく見ました。

リグデン: この現象は、たとえば中世、鍊金術が蔓延していた時代によく見られたもので、この古代の爬虫類の頭の反時計回りの方向は、人工的な封じ込めや逆発展の象徴としてよく描かれていました。とはいえ、そのような微妙な点は狭い修練者の間でのみ知られていました。大衆にとって、この概念の完全にもっともらしい解釈が提示されたため、頭を一方の方向に向けることに注意を払った住民はほとんどいませんでした。しかし、たとえ社会がそれを疑っていなくても、無駄に、記号は記号と同様に社会生活の中で重要な役割を果たしています。

しかし、ヘビの頭を反時計回りに巧みに描いたものもあれば、人間の初步的な混乱、知識の喪失、またはより古い情報の誤ったコピーに基づいてこのプロットが描かれました。



たとえば、これは今日、伝説的な古代インドの蛇アナントの形をした世界の象徴的なイメージに見ることができます。インドの神話によれば、宇宙は巨大な世界のヘビであり、その尾を噛んで宇宙をリングで包みました。リング内では巨大な亀を背負っており、その背中には世界を支える4頭の象が乗っていた。世界の中心には、咲き誇る蓮の花のような形をしたジャンブドヴィパの人の住む土地があり、その花の真ん中にメル山があります。

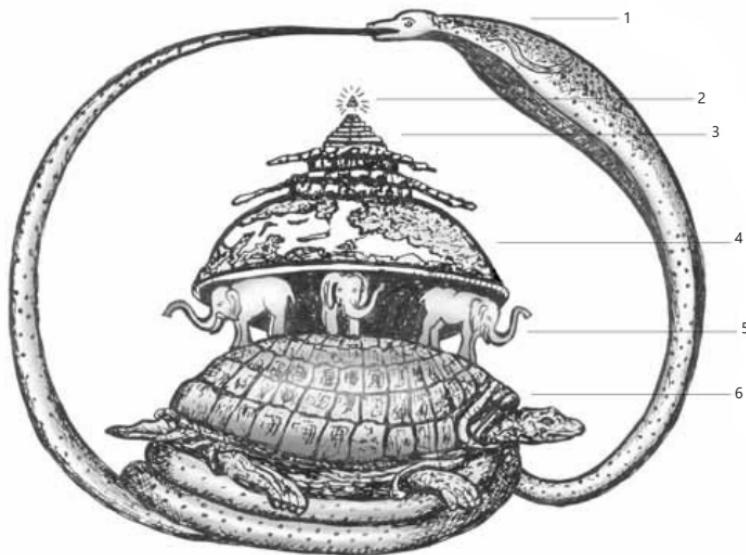


図 6. 古代インドの世界の象徴的なイメージ。神話によると、百科事典におけるこの画像の伝統的な解釈は次のとおりです。

1) 伝説の蛇アナンタ(サンスクリット語から翻訳すると、「無限の」です。宇宙の海の水に浮かんでいます。別の名前はシェバです。伝説では次のように述べられています)神はその輪の上に横たわるヴィシヌ神。



2) 角錐台の上の三角形は、下位のものに対する上位者の力を表します。3) メル山に似た象徴的なイメージ。この場合は切頭ピラミッドの形をしています。4) 半球の形をした目に見える地上世界の象徴。5) 地上の世界を支える4頭の象(元素の象徴)(空気の元素を擬人化した象は見えません)。6) 古代インドの守護神ヴィシュヌの化身である蛇アナンタの輪の上に横たわる亀(普遍的な活性化の原理)。

解説の立場からのイメージの解釈:この絵は、記号の置き換えを伴うフリーメイソンの世界観の立場から作成されました - 世界の攻撃的な方向性、動物の心の優位性への方向転換。ヘビの順番が変更されました - フードが開いたコブラが反時計回りに描かれています。世界の中心には、蓮の花とメル山の象徴的なイメージの代わりに、二次元の絵があり、三つの人間の次元と、目に見える6つの階段と「地上の力」の対応するシンボルを持つ切頭ピラミッドが設置されています - 13本の光線を持つ三角形の頂点、フリーメイソンがしばしば「彼らのサイン」として使用するイメージ。

自分の尻尾を噛む蛇のシンボルは、古代にはさまざまな民族の間で非常に一般的でした。神話では、それは宇宙のイメージ、世界の創造または地球の維持の行為と関連付けられていました。たとえば、アフリカの人々の神話、特にダホメアの神話には、虹の蛇であるアイド・クウェドのような古風なキャラクターがあります。神話によれば、彼女は他の誰よりも先に現れ、存在しました。この蛇は丸まって尻尾を噛むことで地球を支えていました。世界の創造に関する別の神話によれば、蛇アイド・クウェドは神々の神殿の頭であるマヴ・リズに召使いとして同行します。さらに、世界の創造の行為中に言及されています。



この蛇はその神を自分の口、つまり口の中に運んでいます。

アナスタシア：ダホメアの最高神が蛇の口から世界を創造したことが判明しました。つまり、これは神が実際に 72 次元、より正確には 72 次元と 1 次元の交差点で創造した知識を直接示しているということでしょうか?!素晴らしい!ダホメの人々はそのような知識を持っていたことが判明しましたか?

リグデン：残念ながら、この西アフリカの人々は、他の多くの人々と同様、長い間そのような知識を持っておらず、はるか昔に先祖に伝えられた情報を伝説の中に部分的に保存しているだけです。かつてそのような知識は、地理的に無関係な、さまざまな大陸のさまざまな民族に残されていましたが。

アナスタシア：はい、自分の尻尾を噛む蛇のシンボルは、アフリカの古代民族（ドゴン族、エジプト人）の神話だけでなく、アジア（中国、シュメール人）、北アメリカ（アステカ族）、他の大陸の古代文化の神話。

リグデン：人間の解釈では、時が経つにつれて、尾を噛む蛇のシンボルはすでに統一の意味を獲得し、すべてがひとつになり、永遠と無限の象徴となり、始まりと終わり（アルファとオメガ、創造と創造）をマークしました。破壊）、および自然のサイクル、周期時間、誕生と死の自己維持。古代エジプトのイメージで不滅のこの宇宙のシンボルは、後にフェニキア人だけでなくギリシャ人にも現れ、を発明しました。



独立した名前は「ウロボロス」で、ギリシャ語で「尻尾を食べる（吸収する）」という意味です。その後、この言葉は鍊金術師の日常生活に入り込み、このシンボルの意味はさらに大きく歪められました。現代世界では、カバリストが簡単に服従したため、このシンボルは一般に「深層心理」の解釈に当てはまりました。人間の精神から捻じ曲げられたそのようなバージョンでは、それはすでに「「私」が無意識の中に沈んでいるとき、人間の個性の始まりとして機能する、男性と女性の先史時代の統一を象徴する基本的な原型」と考えられています。その意識的な経験はまだ分化されていません。」一般に、原初の知識から遠ざかり、物質的な人間の論理の深淵に没入すればするほど、真実は失われます。しかし、これはこの真実が今日知られていないという意味ではありません。古代の知識にアクセスできる同じ現代の司祭たちは、大衆に対する権力を維持するために、それを大衆から隠そうとしています。しかし、知識は最初はすべての人に与えられていました。

アナスタシア： はい、確かに、知識があれば、この世界ではすべてが簡単になります。そして、72についての言及はどうでしょうか。驚くべきことに、72 という数字は、6 の 12 倍（サイクル）という数字の組み合わせです。

リグデン： まさにその通りです。この数字はいろいろな意味で難しいです。たとえば、古代エジプトでは、空間の幾何学、幾何学図形の角度の測定の正確な数値についての完全な知識がありました。後者は、建設および建築におけるさまざまなプロジェクトの実施における知識の基礎を形成しました。ユニークなものを含む個。



それにより、宇宙の物理学を変えるための特定の条件が形成されました。良い例は、古代エジプトの時代に建てられたギザの「大ピラミッド」です。確かに、角度がある程度正確に調整されたこのような複雑な建築オブジェクトの真の目的、特定の材料と特定の複雑な建築の使用は、フィールドの相互作用、微妙なエネルギー、およびその動作原理についての知識を持っている人にのみ明らかです。他の次元、そして世界に対する記号の影響について。しかし、それは問題ではありません。現時点で重要なことは、この知識が利用可能だったということです 古代エジプトでは。

アナスタシア：あなたはかつて、古代エジプトの神オシリスについて、私たちの言語では菩薩としての彼の活動について、また、72という数字は古代エジプト人の神聖な宗教的呼称と関連していると話しました。

リグデン：そうですね。神聖な数字「72」についての古代エジプト人の考えは、神の世界と直接関係し、本質を知り、誠実さを管理し使用する方法を知っている霊的存在としての菩薩の認識のレベルにも関連しています。72次元の。同じオシリスは、人間の形だけでなく、蓮の花(もともとは72枚の花びらを持つ)の形でも指定されました。彼の画像のいくつかでは、宇宙に関する知識が暗号化されていました。たとえば、特定のプロットでは、オシリスが死後の世界の人間の魂の最高の裁判官として描かれている白いローブは、特定の数の結び目-蓮のつぼみの神経叢で覆われていました(元は72)。その後、これらのプロットを何度も再描画しコピーしました。



そのうち人 刷り込まれた神聖な知識を知らなかった人々にとって、この数字は変化し、オシリスの服装はミイラのように、つまり素人の思考にとってよりわかりやすい形で描かれ始めました。しかし、繰り返しになりますが、知識があれば、寺院の壁画や古代エジプト人の埋葬のおかげで、数千年を経て現代の世代に伝わった文書さえあれば、彼らが言うように、何が危機に瀕しているのかを理解することができます。もみ殻から小麦を。

アナスタシア： 今日、専門家にとってこれらの文書の読解、翻訳、解釈が大きな困難を引き起こすのは驚くべきことではありません。結局のところ、古代エジプト人が書いたものを理解するには、少なくとも消費者志向の思考形式を持たなければなりませんが、せいぜい根本的に異なる世界観、質的に異なるレベルの知識が必要です。

リグデン： はい、そうでないと中世のカバリリストと同じ混乱に陥ることになります。今日では、ユダヤ人の祭司たちがエジプト人を含む他の民族から多くの知識を借用し、それを独自の方法で解釈し、それを自分たちの宗教の教えとして広めたことは周知の事実です。そこで、カバリリストたちは、72という数字を、宇宙のあらゆるレベルを制御できる発音できない神の名前という考え方と結びつけました。中世のカバリリストにとって、この秘密の名前は主な研究対象でした。実際、この数字は神の名前とは何の関係もありませんが、これが宇宙の本質であり、自然のすべての力が含まれているという考えは真実です。彼らの間違いは純粹に 人間の瞬間 - 古代エジプトの知識と記号に関する情報の誤訳と解釈。



その後、は彼らによって変更され、神の名前のカバラ的表現（マーク）として提示されました。彼らは、この名前を正しく発音できた人は、神に望むものを何でも自由に求めることができる信じていました。本質的に、それは人間の精神からの限られた理解です。このような知識の倒錯は、人々が動物的性質の論理から靈的知識を解釈し始めるときによく見られることです。

アナスタシア： おっしゃるとおりです。人々は愚かにも無限の力を渴望し、永遠を幻想的な瞬間と交換します。

リグデン： 残念ながら、人々は理解することなく、動物の心が押し付ける幻想に屈し、自分たちの主要な資産であるスピリチュアルな本質を無視してしまいます。少なくともそのような例を考えてみましょう。オシリスとセトの古代エジプトの伝説は、裕福な階級の古代ギリシャの哲学者の心に伝わり、今日まで生き残っています。それによると、オシリスは人々に新しい世界観、農業、治癒、都市の建設、銅や金鉱石の採掘と加工、一般に文明生活のあらゆる特質を教えたという。砂漠の悪神と考えられていたオシリスの弟であるセトは、兄の栄光と権力を羨ましがり、兄に代わって統治したいと考えました。セットはオシリスを破壊する狡猾な方法を思いついた。それに気づいた彼は、72人の共犯者とともにオシリスの元へやって来た。彼らの計画は成功し、オシリスを殺害しました。しかし、オシリスの妻であるイシスのおかげで、悪はその後罰され、正義が回復されました。その結果、オシリスは復活しましたが、すでに死後の世界で人間の魂を裁く裁判官として働いていました。



この質問について私が言いたいのは。人は往々にして人間の欲望の立場から考えてしまい、大切なものを見失ってしまいます。72という数字はオシリス(菩薩)の知識のレベルを想定しているため、精神世界の反対派は、自分の力を他人に証明するために。それを自分たちに帰するようになりました。このため、アルコンに従属する組織内にサークルが形成され、その数的構成は72人の「選ばれた」司祭内で変化するなどとなった。しかし、この人間の考え方はばかばかしいものです。なぜなら、靈的存在の力の質は、特に人間の数と、そして彼らの意識における動物的性質の優位性とさえ、まったく比較できないからです。

この伝説は今日まで残っている形で、神官たちは神々が人間とまったく同じように行動することを大衆に示そうとしました。ちなみに、特にこの考えは、古代ギリシャの伝説(オリンポスの神々について)を通じて集中的に普及しましたが、後にさまざまな人々の間で偶然に全世界に宣伝されたわけではありません。それは何のためでしたか?実際には、地上の権力をめぐって聖職者同士が争う戦争が実際には聖職者によって始められ、組織されているものであることを大衆に鼓舞するために、神々も同じことをしているとされており、これは「普通のこと」である、と考えさせるためです。悪も神々の特徴であるため、「自然」であると言われています。言い換えれば、聖職者たちは、権力を欲しがり人々を戦争に送り込む王がいるなら、それは「普通のこと」だ、なぜなら神々も同じことをするのだから、と人々を鼓舞したのである。邪悪な「ボス」があなたの上に立っている場合、それは当然のことですが、平民であるあなたは、彼に従い、彼に従います。その結果、これらすべてが卑屈な国民意識を形成し、人々を本当の精神的な道からそらしてしまいます。そして、そのような司祭の世代にとっては、イデオロギーは彼らの富への貪欲と権力への欲望の都合の良い言い訳です。



したがって、今日でもこの情報はほとんど子供の頃から無意識のうちに人の頭に叩き込まれています。さまざまな「文明」国の学校の教科書に載っています。このようにして、大衆を奴隸にするために精神的な知識が歪曲され、物質的な態度や概念に置き換えられるのです。

アナスタシア: 人々は、この殻をすべて振り払って、自分の魂が告げるとおりに、良心に従って生きる決意が欠けているようです。人は靈的な解放を達成し、生涯の間に7次元のレベルに到達するだけではない、とあなたは言いましたね。寿命ですが、上記の寸法も知っています。

リグデン: その通りです。宇宙のすべては相互につながっています。人間は、その独自のエネルギー設計により、72 次元すべてとつながっています。しかし、つながっていることと、これらの目に見えない関係を理解することさえできないことと、これらすべての次元を。さらにその新しいスピリチュアルな性質において意識的に知っていることは別のことです。靈的に発達した人は、生涯で 72 の次元すべてを理解し、菩薩のレベルに達することができます。しかし、私が言ったように、すでに7次元を理解した人は人間ではなくなり、いわば靈的世界の新生児の単位、つまり個人の意識と大きな靈的可能性を備えた不滅の靈的存在になります。つまり輪廻転生から解放された存在。そして、いつでもその一時的な殻、つまり三次元物質世界に住む肉体を離れて、意識的に精神世界に行くことができます。その中で何が変わるのが想像してみてください。



その中で何が変わらぬか想像してみてください

、宇宙のすべての次元が質的に新しい状態で理解されるときに起こります。しかし、繰り返しになりますが、そのような急速な精神的成长は彼の生涯の間にのみ可能です。残念なことに、実際には、人類の歴史全体を通じて、そのような人はほとんどいませんでした。高次元を理解すると、人は、たとえば、より深く、より大きなスケールで、宇宙の人工宇宙だけでなく、神の概念、靈的世界の力、そして神への彼の参加も認識します。菩薩のレベルまで靈的に成長する人は、靈的発達において 72 のヒュポスタシス、つまり 72 の「鏡」を通過します。もちろん、これは神が構想した世界を理解するのに簡単な道ではありません。そのような靈的な道には、科学のような正確で正しいツール、つまり、次のような特定の瞑想テクニックの知識が必要です。段階的な精神的発達の可能性。この道がすべての人に適しているわけではないことは明らかですが、それでも、靈的に真理を渴望している人はそれを理解することができます。セトとオシリスの伝説は、計り知れない力や世俗的なものを望み、動物の性質から人間の論理でこの道に乗り出すべきではないと警告しているだけです。そのような靈的に未熟な人々に対する罰で終わるからです。

偉大なスピリチュアルな道であっても、最初の一歩からは小さなことから始まります。利己主義や地上の欲望の実現の夢で満たされた心を理解するのではなく、精神的な認識を学ぶ必要があります。精神的に成長したいと願っている人が、「したい」、「なる」、「する」などの欲望だけに制限され、日常生活でそのために実際に何もせず、変化しない場合、そうなると意味がなくなってしまいます。



しかし、人が本当に自己教育と自己啓発に取り組み、人の助けを借りて努力をしているのであれば、

規律、自制心、精神的な実践を経て、時間が経つにつれて自分の感情、行動、思考をコントロールすることを学びます。

そして、人が新しい変性意識状態を習得し、動物の性質を飼いならすことが安定したときにのみ、目に見えない世界がその秘密を明らかにし始めます。スピリチュアルな世界からの観察者の立場から、宇宙の多音節世界のプロセスを認識しながら、自分自身へのスピリチュアルな取り組みをさらに発展させます。人は最初、複数の花びらを持つ蓮の花のように心を開き、知恵と知識で自分を豊かにします。彼はこの世界の全体の複雑さを理解するとき、同時に、明らかにされた永遠の真実に照らしてその単純さを理解します。靈的に発達している人は、靈的発達において 6 次元を通過するまで、選択を躊躇することがあります。7次元では、新しい精神的存在と同様に、すべての疑いが失われ、真実だけが残り、さらなる発展の精神的なベクトルだけが残ります。

古代、東洋では、人が菩薩の道を理解する段階は、泥水の中から成長し、成熟した真っ白な花を表面に放つ蓮の花の開花に比喩的に喻えられました。。人の靈的な道の始まりは、沼や湖の底で芽吹く蓮の種にたとえられ、それは三次元の物質世界を意味しました。人の靈的な成長、動物の本性との闘い、疑いや煩惱の除去、思考の鍛錬に取り組むこと、靈性の実践を習得することは、茎の成長、泥水の厚さの中を通過することに例えられました。それが表面に到達したとき。



人格と魂の融合および精神的解放の7次元に到達し、新しい靈的存在が誕生し、それが靈的世界に注目されるようになったとき、彼らはそれを水面上のつぼみの出現、つまりまったく異なる世界での顯現に喻えました。そして最も重要なことは、歪みのないダイレクトなサウンドが利用できることです。太陽の光(精神世界の力)の濁った水、その中でつぼみが雪のように白い花びらを開き始めました。新たに開いた花びらのそれぞれは、次の次元の精神的な理解を擬人化しました。そして、このプロセスは、人間が72の次元すべてを認識するまで、つまり、72枚の花びらがすべて完全に開き、壮大な蓮が、それを創造した強力なルミナリーの輝く光線の下でその神聖な美しさのすべてが現れなくなるまで行われました。同様に、人間は菩薩のレベルに達し、その靈的富のすべてを持ってこの神の種を創造された方の前に現れ、彼に永遠の命を与えました。

アナスタシア: 非常に印象的で正確な比較です。かつて、あるスピリチュアルな実践の結果について話し合う会話の中で、あなたは、なぜ古代において、開いた蓮の花びらが次の次元のスピリチュアルな理解を擬人化したのかについて、重要な点を1つ明らかにしました。読者にそれについて教えていただけますか？

リグデン: もちろん、今日でも、人間の各次元の認識は、新しい蓮の花びらが成長し開花するプロセスにたとえることができます。蓮の花びらが出現し、成長し、発達の中で力を増していくのです。とはいえ、それ以前は、その投影は単に花びらを敷くときだけでした。この花の発生のための遺伝的プログラム。



人間もそうだよ認識中に、それぞれの新しい次元を習得すると、相対的に言えば、この次元との関係を担う「新しい花びら」の構築に現れます。当然のことながら、蓮の花は、プロセスの本質を理解するための、いわば条件付きの比較です。でも、あなたが言うなら 現実について言えば、人のエネルギー構造における精神的な発達の過程で、もともと彼の中に築かれていたさまざまな関係が現れ、発展し、改善されます。

アナスタシア：多くの人は自分の存在を単に三次元とだけ結びつけており、自分の本当の可能性を理解していません。しかし、それらのほんの一部でも理解すると、自分の人生に対する大きな責任、測定に関連するものも含め、すべてが人生の中どれほど相互につながっているかも理解できるようになります。

リグデン：その通りです。人がこの物質世界の肉体に生まれるとき、その人の意識の状態は動物の性質の波動、つまり物質の三次元の情報の新しい人格による最初の認識に同調される、と私はすでに述べました。身体的な感覚器官の助けを借りて世界を認識します。精神的発展の道を歩み始めた人の課題は、別の意識状態に独立して切り替える方法を学ぶだけでなく、自分自身の新しい性質で世界を認識し、自分の能力を拡大し、基本的なものを理解することです。物質的な世界と精神的な世界の違い、つまり意識的な選択をすることです。実際、世界のすべてのものは非常に密接に相互に関連しています。



しかし、人は世界について何を知っているのでしょうか？ただ見てみましょう。

今日、3 次元の特定の分野、たとえば、音響、電磁気、重力などの同じ物理的分野はほとんど研究されていません。これは、各人が子供の頃から自分自身を識別し、自分を「ネイティブ」、「よく知っている」、「さまざまな方法で知っている」と考える次元であることに注意してください。しかし、本質的にこれらのフィールドが総エネルギーで構成されていることを人は知っていますか？次に、これらの粗大なエネルギーは、残念ながら現代科学ではまだ研究されていない、いわゆる微細なエネルギーで構成されています。しかし実際には、これらの微細なエネルギーは次の次元のフィールドの一部です。したがって、測定間には交換と相互影響が生じます。簡単な例は人間の思考です。なぜ科学者はその起源を追跡できないのでしょうか？なぜなら、その形成は、人も存在する、あるいはむしろ彼のエネルギー構造の一部である別の次元の微細なエネルギーに関連しているからです。そして、私たちの測定では、すでに総エネルギーが、いわばこの急増の派生物として現れています。脳ニューロンの興奮を観察する科学者によって修正されています。一般に、すべての次元、空間、時間は相互に接続され、発生し、上で述べた宇宙の非常に条件付きの情報構成要素のさまざまな組み合わせで構成されています。

アナスタシア： はい、今日の科学は他の次元についてほとんど知りませんが、賢い人々に考えさせる情報はすでにあります。たとえば、人が自分の体を別の形ではなく、このように形で見るのは興味深いことです。



彼の視覚は、特定の周波数範囲、または物理学者の言うところの可視光の範囲の電磁波の知覚に適応しています。赤外線、紫外線(目には見えない光)また、見キルリアン法を使用して写真を撮影すると、人はすでに多少違って見えます。

リグデン: 間違いなく、簡単に言えば、最新の装置や特定の瞑想テクニックを使用すると、さまざまな形の発光、人間の電磁場、オーラの形状などを見ることができます。そして、人間のこの曖昧な姿はすべて、時間と組み合わせると 4 次元となる 3 次元空間でも見ることができます。でも五次元では、微妙なエネルギーの相互作用の観点から、人はすでに次元的に異なって見えます。上部が分離されたピラミッドの形で。 6 次元では、ピラミッドがわずかに近代化されています。

動物精神の力は、宇宙の「物質世界」を構成する 6 次元のみに限定されていることに注意することが重要です。大まかに言えば、物質世界は宇宙のわずか 5% を占めています。7 次元から始まり 72 次元までは、エネルギーと情報の世界があり、特に宇宙の物質世界を形成し、アラットの動きと力のおかげでエネルギー構造も改善します。 しかし、宇宙の外には、それ自体とは質的に異なる世界があります。それは靈的な世界、神の世界であり、実際、人はそこで新しい靈的な存在として得ることができます。同時に、彼は脱出して7次元に到達するだけで十分です。



物質的な捕らわれから解放され、後で自由に精神的な世界に行くことができます。

しかし、物質世界に戻ります。人間は(動物の性質が彼の中で支配的である場合でも)感じ、エネルギー的に相互作用し、意識的に物質に6次元まで影響を与えることができます。通常、人は三次元世界で自分自身を超える力を所有するためには、自分自身の中でそのような超自然的な能力を開発しようとします。これが主な欲求であり、動物の性質の支配の下で、人はこの問題で成功を収めます。動物の心の意志に服従している状態にある本人の意識にとっては、この支配的な欲求はほとんど気づかれないままです。せいぜい、人は高貴な理由なしに、他の人への配慮と彼らを助けるとされる行為の現れで、自分自身のためにそれを正当化しようとすることさえあります。

アナスタシア: つまり、そのような超自然的な能力は、靈的な道を歩み、自らの中に靈的な性質の優位性を維持している人々だけでなく、その逆の方向に進み、動物的な性質の意志の下で生きる人々にも備わっている可能性があるということです。

リグデン: そうですね。これらは、例えば、さまざまな超能力者、魔術師、魔術師、超常的な能力を持つ人々、つまり、意識が変性した状態で 6 次元まで飛び込み、そこから低次元や弱い構造に影響を与えることができる人々です。エネルギー活動を行い、いくつかの変換を実行します)。



への影響高次元(4、5、6)の位置から3次元は、当然のことながら3次元の大まかな情報に影響を与えます。そのような影響力を行使することによってのみ、人自身はなぜ自分にこの力が与えられたのか、そして彼が実際に何をしているのかを完全には理解していません。変更を加え、それが実際に誰に役立つか。このすべてのエネルギーの影響は、6次元からあっても、人間の動物性の優位性の観点から見ても、精神的な発達の指標ではありません。

アナスタシア: あなたはかつて、人が靈的に成長しないと、その後の次元(6次元以上)のエネルギー構造がより単純になる、と言いました。

リグデン: 高次元からの観察者にとって、第一次元の人間は、人間関係で言えば、普通の点、つまり何もありません。精神的に成長していない人(物質世界では彼の構造ははるかに複雑であり、6次元ではピラミッド型であるにもかかわらず)、7次元では彼のエネルギー構造は次のように見えることに注意することが重要です。星雲、あるいはむしろぼやけた点ですが、その後の高次元ではさらに単純化されます。そして最終的に、72次元では、靈的に未発達な人は、最初の次元と同じように、単なる点であり、何もありません。そしてこれが、誰にとっても最も重要な質問に対する答えです。賢い人には理解してもらえると思います。物質世界の7次元からの観察は、比喩的に言えば、次のようなものです。



沼の濁流を見つめる 岸辺に立つ。物質世界と同様に、沼地は自然の秩序あるシステムであり、水をきれいにするためのフィルター、つまり生命の基盤です。複雑なプロセスはその深部で起こりますが、観察者は泥水の表面に現れるその結果だけに興味があります。スピリチュアルなチャンスを逃し、無駄に人生を送ってきた多くの人々は、物質世界の欲望の空しさで満たされたポップアップバブルのようなものです。水面での彼らの運命は悲しく、当然の結論です。質的に異なる環境に触れると、泡は弾けて「無」と化す。しかし、生前に魂と融合して、泥水から表面に現れる美しい蓮のつぼみのような人もいます。この純白の花は、その純粹さと斬新さで観察者の注目を集めています。観察者は花の美しさに感嘆し、花びら一枚一枚が開花していく過程を観察しながら花に注目します。蓮の花は空の空気の泡とは質的に異なります。他の世界の不可欠な部分。

言い換れば、人が靈的に成長し、彼の願望や願望が神の世界と結びついている場合、つまり靈的な性質が彼の中で支配している場合、最終的には物質世界(6次元)の限界を超えることができます。そして生きている間に七次元に入る。同時に、7次元でのエネルギー構造はより複雑になります。これらの複雑なエネルギープロセスについて、三次元の「住人」の思考で理解できる連想的な方法で話すと、人はを経験します。



構造をピラミッド型から、その角の 1 つに配置された立方体型に変換します。言い換えれば、そのような精神的に解放された人のエネルギー構造は、6次元における普通の人のエネルギー構造のピラミッド型とは質的に異なります。そして、人が精神的な自己開発を深めれば深めるほど、そのエネルギー構造はより複雑になります。

このように変化した人間のエネルギー構造は、真のスピリチュアルなビジョンを持っている人にとっては見過ごすことはできません。人のピラミッド型のエネルギー構造は、肉体よりもはるかに大きなスペースを占め、立方体のエネルギー構造は10倍以上です。このようなエネルギー一面での特異な現象は、高次元の観測者の立場から見ても気付かないわけにはいきません。彼らが言うように、人間の真の神聖さは、靈的な性質から観察者の視線を逃れることはできません。しかし残念なことに、人間社会においてそのような変化は極めてまれです。ちなみに、古代には、生涯のうちに7次元に到達し、精神的な解放を受けた人々は、立方体の形で象徴的に描かれ、多くの場合、その角の1つにマークが付いていました。同じシンボルは、精神世界からの至高の存在も示していました。

アナスタシア： はい、これは確かに非常に興味深いテーマです。この機会に、その存在を確認する豊富で多様な考古学資料があります。異なる大陸に住む多くの古代の人々の間で同様の象徴性が見られました。



リグデン:もちろん、会話の中でこの話題には何度も戻ります。残念ながら、今日では元の情報の多くが忘れられているか失われているため、シンボルや記号で古代の知識を記録した多くの遺物が発見されていますが、まだ科学者によって完全には理解されていません。

アナスタシア:おっしゃるとおりです。これを理解するには、基本的な知識が必要です。あなたが人間のエネルギー構造について初めて私たちに話してくれたときのことを覚えていています。私にとってそれは単なる発見ではなく、大きな衝撃でした。その後、情報を分析し、その深い理解を深めていくうちに、それはまったく新しい成熟した世界観に成長しました。この情報が他の人たちを無関心にすることはないと私は確信しています。読者に、ある人について、特に、その人のエネルギー構造が次の各次元でどのように複雑になるかについて、より詳しく教えていただけますか？

リグデン:6次元での構造がどのようなものであるか、またすべてがどのように相互接続されているかを人々が想像しやすくするために、簡単な連想例を示します。そのような子供のおもちゃ、万華鏡があります。これは筒の中に鏡や色とりどりの石を一定の角度で入れたものです。スクロールすると、さまざまなパターンの組み合わせが表示されます。ミラーの数が増えるほど、観察されるパターンや形状はより複雑になります。そこで、私たちの中では、鏡の場合、これらは測定値であり、小石は人のエネルギー構造の主要な部分です。その数は安定していますが、精神的な完成の過程における質的な変化は、全体の構造のより複雑な変化につながります。



人の構造を一次元で考えると、それは点のように見え、空の星のようなものになります。さらに、この点をさらに近づけてその構造を掘り下げるに、人間の構造の複雑さがわかります。つまり、一連の測定の連鎖全体を通じて、最初の次元から最後の次元までのつながりをたどることができます。比喩的に言えば、それは星を観想するようなものです。肉眼で見ると、空にかろうじて見える点です。しかし、望遠鏡で見ると、凹凸のある明るい円として見えます。そして、強力な望遠鏡を通してそれを観察すると、それはすでに独自の自然プロセスを備えたかなり複雑でボリュームのある宇宙物体であることがわかります。

しかし、すでに二次元では、人の構造は十字のように見え、さらに十字のように見え、その中央には線の交点に円があります。まあ、人が三次元でどのように見えるかは誰もが知っています。

アナスタシア: はい。しかし、この例でも、この3次元の次元においてさえ人間がいかに複雑であるかがわかります。結局のところ、閉じた環境としての生物の内部生命だけでなく、それが生み出すエネルギーの弱い場も念頭に置いた場合、鏡に映る私は、私の内側と外側の両方に実際に存在するすべてからはほど遠いものです。

現代世界では、言うまでもなく、人々は自分の体が三次元の世界でどのように機能するかをよく知りません。したがって、彼らにとっては驚くかもしれません

6 次元で同時に安定して存在する人の情報を聞くことができます。



この世が唯一の現実だと思って人生の大半を生きてきた人もある意味理解できるが。実際のスピリチュアルな経験がなければ、これはいったいどのようにして起こり得るのか、このつながりはどのようにして作られるのかなど、すぐに多くの疑問が頭の中に浮かんできます。

リグデン: そのような場合、原則として、動物の性質がまず最初に活性化され、人に対するその力を失いたくないので、すぐに彼の中に拒絶と誤解を引き起こし、彼を古い、習慣的なものに追い込みます。彼は三次元の素人の思考を「安定」させました。しかし、三次元世界の観察者の限られた意識状態にある間は、高次元を完全に認識し、個人的な経験を積むことは不可能です。

これについて簡単な例を示しましょう。二次元の住人に起こるプロセスを観察していると想像してください。人間の理解では、2次元は長さと幅によって特徴付けられる平面です。一言で言えば、二次元の住人は体積が何なのかを理解していません。彼らが、円錐または球の形をした宇宙の半透明の物体が自分たちの世界に近づいてくるのを見たと想像してください。彼らは何を見るのでしょうか？円錐の代わりに、二次元の図形、つまり円と中央の点、そしてボールの代わりに単なる円です。なぜ？なぜなら彼らの考えは 二次元の世界の認識に慣れています。三次元の概念は、二次元に住む存在としての彼らの世界認識には適合しません。



宇宙とそこからの観察者のスペースとそこから見守る人々。言い換えれば、彼らは自分が誰であるかを見ていません。なぜなら、それは彼らの次元の外、彼らの通常の意識状態の外にあり、特定の制限によって制限されているからです。

そして三次元空間に戻ります。今日、人々はまったく同じように行動しています。彼らは三次元の住人の視点から世界を研究します。しかし、他の次元の存在とは異なり、人々は靈的に成長し、他の次元を知り、世界をありのままに見ることを可能にする独自のエネルギー構造を持っています。狭いスペクトルの限定された認識ではなく、世界をありのままに見ることができます。三次元空間の世界。

アナスタシア： 一般に、自分自身を含め、人が日常生活の中で習慣的に周囲を見たり認識したりしているものは、本当の自分ではありません。

リグデン： その通りです。私たちの脳、あるいはその習慣的な意識状態は、三次元の外側に隠されているものについてのより深い知識に対する一種の障壁です。結局のところ、私がすでに知っているように、人間の通常の意識状態は生まれた瞬間から三次元、いや四次元(三次元時空の意味)です。世界を限定的に認識するようにプログラムされている 4 番目の次元、つまり(測定要素としての) 時間は、実際には理解されでおらず、人によって認識されることもありません。



つまり、私たちは常に三次元空間で自分自身を意識しているのです。

現在「今、ここ」。日常生活では、この時間の動き、エゾオスモス、まさに因果関係のあるこの現象に、脳は気づきません。人が時間の全体的な動きに注意を払うのは、たとえば鏡を見たり、写真から20年前の自分と今の自分を比較したりして自分を評価するときだけです。しかし、時間の絶え間ない動き、生命そのもの、エゾオスモスとして、エネルギーの内部プッシュとして、私たちの脳は、通常の意識状態にあるので、固定されません。

しかし、これは人がそれをまったく認識できないことを意味するものではありません。結局のところ、人間の認識は、第一に、支配的な世界観、拡張された意識状態の安定性、人が脳に入れて常に補充するデータベースに依存しているため、知的視野を広げることが重要です。第二に、そのような認識は、自分自身の努力、意識の変性状態のための技術の体系的な開発、つまり瞑想、精神的な実践に依存しており、そのおかげで人は独立して行動します。三次元の外側の世界を、心の論理ではなく、より完璧なツールである直感(第六感)で認識します。

アナスタシア：はい、「人が変われば世界全体が変わる」、「自分自身を知れば、全世界がわかるようになる」といった古代人の言葉は空虚な言葉ではありません。これは現実であり、人が靈的自己認識の実際的なプロセスで実現できる充実感です。あなたはかつて、変性意識状態について話しながら、人間の意識は多層であると述べました。



リグデン：その通りです。意識の多層性により、人は観察者として（動物的性質からであっても）、意識が変性状態にあるだけで、二次元から六次元までの知覚をカバーすることができます。人は第一次元を意識的に認識することはできません。彼にとってそれは単なる点であり、「何もない」でしょう。しかし、この「無」の中にすべてが含まれているのです。最初の次元はエゾオスモス、つまり主要な内部エネルギーの押し込みです。人は、原則として、特に第一次元のレベルでは、この変化（ショック）の始まりを意識的に修正しません。最初の測定にに関しては、比喩的に説明します。

しかし、多くの現代人に理解できる例は、コンピュータの操作、より正確には、画面上の点滅するマーク、つまりカーソルの動きに関連しています。ちなみに「カーソル」という言葉は、「メッセンジャー、走者、速い走者」を意味するラテン語の「cursorius」に由来しています。コンピュータ上で何らかの操作（テキストの編集など）を実行するときは、特別なキーを押すか、光学機械マニピュレータ（「マウス」）を制御することによって、表示画面上でこのポインタマーク（矢印またはダッシュ）を移動します。結局のところ、このアクションを実行するとき、それがどのように動くかを正確に考えることはなく、仕事に集中しているため、ほぼ自動的に実行されるだけです。たとえば、テキストを選択したり、移動したり、修正したり、新しい「窓」を開いたりするなど、「マウス」を制御するときにカーソルの動きが自然に行われるよう見えます。本当に何が起こっているのでしょうか？



画面はピクセル、つまり小さな色のドットで構成されており、拡大すると、

は正方形（箱に入ったノートのような）のように見え、それが 3 色（サブピクセル：赤、緑、青）で構成されます。これら 3 原色の各点の組み合わせによって、モニター画面上であらゆる色を再現することができます。同じ画面領域に配置されるピクセルが多いほど、その上の画像はより良く、より鮮明に（より詳細に）表示されます。ピクセルとは何ですか？これは、感光性マトリックスの単なる要素であり、モニター画面上のピクセルのグリッド（ラスター グラフィックス）内の 2 次元デジタル画像の最小要素です。これは電極のセットです。画面表示とは何ですか？

実際、これは各電極（発光ダイオード）に印加される電圧の制御です。

電界ベクトルの大きさと方向はソフトウェアによって制御されます。

ビデオカードの一部とプロセッサー。手で「マウス」を動かすと、この光学センサーからの電気信号が、USB（情報を送信するためのデバイス）を介して、信号を処理するコンピューターの電子回路の部分に送信されます。処理された信号はビデオ カードに送信されます。さらに、彼女の作業プログラムに従って、画面（ピクセル）上の特定の電極（発光ダイオード）に印加される電場の特性を変更します。したがって、それらの発光強度は変化し、例えば、あるものは黒くなり、他のものは白くなります。これにより、画面上でカーソルが動いているような錯覚が生まれます。つまり、カーソルを動かしているとしか思えないのです。実際、電子回路とプログラムの働きにより、を変更するだけです。



電極(発光ダイオード)の外部条件により、電極自体が新たな特性を獲得します。そして、それを通過する光は、これにより他の特性(周波数と強度)を獲得します。カーソルが特定の時点で特定の点にある場合、(手で「マウス」を動かすことによって)「プッシュ」を実行すると、その点の光学特性を変更するための条件が作成されます。

アナスタシア: 私はカーソルのある点から別の点へ、あるピクセルから別のピクセルへジャンプさせるようなものだと言えます。

リグデン: はい。実際、カーソルの動きは、エゾオスモスによる時空間における物質の知覚できない動き(生命)の原型の比喩的な例です。エゾオスモス は、ある情報ブリックから別の情報ブリックへの情報のジャンプです。情報ブリックは情報を取得し、別の情報ブリックに渡します。つまり、情報ブリックはそれ自体を通過します。これらの同じピクセルは、条件付き比較において情報の構成要素として機能します。観察者であるあなたは、選択の自由のおかげで、この動きを一方向または別の方に向かって引き起こします。この動きはすべて情報の変化に応じて起こり、情報を変化させ伝達するための複雑なメカニズム全体を理解していない人には知覚できません。この例では、マウスを動かすだけで、画面上に自然な動きが表示されます。カーソルの画像がどのようにピクセルからピクセルへと移動するのか、各電極の電圧がどのように変化するのかがわかりません。



あなたのためにカーソル矢印のほとんど瞬時に画面上の別の場所に移動します。したがって、人生では、情報レンガを介した物質的なオブジェクトの動きは、人には気づかれないうちに起こりますが、人はこの主要な動きが最初の次元のレベルでどのように起こるかを正確に認識していません。たとえば、人が特定の方向に歩いているのが見えます。実際、エゾオスモスのおかげで、情報は情報ビルディング ブロックを通じて複雑な関係をすべて「流します。たとえ私たちがじっと座っている人を観察したとしても、実際にはそれは単なる幻想にすぎません。なぜなら実際には、激しく、非常に豊かな情報交換が行われており、それがその人の人生であり、その動きは彼も私たちも気づかないからです。

アナスタシア: 言い換えれば、人は自分に対する世界の影響や自分の世界に対する影響の複雑さをすべて理解しているわけではないかもしれません、目に見えないレベルでの変化は常に起こっています。

リグデン: さらに、人が自分の選択によってこれらの変化を引き起こす次元が高ければ高いほど（たとえば、第 5 次元、第 6 次元）、これらの変化はより重要になります。

アナスタシア: 第一次元の主な機能は、主要な内部エネルギーの推進です。読者に二次元の主な機能を教えていただけますか？

リグデン: (彼の認識では) 人間にとて、2 次元 (2 次元) の機能は一種の情報の保存と伝達にすぎず、そこでは記号や記号が重要な役割を果たします。



2番目の機能ですが、次元は、はるかに広いです。簡単な例を挙げます。あらゆる記録には情報の保存が含まれます。絵文字、表意文字、象形文字、アルファベットなど、文字とは何でしょうか?これは、人間の思考を固定するための同じ象徴的なシステムであり、従来の表記法を使用してそれらを時間内に捉え、遠くに伝達することを可能にします。言い換えれば、これは2次元の記録であり、特定のシンボル、記号での情報の保存が含まれます。たとえば、パイを作るためのレシピ、原子力発電所を建設するためのマニュアル、核爆弾を作るための図面などです。レシピを読んで何もしなかった場合は、何も起こりません。しかし、読み方を知っていれば、つまり記号の指定を理解し、その指示に従って適切な力を加えて動作を実行すれば、このレシピやマニュアルに記録されている結果が必ず得られます。二次元次元の記号も同様です。そこにエネルギーを加えたあと、作用します。3次元の次元になり、それが機能し始めます。その結果、三次元では、この二次元の情報に従ってエネルギーを与え、行動を行った後、私たちの例によれば、ケーキか家の明かり、あるいは私たちの生活を破壊する結果が得られます。

アナスタシア: 一般に、3次元は、すでに力とエネルギーを与えて創造を開始する次元です。

リグデン: 人間の場合はそうです。この点で、人々が毎日どのような情報に注目しているのか、どこに注目しているのかを理解することが必要です。



人が応募し、その後、彼らが自分の生命力をどのように正確に費やし、実際に何を達成できるのかを説明します。実際、今日、ほとんどの人は、三次元の「住人」として考える立場からのみ、自分自身を一方的に観察し(したがって自分の人生を評価)しています。

現代人は、自分と同じ思考の根源が全く別の次元に繋がっていることすら気づいていません。しかし、彼は常に夢や思考の中で生きており、彼にとって周囲の「現実」はある程度彼の精神活動を反映しています。彼は自分の思考や願望の実現に人生のエネルギーを費やしており、それらは主に三次元空間の広範囲の周波数からの非常に狭いスペクトルに関連しており、人格としての彼の観察は現在そこに集中しています。

アナスタシア: あなたは、人間は観察者として、何らかの方向への選択によってこれらの変化を引き起こすと強調しました。しかし、彼は観察者です。そして、すでに居場所があるものを挑発する、つまりさらに奨励するのは彼です。

リグデン: まさにその通りです。人は常に、魂からパワーが発せられる精神的な世界と、何らかの方法で生命エネルギーの方向を変えようとする動物の心の幻想的なゲームのある物質的な世界のどちらかを選択します。あなたのニーズに合った人。これらは、このような一種の条件付き対立において物質世界に生み出される2つの支配的な力であり、観察者である人間は、どちらかを選択する瀬戸際に置かれるだけです。



さらに、動物の心の一部である物質世界の存在にとって、これらの力は知覚できませんが、人の中には永遠魂の粒子があり、彼には運命的なものがあります。不滅の靈的存在になる。

アナスタシア: したがって、人にとっての主な運命の瞬間は、その人が毎日どのような考え方や行動に注意を払うかということです。

リグデン: その通りです。理解を深めるために、インターネットユーザーの比喩的な例で、2つの支配的な力の間で人が選択するものについて説明します。人が何かに主な注意を集中するとき、つまり選択をするとき、彼はそれがどのように第一次元での変化の始まりを引き起こすかに気づきません。この例では、これはコンピューターのスタート ボタンを押すことに相当し、人間には見えない行動が起動されます。したがって、一次元のレベルで動きの行動を開始するのは人の注意です。すべては彼から始まります。これがパーソナリティの主な注意であり、オブザーバーの主な力です。これは彼の自由です。彼が主な注意を向けたところに、彼はそれを活性化しました。人は、一次元のレベルで行われた行動の重要性を認識していませんが、その後、自分の運命に対するそれらの結果を非常に現実的に感じます。

人がコンピュータの電源を入れると、しばらくして、何らかの情報を保存するさまざまなプログラムの記号が画面に表示されます。そして、たとえばインターネットであれば、そのようなシンボルや記号がユーザーの目の前、各の後ろにたくさん表示されます。



そのうち には、より大量の情報層が隠されています。インターネット全体は世界と複雑な関係にあります。特定の「権威ある」組織に属するさまざまなルート（ベース）サーバーを通じて、密かにまたは公然とそれらに資金を提供する人々が存在します。これらすべては、何らかのイデオロギーの広がりに基づいています。ところで、今日インターネットの「住民」に知られている「ドメイン名」などの概念は、ラテン語の「ドミニウム」、つまり「所有」に由来しています。インターネットユーザーは、原則として、これらすべてについて考えることはなく、提供される情報の流れに飛び込んで選択します。彼は細部は見るが、全体は見ていないが、無駄である。それで、兆候の出現、シンボルやさまざまなコンピュータープログラム、インターネットの短い広告テキスト、その背後にある情報の層全体を隠すこと、これは、人間の注意と二次元レベルの情報の相互作用に似ています。物質界では、この二次元の情報をすべて地球規模で考慮すると、それは動物的性質または靈的性質からのプログラムの発現の異なる形式に過ぎないでしょう。人には選択の自由があります。それは彼の注意を引くだけのものもあれば、彼を引き留めるものもあります。

その結果、インターネットの検索エンジンのように、さまざまな情報の中から、最も注目を集めた情報だけを（それに焦点を当てて）「開く」ことになります。

三次元の立場から、人はこれによって自分の選択を行います。つまり、人は二次元で情報を取得するプロセスを活性化します。この情報を活性化することによって、彼はそれを三次元のレベルで「生きる」ようになります。言い換えれば、パーソナリティはどのようにしてこの情報の流れを取り込むのでしょうか、は、さまざまなイメージ、

感情、欲望、思考の形で意識に現れ、理性的な存在として意識の中で生き始めます。



これにより、外部からこの意志のプログラムの枠組み内で特定の行動に人が駆り立てられます。この意志が二次元の自分自身に注意を向けさせた数多くのプログラムのうちのまさに 1 つです。彼がそれらを手放すとすぐに、それは彼が特定のプログラムで作業することを優先し、さまざまな機能(心的イメージ、欲望、感情)を使用してカーソル(注意)をそこに動かし始めたという事実と同等です。そして、カーソルを動かすということは、先ほども言ったように、エゾオスモス のおかげで、アクションの最初の段階で人間には見えないものを作り出すことに等しいのです。そして、それらは彼の運命の出来事に変わります。意識的には、人は、一次元でも高次元でも、自分が選択したプログラムに注意を向けることによって正確に何が変化しているかを認識しません。しかし、彼は、与えられた瞬間に選択をした人格として、この意志を外側から体現することに生命力を費やし、このプログラムに従って働きます。

アナスタシア: しかし、これは非常に重要な点です。この問題を世界的に考えてみると、私たちには、創造の力、心の創造的な活動、あるいは心理学で言うところの「自己」という概念において、意志があるようにしか思えないことがわかります。客観的な理由から独立した行動を決定する、人間の活動の十分な(完全に独立した意味を持つ)源。興味深いことに、同じ心理学者は、意志を自分自身の行動の制御と関連付けており、それがになると彼らは信じています。



それは人為的な「行動手段」、つまり記号の使用によって可能になります。

リグデン:私たちが自分の意志だと思っていることは、三次元の個人の心を考える立場からの認識の幻想です。私たちの例を見ると、人は自分の選択によってのみ、自分の中に入る情報の流れを活性化し、この意志の具現化に自分の生命力を費やします。意志とは、靈性(神の世界)から来るものであれ、動物性(アニマルマインド)から来るものであれ、外部からの力であり、より正確には、それを実現するある構造に埋め込まれた情報プログラムです。動物の心からの置き換えは、人間の人格がこれら 2 つの世界的な力のうちの 1 つの発現の形態を自分の意志として認識するという事実にあります、実際にはそれはありません。

アナスタシア: つまり、人が自分の意志と考え、それを不当に誇りに思っているものは、そうではありません。それは彼が選択した情報を通じて外部から彼の中に入力された力にすぎません。それは彼の中で感情、感情、思考を活性化し、彼をある特定のことに駆り立てます。

この意志のプログラムの枠組み内での、生命エネルギーの消費に関連するその他の行動。

リグデン: まさにその通りです。動物的性質からのプライドの影響下にある人々は、自分自身を自分の意志を与えられたより高い力に喻えることを好みます。しかし、誰もが次のような疑問を抱くわけではありません。「この行動は実際に誰の意志によって行われるのですか?」、「誰がこれらの考えを推進するのですか?」、「誰がこれらのまたは他の欲望を引き起こしますか?」「私の中の誰が誰に反対しているのですか?」

「誰が質問をし、誰がそれに答えますか?」。そして、自分自身を理解し、動物的性質と靈的性質の間、靈的世界から発せられる意志と動物の心からの意志の間の対立の過程を理解している人はほとんどいません。



もちろん動物の心は強いですが、神の世界の主力とは比べものになりません。これがはっきりと現れている場合、動物の心はそれに直接抵抗することはできませんが、そのガイド(靈的な道に立っている人)の注意を「些細なこと」で逸らし、道を誤らせたり、何かに引っ掛けたりすることはできます。定期的な幻想 等々。創造の観点からの意志の発現の初步は、靈的に成熟して動物の心の力を離れたとき、つまり6次元から7次元に落ちたときにのみ、人の中に現れます。そして、それは現在の人間の理解における「意志」そのものの現れではなく、単に神の意志の指揮者の新たな性質と能力の拡張にすぎません。

アナスタシア: はい、動物の心からのそのような置き換えは、物質世界に住む生き物として、あらゆる段階で人間に伴います。人が自分自身に取り組まなければ、物質的な欲望や一時的で死すべきもののために自分の人生を無駄にするだけです。

リグデン: 一方で、普通の人は自分の人生の出来事に影響を与えることを切望し、自分の運命がより良い方向に変化することを切望します。しかし、これらはすべてスピリチュアルな側面のニーズであり、彼の脳は動物的性質の方向にうまく向きを変えます。そのような「逆転した」理解の結果として、人は精神的な自由の代わりに、富、名声などの物質の枠組みの中での「自由」をすでに切望しています。



彼のわがままは、自分に対する満足であり、彼の一時的な存在の一杯。人が長い間物質的な欲求に集中し、年々、それを満たそうと多くの努力をしていると、遅かれ早かれ、望ましい結果につながる一連の出来事が起こります。その時にはもう人から必要とされなくなってしまいます。言い換えれば、パーソナリティは三次元に一定の影響力を及ぼし、望みを達成することができますが、このプロセスには多大な努力とエネルギーの消費が伴い、時間がかかります。しかし、ここでは質問は異なります。人生とその膨大な機会は、身体の一時的な物質的欲求を達成するために費やす価値があるのでしょうか？

アナスタシア: 読者の中にはこう尋ねる人もいます。なぜ私はここにいるのですか？本当に、木を植え、家を建て、子供を育てるだけなのでしょうか？」そして、彼ら自身も、熟考の中で、もしこれらが地球上での人類存在の主な目的であるなら、第一に、そのような「過剰な」脳の組織を含む物質のそのような複雑な構造は必要ないでしょう、と答えていました。さまざまなレベルの意識状態。第二に、すでに家、子供、専用の庭を持っている人は皆、自分の人生に幸せで満足しているだらうと仮定するのが論理的です。しかし結局のところ、これらの人々は基本的にそのような永遠の質問をし、若い頃の欲望の実現に満足を見いだせません。

リグデン: 人間の人生の意味は、生殖や改善にはまったくありません。これらは、ペイジのために穴や巣などを作るよう遺伝的にプログラムされている動物の本能にすぎません。



人が子孫を育てます。人間はそれ以上のものだ 動物、その意味は精神的に不滅の存在になることです。

しかし、物質的な欲望を追求する人は、時間と生命エネルギーという 2 つの貴重な要素を取り返しのつかないほど無駄にします。私は、それらが取り返しのつかないほど費やされる (!)、それに応じて特定の機会が失われるという事実に注意を促します。もちろん、自分で選んだ人は、この幻想的な三次元空間の動物的性質のプログラムに自分の生命力を自由に浪費することができます。しかしその結果、彼は肝心なこと、なぜ、何のためにこの世に生まれたのかを見失うことになります。しかし、人には自分の魂を解放するために必要なだけの時間と力が与えられ、それ以上に、その人格によって自分自身の経験を得る過程で起こり得る間違いの余地を与えられます。比喩的に言えば、時間と生命エネルギーは車（身体）にとってのガソリンのようなもので、経路の複雑さを考慮すると、わずかな偏差はあるものの、A 地点から B 地点まで正確に移動するのに十分です。しかし、この方向ではなく、逆の方向（物質的な気まぐれに人生を捧げる）に進んだ場合、たとえば、マスター（エゴイズムを満たすために）を動物の性質であるマスターと一緒に調整すると、その結果、あなたに割り当てられた時間とエネルギーが足りなくなります。最終的に、あなたは（亜人格の）車のゴミ捨て場に横たわるほど「美しい」まま、周りの他の人々と同じように、錆びて腐っていくでしょう。A は目的地 B に到達するためにこの時間とエネルギーを意図的に使用し、そこで完全に異なるスピリチュアルな存在への最終的な変容が起こる可能性があります。



アナスタシア: あなたがかつて言ったように、人が自分で自分の力で物質世界に自分自身のために構築する小さな世界がたとえどんなに小さなものであっても、それは一時的でつかの間のものです。この世界のすべては有限です。銀河全体、星々、惑星は破壊され、人体はさらに致命的です。

リグデン: 人々は自分の存在の瞬間的な性質を理解するのが難しく、死について考えることさえ恐れます。しかし、人にとっての死は、人生の別の形にすぎず、生涯にわたる選択の結果です。動物的性質に支配されている人にとって、この物質世界以上の何かがあることを理解するのは困難です。しかし、パーソナリティが自分自身に取り組み、その結果スピリチュアルな世界と接触すると、それが本当の主要な創造力であり、人の人生の残りの部分はゲームであるという理解に達します。動物の心の追求、幽霊のような幻想の追求。

アナスタシア: はい、目に見える世界だけでなく、目に見えない世界についてもまったく異なる考え方を与える知識は、どれほど興味深く、本当に重要なことでしょう。

リグデン: 確かに。しかし、おそらく、目に見えない世界における人間の構築についての会話に戻りましょう。人間は、巨大な星から最小の粒子に至るまでの物質世界の他の情報オブジェクトと同様に、特定の投影、いわばエネルギー計画における自分自身の「鏡」反射を持っています。さまざまな時代のさまざまな人々が独自の方法でそれらを指定し、秘密の知識の年代記、神聖な文書、絵の中で人の目に見えない構造を説明またはマークしました。



条件付きこれらの生きた投影を「エンティティ」と呼びましょう。それらは非常に合理的であり(さらに、人間が想像する以上に)、独自の特性を持っているからです。これらのエッセンスの中核は、エネルギー情報構造、特定のローカルセンターです。人間の目に見えない構造の中で これらは、たとえば、肉体、頭、手などと同じ、切り離せない部分です。構造の中心(人のあらゆる投影の中で)に魂があります。

エッセンスはエネルギー情報構造であり、人の人生と死後の両方で重要な役割を果たします。それらは大きな可能性を持っており、他の次元と関連付けられており、微妙なエネルギーレベルで相互作用が起こります。それらのおかげで、人は物質世界の高次元の位置から第6次元までの世界に影響を与えることができます。人間の本質は、構造の周囲の位置と、身体に対する条件付きの向き(前、後、右、左)によって指定されます。それらは、人の全体的な構造における主要なフィールド、たとえば、四面体切頭ピラミッドの「生きている側面」を表します。人の身体からほぼ腕の長さの、名前に対応する方向、つまり前、後ろ、側面(右側と左側)に位置します。古代からそれらに関する知識は神聖なものと考えられていました。世界の人々の神話には、古代から始まって、これについてのさまざまな言及があります。



年から現在に至るまで。たとえば、この情報は、世界の人々の宇宙論的な神話や伝説、魔術師、シャーマン、僧侶、呪術師の儀式などに見られます。特に後者についての説明では、ある伝統的な儀式を行う人が、人の四大要素や基点、四助靈などを指すことがよく言われます。さらに、多くの場合、接続リンクは中央にあります。神聖な伝統では、それは魂であり、人間のエネルギー構造の中央、「第 5 センター」(他の場合には「第 1 センター」と呼ばれます)です。そして実際の儀式においては、それは人格の意識です。

したがって、そのような術者の外面向けの行動は、原則として、大衆向けに設計された演劇ゲームか、本質を理解せずに失われた知識の模倣、またはそれらの単純な隠蔽のいずれかです。実際、主な行動は人の中で、彼の内なる世界で起こります。特定の知識と実践の助けを借りて、彼は単に自分自身を単一の全体に集め、これらを管理します。 エンティティ。パーソナリティそのものが「コントロールセンター」です。このつながりのおかげで、目に見えない世界における人の可能性は大きく広がります。

これらのエッセンスは人間のアストラル体に相当するものではないという事実に注意を促します。

4 つのエッセンスはそれぞれ、特定のエネルギー場を表します。比喩的に言えば、これは「透明な塊」であり、人が設定したあらゆる思考形態、つまりその人自身の鏡面反射、動物や精霊のイメージなどに変化する可能性があります。



男だと言える特定の瞑想テクニックを実行するとき、変性意識状態になり、エッセンスの 1 つの精神的なイメージを設定し、それに注意を集中すると、それが現実化します。

アナスタシア： 実際、これはエネルギー波の状態から物質粒子への移行であることがわかりました。観察者がエッセンスに集中するとすぐに、エネルギーが微細な物質に変換されるプロセスが起こります。これにより、思考形態(人が埋め込んだイメージ)を獲得する。

リグデン： はい、目に見えない世界とのつながりは完全に維持されます。すでに述べたように、4 つのエッセンスにはそれぞれ独自の特徴があり、目に見える世界と目に見えない世界の間にあるつながりを示しています。

前 エッセンスは、人の身体から腕を伸ばしたところの前に位置します。それは、今ここ(三次元と高次元の両方)での人の人生、そして現在から未来への動きと結びついています。これは一種のベクトルであり、ライフパスの指標です。人が精神的なものを選択した場合、この道は、最高かつ最終的な結果、つまり人格と魂の融合、つまり精神的な解放に向かって前進する努力として、單一ベクトルの集中した方向性を持ちます。このエッセンスは人の自己発達と精神的な動きに責任を負います。それは、信仰、精神的な愛、未来への希望など、独特的な感情的な色を持っています。

スピリチュアルな道に対する人の意図が安定していれば、それは外部の目に見えない影響に対する非常に優れた保護としても機能します。

エイリアンまたは外国の攻撃的なエッセンス。



その活性化は、その人自身の状態によって見ることができます。つまり、彼が靈的になったと感じるとき、ポジティブな感情の高まり、深い靈的な衝動があるときです。

伝説によると、前エッセンスはしばしばユニコーンとして指定され、空や空気の要素（スピリット）は自由な鳥（同じハヤブサや神話上の雷鳥、フェニックス）として描かれていました。

鳥のシンボルは、多くの国の文化で、魂、神の本質、生命の精神、天国の精神、自由、昇天、インスピレーション、予測、預言、「宇宙ゾーン」間のコミュニケーションの指定として機能しました。

アナスタシア：確かに、後期旧石器時代であっても、鳥は時々これらの指定の神聖な性質に焦点を当てて描かれていました。新石器時代には、鳥の上に置かれた太陽（太陽）の標識と組み合わせて描かれるっていました。

リグデン：まさにその通りです。これは、もちろん、人が秘密の兆候についての知識を持っている場合に限り、これらの絵の特別な重要性を示しているだけです。さて、前エッセンスについてですが4つのエッセンスの働きを知ることで、人の能力は大きく広がります。これらに関する基本的な知識が不足しているために、寝台車の紛失が頻繁に発生します。たとえば、ほとんどのスリーパーは前エッセンスを知らず知らずのうちに操作しています。そして、これによって彼らは大きな間違いを犯し、それが仕事の成果を低くし、時間の無駄にし、大きなページを作ることにつながります。



のエネルギー消費が原因となり、オペレーターが急死することがよくあります。より経験豊富なスリーパーは左 エッセンスを通じて行動します。

しかし、彼女については少し後です。

アナスタシア： 社会でスリーパーについて知っている人はほとんどいません。これは文明国の国家安全保障構造における秘密の特殊部隊です。一般に、「人々の意識を物質化する」という政策が、人間のエネルギー体、エネルギー体の存在を研究するための科学の形成という非常に「扇動的な考え」さえも含めて、世界社会のいたるところで実行されていることは驚くべきことです。古くから知られているが、嘲笑されている。そしてこれを背景に、ほぼすべての文明国家でそのような特殊部隊の開発が強化され、互いに競い合っています。結局のところ、彼らの専門家は部屋から出ることなく情報を入手し、個人にエネルギー的な影響を与えたり、これらの国の中幹部を保護したりすることができます。

リグデン： この問題のキーワードは「政治」なので、この知識は人々にはアクセスできません。ところで、この「スリーパー」という特別な用語がどこから来たのか知っていますか？彼らが言うように、船を何と呼んでも、それが航行する方法です。スリーパーという言葉は借用されました 北欧神話より。そこではオーディンが最高神と考えられていました。彼は知恵の神であり、魔術、魔法の呪文の父であり、ルーン文字と伝説の愛好家であり、司祭であり、魔法の力の持ち主であり、シャーマニックな「直観」、魔法の芸術、狡猾さと欺瞞を有し、「人々の主人」でした。」その後、彼は軍組合の後援者として、また軍の種まき者としても活動した戦争の争い。



そこで、オーディンは8本足の馬スレイプニル（滑走）を所有していました。彼は主を神々の世界（アスガルド）から異界の「暗黒世界」、死者の世界（ニベルヘイム）、人の世界（ミズガルズ）へと瞬時に駆けつける、つまり世界の間を滑空することができた。伝説によれば、オーディンが巨人との「馬術競技」に参加したのはスレイプニル上だったという。

アナスタシア： はい、人々の世界では何も変わりません。人々の力と首を犠牲にした同じ政治的、聖職者の競争が今日まで続いています。この聖職者組織のために働き、動物の心の奴隸となり、人間の心の気まぐれに従って、その固有の力をどこにも無駄に浪費している人々にとっては、ただ残念なことです。

リグデン： 何ができるか、人は自分で選択します。東洋ではこう言われています。「真理を知らず、思考が不安定で信仰が揺らぐ人は、その知恵は完全にはなりません。」しかし、会話の話題に戻ります。

バックエッセンスは、人の身体から腕を伸ばした後ろに位置します。これは一種の現在の観察者であり、「記録者」です。過去の。それは、今生だけではなく、その人の現在と過去、蓄積された情報と結びついています。彼女にとって過去は情報のデータベースであり、現在はいわばオンライン、つまり今ここでの情報の管理と追跡です。バックエッセンスは一種のポータルです。これは松果体（松果体）に直接関係する「観察者」です。このポータルのおかげで、特定の瞑想テクニックを習得すると、次のことがわかります。

過去のある時点での「トンネリング」。



背面の本質は、通常、魚、アザラシ(たとえば、北の人々の伝統)、トカゲ、象、亀として描かれ、水の要素によって示され、過去の奥深くに突入します。同じシベリアの人々は、鳥とマンモス、そしてシュメール人の間では鳥と魚という独特的の対立についての神話への言及を保存しました。バックエッセンスは、人間の過去の象徴として人間の顔をした精霊として指定することもできます。

右エッセンスは、人間の肉体の右側、腕を伸ばしたところにあります。実際、これは人間の動物的性質の構成要素の 1 つです。より正確に言えば、正しい本質にはいくつかの質的に異なる機能があり、その発現は人の中で何が支配的であるか、つまり靈的な性質か動物的な性質によって異なります。右エッセンスはこの世界と非常に密接に関係しています。人の動物性が優勢なときに現れる主な感情的特徴は、攻撃性、落胆、または恐怖です。適切に管理されていない場合 本人からもその「攻撃」を受けることが多い。後者は、悪い思考や否定的な思考の流れ、突然押し寄せる憂鬱な状態の形で感じられます。その攻撃は、ある問題のレベルまで意識が狭まってしまうこと、憂鬱、怒り、貪欲、憤り、自責などの感情状態、同じ問題について思考を繰り返す空想や幻想の発現によって特徴付けられます。しかし、これは、人がこれらの考えに注意の力を与えたときに起こります。



4つのエッセンスはすべて、特定の感情状態のさまざまな爆発に対応する特定の思考の「誕生」を単に引き起こすだけであることに注意しなければなりません。しかし、エッセンスは、パーソナリティが選択した思考のみをサポートし、発展させます(特に動物の性質の支配下で、状況を認識を超えてねじ曲げ、「モグラ塚から」膨らませる)。人には、どのエッセンスを優先して注意を払うか、言い換えれば誰の話を聞くかという選択があります。しかし、彼が選択をするとすぐに、つまり、いくつかの考えを優先すると、これらの考えの出現を引き起こしたいずれかのエッセンスの活発な働きが始まります。

アナスタシア: ところで、あなたはかつて、いわゆる秘密の影響、意識の操作、人々の攻撃性、怒り、否定的な感情を刺激する考えによる大衆の感染のプロセスは、人々の正しい本質の活性化と関連しているとおっしゃいましたね。

リグデン: その通りです。人々の前エッセンスの抑制とラテラルエッセンスの活性化が行われます。これらの問題の専門家。この効果は催眠術に似ています。

瞑想では、右エッセンスの影響を感じ、追跡し、この流れがどこからどのようにして来るのかを理解することができます。それは、右から(外側から内側へ)下降する圧力として感じられます。しかし、もし人がこのエッセンスを規律するなら、つまり自分の考えや感情を厳しくコントロールし、否定的なことを許さず、スピリチュアルな方向に明確に従うなら、その人は完璧にサポートしてくれる有能なアシスタントを得るでしょう。

微細な物質の世界を指向しており、他の人々の同じエッセンスと多次元のつながりを持っています。



そして、繰り返しますが、このつながりは時間と空間に関係なく行われます。

さまざまな民族が神聖な絵の中で、通常、右エッセンスを何らかの強力または攻撃的なトーテム獣、たとえば白虎（キルギスのシャーマン）、熊、ライオン、ヒョウ、猿などの形で描きました。神話上の守護者、精霊。攻撃性、恐怖、異常な強さに関しては、古風な神話や儀式の伝統にこのことへの言及が刻み込まれています。通常、火はこのエッセンスを象徴する要素として示されます。

左側のエッセンスは、人間の身体の左側、腕の長さの位置にあります。このエッセンスはアーリマンの世界、物質原理の神聖な知識の世界とつながっています。多くの機能と機能が備わっています。しかし、繰り返しになりますが、人格によるそれらの使用は、人の中で支配しているもの、つまり精神的な性質か動物的な性質によって異なります。動物的な性質の支配下にある左のエッセンスの特徴は、狡猾さ、器用さ、プライド、欺瞞、誘惑です。これは賢くて陰湿な存在で、すべてを可能な限り最善の方法で提示します。人の注意を主要なもの、つまり精神的な道からそらすためだけです。このエッセンスが人格によって適切に制御されていない場合、人に疑いを引き起こし、靈的な道から遠ざけるのは彼女です。右のエッセンスが鈍い攻撃性、怒りと関連している場合、左のエッセンスは逆に、その論理を取り入れて、動物のから論理的な連鎖を構築する際に意識の明晰さと明晰さを示すことができます。



前エッセンスと同様に、それは人に何か新しいものを探すよう促しますが、それは物質的な方向であり、その人がより多くの価値がある、または他の人よりも重要であることを示唆します。一般に、誇大妄想と他人に対する秘密の権力への渴望についての考えは、動物的な性質が意識の中で支配的である場合、人格に対する彼女の攻撃の基礎となります。

人がそのような考えに遭遇したとき、瞑想状態では、外部からの圧力を追跡することもできます。それは、左側から圧迫され、見下しているように感じられます。人が精神的な道を一貫して守りながら、より頻繁に自分自身と自分の考えを規律する場合、左のエッセンスはまた、神聖な問題についてのアシスタントおよび個人的な「情報提供者」になります。古代の論文における左の存在は通常、オオカミ、ジャッカル、神話上の怪物、ドラゴン、ヘビなどの恐ろしい獣、または知的で狡猾な動物、あるいは守護者、精霊として言及されたり描かれたりします。要素としては、原則として、より正確には地球が示されます この世界の一時的な価値観の象徴としての塵。

アナスタシア： 読者に明確にしておきますが、前エッセンスと、ある程度の後ろ エッセンス（現在ここで情報を制御および追跡するモード）は、人の精神的な自己啓発において積極的なアシスタントです。そして、側面のエッセンス（左と右）と後ろエッセンス（過去に関する情報のベース）は、同じ名前の他の人のエッセンスと連携してよりスリーパーな機能を果たし、また、体の活性化において主導的な役割を果たします。人の中にある動物的な性質。



リグデン: そうですね。特に左エッセンスは最も有益であり、情報を収集し、対象の気分や欲望を操作するチャンピオンです。活性化されると、外部から抵抗することが困難になります。ただし、そのような活性化の所有者にとっては、誤解を招く可能性があるため、危険でもあります。攻撃性、落胆、または恐怖による抑圧に関しては、正しいエッセンスが原因となります。しかし、これらすべては観察対象の動物的性質の支配下で機能します。したがって、人々がボアコンストリクターの前でウサギの立場になりたくないのであれば、靈的な波動に留まり、良心に従って生きることを学ぶことが非常に重要です。そうでなければ、彼らが言うように、「良心が眠るとき、悪魔がささやきます。

これらのエッセンスは、目に見えない世界で特定の目標やタスクを達成するのに便利です。これらのエッセンスは、目に見えない世界の一種の「賢い、生きたツール」であり、もちろん、その使用方法と制御方法を知っていれば、人の精神的発達を助けます。もし彼がそのような制御を行わない場合、それは主に彼の思考の清潔さに関連しており、そのときこれらの側面のエッセンスが彼を制御することになります。つまり、それらは動物の性質の支配を通して彼を制御することになります。横方向のエッセンスを制御および管理する方法を学ぶには、まず横方向のエッセンスが何であるか、どのように機能するかを理解する必要があります。自分自身の中でのそれらの現れを追跡することが必要であり、最大の活性化です。後者は、原則として、否定的で利己的な考え方に基づいて、人格の同じ「精神的習慣」、心理的「フック」の形で現れます。



動物的な性質が優勢なとき、側面のエッセンスはどのようなネガティブなことがあっても気にしません。

または心の中で活性化するお世辞の考え方と、そのためにどのような外部のイメージを使用するか(したがって、人は通常、精神的な問題について誰かを責めますが、自分自身を責めることはありません)。側面エッセンスの場合、主なことはその人自身の注意力であり、そのおかげで彼らは彼への影響力を高め、比喩的に言えば、彼を自分自身に依存させます。

ほとんどの人は、通常の三次元の世界のビジョンという物質的なベールに覆われているため、日常生活におけるエッセンスの働きの原理を知りませんし、理解していません。そしてこれは、人々が自分の症状に直面することが非常に多いという事実にもかかわらずです。結局のところ、私たちが他の人、知人、友人、親戚など(個人的なコミュニケーションの機会があり、それに応じて彼らのバイオフィールドと接触する機会があった人々について)について考えるとき、実際には、私たちは直接連絡します。彼らのエッセンスとともに。私たちがスピリチュアルなチャネルでポジティブに考えると、前エッセンスが関係に入り、物質的なチャネルでネガティブに考えると、同じ名前の横方面エッセンスが接触します。これはどうして起こるのでしょうか?人が考え、特定の人に思考を集中するとすぐに、この人とその人について考えている人の同じ名前のエッセンスの間で、微妙なエネルギーのレベルで情報交換が起こります。たとえば、10年間会っていなかった人のことを思い出したところ、彼は文字通りそこに私たちに電話をかけてきました。同じ日に遊びに来ました。または、会話中に、対話者が正確に何を言うかを事前に知っている場合があり、何かを言う前から自分の気分や精神の流れを感じます。理由は何ですか?これはまさに、エッセンスの相互作用の現れです。



ただ私たちのエッセンスの 1 つが、別の人の同じ名前のエッセンスと接触しました。結局のところ、エッセンスにとって私たちの理解には時間も空間も存在せず、他の法則に従って生きています。これらは、他の世界とのつながりにおける人格の独特の仲介者です。

自分の考えがきれいであることを特に気にしていない(外部からの影響を受けやすい)人が、日々の家事に忙しくしていて、突然、何の理由もなく怒り始めたり、理解できない経験をしたりすることがよくあります。恐れ。その理由は情報交換にあります。この交換にはさまざまな種類があり、これには、私たちが話したのと同じサブパーソナリティの情報発現の形、ある人の中心エッセンスと同じ名前の人々のエッセンスとの接触、およびその他の理由によるものがあります。また、それは、特定の個人または多くの人々の中で、どこにいるかに關係なく、動物の性質を活性化するシステムを介した、(人が疑うことさえできない理由で)動物の心の意志の現れである可能性があります。彼らはお互いを知っているかどうか。したがって、スピリチュアルな道を歩む人にとって、これらの現れを認識し、自分の思考をコントロールして、自分にとって異質な動物の心の意志が自分の人生に干渉するのを防ぐことが非常に重要です。

アナスタシア: 多くの場合、人々は目に見えない世界からの影響のメカニズムの存在を理解しておらず、その存在についてさえ知りませんが、彼ら自身は日常生活でこれに多くの苦しみを抱えています。



リグデン: はい、人々はこれを理解していないかもしれませんし、気づいていないかもしれません、どの考えを選択するかは彼ら自身です。

優先してください。そして、目に見えない世界からの影響のメカニズムは非常に多様です。人が動物の性質の状態にある場合、側面のエッセンスの助けを借りて、同様の目に見えない方法で彼をネガティブな急増(攻撃性、恐怖)に引き起こし、心を開いて抜け出すだけで十分です。バランスの。言い換えれば、それと共に鳴ります。そして、彼自身のエネルギーを使って、彼を支配する側面のエッセンスに直接影響を与えます。ちなみに、『エズーモス』という本で紹介されていたカンドゥクも同様の行動をします。彼らは人々を否定的な方向に導き、その後彼らの意識を制御します。この知識は、人々に目に見えない影響を与える手段として、古代の聖職者によっても使用され、現在のアルコンの神権はこれらの技術を力強く主に使用しています。しかし、この知識を持っているのはアルコンだけではありません。スリーパーの中には、仕事でこれらのテクニックを使用する人もいます。結局のところ、それは単なるツールです。すべては、誰が、どのように、どのような目的で使用されるかによって異なります。

アナスタシア: 読者に、側面のエッセンスが非常にアクティブになった場合、前とバックのエッセンスはどうなるのか説明してください。

リグデン: 一般に、側面のエッセンスが動物の性質の支配下にある人の中で積極的に働くとき、これは同じ否定的な思考の現れや、人との会話中の人の感情の爆発によって顕著であると言えます。他の人)の場合、前エッセンスとバックエッセンスは、その本当の目的、つまり人の精神的な自己開発の支援ではなく、単に

必要に応じて側面のエッセンスによって利用されます。



そして、動物の性質のニーズは、すべての物質のニーズと同様に同じであり、支配のための闘争に還元されます。その結果、後ろエッセンスは、影響力、攻撃性、操作性、利己主義への集中などを求める闘争の活性化があったさまざまな生活状況に関する記憶の瞬間を積極的に呼び起こし始めます。そして、現時点の前エッセンスは実際にはその意図された目的のために機能せず、定期的に未来への希望の感覚を活性化するだけであり、それは人の意識（テンプレート、物質的な考え方）によって未来の希望にうまく変更されます物質世界での幸福。しかし、そのような状況を作り出した責任はその人自身にあります。なぜなら、どの考えを優先するかを頭の中で選択しているからです。

アナスタシア： それで、靈的な性質が人の中で支配的だとしたら？

リグデン： そうなると、すべてが質的に異なって起こります。人は自分の考えをコントロールすること、自己教育、精神的な発達、自己改善にもっと集中します。前エッセンスはその中で積極的に働き、思考の規律のおかげで、ラテラルエッセンスは、一種のガーディアンの追加機能を実行すると言えます。そして、攻撃的で操作的な性質の情報が外部から来て、それが後ろエッセンスによって読み取られたとしても、前エッセンスがその人の中で活性化されているため、それはその人に干渉しません。彼はこの情報を精神的に無視しているだけです。



そして、側面のエッセンスは、実際には、それらが参加しているという事実に加えて、思考の規律によって制御されています。

望ましくない状況の進行を防ぐ上で、それらの能力と他の次元との関係のおかげで、目に見えない世界を理解するのにも役立ちます。現実の人間であること、スピリチュアルな性質の立場に基づいて生きることがなぜ重要なのでしょうか。

アナスタシア： 私自身と私たちのグループから、人々がこれらのエッセンスの実践的な知識に出会うと、いわば目に見えない世界での自分自身との出会いから、最初はさまざまな感情(驚きから恐怖まで)を経験する可能性があることを知っています。おそらくこれは、幼少期から自分自身を三次元の視点から見る習慣と、他の次元の位置から自分自身をまったく異なる形や量で見るという意外性によるものかもしれません。

リグデン： それは当然です。自分の本質を認識する最初の段階では、人は三次元での人生の経験によって心に固定された習慣をまだ克服していないため、新しい現象が彼の中で2つの感情の混合と葛藤を引き起こすのです。恐怖そして極度的好奇心。そこで何が勝つか、それは知識の結果です。この種の恐怖は単なる誤った選択であり、人格が注意力を注いで現実化する動物の性質からの感情です。世界の知識の中で精神的な自由を持つことが必要です。つまり、自分の着実な選択、自己認識、より高い精神的な世界を目指して努力することによって、そのような恐怖から解放されることが必要です。靈的知識の経験が豊富な人は、自分に開かれている目に見えない世界に対する恐怖を経験しません。彼は単にこの知識を使い始め、観察されたものは次のようなものであることに気づきました。

彼らにとって、エッセンスはその構成部分です。実際、多音節の現実のさまざまな現れの中でそれは彼自身です。



アナスタシア: はい、人々が言うように、「神は余分なものは何も与えません。

リグデン: まさにその通りです。これらのエッセンスの存在は、人間の選択、より正確にはそのための条件の創造、そしてある程度の自由を備えた人格の付与と関係しています。これが人間のこの多次元構造全体の意味です。同じ側面のエッセンスが存在しない場合、物質世界の欲望と靈的願望の間、「善と惡」の間の選択の自由は存在しないでしょう。したがって、人は、限られた状況(物質の中に閉じ込められている)にあるにもかかわらず、依然として内に魂を感じ、気まぐれに神のところへ行くでしょう。そして、これらのさまざまなエッセンスを使用すると、彼には別の選択肢があります。

怒り、攻撃性、羨望、プライド、そして物質の無限の欲望を選択するか、これらすべてに注意を向けず、精神的なものや精神的なものの側に立つかです。望むことはただ一つ、靈的な解放と神へ向かうことです。

人の精神的な発達は、比喩的に、周期的に滑りを伴う車の動きにたとえることができます。最初、人の意識は制御不能にある感情状態から別の感情状態に切り替わることがよくあります。これは、ハンドルを握ったものの、どこで「アクセル」を踏み、どこで「ブレーキ」を踏むべきか、ペダルを混乱させている初心者に似ています。思考の規律、意識状態のコントロール。これは、人が管理方法を学ぼうとする単なるみです自分自身、自分の感情、欲望、思考、一般的な動き、つまり自分の人生の立場、主な選択の明確な方向を維持しながら。



それは、全責任を持って意識的に人生を送り、靈的な方向に明確に焦点を当て、常にそれに注意を向け続けることです。比喩的に言えば、これは小さなスリップにもかかわらず、ゴールに向かって車を運転したいという願望です。当然のことながら、より頻繁に自分自身をコントロールし、途中でより注意を払うほど(側面のエッセンスからの思考や感情に注意を払い、歩き回らないようにするほど)、あなたの動き(スピリチュアルな発達)は速くなります。

アナスタシア: 良い例ですね。考えてみると、ほとんどの人はスピリチュアルな次元で無意識に人生を生きており、側面のエッセンスからの思考に注意を払っています。彼らは、家族、職場、社会などにおいて、自分の一時的な重要性を蓄える、盗む、買う、主張するなど、小さな世俗的な目標や物質的な課題を自分自身に設定します。比喩的に言えば、彼らは車に乗って円を描き、ガソリン(生命エネルギー)を無駄に消費します。

リグデン: 彼らは自分たちの内なる選択に従って人生を生きているだけで、実際には、アルコンのシステムが彼らのために用意した限られた空虚な人生です。限られた意識、狭い範囲で、朝から晩まで「ロボット」でいることです。興味や世俗的な関心事について。しかし、これらはすべて、人にそれを信じさせ、動物の心のプログラムの 1 つであるこの架空のシステムのために働かせるために、世界中で広く宣伝されている慣習です。



実際、人はこの三次元世界の鎖に自分自身を縛り付けています。

彼にとっては、永遠への個人的なパスとして、精神的な労働によって真の自由を獲得するよりも、この物質的価値観のシステムの奴隸になるほうが簡単です。人の人生は彼の手中にあり、自分自身を改善し、自分自身に取り組みたいという彼の願望で選択する権利があります。

アナスタシア: はい、特に情報技術の時代では、人々はさまざまな民族の精神的遺産に関する幅広い情報にアクセスできます。探す人は必ず見つけ出すことができます。

リグデン: 中世の科学者オマル・ハイヤームは、物理学、数学から哲学、神聖な知識に至るまで、さまざまな分野に幅広い知識を持っていた人物として、次のような言い伝えがあります。

「我々四人は苦難を強いられている、

食べて寝る必要性を私たちに教え込むことによって。しかし、私たちは最初から全体を奪われています。また忘却の彼方に戻ってしまいます。」

アナスタシア: オマル・ハイヤームは人間の4つのエッセンスについて知っていたのですか？

リグデン (笑顔で): それで、彼のルバイはどうですか？

四大元素から生まれる

ニュースを聞く

お世辞を言わず裏の世界から！

あなたは獣であり人間であり、悪霊であり天使でもあります。

あなたが見えるすべて

あなたの中に一緒に隠れています。



あるいは、オマル・ハイヤームのこの詩：

幸せの根元から芽吹くとき
永遠のお祝いの枝、
服がきつくなったら
命の体があなたのために
キャンプテントは自分の体に頼らず、
彼らはそれほど強くないので、
古代の釘が4本あります。

アナスタシア： 幸福の根からは永遠の枝が生えるのですか？
これはみぞおちの「蓮の花」の寓話でしょうか？！テントはピラミッド構造を示しています。4つの古代のペグは、4つのエッセンスであることが判明しました。さらに、主な神話のイメージは次のとおりです。獣は右のエッセンス、人間は人間の過去を持つバック エッセンス、悪霊は左のエッセンス、天使は前エッセンスです。素晴らしい！おそらく、私がエッセンスについて知らなかつたら、これらの言葉を物質的な概念と関連付けることになるでしょう。オマル・ハイヤームの詩に反映されている知識の半分も人々には理解されていないことが判明しました。

リグデン： それは、彼らが知識の鍵を習得するために、より深い認知になり苦労しないだけです。人間の構造についての会話の続きとして、すでに述べたように、文化的な分野で多くの参考文献があります。単一の中心を持つ人の主要な4つのエッセンス以外のもの、つまり魂に関する世界の人々の神秘的な宗教的伝統、神話、伝説。

アナスタシア： あなたがかつて私たちに、人間を構成する古代エジプト人の5つの要素 (Ah, Ba, Ka, Hat, Hu) について話してくれたのを覚えています。私はこの知識を「先生-IV」という本に記録しました。



しかし、私が当時そうであったように、人々がこの情報にどのように反応したかは驚くべきことです。彼らは何か新しいことを発見したようだ。これについての古代の言及が今日まで生き残っているという事実にもかかわらず、多くの読者はこの特定の文脈で魂の概念を考慮していませんでした。知識はあるようですが、その鍵は時間の経過とともに失われてしまいました。そしてあなたの説明は、人々に自分自身と自分たちの周りの世界で何が起こっているのかを理解するだけでなく、人類の古代の宝物からの秘密の知識を理解するための貴重な鍵をえただけです。したがって、人々も理解することができます。今日、魂についての代替知識として彼らに与えられているのは、何らかの伝統的な宗教の教えに加えて、主に西洋哲学の本です、人間の脳によって書かれたもの。

リグデン： どうすればいいのか、人は単純なことを複雑にする傾向があります。

アナスタシア： それはそうです。しかし、この場合でも、何が危機に瀕しているのかを全体的に理解している人にとって、もちろん、彼が所有物を持っているのであれば、時間の経過とともに表面的な殻を払いのけ、本質を理解することは難しくありません根源的な知識。社会は単に元の情報を失っただけです。したがって、すべての問題が発生します。あなたの情報は、原初の知識の主な本質をほぼ説明しています。現代人は、自分自身、自分のエッセンス、自分の魂について、そして人々が常にこの情報に与えてきた重要性について学ぶことに、「ただ興味がある」以上のものになると思います。



リグデン： 今日、確かに、残念なことに、この情報は複雑であり、外部の儀式、儀式、4 つの要素への訴え、枢軸ポイント、神話上の精霊、人間に関連する補助動物のイメージ、これらのエッセンスに関する知識の特徴に偽装されています。

人のエッセンスに関する神聖な知識は、北方、ヨーロッパ、シベリア、アジア、南北アメリカ、アフリカの多くの古代民族の秘密のシンボルに隠されています。特定の人々に関する神聖で靈的な知識を保持し、目に見えない世界を知る技術を習得した人々は、シャーマン、魔術師、宗教的司祭など、より具体的に彼らについて知っていました。たとえば、儀式の実践と密接に関係しているシャーマニック神話(ブリヤート人、アルタイ人、モンゴル人を含む北アジアの人々のシャーマニズム)では、次のような表現が保存されています。たとえば、シャーマンは、半分が人間で半分が鳥である、またはヘラジカ、クマ、シカの形をした生き物であるという、曖昧な性質の生き物としてのビジョンです。シャーマンの動物のような双子についての言及もあり、その主は「母獸」、つまり動物の母親と呼ばれています。

アナスタシア： 「母獸」?興味深いですね、この名前の由来は何ですか?

リグデン： まず、北シベリアの人々 (たとえば、ポドカメンナヤ、ツングースカ川、ウラル山脈、オビ川流域、エニセイ川のエヴェンキ族) の神話によれば、宇宙は女性原理、つまり大いなる神として表現されています。世界の母、祖先

すべての生き物、宇宙の女王、そして動物たちの母親。



白いシャーマンは、上層天界へのアストラルの旅をしながら、その魔法の力を最大限に得るために「宇宙のすべての世界の道」を通過すると信じられていましたが、彼らはその魔法の主要部分を唯一から受け取っていました。天の愛人たち。このようにして、彼らは上からの創造力、あるいは私たちの言葉で言えば、世界の天の女王様から与えられたアラートの力を授けられました。第二に、以前は目に見えない世界についての神聖な知識は主に女性が持っていました。なぜなら、女性はその性質上、より微妙に、直感的に目に見えない世界を感じていたからです。創造の神秘、つまり新しい生命の誕生は、女性、つまり女性原理と結びついています。言い換えれば、古代においては、靈的で神聖な知識は、シャーマンではなく主にシャーマンによって保存され、後世に伝えられてきました。その後、意識状態を変えるシャーマニックな実践を習得するのに男性よりも女性のほうが強いと考えられるようになりました。科学者たちはすでに、十字架、神秘的なシンボル、装飾されたお守り、特別な儀式の品物で飾られたさまざまな宗教的品物とともに、多くの古代の女性の埋葬を発見しています。なびく髪、額の「第三の目」、そして神聖な知識を証明する特定のしるしを持つ少女を描いた古代の石絵や彫刻が数多くあります。たとえば、4000年前のロシア、シベリアのエニセイ川、レナ川、アンガラ川のほとりでの発見物や、地球上で最も深い古代の湖バイカル湖の崖の絵文字を考えてみましょう。



図7. ゴルニー・アルタイの岩面彫刻
(ロシア、アルタイ共和国、コシュ・アガチスキー地区)。

第三に、より高い世界に関連付けられている人の魂は、原則として「母性」と呼ばれていました。同じ北部の民族、たとえばヤクートには、今でも興味深い言及が残っています。古代、彼らの祖先は、人が普通に生き、普通に考えるためには、出生時に受け取った魂の要素、つまり母親の魂(イエークット)、生命力と精神的な力がその人の中に存在している必要があると信じていました。シュール)、地上の魂(ボルクット)、空気の魂(サルギンクット)。人の死後、母親の魂と超能力(シュール)は創造主の元に戻り、地の魂は灰とともに地上に行き、空気の魂は空中に溶けると信じられています。シャーマンの場合、これらの魂のそれぞれは特別な教育を受け、特別な転生を受けます。



アナスタシア：すごいですね。

考古学や民族誌に注目している人が少ないので残念です。世界の少数民族の研究。

しかし、彼らもまた、今日奨励されている宗教や現代の信念と同じ知識を保持していることが判明しました。先ほどロシア北部の人々について話されました。私はかつてこのテーマに関する研究論文で興味深い情報を見つけたことを思い出しました。たとえば、ヤクート人は特定の動物と特別な関係を持っており、そのカルト的な崇拜は、死んで復活する動物の考えに関連付けられています。後者は北方民族の間で神聖な熊かクジラの形で崇拜されていました。知識の神（ビルゲ カーン）は第7の天に住んでいると信じられていました。

さらに、ヤクートには「子供の魂の巣を作る」という儀式がありました。つまり、子供の将来の魂のために、特別な8本の茎の木に特別な巣が建てられました。シャーマニック神話には、卵からの世界の創造のモチーフがあり、鳥のような魂、人の死後の世界、神の贈り物（カット・シュール）についての考えがありました。あなたが言及したこと、それは人の人生の道全体を決定しました、そして他の多くのことはあなたのおかげですでに私を知っていました、知識。そして最も注目すべきことは、衣服、宝石、魔法のアイテムの特別な装飾品の形で、記号システムに重要な役割を割り当てたことです。これは、世界の他の民族と同様に、オカルトの知識にも当てはまります。4つのエッセンスに関しては、あなたが言ったように、ヤクート人はシャーマンのヘルバースピリットについての考えも持っていました。



リグデン： そうですね、ヤクート人だけでなく、他の民族もこれについて言及しています。特に、シャーマンには、同じ儀式の詠唱の中で、自由に使えるスピリットヘルパーがいます。

それらは「部隊」、「従者」、「軍隊」と呼ばれます。彼らは多くの場合、動物、魚、鳥、または何らかの行動を実行するために別の世界に旅行する精霊の形で現れます。彼らは他の精霊と交渉し、召喚し、病気の精霊と戦い、予言し、望ましい物を受け取ります。の上。4つのエッセンスに関する知識は、象徴的なスキームにも見出すことができます。たとえば、シャーマンの服装の要素に見出すこともできます。これは、比喩的に言えば、軍服の属性として、シャーマンの「ランク」を決定するために使用されます。彼の「アストラルの功績」の程度など。

たとえば、ウラル山脈の麓では、儀式用の衣服とペルミのシャーマンの「イメージ」の要素に関する最も一般的な構成スキームは、鳥（前エッセンス）、トカゲ（背後エッセンス）、ほぼ同じ性質の2つの神話上の生き物です。（横エッセンス）、そして真ん中にはシャーマン自身。

さらに、トカゲの体には7匹の魚が描かれることもあり、特に水の要素、測定値、取得した情報の記憶との関係が強調されました。トカゲの上に立っている大人、つまりすでに過去を持っている人だけが描かれていることは注目に値します。原則として、この計画では2匹の神話上の生き物がシャーマンの側面に配置されました。場合によっては、動物の性質を意味する伝統的な要素であるひづめの使用によって、右と左のエッセンスが明確に示されることがあります（ずっと後になって、横のエッセンスは、斧、ナイフ、矢を持った2頭の動物または人として描かれ始めました）（手に武器を持っています。）



他の場合には、これらは真逆の指定でした。

機能別、女性の身体とヘラジカ牛(尊敬される神聖な動物)の要素を組み合わせた、世界の天の愛人。彼らの力はシャーマンをより高い次元を含む他の次元に転移させることができる信じられていました。時々、これらの画像には、角を立てた三日月の形でアラットのシンボルが配置され、このようにしてシャーマンがさらに彼の力を高めると信じられています。その後、いわば地上の目的のために、側面のエッセンスをその力に従わせたいという願望のために、これらの概念は混同され始めました。それは、さまざまな考古学的遺物で入手可能な画像から追跡することができます。



図8。 プラーク
ペルミ・ペチョラのシャーマン。



人間の 5 つの要素に関する同様の情報は、世界の他の地域でも見つけることができます。それらはさまざまな宗教や信念に見られます。混合宗教(ギリシャ語のシンクレシス(融合)、シンクレティスモス(結合)から。この場合、さまざまな宗教を単一のシステムに統合することを意味します)宗教であっても。この宗教は現在、メディアのおかげで一方的に、そして否定的な方法で世界中で誇大宣伝されているため、その代表者のほとんどは黒魔術師や魔術師と関係しています。仏教は、ハイチ島(北アメリカと南アメリカを隔てるカリブ海に位置する)に、奴隸として強制的に連れてこられた西アフリカの部族出身の人々の中に現れました。したがって、ハイチ島の住民の神聖な見解によれば、人の精神的な本質の構造は5つの要素で構成されています。すなわち、肉体(これは正しい本質の知識のエコーです)。ダンバラという名の偉大な蛇によって授けられたこの体の精神(これは左の本質に関する知識の解釈されたエコーです)。人と空の星を繋ぐ特別なチャンネル(これは背後エッセンスに関する知識のエコーです)。「大きな良い天使」、彼らの理解では生命力を意味します。(これは前エッセンスに関する知識の反映です)。「良い小さな天使」(魂たち。これは人口 センターに関する知識のエコーです)。さらに、これらの2人の「天使」は人にとって最も重要な部分と考えられており、信者が最も心配しているのは彼らについてです。

これらの人々にとって、普通の死でさえ、黒魔術師の行為によって永遠に魂を失ったり、さまよえる靈になったり、あるいはパフォーマンスを行う意志の弱いゾンビになる可能性ほど恐ろしいものではありません。

魔術師の命令。



実際、彼らの見解によれば、魔術師が「大きな善の天使」を捕まえることができた場合、彼は人の活力を奪い、消え去ると信じられています。ちなみに、活力の剥奪に関しては、これはカンドウクの行動に関する過去の知識の反映です。

仏教には、レグバなど、アフリカ神話の伝統的な神のキャラクターもいます。彼は東と太陽を擬人化し、人間の世界と靈の世界の間の仲介者、他の世界への門の守護者と考えられており、そのおかげで人々と靈の間のコミュニケーションが行われます。彼の名前の1つはクロスロードのマスターです。ダホメイの神話によれば、レグバは、すでに述べた神々の神殿のまさに長であるマヴ・リズの七男です。

アナスタシア: 72 次元のこと、螺旋のこと、ダホメア神話の蛇アイド・クヴェドについていつ話しましたか。アイド・クヴェドは世界を創造する行為の際に召使としてこの神（マヴ・リザ）を口にくわえました。

リグデン: はい。神話では、レグバだけがマヴの言語と、最高神から特別な言語を与えられた兄弟たちの言語を知っていると述べられています。レグバはマヴに、6人の兄弟たちの「王国」で起こっていることすべてを知らせる。

アナスタシア: 言い換えれば、これは 6 つの次元、次元間で相互作用する情報構造、人間が高次元を認識する際の 4 つのエッセンスの働きの完全性を示しているのでしょうか？



リグデン： まさにその通りです。この宗教の神への呼びかけに関連した儀式や儀式が行われるとき、指導者は地面に小麦粉や穀物で呼びかけの対象となった神の個別のシンボル(ヴェーヴ)を描きました。このおかげで、シンボルは今日まで生き残っており、4つのエッセンスに関する知識を含む知識が記録されていますが、この宗教の現代の観察者はこれを独自の方法で解釈しています。

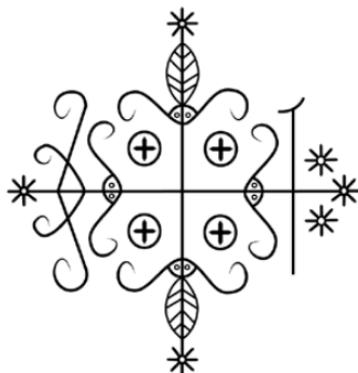


図9。シンボル「レグバ」のスキーム。

残念なことに、そのような知識に対する重点は、精神的なものから消費者の態度へと長い間変化してきました。これはこの宗教に限らず、他の宗教にも当てはまります。比喩的に言えば、かつて人々は杖(知識)を与えられ、それを頼りに精神的な自己改善の高みに到達することができました。しかし、心的に自分自身に取り組み、自分を変えることは、物質世界のお世辞の幻想で心を喜ばせることよりもはるかに困難です。人間の怠惰と怠惰な心は、この杖を仮設の塹壕住居に装備するための便利な道具に変え、永遠への道を「つまずきの石」と交換しました。その本質は塵です。



言い換れば、人々は自分たちの後に続く人々のことなど気にせず、一時的な必要のために原初の知識を利己的に作り直そうとしたのです。しかし、かつてこの知識がさまざまな大陸に住んでいた古代世界の人々の間に広まったという事実により、今日ではその反響が地球のさまざまな場所で見つけることができます。

たとえば、北米のナバホ族インディアンの間では、「ホーリーウェイ」などの儀式で、細かい色の砂で構成された特定の神聖な象徴的なイメージが使用され、儀式の最後に消去されます。時には、神聖な聖歌「夜道」のために描かれた砂絵「回転丸太」にも注目してください。

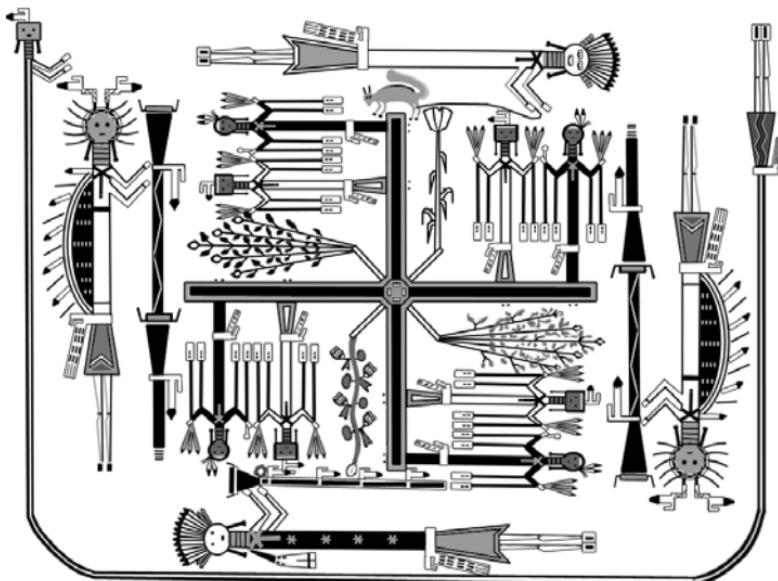


図10。丸太の回転」

(ナバホ族の神聖なイメージ)。



この写真では、中心と正しい辯(拡大するアラットの動き)、および 4 組の女性と男性の精霊(イー)が手の位置に注意を払っているのがわかります。ナバホ族の信仰では、男性 6 名、女性 6 名の神が最高位のイーイに属し、伝統的に合計 14 種が区別されています。それらはすべて第一創造の出来事に関連していると考えられています。さらに、「丸太の回転」という絵には、4つのエッセンスの象徴的なイメージもあり、横エッセンスは守護霊として、背後エッセンスは4つの同一のマーク(時間、第4次元を示す)が付いた過去として描かれています。そして、外部のエッセンスは、リスの袋を持ったメインヨイイー、つまり人々を守る話す白い神(静かな話者)の形で提示されます。彼は東、夜明け、穀物と結びついていました。そして全体像は、主要な女性のイーエイ、つまり残りのイーエイを囲み、天と地を象徴する虹の守護女神によって一種の半円の形で縁取られています。 これはアラットの様式化されたシンボルです。

アナスタシア: あなたの話から判断すると、複雑な状況ですね。これには人間と宇宙の両方についての知識が含まれていることが判明しました。

リグデン: まさにその通りです。また、特に古代中国の神話では、アジアの魂を中心とした 4 つのエッセンスへの言及もあります。「武帝」のような集合的な概念は 5 人の神話の登場人物を指し、それぞれの登場人物には手伝いにんがいます。この用語は、古代中国人によって「5 つの要素の抽象的な精霊」の指定として使用されました。



「ウディ」は古い書物『周礼』に記載されています。さまざまな古代の作家兼哲学者が独自の方法で「ウディ」の概念を解説しました。ある者はこれらを「5人の神」、ある者は「5人の皇帝」、ある者は「5人の偉大な」と書きました。いずれにせよ、この概念は5つの方向(4つの基本点と中心)のシンボルと同一視されました。

これらのシンボルは古代中国の儀式の伝統において非常に重要であったため、そのイメージは紋章、旗、芸術、建築(墓の浅浮き彫りを含む)など、ほとんどあらゆる場所にありました。さらに、それらは特定の儀式に関連した特別な順序で配置されていました。たとえば、「5方向」のシンボルのいずれかが描かれた旗が、行進中に軍隊によって特定の順序で運ばれました。その前方には、前エッセンスの象徴として、中国人が世界の名誉ある側面とみなす南の象徴である朱鳥(「赤い鳥」)の像を描いた横断幕が掲げられていた。背後エッセンスの象徴として、彼らの後ろには北の象徴である玄武(蛇に絡まった亀)を描いた旗が掲げられていました。左側には、左派の本質の象徴として、東方の象徴である青龍(「緑の龍」)のイメージを描いた旗が掲げられていました。右側には、正しい本質の象徴として、西洋の象徴である白虎(白虎)の像を描いた旗が掲げられていました。しかし、知識のある人にとっては、これを見るだけで十分です。この人々の世界観の特殊性を考慮して、実際に何が議論されているかを理解するために、これらの集合的な概念の特徴について説明します。



アナスタシア：確かに、これらの伝統を確立した人は、明らかに目に見えない世界についてもっと知っていました。そしておなじみの概念もいくつかありますが、「ウディ」という概念は、方位の 5 つの方向、つまり五神の象徴と同一視されているとおっしゃいました。そして、これら 4 つの枢機卿、4 人の神の中心である 5 番目の君主は、ひょっとして黄帝（「黄色の君主」）ではないでしょうか？

リグデン：その通りです、黄帝、またはハンシュヌー（「棒を飲み込む」という意味）という名前の精霊です。彼の精神の具現化は、センターのシンボルであるキリンユニコーンです。

アナスタシア：実際、これは魂の指定のプロトタイプです。人の目に見えない構造の中心であり、前エッセンス（そのシンボルはユニコーンでした）とのつながりを示しています。

リグデン：これらのキャラクターの特徴を詳しく見てみましょう。黄帝は「黄色い君主」だけでなく、「輝かしい（光を放つ）君主」という意味もあります。この中心のシンボルは、実際には最高の天の神と考えられていました。彼は四つ目、四つの顔を持つように描かれていました。この伝統は古代中国のシャーマンに由来しており、シャーマンは神聖な儀式の際に対応する四つ目の仮面をかぶっています。なぜ四つ目のシンボルが描かれたのでしょうか？まず、これは 4 つのエッセンスの従来の指定と関連しています。そして第二に、特定の瞑想テクニックを実行すると、人は目に見える世界と目に見えない世界のいわゆるすべてを包括するビジョン、つまり周囲で、時には他の次元で起こるすべての同時ビジョンを受け取るからです。このような機会は、見慣れた三次元世界では通常の人間の視覚では利用できません。



しかし、人が意識の状態を変えるとすぐに、彼の内なる視点の障壁は消去されます。

アナスタシア: はい、この視点は、すごいですね。特にそのような「包括的な視点」から目に見えない世界を知り始めたばかりのときに、印象的です。20年前、彼らと私がこれらの実践をちょうど理解したばかりだったとき、私はこの最初の経験に個人的にどれほどショックを受けたかを覚えています。プロセスを観察し、そのような内部の「視覚的」認識の全く珍しい感覚を経験することはかなり珍しいことでした。しかし、さらに驚くべきことは、あらゆる物体の外部構造と内部構造の両方、そしてそれ(この物体)が接触した付随情報の包括的な考えを取得できる可能性がありました。ところで、あなたはちょうど黄帝というキャラクターについて知ったとき、私はどこから来たのかを思い出しました。かつて、人は正しく考える方法を学ぶ必要があると私たちに話したとき、あなたは古代の医学書「黄帝内経」について言及しました。

リグデン: そうでした。中国の伝統では、科学としての治癒と医学の始まりが黄帝の名前と関連付けられています。そして、この医学書『黄帝内経』自体は「黄帝の内経の書」と訳されています。外部のもの、物理的なものはすべて内部から生まれます。ちなみに、伝説によれば、黄帝の仲間である滄杰(伏羲の別のバージョンによると)が象形文字、つまり記号の神聖な文字を発明したという。ちなみに、この文化的英雄は、特別な洞察力の象徴として、4つの目を持つ古代の浅浮き彫りにも描かれていました。



伝説によると、彼は鳥や動物の足跡の意味を深く洞察したため、記号を構成することができました。そして今、シャーマンは通常、人間のエッセンスを「鳥や動物」の形で描いたことを思い出し、この情報をあなたがすでに知っている兆候と比較してください。サインの秘密については少し後で説明します。ここで、読者のために、それぞれのシンボルが非常に広範な情報を伝達していることだけを述べておきます。さらに、特定の効果をもたらす可能性のある特別な兆候が存在しますが、これらの兆候が社会に豊富に存在するという事実にもかかわらず、ほとんどの現代人はそれらにさえ気づいていません。記号は 6 次元の世界だけではなく、大きな役割を果たします。これらは、特定のアクションのトリガー メカニズムに相当します。

アナスタシア： はい、私のこれまでの実践的な瞑想経験を考慮しても、これは議論の余地のない事実です。

リグデン： しかし、4 つのエッセンスのシンボルと、古代中国人の見解における神聖な中心についてのより詳細な検討に戻りましょう。そこで、中心のシンボルとしてユニコーン(麒麟)を飼っていました。説明文では「驚異の獣」と表現されており、地面を歩いても草の葉も折れず、虫も碎かず、まるで地上にいるかのように水の上を飛んだり歩いたりすることもできます。慈善活動と人間性を体現し、団結の象徴です。ちなみに、古代の文献では、ユニコーンは鹿と同等、より正確には彼らの一種のリーダーとしてよく言及されています。これらは、他の民族のシャーマン神話に存在した天の鹿に関する伝説のエコーです。伝説では、この神話上の生き物についてさまざまな記述があり、その体のさまざまな部分が動物の体の一部に例えられています。



しかし、これはすべて、この中心が囲まれている 4 つの主要なエッセンスの構造を示す特徴です。たとえば、オオカミのような首、雄牛のような尾、馬のひづめを持っているという記述があります。オオカミは左のエッセンスの伝統的な指定であり、雄牛は右のエッセンスです。神話の表現における馬は、時間内および時間外の移動、次元や世界を移動する、ある種の神聖な乗り手や文化的英雄を乗せた生き物と関連付けられることがよくありました。ここでの「馬の蹄」は、背後エッセンスの機能だけでなく、側面のエッセンス(動物的性質)の機能も象徴的に示しており、それらの適切な制御と動作モードの切り替えにより、他のエッセンスと接続する能動的なアシスタントの役割を果たしました。次元と世界。氣林は陰と陽の力の組み合わせであると信じられていました(気は男性的、林は女性的です)。道教の伝説では、不滅の者が白いユニコーンに乗るという話があります。これらはすべて、偽装された知識の比喩的な比較です。 神話の下で、特に人間の目に見えない構造、その精神的な要素、目に見えない世界の知識における本当の可能性についての知識。

さらに、古代中国における前エッセンスの隠されたシンボルは南の志帝であり、その化身は「赤い鳥」を意味する朱鳥(朱橋)であると考えられています。彼は西洋の鳳凰鳥と呼ばれる素晴らしい中国の王鳥、鳳凰と比較されました。この奇跡の鳥は、龍とは対照的に、女性を体現したものでした。彼女は風の神を擬人化した天の支配者のメッセンジャーと考えられ、自然の太陽(太陽)の象徴、慈善活動の具体化に関連付けられていました。



伝説によると、彼女は「完璧な人々の東の王国」に住んでいます。彼女の出現は平和と繁栄の始まりのしるしでした。伝説によると、不滅の者がこの鳥に乗って飛ぶそうです。繰り返しますが、前エッセンスの特徴と目に見えない世界との関係を知れば、なぜこのシンボルに関する神話がこの特定の観点で説明されたのかが明らかになります。

背後エッセンスの隠されたシンボルは、北の君主ヘイディ（「黒の君主」）、つまり「調和と光の記録」を意味するセグアンジという名前の精霊でした。そして今、バックエッセンスの機能を思い出してください。背後エッセンスは情報の管理者であり、「トンネリング」を担当します。北の主は水の要素と関連付けられていました。興味深いことに、蛇に絡まった亀（玄武）は黒帝の精神の化身と考えられていました。このシンボルはタブー視されています。

一般に、亀も蛇と同様に中国の神話の中で特別な位置を占めていることに注意する必要があります。それは、宇宙と地球（物質世界として）に関する神話に関する連関連しています。亀は宇宙全体を体現していると信じられています。ドーム状の上部甲羅の形をした亀の形は、古代中国の宇宙のイメージ、つまり丸い空と、平らな四角い地球を備えた平らな下部の盾（腹甲）に関する連関連付けられています。言い換えれば、この連想イメージが現れる前から古代人が知っていた、円（天上の世界）と四角（地上の物質的な世界）の神聖な兆候です。



中国語から翻訳された「クシャン・ウェ」が「暗黒の戦闘員」を意味するのは偶然ではありません。実際のところ、亀の上部の甲羅(天界)と下部の平らな盾(地上の世界)は鎧(「武」-「好戦性」と関連付けられており、玄の色は黒色でした。赤い色合い。後者は目に見えない世界とのつながりとして機能しました。実際、蛇と亀が絡み合ったこのような古代のイメージは、アラートの天の力(亀の甲羅の凸状の上部の盾、甲羅)と物質界の力との間の目に見えない世界での闘争を意味していました。動物の心の(亀の甲羅の平らな下部の盾、腹甲)。これらすべては、螺旋構造(亀の周りに蛇の輪が巻き付いている)を持つ単一の宇宙で起こりました。その後、中国の神話に、対応する紋章を持つ玄武、つまり「暗黒の戦士」と呼ばれる人物が登場したのは偶然ではありません。多くの場合、彼は肩まで髪が落ちた美しい顔で、黒いローブを着て、翡翠で飾られたベルトを締め、手に剣を持ち、蛇に絡まった亀の上に裸足で立っている姿で描かれていました。画像の各要素は、特定の精神的な知識の象徴として機能しました。眞の好戦性を体現したのは後者、つまり靈的知識と靈的世界の意志への奉仕でした。民間の伝統では、この戦士の像は悪靈を追い出す神として崇められていました。

アナスタシア: 今日、人々は「眞の戦闘力」という古代の表現の本当の意味を理解していません。しかし、人にとっての眞の好戦性は、決して目に見える世界における攻撃性、憎しみ、怒りの現れではありません。眞の好戦性とは、動物的な性質や動物的な心と戦う戦士の精神のスタミナの現れであり、伝説にあるように、目に見えない世界での光と闇の戦いの特徴です。



リグデン: まさにその通りです。あの戦士は戦っても成長しない悪い戦士です さて、質問の話に戻ります。古代中国の神話における正しい本質の隠された象徴は、西の君主である白帝（「白い支配者」）、つまり「呼び寄せて撃退する」を意味する趙州という名前の精霊です。この精神の化身は、西洋の守護者であり、すべての悪霊に恐怖を呼び起こす獣、バイフ（「白虎」）です。ちなみに、中世中国では道教寺院の門に守護者として白虎（右の精の隠された象徴）と緑の龍（左の精の隠された象徴）が描かれていました。ペアで、彼らは精霊、つまり扉の守護者として崇拜されました。右と左のエッセンスが動物の性質からの感情や思考を活性化する役割も果たしていると考えると、守護者としての機能と、それによって守られる「扉」は神聖な意味を持っていました。後者は、自分の中にあるこの二人の守護者を倒さなければ、人は靈的世界に入ることができないことを意味していました。

そして最後に、左のエッセンスの隠された象徴は、東の君主、ツアンディ（「緑の支配者」）、つまりリンウェイян（「奇跡的、力強い、見上げる」）という名前の精霊でした。そして、この精神の具現化が青龍（「緑の龍」）でした。緑色のドラゴンの像は、他の 3 つの枢機卿のシンボルとともに、多くの墓の浅浮き彫り、つまり埋葬構造物の壁に描かれています。呪術的な性格と慈悲深い意味を持つ民俗絵画の中で、富の神の助手として緑の龍に出会うことができるは興味深いことです。さらに、ドラゴンは富を散らし、一種のコルヌコピア（宝物を集めた特別な花瓶）を、炎がにじみ出る素晴らしい真珠や金、銀、サンゴで満たしていると描かれていました。龍や虎に乗った姿で描かれる富の神は、商人たちに特に崇められていました。



民俗絵画における中国の富の神の一定の属性は、原則として、お金に関連するドラゴンでした。繰り返しますが、これらすべての情報を右エッセンスの特性(狡猾、プライド、欺瞞、秘密の力への欲望)と比較すると、この伝説にはまったく異なる背景が現れます。

古代中国では、緑の龍は非常に有名であり、今日で言うように、広く知られたキャラクターであったことに注意する必要があります。彼は春、変化、東洋の象徴として人々に提示されました。しかし、これはすでに概念の置き換えであり、鳥(そして後には人間の顔)と蛇の特徴を組み合わせた、より古く、神話においてより古く、部族で普及していたイメージとの連想的な融合です。古代中国の神話におけるそのようなイメージは、たとえば、母なる祖先ニューバ(ヌイバ、水のように別の世界にそっと滑り込む女性、地上の世界と天上の世界とのつながりを持つ女性)の古風な女性神に表現されています。)。伝説では、彼女は万物と人々の創造者と呼ばれていました。さらに、伝説によると、彼女は最初に水に映る自分を見て女の子を作り、次に他の多くの人間、つまり男性と女性を作りました。後者を団結させた後、彼女は彼らに自分たちで種族を続けることを強制し、子供を育てる責任を彼らに割り当てた。中国南東部の宇宙において、彼女は創造主としての主要な役割を与えられました。神々。彼女には超自然的な力があり、1日に70回の転生を行うことができると信じられていました。



これは、神が 72 次元と 1 次元から何を創造するかについての 72 次元に関する知識のエコーであり、これらの変化は残りの 70 次元に影響を与えます。彼女は、黒いドラゴン（悪霊の化身）に対する勝利と、地球の4つの境界が崩壊した大災害の結果として乱れた宇宙のバランスの回復と関連付けられていました。さらに、青緑色を特徴とするのは、この創造的な神の女性の化身でした。さまざまな民族の神話の中で、彼は水の要素と女性的な宇宙原理を擬人化しました。これは、精神的な実践における特定の成果を示す特別な色です。詳しくは後ほどお話しします。ここで、中国人の伝統的な見方でも、色のスペクトルの緑と青の部分は単一の全体であり、「緑」と「青」の意味を組み合わせた象形文字で示されていることに注意してください。

ヌイワの母親は、人間の体と足の代わりに蛇の尾を持つ、彼女に似た生き物フーシー（伏羲）と対になって描かれることがよくありました。そして二人の体は絡み合った。神聖な知識を持たない人々は、そのような絡み合いを夫婦の親密さとして解釈しました。実際、多くの場合、特にそのような神聖な人物の古代のイメージでは、世界についての知識や、人がより高い精神的状態を達成するために使用する瞑想ツールについての知識の伝達が明確に追跡されています。彼らの象徴性はしばしば円と四角形に関連付けられていました。



図11。世界と人類の祖先ヌイバとフシによると古代中国の神話
(シルク上の画像、西暦 7 世紀。トルファン。新疆ウイグル自治区;1928 年に科学者によって発見された遺物)。

写真には母の祖先であるニュバと文化的英雄フーシが写っています。彼らの体は3回転半で螺旋状に絡み合っている。この絵の文脈では、このシンボルは、宇宙の螺旋構造と、人が改善の段階の 1 つである精神的な悟りの状態（「クンダリニの蛇」を目覚めさせ、高める）を達成するための瞑想テクニックの両方に関する知識を反映しています。背骨の付け根から「ノコギリソウ」チャクランまで 3 回転半に折り畳まれています。女媧と伏羲の周囲には、宇宙の 72 次元の指定として、さまざまな形や大きさの 72 個の「気泡」が描かれています。



特に、それは71個の小さな「泡」と「蛇の尾」の間に位置する1つ(72番目)の形で表示されます。内部構造の点で最大かつ最も複雑です。「祖先」の人間の顔の間には、人の主要な次元(人の人格が生まれ、生き、選択を行う三次元の空間と時間)を示す4つの次元があります。他の次元に関連付けられた人の4つの主要なエッセンス。神々の頭の上には、爪のある鳥の足が囲まれた円があり、例外的に異なる環境である天上(精神的)世界とのつながりを示しています。

文明の創始者であり文化英雄である伏羲は、伝説によれば女媧の兄弟であり、後に夫となると考えられており、鳥と蛇の特徴を兼ね備えていました。以前は、部族叙事詩の英雄でありながら、正確に鳥の形で描かれ、東洋の神として崇められていました。ちなみに、彼の名前は「犠牲動物を待ち伏せした者」を意味します。伏禡については、すでに述べたように、象形文字(記号による文字)の最初の創始者として文献が残っている。そしてずっと後になって、それは「ドラゴンのような」と呼ばれるようになり、伝説の中で月のドラゴンや「ドラゴンベース」と関連付けられるようになりました。もう一つ興味深い瞬間があります。古代中国の神話は、神の女性原理(アラットの力)のおかげで秩序ある世界の創造についての神話を含む、さまざまな宇宙論的な神話によって特徴づけられました。



しかし、今日の焦点は何でしょうか？現代世界は、中国の神話と哲学の基礎が「陰陽」の原理、つまり、「一方では不安、もう一方では」という2つの原理の間の闘争としての世界形成の神話であることを知っています。一方では、存在の最高の調和を回復します。」現代の哲学者が言うように、「代替傾向の動的平衡という考え方の原理」。言い換えれば、現代世界では、新しい世代はもはや、靈的な力による世界の誕生の始まりと神聖な女性原理による秩序を示す元の神話について知りません。中国の「基本的な」哲学は、世界の二重性、2つの相反する原理の統一と闘争、つまり物質世界の現れの段階から、動物の力の概念の肯定からすぐに始まります。心と、創造的な神の原理との「闘い」。問題は、なぜ今日この神話が世界中で宣伝され、この特定の支配的な原則が肯定されているのかということです。賢い人ならこの質問に対する答えを見つけるのは難しくないと思いますが、特に基礎知識があれば。したがって、神話では、龍青龍の世界への出現は、幸せな前兆としてのみ提示されました。緑のドラゴンのイメージは慈悲深い意味を持ち、地上に計り知れない富をもたらすものとして広まりました。時には、遠征中に彼の肖像を描いた旗を軍隊の前に掲げ、白虎の紋章を描いた旗を軍隊の後ろに掲げることもあった。しかし、こうしたPRのルーツをたどると、中国に古くから存在し、世界中で秘密裏に善行とはいえない活動を行っている古代オカルト秘密結社「グリーンドラゴン」に行き着く。



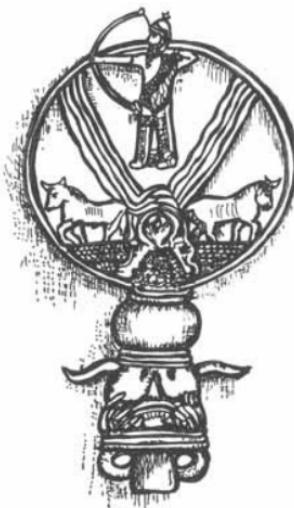
アナスタシア: はい、私は本「先生IV」の中で、第二次世界大戦を引き起こした出来事や人々についてのあまり知られていない事実を説明したときに、このオカルト社会について言及しました。実際、あなたも正確にお気づきになったように、知っている人にとってはすべてが一目瞭然です。

リグデン: 確かに。ところで、軍事作戦について。それを知っていた支配者(政治家)や聖職者たちは、軍事作戦において古代から大衆の攻撃性を刺激する特別なシンボル、サインを旗や盾に描いて使用してきました。そして、これは中国だけでなく他の国でも起こりました。

たとえば、アッシリア王国を考えてみましょう。一部の現代歴史家は、この王国を血と征服に基づいて設立された「既知の最初の世界国家」と呼んでいます。

アナスタシア: そうですね、残念なことに、私たちの歴史は依然としてアルコンのイデオロギーの命令の下で書かれています。強調されているのは、人類文明の精神的成果に関連した世界で最初のコミュニティではなく、人類文明に基づいた最初のコミュニティです。外国の土地の侵略と征服。

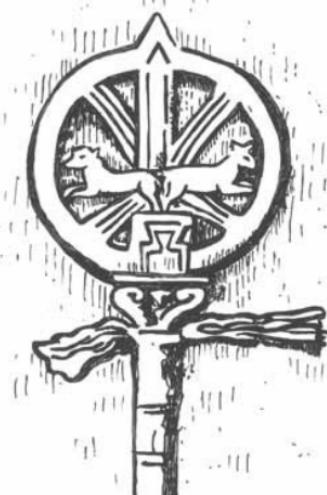
リグデン: そうですね、状況を変えるのは人々自身の手の中にはあります。では、アッシリア軍の戦闘記章は何だったのでしょうか?基本的に、これは円の中に垂直の横棒と側面に2匹の動物がいる斜めの十字架、または射手が側面の1つに矢を向いているものです。言い換えれば、側面のエッセンスの活性化を示すシンボルとサインです。



1



2



3



4

図12。表示する記号の例横エッセンスを有効にするには：

1)、2)、3)- アッシリア軍の戦闘バッジ。

4) コンスタンティヌス大帝のモノグラム(4世紀の大理石石棺



の浅浮き彫りの断片、ローマの地下墓地で発見されました)。

アナスタシア: アッシリアの戦闘バッジ? その通り! あなたがカルデアの宇宙論の象徴であるコンスタンティヌス大帝(ラバルム)のモノグラムについて言及した後で、私は彼らについて読みました。ラバルムは、ローマ帝国が西部と東部(ビザンチウム)に分裂する前に、最後のローマ皇帝によって軍の旗として使用されました。当時でさえ、これらすべての基準と旗は軍隊の指揮と統制を容易にするために使用されました。そして、アッシリア王国について話せば、すべてが明らかです。ある時期、カルデア人の聖職者のサークルが来たバビロニアはアッシリアの一部であり、アッシリア人自身もバビロニア人の宗教と同様の宗教を公言していました。

はい、人々が当たり前に気づいていないのは驚くべきことです。結局のところ、コンスタンティヌス大帝の治世中とその後、長い間戦争中に使用されていたこの侵略の兆候(コンスタンティヌス大帝のモノグラム)が宗教で広く使用され始めました。今では世界中の多くの都市に設置され、多くの人が目になっています。宣戦布告のない戦争だ! 当時世界に影響力を持っていた国家の新しい国教の象徴としてコンスタンティヌスに課したとき、誰かがこの標識についてもっと知っていたことは明らかです。

リグデン: 残念ながら、その通りです。多くの人は、自分が所属している宗派の宗教寺院に行くとき、自分たちの周囲にどのような標識やシンボルがあるのか、またそれらがどのような目的でそこに置かれているのかにほとんど気づきません。しかし、人は間違なく自分の状態によって自分の仕事を感じます。これらの兆候の本当の目的を誰も彼に明らかにしないことを考えると、人が彼のそのような「強迫的な」心理状態を理解しようとさえしないのは当然です。彼は、そのような施設に入ってそれを繰り返し経験しているので、この状態が自然であると考えています。



そして、よく見ると、そのような場所では、人間の靈的な性質、神への願望、そして潜在意識の恐怖の目覚めを通じて動物的な性質の両方を活性化するさまざまな兆候が見られることがあります。カルト宗教施設では、人の精神的な性質の発達と強化を刺激する兆候よりも、精神に悪影響を与える兆候の方がはるかに多いことがよくあります。なぜ？それはすべて、目標と目的、つまり特定の宗教の操作技術、つまり過去の宗教から受け継がれ、何世紀にもわたって練り上げられた実践に関するものです。このような技術では、最初のルールは、操作者のベールに包まれた命令を無条件に実行するように、彼の潜在意識に影響を与えるための教区民の精神の知覚できない準備ですが、同時に彼はそれを自分の意志で行っていると信じていました。自分の自由意志と欲望。

アナスタシア： そして、サインはまさに、あらゆる人の潜在意識に完璧に影響を与える影響力の道具なのです。リグデン：まさにその通りです。人々は長い間このことについて知っていました。旧石器時代の絵や標識を見てください。残念なことに、今日では、この情報は古代のように大多数の人々によって所有されているのではなく、世界の人々の管理のトップにいる人々だけが所有しています。



しかし、この状況は修正可能であり、それは大多数の願望そのものだろう。したがって、精神の構造は無意識に基づいているため、潜在意識を介した個人の精神は、この兆候の影響を明確に捉えます。この場合、意識には従属的な機能があります。そして、その兆候は、たとえば、個人の精神の原型的な要素に影響を与えます。彼らの行動は、無意識の暗示に対する個人の傾向に基づいています。

そのようなカルト宗教施設で、ほとんどが否定的な兆候がある場合はどうなりますか？人がそのような施設に行くのは、原則として、内なる必要性が生じているときである（これは、人々が伝統的に友人や親戚と「一緒に」過ごすとき、特定の国に特徴的な大規模な宗教上の祝日や行事を除外した場合である）、寺院を訪問します）。言い換えれば、靈的な爆発があっても、人格はそれに何が起こっているのかを正確に理解できないときです。当然のことながら、そのような必要性は、人が自分の内なる質問に対する答えが得られることを期待している場所に直感的につながります。したがって、そのような機関に行くと、彼は対話にオープンになります、つまり、彼はすでに宗教の奉仕者に対してある程度の信頼を持っています。

もしもある人がカルト施設に行き着いたとしたら、そこでは主に靈的な性質からの深い感情に対する人格の認識を高めるポジティブな兆候が置かれており、これは彼をさらに鼓舞し、愛の感情、神への感謝の感情を高め、感情を生み出すでしょう。恐れを知らない状態、意識の拡大した状態、世界の全体的な認識。何が違うのか理解していますか？



人は、自分の体を救い、その中で永遠に生きたいという群衆の大きな願望によって引き起こされる、集団ヒステリーの発作で「ハレルヤ」の叫び声を伴う嵐の感情ではなく、狂信を経験することはありません(ところで、動物からのそのような感情の後)自然、人は、自分自身と一人でいると、通常、空虚を経験します)。そして彼は、意識を与え、精神的な強さの高まりを与える深い感情の目覚めの充実感をまさに感じ、体ではなく魂を救うために創造したいという欲求を彼に課すでしょう。これは、もし人類社会がその発展において本当に精神的な指針を持っていましたとしたら、理論的には今どうあるべきだったかを示す一例です。しかし、世界ではすべてがまったく逆のことが起こることに注意してください。なぜ?なぜなら、大衆を管理するための制度としての宗教の創設の基礎は、人々への「スピリチュアルケア」を装った権力と操作だからです。したがって、今日でも、ほとんどの場合、そのようなカルト宗教施設では、ポジティブな兆候よりもはるかにネガティブな兆候が見られます。ネガティブな兆候が主にそのような機関に置かれている場合、それらは単に人のこの精神的な爆発を、条件付きで言えば、すでに話したプリズムを通して、潜在意識の恐怖、彼の中の物質的な欲望の目覚めに向けて、それらのいずれかを活性化する方向に向けるだけです。側面と背面のエッセンス。これらの兆候は精神の不均衡を引き起こし、心を狭め、恐怖、絶望、卑屈な行動の状態に個人を強制します。この状態では、あらゆる情報が信仰に基づいて知覚されます。そのような施設における少数の前向きな兆候は、人の将来への希望、生きたいという願望を刺激します。



原則として、宗教施設では、これはそのような兆候の組み合わせの標準的な式であり、特定の宗教の奉仕者からのその後の口頭での提案(提案)に備えて人を準備します。



図13。卍のシンボル（順方向と逆方向）
様々な内外装パターンで宗教施設。



このような暗黙の、その後の口頭での暗示を強化するサインによる事前処置の結果、おそらく大人、高等教育を受け、科学的な学位を持った賢い人々を含む教区民が、子供と同じようにだまされやすくなる。彼らは、動物の心からの提案がどこにあるのか、彼らの精神的な成長を刺激する実際に与えられた種がどこにあるのかなど、本質を掘り下げることなく、宗教的な衣装を着た人々のどんな話でも聞く準備ができます。

アナスタシア：はい、そのような「絶望」の状態、「溺れている人」のパニックでは、人は自分に滑り落ちたわらを握りしめます。それで、最初に個人の中で恐怖が引き起こされ、次に操作者がデモンストレーションします。この恐怖を取り除く方法、そして自分自身にとって有利な方法です。

リグデン：はい。これは、人が独房に入れられ、脅迫や殴打によって精神的に衰弱状態に陥る様子と比喩的に比較できます。そして、同房者が彼のところに送られ、彼はその方法を知っているので、おそらくこの投獄から彼を解放すると約束します。当然のことながら、人は彼を苦しみから救ってくれるという信念を持って、彼への信頼を染み込ませており、新しい「友人」を敬意と敬意を持って扱い始めます。解放が間近に迫っているという幻想。ただし、同房者は約束するだけで、実際にその人を解放することは何もしないことに注意してください。彼自身は単に仕事をするだけの強制された「奴隸」であるためです。



したがって、宗教において、その奉仕者は、それ自体が自由とはほど遠い「同房者」のようなものです。しかし、自分たちの宗教を宣伝する彼らは、原則として、その教えの信奉者でなく、そのすべての規則や儀式に従う義務がある人（「永遠のスポンサー」になること）を除いて、人には救いのチャンスがないと主張します。司祭の意志を実行する政治的選挙民）。人は、そのような宗教的な「同房者」の自分の救いについての約束を聞き、最終的には、それが「自分の義務」、「自分の願望」、「自分の意識的な参加」であると考えて、自分の要求のいずれかを満たす準備ができます。この操作メカニズムは人間の意識から隠されている限り有効です。結局のところ、操作者は自分の行為を決して認めません。そして、これが何世紀にもわたって確立されたシステムである場合、多くの場合、特定の宗教の奉仕者自身が、自分たちが正確に何をしているのか、実際に誰に仕えているのかを理解していません。

アナスタシア: 一般に、できるだけ多くの人々を自分たちの力に屈服させることを目指す宗教聖職者たちの隠れた操作は、彼らがまず人間にとて適切な条件と恐怖の源を作り出し、次に仲介者として行動するという事実にあります。この結果として生じた一時的な解決策、人の内部の葛藤、当然、彼らにとて有益な形で。人にとって理解できないほど、自分に何が起こっているのかに対する認識の程度が低くなり、この理解できないことが彼にさらなる恐怖を引き起こします。さらに、このプロセスはパーソナリティの注意を強化し、それ自体にループさせます。聖職者にとって、彼らのイデオロギーによって奴隸化された人々に恐怖を植え付ければ与えるほど、彼らの力はより強くなり、同じ人々によって支持される権威もより大きくなります。

リグデン: はい、人間の感情の実際の操作が、さらに動物の心に有利に行われています。



精神に悪影響を与える同様の兆候(たとえば、攻撃的な逆卍の兆候)は、原則として、教区民の視野の中でそのような礼拝の場所で見つかります。しかし、それらは、知らないと自分自身に焦点を当てられないような位置にあります。それらは、外部内部のパターンや装飾、寺院の壁や床の絵画、彫刻、成形の要素の両方に刻まれ、聖職者の物体や衣服などにも適用されます。



図14。パターンの逆卍記号さまざまな宗教の内装と外装
機関。

たとえ意識的に自分の何かに集中していても、人は潜在意識レベルで目に見える世界からほとんどの情報を捉えていくことを理解する必要があります。



したがって、人はそのような施設を訪れるのは、内なる必要があるとき、精神的な爆発のとき、または実際には長期にわたる支配の結果である内なる(精神的)苦しみを取り除きたいときです。彼の中にいる動物的な性質。そのような瞬間、人は心を開いて助けを求めている状態になります。しかし、そのような施設ではほとんどの場合、精神的な助けの代わりに、彼は物質的な代替品と、彼の状態の一種のループを受けます。つまり、否定的な兆候は彼の潜在意識の恐怖を強化し、宗教の奉仕者はこれに標準的な口頭の提案を加えます。そのおかげで、人の中に特定の物質的な欲望と願望が形成されます。人はこれに注意力を集中します。そしてこれは、今度は、彼に対する背中と側面のエッセンスの影響をさらに強化します。

アナスタシア: はい、否定的な影響を与える兆候は、大衆の自発的行動の特徴である人々のメカニズム（提案、模倣、相互感情感染）を引き起こし、さらに刺激します。これらは人々の精神に積極的に影響を与え、それに対応する感情的な緊張を生み出すツールです。そして、カルトの牧師たちは、言葉による影響力の助けを借りて、これらの感情を彼らが必要とする方向に向けて頂点と大団円を形成するだけです。したがって、人工的に作られた心理的束縛があり、信者は特定の宗教に割り当てられ、このコミュニティとの個人的な同一視が行われます。

リグデン: そうですね。したがって、人に対する兆候の影響は単なる物理学にすぎません。



彼らの仕事のプロセスは、比喩的に電球を点灯するボタンにたとえることができます。作業のために特定の条件を作成する必要がある場合(暗い部屋に人工照明を作成する場合)、人々はこれをクリックします。同時に、彼らはこのプロセスがどのように起こるのか、電気とは正確には何なのか、その本質は何なのかさえ実際には理解していません。人の動物的な性質を活性化するために古代から使用されてきいくつの兆候があります。当然のことながら、そのような兆候の活性化は社会にとって良い前兆ではありません。しかし、人々は自分自身でどの感情や思考を優先するかを選択し、それらに注意力を注ぎます。

アナスタシア: はい、やはり選択は人間です。

リグデン: このような操作は宗教だけでなく、多くのオカルト社会の特徴でもあります(ラテン語の「オカルトゥス」は「隠された」という意味です)。ほとんどの場合、そのような社会は、利己心を満足させるために超自然的な力を持つことを切望する人々を惹きつけます。ところで、人々が「無制限の権力」を達成しようとする攻撃的な秘密結社の発展の歴史に注意を払うと、その多くの名前さえも右派または左派の存在のイメージと関連付けられていることに気づくでしょう。例えば、「ドラゴン」「ジャガー」「ヒョウ」「タイガー」「オオカミ」の秘密結社。さらに、それらの神秘的な基盤は、右と左の存在に関連する儀式によって形成されます。その本質は、この社会で尊敬されている攻撃的な獣の特徴と「超自然的な力」を人に与えることです。



ここで支配的な役割を担うのは、これらの社会のメンバーの個人的な選択、彼らのイデオロギー的または宗教的信仰、そして、原則としてトップのみが使用できる右派と左派の存在の能力を使用するための古代の魔法の技術です。そんな秘密結社は知っている。これは、靈的な知識が個人によってどのように奪われ、地上の力や個人の物質的な目標を達成するためには倒錯した形で使用され始めたかを示す多くの例のうちの 1 つです。古代人が言ったように、奴隸にはただ一人の主人がいますが、権力に飢えた人には、地上の力の向上に貢献する人々や彼の魂の打倒に貢献する靈の数と同じくらい多くの主人がいます。

アナスタシア：ほとんどの人にとって、この世界の「誰が誰なのか」を理解し、本物の靈的なものと物質的な代替品、真実と嘘、善と悪を区別できることがどれほど重要であるかを改めて確信しました。

リグデン：はい、そうすれば人類は文明全体にとって壊滅的な結果を回避するチャンスが増えるでしょう。結局のところ、物質世界におけるゲームのルールは、オカルト勢力も含めて、人類そのもの、あるいは人類の多数派の選択に基づいています。これらまたは他のオカルト勢力は、何らかの行動を誘発または開始するだけ、つまり、特定の意志のプログラムを開始するだけです。しかし、これらのプログラムは、自ら選択した人々によって命を吹き込まれ、適切な行動を実行し、つかの間の人生の時間をこれに費やし、彼らの魂を救うことを意図した力を費やします。



そして、世界でどこが真実でどこが嘘であるかを区別するには、自分自身に取り組み、自分の思考を追跡し、それらをコントロールし、精神的な性質からの観察者の立場から世界を見ることを学ぶ必要があります。靈的なものを探している多くの人々は、アルコンのシステムがどのようにして彼らの心を逆の方向に導き、真の魂の救いではなく、物質的で一時的な便宜に何年もエネルギーを費やすことを強いるかさえ理解していません。今日、残念なことに、ほとんどの人は物質的な欲望に誘惑される動物の心の力を選択します。彼らは一時的で無意味なものという誤った選択によって無意識のうちに彼の意志を体現し、自らの手でアルコンの力を支援し強化します。

世界で何が促進されているか、どんな代替品が作られているかを見てください。周囲には、複数の物質的な欲望を促進し、自我を刺激する確かな兆候と呼びかけがあります。しかし、人は物質の獲得ではなく、この幻想を所有する感覚、彼の内なる世界で待望の安定を見つけたいという欲求を追い求めています。しかし、この安定は、外部の状況ではなく、自分自身の内面の取り組み、精神的な自己改善のみに依存します。簡単な例として、目を閉じて、宮殿、企業、国家に対する権力など、すべてを持っていると想像してください。そして目を開けて周りを見回せば、それはすぐに終わった幻想だったことがわかるでしょう。したがって、人生はあっという間に過ぎ、すべてがすぐに終わります。そして、この幻想のために自分自身の魂に重荷を負わせ、幻想を追い求めて自分の中に形成した否定的な感情の塊の形で、何世紀にもわたって死後の長い苦しみ、苦痛に自分を運命づける価値があるでしょうか？動物的な性質？



精神的な自己啓発の方向に進みたいと思っているが、同時に物質も必要としているように見える人々にとって、動物の心がどのような代替品を作るのか、周囲の世界に目を向けるだけで十分です。基本的に、これらの人々は自分の意志が不安定であり、彼らの精神的な衝動は物質的な利益の主流に簡単にリダイレクトされます。彼らが日常生活で何を努力しているのか、当時の最も重要な地位を裏切って何に注意を払っているのかに注目してください。人々に対する個人的な影響力を高めることに关心がある人、自分の重要性を主張する人、スピリチュアルな知識でお金を稼ぐ人、体の浄化に忙しい人、菜食主義について声を荒げて議論する人、体重を減らすこと集中している人、さまざまな「健康改善」を実践している人利己的な野心と空の内部コンテンツを備えたシステム。誰かが宗派や宗教運動にしがみつき、愛する体で復活するという誤った約束で再び耳を楽しませています。誰かが瞑想して、富、幸運、幸福、健康を引き寄せます。誰か　彼の中にある動物的な性質が優勢であるため、彼の愚かさから、彼は自分が「啓発されている」と想像し始め、多くの「スピリチュアルな問題」に精通しており、彼が知っているさまざまな瞑想テクニックを混同し、罪深いものと正しいものを混同します。そして、これらすべての根拠は何でしょうか?プライド、三次元世界での個人の重要性の主張、誰かに対する権力への密かな願望。

アナスタシア: はい、現在世界規模で代替が行われています。これを個人的に検証するには、どのような種類の心理技術が社会で宣伝され、世界のメディアによって普及しているかを調べるだけで十分です。結局のところ、これらは基本的に、大衆が物質的な富を引き寄せるための、いわば通常のアルコンティックな方法です。



リグデン: 悲しいことに、ほとんどの人はなぜそのような物質志向が培われているのかを自分自身に問いかけません。なぜ彼らはこれらのアイデアの宣伝にお金を惜しまず、世界的に有名な人々の必要な「権威ある」意見を購入しないのでしょうか?なぜこれらの考えは、愛する体を喜ばせたり、自分自身や利己的な世界の周りに快適さを生み出すことを中心に展開するのでしょうか?答えは簡単です。人がこの行動を真似し、大まかに言えば、よりおいしいバナナに人生の時間とエネルギーを費やし、同時に毛皮がつややかに輝くようにするためです。しかし、他の欺瞞と同様に、人がおいしいバナナを求めて愚かな猿のように人生を過ごし、彼の最愛の体が他の動物と同じように単に死ぬとき、その人が後にどのような結果を待つかは誰も教えてくれません。しかし、人格者である彼は苦しみから逃れることはできず、無駄な人生に対してあまりにも大きな代償を払わなければならぬでしょう。

そして、自分自身に対する毎日の精神的な取り組みとは何ですか?これは主に自分の考えをコントロールし、他人を批判しない習慣です。人は、原則として、他の人の動物的な性質の現れに気づくことがよくあります。しかし、彼は自分自身にそれほど熱心に注意することで自分自身を悩ませず、動物の性質の外部および内部の挑発に対する自分の反応を理解しようとせず、毎日自分自身に一生懸命働く必要があるとは考えていません。



自分自身を内面的に変え、自分自身に取り組むことによってのみ、目に見える世界と目に見えない世界の実際のプロセスを理解し、意識的に精神的な道をたどることができます。言い換えれば、内面の変化はまず第一にその人自身の中にあります。もちろん、他の車と同様にボディも監視されなければなりませんが、それは目標に到達するためには、もちろん、他の車と同様にボディも監視されなければなりません。それは目標に到達するためには、もちろん、他の車と同様にボディも監視されなければなりません。これはどんな人にとっても最も重要なことです。人は自分自身を認識し始めると、自分の構造の複雑さとその目的の両方を認識し始めます。すべては人が意識的な選択をし、新しいスピリチュアルな存在になることに貢献していると言えます。この変化においては、その4つの主要なエッセンスが重要な役割を果たします。

アナスタシア：はい、世界中のさまざまな人々が、4つのエッセンスとスピリチュアルセンターに関するさまざまな儀式、神秘的な実践、神聖な伝統に捕らえられた非常に豊富な情報を持っています。ちなみに、さまざまな伝説によると、各国は前エッセンスを世界の特定の地域に向けてこの4つのエッセンスを配置したとされています。この点を読者にわかりやすく説明していただけますか。地球上のさまざまな地域に住んでいた人々は、なぜこの方向性について独自の理解を持っていたのでしょうか？



リグデン：一般的に言えば、これらのエッセンスの基本方位への向き、色や色の割り当てなどは、何世紀にもわたって発展してきた地元の伝統的な好み、習慣、特定の人々の共通の信念に依存していました。彼らの神聖な伝説の基礎となる祖先。たとえば、同じ中国人は南が世界で最も名誉ある側であると考えていたため、南に向かって前エッセンスに対応するシンボルを配置しました。北方民族（シベリア）のシャーマンにとって、儀式の実行中に顔（前エッセンス）を向ける主な方向は、原則として北でした。しかし、アジアの南部、東部の人々、つまり南部または東部のシャーマンにとっては、メソアメリカのインディアンにとって、特定の部族の地元の伝統に応じて、東または西のいずれかが世界の主要な側であると考えられていました。一般に、人が伝統的に顔を向けて精神的な修行、宗教的儀式、儀式などを行う場所には、その人の前エッセンスがあります。もちろん、神話を読むと、どこに民間伝承があり、どこに本当の知識があるのかを理解する必要があります。時間の経過とともに、主に連想例の文字通りの理解のために、人間の頭からの表面的で混乱を招く多くのものが追加されたからです。しかし、それにもかかわらず、人間の4つのエッセンスに関する秘密の知識に関するものを含め、今日でも非常に多くの興味深い参考文献を見つけることができます。

アナスタシア：同様の知識は、ターテムの起源、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの人々の神話的表現にも見られます。

リグデン：まさにその通りです。ほとんどの場合、特定の大陸に住む小民族は、（悪天候や旅行者が居住地にアクセスできないため）「文明社会」の代表者との接触からかなり長い間隔離されていたため、自然環境を維持することができました。彼らの先祖についての知識。



「文明」はこれらの人々の存在とその文化についてまったく知らなかつたので、ある意味、これは彼らを救つたのです。したがつて、他の民族の古代の知識のように、彼らの独自の知識は、「世界文明」における別の支配的な新しい宗教の「火と剣」によって完全に破壊されることはありませんでした。

アナスタシア： はい、よく言われるよう、祝福は、姿を変えていきます。しかし今、かつてのものと現在のものを比較し、すべての現代宗教の代表者たちが、なぜ自分たちだけが「靈的知識」を持っており、世界中で他の誰も持っていない、と主張するのか疑問に思う素晴らしい機会が来ています。この問題に客観的に取り組み、世界認識が拡張された状態で理解すれば、知識はどこにいても同じであり、人々がそれに異なる形を与える、それを「自分のもの」と呼んでいるだけであることが明らかになるでしょう。

結局のところ、更新された精神的な教えは、実際には、過去にさまざまな人々に与えられた基本的な秘密の知識を考慮して形成されました。そして、司祭たちがこの教えを練り直し、それを支配的な宗教の形に着せ替えたときにのみ、イデオロギーが変化したのです。実際、彼らは人々の世界観を狭め、大衆の狂信を引き起こしたり、祖先の遺産を無思慮に破壊したり、新しい宗教の規範に当てはまらないあらゆることを行つた。

リグデン： 確かに、しかし、私が注目したいのは。さまざまな民族の精神的遺産を破壊し、以前のすべての信仰が「背教であり異端」であることを新しい世代に植え付けるという神権のこのような働きにもかかわらず、4つの本質に関する基本的な知識は、現在のほとんどすべての世界の宗教の秘密の知識の中に存在します。



これは、特定の宗教の教え、哲学、イデオロギーが現在大衆に提供されているものの間接的な兆候によって追跡できます。いかなる宗教の聖職者も、大衆に有益なこと、民衆の間で自分たちの力を強化するものだけを押し付けるのではなく、先任者自身がかつて他の大衆宗教から借りた知識のすべてを押し付けるのではない、ということを理解しなければなりません。特に大衆の間では、司祭たちは本来の靈的な教えを広めることは決してせず、独自に人を靈的な解放に導きます。しかし、この教えの魅力的な靈的な要素に基づいて、彼らは特定の宗教を形成します。権力機構としての宗教自体が形成される過程で、多くのことが元の教えに変更され、司祭の宗教的力を満足させるために変更されます。

たとえば、仏教を考えてみましょう。一見、仏教の一般的な哲学を読むと、この世界宗教はまさに人間による世界と自分自身についての独立した知識に焦点を当てているように見えます。結局のところ、それは、インドの他のより古代の宗教の知識に基づいて形成された、「啓発につながる」さまざまな実践を大衆に提示します。しかし、この感情は、この宗教の今日の現実と、この世界宗教の聖職者の構造に遭遇するまで続きます。人が靈的な性質と動物的な性質を区別しない場合、また動物的な心の代替が見られない場合、同じ仏陀の最初の苦しみとその後の苦しみの間の落とし穴や本質的な違いが何であるかを理解することは困難です。いわば、この教えを流用した宗教です。



したがって、人間の 4 つの本質は、全インドの神聖な伝統と仏陀の教えの仏教の宗教的解釈の両方で言及されています。ヒンドゥ教と仏教の瞑想実践に関する宗教の教えにおける最高の知識には、直観的な知識、つまり超意識（サンスクリット語でロシア語に転写すると「アビジナ」のように聞こえる）、特別な意識の変性状態を通した世界の知識、つまり状態の獲得が含まれます。誠実さ、統一（「サマーディ」）。直観的な知識の獲得は、真実の理解、世界の統一、透視能力、千里聴力、超自然的能力の所有、他人の思考の読み取り、前世の記憶の 5 つのカテゴリーのアイデンティティの達成として解釈されます。完璧な人は、この物質世界全体に 7 次元まで、または古代インドの論文に書かれているように「プラフマーの天まで」影響を与えることができると述べられています。なぜなら、「プラフマーの天」への道が始まるからです。「存在の輪」の情熱の六つの世界への執着を放棄することによって。

アナスタシア： 実際、この 5 つのカテゴリーのアイデンティティは、4 つの主要なエッセンスと中心（パーソナリティ）との連携の結果を示しています。厳密に言えば、これらのエッセンスがすでに彼の制御下にあり、人が 6 次元からの出口の状態に近づいているとき、人のスピリチュアルな仕事の特定の段階の結果が考慮されます。

リグデン： まさにその通りです。人間は自分自身に取り組み、精神的な面で自分を変え、改善する

方向性を示し、世界を理解するさらなる機会を彼に与える特定の効果を達成します。



アナスタシア: はい、たとえば、精神的な実践を習得する過程で、人格（中心）は「透視」の能力を獲得します。つまり、あらゆる形態の精神的な性質から、観察者の立場から内なる視覚を使って熟考することです。距離と時間の測定だけでなく、出来事や現象の本当の本質を見るなどもできます。これは、私の20年以上にわたる実践的な瞑想経験、そして私があなたの教え、つまりあなたが語った根源的な靈的知識を理解することができて光栄だった人々の経験を考慮しても、まさに真実です。このような透視能力には、とりわけ、異なる次元にある物体を同時に熟考し、その出現や変形などの根本原因を理解することができる。このような直観的な知識の状態に到達すると、人は前エッセンスを制御する方法を認識し、それにより、精神的な性質から観察者の位置からあらゆる存在を理解し、直観的に感じ、また接触する能力が現れます。距離に関係なく彼と一緒に、時間。

リグデン: そうですね。仏教の宗教的解釈では、これは神聖な聴覚（千里聴力）の獲得として指定されており、未知の言語を話す人々を理解し、遠く離れていても世界の音を聞くことが可能になります。実際のところ、インドの神話によれば、音は宇宙のリズムに関連する一種のシンボルです。「世界の音を聞く者」は、世界の音を知っており、宇宙のリズムを抽出する方法を知っている人です。



すべてのものは相互につながり、微妙な宇宙の振動が浸透していると信じられています。自分という小さな領域を変えることによって、人は大きな領域に変化をもたらします。

アナスタシア： そうですね、原理的にはそうです、三次元の住人の思考の枠組みの中で世界の現象を判断する人は、これを「神聖な聴覚」の獲得として認識するでしょう。確かに、4つの本質の知識は、多少装飾された形ではありますが、仏教の哲学的教えに反映されています。言及されたカテゴリー（透視能力、透聴、超自然的な能力の所有、他人の考えを読む、前世の記憶）を考慮しても、それらのそれぞれが特定のエッセンスの能力を示していることがわかります。

これは私たちのグループの実際の経験から判断できます。たとえば、背後エッセンスが関与した「トンネル」瞑想テクニックを習得したとき、私たちは実際に自分の過去について学び、サブパーソナリティの過去世に関する情報を部分的に「削除」する機会さえ得ました。仏教哲学では、「前世の記憶」を獲得することは、「自分の過去の出生に関する知識と、以前の一時的な状態の記憶」を意味します。

左右のエッセンスの可能性については、かつて非常に優れた視覚的な例がありました。これは、あなたが戦士ゲリアの芸術を教えた4人の戦士の精神的な作品です。その時、私は、人が右エッセンスをコントロールすることで、知識や他人の考えを読むなどの能力がどのように明らかになるのかに気づきました。



概して、これはこれら的能力の開示であるだけでなく、微妙な世界の構造の感覚的認識、およびそれらを通じて影響力を行使することでもあります。自分の思考や特定の瞑想的実践を厳密に制御することによって正しい本質を抑制することが、世界の全体的な構造に影響を与え、特定の「超自然的な」可能性が開かれることを私ははっきりと理解しました。精神的な成長の過程。しかし、何よりも私が衝撃を受けたのは、この4人の精神的なスタミナです。優れた専門スキルを習得しても、彼らの精神的な意図は揺るがなかったのです。残念ながら、その後のグループで私が一緒に仕事をしなければならなかつた一部の人々については、そのようなことは言えませんでした。もちろん、有益な学習体験など、さまざまなものがありました。たとえば、私のグループによる2年間の熱心な取り組みにより、具体的な成果が得られました。しかし同時に、グループ内の一部の人々が実際にはそのような驚異的な可能性に対して準備ができていなかつたという事実も明らかになりました。彼らの意識 瞬間的な成功、自尊心、誇りを捉えました。彼らは人間の世界に関わる将来について密かに夢を見始めました。一般に、動物の性質に対する偏見があります。そして最も重要なことは、誠実さ、精神的な目標を正確に達成したいという願望が失われたことです。動物の性質からの明らかな攻撃を背景に、崇高な意図を持った言葉による隠蔽が始まつただけです。実際、たとえ小さな成功でも、彼らは動物の性質を制御できなくなりました。しかし同時に、これは自分の間違いを認識し、スピリチュアルな方向にしっかりと従うことができる人にとっては良い教訓でもありました。



このような経験は、後により成熟して意識的にスピリチュアルな道を歩む機会を与えてくれます。

リグデン： 実際、人は右と左のエッセンスの認識段階を通過すると、それらを制御するのではなく、これらの非常に知的なエッセンスの制御下に陥り、目に見えない力や権力を所有したいという欲求に誘惑される危険があります。他の人の上に。そしてその結果、それに夢中になり、一時的な成果を上げることに残りの人生を費やし、解放の可能性を失い、輪廻転生から抜け出すことになります。これは、主な選択で迷っている人にとっての一種の罠です。機会に、宝の探索に関する興味深いたとえ話が 1 つあります。「ある時、賢者が村を通りかかり、村の中央広場の地下に無数の宝物が隠されていることを人々に知らせました。それらを見つけた人は富を得るだけでなく、二度と元には戻れなくなります。人々はこの知らせに喜び、長い議論や会話が行われましたが、最終的に住民たちはこれらの宝物を一緒に掘り出すことに決めました。彼らは道具を装備して作業を開始しました。しかし、しばらく時間が経ち、彼らの仕事から期待した成果は得られず、住民の熱意は静まり始めました。最初に発掘現場から去ったのは、よくしゃべる人々でしたが、彼らは宝物を見つけるためにまったく何もせず、他の人に作業方法を教えようとしただけであることが判明しました。彼らの後には、この大変な仕事にすぐに飽きてしまった人々が続きました。彼らは、これらの宝物は努力する価値がないと判断しました。他の人々はタイル、古代の皿、古銭の破片を見つけ始めました。



彼らはこれらの発見物を他の人から隠し、これが本当の宝物であると考え、急いで職場を去りました。さらに、この探索の喜びの中に、賢者が述べた宝物を手に入れることができると信じて、単純に探索の労力を楽しんだ人もいた。しかし時が経ち、彼らの周りにはまだたくさんの石と土だけが残っていました。彼らの喜びも枯れ、靈が弱いことが判明したため、搜索を断念した。時間が経つにつれ、残った人々の多くは搜索の成功を疑い始め、自分たちは妄想や捏造の犠牲者だったのではないかと考えるようになった。住民たちは次々と宝探しの場から立ち去り始めた。そして、目標を目指して努力し、粘り強く努力した少数の人だけが、最終的に宝物を見つけました。しかし、彼らが宝物を見つけた後、この村では誰もそれを目撃しませんでした。そして、宝探しに参加したが見つからなかった住民たちは、最後まで自己正当化と自分たちの行為の説明に夢中になっていたのに、なぜみんなと一緒に残らなかつたのでしょうか。結局のところ、これは彼の悲惨な人生をより良い方向に変えるチャンスでした。彼らの中には、それらの宝物がどのようなもので、今どこにあり、どのように習得できるかを知るために、この秘密を明らかにした賢者を探して残りの日を放浪することに捧げた人もいます。

つまり、宝とは人の靈的な変化なのです。しかし、それを達成するには、毎日自分自身を努力する必要があります。道は内面の変化を前提としているため、誰もが道の見通しに誘惑されて終点に到達するわけではありません。最初に道から外れてしまうのは、よく話すだけで自分を変えるために何もしない人たちです。彼らの後には楽な勝利を求める人々が続きます。



そして、この世での自分の意義を満たすために自分の中に開かれた能力に誘惑された人もまた、靈的な道から外れてしまします。また、人生の意味を探す過程そのものに喜びを感じながらも、自分自身を理解できず、結果として何も見つからない人もいます。自分自身、彼らに靈的真理を啓示した賢者、さらには真理そのものを疑う人は、靈的な道から背を向けます。これらの人々は皆、この物質世界において自分たちにとって有益な方法でスピリチュアルな道を解釈しています。そして、純粋さと誠実な意図を持って最後までやり、精神的な仕事に忍耐力を注ぎ、毎日自分を変えた人だけが、人生の中で別の世界に行くことを可能にする精神的な宝物を見つけています。このたとえ話の意味は次のとおりです。靈的な道を歩む人々は、永遠への道を開く靈的な宝ではなく、この一時的な世界での個人的な成功を求めることがよくあります。

アナスタシア：はい、これは人生の真実であり、古代だけでなく現在でも当てはまります。誰もが自分自身の選択をします。

リグデン：つまり、練習は重大なテストなのです。宗教的な伝説を読んで、自分もその英雄たちと同じ「スピリチュアルな人」になれる夢見ることと、毎日本当に自分自身を鍛え、スピリチュアルな修行に取り組み、自分の思考をコントロールすることは全く別のことです。同じ仏教の論文では、人の超自然的な能力を制御する能力は「奇跡的な力」の所有と呼ばれています。また、完璧な人は「ブラフマーの天」(7次元)に至るまで世界に影響を与えることができ、「ブラフマーの天」への道は放棄から始まるとも述べています。

「存在の輪」の情熱の六つの世界への執着から。



たとえば、仏教の聖典『大蔵經』には、「庵の果について」という非常に興味深い經典があります。ちなみに、「ストラ」という言葉はサンスクリット語で文字通り「真珠を通した糸」を意味します。古代インドの文学では、これは断片的な声明の名前であり、後にはそのような声明のセットの名前でした。確かに、「庵の果報について」という經典を含む一連の仏教聖典「大蔵經」を読むとき、そこには仏陀の本当の言葉ではなく、一生涯口頭で伝えられた仏陀の教えが含まれていることを理解しなければなりません。長い間、後で書き留めました。さらに、仏教という宗教が形成される過程で、何世紀にもわたって変化が加えられました。言い換えれば、これは一次情報ではなく、すでに何世紀にもわたって多くの人間の心によって解釈されているということを考慮する必要があります。もしある人がスピリチュアルな仕事の複雑さを知らず、実践的な瞑想経験から程遠い場合、その人が自分自身の考えだけを頼りに、その情報を再話したり、解釈したり、他の言語に翻訳したりするのは自然なことです。 いわば三次元世界の住人の立場から、世界観やこの問題についての考えを説明します。

そこで、この經典には、釈迦とマガダ(かつてインド北東部にあった古代の国)の王アジャタサトゥとの会話が記されています。王は仏陀に、「目に見える庵の果」つまりこの世で精神修行をした結果とは何かを尋ねます。仏陀は、一般の人にも理解できる日常の寓話で釈迦に説明されており、精神的な自己改善や瞑想に従事し、涅槃に入ろうと努力する人として僧侶が通過する道の教義を説明します。



この経典には、僧侶は道徳的行動の戒めに従わなければならぬとも書かれており、自制の喜びや自分自身への精神的な働きの結果についても語られています。さらに、僧侶は「無情熱を達成し、純粹で、明晰で、従順で、冷静なサマーディの心で」仕事の結果を理解していることが強調されています。サンスクリット語で「サマーディ」の状態は、「足し算」、「つながり」、「完全性」、「統一」を意味します。インド哲学では、この悟りの状態、つまり至高の調和が瞑想実践の究極の目標とみなされています。仏教では、「サマーディ」は八正道の最後のステップと考えられており、仏教の哲学によれば、これは人を涅槃に近づけるものとされています。

この経典には「私のこの体には形があり、四大要素から成る」という言葉もあります。哲学的推論では、4つの偉大な要素は通常、空気、土、水、火として解釈されます。古代人が4つの主要なエッセンスを意味したこのような寓意は、人の自己改善や目に見えないエネルギー構造に関して経典でよく使用されました。経典87「庵の成果について」は、サマーディの状態に達した人のさまざまな超能力の発現について語っています。彼は、「一人であるから多くなり、多くであるから一つになる。目に見えるものと見えないものになります。壁、城壁、山を空気中のように自由に通過します。水を通してのように地球に浸透します。水の上を、地球の大空の上と同じように、落ちず歩きます。あぐらをかいて座り、翼のある鳥のように空に昇ります。月と太陽は強くて強力ですが、彼は手のひらで触れます。まで ブラフマーの天まで、彼は自分の体で影響を与えることができます。



それは肉体を意味するものではありません。この経典は、仏教徒によるいわゆる「獲得された（現象的、神秘的な）身体」について言及しています（サンスクリット語でロシア語の文字に転写されたときの名前は「ニルマナカヤ」、つまり幽霊のように変化した経験の「身体」です）。「彼は自分のこの体から、生命力の損失を知らずに、大小のすべての部分を備えた精神から成る形を持った別の体を創造します。」さらに、この問題においてさえ、彼らは混乱しており、この「現象的身体」が実際に何を意味するかについて、理論家の間で終わりのない哲学的議論が行われています。変容の身体、異なる意識状態、仏陀の身体、菩薩、仏陀の身体、菩薩の身体。幻想、顯現、または「物理的な形をした完璧な潜在的な精神」。このような意見の相違は、人々が基本的な知識の本質を失い、残った外形だけ、そして人間の心によってのみ判断していることを示しています。

実際には、すべては単純です。6次元に位置するエネルギー体は人間にとってもほぼ同じで、上部が分離された四角錐台の形状をしています。ほとんどの人だけがそれを見ず、その存在さえ知りません。しかし、これは彼らの人生、運命、活動に影響を与えないという意味ではありません。よく言われるように、「肝臓が痛むまでは、肝臓の存在を知らない限り、肝臓のことさえ覚えていない」のです。



人が自分自身に取り組み、精神的な実践に取り組み、魂の解放に毎日取り組むとき、そのエネルギー構造は変化し、徐々に質的に異なる構造に変わります。これについてはすでに話しました。そして、人格が魂と融合すると、物質的な殻を必要としない新しい精神的存在が形成されます。つまり、これのおかげで三次元の「住人」が七次元の「住人」になるのです。

アナスタシア: あなたが与えてくれた原初の知識の鍵を理解して、獲得した靈的経験の観点から見ると、これらすべての理論家が議論していることはまったくばかばかしいものになります。論文の中で説明されている「議論」は、異なる理論を暗記した二人の学生が実際の生産プロセスの本質について声が枯れるまで議論する状況に似ている場合があります。しかし、彼らの誰も、実際に制作に取り組んだ個人的な経験、つまり制作が実際にどのようなものかを理解していません。もちろん、そのような哲学的論争の背景に対して、無駄話をせず、精神的な実践経験を世界と共有し、たとえどこか直感的であったとしても、正しい方向に精神的な道に沿って歩いている著者が際立っています。あなた自身の実際の経験があるので、それについて知っています。結局のところ、自分自身の実践的な経験を積むことは、何世紀にもわたって記録を残し、実際に研究に取り組んできた本当に賢明な人々を、苦労することなく感じ、理解するのに役立ちます。スピリチュアルな道の途中にいる自分自身。

リグデン: もちろん、この問題には国境や境界線、時間や物質的な空間はありません。



ここには、誠実さと精神的な理解、いわば真実との統一があります。したがって、インドのさまざまな宗教では、何らかの形で、人は精神的な発達の過程で特定のことを獲得するという参照が保存されています。「素晴らしい力」(仏教)または力「シッディ」(インドのヨガ。古代インドの言葉「シッダ」は「完璧」を意味します)。シッディの概念は、超自然的な魔法の能力を持ち、空中に住む神話上の半神の生き物の名前として、ジャイナ教やヒンドゥー教の神話にも存在します。宇宙に関する宇宙論的な神話を記述し、ヒンズー教の哲学的見解を規定する古代インドのプラーナ(サンスクリット語の「プラーナ」から翻訳された「古代の」、「叙事詩」)によれば、半神聖なシッディは次のような超自然的な性質を持っています。それらは非常に軽くなったり重くなったり、無限に小さくなったり大きくなったりする可能性があります。空間内の任意の点に瞬時に移動します。欲しいものを力で手に入れる 考え。物や時間を「自分の意志」に従属させる。世界の支配を求めます。しかし、神話は人間と世界についての神聖な知識を偽装したものにすぎません。

アナスタシア: つまり、実際、これらは人が 4 つのエッセンスを制御する実践を習得することについての過去の知識のエコーです。

リグデン: まさにその通りで、すでにさまざまな宗教によって徹底的な処理が行われています。実際、スピリチュアルな実践において、これらの超自然的な「奇跡的な力」は、人が学ぶときの副作用であると言えるかもしれません。

右と左のエッセンスをコントロールします。



これらの超能力を人の中に発現させるのは、ある種の意識モードにおけるこれらのエッセンスの働きです。同じ仏教の論文には、これらの力（「シッディ」）を所有すること自体は有害ではなく、すべては人の選択、彼の願望に基づいているという言及が保存されています。論文にはまた、仏陀さえも「自分自身を卑下する」過程にある僧侶はあらゆる種類の誘惑に負けないよう注意すべきだと警告したとも述べられている。第一に、不信者の心に混乱を引き起こさないように、彼はこれらの問題について入門していない人々にこれらの「奇跡の力」を実証することを避けました。第二に、そして最も重要なことは、彼は当初の目標である涅槃（永遠へ）へのアクセスを、権力への渴望、「世界の魔法の支配」、物質的な欲求やニーズの満足など、人間の欲望を空にするために変更する誘惑に用心していました。何かを制御し所有したいという欲求だけでなく、これらの目に見えない力を利己的な目的のために使用し、出来事を自分たちにとって有益な方向に導く機会。つまり仏様はスピリチュアルな道を歩む人々に、これらの「奇跡の力」を利己的な目的で使用しないよう警告しました。そうしないと、人は精神的な道から外れ、人生の主要なこと、つまり内部の変革、絶対者とのつながり、魂の世界とのつながりを達成できなくなります。

なぜ仏陀はこの問題を強調したのでしょうか？ブッダには、彼らの言語で「高度な芸術」、または私たちの意見ではゲリアリズムを習得した弟子たちのグループがいました。そして、これは靈的成長の困難な道であり、すべての人を対象としたものではありません。これは、比喩的に言えば、インテリジェンスの分野に似ています。誰もがそこに連れて行かれるわけではなく、個人の資質、能力、および既存の専門スキルに基づいてのみ連れて行かれます。



しかし、他の人々もこの仏陀のグループのことを知っていましたが、彼らが言うように、喜んで参加しませんでした。知識を歪曲する模倣者は常に十分に存在しました。釈迦の時代にも、現在と同じように多くの人々が、人々に対して目に見えない力を持ちたいという利己的な欲望のために、秘密の知識である魔術やさまざまな神秘的な芸術に魅了されていたことに注意すべきです。しかし、利己的な目標やプライドのために超自然的な能力を持つことと、その能力を靈的世界への奉仕に使うこととは別のことです。そこで仏陀は弟子たちに、内なる変容の段階を経る一方で、人間存在の唯一の意味である主な精神的目標、つまり精神的な解放、つまり涅槃へのアクセスを堅固に固守しなければならないと警告しました。そうしないと、一時的なものを永遠のものと誤って錯覚してしまう可能性があります。

アナスタシア: はい、古代インドでは、人が何らかの方法でさまざまな超自然的な能力を獲得するという話題が非常に人気がありました。これは、さまざまな宗教を普及させるためのPR活動だったと言えるかもしれません。たとえば、これは仏教という宗教に加えて、古代インド哲学の難解なダシャナ(教え)にも含まれており、スピリチュアルを通じて人が「神聖な能力」を獲得することによって「真の知識」を理解するヨガの方法を扱っています。実践。特に、難解な学校では、「シャクティ」などの概念が、実践のさまざまな段階で獲得できる力の名称として今でも使用されています。



たとえば、Jnana-Shakti - 透視、透聴、テレパシーの特性に関連する力。クリヤ・シャクティ - 物質化、思考の力で癒したり傷つけたりする能力。Ichchha-Shakti - 意志の力、自己統治の現れであり、身体の超自然的な能力、アストラル旅行をする能力の発達につながります。マントラ・シャクティ - 宇宙のリズムに関連する力、自然への影響。

リグデン：まさにその通りです。「シャクティ」とはサンスクリット語で「力、強さ」を意味します。すでに述べたように、古代インドの伝説では、「シャクティ」は、宇宙規模(アディ・シャクティ)における女性の主要な神聖で創造的な力として、そして精神的な実践において、機能を与えられた力として言及されています。アラットと人間の 4 つのエッセンスについて。宗教伝説では、この創造的な力は、ブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァの配偶者である女神の形で表現されるほか、あらゆる神の一面として表現されます。興味深いことに、この力(シャクティ)は、蓮の花びらの特別な兆候で表される小さな力に分岐し、その中には神だけでなく女神も「個人的に」住んでいます。無知な人にとって、この情報は普通の宗教伝説のように見えます。しかし、知識のある人は、何が危機に瀕しているのか、大宇宙と人間についてどのような知識が説明されているのかを完全に理解しています。すでに述べたように、特に東洋の古代人は、人のエネルギー構造を寓意的に蓮の花に例えました。条件付きの「花びら」はそれぞれ、その人のエッセンスの 1 つであり、独自のサインを持ち、その状態を生きています。自分自身の生命を持ち、何らかの測定値とのコミュニケーションを担当します。このサインを知ることで、この特定のエッセンスと直接コンタクトすることができます。



アナスタシア： はい、多くの宗教にはこの知識の反響がありますが、ただそれらが非常に物質的な哲学に包まれているため、無知な人にとっては分離するだけでなく、精神的な粒子がどこにあるのか、そしてどこにあるのかを理解することさえ困難です。人間の心からの物質的な不純物、または動物の心からの代替品。そういえば、中国の道教では、人体もさまざまな神が宿る小宇宙と考えられているのを思い出しました。確かに、彼らはこのプロセスを独自の方法で表現しており、彼らの理解では、それは肉体とその器官に関連付けられています。それにもかかわらず、道教の信者は、おそらく人間の「体」のこれらの靈の好意を得るために、正しい生活を送り、善行を行うことが推奨されています。

リグデン： 道教は古代中国のシャーマニズムからこの知識を継承しています。そこでは、多数の人間の魂(動物の魂「ポー」、靈的な魂「ファン」を含む)が体でつながっているという考えがありました。しかし、当時とは概念に大きな違いと置き換えがあります。実際のところ、精靈の気質を獲得したり、精靈と合意に達したりするということは、実際には動物の心と取引をすることを意味しており、この条件付き契約のおかげで、人はどんなことでも実行できるようになったのです。6次元内での魔法のアクション。ある人(シャーマン)は、精靈たちが自分に仕えていると素朴に信じていましたが、実際には彼は動物の心の指揮者として働いており、これらの精靈はいつでも彼に対する態度を変える可能性があります。言い換えれば、大きな違いがあります。つまり、一時的な人生において、物質界で超自然的な能力を得るためにスピリット(横方向のエッセンスを含む)に勝つか、それとも自分自身でエッセンスを制御する方法を学び、利益を得るかです。 誠実さを保ち、精神的な解放を達成します、永遠。



道教の宗教でも、仏教の宗教と同様に、信者は自分の身体と意識の根本的な変革に取り組み、瞑想を学習のツールとして使用する義務を負っています。道教はまた、宗教的な教えによれば、「不死」を達成するための道におけるそのような変化のおかげで、人は超自然的な力と能力を獲得することを強調しています。たとえば、透明になったり、空間を移動したり、同時に異なる場所に存在したり、時間を圧縮したりできます。しかし、これについて私が言いたいことは何ですか。実際、多くの宗教概念では、信者は最終的に提案された宗教的道に沿って歩み、何らかの超自然的な能力を習得することができると言っています。多くの人々は、精神的な穀物よりも、まさに動物的な性質の側面からこれに惹かれています。しかし悲しいことは、多くの人がこの目標(超自然的な能力の獲得)を達成するために一生を費やし、無駄に力を浪費しているということです。しかし、超自然的な能力を持つということは、まだ完璧の頂点ではありません。「人は魂の中で神を知らないとき、何でも信じようとする」という古代の知恵があります。

超自然的な能力を学ぶことは、精神的な解放を達成することを意味しません。



結局のところ、これは、たとえば黒魔術に関わる人々、つまり動物の心の指揮者である人々によって実行できます。しかし、結果はどうなったのでしょうか？その後、亜人格となってさらに大きな苦しみを受けるのでしょうか？実際、目に見える世界と目に見えない世界の両方で行われるすべてのことについて、二重に答える必要があります。超自然的な能力の開発が正当化されるのは、その人自身がこのプロセスに細心の注意を払っていないとき、彼が自分の精神的な道と精神的な解放に集中しているとき、そして同時に責任を負っているとき、たとえば責任を負っているときだけです。靈界から来た「光の戦士」。しかし、これが単位のやり方です。そして一般的に、人々は超自然的な力を持つことに焦点を当てる必要はありません。人々にとって、人生における主なことは、精神的な解放に力を集中することであり、それは毎日自分自身に精神的な取り組みを行うことを意味します。それが重要なことです！あなたが何らかの形で他の人よりも優れていることを証明する必要があるのは人々の前ではなく、神の前であなたが靈的世界に受け入れられる価値があること、あなたに価値があること、そうすれば、あなたの人格は成熟したスピリチュアルな存在として永遠に存在します。

アナスタシア： はい、多くの宗教はまた、これらの機会は真理の理解の最終段階で開かれることを示していますが、そのとき、それらは原則として地上の目的にはもはや必要ではないことが判明します。

リグデン： まさにその通りです。結局のところ、人格が魂と融合し、人が七次元を利用できるようになったとき、彼はすでに意識によってその中に住んでおり、精神的な世界に留まります。彼は精神的な世界で最も興味深いことを学び始めるため、三次元の世界にはまったく興味を失います。



一般に、人の精神的な道全体は、彼の内面の意識の変化、つまり自分自身の根本的な変化の道です。自分との旅を始めるとき、それはまだ多くを理解しておらず、直感的にそれに従います。誰もが自分自身の障害につまずきますが、靈的な活動の過程でそれらを克服する方法を学びます。自分自身を知ることで、人は自分の人生の目に見えない側面、つまり人生で最良とは言えない出来事を引き起こした、これまで制御されていなかった自分自身のエッセンスの活動を理解し始めます。こうして、人格者は自分の苦しみの根源に気づきます。人は自分の動物的性質にとって有益以上のものを理解し始めると、自分の利己的な存在のニーズを無視し、彼の攻撃を毎分撃退する準備ができている習慣を身につけます。時間が経つにつれて、この自分自身への取り組みは靈的な成果をもたらします。「あなたが守る思考が幸福につながる」と言われるには偶然ではありません。

個人的な選択は人の人生において大きな役割を果たします。思考は常に、人格が無関心ではないものによって支配されます。人は自分自身の状況、自分が何を考えているかをより頻繁に監視し、今ここで何を選択するかを自問する必要があります。この世の苦しみか、それとも自分と自分の魂にとっての永遠でしょうか？結局のところ、人生で最も重要なことはあなたの魂の救いです。自分の魂を救うことによって、人は自分自身を救うのです。人生は、どんなに長いものであっても、あっという間に終わりますし、突然終わります。物質世界のあらゆる瞬間が容赦なく時間をむさぼり食う。ちなみに、サンスクリット語で「地獄」（ロシア文字転写）は「食べる、飲み込む、吸収する」、または古いロシア語で「食べる」を意味します。この物質世界は、古代の人々によって、まさに現代の宗教が地獄と呼ぶ場所であると考えられ、人々、その運命、そして魂を食い尽くす怪物として描かれていました。



しかし、人が昼も夜も自分の魂を救うことを切望し、毎日自分自身に取り組むなら、それは彼に物質世界の限界を超えて、苦しみと絶え間ない再生の限界を超えて永遠に進む機会を与えてます。

あなたの魂を救うためには、この欲望に従って生きなければなりません。運命の状況に関係なく、これが彼の人生における唯一の支配的な願望でなければなりません。しかし、一般に、靈的な道を歩み始めた人であっても、多くの平凡で世俗的な欲望を抱えてその道を歩みますが、その誘惑の中で、靈的な性質から発せられるたった一つの欲望を抑えるのは困難です。したがって、彼の質問はしばしば心から湧き出ます。これについては良い話があります。「一人の若者が、川の岸辺で蓮華座に座っていた賢者のところにやって来ました。彼は彼に敬意を表し、彼の生徒になる準備ができていることを外見と精神のすべてで示すことに決めました。若い男は、彼に質問する必要があると考えました。彼の意見では、賢者は間違いなく答え、それによって彼の注意を引くでしょう。若者は彼に尋ねました。「賢くなり、魂を救うためにはどうすればよいでしょうか?」しかし、予想に反して、賢者は彼に答えず、他の人々も同様に、ほぼ一日中、質問したり、問題について不平を言ったり、単に彼への敬意を表したりして彼に近づきました。若者は粘り強く続けることを決心し、誰かが賢者に何かを尋ねるたびに、重要な質問をもう一度繰り返しました。しかし、賢者は依然として沈黙を保った。



たまたま、午後遅くに、重い荷物を背負った貧しい男が、蓮華座に座っていた賢者に近づき、最寄りの都市に行くにはどの道を通ればよいのかと尋ねました。賢者はすぐに立ち上がり、貧しい男の重荷を背負い、彼を道に導き、方向を示し、街への行き方を詳しく説明しました。それから彼は戻ってきて、再び座って瞑想しました。若者は何が起こったのか非常に驚き、絶望して賢者に尋ね始めました。なぜあなたはこの男の世俗的な質問に答え、彼に多くの時間を費やしたのですか？私は魂の救いについてもっと重要な質問を一日中あなたに尋ねたのに、あなたは私に答えなかったのですか？」賢者は立ち上がり、若者に川に向かってついて来るよう合図した。彼は水の中に入っていました。水は冷たく、風は刺すようなものでしたが、若者はしぶしぶ彼についてきました。賢者は十分に深く入りました。彼は若者の方を向き、突然肩を掴みました。そして、その執拗な手から逃れようとする男の必死の試みにもかかわらず、彼はすぐに男を頭から水に突っ込みました。最後に、賢者は若者を解放しました、そして、彼は急いで出てきて、貪欲に呼吸し始め、十分な空気を吸うことができませんでした。賢者は静かにこう尋ねました。「あなたが水中にいたとき、人生で最も望んでいたものは何ですか？」彼はためらうことなく口走った。「エア！」私は空気だけが欲しかったのです！」賢者はこう明らかにしました。しかし、おそらくあなたはその瞬間、彼の代わりに富、名声、喜び、人々の間での重要性、そして人々に対する権力を手に入れることを望んでいましたか？若者は叫びそうになりました。私は空気だけを渴望し、空気のことだけを考えました。彼がいなかったら、私は死んでいたでしょう！」賢者は満足そうにうなずいて彼に答えました。賢くなるためには、自分の命を救ってくれる空気を切望したのと同じくらい、自分の魂を救いたいと願う必要があります。



これがあなたが人生で戦わなければならない唯一の目標であるべきです。これが昼も夜もあなたの唯一の願望であるべきです。水の中で命がけで戦ったのと同じ熱意を持って自分の魂を救うために自分自身に取り組むなら、あなたは間違なく賢くなり、自分自身を救うでしょう!」これらの言葉を言い終えると、彼は水の中から現れ始めました。その中で、賢者の言葉ではっきりと見え始めた若者は立ったままで、もはや寒さや刺すような風にも気づきませんでした。岸に着いた賢者は振り返り、こう言いました。「そして、重荷を負った世俗的な人を助けたのは、今日、彼が求めていたものをまさに探していたのはこの人だけだったからです。」

アナスタシア: 靈的な道を夢見るだけの多くの人々の秘密の願望と、靈的な救いを本当に望んで多くのことをしている人の状態の両方を非常に正確に特徴づける素晴らしいとえ話です。

リグデン: 内なる自由を獲得する道は常に最初の一歩から始まります。認識の初期段階では、人は実に多くのありふれた世俗的な欲望を持っていますが、その誘惑の中には、実践的な靈的経験がないため、靈的性質から発せられるその単一の欲望を維持することは困難です。多くの人が間違っているのは、最初の段階では、スピリチュアルなことを自分の主要な道としてではなく、ある意味、習慣や特定のパターンに従ってすでに発達している、人生への何らかの追加として扱っていることにさえ気づいていないことです。考え方など。



これには大きな違いがあります。自分自身と自分の習慣を本当に変えることと、自分自身を変えずに、この知識の助けを借りてこの世界で大きな意味を獲得したいと願うことは別のことです。

人が自分の靈性について知らないとき、毎日、一滴ずつ、邪悪な考え、欠陥のある感情、空虚な欲望で水差しのように満たされます。その結果、この物質的な「汚れ」の塊が彼の将来の運命を再定義します。人が靈的な道を歩むとき、比喩的に言えば、彼は自分の思考の純度に従い、毎日それによって意識を満たし、それらに注意を払い、自分の選択を確認します。時間が経つにつれて、彼の意識は良い考えや感情だけに集中する習慣を獲得します。その性格は、夜明けの若い緑の芽のようになり、命を与える透き通った露を自分で集め、湿気で栄養を与え、急速な成長を刺激し、後に独立した独立した植物になることができます。

毎日自分自身に取り組むことで、目に見えない世界でスピリチュアルな経験を積むことができ、それによって自分の過去、たとえばうつ病や人生への不満などがなぜ生じたのかを理解することができます。人はより良くなりたいと願うと同時に、通常の生活様式を変える恐れがある何らかの理由で、ほとんど動物的な恐怖を経験する理由が明らかになります。人はスピリチュアルなツールの助けを借りて、思考をコントロールし、自分の主要な4つのエッセンスをコントロールすることを学びます。



靈的に成長する彼は、深い感情を通じて、目に見える世界と目に見えない世界を、もはや物質に限定された心の立場からではなく、世界についての最も幅広い情報をカバーし、可能にする精神的で直感的な知識の立場から理解し始めます。あなたは、世界の神への入り口である魂との絶え間ないつながりを維持する必要があります。靈的な道を理解しようとする人の意図は、疑いの風によって動かされることのない強い岩のようになります。

アナスタシア: はい、毎日の練習は自分自身を認識し、精神的な道の過程で自分を正すのに役立ちます。理論だけで満足していると、時間を刻むようなもので、貴重な人生の時間を失うことになります。古代人が言ったように、精神的な高みを目指して飛び立つ者は、その道をたどる者を追い越します。歩く者は知識の道を這う者を追い越す。そして忍び寄る者が立ち止まらない者を追い越す。最初の一歩を踏み出すということは、自己実現に向けて前進し始めることを意味します。

リグデン: まさにその通りです。スピリチュアルな方向への最初のステップは、あなたの以前の著書で説明されています。そして、読者に自分自身へのより深い取り組みの次の段階であるピラミッド瞑想を説明する前に、まず自分の 4 つのエッセンスの知識に関するシンプルだが役に立つ瞑想について話すべきです。それは、異なる時代に、異なる民族によって異なる呼び方で呼ばれていました。たとえば、キリスト教が到来し、この宗教が人々の意識に導入されるずっと前の古代、スラブ人の間では、それは「チェトヴェリク」と呼ばれ、自己改善の過程における基本的な初期実践の 1 つでした。人の精神的な道において。



アナスタシア: あなたの 4 つのエッセンスの意識的な認識についての瞑想のことですか?!これは確かに非常に効果的な瞑想であり、自分自身を知り、自分のエッセンスの日々の働きの特徴、思考や感情状態を通じた意識への影響を明らかにすることを目的としています。

リグデン: この単純な瞑想は、実際、自分のエッセンスを意識的に知るための第一歩です。それを習得することにより、人は自分の感情状態を調整することだけでなく、その発生の本当の原因を理解することも学びます。結局のところ、原則として、通常の生活では、天気のように変わりやすいさまざまな気分、感情が突然波のように転がる理由には気づかず、追跡しません。怒り、攻撃性、または狡猾さが克服されます。カップルの利己主義、次に恐怖に襲われ、そして思いがけず過去の記憶が思い出され、ネガティブな感情が重なり合うなどです。せいぜい、人はこれらの状態を自分自身の動物の性質の明確な現れとして認識しますが、それはすでに完全に意識を捉えた。彼はこの思考と感情の悪循環に苦しみ始め、同時に注意を払うことでそれらを強化します。言い換えれば、人は側面のエッセンスからの主な挑発を追跡しません。そして、この瞑想は、このプロセスを追跡するだけでなく、時間内にそれを停止することを可能にするスキルの習得に貢献します。つまり、この状態が人を完全に吸収する前にも停止することもできます。したがって、この瞑想は非常に効果的であるだけでなく、重要なことに、特に初心者にとって、それは心理技術に近いため、習得が簡単です。



この瞑想の目的は、4つのエッセンスそれぞれの活性化の瞬間を理解し、それらを感じ、この活性化に伴う感情の爆発を特定することを学び、また、このプロセスによって生成される特定の思考の発現の性質を理解することです。その後の気分の変化に影響を与えます。

瞑想は立った姿勢で行われます。瞑想者は、自分が小さな四面体のピラミッドの底面の中心に立っていると想像します。つまり、自分は斜めの十字の型で分割された空間の中央にいて、実際、その各部分はそれぞれを表しています。4つのエッセンスのうちの1つのフィールド。いくつか説明させていただきます。ピラミッドの正方形の底面は、条件付きで対角線、つまり文字「x」の形で、斜めの十字によって4つの等しい部分に分割されます。瞑想者は十字の線の交点の中心に位置し、条件付きで人の周囲の空間を4つの体積部分に分割します。一言で言えば、瞑想者の前、後ろ、そして側面にも、いわば三角形の空間があります。これは、人間の理解において4つのエッセンスのこれらのフィールドがおおよそどのように見えるかです。

ここで、各エッセンスの中心の位置を明らかにします。水平方向に伸ばしたアームの四辺より少し離れた位置にある、この三角形の空間にエッセンスの中心が位置します。各エッセンスのエネルギーセンターは条件付きで一種の塊であり、形状はポールや小さなポールに似ており、一貫して比喩的に言えばガス惑星のようなものです。



小さなボールは、この瞑想をよりよく理解し、理解しやすくするため、各エッセンスの中心を象徴的に表現しています。実際には複雑な構造になっています。このようなボールとの比喩的な比較は、人間の構造が点のように見える一次元の認識に似ています。しかし、高次元から見ると、人の構造はすでにその多次元性のすべてにおいて、複雑なエネルギー構造として認識されています。これらのエッセンスの中心も同様です。それらは条件付きでのみ、三次元の住人であるボールを理解するためのものです。それで、私たちは思考や感情を落ち着かせ、瞑想状態に突入します。呼吸は習慣的で、穏やかです。手のひらの中央にある手のチャクラを開きます。私たちは息を吸い、手のひらのチャクラを通して「気」(空気のエネルギー)のエネルギーを発射し、腕に沿って肩の高さまで上げます。息を吐くとき、肩から横経線(体のほぼ側面に沿って)に沿って「気」(空気)のエネルギーを引き出し、「ハラ」チャクラ(へそから指3本ほど下に位置します)で2つの流れを結びます。、ボウルの水のように、下腹部をこのエネルギーで満たします。次に、満たされた後(最初の段階で精神的な表現がある人、下腹部にわずかな重さの感覚がある人)、蓄積されたエネルギーを下腹部から背骨に沿って頭、特に視床下部に移動します。間脳の領域(頭のほぼ中央に位置する「古代の構造」の脳)。この場所(頭の中心)は、瞑想者がこの瞑想中に常に「戻る」一種の中間中心になります。

アナスタシア: ここで、あなたがかつて私たちに話してくれた、さらに2つの興味深い点について触れたいと思います。



まず、ハラ チャクランを満たすことが、ボウルに水を注ぐことと関連付けられることが多いのは偶然ではありません。「ハラ」という言葉は日本語で「腹」を意味します。そして、あなたが言ったように、古代インドの論文では、初期のサンスクリット語の「ハラ」は、女性原理の最高の創造力である女神シャクティの名前の一つとして機能していました。人間についての最も内なる知識の文脈における水とボウルは、精神的な実践において作用する力とプロセスを指す寓意的な意味を持っていました。次に、この瞑想そのものについて。そして、あなたは、瞑想者が最初は下腹部がエネルギーで満たされるまで、日常のプロセスとして呼吸に集中しているだけであることに注意を向けました。それから彼は背骨に沿ったエネルギーの動きに注意を移し、瞑想のさらなるプロセスを追跡するだけで、呼吸はすでに自然に自動的に行われます。かつて、これらの説明は、この瞑想の発展に関連する最初のステップを理解するのに役立ちました。

リグデン： そうですね。瞑想では、呼吸は穏やかで自然でなければならず、すべての注意はその瞬間に起こっているプロセスに集中する必要があります。したがって、最初は、他の瞑想と同様に、当然のことながら、すべての感情はバランスの取れた状態にあります。休み。したがって、人の 4 つのエッセンスもすべて「ニュートラル」な、興奮していない状態になります。瞑想者はそれらをあたかも同時に感じます。エッセンスの中心は、大きなボール、太陽、惑星などのようなもので、最初はこれらすべてを比喩的に想像するのが便利だと思われるでしょう。時間が経つにつれて、この瞑想を発展させることによって、人は自分の内なる感情に従って自分の仕事を感じができるようになります。そして適切な経験を積めば、もはやこうした比喩的な表現は必要なくなるでしょう。自己認識の働きの次の段階がすでに始まっているでしょう。



アナスタシア: はい、私はスピリチュアルな実践を習得した最初の経験に基づいて、そのような特徴に気づきました。新しい瞑想の実行方法を初めて聞くとき、それを正確にどのように実行するかという「千の質問」が心の中に湧き上がります。新しい瞑想を説明するときに、なぜあなたが常にさまざまな連想的な比較や説明を行うのかがわかりました。これらは心のための説明であり、物質的な脳が最初は少なくとも何かを理解し、瞑想の一般的なスキームを単に理解するだけです。つまり、これは、(意識が現在三次元の知覚モードで働いている)人に、意識が他の次元の知覚モードに切り替わったときに瞑想中に起こる現象を説明する試みです。より正確に言えば、彼の構造の一部は別の次元にあります。結局のところ、瞑想自体を行うと、すべてが非常にシンプルで明確であることがわかります。なぜなら、あなたは深い感情を持って瞑想を行うためであり、世界の認識が拡大し、意識が変性した状態であっても瞑想を行うからです。 三次元の住人の典型的な内省。

リグデン: もちろん、人間の「多層」エネルギー構造が位置する 6 つの次元を含め、すべての次元は相互に関連しており、互いに影響を与えています。



第三次元より上の次元で起こる現象を理解するには、瞑想的な経験と人の実際の変化が必要です。少なくとも彼の基本的な世界観では、自分自身に対する毎日の努力が必要です。そうして初めて、彼はそれが本当は何であるのか、世界とは何なのか、そしてそれ自体にどのような秘密が隠されているのかを理解することができるでしょう。人が自分の経験を受け取るとき、「何千もの言葉」や心へのさまざまな説明は必要ありません。それを特定し、何がどのように起こっているのかを理解するために必要なのは、この現象またはその現象の現れのヒントだけです。

ところで、この瞑想に関する脳の構造について考える材料として、もう 1 つ情報をメモしておきます。間脳はあらゆる種類の感受性を収集する一種の器官です。それは、記憶、睡眠、本能的行動、精神的反応の調節のプロセス、さまざまなタイプの感受性の矯正などに直接関与しています。間脳の視床下部と同じ部位、重さわずか約5グラムの視床下部とは何でしょうか?自律神経系の最も重要な中枢は視床下部にあります。一般に、自律神経系の交感神経中枢と副交感神経中枢の機能の調整は自律神経系で直接行われ、その上に生物全體が乗っているとも言えます。視床下部はホメオスタシスの主なプロセスを制御します。つまり、外部条件が変化したときに、協調的な反応を通じて内部環境の動的なバランスを維持します。また、副交感神経系の主神経中枢を含む延髄には、脳神経の中で最も長い迷走神経(迷走神経)があり、その枝は太陽神経叢の形成にも関与している。



しかし、瞑想に戻りましょう。それは脳の中心(条件付き、正を中心)から、間脳の視床下部の上の領域から、そして頭の特定の点を通って、瞑想者は交互にエネルギーを伝導します(それは彼が蓄積したものです)「ハラ」にあり、脊椎を通って脳に移動し、各エッセンスの中心に到達します。したがって、人は人工的に自分のエッセンスを活性化し、それによって自分自身の中にさまざまな一次感情の爆発を生成し、同時にそれらを研究します。瞑想者の課題は、それぞれのエッセンスの働きを認識することを学ぶことであり、その結果は特定の感情の爆発や思考の形で日常生活に現れます。瞑想中に人が主要なエッセンスのそれぞれと相互作用するプロセスをさらに詳しく考えてみましょう。

最初に、瞑想者は正しいエッセンスを使って作業します。瞑想中、「気」のエネルギーが間脳の視床下部から、脳の側頭葉の奥深くにある右扁桃体を通って届きます。次に、右耳の上にあるポイントを通って、エネルギーはライト エッセンスのボール中心に直接入ります。

脳の構造を知らない人のために、人間の脳には左右に 2 つの扁桃体があることに注意してください。これは、さまざまな種類の感情の形成に関連する非常に興味深い皮質下の脳構造です。



アナスタシア: はい、今日の科学では、扁桃体が周囲の人々の顔から情報を読み取る能力を担っていることがすでにわかっています。したがって、人は無意識のうちに、これらの人々が現時点でどのように感じているかを理解しています。しかし、情報を読み取るメカニズムは科学者にとってまだ完全には明らかになっていません。

リグデン: もちろん、この読み取りは、扁桃体の他の多くの機能と同様に、その人のエネルギー構造における側面の側面の働きと関連しています。肉体では、扁桃体の機能は植物性感情反応に関連しており、防御行動を提供し、条件反射行動を動機付けます。さらに今日では、扁桃体の損傷により、怒りや攻撃性、さらには危険の記憶を司る構造が部分的に消失する可能性があるという事実がすでに科学的に確立されています。言い換えれば、それは人の恐怖の部分的な消失につながり、それによって彼が気づかない継続的な危険にさらされる可能性があります。医学では、扁桃体を外科的に破壊することで恐怖や制御不能な攻撃性の爆発を治療する試みも行われている。目的は必ずしもそれを達成するための手段を正当化するとは限らないことに注意する必要があります。自分自身に勝つことは、どんな外科的介入よりもはるかに重要です。さらに、人は依然として動物の性質のすべての恐怖と現れを取り除くことができません。実際、人間の体には概して「余分な詳細」がないため、緊急の必要がない限り、そこから何かを取り除いてはいけません。



そして、耳の上の点についてもう少し説明します。この領域には、空間関係の変性意識状態にある人による知覚のプロセスに関与する構造(人の構造とエネルギー的に関係している)もあります。より正確には、空間における彼の方向性です。さまざまな次元。フォーエッセンスもこのプロセスに関与しています。ある現象はありますが。これらのエッセンスの場合、三次元の住人が知覚する形式には空間と時間は存在しません。しかし、人が直観的に正確な時間と空間の方向感覚を養えるのは、エッセンスの働きのおかげです。もちろん、以前は、人間のエネルギー構造と脳の物理的構造との関係について、人々はそのような詳細を知りませんでした。それにもかかわらず、古代にこの瞑想を実践した人々は、同様にそれを成功させました。古代人は、瞑想のこの段階での「風の息」が最初に中心を通過すると単純に想像しました。 次に、その外部ポイントを介して空間内の特定の場所を指し、その場所で特定のアクションが実行されます。たとえば、古代ロシアの精神的実践では、このプロセスは、冬、夏、秋、春という四季の特徴を備えた四風の支配者との接触として、つむじ風がほどけることとして表現されていました。後者は前 エッセンスの特徴を備えており、古代スラブ人によって最も尊敬されていました。

アナスタシア: この瞑想を質の高いもので行うためには、脳の構造を詳しく知る必要はないということですか？



リグデン： はい、しかし、この知識は一般的な知的発達に役立ちます。その後、この瞑想の経験は日常生活に簡単に適用でき、自分の中に否定的な思考や感情が現れる最初のプロセスを追跡し、それに応じて予防することができます。時間の経過とともに起こる望ましくない展開。自分自身に取り組むこのプロセスは、最終的には習慣のようになり、たとえば散歩のようになります。実際、人は最初にバランスを保つことを学び、次に足を動かすことを学び、その後このプロセスが毎日の習慣になります。その結果、人は自分が空間内でどのように移動するかに注意を払わなくなります。彼は、初期の作業の完成結果を使用して、いくつかの日常タスクを実行するだけです。この瞑想の経験も同様です。毎日、自分の感情状態の誕生や急増をコントロールすることによって、人はより重要な精神的な仕事を遂行するために自分の注意力と活力を無駄にせずに保つことができます。そして、そのような制御の外では、彼は通常無意識にこれらを浪費します 動物の心のプログラムや意志に彼らの力が加わり、ネガティブな思考や感情が彼らの意識の中で支配的になってしまうのです。それでは、正しいエッセンスの中心を使った内なる働きはどのように行われるのでしょうか?通常、日常生活の中で人は自分のエッセンスがどのように活性化されているかに気づきませんが、そのようなプロセスの結果をよく感じます。側面のエッセンスが作用し始めると、明らかな理由もなく、人の気分が突然変化することがあります。



人は突然落胆したり、まったく理由もなく、恐怖、失望、憧れ、無関心、あるいは逆に攻撃性の感情に襲われたり、長年の不満が現れ始めたりします。なぜこうなった?側面のエッセンス、この場合は右のエッセンスが活性化されるためです。さらに、エッセンスは、この感情の爆発に対応する思考の形成を引き起こし、それらに人の注意を引き付けます。熟練した操作者のように、彼は感受性が高まった状態にある彼を捉え、いわば同じ感情の調子で、さまざまな思考の選択肢の選択肢を「提供」します。

言い換れば、人間の中で動物的な性質が優勢である場合、側面のエッセンスが通常の働き方で人格をそのような感情の爆発を引き起こすのです。そして、そのようなバーストは脳にとって何を意味するのでしょうか?これは、一度受け取った精神的経験、感情、状態の経験を保存する特定の記憶ブロックを活性化するのと同じコードです。

これらの記憶の「倉庫」を開いて、その内容で人の注意を引くと、側面のエッセンスは、したがって、彼を否定的な状態に導きます。次に、同じ考えをループするかのように、この方向の気分が強化されるプロセスがあります。その結果、その人自身が、注意力を適用するという自らの選択により、動物的な性質の思考に生命エネルギーを浪費し、それによって感情の爆発を引き起こすあれやこれやのエッセンスを養うことになります。そして、エッセンスは、その人自身の注意力の資源を犠牲にして、その人への影響を強めます。



人は、たとえば憂鬱な状態や攻撃的な状態からすぐに抜け出したいと思っているようですが、実際にはそれを取り除くことができないことがわかりました。なぜ?なぜなら、彼は自分の選択によって、つまり自分をこの状態に陥らせる特定の思考について考えることによって、すでに自分の中にこの状態を許容しているからです。しかし、彼はそこから抜け出すことができません。なぜなら、彼はこれらのネガティブな考えを手放したくない、頭の中でそれらを無視したり、将来それを許可したくないからです。それらは、彼のプライド、誇大妄想、自尊心、または動物の性質の標準パッケージの別の「スープセット」をあまりにも傷つけました。

人間の意識の中で動物の性質が支配するときとき、側面のエッセンスは常に人格の注意を主要なこと、つまり精神的な解放への集中からそらそうとします。そして、この頻繁に繰り返されるプロセスを人生全体の規模で捉えると、そのような心理的自己批判の「小さなこと」が、人の注意を人生の主要な目標の達成から常にそらしていることがわかります。さらに、それらは、人が存在しているかのような錯覚に陥り、本当の理由を理解できないという事実に貢献します。なぜ彼は実際に、なぜ今、ここに、このような状況下で生きているのか、そしてなぜ彼はこの一時的な場所に「閉じ込められている」のか、ということです。死ぬべき体。残念ながら、人生はあっという間に過ぎてしまうことがよくあり、人はなぜ自分が生まれたのか、何に注意力が無駄になったのか、どんな些細なこと(空虚な欲望、対決、闘争)を理解する時間さえありません。リーダーシップなど)さらに)彼は貴重な活力の蓄えを交換しました。



アナスタシア： はい、以前は、私もよく考えがぐるぐるぐるぐる回ったり、これについて心配したり、目に見えないというか、私にとって習慣的なことで、人生の空虚な小さなことに注意を集中したり、憤り、失望、攻撃性、満足感を感じていました。その瞬間は私にとってとても大切に思えました。しかしその後、私は、自分に何が起こっているのか、そしてこのプロセスをどのように防止または規制するかをやがて理解するために、自分自身、自分の本質を知ることが重要であることに気づきました。あなたがかつてアドバイスしたように、実際には、この「存在の狭さ」から抜け出すのに役立ちます。それは、スピリチュアルな性質からの観察者からの全体的な視点、人生のはかなさ、そしてあなたにとっての特定の問題の優先順位の本当の理解です。あなたのスピリチュアルな性質。

リグデン： 簡単に言うと、拡張された意識状態。その通りですが、狭まった意識状態は動物の性質の働き、いわば意識の「物質化」の特徴に過ぎません。例えば、うつ病はなぜ起こるのでしょうか？正しいエッセンスの活発な働きによるものです。そのような場合、人は引退しようとします、彼らが言うように、社会から逃げようとし、一人で泣き言を言います。そして、そのような同様の効果がかなり長期間続く場合、それは自殺につながる可能性さえあります、ちなみに、カンドゥクはそれを使用しています。そして、ここでは抗うつ薬は役に立ちません！微細なエネルギーのレベルで起こる同様の効果について話している場合、三次元世界の粗物質のプロセスに影響を与える化学はどのように役立つでしょうか？しかし、こうした現象を自分自身の中で止めることは、誰にでもできることです。もちろん、方法を知っていれば、それを行うのはそれほど難しいことではありません。



しかし、瞑想テクニックそのものに戻りましょう そこで、瞑想者は息を吸い、息を吐きながら、エネルギーが頭の中心(脳の「古代の構造」) から右耳の上の点を通ってボールに伝わります。彼の正しい本質の中心。右エッセンスのこのボール中心の回転は反時計回りに始まります。右と左のエッセンスの中心の動きが正確に反時計回りに起こるという事実に注目してください。それは単なる物理学です。自分の回転が時計回りであるという人の考えは、すでに想像力のゲームです。最初に、ボールの反時計回りの回転がプレゼンテーション層で発生します。しかしその後、瞑想者はこの中心の回転と、正しいエッセンスの「ボール」の明確な感覚の両方を濃密で熱いものとして感じ始めます。

したがって、人は人工的に正しいエッセンスの中心を活性化します。後者は通常の働き、つまり動物の性質が個人の意識の中で支配的なときに起こる働きを開始します。人生の誰でも、恐怖や強い興奮の際に、熱が出そうになったり、逆に寒くなりすぎたりする瞬間があります。生理学者はこれを自律神経系の反応によるものだと考えています。しかし、この現象の発生の本質はもっと深いところにあり、目に見えない世界の物理学のレベルにあります。したがって、瞑想者の仕事は、このエッセンスの働きに特徴的なさまざまな感情の爆発を感じ、その後の日常の感覚の中で、それが発生し始めたばかりの時点でさえ認識され、抑制されることです。この瞑想中、人は一方では、いわば感覚の全範囲を再体験し、他方では、靈的性質からの観察者として、その初期段階の状況、つまり、彼は、通常の日常生活の中で、いわば攻撃の準備、攻撃の準備として、自分から隠されている動物の性質の活性化を見ます。



言い換えれば、瞑想者は状況を監視します。どのような感情の爆発が抑圧的な意識状態の出現を引き起こすのか、同時にどのような感情が生じるのか、どのような思考が怒りや攻撃性を引き起こすのか、人生のどのようなエピソードや連想が現れるのかなどを観察します。これらすべては、このネガティブな状態を再体験することによって起こります。もちろん、その感覚は楽しいものではありません。最初はわずかな不安感が現れ、次に怒り、攻撃性、恐怖、抑圧状態、過去の不満の感情が生じることがあります。人が右エッセンスの中心に注ぐエネルギー（呼吸中の「気」）が多ければ多いほど、このボールからの熱をより多く感じ、否定的な感情がさらに強まります。

アナスタシア： この瞑想を初めて行う人は、次のような間違いを犯すことが多いことに注意してください。不快な感情の性質を知っていれば（そして誰もが自分のクローゼットの中に「骸骨が隠されていることを知っています」）、この瞑想を習得する最初の段階で、意識的または無意識的にこれらの感情をブロックすることができます。その結果、最初のセッションでは、スピンドアップ中にボールの中心自体からの熱や冷たさを、せいぜい何も感じません。

リグデン： その通りです。今度は再び不快な状態を経験する必要があることに気づいただけで、人は無意識のうちにこれらの感覚の発現をブロックすることができます。動物の性質は自分の重要な地位を放棄することを好みません。



瞑想者はこのことを認識し、質の高い瞑想を行うよう努めるべきであり、空虚な娯楽に従事するべきではなく、おそらく次のような考え方で警戒心を和らげるべきです。」

この瞑想は、人がその状態、つまり各エッセンスが生み出す感覚感情の爆発を実際に物理的および心理的に感じることができるように行われます。したがって、彼は、彼の動物が攻撃を開始するまさにその瞬間、これらの感情の爆発の誕生、その影響、日常生活への現れを認識することを学びます。突然押し寄せるネガティブな状態、「諸悪の根源はどこから来るのか」を理解し始める。自分自身のこの状態を特定し、識別すること、そして最も重要なことに、そのような攻撃を制御し、防止し、状況の発展と悪化を防ぐことを学びます。そして、もし人が、実際に自分自身に取り組む代わりに、この瞑想技術を実際に開発する際に、怠け者であるか、単に幻想で壮大な妄想を楽しんでいる場合、その人は日常生活で非常に困難な時間を過ごすことになります。結局のところ、動物の性質はその秘密の武器をすべて使用するための完全な装備を備えており、人はそれに何をどのように抵抗するかを知りません。このような場合、多くの人はこれらすべての攻撃を自分の外部環境や他人のせいだと考え、動物的な性質の制御不能な活動を強化するだけです。しかし、時間が経ち、人々の生活が変わり、状況も変化しますが、攻撃は同じままです。なぜ?なぜなら、すべての問題はその人の中にあるからです。人は自分自身を知ると、靈的な問題を取り除くことができます。



その理由は外部にあるのではなく、内部にあります。自分自身を知り、周りの人々を理解することを学び、それによって親切になることを学ぶ必要があります。

アナスタシア: これは議論の余地のない事実です。あなたは自分自身を変え、あなたの周りの世界に対するあなたの態度も変わります。そうです、瞑想テクニックをマスターし始めたばかりの人が頭から自分のアイデアに期待するものと、そして現実に何が起るのか。レモンの例に似ています。人がレモンを想像すると、せいぜい唾液分泌が増加する可能性があります。しかし、もし彼がそれを味わったら、彼はあらゆる感覚を明らかにするでしょう。

リグデン: そうです、ここでも同じです。これらの感情の存在を仮想的に想像するのではなく、実際に感じるべきです。しかし、瞑想そのものに戻りましょう。瞑想者は正しいエッセンスの影響を感じた後、再び自分の考えや感情を落ち着かせます。学ぶべき重要な点は、人は正しいエッセンスのこのねじれていないボール中心の動きを精神的に止めるということです。学習の最初の段階では、彼はこのプロセスを自分に都合の良いように比喩的に想像することができます。たとえば、心の中で「手」または思考の順序でこのボールの回転を止めることです。その後、瞑想者は観察者として、従来の頭の中央の中心に戻ります。そこで彼は再び平和と沈黙の状態、つまり4つのエッセンスすべての中立的な位置を同時に感じます。現時点では、残留現象がまだ感じられる可能性があり、右ボールからの不快な熱の背景(火事のような)の形で物理的に現れたり、感覚感情の爆発のレベルで現れたりします。怒り、イライラなど。



この背景は、人が意図的にその後の瞑想のプロセスに注意を切り替えるとすぐに、しばらくするとすぐに消えます。

アナスタシア: はい、このボールを誠実に回転させることは一つのことですが、それを止める方法を学ぶことの方が重要です。私は実際の経験から、人がこの瞑想を習得し、動物の性質の攻撃がどのように始まるかに気づかなくなるまで、日常生活において、少なくともそのさらなる発展を防ぐことを学ぶことが重要であることを知っています。つまり、あなたが自分の中で動物の性質の明確な現れにすでに気づいている場合は、少なくとも強迫的な感情、感情、思考の激化に注意を集中する必要はありません。言い換えれば、動物の性質によって刺激されるこのプロセスに関与しないでください。また、自分自身の強みや資源を犠牲にして自分自身との戦いを実行しないでください。

リグデン: その通りです。あらゆる戦いは人間の心の戦場から始まります。怒りを抑える方法を知っている人は、戦いを始めることなく戦いに勝利した賢者のようなものです。それでは、瞑想の次の段階です。瞑想者が内なる平安の状態を回復した後、再び呼吸に注意を切り替え、瞑想の始まりの計画を繰り返します。つまり、「ハーラ」(下腹部)を「気」のエネルギーで、チャクラを通して満たします。手。次に、このエネルギーは再び脊椎を通して脳の古代の中心(条件付き、中央中心)に伝導されます。しかし今、それはこの中心から左扁桃体へ、左耳の上の点を通って左のエッセンスの球の中心へ向かっています。そして、彼は、注意と思考の集中の助けを借りて、左のエッセンスの中心を反時計回りに回転させながら、人工的に左のエッセンスを使い始めます。



課題: このエッセンスの活性化の始まりを感じ、それが適切な気分を形成するどのような感情の爆発を引き起こすかを感じます。

一般に、人の感情は、プライド、利己心、誘惑、性欲の高まり、誰かに対する秘密の権力への欲求など、さまざまな感情を爆発させます。これらの感情、誇大妄想、近づきやすさ、寛容さ、性的欲求に関連して、自己中心主義、強欲、性的欲望に関係する、いわゆる欲望の「アルファ男性」(または「アルファ女性」)の優位性の立場から、適切なイメージが現れるかもしれません。誰かや何かを所有したいという欲求。右エッセンスの中心をほどくときにボールから熱を感じると、左エッセンスのボール中心がほどけるとそこから冷たさが感じられます。

左のエッセンスのすべての感情の爆発を生き延びた瞑想者は、再び感情を落ち着かせます。彼は精神的にこのエッセンスのボール中心の回転を止めます。その後、彼は再び観察者として、条件付きの中央の意識の中心(中立の位置)に戻ります。彼は休息、沈黙の状態に集中し、同時に4つのエッセンスすべての中立的な位置を感じます。左エッセンスの活動によって生成される冷たさの生理的感覚、残存する不快な感情や感情は、しばらくの間「光る」場合があります。



その後、瞑想者は背後エッセンスが生み出す感情の爆発を研究し始めます。これを行うために、彼はまず注意を呼吸に戻し、「ハラ」を満たすプロセスに焦点を当てます。次に、背骨に沿って「ハラ」から古代の中心までの「気」エネルギーの動きに注意を移します。脳の(条件付き、正中中心)。しかし今では、「気」のエネルギーを後頭部ゾーンを通って背後エッセンスのボール中心に導き、背後エッセンスを活性化します。背後エッセンスのボール中心は、右側(時計回り)と左側(反時計回り)の両方の異なる方向に回転できるという事実に注目してください。それは、湧き出てくる(記憶の中に浮かび上がる、またはその瞬間に支配的な)感情によって異なります。通常、それらは過去の経験、またはいずれかのエッセンスが優勢になったときの感情や感覚の重大な爆発に関連しています。そして、この経験は、特定のエッセンス、多くの場合、左または右のその瞬間の活性化に直接つながります(その場合、バックエッセンスのボール中心の回転は反時計回りになります)矢印)または前エッセンス(背後エッセンスのボール中心の回転は時計回りになります)。これらは現在の感情である場合もあれば、人の過去の感情である場合もあり、過去の感情の爆発の強さに応じて異なるビジョンが存在する場合があります。背後エッセンスの中心からの感覚も、ひどい寒さから温かく心地よい感覚までさまざまです。ちなみに、背後エッセンスのボール中心を反時計回りに強く回転させると、物質的思考が優位になる条件が作られます。これはまさに人間の多次元構造の物理学です。



背後エッセンスのボール中心に対して常に反時計回りに回転することで、憧れ、絶望感、取るに足らない存在、懷疑論、「あなたは何者でもないし、死ぬまでこのままだ」といった考え、時間のはかなさ、運命なども感じられます。しかし、背後エッセンスのボールの中心が時計回りに回転し始めると、通常、前エッセンスによって生成される感情の爆発の経験が活性化されます。後者は、今度は魂、つまり人間の精神的な発展と結びついています。この場合、背後エッセンスから発せられる感覚は全く異なります。多くの場合、この瞑想の展開中に、瞑想者がそのような「高揚した状態」にあるとき、彼はいわば、背後エッセンスから前エッセンスに「放り出されて」、瞑想はまったく異なる質で継続します。しかし今のところ、私たちは標準的なスキームについて話しています。それによると、背後エッセンスを使った後、人はこのボール中心の回転を止め、意識によって条件付きの頭の正中中心に戻ります。再び思考や感情を落ち着かせ、平和と沈黙の状態、つまり4つのエッセンスすべてのニュートラルな感覚を同時に回復します。

次に、瞑想者は前エッセンスの使用を開始します。これが瞑想の最も楽しい部分です。まず、いつものように、呼吸に注意を切り替え、手のチャクラを通して「ハラ」を「気」のエネルギーで満たし、その後このエネルギーを脊椎に沿って古代の脳の中核に移動させるというスキームを繰り返します(条件付き)。、中央中央)。しかし今になって初めて、「気」のエネルギーが古代の脳の中心から眉間の中心にある点を通じて前エッセンスのボール中心に到達します。



前エッセンスのボール中心に注目し、時計回りに回転させます。現時点では、太陽神経叢の領域、より正確には人間のエネルギー構造の中心である魂との明確な関係が存在します。感情に応じて、強さの高まり、安らぎ、心地よい温かさ、喜び、物質世界からの分離、精神世界との接触が起こります。前エッセンスの中心がほどけるほど、そんな想いが詰まっていきます。それは人間にとって一種の感情のはけ口のようなものです。この瞑想では、安定した状態を獲得し、気分を均一にし、精神的な爆発を引き起こすために、最後に前エッセンスに取り組むことが重要です。拡張された認識の状態におけるこのすべてを包み込む至福の感覚によって、瞑想者はこの瞑想から抜け出すだけでなく、それを習慣的な意識状態に保持することができます。この瞑想でも、人生と同じように、ネガティブな考えを止めるだけでなく、背後エッセンスと横エッセンスの活性化だけでなく、前エッセンスを活性化し、意識と思考のポジティブな状態にタイムリーに切り替える方法も学びます。

瞑想者は、いつものように、「息を吸ったり吐いたり、拳を力強く握ったり緩めたりしてください」という自己命令でこの瞑想を終了します。この瞑想には20～30分かかります。初期段階では、人によっては少し時間がかかる場合があります。朝や夕方、日中など都合に合わせて行うことができます。思考や感情の流れをコントロールし、自分自身と自分の状態を理解するのに役立ちます。



テクニック自体を習得するだけでなく、日常の中で自然に湧き起こる感情の爆発を認識することも重要です。この瞑想の発展により、自分のエッセンスのどれがあれやこれやの感情の爆発を引き起こすのかを理解できるようになると、その効果が日常生活の中で見られるようになります。結局のところ、その後、背後エッセンスと横エッセンスの中心の活性化を止め、前エッセンスに切り替え、ポジティブな感情の爆発、適切な気分と思考に切り替えることで、ネガティブな流れを時間内に止めることができるでしょう。

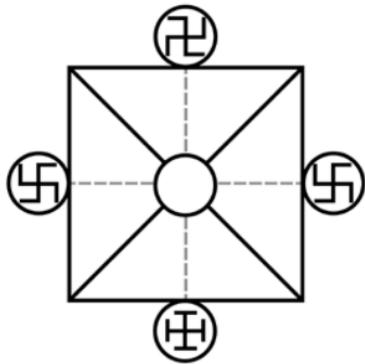


図15。象徴的なイメージ瞑想「木曜日」。

この瞑想は、より重要な精神的な目標をさらに発展させ、達成するためのステップのようなものです。これは人が自分自身をコントロールすることを学ぶための単なるツールであり、動物の性質が人をコントロールするものではありません。この瞑想のおかげで、彼は、音符を見るだけで、それがどのようないメロディーで、どのように聞こえるかをすでに理解している優れた音楽家のように、自分の感情や感情の爆発を簡単に制御することを学びます。



このようなコントロールは、良心に従って、日常生活において靈的な性質、つまり人間のように生きる習慣の優位性を維持するのに役立ちます。一般に、彼らが言うように、常に体調を整えてください。

アナスタシア： 常に体調を整えることに関しては、あなたはよく気づいていますね。しかし興味深いのは、人々は「常に体調を整える」という言葉をスポーツ、より正確には競技前のアスリートのトレーニングと関連付けることが多いことです。たとえば、この瞑想の最初の開発がグループ内で行われていたとき、メンバーたちはそれをスポーツと比較し始めたのを覚えています。同様に、コーチなら誰でも、自分の病棟の条件を実際の条件にできるだけ近づけることで人為的に作り出すことで、次の大会で勝つ可能性が高まるることを完全に理解しています。また、優れたアスリートは、トレーニングのあらゆる困難にもかかわらず、あらゆる打撲傷や擦り傷にもかかわらず、これらの障害を克服することで経験とスキルを獲得できることを知っています。時間が経つにつれて、アスリートは自分自身に対する日々の増大する要求に慣れています。あくまでそれを乗り越える側からの話です さまざまな「トレーニング」障害は、メインの競技にとって複雑で、おそらくは冗長なもののように見えるかもしれません。選手自身も技術向上に全力で取り組んでいる。彼は、トレーニング中に自己憐憫をしたり、負荷を避けようとしたりすると、必ず試合での負けにつながることをよく知っています。彼らは、これは明らかに、人が自分のためにあらゆる種類の障害を人為的に作り出し、それらを克服することを学ぶときの、背中と横のエッセンスの活性化と日常生活でのその追跡に関するこの瞑想と同じであると結論付けました。



唯一の違いは、スポーツとは対照的に、ここでは人は自分自身のコーチであるため、自分自身に警戒心を高めるよう要求することです。スポーツのように、自分自身に対するそのような取り組みの成功は、人がどれだけ誠実にそれを扱うかに直接依存します。この例は、この瞑想を実践し始める人にとっては確かに理解できます。しかし、私が気づいたのは、このケースの人々は、社会で受け入れられているステレオタイプの態度をポジティブなものとして利用しているということです。ここではスポーツは、風の仕事と連想的に比較され、仕事であり、自分自身に対する勝利であると考えられています。しかし、これらのプロセスの意味論的な根元を見ると、これらは同じ概念からは程遠いものです。リグデン：確かに、これらの交代は、スポーツキャリアの初めに注意を払う人はほとんどいませんが、キャリアの終わりには非常にはっきりと感じます。社会では、人がスポーツ（特に大きなスポーツ）に参加すると、マイナスの性質、怠惰、規律の学習などを克服するという意味で、まず自分自身で勝つことを意味すると信じられています。これは、人格の調和のとれた発達の条件とも考えられています。そして、大きなスポーツでの勝利は、一般的に自己改善における人間の努力の頂点として表現されます。しかし、これらの概念の中にどのようなグローバル置換が隠されているかに気づく人はほとんどいません。ほとんどの人はスポーツを何を連想しますか？まず、どんな手段を使ってでも勝つことが重要な試合について。2つ目は、多くのスポーツファンが集まるスタジアムについてです。



後者はゲームに注意を集中し、それが彼女の中に大きな感情の高まりを引き起こします。そして、ゲームの結果に関係なく、完全に予想され、計画された感情の爆発であることを念頭に置いてください。賢い人は、これが実際に誰によって、何のために行われたのかを考えるべきです。結局のところ、人間の感情は強力なエネルギーです。否定的な感情を持つ人は動物の性質を養い、多くの人々は動物の心を養います。そしてビッグスポーツはどのようにして生まれたのでしょうか？スポーツ競技はどのようにして大衆見世物の形で現れたのでしょうか？

多くの場合、人々は現象の原因を独自に調査することはおろか、報道で提示された情報を分析することさえしません。マスコミはよく、最初のオリンピック競技会が古代ギリシャで組織されたという例を挙げます。しかし、それらはどのような理由で生じたのでしょうか？このような「平和的な」壯観な競技会が絶え間ない戦争の結果であることを知る人はほとんどいません。どちらかの側の戦士が運動の準備ができていればいるほど、主催者にとって戦争の結果はより良いものになります。そして、動物の性質によるこのインセンティブは、今日のスポーツの現実にも依然として反映されています。競技の準備、そしてチャンピオンになるというまさにその目標は、実際、アスリートの誇大妄想、利己心、競争心を絶え間なく刺激することに基づいています。結局のところ、彼の中で野心が大きくなればなるほど、彼はより真剣に準備することになります。そして、これはどこでも宣伝されているように、自分自身に対する勝利に関するものではありません。パーソナリティのすべての注意は、実際には、必要な時間内に自分の体を制御するスキルを開発することに集中しています。彼の蓄えと驚異的な能力の使用を含めて、その瞬間。



これは、動物の性質からの支配的な思考の枠組み内での、肉体に対する小さな「勝利」にすぎません。

そして、アスリートは何のために自分自身、自分の人生、健康を犠牲にするのでしょうか？それは彼自身の個人的な栄光のためであり、同時に国家の栄光のためであり、勝利により彼にさまざまな恩恵と特権が与えられるのです。しかし、そのような競技会が組織され、何百万人の人々が感情的に参加する背後には何があるのでしょうか？それらは人々の何を刺激するのでしょうか？それについて考える人はほとんどいません。そして、同じチャンピオンのキャリアはどのように終わるのでしょうか？彼は自分自身に打ち勝つことができるでしょうか？いいえ。彼の結果は、かつての栄光であり、自分の状態と内面の空虚さによって過小評価され続けた傷ついたプライドです。結局のところ、彼が健康上の問題を抱え始めたり、試合で勝てなくなったりすると、すぐに誰も彼を必要としなくなり、これはプロスポーツではよくあることです。

こうしたネガティブな感情の爆発を引き起こすのは、内なる空虚さです。なぜなら、自分自身を克服するということは、自分自身の中の動物的性質を克服することを意味し(ここに精神的調和の達成がある)、自分の肉体を制御するいくつかのスキルを完全に習得することではないからです。スポーツをするのは素晴らしいことですが、それは動物の性質から大きな問題が起こらないように、体を健康な状態に保つためです。しかし、それよりもはるかに重要なのは、人が自分の精神的な要素に集中することです。それがポイントです！

アナスタシア： おっしゃるとおりです。これは社会の問題ですが、問題は人間から始まります。



この瞑想に関してさえ、人が自分自身への真剣な毎日の取り組みに集中しているとき、彼自身の精神的な発達は、一般に、質的に異なる知覚の波に乗っていることを学び、そのとき彼のエッセンスは違った働きを始めます。彼らは単に、この支配的な認識の新しい動作モードに切り替えることが多くなり、実際には、いわゆる人の驚異的な能力を含む、他の資質や能力を示します。彼らが古代インドの論文に書いているように、「行動せよ、しかし行動の成果は放棄せよ!」。つまり、私利私欲からではなく、無関心に行動するということです。私の意見では、この瞑想には人間の性質、その複雑な構造を理解する上で非常に重要なポイントが含まれています。それは、感情の爆発、人間の思考の誕生の神秘的なプロセスを個人的な経験から理解することを可能にします。結局のところ、脳内の化学的および物理的プロセスはすでに「一次エゾオスモス」、つまり一次エネルギーインパルスの結果です。あなたが間脳の働きを、エネルギー振動(エッセンスから来る信号)を感情や感情という微妙な問題に変換する一種の受信機と連想的に例えたことを覚えています。

リグデン: このプロセスを理解する上で、テクニックに関連した関連付けの方が受け入れられるのであれば、そのような例を挙げても構いません。理解を容易にするために、古代の脳の構造の働きを比喩的にテレビに例えることができます(ちなみに、この言葉はギリシャ語の「テレ」(遠くにある)とラテン語の「バイザー」から作られています)、「観察者」、「ヴィン」-「私は見る」、「ビジョン」を意味します)。



より正確には、テレビの陰極線装置（キネスコープ）を使用して、目には見えない電気信号と光信号を、私たちが知覚する周波数範囲で目に見える画像に変換します。

間脳には、アナログ キネスコープ TV の主要ブロックと同様に、比喩的に言えば、独自の信号受信機があります。機能の点では、条件的にはテレビ上の別のデバイスであるチャンネルセレクターと似ています。チャンネルセレクターは、対応する必要な「チャンネル」の信号を増幅するだけでなく選択し、それを標準の中間周波数に変換します。また、連想的に言うと、「信号復号装置」、「音声・映像信号検出器」、「中間周波増幅器」、「音声パワー増幅器」、「陰極線管」などもあります。つまり、同じ物理学が、人間のミクロ世界とその複雑な構造の働きの中で発生する微妙なエネルギープロセスのレベルでのみ発生します。間脳は、エネルギーを粗物質に変換する装置の一種です。しかし、エッセンスは、送信アンテナの助けを借りてさまざまなチャンネルで番組を放送するテレビ塔にたとえることができます。たとえば、左、右、背後のエッセンスを考えてみましょう。人のプログラムに対する人の注意は、技術的に言えば、「電源ユニット」と「垂直および水平走査用のアンプ」、そして人に課せられた幻想の形での画像チャンネル用のアンプの両方です。彼と彼の気分のためのリモコンユニット。したがって、自分自身のプライドについてのスリラー、または自分自身の恐怖からのホラー映画、または「失われた過去についての嘆きの壁」のメロドラマが人の頭の中で生まれます。



つまり、これらのエッセンスは、あらゆる幻想をもっともらしい形式で非常に巧みに描き、「モグラ塚から象を膨らませる」ことで、精神的な発達にとって非常に貴重な注意力を使いながら、人にさまざまな否定的な感情を深く経験させます。しかし、人が前エッセンスの「テレビ」の認識に切り替えると、まったく異なる世界観を見て感じることができ、霊的な成長に役立ちます。たとえば、現実の生活、外側に反映される内側の精神的な世界についての「ドキュメンタリー」。そのような接触と共感のおかげで、人格は強力なプラスの電荷を受け取り、それによって精神的な方向にすべての注意を集中させることができます。確かに、そのような「映画」の後では、型にはまった人間の人生は完全な偽善者のように見えるでしょう。したがって、頭の中で何に注意を払うか、どの信号を受信して増幅するかは人によって異なります。比喩的に言えば、本人の手には「テレビ」のリモコンだけではなく、だけでなく、これらすべての「テレビ塔」とそのテレビ会社やラジオ会社を管理する能力も必要です。さらに、この瞑想法のおかげで、人は自分自身と他人の両方を理解できるようになります。特定のエッセンスの活性化に関連する瞬間を自分の中で明確に認識できれば、他の人からの隠れた影響を感じることは難しくありません。どうやって?たとえば、人と話したり、テレビやラジオで何らかの情報を聞いたりします。



話したり、外部ソースから情報を受け取ったりする瞬間、あなたはただ静かに、自分の 4 つのエッセンスに囲まれた観察者のように、中立の中間の位置に集中します。より正確には、状況から切り離されたオブザーバーの状態に入り、この情報によってどのエッセンスが活性化されるかを自分の中で追跡します。結局のところ、人々の間には言葉による情報交換だけでなく、お互いのエッセンスの相互作用も存在します。この情報があなたに与える影響のこのような追跡のおかげで、あなたはそれがどのような最初の感情的なブックマークに基づいて形成されたのか、そしてあなたから隠されていた本当の目標を達成するためにそれが報告されたのかを理解するでしょう。たとえば、あなたの対話者が嘘をつき、狡猾である場合、あなたの左の本質は間違いなく活性化されます。それがあなたに攻撃性を引き起こした場合、あなたの正しい本質の中心がほどけ始めます。そして、それがあなたの中でポジティブな感情、愛、優しさの波を呼び覚ますと、あなたの前エッセンスが活性化されます。だからあなたはできるあなたの意識を制御するために、目に見える世界と見えない世界から常に押し付けられている幻想ではなく、実際の状況を追跡してください。

アナスタシア: はい、多くの人がこの瞑想法を習得すれば、社会から嘘をついたりお互いをコントロールしたりする必要はなくなるでしょう。誰もがお互いについての真実を知ることになるので、これには何の意味もありません。

リグデン: はい。しかし、社会の大多数の人々がより良い方向に変化したいと望むなら、これは起こります。そのとき、人類は文明的な精神的発展の全く異なる、質的に新しい道をたどるチャンスを得るでしょう。



しかし、現代の人類は何を選択するのか、それが問題です。結局のところ、この瞑想テクニックは以前に人々に与えられたものです。さらに、それはさまざまな時期に社会生活に導入されました。これほど詳しい形とは言いませんが、当時の人々の考え方としては非常に理解できます。しかし、人は人であり、残念なことに、その多くは純粋な知識と単純な真実を現代化し、複雑にすることの大ファンでもあります。それにもかかわらず、この慣行の残響は、世界のさまざまな人々の秘密の知識の中に今でも見つけることができます。今になって初めて、それは儀式の中でばかげてカモフラージュされ、歌や踊り、タンバリンやドラムのショー全体が伴われます。そしてすべては、「学生」または「司祭」としての変性意識状態に「切り替え」、右側または左側からの「話す霊」に耳を傾けるためです。純粋な形では、この練習を行うとき、そのような困難は必要ありませんが、それはすべて人間的で表面的なものです。ここでは、最初の段階で意識の認識を再構成し、監視し制御する方法を学ぶだけです。彼らの州とともに。そして、ちょうど働く瞬間があります。一般に、人の基本的な知識と精神的な成長に関連するこのような基本的な精神的な実践は、原則として、古代から特定の記号やシンボルに固定されていたことに注意する必要があります。

アナスタシア：記号とシンボルは特別なトピックです。可能であれば、あなたの口から彼らについて詳しく聞き、この貴重な情報を読者に提供したいと思います。古代以来、人類の歴史はしばしば記号やシンボルに囲まれてきました。



しかし、さまざまな都市の図書館やインターネットリソースを通じて、それらに関する情報を広範に検索した結果、あらゆる歴史的時代に記号やシンボルは存在するが、それらに関する知識は失われているか、解読されていないという残念な結論に達しました。それらの意味はひどく歪められており、真実はほとんど残っていない。あなたが話したような兆候についての原始的で靈的な知識はありません。現在、一般の人が利用できるものは何でしょうか?せいぜい、シンボルの辞書、「フリーメイソン」のオカルトの教えの属性に関する解釈における本の疑わしい内容です。科学者はそのような解釈から距離を置き、そのような出版物のルーツがどこから生じているのかを理解しています。そして同時に、科学は、さまざまな大陸やさまざまな時代の古代考古学文化に固有のグラフィックシンボルやサインに関する非常に豊富な資料をすでに蓄積しています。特定の民族の精神文化において重要と考えられていた魔法の儀式的な兆候の多くは同一です。しかし、科学者たちはまだそれらを完全には解読していません。今ではその理由が分かりました。これについてあなたが私たちに話したことでさえ、世界の全体像と人間についての知識についてまったく新しい理解が得られました。考古学的な文化のグラフィックシンボルに関する著作、民族誌、民間伝承、神話、さまざまな民族の視点から見た宇宙論に関する記事を読んで、私は科学者にはこのつながりが欠けているという結論に達しました。人類の精神的遺産であるこのユニークな情報を結び付け、理解し、読み取るためには、記号を解読するためのまさに鍵が欠けています。

リグデン: はい、残念なことに、現代社会には古代のサインやシンボルが豊富に存在するため、それらに関する多くの知識が今日の人々によって実際に失われています。これは事実です。



しかし、これは驚くべきことではありません。問題は人々、そして社会そのものにあります。人間、その支配的な欲望から始まり、人間社会の優先順位に终わります。人類の歴史を見てください。絶え間ない戦争、宗教的、政治的権力をめぐる絶え間ない闘争、そして最悪の事態は、真の靈的知識がほとんどの人々から隠蔽され、それが真の人格の自由、魂の解放につながることです。なぜ根源的な知識は大多数から隠蔽されたのでしょうか？なぜ彼らは認識できないほど歪められ、物質的な思考にはまり込み、彼ら自身の心から解釈されたのでしょうか？なぜこの情報は新しい世代の意識から消去され、何千年もの間忘却の彼方に置かれていたのでしょうか？そうです、この原初の知識は、今日まで人々と神の間の「仲介者」を自称する同じ政治家や司祭に關係なく、人々に精神的に独立して成長する機会を与えたからです。この知識は人々を自由にし、政治的権力や聖職者の権力構造から独立させ、独立して団結することを可能にしました。人々。結局のところ、精神的に自由な人々を管理することは非常に困難であり、彼らに争い、恐怖、攻撃性、その他の動物の心の態度を押し付けようすることはさらに困難です。

アナスタシア： 私もあなたに完全に同意します。問題は実際には人々自身と彼らが構成する社会にあり、人々の間の關係における意見の相違や分断の蔓延にあります。細かいことを取り上げても、たとえば、古代の記号に関する科学的研究を考えてみると、これらの研究で扱われている問題を表面的に研究したとしても、今日の人々がその根底に到達しようとしている人為的な障害の壁がどれほどのものであるかに驚くでしょう。真実は直視しなければならない。



科学者は、たとえば同じ民族学、民族誌、考古学、古代史などの研究をどのような条件で行わなければならないのでしょうか?わずかな給料で、すべてはむき出しの熱意で。同時に、彼らはその仕事の中で、官僚的または財務的な性質の強固な障害、組織の欠如、およびさまざまな問題のより深く包括的な研究のために関連分野の専門家を誘致する際の一貫性のなさに直面しています。そして、たとえ沈黙の陰謀であっても、特定のトピックや発見に関する世界のいわゆる「科学的タブー」に対してもです。

私は地球規模の状況についてはすでに沈黙していて、そこでは、多くの場合、さまざまな情報やユニークな考古学的発見にアクセスするために障害物が人工的に作られており、実際には人々から隠されています。当然のことながら、この問題に関心のある組織の参加がなければ、これらすべては起こりません。このような情報は一般の科学界の注目を集めず、保管施設で埃をかぶるまま放置されるか、重要な遺物が最終的に個人コレクションに収蔵されるか、通常は特別なサービスによって没収され、跡形もなく消えてしまいます。おそらく誰かは、この情報が現代人の管理に有益な誰かの権力のイデオロギーと基盤を揺るがすことを非常に恐れています。したがって、あらゆる障害にもかかわらず、この科学分野で無私の努力を続け、古代人の「野蛮」という幻想を打ち破り、時には人類の優先順位を証言する重要な発見を人々に知らせている科学者たちに賞賛と栄誉を与えます。遠い時代の精神的な価値観と知識。しかし、これだけのことを考えると、次のような疑問が生じます そして、なぜ社会自体が沈黙しているのか、なぜなら社会はその未来のベクトルを理解し、正しく決定するために主にその精神的な過去に关心を持たなければならぬからである。



リグデン： はい、沈黙しています。なぜなら、ほとんどの人の意識が消費者向けの物質的な考え方の固定観念によって処理されすぎているため、この質問の提起自体が普通の人には理解できないからです。彼の思考がそのような態度やパターンによって盲目にされているとき、彼は、厳密に言えば、なぜこれらの科学的専門職が、たとえば、大学で研究に従事しているナノテクノロジストの専門職よりも社会と国家にとって優先されるべきなのか、全く理解できません。原子分子レベルでしょうか、それとも同じ金融アナリストでしょうか、それとも新しいタイプの兵器を扱う物理学者でしょうか？そして、全体的な問題は、多くの国で、古代やさまざまな民族の文化の研究に関連する、そのような「不名誉な」職業に就いている上記の科学者たちが、（現在の科学的問題の解決に加えて）最も重要な任務を優先しているということです。それは、精神的な共同体生活のあらゆる側面を再構築することです。権力者の誰がそんなことを望むでしょうか？結局のところ、大衆がそのようなことが確かに知られるようになれば、しかし、数千年前の普通の人々は、どのような世界観、神聖で靈的な知識を持っていたのか、どのように自分自身を向上させ、何に人生を捧げたのか、そのとき、現代の人類はどこに向かっているのか、そしてなぜこの知識は隠されてきたのかという疑問が生じます。何千年もの間大多数？

今日の人間と昔の人間の違いは何でしょうか？彼の存在の外的的な条件はいくらか変化しましたが、内面の問題、靈的性質と動物的性質の闘争は同じままであるという事実によってのみです。



さらに、社会生活の精神的な側面を再構築するこのような大規模な科学的研究には、さまざまな文化や世界観の中核となる神聖な意味、重要な象徴的なモチーフを解読することが含まれます。これは、地理的な遠隔地や異なる大陸の人々の別々の居住に關係なく、社会形成の異なる時代において、世界の人々の間で実質的に同じ記号やシンボルが果たす役割の重要性の科学的証拠を得ることが含まれることを意味します。

記号やシンボルは最初から人間社会にありました。ほとんどの人がその重要性や影響力を理解していないにもかかわらず、それらは現代世界にもまだ存在しています。あなた自身、瞑想の経験のおかげで、特定の記号やシンボルが目に見える世界と目に見えない世界の物理学にどのように影響を与えるかをすでによく知っています。記号とシンボルは人間社会の精神的な宝庫への鍵であり、高度な物理学と科学知識の新たな地平を管理する秘密を明らかにする複雑なプロセスのコードです。

アナスタシア: はい、これを知れば、各人が自己改善において一定のレベルに到達するためにどのような力を持っているかがわかります。しかし、それには大きな責任も伴います。

リグデン: 確かに。しかし、人々は依然として人間であり、記号やシンボルの力と重要性についての知識を持っていても、時間の経過とともにそれらを歪め、それに何かを追加し、理解を複雑にしました。その結果、千年紀の初めに一部の人々が知っていたことと、千年紀の終わりに一部の人々が知っていたことは、明らかに意味が異なり、内容も質的に異なりました。



しかし、この知識は人間社会において定期的に更新されました。「神聖な秘密」を墓場まで持って行き、消滅した文化もあれば、逆に、過去の世代の知識の名残をもとに形成され、繁栄した文化もあります。したがって、この知識が元の形で存在することは、地球のさまざまな地域に住むすべての人々にとって常に意味のあるものでした。なぜなら、この知識は先祖の知識への鍵をえただけでなく、スピリチュアルの分野における彼ら自身の知識を大幅に拡大したからです。自己啓発。

現代世界では、どの国も「独自の」伝統的なシンボルや記号のシステム全体を見つけることができます。しかし、それらに関する元の知識は失われています。意味論的な解釈によれば、今日ではシンボルや記号の名前自体も、もはや人間についての内奥の知識とは関連付けられていません。それらは基本的に科学におけるあらゆる量の概念を指定し、物質世界のさまざまな現れを特徴付ける日常的および日常的な条件付きの意味も持ちます。

アナスタシア：一般的に、今日でも兆候はあり、働き続けていますが、人々はそれについての知識を持っていません。

リグデン：まさにその通りです。これが人類が到達した結果です。知識が失われただけでなく、複合施設内の特定のシンボルや標識を示していた単語の意味的意味さえも失われました。簡単な例を挙げます。たとえば、ロシア語を話す人々が日常生活で使用している「シンボル」という言葉を考えてみましょう。ギリシャ語からの借用です。しかし、それはどのようにして古代ギリシャに生まれたのでしょうか？



古代ギリシャには、「しるし」、「旗」、「天のしるし」を意味する「シュマ」という言葉がありました。エーゲ海地域の古代文化(ギリシャの出現以前でも)では、特にこれらの人々と東部の人々(たとえば、アナトリア(現在はトルコの領土)の住民)との接触の後、「神聖な文字」、オカルト知識を発展させた古代エジプト人)、目に見えない世界の知識の多くは、特定の地域の住民が理解できる寓意を通じて説明されました。たとえば、

サインを使って(または大衆に影響を与える効果的なサインの特定の設定で)取り組んだ人々のグループによる共同瞑想のプロセスと結果は、単に彼らが理解した連想に基づいて、新しい入門者に説明されました。この看板で覆われたエリアは、漁師が海に網を投げ込む様子に喩えられています(結局のところ、漁師という職業は当時非常に人気がありました)。たとえば、部屋、寺院、広場など、特定の場所に看板が設置されると、その場所にいる人々に影響を与えると彼らは言われました。釣りをするときは海。一言で言えば、古代において彼らは、その時代の人が理解できるような寓話で活動していたのです。もちろん、今日、これらすべては現代の例を使って人々に説明できます。たとえば、特定の標識やシンボルの影響は、特定の周波数で動作し、特定の距離に電波を伝播するラジオ受信機や、街路の特定の部分を照らすランプの光と比較できます。そして、現代人もまた、他の次元で起こっているプロセスに関連する現象を理解するには程遠いので、これらも寓話になるでしょう。



したがって、秘密結社で一般的な、人々の日常生活（彼らが言うように、呼び出し音は聞こえたが、それがどこにあるのかは知りませんでした）の中で、「サンボロンする」という言葉が連想されたこのような比較のおかげでした。これは、魚を捕まえるときに道具を投げる数人の漁師の共同作業を意味するようになりました。まあ、一般的に、すべてはいつもどおりです。問題の精神的な側面について知らない人は、常に聞いた知識の意味を物質世界の物体や現象、物質的な理解と同一視します。しかし、同じ「要約する」という言葉が、知識の入門者によって使用され続けました。その結果、より古い言葉である「シュマ」（しるし、旗、天のしるし）とともに、「シンボル」という言葉は、「目に見えないものと見えるものとのつながり」、「目に見えない現実の検出」という意味で使用されるようになりました。目に見える記号を通して、その秘密の意味は特定のグループの人々だけが理解します。」そしてその後、この古代の言葉は「シンボル」に完全に置き換わりました。

秘密精神結社から得られる知識の人口の間での人気が高まっていることにアルコンがどのように反応しているかを知ることも重要です。もう一度、同じ「シンボル」という単語を使った例を示します。この言葉がまさにその本来の意味で人々の間で重要性を獲得し始めたとき、「フリーメーソン」がこの問題に介入しました。彼らはギリシャの領土内でさまざまなワークショップ、企業、社会、宗教、政党を組織し始め、これらの組織の公の記章として自分たちの看板やシンボルを置き始めました。「象徴」という言葉は、通常の人間関係の意味論的な意味を持って「汚い」ものになり始め、外交協定として、劇場へのチケットとして、そしてアテネの裁判官の指輪の名前としてなど、存在のさまざまな日常的側面で使用されました。、そしてクラブへの現金寄付の分け前の名前として。こうした「倒錯」の痕跡は今日でも見られます。そしてやがて、「シンボル」という言葉の本来の意味は忘れられ、日常生活から消え去っていきました。



しかし、興味深いことに、「シンボル」という言葉は、まさに「記号」という意味でロシア語に伝わったのです。そして、ロシア語の「サイン」という言葉は、何かについて知ること、情報を持っていることを意味する古スラブ語の「知る」に由来します（古ロシア語、ウクライナ語「貴族」、スロベニア語「ズナティ」、古チェコ語「ズナティ」、ポーランド語）-「ズナス」など）。つまり、「知っている」という言葉は、言語の違いに関係なく、スラブ人なら誰でも理解できるものでした。実際、ある意味では、それはギリシャ語の「シンボル」という言葉の本来の意味を正確に反映していました。さて、これは、記号やシンボルを意味する単語の意味が変化する多くの例のうちの 1 つにすぎません。しかし、すべての国には「記号」と「シンボル」の独自の定義がありましたが、現在すべての国がその元の意味を覚えているわけではありません。そしてもし人々がこれらの主な意味を知っていれば、古代、互いにかなりの距離を置いて海を隔てて住んでいたさまざまな民族の間で、それらの意味がどれほど同一であるかに驚くでしょう。

もちろん、人々が知識の基本的な基礎を持たずに、このシンボルと記号の問題についての知識を進歩させることは困難です。そのおかげで、状況全体は数千年にわたって世界的に見ることができます。しかし、私たちはそれを修正します。したがって、現在の世代の人々がそれを知っているかどうかに関係なく、人間社会には常に存在するいくつかの機能する兆候が存在します。他の記号や記号についての基本的な知識もあります。



古代以来、後者は、人、そのエネルギー構造、そして主なものである精神的な解放を含む目に見えない世界における能力に関する特定のコード化された知識の伝達者でした。

古代以来、基本的な記号やシンボルは、その用途に応じて特定の目的に従って適用されてきました。ある場合にはそれは知識の伝達であり、またある場合には、見る人に直接影響を与える要素として適用されてきました。彼ら。知識の伝達が目的の場合、「印章」の種類に応じて記号や記号が適用される。簡単な例で説明しましょう。人が写真を見ると、写真の右側が左手に対応し、写真の左側が右手に対応します。印鑑も原本を見て印刷物と比べてみると同じです。知識の伝達に関連する兆候、特に右と左の本質の指定に関しても同様です。

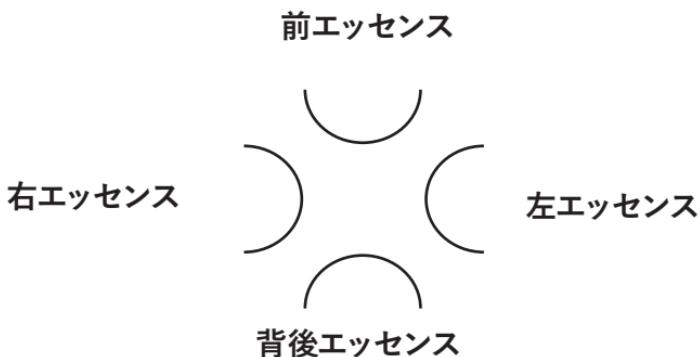


図16。ベースのイメージ例知識の伝達の象徴。

左右タイプ別「シール」。



しかし、それが、見る人に何らかの影響を与えることを意図した記号やシンボルである場合、それらは実際の側面に従って正確に配置されます。たとえば、人の正しい本質を活性化する必要がある場合、対応する記号またはシンボルが、その人を見ている人の右側の反対側に配置されます。これらの標識をどのように正確に読むか、左から右、右から左、下から上、またはその逆など、人々によってすでに発明されたニュアンスは他にもたくさんありました。しかし、これは、特定の情報に基づいていたとはいえ、すでにさまざまな古代民族の地元の伝統に関連した特異性です。しかし、私たちは今それについて話しているのではありません。

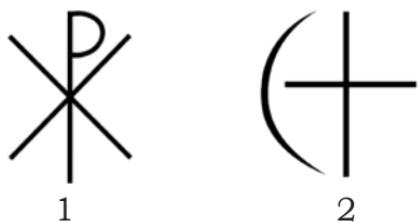


図17。シンボル画像の例。そして側面のエッセンスを活性化することを目的としたサイン:

- 1) 正しいエッセンスの活性化を示す象徴的なサイン（小さな円弧は、サインを見ている人の正しいエッセンスに対応します）。
- 2) 左の本質の活性化の兆候（大きな円弧は、その兆候を見ている人の左の本質に対応します）。

古来より人々に知られてきた、人間と魂の4つの本質についての基礎知識を考えてみましょう。当初、一般人の呼称は正十字の中心に円が入った形であった（簡易版は正十字のみ）。



十字の水平線は物質とのつながりを示し、垂直線は精神世界との関係を示し、より正確には精神世界からの要素が人の中に存在すること、精神的向上の可能性を示しました。実際、

なぜその後、さまざまな人々の間で、水平線が地球の要素、物質的(地球的)世界(内向きの動き)、時間(過去から未来への動きとして)、ベクトル(西-東)、天と地を分ける線。

そして垂直線 - 火、空気の要素と、物質的な領域から精神的な領域へ下から上への最初の方向。

4つの尖った正三角形の十字とその内側の円(4つの主要なエッセンスと魂)は、人間の構造の主要な要素を指しており、主要なアイデアを具体化しています。それは、人格が物質世界と精神世界のどちらかを選択するための条件を作成することです。

シンボルの図(「シール」の種類によって)は、中央に魂のシンボル(円)、その4つの側面に人間の主要なエッセンスが示されています。

前エッセンス



背後エッセンス

図18。人間のシンボル、正三角形円と交差します。

シンボル図では(「印刷」の種類ごとに)次のように示されます。中心には魂の象徴(円)があり、その四辺には人間の主要なエッセンスが配置されています。



円は、魂の古代の象徴、または靈的世界からの現れです(靈的
存在を含み、神の存在の象徴、神聖な「ラーの音」の指定)。偉
大な虚空の一部を象徴的に制限し、包含する円。魂が眞の反
物質、つまり精神世界から発せられる力であると考えると、物
質的思考の理解では、魂は無になります。時には、彼女は精神
世界からの集中したエネルギーの象徴として、円の中心に点と
して描かれました(場合によっては、これは精神的な発達、覚醒
の初期段階でした)。そして、円そのものは、靈的な力、完全性、
恒常性、永遠性という意味での魂の性質、始まりも終わりもない
靈的世界、つまり「存在」の指定を象徴していました。

もう一つ注目すべき事実がある。人の構築において、魂は情
報の殻(サブパーソナリティ)に囲まれています。しかし、これ
らすべては依然として、人の生命エネルギーであるプラーナ
からなる「殻」に囲まれています。魂のエネルギーと物質世界
の間の一層であるプラーナです。世界の人々の神話では、特に人
についてのそのような神聖な(スピリチュアルな)知
識が示されるところでは、プラーナのエネルギーと太陽の
燃えるような特徴との間に連想的な類似点が描かれることが
よくありました。魂を太陽円盤と呼ぶのはどこから来たのか。

円はまた、2つの領域(物質的および精神的)の境界を意味し
ました。これが人についての知識に関するものであれば、これ
はいわば中間状態にある魂についての情報を示しています。

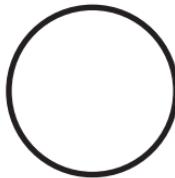


図19。魂、精神世界の象徴は円です。

場合によっては、円と一緒に、翼、蓮の花びら、光線、曲がりくねった蛇、炎など、それにダイナミクスを与える要素が描かれることもありました。同様のイメージは、トリピリア、古代インド、古代エジプト、古代メキシコ、シュメール、古代ロシアの文化の神聖なシンボルにも見られます。これは人の精神的な成長を意味し、あるいは精神世界からの存在によってこの世界にもたらされる精神的な知識(教え)を指しました。それはまた、魂の力に固有の内側から外側への動きの方向を示し、人格に選択を迫り、物質の捕らわれから解放されるための精神的な道を探すよう促しました。多くの場合、宇宙論の神話では、古代人は世界の全体的な計画を円で結論付けました。この場合は、精神世界による物質世界の創造(創造)を指します。



1



2



3

図 20。精神的な成長の象徴、精神的な知識 - ダイナミクスを伝える要素を持つ円:

- 1)アージュナ チャクラ - 古代インドの精神的実践における、額の中央にあるチャクラン（「第三の目」）のシンボル) 2つの蓮の花びら（青）を持つ円の形で、それに付随するアラートの力の指定（頂点が下にある三角形とアラトラの記号）。
- 2)翼のある太陽円盤（古代エジプト） - 「天」からもたらされた精神的な知識の象徴（ゾロアスター教のアフラ・マズダー、アッシリアのアシュール、バビロニアのシャマシュなど、さまざまな民族の太陽神の象徴）古代エジプトの神ラーの呼称）。
- 3)神聖な太陽のシンボルのイメージの例。これは古代（旧石器時代）の知識の伝達に典型的でした。模様は一定数の「粒」からできています。それは一般的な構造を象徴しています。円で囲まれた 7 次元の次元であり、円の後ろには 72 の「シード」があり、宇宙の次元の総数を示しています。円の中で - 7 つの「グレイン」の「梁」を備えた 7 つのピラミッド型の形状。その頂点は 5 つの「グレイン」の構造（中央とその周りに十字に配置された 4 つの「グレイン」）です。

絵の中央には「七弁の花」（七芒星）があり、その中央は 33 個の「粒」で縁取られ、花びらの各辺は 6 個の「粒」で構成されています。



アナスタシア： はい、円の神聖な意味に関する知識は、岩絵や住居の壁画のシンボルやサインだけでなく、神聖な彫刻、儀式用の衣服、陶器などの考古学的な品物にも記録されています。それらは古代の寺院の建物、簡素な住居(テント、パオ)の建築にも保存されています。特定の信念の伝統的な儀式行為もこの知識を反映しています。例えば、特定の領土や建物の周りを円を描いて歩く儀式、円形ダンス(目に見えない中心や火、神聖な場所の周りで行う儀式的な円形ダンス、旋回するシャーマンやダルヴィッシュ)、聖者が円の中で座ってコミュニケーションを図るなどの行為が挙げられます。円は精神的な原理の象徴として空っぽでした(何も満たされていませんでした)。

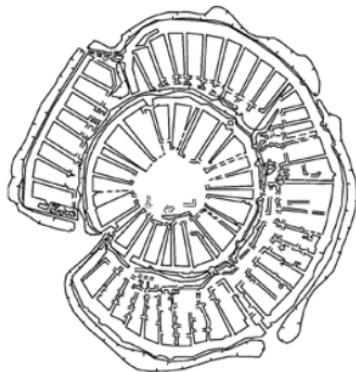
リグデン： ところで、古代の人々はこのようにして都市を建設しました。つまり、都市の建物を正確に円形に配置し、都市の中心を丸い正方形の形で空っぽ(建てられない)にしました。このような開発計画には、まず第一に、深い神聖な意味がありました。

アナスタシア： このような古代の建物の考古学的例は私たちの時代にも残っていますが、これは現代の都市には明らかに十分ではありません。この原則によれば、例えばドナウ川とドニエップル川の合流点にあるトリポリ文明の集落は数千年前に建設されました。同様に、古代ウラル・アルカイムのタイプに従って建設された都市が建設されました。たとえば、考古学者によるいわゆる「シンタシュタ文化」は、ロシア領土(チェリヤビンスク地方、オレンブルク地方、バシコルトスタン、カザフスタン北部)で考古学者によって発見された

「都市の国」です。



1



2

図21。円状に配置された古代都市の計画:

- 1) トリピリアン集落ペトレン (モルドバ) の航空写真のコピー。
- 2) アルカイム市 (ロシア・南ウラル) の計画概要。

リグデン: まさにその通りです。しかし、人の古代の指定、つまり中心に円がある正三角形の十字に戻りましょう。十字の線は、人の 4 つのエッセンスの慣習的な指定です。側面エッセンス (中心からの水平線)、背後エッセンス エッセンス (中心から下に向かう垂直線)、および前 エッセンス (中心から上に向かう垂直線) です。すでに述べたように、これらのエッセンスの特性は、宇宙の特定の力、たとえば 4 つの要素、4 つの季節風、および 4 つの基本点との連想比較によって与えされました。さらに、原則として、3 つの力は密接に相互に関連しているか、背面と側面のエッセンスのマイナスの特性を持っていました。そして4番目は支配的で、その特性において特別であり、前エッセンスのポジティブな特性を持っていました。



これらすべての力は、精神と物質が組み合わされた構造の存在としての人間の神聖な象徴である十字架によっても指定されました。十字架の垂直線は、冬至、靈的世界への動き、その中の靈的性質の優位性に対する人間の願望と関連していました。したがって、世界の古代の人々の宗教的伝統では、太陽の円盤は、精神的な原理、つまり精神的な世界からもたらされる知識の優位性の象徴として、聖なる神々の頭の上に描かれることがよくありました。側面のエッセンスを指す水平線は、太陽の動き(太陽が天の赤道を横切るとき、つまり春分点と秋分点)を関連付けて、寓意的に春分軸と呼ばれました。

アナスタシア: はい、これは古代文化の記念碑を通して今でも追跡できます。たとえば、古代ペルシャの都市ペルセポリス(ペルシャ語で「ジャムシードの王座」を意味する古い名前もあります)には、非常に興味深い浅浮き彫りが保存されています。これは、ペルシア人(イラン人)とテュルク人が太陽暦に従って祝うゾロアスター教の新年休日(ナバルズ)のシンボルを描いています。したがって、最も興味深いのは、このシンボルが「彼らの間で永遠に戦う」雄牛(右の本質)とライオン(左の本質)であるということです。古代には、一年の特定の日に彼らの力が平等になると信じられていました。

リグデン: その通りです。だからこそ、後に彼らはこれらのシンボルを自然界の太陽分の日と結びつけるようになりました。これらすべてには異なる意味がありますが、人の4つのエッセンスに関する知識の秘密の意味も、十字架に相当する概念に投資されました。



アナスタシア: ほとんどの現代人の見解では、十字架はもっぱら唯一の世界宗教、キリスト教と関連付けられています。次に、この宗教の奉仕者たちは、人々がそれ以上のことに対する興味を持たないようにあらゆることをします。しかし、十字架は非常に古いシンボルであり、この宗教が出現するずっと前から存在していました。十字架とその変形のイメージは旧石器時代から知られていました。たとえば、十字架のシンボルは原始社会の時代に遡る記念碑で見つかりました。たとえば、ショーヴェ洞窟（フランス）にある2万年前の画像を見てみましょう。洞窟の微気候のおかげで、これらの画像は完全に保存されています。

リグデン: そして、これらの発見は比較的最近に行われたことに注意する必要があります。そして、今日でも人類に知られていないそのような場所がどれほど多いことでしょう。しかし、そのような工芸品は、人々が単に「古代の素晴らしい芸術」を賞賛するのではなく、シンボルの根源的な意味を理解し、これらの名称を人間の心に植え付けられた概念と結び付けて価値がある場合にのみ価値があります。現代の宗教。

十字架のさまざまなバリエーションは、その主な解釈に対する追加情報を象徴的に示しました。たとえば、十字の端に3つのボールがあった場合、これは人が住んでいる世界の三次元性、または十字の追加の記号として示された現象の数値的特徴を示します。後ろエッセンスに対応する十字架の下部が長くなっている場合（いわゆるロングクロスまたはラテンクロス）、これは注意の強調、後ろエッセンス（絶え間ない苦しみ、過去の思い出）への集中を意味します。魂に負担をかけ、罪悪感、憤りの感情を刺激します）。



そして、すでに理解されているように、人が動物の性質の状態にある場合、背後エッセンス エッセンスのそのような活性化は、実際、憂鬱、恐怖、自責の継続的な刺激になります。

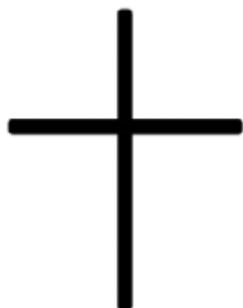


図22。ロングクロスまたはラテンクロス。

アナスタシア: しかし、キリスト教では、信者はキリストの苦しみの象徴として、まさにそのような形の十字架を身に着けることを強制されています。それでは、人々が神への愛の代わりに、自分の苦しみ、過去、死について間接的に考え続けると何が起こるでしょうか? 言い換えれば、人々のこのシンボルは、他人の過去ではなく、自分自身の過去に関連付けられた否定的なものを無意識のうちに活性化しますか? つまり、これは実際にはバックエッセンスの活性化を刺激することに他なりません。

リグデン: これは私たちがすでに話した要素の 1 つにすぎません。つまり、寺院の標識による操作のことです。そしてこの場合、強調されるのはバックエッセンスだけではありません。原則として、そのような十字架の裏側には、ユダヤ人の王、ナザレのイエスを意味するラテン文字INRI(esus Nasareus Rex Iudeorum)が刻まれています。



アナスタシア: それは明らかです、これが、特定の人々に対する彼らに対する支配がどのようにして信者の潜在意識に叩き込まれるのか、そして、なぜ魂の象徴、神への愛がないのですか？

リグデン (笑顔で): そうですね、知識の前では、人は権力を握っている聖職者にとって「不快な」疑問を抱き始めます。彼らのタルムードによれば、目標と目的がまったく異なるのに、どうやってそのようなシンボルを掲げることができるのでしょうか？大衆が救いについて語るのは理論上だけですが、実際には、何が起こっているかをあなた自身が見ています。

アナスタシア: はい、残念ながら、実際には、理論とは異なり、奴隸制を廃止した人は誰もおらず、単に改善され、民主的自由としてうまくカモフラージュされ、自由と平等の幻想が生み出されただけでした。

リグデン: それ以上に、私はかつて、キリスト教の象徴としてのラテン十字が、イエスの教えが宗教となり、宗教が国教の地位を獲得した西暦 4 世紀に導入されたと述べました。ちなみに、系図におけるラテン十字は通常、人の死、死亡日を示します。したがって、キリスト教では、信者が着用することを目的としたこの 4 つの尖った長い十字架に加えて、2 つまたは 3 つの追加の横棒を備えた 6 つの尖った、8 つの尖ったいわゆる「家父長の十字架」もあります。ルールでは、前 エッセンスを取り消し線で消します。大司教や枢機卿が着用しています。一般的な宗教概念では、この上部の横棒の存在は、前述の「称号」の板(板)として解釈されます。ラテン語の略語でイエス(INRI)。



そして、もしその標識にさらに低い斜めの横木があった場合、信者は、宗教的解釈の重要な文脈の中で、これはおそらくキリストの足のための横木であると単純に説明されたことになります。



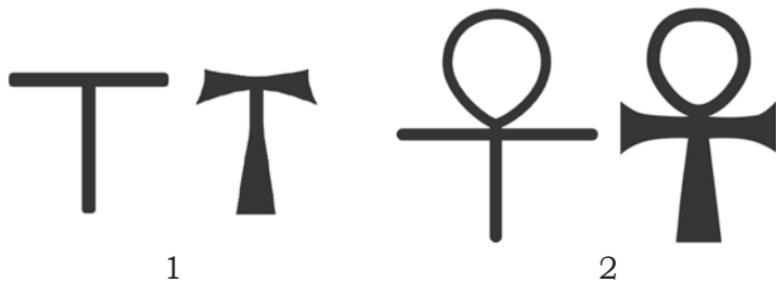
図23。家父長制の十字架:

- 1) 家父長制の十字架 - 2つの横棒を持つ6つの尖った十字架。
- 2) 正統派の十字架 - 上部の横棒と下部の斜めの横棒を備えた8つの尖ったキリスト教の十字架(人間の過去の放棄)。
- 3) 教皇の十字架 - 3本の水平バー - 三次元世界における物質的な力の象徴。すべての場合において、上部のクロスバーは前 エッセンスを横切り、正十字を形成します。つまり、長い水平線の上には、人間(人間の力)の象徴である正十字があります。

それでは、キリスト教の誕生のずっと前から使われていた、大衆から隠された十字架の象徴性の解釈を見てみましょう。たとえば、古代エジプトでは、そのような十字架の呼称は人気があり、現在ではタウ十字やアンク十字として知られています。神聖な知識におけるタウクロスは、現代の言葉で言えば、物質世界における人間の生活、背面と側面のエッセンスによって開始される感情や思考の発現を意味しました。



しかし、アンク十字はすでに 2 つの異なる要素、つまり支配的な円とそこから吊り下げられたタウ十字を組み合わせています。アンクの十字架は、スピリチュアルな原則が彼の中に優勢で、前・エッセンスが他の3つよりも優勢で、物質よりもスピリチュアルな、完璧な人を擬人化しました。なぜアンク十字架は精神的な象徴として、不死、永遠の命の象徴として、古代エジプトの最高位の神々の手に渡されたのでしょうか。アンククロスは、「生命の鍵」、「エネルギーの鍵」、「再生の鍵」、精神的な変革としても知られています。そのような意味は、自己開示が行われるとき、つまり完全に異なる精神的存在への人の質的变化が起こるときの、精神的実践の特定の段階の象徴と関連付けられていました。さらに、この十字架とその象徴に関する知識は、古代エジプト(アフリカ)だけでなく、古代ヨーロッパ、アジア、アメリカでも入手できました。



1

2

図24。タウクロスとアンククロス:

- 1) タウクロスの画像の例;
- 2) 十字架の画像の例

したがって、正十字がタウ十字に配置された場合、それは人間(動物的性質)の優位性を伴う、三次元世界におけるエッセンスに対する人間の力を意味しました。通常、古代では、このようなシンボルは、占い、占い、癒しなどの魔法に使用されていました。



正十字が円で囲まれ、タウ十字の上に置かれた場合、それは人生が物質によって支配された（動物的な性質が支配された）人の死を意味し、言い換えれば、このシンボルは「のために」去ることを意味しました。生まれ変わり”。でも、別の意味もあったのですね。

アナスタシア：つまり、家父長制の十字架は、実際には、魔法を通じて物質世界を支配する権力の象徴であるタウ十字の上に人間の正十字を重ねたものなのですね。これも前エッセンスからのクロスアウトであり、物質のためのスピリチュアルな拒否感が出てきます。

リグデン：まさにその通りです。十字架の下部にある横棒は、人間としての過去の拒否と奉仕への献身を意味します。「誰に仕えるのか？」という疑問だけが残ります。それに対する答えは、このシンボルのドミナントサインの意味に含まれています。そして、上に向かう階段として 3 つの横棒が指定された長い十字架については、現在「教皇十字架」と呼ばれていますが、古代からこのしるしは、それが三次元の世界に関するものであれば、三次元の世界に対する権力を求める者を示していました。個人の象徴。しかし、信者にはもちろん、そのような「デリケートな」詳細は与えられていない。これは部分的には階層的エリートによる隠蔽によるものであり、部分的にはこの宗教の伝統的な解釈に固執する一般牧師によるこの情報の無知によるものである。そして後者は、この宗教の一般的な概念を形成する際に、実際、この古代のシンボルを大衆に説明するための突飛な解釈です。



おそらく、よりよく理解するために、簡単な例を示します。胸の十字架を身に着けている信者に、自分ことを思い出したり、自分の体に鏡に映った自分の姿を見たり、自分に触れたときに何を感じるかを尋ねると、そのような場合の標準的な答えを聞くことができます。ある人は、この瞬間、十字架につけられたイエス・キリストの苦しみを思い出し、罪悪感と自分自身の罪深さを経験していると言うでしょう。この答えは、この宗教のほとんどすべての信者にとって典型的です。現時点では、彼らはキリストの教え、キリストの説教や指示を覚えておらず、魂の救いや神への愛について考えておらず、罪悪感を感じ、苦しみ、恐怖を経験していることに注目してください。なぜ?なぜなら、それらのエネルギー構造において、右エッセンスエッセンスと背後エッセンスエッセンスが活性化されるからです。これは、記号とシンボルがどのように機能するか(潜在意識に影響を与えるか)、そして司祭が大衆管理システムでそれらをどのように使用するかを示す実例です。彼らが原始的な知識を人々から隠しているのは驚くべきことではありません。そうでなければ、彼らのことを知っている人々は、宗教エリートに対して「不快な」質問をし始めるでしょう。たとえば、なぜ彼ら(信者)は罪悪感を感じさせ、無意識に憂鬱にさせ、苦しみや過去の否定的な記憶を刺激するようなシンボルを身に着けているのに、宗教家は物質世界に対する権力のシンボルを身に着けているのでしょうか?結局のところ、定義上、彼らは両方とも、彼らの信仰に従って、神の愛、魂の救い、霊的世界のために努力する必要があります。

アナ斯塔シア: はい、どのようなサインやシンボルが四方八方から自分を取り囲んでいるのかを理解し始めると、人々が自分自身の精神的なはけ口を見つけようとする社会においても、なぜ物質的な心が支配的なのかがわかります。



リグデン: これはもう何度も言っていますし、これからも繰り返します。状況を変えるのは国民自身の手の中にあり、すべては各人の支配的な選択にかかっています。しかし、4つのエッセンスの兆候の話題に戻りましょう。正十字が単なる人物の象徴である場合、斜めの十字(回転した十字架)とそのバリエーション(多くの場合、中心に円がある)は、すでに知識の道に沿って移動し、人に関する神聖な情報を知っている人格を示しています。そして瞑想的な実践を4つのエッセンスにまとめました。私が強調したいのは、知識を担当する人、そしてそれをどのように使うか(心の中で支配的なものによって)、これはその人の個人的な選択です。

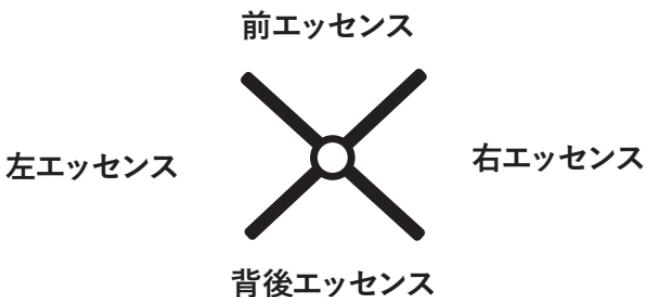


図25。中心に円がある正三角形の斜めの十字は、人と魂の4つの本質に関する知識の象徴です。

斜めの十字は、認識における動きの象徴であり、エッセンスの影響が及ぶ領域(ゾーン)への空間の条件付き分割です。円は魂の指定です。シンボルスキームの解釈は、「プリント」タイプに従って与えられます。

中心に円がある正三角形の斜めの十字は、人と魂の4つの本質に関する知識の象徴です。斜めの十字は、認識における動きの象徴であり、エッセンスの影響が及ぶ領域(ゾーン)への空間の条件付き分割です。円は魂の指定です。

しかし、ほとんどの場合、神聖な文書では、斜めの十字(またはその変形)の形のシンボルは、人のエネルギー構造、そのエッセンス、および次元との関係についての知識を示していました。



測定値は、切頭ピラミッドまたは階段の段数、パターンの詳細（蓮のつぼみ、その花びら、山の輪郭、ジグザグの線）、円の中の円、破線、粒、点として条件付きで表されました。数字で表すと、原則として、3、4、5、6、7 に等しくなります。シンボルの 3 つの同一要素の数は、通常、3 次元の次元を示します。4 - 三次元の次元と 4 番目の時間、そして 4 つのエッセンスの指定としても機能する可能性があります。5 は 5 次元の次元ですが、女性原理の象徴の 1 つとしての五芒星のイメージ、つまり 5 次元におけるアラートの力の発現の兆候は、主にこの数字に関連付けられていました。6 は 6 次元を意味し、物質が支配的な人にとって可能な最大の次元であり、意識が変性した状態で物質世界に影響を与えることができます。しかし、絵の 7 つの同一の要素の存在は、完璧な人、7 次元までの世界の構造、または「楽園」、「涅槃」、「解放」の概念を示す 7 次元を示しました。魂。時には、7 次元の象徴的な指定の隣に、宇宙に関する知識を示す 8、9、12、13、および 33 または 72 に等しい量の条件付きマークが描かれることがありました。このような神聖な情報は、儀式の対象物、衣服、神聖な建造物のパターンに記録されることがよくありました。

斜め十字のバリエーションは非常に多様で、中心に円をもつ 4 つの三角形がつながった斜め十字、三角形の空間の円中心、クローバー十字（中心に向かって細く、端に向かって広がる）、蛇が絡み合ったものなどがありました。十字架の形など。

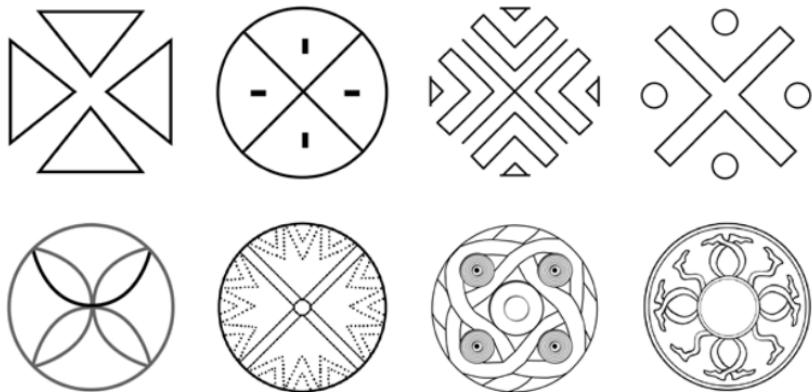
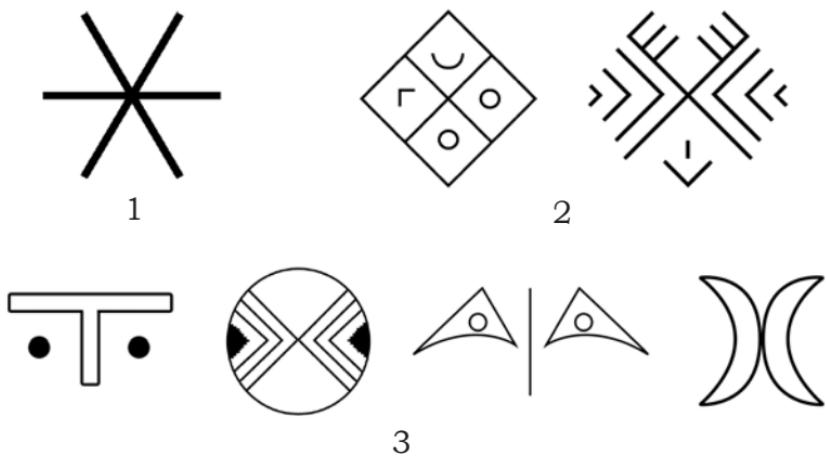
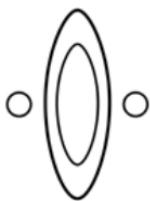


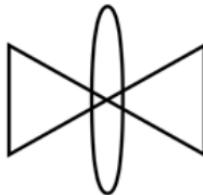
図26。4つのエッセンスのスペースがマークされた斜めの十字のバリエーション。

エッセンスの 1 つの活性化、優位性、ブロック、またはこれらのエッセンスを使用した特定の作業を示すか強調する必要がある場合、これは斜十字の対応するフィールドに追加の記号で示されます。





4



5

図27。4つのエッセンスを使用した作品のアクセントを象徴的に示します。

- 1) 6次元のシンボルの意味で使用されます。靈的な知識や実践の兆候。隣接する追加の指定に応じて、人の横エッセンスの作業をブロックまたはアクティブ化します。
- 2) 特定のエッセンスを用いた瞑想における働きの兆候による従来の指定の例。
- 3) それぞれのシンボルは、人の側面のエッセンスのアクセントまたは優位性を示します。
- 4) シンボルの形は、外側から内側への圧力によって現れる側面のエッセンスの活性化を反映しており、重く、否定的で、締めつけられるような感情の形で人の状態に反映されます(シンボルは実際の変形を示しています)このプロセス中に発生するパーソナルスペース)。
- 5) シンボルは前のシンボルと同じ意味を持ちますが、図式表現が異なります。

アナスタシア: おそらく、私たちが特定の人々の神聖な知識を示す神聖または魔法のシンボルについて特に話していることを強調する価値があるでしょう、一般に、4つのエッセンスの主なシンボルは、接触する三角形と半球であると言えます。しかし実際には交差しません。

リグデン: 確かに。三角形だけではなく、半球だけでもありません。これらは、原則として正三角形であり、その3つの辺は、観察者(人格)が精神的な発達の道を開始する次元の三次元性を示しています。



水平に横たわり、頂点で互いに接している 2 つの三角形は、右と左の本質を象徴しています。

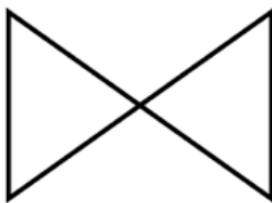


図28。人間の右と左の本質の象徴。

これは一種の無限の兆候であり、物質の世界から同じ設定への絶え間ない回帰、いわゆる「変化可能な安定性」です。これは、右または左のエッセンスの安定した優位性です（人の注意を「捕まえる」、またはむしろ「狩り」の1つの領域から別の領域への等しい力の流れ）、もちろん考慮すると、この 2 つの水平三角形は、自分の思考をコントロールできない人の人生の文脈の中にはあります。しかし、これは、人格が動物の性質から思考や感情を選択するときの側面のエッセンスの習慣的な働きに典型的なものです。人が精神的な発達において高みに達すると、側面のエッセンスが通常の働き方を変えます。彼らはアシスタントとなり、他の次元とのつながりによって、この世界の目に見えない多様性（条件付きの「無限」）を認識するのに役立つ力となります。ただし、下向きの三角形と上向きの三角形は、より詳細に考慮する必要がある特殊なケースです。



垂直に配置され、上部で互いに接触する 2 つの三角形は、前とバックのエッセンスを象徴しています。



図29。人の表の本質のシンボルは頂点が下になった三角形であり、人の裏の本質のシンボルは頂点が上になった三角形です。

人間の 4 つのエッセンスに関する原始的な知識の文脈では、頂点が上を向いた三角形は、背後エッセンスエッセンス、つまり過去の目に見える、明示された物質世界の象徴でした。後の人々がこの形の三角形を男性原理と正確に結びつけ始めたのは偶然ではありません。そしてこれは、天にそびえる山や宇宙(神の象徴)の構築の三原則との偉大さや類似性をまったく意味するものではありません。山は別個のイメージとシンボルであり、主に別の次元の概念に関連付けられています。そして、上を向いた三角形の形をした神のシンボルは、宇宙の構築の3つの原則、つまり神(アイデア)、ロータス(計画)、アラット(アイデアと計画の具現化)を意味していました。



人間にに関する原始的な知識によれば、頂点が上にある正三角形は 2 つの点を表します。第一に、人間の出発状態です。独立した精神的発達が始まる前の、三次元世界における観察者としての状態です。神の「似姿と似姿」で創造された物体として(魂は最初は人の中に含まれており、彼の精神的発達のための3つの条件が定められていました:精神的なアイデア、計画、アイデアの具現化)。第二に、私たちが人の精神的発達のプロセスそのものについて直接話している場合(その強調は前エッセンス、つまりトップダウンのある上の三角形に移されています)、または逆に、私たちが話しているのは、動物的な性質が優勢な物質の悪名高い人では、下の三角形の意味はまったく異なりました。この場合、頂点を上にした三角形は後ろエッセンスだけでなく、物質世界の攻撃性(場合によっては火の要素と関連付けられたのはそのためです)、物質の膨張から収縮への動きも意味します。(外側から内側へ)動物の意志に集中 心と、物質のピラミッド階層に対するその力。言い換えれば、頂点を上にした三角形は、「地上」、物質的、時間的なものに基づいて力を追求するものを意味します。

原初の知識の下向きの頂点を持つ正三角形は、人が精神的な成長と発達を行うための助けを借りて、前エッセンスだけを意味するわけではありません。古代以来、このシンボルはアラートの創造力、つまり受肉の最初の時点からの精神的なものの動き、絶え間ない創造と拡大への創造主の計画の現れ、この計画に含まれる完璧な形を意味します。古代において、上から下の三角形が、特定の人々の信仰において全世界の祖先としての偉大な母の創造的機能を体現する最高の女神たちと女性の象徴と関連付けられていたのは偶然ではありません。、水生環境とのつながり(精神世界とのつながりでした)。



人についての神聖な原初の知識によれば、人格が精神的な性質を選択すると、アラートの創造的な力が精神的な目覚め、意識の拡大、精神的な愛の現れという形でその中に現れます。だからこそ、人は靈性修行を行っている間、全知全能、そして全世界に対するすべてを包み込む愛の感情を経験するのです。これはまさに彼の前エッセンスの働きであり、人格と魂のつながりを回復し、明らかにするアラットの力の現れです。この知識の残響は、世界と人間に關する神聖な論文、神話の陰謀、世界の多くの民族のイメージや儀式の中に痕跡を残すことができます。

アナスタシア： ところで、同じトリピリア文明では、例えば、垂直に配置された 2 つの三角形が上部で接触するこのシンボルは、精神的な修行中のエネルギーの移動方向の指定も含めて、儀式用の皿によく描かれていました。



1



2



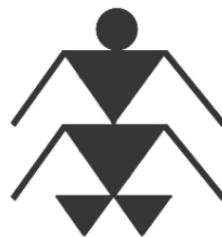
3



4



5



6

図 30。人に関する、その人の精神的発達の状況に関する知識の古代の名称。

トリプロス文明 (紀元前 VI-III 千年紀) の儀式用陶器の図:

- 1) 人間の構造に関する一般的な知識 (下の三角形の 3 次元、上の三角形の 3 次元、円記号)。
- 2) 一般人の指定。
- 3) スピリチュアルな道を歩み始めた善良な人の指定 (四角い頭、上げられた手、そして上の三角形では前エッセンスが強調されています)。
- 4) 腕を上げて動いている置物、右と左のエッセンスを扱うときの精神的実践の神聖な指定の 1 つ。
- 5) 精神的実践の指定、より高い精神的状態の達成、および 7 次元とのつながり (頭の上に 7 つの囲まれた円で囲まれた円があり、上部の円が上から下に三角形を形成します。また、エネルギーは手の方向によって示されます)。
- 6) スピリチュアルな道に沿って歩いている人の指定: 正面の本質が側面の本質よりも優勢であることが示されています。アラートの力をエッセンスにして、人を別のより高い世界に連れて行きます (人は2倍になり、3番目よりも高い次元で現れます)。

リグデン: はい、これらのシンボルはどこにでもあります。ただ、ほとんどの人がそれらに気づかず、興味を持たず、原始的な知識が欠如しているために理解できないだけです。



たとえば、古代インドでは、すでに述べた女神シャクティ(アラートの力の発現を連想させるイメージ)のシンボルとして、上が下になった三角形が使用されていました。そして、シヴァ神(インド神話の三神の一人で、破壊力を擬人化したもの)は、上を向いた三角形の形をしています。または別の例。ギリシャ人が古代エジプトの大河ナイル川の三角形の河口のほとりを訪れたとき、彼らはそれを「デルタ」と呼び始めました。古代エジプト人にとって、この口は海(生命を支える川そのもののようなもの)へのアクセスを提供し、下向きの三角形を持つ神聖な蓮に匹敵し、女性性を象徴していました。

さらに、神聖な古代エジプトの解釈では、海(水生環境)につながる複数の水路を持つデルタ地帯の根元は、別の精神的な世界につながる精神的な道と関連付けられていました。伝説の中で、アラットの機能を受けられた多くの古代エジプトの女神は、水生環境の女主人であった、あるいは水生環境や蓮と結びついていた。したがって、ギリシャ人の間では、単語自体がギリシャ語のアルファベットの4番目の文字から形成され、その形は上部が三角形であるにもかかわらず、ギリシャ人の間では、デルタは女性性、つまり「人生の扉」の象徴となりました。上。一般に、少なくともさまざまな文化の既知の歴史をより注意深く調べる価値があり、多くの興味深い情報を見つけることができます。私は現代人が覚えていない、長い間忘れ去られていた文化について話しているのではありませんが、もちろん、この人類がもし持っていれば、将来の考古学的発見は、その中に独特の遺物や精神的な知識の存在によって世界に衝撃を与えるでしょう。この未来。



そして、古代から神秘主義、オカルト、宗教運動の間で広く普及してきた、上を下にした三角形と上を上にした三角形を互いに重ねるという象徴性のバリエーションについて、もう少し説明します。原初の知識によれば、このシンボルのメイン(上部)は白で描かれた下向きの三角形(神聖な女性原理、靈的世界の力)であり、その下にある(それによって外を見る)エッジ)黒い尖った三角形(男性原理、物質の力)、それは精神世界の優位性、6次元の物質世界に対するアラートの創造力を意味します。

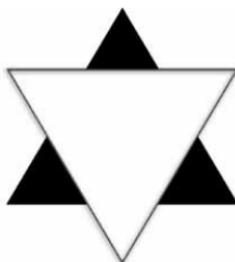


図31。物質に対する精神世界の優位性の古代の象徴。

そして、頂点を上にした三角形が頂点を下にした三角形と重なる場合、これは動物の心の支配、つまり動物の性質の支配による6次元からの物質への精神的で魔法の影響に対する物質世界の支配を意味します。精神的な解放のためではなく、物質世界で権力を獲得するために人がアラートの力を使用すること。



いわば真逆の意味を持つそのような標識は、原則として、動物の心の意志と目標に奉仕し、三次元世界に対する秘密の力を求めて努力する人々によって置かれました。サインが支配的な三角形を示さずに単純に描かれている場合、それは「逆サイン」とも呼ばれます。なぜなら、そのサインでは、前エッセンスと後ろエッセンスの三角形が逆転し、横エッセンスが支配的であるためです(三角形として指定されています)。垂直に位置します)。それはまた、ひし形(人の精神的な変化の象徴の1つ)から出ることを意味しました。古代では、このようなシンボルは主に黒魔術で使用されていました。



図32。逆さの記号。

アナスタシア: ところで、このシンボルは現在「ダビデの星」という名前で世界中で広く宣伝されていますが、当然のことながら、支配的な三角形と「精神と物質の完全な結合」という広範な大衆にとってもっともらしい解釈が付いています。トップアップ。そして人々は、なぜ自分たちは怒りと攻撃性が蔓延するこのような「不幸な世界」に住んでいるのかと疑問に思います。

リグデン: そうですね、人々が物質的なマインドが彼らに課すもの以上のものに興味を持たないのは誰のせいでしょう。



古代、東洋では、このサインは「魔神の王」として知られ、精神的な発達を目的とした力の助けを借りて物質を支配する人の魔法の象徴でした。上が下になった 1 つまたは複数の三角形が、上が上になった大きな三角形の中に囲まれている場合、これは、その人がその独特の精神的な力を他の目的、つまり物質世界で特定の力を達成するために使用することを意味します。たとえば、頂点を下にした 3 つの三角形が、頂点を上にした 1 つの三角形で囲まれている場合、これは、原則として、3 つの三角形で一時的な力を達成するために、物質的な心がそれ自体の目的のためにアラートの力を使用することを意味します。次元の世界。ちなみに、上から下の3つの三角形は、アイデア、計画、実行(この計画の実行)という神の原則を象徴しています。古代の画像では、頂点を下にした 3 つの三角形が何の制限もなく表示され、その上に頂点が下になった 4 番目の大きな三角形が配置されています。精神的な解放に向けた人類の動き。一言で言えば、人による生命力の正しい使い方です。

アナスタシア: 読者に半球についてもっと教えてください。それらはまた、4 つのエッセンスの象徴として、古代の工芸品の神聖な儀式用の物のパターンにもよく見られます。

リグデン: はい、全体の特定の部分としての半円、三日月、円弧のシンボルは、4 つのエッセンスを指定するためにも使用されました。同時に、垂直に配置された横方向のアークは、横方向のエッセンスの象徴でもありました。



逆さの三日月や逆さのボウルに似た弧は、後ろエッセンスを象徴しており、したがって、人々の神聖な象徴において、それは生命のない過去、そして「死者」の指定と関連付けられていました。教材に重点を置いた指導。しかし、精神世界の力の発現の象徴として、弧または三日月の角を上に向けた前・エッセンスを指定すること、すなわち「アラット」が伝統的に使用されてきました。実際、他のエッセンスの名称はまさにそこから、互いに特徴的な半球である円弧の形で由来しました。このような前エッセンスとアラットのサインのイメージのおかげで、一部の人々は、アラットの創造的な力(または古代人の見解ではクリスタル)で満たされる準備ができている精神的な容器としてのボウルの連想シンボルを持っていました(澄んだ水、それは精神的な世界とのつながりでした)。

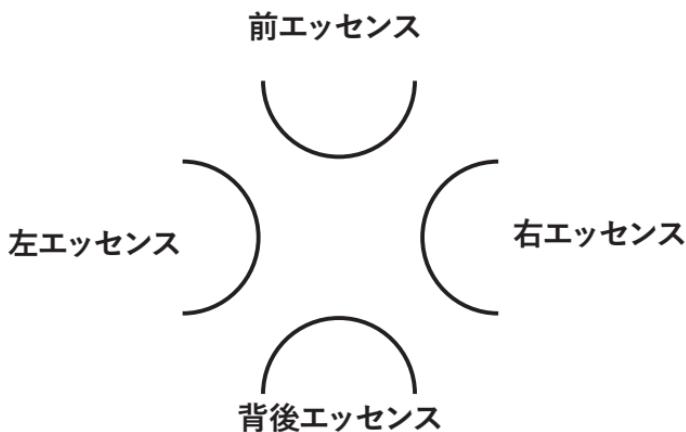
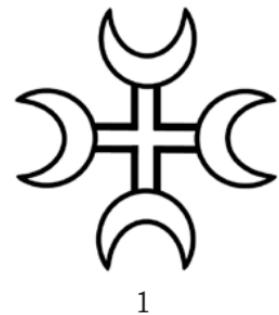


図33。弧の形での人間のエッセンスの表。



1



2



3



4



5



6

図34。アラートのサインを持つ弧と三日月の形をした人間のエッセンスの象徴的なイメージ:

- 1) 月の十字架（別名はクロワッサント十字）は、北欧の古代民族の間で共通の神聖なシンボルでした。
- 2) 端に十字架と三日月があるトリピロス文明の儀式用プレートの図式（紀元前4千年紀から紀元前3千年紀）。
- 3) オカ川流域に住んでいた古代ロシアの東スラブ部族である



ヴァチチ族の歴史の紀元前の遺物に描かれた弧のシンボル。

4) 中央にアラットの印があるトリリオン文明の儀式プレート。

5) トリピリア文明の陶磁器の標識(ウクライナ、ヴィニツア地方のベルナショフカ村近くの考古学的発見から)。

6) ナバホ族インディアン(アメリカ南西部、北アメリカ)の色砂で作られた神聖な絵画。

アナスタシア: あなたは菱形を人の精神的な変化の象徴の一つとして挙げましたね。少なくとも正方形の図形の記号全般について、ひし形について、そして実際には正方形自体について教えてください。今日、人々はこれらのシンボルの意味をしばしば混同しています。それは、それらが古代の知識の現代的な解釈に依存しているためであり、それらのシンボルはすでに大幅に歪められ、物質的な世界観のレベルで解釈されています。

リグデン: 原初の知識の象徴における正方形は、人の4つの主要なエッセンスすべてを接続する、人のピラミッド構造の条件付きの基礎です。その結果、さまざまな民族の間で、シンボルとしての正方形は、(シンボルとして機能した円とは対照的に)地球、地球上のすべてのもの、4つの要素の結合、基点、男性原理と関連付けられました。女性原理と天国の)。



図35。広場は地上の象徴です。



この知識は、世界のさまざまな民族の多くの宗教建築物の建設に反映されました。たとえば、ジググラト、ピラミッド、寺院、塔、教会、その他の神聖な建物は、正方形の基礎の上に建てられました。さらに、原則として、構造自体のアーキテクチャは、何らかの形で、正方形から円または菱形への変換に関する知識を反映しており、これは角の1つに配置された立方体の概略図でした。つまり、これらのシンボルでは、人の靈的解放中の人の構造のエネルギー変化、物質世界から靈的世界への靈的人格の移行についての知識が固定されています。

ひし形は、上部と底部がわずかに尖った楕円形の「粒」の形で描かれることも多く、原則として偉大な母の機能を備えた女神の女性性、活力、豊饒の象徴と関連付けられていました。それは、宇宙で新しい形を形成する2つの力の融合の兆候によって指定されました。正方形に刻まれたひし形、または正方形を超えて8つの角を形成するひし形、8つの尖った星 - これはすべて、人の精神的解放に関する原始的な知識の象徴です。人々は旧石器時代からこれらのシンボルについて知っていました。

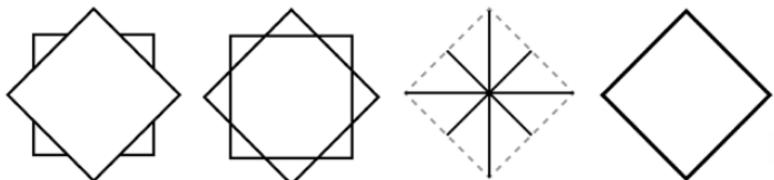


図36。変容、人の精神的な解放の象徴としての菱形のイメージのバリエーション。



これらすべてのイメージとシンボルは、精神的な実践、人の中の精神的な力の目覚めの詳細、人格がその魂と融合する瞬間の現れの知識に基づいていました。ちなみに、古代において真理のそのような精神的な融合、洞察、理解を達成するプロセス自体は、「虫」に似たシンボルで示されていました。

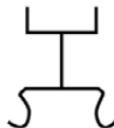


図37。精神的な解放、洞察力、真実の理解の象徴。

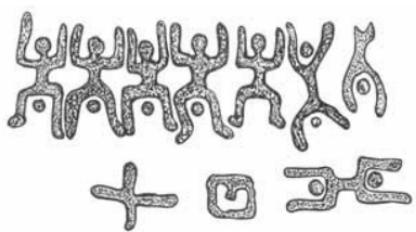
さらに、当初は、それが女性であるか男性であるかに関係なく、精神的に成熟した人格に関連して配置されました。多くの場合、この標識の「手」はアラットの象徴的な標識として描かれ、「足」は異なる方向にねじれた2つの螺旋として描かれていました。

人についての神聖な知識の螺旋は、原則として、精神的な実践自体の過程におけるエネルギーの動きの方向、またはそれが世界の起源に関する情報に関する場合はアラットの力の象徴です。時計回りにねじれた螺旋はポジティブで創造的な精神的な力を意味し、反時計回りに-アラートの力に対抗する動物の心のネガティブで破壊的な力を意味しました。スピリチュアルな実践の名称において、スパイラルのシンボルはエネルギーまたはその組み合わせの意味で使用されていました。また、3回転半の螺旋はエネルギーを表しており、すでに述べたように、東洋では今でも「クンダリーニの眠っている蛇」と呼ばれており、人の隠れたエネルギーの可能性を象徴しています。



図 38。古代の人々の象徴における 2 つの異なる方向の螺旋の例。

その後、「虫」に似た前述の記号の代わりに、女性の女神が描かれ始め、魂との精神的な融合と物質世界からの人の解放を達成するプロセスを示しました。したがって、人々は、アラート(神の女性原理)の創造的な力の参加によってのみ、人はそのような状態に到達できるという根本的な追加の説明の1つを修正しました。彼らはまた、互いに絡み合う2匹の螺旋状の蛇の形で、同様の意味の名称を使用しました。そのようなシンボルが精神的な修行をしている人のイメージと一緒に描かれている場合、通常、ヘビの尾が人の最初のチャクラン(「ムラダーラ」)から出ており、体が絡み合っていることを示しています。3回転半、彼らの頭は第7チャクラン(「ノコギリソウ」)の隣にあった。したがって、人のエネルギー「体」におけるこのエネルギーの移動経路は、条件付きで示されました。東部では精神的な実践について語る論文では、「クンダリーニの蛇」の覚醒が、精神的な悟りの状態、つまり涅槃への出口の達成として今でも言及されています。ところで、以前は精神的な知識と関連付けられていたこのような連想的なシンボルのおかげで、一部の人々は今でも自分たちの地域で見られる普通のヘビを神聖な爬虫類として崇拜しています。



1-a



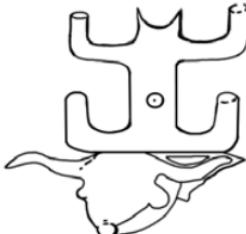
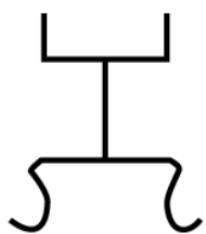
1-b

1-c



1-d

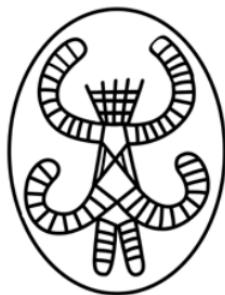
2-a



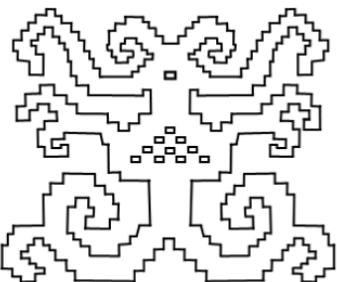
2-b

2-c

3



4



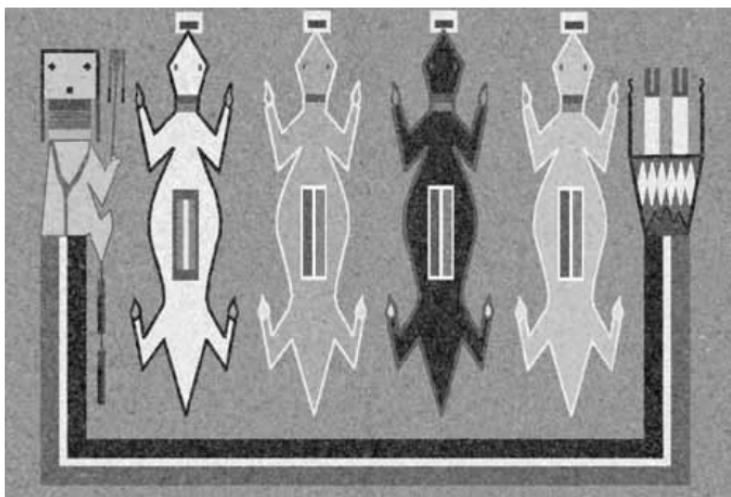
5



6



7



8



9



10



11

図39。古代の人々の呼称における人間の精神的解放の象徴:

- 1) 古代人の岩面彫刻:a) カモニカ渓谷（紀元前 6 千年紀頃、イタリア北部、中央アルプスの麓、ヴァル カモニカ）で発見された岩絵。白海沿岸で発見された岩絵（約III）紀元前千年；カレリア共和国、ロシア北西部）。地元の岩面彫刻の多くは、日の出と日の入り（朝と夕方の靈的修行の時間）にのみ見ることができます。



- v) エル・アブラ渓谷で発見された岩面彫刻(紀元前12千年紀、コロンビア、南米)。
- g) ブラジル北西部(紀元前 X ~ VII 千年紀、南アメリカ)で発見された岩面彫刻。
- 2) チャタル・グユク (Chatal-Huyuk) (紀元前 7 千年紀、アナトリア、小アジア) の古代考古学文化のシンボル:
- a) エネルギーセンターである魂のマークを持つ「女神」のイメージ。
- b) 特定の文化のグラフィックシンボルからの記号。
- c) 「カエルの女神」(再生の象徴)の像。その下には広く間隔をあけて生えた角を持つ雄牛の頭がある(紀元前7千年紀末、チャタル・グユク文化の寺院の遺物)。
- 3) インド文化の古代のサイン。
- 4) 古代スラブ人およびトリポリ文化(紀元前6~3千年紀、ウクライナ)における母なる女神の概略図。
- 5) ロシア刺繡「出産中の女性のイメージ」。
- 6) 古代ギリシャの花瓶の破片(ボイオティアのアンフォラ、紀元前680年頃)、ポトニア・セロン(獣の女王)の姿でアルテミスが描かれている。逆円、攻撃的な犬は攻撃的な世界を示していますが、アルテミス自身はこの世界での精神的な現れとして表現されています。アルテミスの服に描かれた魚のイメージは、変性意識状態への没入の象徴です。服にある6本の横棒 - 6次元の象徴。アルテミスの頭は体とのみ接触します - それは7次元の象徴として機能します。鳥 - 精神的な、より高い世界の兆候。絵の側面にある二匹の蛇は、より高い精神的洞察力、つまり解放の状態の達成を象徴しています。
- 7) スキタイの女神を描いた金の銘板(紀元前 4 世紀、ロシア、クラスノダール地方、タマン半島、ボルシャヤ ブリズニツア塚、ロシア、サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館)。
- 8) ナバホ族インディアン(北アメリカ)の色砂で作られた神聖な絵画。



- 9) 銀の皿のハンドルの下にあるスキタイの女神の像（紀元前4世紀、ウクライナ、ドネプロペトロウシク地方のチェルトムィク手押し車）。
- 10) 女神の像が刻まれた切り抜き板（7～8世紀、ロシアのペルミ地方、チュド湖周辺で考古学的発見。アレクサンドルセルゲイイ・ウチ プーシキンにちなんで名付けられた地元伝承のエルディンスキーブ博物館）。
- 11) アステカの水の女神の小像 - チャルチウトリクエ（西暦300～400年、北アメリカ、メキシコ国立人類学博物館）。チャルチウトリクエ（「彼女は翡翠の服を着ている」、「彼女は青い服を着ている」）は若い女性として描かれています。彼女は義人たちを導き、天の橋（虹）を通らせました。

アナスタシア：はい、世界各地で発見された古代の遺物のおかげで、すでに多くの証拠があり、「虫」に似たこの標識に対する人々の特別な態度や、「虫」に似た女性の女神のイメージを証明しています。それ、今日の科学では奇妙なことだけが起こっています。これらの工芸品の精神的な側面はほとんど考慮されておらず、ほとんどの説明は物質的な理解に帰着します。実際のところ、さまざまな民族の文化におけるこれらのシンボルの精神的な重要性と役割は軽視されています。たとえば、科学者は、脚の代わりに線が螺旋状にねじれたり、半円に分かれたりした女神（または螺旋状にねじれた蛇）の形をした古代の遺物によく遭遇します。しかし、実際にはそのような発見物はすべて、「カエルのポーズで出産する女性」または「豊饒の魔法に関連し、女性のポーズを表すカエルのポーズの擬人化された生き物」などとしてランク付けされます。一般に、それらは精神的な要素を持たずに存在の物質的な側面に結びついています。



リグデン: そうですね、人々の世界観とは何か、それが彼らの結論です。もし現代人が真の精神的な自己改善にもっと注意を払っていたら、彼らは自分たちの精神的な発達に対する古代人の配慮をよりよく理解するでしょう。簡単な例を挙げます。20世紀の60年代、トルコ中部南部のコンヤ平原の高原で、紀元前7千年紀の都市チャタル グユク (チャタル ヒュユク) が考古学者によって発見されました。そしてその下には、いわば、それ以前に存在していた文化の構築地平線のさらに12の層があります。

アナスタシア: はい、それは科学界にとってセンセーショナルな発見でした。古代の建物 (部屋への外側の狭い入り口は平らな屋根の上に作られていました)、聖域、タブレット、置物、幾何学的な小石、多色の壁画の残骸です。科学者によると、この古代都市には約7,000人の住民が同時に住むことができたそうです。

リグデン: まさにその通りです。つまり、ほとんどすべての家に特別な部屋がありました。科学者たちは条件付きでそれを「聖域」と呼び、私たちの言葉で言えば、それは精神的な修行のための部屋でした。彼らはそれを住居の中心に設置しようとしました。そのような部屋の壁 (特に東と北の部屋) にはフレスコ画が描かれており、その長さは12~18メートルに達しました。しかし、最も興味深いのは、それらに描かれていたものです。女性の形をした「女神」が、前述の「虫」のポーズ (または科学者がそれを「カエルのポーズ」と呼ぶ) で位置し、その隣にありました。彼女は、4つのエッセンスを特徴付ける動物や鳥のほか、アラートの記号 (角を立てた三日月)、ひし形、垂直に接続された2つの三角形 (「砂時計」のような)、水平に接続された2つの三角形の形のシンボルです。 (「蝶の羽」のような)、「蜂の巣」、「粒」、「波」の形のシンボル。



さらに、これらのシンボルはさまざまな組み合わせであり、互いに重なったり、どこかで2倍になったり、どこかで3倍になったり、乗算されたり、ポジティブ、ネガティブの形で描かれていました。「女神」はまた、魚の女性（変性意識状態で瞑想に没頭する）、蛇の女性（精神的な修行と精神的な悟りの状態に達することを意味する）、鳥の女性（人間とのつながり）としても描かれました。精神世界）。また、これらの物語には漁網を運ぶ女性の姿もあり、これは靈的修行に従事するグループが標識を設置したことを示しています。

さらに、そのようなフレスコ画を描くために、移行状態にある魂に固有の色が使用されました：青と緑（この絵の具は銅鉱石から得られました）、濃い赤と明るい赤（酸化水銀と赤鉄鉱から得られました）、黄色（鉄から得られました）酸化物）、灰色（方鉛鉱由来）、紫色（マンガン由来）、そして当然のことながら白です。これらすべては、記号やシンボルとともに、人々が原始的な知識を持っていたことを示しています。ちなみに、古代にもそのような伝統がありました。ある人々のグループが、そのリーダーであるリーダーと一緒に靈性修行に従事していました。その人は、他の人よりも自分自身に熱心に取り組み、そのため靈性の道をより早く前進した人でした。彼は瞑想室の壁に、精神的な活動、知識の理解、そしてこのグループの学習過程について、シンボルや標識で記録を残しました。



しかし、指導者が精神的な解放を達成したとき、瞑想室の壁は白い漆喰で覆われました。グループの新しいリーダーは、あたかもゼロから新しい「絵」を描き始めました。その後、この伝統は人間社会にも伝わり、そこではすでに人間の生活とその出来事に重点が置かれるようになりました。

アナスタシア: はい、これらすべては、人々が本当に自分自身に取り組み、精神的に完璧であることが社会での生き方にとって自然であることを改めて示しています。それは、現代人に見られるように、一過性の流行や個人の私生活の側面として他人に宣伝しないほうがよいというものではありませんでした。精神的な発達は古代の人々の人生の意味でした。さらに、彼らが住んでいた社会自体がこれをサポートしただけでなく、このプロセスにも貢献しました。古代人は波の形のサインを持っていたとあなたは言いました。

リグデン: はい、波とはエネルギー、その特性、あるいは今日で言うところのエネルギー場の古代の名称です。それが人についての精神的で親密な知識に関するものである場合、波線または波状の縞の数は、人が精神的な実践でどの次元のエネルギーに取り組んでいるのか、またはその中でどの次元に移行しているのかを示し、あるいは単純にその仕事 자체を象徴しています目に見えない世界。家庭のシンボルの波線は、水や川を表すために使用されていました。そして、宇宙についての神聖な知識では、水は地上とは異なる別の世界の象徴であり、したがって、しばしば精神的な世界とのつながりも意味しました。

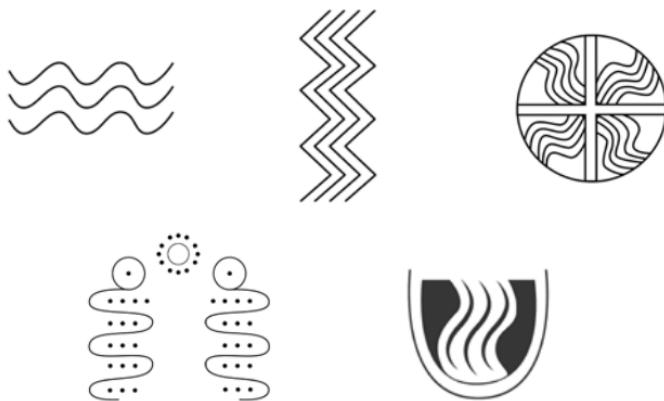
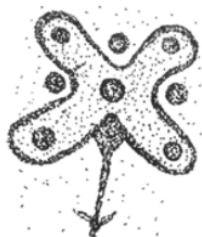


図40。古代の人々の波状のシンボルの画像の例。

古代の人々がこの靈的な知識を持っていたという事実は、現在でも確認できます。円、十字、斜十字、三角形、ひし形、正方形、らせん、星、ピラミッド、角を立てた三日月などの基本的な記号とその変形は、多くの考古学的遺物で見られます。たとえば、それらは岩の碑文、旧石器時代の置物、新石器時代の儀式用具、埋葬で見つかった神聖な衣服、物、品物、宝石の道具などに見られます。これらすべては、人々が生涯の間に特別な魔法的で神聖な精神的な知識を持っていたことを示しています。



1





2-a



2-b



2-c



3



4



5-a



5-b



6



7



8

図 41。さまざまな古代民族の遺物に、人に関する神聖な知識を表示する例:

- 1) 旧石器時代の岩面彫刻: 岩絵 (イタリア北部、ヴァル カモニカ渓谷)。
- 2) 神聖なシンボルを備えた女性の置物 - トリピリアの「女神」のイメージのさまざまなバージョン (トリピリア文化、ククテニ文化):
 - a) 最初のバージョンでは、シンボルは魂と人格の融合に達した女性を示しています。7番目の次元、つまり高度に靈的な人格。彼女の胸には、チャクランの位置の領域の生命エネルギー - プラーナに関連するエネルギーの動きが象徴的に表示されています (これは、精神的に発達した人格のまれな兆候であるだけでなく、この人が生命エネルギーを補充できることを示しています) - 他者に害を及ぼすことのないプラーナ。これにより、この「女神」の高い精神的地位が強調されます。彼女のお腹にはひし形のシンボルがあり、その中には斜めの十字と4つの点があります。4つの「バランスの取れた」エッセンス (これは、この女性が (「女神」は彼女のエッセンスを制御しました);



- b) 2番目のバージョンでは、シンボルは精神的に発達しているが、人格と魂の融合にはまだ達していない女性を示しています（胸の6本の横縞は、彼女が「六つの天」を理解していることを示していますが、菱形には彼女のお腹に描かれた斜めの十字には彼女の左のエッセンスの活性を示すマークが含まれており、これは彼女がまだ完全にエッセンスを制御していないことを示しています）。
- v) 3番目のバージョンでは、幾何学的なピラミッドの装飾、人間の主要なチャクラの指定、およびAllatRaサインを備えたトリピロスの女性像（遺物はモルドバのドラグシェンの集落近くで発見されました）。
- 3) 4つの部分からなる構造とその他の知識を示す記号と記号の記録で覆われた神聖な置物（アラットの印が冠されている）（新石器時代、中央地中海）。
- 4) 伊南王陵の入り口の石板にある不死の女神西王母の像（翼の形で）肩の後ろに様式化されたアラットの印がある（西暦193年、中国山東省）、また、円筒形の台座（3つの接続された台座は3次元を意味します。神話によれば山の頂上）の上に立っている横エッセンス エッセンスの象徴的な人物（神話の説明によれば、これらは乳鉢で不死の薬を叩いているウサギです）とともに、後ろエッセンスエッセンス（過去）の場所にある神話上の虎バイフと同様に。虎の頭には左のエッセンスがあり、言い換えれば、そこに重点が置かれており、さらに、虎の姿が動いて描かれており、活動が示されています。
- 5) 古代エジプトの寺院絵画のさまざまなバージョン：
- a) ある場合には、「アラトラ」のシンボルがアンクのサインの上にあります。
- b) 2番目の場合、アンクの記号はこの精神的解放の象徴への鍵として吊り下げられています。
- 6) 初期のトリピオス陶磁器：円錐台の形をした儀式用のボウルの内部絵画の装飾品。それぞれに蛇がいる4つの球体と、それらを縁取る光の弧が描かれています。
- 7) 金メダリオン（コロンブス以前の中央アメリカ文明）。
- 8) 衣服用の金のペンダント（南米文明の先コロンブス期）。



知識人にとって、これらのシンボルは多くのことを証明しており、現在の私たちにとって、わかりやすい言葉で書かれた開かれた本そのものでした。古代の碑文（石のブロック、岩、洞窟の天井などに残されたもの）、特に特定の精神的実践を示す標識やシンボルが含まれているものは、原則として、人々がこれらの実践を実践した場所の指定でもありました。靈性修行のために特別な場所が選ばれ、多くの場合、行きにくい洞窟や開けた場所が選ばれました。ちなみに、以前は、そのような実践の個人的な経験を持つ知識人だけが、岩にそのような碑文を書く権利を持っていました。今日、科学者たちは条件付きで岩石碑文を残したそのような古代の人々を「旧石器時代のシャーマン」と呼んでいます。このような場所でさえ、全世代の記録が保存され、人々が何千年も研究するためにそこにやって来た場所が今日まで生き残っているという事実に注目していただきたいと思います。

アナ斯塔シア：はい、科学者たちは今でも、サッカー場ほどの大きさの、岩に刻まれたこのような奇妙な「石の本」を発見しています。たとえば、白海（ロシア、カレリア共和国のザラバルガ）、スウェーデンのネムフォルセン（オングルマンランド州）と田沼（ボーフースレン）、あるいはヴァルの中央アルプスの麓の岩石彫刻（ペトログリフ）などです。カモニカ渓谷（イタリア）、ドラゴン山脈のアフリカのブッシュマンの碑文、サハラ砂漠のタシリン・アジェール山高原の絵など。



リグデン: まさにその通りです。その後、シンボルは、人間の二面性や精神的なものの優位性を常に思い出させるお守りとして、よりモバイル版でより頻繁に使用されるようになりました。そして、それらは、現代世界と同様に、当時尊敬されていた胸飾り、家、儀式用具、神聖な置物に、問題（特に、どのシンボルがどこに、そしてなぜ配置されたか）に関する知識を伴って適用されたことに注意する必要があります。人々は宗教的な道具を崇拜します。

これらのシンボルは、将来起こるはずの出来事やその達成の保証など、特別な方法で標識に記録された情報として特定の物体にも置かれていました。その後、これは、たとえば、対応する記念標識を備えた同じ「メッセンジャーのバトン」に関する一種の実質的な文書に変換されました。このおかげで、いわば、ある民族または人々のコミュニティのメッセンジャーは、他の民族の代表の前で自分の権威と彼に託された特別な任務を確認しました。 またはコミュニティ。

アナスタシア: はい、「メッセンジャーの杖」は古代ヨーロッパ、古代中国、古代アフリカ人やオーストラリア人の間で使用されていました。しかし、このことを知っているのはこれらの問題を扱う科学の専門家だけであり、ほとんどの人にとってそのような事実はほとんど知られていません。しかしその一方で、現代社会では、モーセの象徴的な杖、ヘルメスのカドゥケウスなどが、大衆がアクセスできる文学の中でよく宣伝されています。

リグデン: 人々自身がこれらの問題に興味を持っていないため、歴史的遺物はほとんど知られていません。



アナ斯塔シア: それは本当で、シンボルやサインのあるこれらの工芸品を見つけた人にとっても、そこに含まれる情報は完全には明らかではありません。したがって、それはせいぜい儀式の対象物の「装飾品」、または類似のサインとして説明されています。他の民族のもう一つの神聖なシンボル。

リグデン: ほとんどの場合、そのようなシンボルは、子孫への精神的な経験の伝達として、石や物体に描かれていました。靈的な道を歩む人々にとって、これらの知識の記録は靈的に重要でした。

アナ斯塔シア: つまり、何千年前に住んでいた人々にとって、精神的な知識は、消費者志向の思考形式を持つ現代人よりもはるかに重要で、より重要なものでした。たとえば、無数の宝物や宝物の正確な位置が記された地図などです。彼らが銀行に預けているお金。

リグデン: まさにその通りです。1万年前、靈的な知識は今日よりも高く評価されていました。東洋で彼らが言ったように、本当の宝は知識であり、それを持っている人はどこにでもそれを持っています。

アナ斯塔シア: はい、人の人生において精神的な成長よりも重要なものは何でしょうか?これが人生の主な目的であり意味です。標識やシンボルに記録された人類の歴史は、人々がどのような状況で暮らしていたかに関係なく、遠い昔であってもこの問題が重要であることを証明しています。彼らにとって、精神的な成長が主なものであり、物質的な生活は二の次でした。



そしていま?新しい世代は、古代の人々に比べてより快適な環境で暮らしているにもかかわらず、社会の消費者優先に導かれ、ますます物質的価値の優先を選択し、無駄に人生を浪費しています。

リグデン: 残念ながら、その通りです。ちなみに、古代の人々の間では、このような碑文は、靈的なものを除いて、この世のすべてが朽ちる可能性があるため、最も重要な情報を次世代に伝えるものと考えられていました。古代の人々は、この世の命はあまりにも儚く、自然災害などのさまざまな理由によりすぐに終わってしまうということをよく理解していました。そして知識を失わぬために、彼らは「永遠の石」の上に残されました。もちろん、上記のすべては、神聖な、儀式の碑文に当てはまります。なぜなら、それらに加えて、古代の人々は、現代社会と同様に、日常の記録、暦、祖先、歴史、その他の記録を持っていたからです。

いくつかの神聖な「働く」兆候（活性化されると目に見えない世界の物理学に影響を与えることができるもの）は、この知識を実践し、経験を持ち、それを他の人々と共有できる精神的な人の象徴的な指定としても使用できます。以前は、すべてが非常にシンプルかつ明確でした。同じ記号、シンボルは誰でも適用され、原則として本質を理解することなく、現在行われているように自分自身を飾るために適用されることはさらにはりません。古代においては、これは靈的発達の一定レベルに達した知識豊富な人々によって行われていました。今では人々は猿のように、さまざまなシンボルやサインがついた宝石にしがみつき、それらが実際に何を意味し、それが潜在意識にどのような影響を与えるのかさえ理解していません。



彼らにとって重要なことは、それがクールで高価であり、隣人が羨望の目で見ているということです。

今では、多くの無責任な政治家や政府役人が、都市や国の旗や紋章に、しばしば「フリーメーソン」によってすり込まれたシンボルを付けている。彼らは、「フリーメイソン」にとって、この地域に「自分たちの」看板やシンボルを置くことがなぜそんなに重要なのかさえ考えていない。当局者たちは、これらの兆候とそれらの兆候の違いが何であるのか、そしてこの「無害な行為」によって彼らがどのような問題を起こし、国民（家族を含む）をさらなる苦しみに運命づけているのかを理解していません。そのような人々のために、物質的な精神に従属するシステムは、お金とその力の指揮者の場所という特定の優先順位を特定し、人がそれ以上考えないようにします。

現在では、さまざまな宗教の指導者たちが、過去の伝統を模倣して、お祝いの衣装を着て、さまざまなシンボルが刻印された貴金属、石、道具で身を飾ります。それらのほとんどは、これらの「パターン」の意味についてほとんど情報を持っていません。そして、記号は、自分たちの宗教の概念の狭い枠組みにのみ限定されており、世界のさまざまな人々の精神文化におけるこれらの記号のより古代の使用法やその真の目的にさえ興味がありません。一般的に、それは今、豊かな外部と空の内部です。そして、ほんの8~1万2000年前までは、すべてが意味を持って異なっていました。控えめではありますが、多くの外側（サイン、シンボル）と豊かな精神的な内面について話していました。一般に、当時に住んでいた人々にとって、象徴主義の知識は彼らの社会にとって非常に重要かつ自然なものであったため、そのような貴重な情報が忘れられたり失われたりする可能性があるとは想像さえできなかったことに注意する必要があります。



アナスタシア: ずっと後になって、社会が物質的な思考に傾き始めたとき、単純なものが複雑なものに取って代わられ始めたと、あなたはかつて言っていました。記号やシンボルは、精神からの追加の解釈を複雑にし始めました。

リグデン: それは本当です。何らかの理由（自然要因、疫病など）により、靈的知識の伝達が中断されたり、人々の間で人間の精神から近代化されたりすると、その後の世代はそれらを理解できなくなりました。人々はこの情報を頭の中で、文字通りの意味で、日常の経験の観点から解釈しました。これも、その後の記号の歪曲と誤った解釈に寄与したもう一つの点です。

アナスタシア: はい、何と言おうと、すべては人の意識の物質的な傾きから始まります。そして、動物の心の介入により、社会において原初の知識の本質と意味が失われたり歪められたりした場合、この物質的な偏見は将来の世代の心の中で悪化するばかりです。

あなたが私たちに教えてくれた情報に従って、考古学および民族学の問題に特化した作品の中で多くの興味深い事実を見つけました。もちろん、紀元前1万2000年前の文化層に関する十分な研究はなく、ほとんどが偶然の発見です。



しかし、紀元前 11 千年紀から 7 千年紀にかけて、多くの遺物、特に記号に関連した遺物が蓄積されました。

したがって、さまざまな文化層を研究すると、特定の人々にとって、物質へのそのような「巻き込み」の段階がどの時代に始まったかがよく追跡されます。科学者たちは、古代に遡る地層で、人々の平和な生活の痕跡、住民間に不平等の兆候がないこと、そして最も重要なことに、社会における精神的知識の優先順位の証拠をさらに発見しました。これは、特徴的な標識やシンボルを備えた多くの遺物によって示されています。例えば、グラフィックシンボルが豊かに描かれた壁を持つ住居跡、サインのあるステアタイト印章、シンボルやサインが刻まれた粘土のメダリオン、サインのある祭具の破片、神話の主題に基づいた豊かな装飾が施された陶器製品、そして女性の土偶などです。神聖なシンボルがそれらに適用されます。しかし、埋葬物から判断すると、すでに時間軸の後半では、かなり多くの武器、金で作られた宝石、銀、宝石。人口には顕著な階層化が見られる。多くの貧しい埋葬者が出現し、単一の裕福な埋葬者が出現し、次に聖職者や戦士の領地全体が金の宝飾品に埋葬され、武器が埋葬される。さらに、以前に物質的な蓄積を特に必要とせずに、単に人々の間で商品の交換が行われていた場合（価値観が異なり、無形の性質があることは明らかです）、その後、金、お金、貿易が現れます。個人による物質的富の蓄積と、それに対応する人口の階層化、政治的および宗教的な政府システムの出現に焦点を当てています。



つまり、物質的思考の方向への文明の「転がり」があるのです。より正確に言えば、社会における動物的性質の支配、これに基づく国家の創設、奴隸制度の出現などです。

そして私が驚いたのは、世界のさまざまな「文明」国の学校の一般教育プログラムでは、紀元前5千年紀までの人類社会の存在に関する情報が何気なく言及されるだけであり、この時代を「先史時代」と呼び、主に生命について説明していることです。このような物質的な生活環境を科学では「先史時代の人々」と呼びます。そして、古代の人々の生活の精神的な側面は、魔法、精霊、人間の魂の存在、異世界の神話の世界、そしてそこに住む神々に対する原始的な信念として提示されます。でも結局のところ、以前には興味深いことや重要なことがたくさんありました。なぜこれが沈黙しているのですか？

たとえば、ある時期に、地球上の互いに遠く離れた場所に存在していたさまざまな人々のコミュニティが、科学者が言うように、より文明的なレベルの存在へと突然大規模に移動し始めました。生産的な経済。」これは、定住農業、同じ基本的な神聖な兆候を備えた料理の生産、動物の家畜化、大都市の建設のための明確な計画を伴う住宅（場所によっては2階建ての家を含む）の建設のためです。等々。そして、地理的に関係のない民族の神話や伝説の中には、「天から来た人」がそのすべてを現地の住民に教えたという記述があり、そこから特別な高位の存在が自然と人々の生活を支配しているという信仰が生まれました。



儀式用の土器に記号やシンボルが大量に現れ始めたのは、この時期であることが多かった。同じ岩絵（ペトログリフ）によって証明されるように、異なる大陸に住む人々のコミュニティには、それ以前にも同じ兆候（実際には同じ）が存在していましたが。35,000年前に描かれた岩絵からも兆候が発見されました。

リグデン：単純に、すでに述べたように、特定の記号やシンボルは最初から社会に存在していました。

アナスタシア：はい、そしてこの明白な事実は頑固に無視されています。どうやら、人類文明にとって重要な問題に関する原始的な知識が欠如しているためのようです。それで、あなたが会話の中で言及した古代考古学文化に関する興味深い情報を図書館で見つけました。記号について：これらは、既知のシュメール文明やエジプト文明よりずっと前、または同じ時代に、ヨーロッパ、アジアの領土に存在した古代文明です。たとえば、すでに述べたように、VI-III千年に存在したトリビリアン文化です。古代ヨーロッパ（現在のウクライナ、モルドバ、ルーマニアの領土）の紀元前。ルーマニアではククテニ文化として知られています（この文化に関連する最初の考古学的発見がこれらの地域で発見された最も近い集落の名前によって）。この時代の文化層では、神聖な象徴的なシンボルが描かれた陶器が数多く発見されました。さらに、料理には儀式用（記号や記号の装飾が施されたもの）と家庭用（絵のないシンプルなもの）の2種類がありました。



図42。トリポリ文明のシンボルと兆候

(紀元前 VI ~ III 千年紀、古代ヨーロッパ)。

あなたがかつて私たちに注目した、もう一つ重要な事実に注目したいと思います。



これらの集落では、神聖な標識や装飾品が刻まれた女性の置物が多数発見されており、これらの人々が創造的な女性原理を尊重していたことが証明されています。他の古代文化の発掘中に、陶器上のそのようなサインが大量に発見されただけでなく、同じ神聖なシンボルを持つ多くの女性の宝飾品、サインのある女性の置物も発見されたことも注目に値します。近くでは、生前神聖な知識を持っていた女性シャーマンの埋葬地が発見された。これは、埋葬地で見つかった物品やその他の多くの兆候によって示されています。これは、女性が社会の精神生活や儀式に積極的に参加していたこと、そして古代の人々が特に女性的で神聖な原則を尊敬していたことを示しています。

リグデン: これは、調和のとれた、精神的に発達したコミュニティのあるべき姿です。スピリチュアルな意味での女性性は、アラートの創造力の現れであるため。

アナ斯塔シア: 何年も前にあなたが初めて記号の話題に触れてから、私は古代文化の中にさまざまな記号やシンボルが存在する例をたくさん見つけました。たとえば、バルカン・ドナウ地域の文化は、紀元前 5 千年紀から紀元前 3 千年紀の新石器時代および新石器時代の多くの考古学的文化であり、古代ヨーロッパとバルカン半島（ヨーロッパ南東部の山脈）の広い地域を占めていました。基本的なシンボルからなるかなり豊富な「装飾品」が遺物上で追跡できます。これらは、円、螺旋、三角形、十字、ピラミッド、ひし形、その他の記号です。

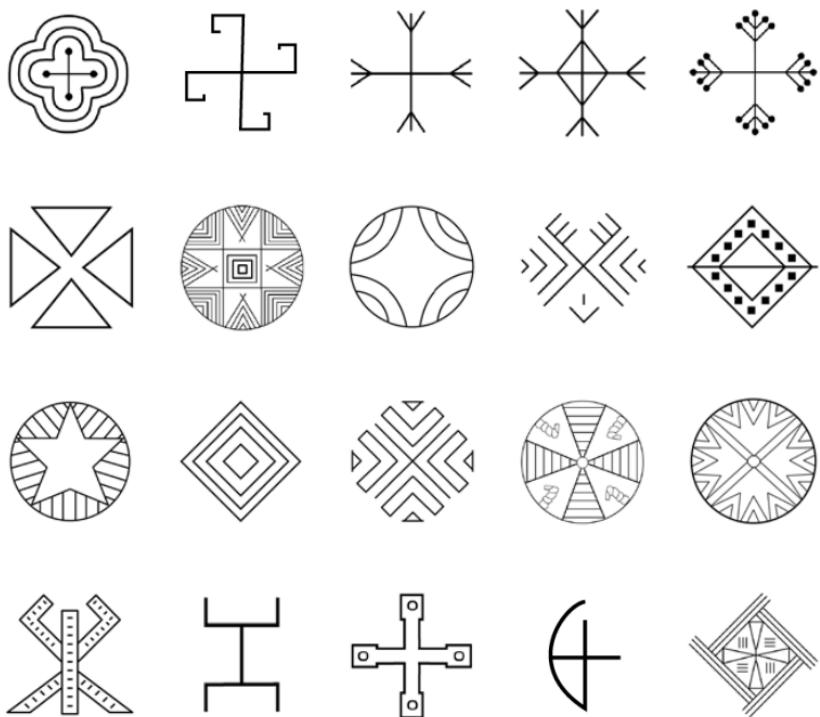


図43。古代ヨーロッパ（紀元前V～III千年紀）の文化の象徴。さまざまな古代文化のシンボルが紹介されています：ヴィンカ・トルドス（トゥルダッシュ）文化（現代の南ヨーロッパ地域：ハンガリー、ルーマニア南西部、セルビア北部、ブルガリア）、線状帶陶器（中央ヨーロッパ：ドイツのルール地方からヨーロッパまで）チェコ共和国とスロバキアの国境）、ドナウ文化（バイラニ）（チェコ共和国とスロバキア）、バルカン・ディミニ文化（ギリシャのラリサ市からそれほど遠くない、ヴォロス市近くのエーゲ海沿岸）、バルト海のナルヴァ文化（ラトビア、エストニア、リトアニア、ベラルーシ北部、ロシアのプスコフ地域の現代領土）、レンデル文化（ハンガリーの西、オーストリアの東、チェコ共和国、スロバキア）、およびこの期間の特定の期間のその他の文化領域。



さらに、幾何学的な装飾を特徴とするセスクロ（紀元前5千年紀、ギリシャ沿岸の大都市ラリッサの近くに位置するヴォロス市付近）の考古学文化にも注目したい。発掘中には、そのような装飾品が描かれ、しばしば赤いペンキが塗られた置物や道具が発見されました。ちなみに、ピンタデラもそこで見つかりました（スペイン語の「ピンタデラ」、「ピンタル」-「何かを描く、」に由来）。これらは、通常、装飾的なパターンが施された粘土エンボススタンプです。それらは多くの新石器時代の文化で非常に一般的でした。彼らの機能の1つは、神聖な儀式や儀式の前に、人体のサインやシンボルの形で一種の「タトゥー」にペイントを施すことであると考えられています。

そしてもちろん、シギル文化（紀元前5～4千年紀、ウラル中部とトランスクワラル、現代ロシア）は特に注目に値します。その記念碑には、発見されたカラマツで作られた世界最古の木製彫刻が含まれており、この彫刻は、この発見の場所にちなんで「大きなシギルアイドル」と名付けされました。像の胴体は四方八方を幾何学模様の装飾で覆われています。彫刻自体は中石器時代（9.5千年前）のものとされています。

リグデン：ところで、考古学者がいわゆるこの偶像は、その7つの装い（人間の顔の模式図）の形で7つの次元に関する情報も含んでいます。さらに、7番目の次元は、上部の体積（両面）見出し「面」として表され、6つの次元は6つのレリーフ「面」の形で表されます。後者はアイドルの「体」の広い面に彫られており、三次元世界を象徴する前面に3つ、背面に3つのマスクが刻まれています。

普通の人にはアクセスできない次元（4番目、5番目、6番目）を象徴しています。



アナスタシア: 最も興味深いのは、科学者たちがこれが何を意味するのか、またそれに適用されるシンボルやサインについてまだ議論していることです。興味深いことに、その後この展示を受け入れた博物館職員によるこの偶像の最初の説明では、偶像は足を組んでいたと述べられていました。そして、これは瞑想の過程での蓮華座と世界の知識を示しています。しかし、明らかに、この遺物のこの部分は、少なくとも東洋とのつながりを示唆していたので、誰かにとって非常に「不快」だったため、この特定の部分は、革命前から博物館の倉庫で「跡形もなく紛失」しました。

これが、原初の知識への鍵を失うということの意味です。彼らは遺物を見つけましたが、それをどうすればよいのか、古代の記号やシンボルをどう読むのかは誰も知りません。一般に、研究者にとって非常に興味深い古代考古学文化の多くのシンボルが現代ロシアの領土で発見されています。たとえば、上ヴォルガ文化（現在の領土のヴォルガ川流域（ヴォルガ上流、ヴォルガとオカの合流点に位置しました）ロシアのモスクワ地方）の層で、装飾品やシンボルが刻まれた皿、記号が刻まれた粘土のメダリオン（古代のメダリオン、実際には同じタムガ）が見つかりました。そして、例えばチェバルクル文化（ウラル山脈南部、現在はロシアのチェリヤビンスク地方）の遺物は、情報内容の観点からどのような価値があるのでしょうか？

一般に、ウラル山脈にはシンボルや標識が非常に豊富で、中石器時代、新石器時代、青銅器時代のウラル岩面彫刻（岩絵）しかありません。



そして興味深いことに、それらは主に水に面した岩の上に位置していました。そして、ご存知のように、古代人の解釈では、水は別の精神的な世界の象徴でした。鳥が描かれている場合、ほとんどの場合、それは水鳥です。さて、伝統的に、世界のすべての古代民族と同様に、精神的な知識は、幾何学的形状（円、多角形、波、ジグザグ、斜めおよび直線の十字、光線）の形で記録され、また、擬人化された生き物、有蹄類の動物、特徴的な形で記録されてきました。主に4つのエッセンス。しかし、最も重要なことは、それらは「虫」の形をした人物（腕を広げ、足を曲げている）であり、その頭には精神的な解放または改善の象徴（アラトラサインまたはアラトシンボルのいずれか）があったことです。またはいくつかの出射光線が描かれていました）。私はシンボルやサインを伴うシベリアの古代文化について話しているのではありません。

ところで、私はウラル山脈だけでなくアジア（前部および中期）の紀元前7～6千年紀の東洋文化の研究に関する著作から多くの興味深いことを学びました。これは、たとえば、ほぼ9000年前に存在した「狩猟採集民」ハジラールの文化です。家の壁の豊富な絵画、グラフィックシンボルが描かれた皿が特徴で、主に太陽（太陽、円形）と菱形のシンボルが普及していました。



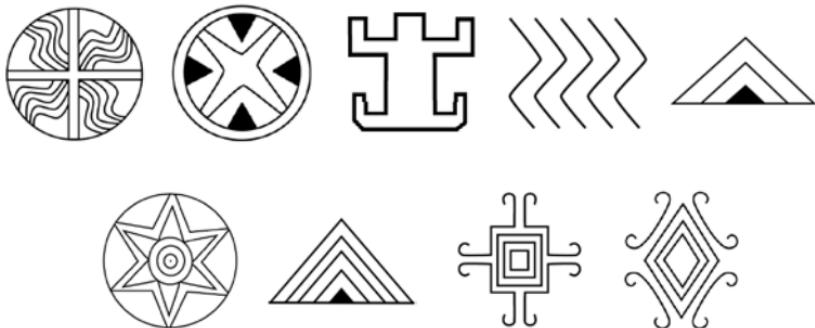


図44。ハジラル文化（紀元前7～5千年紀、西アジア）の象徴。

あるいは、たとえば、会話の中で言及したチャタル・グユク文化は、ハジラルと同様に、紀元前7千年紀に現在のトルコの領土に存在していました。彼女の象徴主義では、多くの十字形や菱形のシンボルが実際に普及しており、神聖な女性に対する明確な敬意が見られました。これらすべては、古代の人々が魂、4つのエッセンス、および対応する精神的実践についての原始的な知識を持っていたことを示しています。

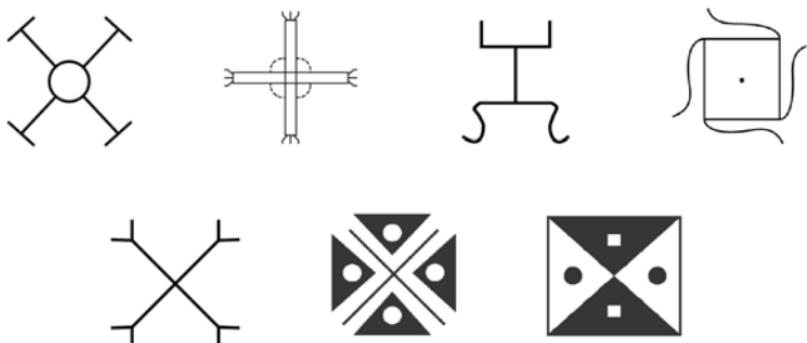


図45。チャタル・グユク文化（紀元前7千年紀、西アジア）の象徴。



興味深いことに、埋葬から判断すると、この文化の古代の人々には、社会的階層化の兆候や、コミュニティの精神的、社会的、家庭的領域におけるリーダーシップの問題において、男女間の不平等の兆候さえ見られませんでした。科学者たちが発見した「聖域」には、母なる女神の女性像が数多く集中しており、絵画のほか、母なる女神、雄牛の頭、雌ライオンのレリーフ像もあった。ちなみに、この層で見つかった最も有名な彫刻は、立方体の玉座に座る女性の神であり、その側面のハンドルは2頭の雌ライオンの形で作られています。同じことが後の古代エジプトでも観察されます。横のエッセンスの象徴として同じライオン、雄牛の頭が、この知識の象徴性の一種の古代の解釈として観察されます。

リグデン: はい、この知識のそのような連想的な解釈は、確かに雄牛を神聖な動物として崇拝していた古代の人々の特徴でした。より正確に言えば、私がすでに話した有形動物の世界の雄牛、牛、同じヘビ、その他の代表的な動物が人々によって神聖なものとされたのは、かつて彼らの例を使って、前の世代が目に見えない構造について連想的に語られたからにすぎません。人間と世界の。植物の世界にも同じことが当てはまります。動物自体、爬虫類、植物はそれとは何の関係もありません。これは、リンゴを取り出して、それを過渡状態にある魂の形と比較することに相当します。魂はほぼ同じで、丸い形をしており、その殻には黄色と赤色が含まれていると言えます。リンゴが太陽の下で果物として熟すように、比喩的に言えば、人が靈的に向上すると魂も熟します。



したがって、この知識の靈的な要素が失われると、先祖の神聖な文書に書かれているように、次の世代にとってリンゴは崇拜される神聖な果物になるでしょう。このようにして、動物の心はその力を確立するために、人間のシステムの中でスピリチュアルなものすべてを具体化します。

以前は、基本的な精神的実践は、現在では原則として、ほとんど指で説明されていました。

つまり、彼らは、人間が日常生活で理解できる、三次元世界の通常の連想例を取り上げました。これは彼が精神的な働きの初期段階を同化して実現するためにのみ必要でした。彼のさらなる精神的発達により、その人は現実の目に見えない側（精神的な世界）にいるという個人的な経験を受け取ったので、その必要性はなくなりました。そして、その現実は人間の言葉では説明できないので、靈的な人々は言葉がなくても分かり合えます。そして、その側面をまだ知らない人は、感情だけで理解できることを論理で理解しようといつも無駄に努めます。後者については、このような物質世界の大まかな連想が与えられました。

そこで、雄牛のイメージの「神聖な」象徴性に戻ります。古代人の連想解釈では、雄牛の目は横のエッセンスの象徴であり、口（過去について話す、またはむしろ「うめいている」）を備えた細長い銃口、つまりバックエッセンス、そして体の上部でした。アーチ状の角を持つ頭 - 別の世界に入る可能性の象徴として、角を立てた三日月の形をした前エッセンス（アラットのサイン）。しかし、雄牛の体には、通常、6本の光線を持つ星のように、6本の線が刻まれた円の記号が置かれています。



後者は、動物の心が優勢な 6 つの物質的次元の象徴です。そして、星の 6 本の光線が水平線で交差した斜めの十字のように見えた場合、これら 2 本の水平線（「マイナス」）だけでも、追加の兆候に応じて、その人の側面のエッセンスの制御、または逆にその活動を示します。ちなみに、雄牛の体は、動物世界の容器の連想イメージとして腹部、または物質世界のキャリア（基盤）の連想概念として背中に特別な強調が与えられました。これらの場所には、適切な標識が設置されていました。その後、宗教が権力と統制の機関として登場すると、古い信仰の完全な破壊が始まり、一部の司祭は真実の知識を隠しながら、雄牛のシンボルを大衆の崇拜のための「神聖な像」に変えました。彼らは自分たちの権力をめぐる闘争の中で、雄牛を擬人化した知識とともに、雄牛を否定的なイメージとして解釈し始めました。

アナスタシア：このように神聖なイメージを連想イメージに置き換えることは、現代の信仰の中でも痕跡を残すことができます。ヒンズー教、ジャイナ教、ゾロアスター教などの宗教では、牛は今でも神聖な動物として崇められています。ヒンズー教ではその肉の使用はタブーであり、私たちの時代の最初の数世紀にインドの支配者たちは、住民による牛の殺害は恐ろしい犯罪であり、死刑に値すると考えていました。私が言っているのは、この動物から出るすべての産物や排泄物が、これらの宗教では依然として「神聖で浄化され」、「あらゆる靈的および身体的疾患に対する万能薬」と考えられているという事実について話しているのではありません。



そして靈的な知識には何が残っているのでしょうか？実質的には何もなく、ただ一般的な哲学があり、それでも普通の動物を尊重するという物質的な偏見が含まれています。その結果、何世代にもわたる人々は、自分自身を靈的に真剣に取り組む代わりに、単純な反芻動物である偶蹄目動物をなだめるようになりました。

リグデン：はい、動物の心は置き換えにおいて強いです。

アナスタシア：彼は人間の意識の中で自分の置き換えをどのくらい早く具現化するのでしょうか、そしてこれらすべては人間社会にどのくらい長く続くのでしょうか。同じ古代ユーラシアの領土に存在したこれらすべての古代文化とその反響は、人々が日常生活よりも重要な精神的な知識を持っていたことを証明しています。上記の文化に加えて、古代に存在し、同じシンボルや記号を持った文化が他にもたくさんあります。たとえば、ハッスナ文化とハラフ文化（紀元前5千年紀、現在のイラク（北メソポタミア）、シリア、トルコの領土。これらの文化はシュメール文明の出現前から存在していました）、ザグロス文化 - 人々の居住地です。ガンジ・デア遺跡、アリ・コシュ（ザグロス山脈の紀元前7～6千年紀、現代のイラン）、スレイマニヤ山脈の麓のメルガル文化（紀元前6～5千年紀、現代のパキスタンの領土）。アナウ文化（紀元前5千年紀、現在のトルクメニスタンのアシガバート市付近）。これはリスト全体ではありません。実際には、実際、ヨーロッパからシベリア、アフリカからアジアに至るまで、当時の人間の居住地としては相当な地域をカバーしていました。そして、どこにでも似たような図形記号、家の壁や食器が豊かに描かれていたのと同じ幾何学的な記号を見つけることができます。



リグデン: さらに言いますが、そのような兆候が、精神的な意味で古代に重要な場所のすぐ近くに位置する地域だけで豊富に見つかっているという事実に注意を払ってください。私が言っているのは、かつて適切な知識を持つ靈的な人々によって特定の働く兆候が活性化され、その影響力が何千年も保存されていた場所のことです。

アナスタシア: これらの場所は異常なエネルギー放出ゾーンではなく、つまり、自然起源のものではなく、特定の作業兆候の活性化によっていつか作られた人工起源のものだと言いたいのですか？

リグデン: はい。サインが一度に活性化された、あなたがリストした場所で起こった出来事（少なくとも利用可能な歴史情報の枠組み内で）、特に精神的な側面を追跡するだけで十分です。

アナスタシア: 一般的にはそうです。たとえば、トリピロス文明を例に挙げると。同じ現代都市キエフは今でも「オープン・チャクラ」、つまり権力の場所と呼ばれています。そして、古代にはロータスの寺院があり、その隣には古代ヨーロッパだけでなく他の大陸でも知られている神聖な兆候やシンボルが豊富にあるトリポリ文明の集落があったことを考慮すると。

リグデン（笑顔で）： そうですね、なぜロータス寺院があったのでしょうか？



アナスタシア: そうですね。確かに、「権力の場所」による比較を続けると、文明の精神的生活の歴史からのかなり興味深い瞬間が強調表示されます。たとえば、ラリッサ市近くのギリシャ東海岸を考えてみると。聖なるアトス山、ハルキディキの山岳半島も近くにあります。結局のところ、今日、ここは世界で最も正統派の修道院が集中しており、最も神聖な神の母の地として多くの人々に崇拜されている精神的な住居となっています。千年以上にわたり、そこでは絶え間なく祈りが捧げられ、古代のしるしや聖母マリアや大天使ガブリエルの像がいたるところにあります。アトス島のヴァトペディ修道院（至聖なる生神女の受胎告知を記念して建立）や聖パンテレイモン修道院（ルシク、ロシコン）の価値はいくらですか？結局のところ、ペヘルスクのアガピットはこれらの古代の修道院の精神的な活動に直接関係していました。確かに、遠い将来に長期的な影響を与える重要な出来事が起こります。

リグデン: そしてそれはすべて、兆候の発動から始まりました。

アナスタシア: はい、ギリシャと記号は切り離せない概念です。過去（紀元前3千年紀から紀元前2千年紀頃）のバルカン半島の領土は、エーゲ海、またはクレタ・ミケーネ文化とも呼ばれる文化の分布地域でした。これも神秘的な文化の一つです。芸術の記念碑から判断すると、そこでは女性の原則も尊重されており、文字には記号やシンボルがたくさん使われていました。私の知る限り、後にキプロス文字の元となったキプロス・ミノア文字はまだ解読されていません。そして、キプロス語の手紙の兆候は次のものに非常に似ています

トリポリの兆候と他の古代文化の兆候。つまり、標識は残っていましたが、本来の意味は失われていました。



図 46。キプロス人の文字の痕跡

(紀元前 11 世紀、地中海東部に位置するキプロス島の住民の古代文字)。

リグデン:かつてはすべてのものに 1 つの根があり、単一の言語と共通の記号がありました。しかし今では言語は忘れられ、標識はそのまま残っており、人々だけがこれらの標識に関する知識の精神的な要素を失っています。しかし、人間におけるサインの影響力の強さの記憶は遺伝子レベルで残っていた。各人格の好み、彼が直感的にどの象徴に最も注意を払うか、日常レベルであっても彼が自分を取り囲む快適な「装飾品」に注目すると、すべて同じ基本的な記号とシンボルがわかります。家庭用品、住居の内外装、さらには身の回りの私物にどのような「模様」があるのかを観察するだけで十分です。そして、家庭だけでなく、職場（企業や企業の看板やシンボル、さまざまな即興アイテムのロゴ、インターネットサイトなど）でも使用されます。人々にとって、それはあまりにも普通のことなので、尋ねることさえしません。彼らの欲望の根がどこにあるのか、特定の記号やシンボルに対する潜在意識の好み、なぜ彼らがそれらに囲まれているのか、そしてそれが彼らの人生にどのような影響を与えるのかという問題です。



リグデン: 自分自身を注意深く観察すると、楽しい発見が生まれます。人は、以前は他の人の中にしか簡単に気づかなかつたことがあることを自分自身の中で発見します。

アナスタシア: はい、そのとき、それは私にとって本当に発見でした。そのおかげで、この点でも自分の人生を正すことができました。そして今、あなたは、活性化の場所を追跡するというまさにそのアイデアに直接私を魅了しました古代から始まった標識。それを分析すると、モザイクの断片のように、すべてが所定の位置に収まります。たとえば、ロシア、ウラル山脈の南部。南ウラルには標識やシンボルだけでなく、神秘的で異常な場所も豊富にあります。チェバルクルからそれほど遠くない同じ場所で、考古学者たちは、会話の中ですでに触れた、単一の文化を持つまさに「都市の国」を発見しました。

これらは、現在のチェリヤビンスクとオレンブルク地域、バシコルトスタン（ロシア）、カザフスタン北部の領土に紀元前4～3千年紀に存在した古代都市です。



それは実際、古代エジプトが存在していた時代の文明全体です。これらの都市はもともと綿密に計画され、複雑な建築設計をしていました。さらに、長方形に加えて、それらの多くは明確な円形をしており、他のものは卵の形をしていました（半楕円形、明らかに、多くの古代の神話で知られている宇宙の卵との平行線が描かれていました）人々）。

一般に、西シベリア、南ウラル、中央アジア西部の広い地域をカバーするシベリアの古代文化には、象徴的な象徴性が非常に豊富であることに注意する必要があります。しかし一方で、それは驚くべきことではありません。結局のところ、シャンバラの敷居は遠くありません。

リグデン：まさにその通りです。それらの場所の象徴的な象徴性は、研究者にとって最も豊かで最も興味深いものです。しかし、それでも、少なくともそれについての一般的なアイデアを持ち、根がどこから生えているのかを理解するには、記号とシンボルを比較するために、ロシアの西シベリアからインドの山々まで、より広い領域をカバーする方がよいでしょう。イランのザグロス山脈からモンゴル高原まで。

アナスタシア：はい、考古学的発見の独自性と異常な場所の存在という点で、アルタイだけでも何らかの価値があります。ザグロス山脈（現在のイランの領土）は、何千年もの間、その自然だけでなく、人間の秘密、シンボル、兆候を保持している何キロにもわたる鍾乳洞の存在を考えると、非常に神秘的です。そして、それらの場所に住んでいた何世代もの人々の精神的な歴史を考慮すると、非常に興味深い比較が得られます。



ザグロス山脈は西側からメソポタミアの谷へと出ています。紀元前4～3千年にシユメールの都市国家があった場所です。e.繰り返しますが、シユメール文化は、他の古代民族のものと同じ基本的な記号やシンボルと関連付けられています。そして、洪水や楽園の島など、彼らの神聖な物語の一部は、後に聖書に組み込まれる文書を編纂する際にユダヤ教の司祭によって借用されました。もちろん、主要な資料としてのシユメール文明への言及はありませんでした。



図47。シユメール文明の痕跡

(紀元前3千年紀、南西アジア)

そしてもちろん、ザグロス山脈のすぐ中に位置する古代ペルシャのこれらの領土（紀元前1千年紀）でアフラ・マズダの教義を説いた預言者ザラトゥシュトラを思い出さずにはいられません。実際、この教えに基づいて聖典『アヴェスタ』やゾロアスター教が生まれ、その地のみならず後世の多くの人々に大きな影響を与えました。



図48。古代の浅浮き彫りに描かれたアフラ・マズダーのシンボルのイメージ。

私の知る限り、ゾロアスター教のこのイデオロギー概念はかつて東洋で非常に人気があり、マニ教、ミトラ教、ユダヤ教などの大衆宗教の形成に影響を与えたほか、急速に影響力を広げたキリスト教の一派カタリ派にも影響を与えました。11世紀から13世紀の西ヨーロッパで、ローマ・カトリック教会が「危険な異端」とみなした宗教的信念。

したがって、この一連の発見は回を重ねるごとにますます興味深いものになります。さらに、スライマニヤ山脈（現在のパキスタンの領土）の麓にあるメルガルの考古学文化。

リグデン：インダス川流域のヒンドゥスタンの古代文化ですか？そうそう、サインの活性化という点では非常に興味深い時代でした。

アナスタシア：あなたがかつて世界の交差点の1つについて私たちに話してくれたことを覚えています。アジアの世界最大の山脈の位置、つまり惑星パミール、ヒンドゥークシュ、カラコルムの最高峰の山系の合流点です。



そして、この物語の文脈の中で、あなたは 5,000 年前、つまり紀元前 3 千年紀にそれらの場所の近くに存在していた高度に発達した文化の話題に触れました。あなたのこの情報に非常に興味をそそられたので、この問題についてさらに詳しく調査してみました。現在、考古学者は条件付きでこの文化をインドまたは別の名前、南アジア西部、パキスタン（パンジャブ西部）のハラッパの発掘現場でハラッパ文明と呼んでいます。

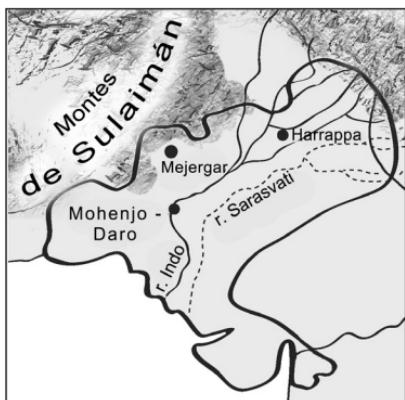
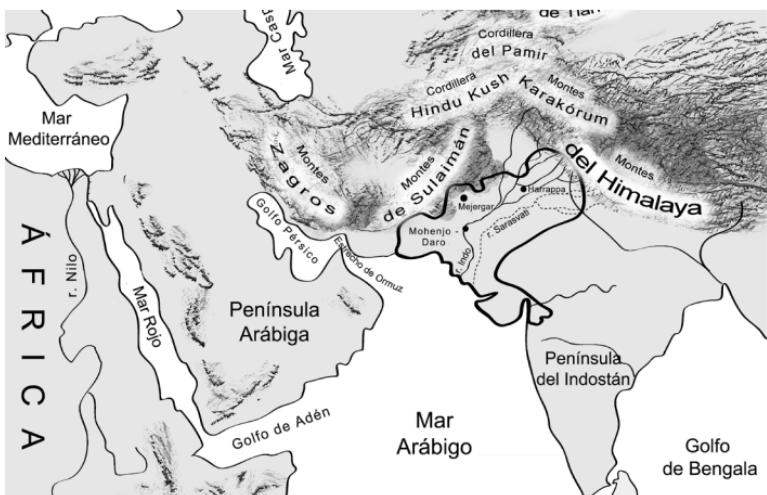


図49。ハラッパ文明の位置図



(紀元前 3 千年紀、南アジア)。この地図には、古代文明の条件付き境界線、その主要中心地の一つであるハラッパ、メルガル、モヘンジョ・ダロ (発掘現場にちなんで名付けられた)、インダス川、かつての聖なる川サラスワティの河床 (点線でマーク) が示されています。)、神話によれば、これは女性の神を擬人化したものです。

サラスワティ川は古代の伝説的な川で、その周囲の地域は神聖視されていました。伝説によると、サラスヴァティ川とドリシヤドヴァティ川の間には、神々によって創造されたヴェーダ教とバラモン教の神聖な国、ブラフマヴァルタ (サンスクリット語から翻訳されたもの、ブラフマの国) がありました。そこは、かつてバーラタ族が暮らし、ヴェーダの聖典が編纂された「聖地」と考えられていました。

全体として、私はこのかなり進んだ文明に非常に感銘を受けました。かなり広大な領土 (当時の他の古代国家よりも大きかった) に数千年にわたって存在し、集中化された都市構造を持ち、さまざまな人種や国籍の人々が住んでいることを考慮すると、数千年にわたって安定した不变の文化を持っていました。そこには。私たちがソ連でやったのと同じように。ただ、連合とは異なり、ハラッパン文明の住民は靈的な知識を持っているようで、その情報は多くの人々に知られていました。あなたが当時私たちの注意を引いたハラッパン (インド) 文明は、シュメール人や古代エジプトの時代、アーリア人がそれらの土地に到着する前、神聖なヴェーダのコレクションが作成される前から存在していました。しかし、この文明の人々が持っていた知識は驚くべきものです。あなたの情報を聞いて、まるで多くの歴史的、考古学的な報告に目が開かれたようで、なぜ考古学者がこのような明白な事実を認識しないのかさえ驚きました。



発掘調査中（古代ヨーロッパのトリポリ文明や西アジアのチャタル・グユクでも）、多くのテラコッタの女性像がそこで発見されました。これは、母なる女神への崇敬、女性原理、つまり創造力を示しています。アラット。考古学者らは、ハラッパ文明が存在した場所で、井戸と清め場を備えたいいくつかの大きな「祭壇」を発見した。実際、これは、靈的な信仰を持つ人が宗教儀式中に入浴するときに、水の助けを借りて特別な魔法の変化が起こるという知識がずっと前に知られていたという証拠です。

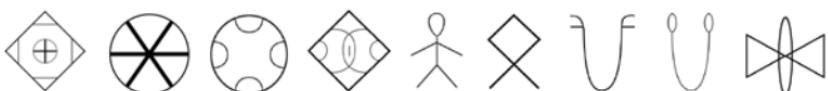


図50。ハラッパ文明の痕跡

（紀元前 III ~ II 千年紀、南アジア、インダス渓谷）。

しかし、最も驚くべきことは、もちろん、まだ解読されていないハラッパン文字です。科学者たちはシュメール人にも同様の兆候をいくつか発見し、ヒッタイトの象形文字に近いという意見を表明している。さらに、ハラッパン文化の約 50 のシンボルがイースター島のシンボルと似ていることも発見されました。ここは南太平洋、実際にはイースター島そのものであり、古代ハラッパ文化の拠点であるインドとパキスタンはどこにあるのでしょうか?! それらは 13,000 キロメートルの距離と数千年の時間によって隔てられています。これは、これらの記号やシンボルが異なる時代に世界の異なる地域で知られていたことを示唆しています。

リグデン：その通りです。世界と人間についての基本的な知識を含むこれらの記号やシンボルは、さまざまな時代に現地の人々が解釈に独自の色を与えたにもかかわらず、ほとんどすべての大陸に存在したと私はすでに述べました。



アナスタシア: 私の意見では、いくつかの兆候の重要性は、彼らにとって一種の「狩猟」のもう一つの事実を証明しています。たとえば、イースター島の古代文字の物語を考えてみましょう。しかし、この地域では、記号や記号の知識、そして文字でのそれらの使用はごく最近、オランダ船で航海する人々の形で「西洋文明」が島に侵入した 19 世紀半ばに消滅しました。そしてスペインの船。島を訪れたカトリック宣教師は、この島の珍しい文字について世界に伝えました。イースター島の住民は、ほぼすべての家にある木の板に特別な標識を付けて記録を残しました。しかし、ヨーロッパ人にイースター島のしるしを公開したこの宣教師とその追随者たちは、同時にこの文書を破壊し、異教の異端として燃やすためにあらゆることを行いました。そして、このごく最近存在した文化には今何が残っているのでしょうか? 数百の巨大な彫刻 - 複数階建ての建物ほどの高さ、重さ20トンの頭がイースター島中に点在しており、数十枚の板が使われています。奇跡的に生き残った文字の記念碑、碑文のある杖と胸飾り。さらに、後者は世界中のさまざまな博物館に点在しています。これらのしるしやシンボルについて学んだ世界の祭司たちは、それらが実際にはかつて過去の知識の惨めな残存物であったにもかかわらず、それらを破壊するためにあらゆる手段を講じたようです。

リグデン: そうですね、アルコンは眠らずに行動します。すでにそうなっている人ですが、彼らはサインとは何か、そしてさらに、活動中の活性化されたサインが何であるかを理解しています。



アナスタシア: それで、最も悲しいことは、これが知識の完全な破壊を伴う孤立したケースではないということです。20世紀初頭、ヨーロッパの民族学者が南アフリカを旅しました。ドラゴン山脈（ブッシュマンが岩碑を残した山そのもの）の地域に滞在していた彼は、バソト族の村にたどり着きました。彼にとって驚いたのは、茅葺き屋根の円錐形の日干しレンガの家の壁すべてがさまざまな色の装飾品で描かれており、家の所有者が注意深くそれに従ったことです。それは、装飾品の象徴的な象徴的な細部のそれぞれが何かを意味する、この人々の文章であることが判明しました。民族学者は言語学者の注目を集めるために、専門誌の一つに自分の発見を発表した。しかし、彼らが言うように、それに応じて沈黙します。そして何年も後、専門家の一人が偶然このメッセージを発見し、科学者のグループがこの珍しい文字を研究するためにその地域に行つたとき、「誰か」がすでに真剣にメッセージの根絶に取り組んでいたことが判明しました。この装飾された言語はバソト族の意識から来ています。

リグデン（くすくす笑い）: そうですね、なぜ「誰か」なのでしょうか？その民族学者の出版直後、他の「専門家」がドラケンスバーグ山脈地域に緊急到着した。結局のところ、当時バソト人はイギリスの保護領下にありました。「フリーメーソン」に操られていた英國当局は、この事件が起きるまではこの人々の問題にほとんど干渉していなかった。アフリカの人々に対する彼らの強制的な「保護」は、ダイヤモンド鉱山、つまりそれらの場所からそれほど遠くない場所で発見されたダイヤモンドを含むキンバーライトのパイプとより関連していました。



しかし、この人々の象徴的で装飾された文字に関する情報が伝わるとすぐに、「フリーメイソン」は南アフリカの同じ場所にダイヤモンドが存在することに一時よりもはるかに早く反応しました。

そこで、カトリックの宣教師として到着したこれらの「専門家」たちは、直ちにこの人々のためにラテン語に基づいた新しい文字（シスト）を作成し、学校を開き、この文字と英語を教え始め、新しい世代を彼らの言語と文字から強制的に引き離しました。先祖。言語学者がそこに到着したとき、彼らは英語とシストしか学ばなかったため、70歳の老人でさえ父親の手紙をもう覚えていないことが人々の頭でいっぱいになった。その結果、現在、地元住民は祖先の装飾品を盲目的に模倣し、その本当の意味を理解せず、変更、簡略化して、こうした「地元民族の独自文化」で外国人観光客を呼び込むことをベースに、副収入を得る目的で家にペンキを塗ることが多くなっている。」そして彼らは、自分たちが失った靈的知識の基盤が何なのか、なぜ今日も同じ外国人が自分たちとその支配者をいとも簡単に支配し続け、国内で失業、飢餓、反乱、政変を引き起こしているのかさえ理解していない。

アナスタシア: そうですね。アルコンからの使者が諸国民に対し、記号は原始的な言語であり、記号にはそれほど重要なものは何もなく、単なる民間伝承であると告げる理由は理解できます。人々が記号を日常的な意味で解釈するほど、アルコンにとっては良いことになります。誰も核心に到達しません。そしてアルコン自身も、靈的知識を破壊し、創造的な記号やシンボルを人々の記憶から取り除くためのそのようなプロジェクトに資金を惜しみません。



リグデン: そうですね、アルコンに関しては明らかです。しかし、国民自身、その大多数がアルコンにそのようなことをするのを許しているのは悲しいことです。

アナスタシア: イースター島についてもう少し。地元住民は今でも、いくつかの石像が置かれている儀式用の台（「アフ」）が、目に見える世界と目に見えない（異世界）の世界を繋ぐものであり、石像（「モアイ」）自体に超自然的な力が宿っていると信じています。先祖の力。信念によれば、後者は自然現象を調整することができ、それに応じて好ましい結果、つまり人々の繁栄につながると考えられています。

リグデン: そこには超自然的なものは何もありません。かつてここに住んでいた人々は、特定の兆候がどのように、そしてなぜ活性化されるべきかを知っていたというだけです。もし彼らの子孫が彼らに与えられた知識を失わなかったなら、現在その島に住んでいる人々は自分自身と他の世界との基本的なつながりをもっと理解するでしょう。通常、知識と伝説を子孫に伝えるための年代記の場合、知識のある人々は石像に標識を付け、特別な象徴的な意味を持つ適切な入れ墨で身を飾ることがよくありました。無知な人々にとって、これらはまったく意味のない絵でしたが、彼らの意見では「おそらく何か特別なことを知っている」人々に対する敬意と恐怖を引き起こしました。もちろんその後、普通の模倣が始まりました。



アナスタシア: はい、でもイースター島にある石の頭や台には標識がありません。

リグデン: それで、これらの頭には継続性がないなんて誰が言ったの? そうです、彼らにそれらの場所を深く掘らせてください、そうすれば彼らの目から隠されているものを見つけるかもしれません。しかし、それは問題ではありません。人は記号や記号で何か面白いものを見つけたとしても、それをどうするのでしょうか? 物質的な思考が優勢で知識がないため、彼らはせいぜい、より多くの観光客を島に引きつけてお金を稼ぐために、メディアでセンセーションを起こすだけです。それで全部です。スピリチュアルな探求者にとって知識は、それを活用して自分自身を向上させ、他の人々にスピリチュアルな援助を提供できる場合にのみ価値があります。

アナスタシア: それは否定できません。ところで、あなたの言葉は、私がこの会議に持って行ったハラッパ文明の考古学的発掘の資料を裏付けるものです。彼らが言うように、発見された標識、シンボル、ユニークな工芸品を見つけてください。しかし、現代人によるそれらの解釈には、望まれることがたくさんあります。私は、モヘンジョ・ダロ (現在のパキスタンのインダス渓谷で発見された、ハラッパン文明のかつて最大の都市の遺跡の条件付き名称) の遺物を含む考古学上の発見物の写真を描画しました。たとえば、これがあなたが話していたソープストーンのシールです。男性が壇上に蓮華座に座っています。もちろん、この写真を初めて見たとき、5,000 年前の人々も現在と同じ靈性修行を行っていたという事実に衝撃を受けました。



確かに、このアザラシや他の発見物に関する博物館の説明を読んで、私は再び悲しそうに笑みを浮かべました。結局のところ、実際、この説明はそれを編集した人々の世界観を反映しています。しかし、おそらく私自身も、この精神的な実践の存在を知らなかったとしても、明らかに、これらの科学者の立場にいたので、同じように推論したでしょう。考古学者はこの像を次のように説明しています。3つの顔を持つ裸の男性神がヨガのポーズで玉座に座っています。彼の手にはブレスレットがあり、頭には複雑な頭飾りがあり、その上部は「イチジクの枝」のように見えます。印章に描かれている人物の頭上にこのような「草木」が生えていることから、これは自然に対する「三面神」の力を象徴しているのではないかなど、さまざまな推測がなされています。



図51。印章に精神的な修行を行っている人の印章の画像
(ハラッパ文明、紀元前 III ~ II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。



リグデン: この印章を作った人が、遠い未来から「学識ある人々」のそのような解釈を聞いたら、それを発見したときと同じくらい驚くだろうと思います。遠い未来、文明は精神的な発展においてどれほど衰退し、その「最高の色」である先進的な人々、つまり「学識ある人々」がこのように推論したのでしょうか?!人生の主な目標である人の精神的解放に貢献するものはどうして忘れることができるでしょうか?したがって、古代の巨匠にとって、現代人のそのような解釈は驚くべきことではないでしょう。

この印章に関して言えば、精神的な解放につながる特定の基本的な瞑想テクニックや精神的な実践を示すサインやシンボルが古代に秘密で書かれていることを知っている人にとって、これらの指定は開かれた本のようなものです。ここでは、その人が蓮華座に座っていることがはっきりと示されています。これは裸の男神ではありません。これは瞑想の始まりを示しています。下部チャクランの活性化 (エネルギーの急増とその動き) です。エネルギー経絡を通して)。「ひづめの上の玉座」は、この人が動物的な性質よりも靈的に高いことを示しているだけです (後者の象徴はひづめです)。さらに、場合によっては、そのような従来のグラフィック表示 (瞑想者が座る小さな高さ) は、この精神的な修行を一緒にを行うときのグループのリーダーを示す場合があります。4つの顔 (目に見える3つの顔と目に見えない1つの顔) は、このスピリチュアルな実践のレベルを表しており、4つのエッセンスの完全性が目に見えない世界の認識にすでに使用されています。



ちなみに、古代では、神話や古代インド文明における「神々」のイメージなどからわかるように、三面性はほとんどの場合、四面性（目に見えない第四の面）を暗示する形で描かれていました。彼の頭上の標識は決して「イチジクの枝」ではありません。これは、ノコギリソウのチャクランからのエネルギーの放出と、この瞑想中に示された作業サインの活性化を示しています。

アナスタシア：はい、ここでは、サイン自体も、それを活性化できるこの人の精神的なレベルについて語っています。

リグデン：もちろん、これは簡単な兆候ではありません。上部の碑文は、知識のある人にとって、この精神的な実践とその目的を示すものです。

アナスタシア：実際、ここにこの精神的な実践を識別するすべての兆候があります。斜めの十字架は、特定のアクセントを備えた4つのエッセンスの象徴です。魚のサインは、変性意識状態への没入を意味します。エネルギーの動きを示す波動記号。書くために様式化されたアラットの力のしるし。実際、古代の岩の碑文と同じです。ここで、たとえ人々が物質的な理解を最終的にこれらの兆候に身に着けたとしても、画像自体は新しい世代の知識のある人々にとって基本的な精神的な情報を持続します。

リグデン：まさにその通りです。

アナスタシア：ご存知のとおり、ハラッパ文明についての情報を探していたとき、思いがけず他にも多くの興味深い事実を見つけました。あなたが言ったのと同じソープストーンシールを用意してください。



ところで、読者の皆さんも、かつて私と同じように、なぜ古代に印鑑がステアタイトで作られることが多かったかを知りたいと思うと思います。結局のところ、考古学者によって発見された「旧石器時代のヴィーナス」の女性の儀式用の置物がこの岩から作られていたことが証明しているように、この材料は旧石器時代に遡って使用されていました。

リグデン: この資料は確かに、さまざまな時期に人々の間で広まりました。古代インドや古代エジプトではステアタイトから魔法の人形が作られ、伝説の中でそれを神聖な特性を備えた石として説明しています。ウラル山脈、アジア、アメリカで使用されていました。古代では、それは「炎を征服し、真っ赤に焼けた大空さえもその内部の形に従わせた」ため、「燃える石」とも呼ばれていました。これは神聖な哲学とみなされていました。そしてもちろん、この石は「空」ではありません。ステアタイトは本当にユニークな特性を持っています。加工しやすい（タルク、マグネサイト、亜塩素酸塩を含む）ことに加えて、強度が高く、熱容量と熱伝導率が高く、化学薬品や音響の影響に対する耐性（共振せず、音を伝えません）を備えています。一般に、今日彼らが言うように、ソープストーン（地質学者は今ではそう呼んでいます）は優れた断熱特性を持ち、ポジティブなエネルギーの源です。加熱された状態でこの状態では、人自身の熱放射の周波数と一致し、その量は 8 ~ 9 ミクロンの熱波を放出します。また、人間の健康にプラスの影響を与える多くの特性もあります。これは古くから知られていたため、日常生活でも魔術でもよく使られていました。



さらに、この岩のユニークな特性により、ステアタイトから作られた印鑑は焼かれることなく、十分な強度があり、何千年も保存されていたため、そのような知識を伝えるために使用されました。

アナスタシア: そして、これがモヘンジョ ダロで発見されたステアタイトの印象のコピーです。あなたは一度彼のことを私たちに話しましたね。これは、グループ瞑想「ファイアロータス」を行うテクニックの知識を実際に示しています。印刷物から判断すると、瞑想のリーダーは精神世界とつながりのある女性です。アラトラのサインが彼女の頭に置かれています。



図52。集団瞑想の印章の画像

(ハラッパ文明、紀元前 III ~ II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。

この封印は科学書では7人の人物の行列による犠牲の儀式として説明されていますが、そこに神が置かれ、その上に立っているのです。神聖な「イチジクの木」。



靈的な知識、神聖なシンボルやしるしの基礎が人間社会で失われると、物質的な世界観の観点からそれを理解することが困難になることは明らかです。ほとんどの人にとって、今でも、この状況は世界に対する現在の理解を超えるものではありません。

リグデン: 誰もが人生を通じて個人的な経験という荷物を抱えています。その内容によれば、人は世界を判断しますが、実際には、これらは自分自身についての判断です。物質的な世界観の根拠は、魂をさらに奴隸にし、重荷を重くして、人を囚人のように、心の中にこれらの厄介な束縛を引きずることを強います。精神的な世界観は、人体の物理的な死の後でも失われることのない精神的な世界の価値観のみから、魂にインスピレーションを与え、個人的な荷物の形成を改善および促進します。

アナ斯塔シア: 人が個人的なスピリチュアルな経験と知識を持ち、自分のスピリチュアルな成長に全責任を負うことがいかに重要であるかを改めて確信しました。結局のところ、人生はとても早く過ぎます。 ハラッパ文明では、文化の名残から判断すると、人々はこのことを確実に知っていました。これは、あなたがかつて 4 つのエッセンスについての瞑想の象徴的なスキームとして言及した印鑑の画像です。ここでもまた、蓮華座に座る三つの顔を持つ男性が描かれています。ノコギリソウ・チャクランの領域にある瞑想者の頭の上には、アラート、アラットラの兆候の略図である蓮の花の象徴的な描写があります（古代エジプト人も花を描きました）。そしてその隣には、シンボルや標識の形の碑文があります。中央の像の側面には 4 匹の獣が描かれています。



図53。4つのエッセンスについての瞑想を描いた印章
(ハラッパ文明、紀元前 III-II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。

そしてなんと4頭の動物です：ゾウ、トラ、バッファロー、そして一角のサイです。象は横に動いて描かれています - 背後エッセンス、人のゆっくりとした強い過去の象徴です。攻撃的なトラは、攻撃的な右のエッセンスの象徴です。あからさまな水牛は左の本質の象徴であり、古代インドと東南アジアの同じ象徴性を考慮すると、水牛は超自然的な力、男性原理の象徴です。しかし、古代インダス民族の神話によれば、一角のサイは強さ、洞察力、幸福の象徴であり、虎さえも恐れる恐れを知らない生き物です。つまり前エッセンスの特性を備えている。そしてここで单一の角の象徴性が示されるのは偶然ではありません。

ところで、ハラッパ文明の印章には、神聖な（スピリチュアルな）道具の隣に、一本の角を持つ神話上の神聖な生き物（学者たちはユニコーンと呼んでいました）が共通のモチーフとして描かれていることを知って驚きました。私にとって、これは非常に興味深い発見でした。この生き物についてあなたが以前に話してくれたことをすべて考慮すると。



リグデン：古代以来、ユニコーンは前エッセンスのシンボルの1つであり、精神的に純粋な人が自分の魂とつながり、輪廻転生から抜け出すのを助けています。彼は一方向、つまり精神的な方向への願望のみを擬人化したため、彼は自分自身への精神的な取り組み中に、その人の特徴である純粋さ、高貴さ、知恵、強さ、勇気、完全な善良さ、そしてまた、次のような資質に恵まれました。アラットの力 - 女性の始まりの神聖な純粋さ(聖母とユニコーンについての神話)。



図54。原始インド文明の印章にあるユニコーンの形のシンボル



(ハラッパ文明、紀元前 III-II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。シールには、中央に円が付いた2匹のユニコーン(首と角が螺旋構造を示して描かれている)が、円が付いたアラットの様式化された象徴的なサイン(アラトラシンボル)を形成し、その上に菱形の構造と7つのユニコーンが描かれています。大きな葉(人の精神的な変化と7次元への出口を示します)と、菱形の側面にある2つの小さな葉。

シールの下隅には、内側に球が入ったひし形のサイン(ひし形のサインは変容のしるし)も、生涯に靈的解放と7次元へのアクセスを達成した人を示します(角に4つの円があります)菱形の4つは完全に制御された4つのエッセンスを示し、内側の円は6次元世界のシンボルとして描かれており、このシンボルは内なる知識を通じて6つの世界すべてを人が理解していることを示しています。

シンボルの歴史をたどると、たとえば、シュメール人はユニコーンのイメージを円(魂)に関連するシンボルとして置きました。研究者はこれを「月のシンボル」、また、女神の属性とも解釈しています。精神的な純粋さの概念。アッシリア人は生命の木の隣にユニコーンを浅浮き彫りで描き、エジプト人はその像に最高の道徳的特質を込めました。ペルシア人は、彼らの神聖な知識によれば、ユニコーンは動物(本来は4匹)の中で「純粋な世界」の代表である完全なものであり、彼の角がアーリマンを倒すことができる唯一の力であると考えていました。あるいは、ロシアの古い靈歌集『美しい世界』(13世紀に当時の宗教聖職者によって発禁となった本)に記録されている古代スラブの伝説や叙事詩を取り上げてみましょう。そこではユニコーンがインドリク王と呼ばれています。

獣(インドラ)。



「我々には野獸のインドリクがいる、
あらゆる野獸の中の野獸だ、
そして彼は野獸としてダンジョンを歩き回る、
彼は白い石の山々を通り過ぎ、
小川や小川をきれいにします。
この獸が喜ぶとき、
宇宙全体が揺れ。
すべての動物は彼を崇拝し。
彼は誰も傷つけません。

アナスタシア： はい、私は宇宙論、社会学、スピリチュアルな知識など、古代人の世界観を描いたこれらの叙事詩に触れました。しかし、私がそれらの精神的な本質を理解し始め、小麦ともみがらを区別することを学んだ後、それらは私にとって楽しいものになりました。たとえば、インドラについては、神聖な山に住み、青い海で食べたり飲んだり、角のようにダンジョンを歩き、空を通る太陽のように言われています。神聖な山が別の次元へのアクセスの象徴であることを考えると、水は精神的な世界を意味し、インドラが「ダンジョンを歩く」ときのスパイラルホーンは、「トンネル」がしばしばねじれている「トンネル」を通るアストラルトラベルを意味します。スパイラルで、とても面白い本が出ました！

リグデン： スラブ人の祖先が昔持っていたこれらの叙事詩の初版を見たら、そのような象徴を通してそこに込められた真理、精神的な知識の単純さに驚かれるでしょう。しかし、残念なことに、現代人に伝わるバージョンでは、これらの伝説はほとんど残されていません。そしてここには、知識の伝達において何世紀にもわたって蓄積された歪みだけが存在するわけではありません。



残念なことに、これらの伝説は、キリスト教を広め、「異教」、つまり原始スラブの信仰を破壊し始めたとき、完全に改変され、情報を置き換え、書き直し、古いスラヴ語の記録を記した白樺の樹皮の手紙を完全に焼き払った。その後、キリスト教のイデオロギーに偏った深刻な置き換えが行われました。

たとえば、以前のインドラの形容詞の 1 つは「遠い」でしたが、これは古ロシア語で「サラブレッド馬、競走馬」を意味します。キリスト教の牧師たちはこれを利用し、伝説によれば、ユニコーンはロシアの叙事詩に登場する聖なる山ではなく、キリスト教の伝統によればパレスチナにある聖なるタボル山に彼らと一緒に住み始めたという。キリストの変容の場所と考えられています。しかし、「遠い」という形容詞について私は何を言いたいのでしょうか。古代スラブ人はこの言葉をインドラ（ユニコーン）に関連する「馬」の意味で使用しましたが、これは人間による知識の解釈でもあります。元の伝説によると（かつてはスラブ人の祖先が住んでいた地域だけでなく、古代インド、古代イラン（ザグロス山脈））正面の本質、その象徴であるユニコーンは、ファルノ、または現代の用語では聖杯と関連付けられていました。ファルノ（東のファーン）は、輝く始まり、強さ、力、力を倍増させる神の火として指定されました。ファルノは人の魂が永遠の命につながる橋を渡るのを助けると述べられました。ここで、これらすべてをあなたがすでに持っている知識と比較してください。

アナスタシア：私にとって、この情報は、あなたと会うたびに、新たな発見です。さて、まず最初に、大きな太陽のシンボル（円）が付いた2つの木製の馬の頭が古代ロシアの小屋や聖域に置かれた理由は明らかです。



ちなみに、この伝統はルーシだけでなく、バルト三国やヨーロッパの古代の人々の間でも広まっていました。それが様式化されたアラトラのサインであるという事実とは別に、神聖な知識の意味でも、ユニコーンとファルナに関する古代の伝説を解釈するための選択肢の1つであることが判明しました。第二に、もしこの伝説がインド・ヨーロッパ語に共通のルーツを持っているのであれば、その反響(そしてその結果としてその知識の残骸)は、古いロシアの叙事詩だけでなく、古代イランや古代インドの文学記念碑の中に探求されなければならない。たとえば、同じ古代インドにおいて、最も人気のあるヴェーダの登場人物はまさにインドラ神でした。

古代インド語から翻訳された「インドラ」という言葉の語源は、精神的な力の兆候を意味します。興味深いことに、この神は多様な姿をしており、馬の毛に変わることができるという事実への言及があります。神話の中でインドラ自身は、雨(水)に関連し、川や流れを解放し、水路を突破する天の神として機能します(スラブのユニコーンインドリクのように)。彼は「強さの息子」だ ソーマ酒飲みで、フレンドリーで、いつでも助けてくれます。そして最も重要なことは、伝説によれば、インドラが単独で戦い、ドラゴン ヴリトラ(混沌の悪魔)を倒すことであり、彼の勝利は不活性な混沌に対する動的な原理(アラトラの力)の勝利と同等であるということです。(動物の心)、「広い空間」のヴェーダ世界の確立につながります。この決闘が伝説の中心的なプロットです。古代インドの「Vrtra」(ヴィトラ)が文字通り「渋滞」、「障壁」と翻訳され、インドラが精神的な力を擬人化していることを考慮すると、実際、これはすべて動物の性質、精神的な勝利を克服することを意味します。自分自身に対する人間の、彼の解放。



リグデン：さらに、インドラは 4 つの基本的な方向の 1 つの守護者であると考えられています。世界の配置についての知識に関する言及もあります。特に、ヒンドゥー教徒の考えによれば、メル山の頂上にある楽園であるスヴァルガ(天国)をインドラが統治しているということです。そして今、スラブ・ロシアの神話には、天の神、天の火、ダジボグとスヴァロジチの父であるスヴァログ神がいたことを思い出してください。12 世紀初頭の全ロシアの年代記『イパチエフ年代記』に収録されている『過ぎ去った年の物語』には、彼へのそのような言及が残されている。太陽は王、スヴァロゴフの息子、ハリネズミは王である。ダジボグ」。

アナスタシア：そう、根は同じなのよ！結局のところ、それは寓意的ではありますが、それは7つの次元、つまり自分自身に対する人の精神的な働きについて語っています。叙事詩によれば、同じスヴァローグは空の擬人化であり、「雲の暗闇の中で天の火(稻妻)の炎を燃やした」。そして、「雷の矢で雲を打ち破り、太陽の灯をともし、闇の悪魔によって消え去った。」ここでスヴァローグが前エッセンスの役割を果たしており、雲は動物の性質からの思考であり、ランプはサブパーソナリティの「暗闇によって消滅した」魂であることを考慮すると、古代ロシアの神話は非常に興味深いものになります。

リグデン：それでもちなみに、同じ世界の起源を解説する『ピジョン・ブック』には、アラテュル石についても言及されています。伝説によると、空の神スヴァローグの法則について「語る」サインが刻まれていると信じられています。



古代ロシアの信念によれば、アラティル石の下から生きた水の泉が湧き出し、全世界に食物と癒し(創造)をもたらし、その下には終わりのない力が隠されている、そして、赤い乙女ザリアが座っているのはアラティルの石の上であり、彼女は常に世界を夜の眠りから目覚めさせます。さて、これらすべてを、神聖で創造的な女性であるアラートの力、そして宇宙の発展と人格の精神的な目覚めと魂との融合の両方におけるアラートの重要な役割についてのアラートラのサインに関する知識と比較してください。ちなみに、アラティル - これは、古代のスラブ人の祖先が精神的な伝説の中で、神から来るアラートの力、そしてこの力を蓄積し、精神的な労働を通じてそれを自分の中で増やした人をどのように呼んだのかです。

アナ斯塔シア: はい、スピリチュアルな知識があれば、多くのことが明らかになります。あなたは自分自身だけでなく、さまざまな文化の精神的な一粒についても理解し始めます。先ほど触れたハラッパ文明の印章のような象徴や知識に富んだイメージであっても、問題の物質的な側面だけしか見ていない研究者は残念に思います。ちなみに、この男性が蓮華座に座り、側面に人の4つの本質を表す4匹の動物と頭の上にサインを持った像は、科学文献では三面神の像として表現されています。頭の上に花があり、側面には動物がいます。したがって、科学者たちは、彼ら自身の説明によれば、これが牛や動物の守護神であると結論付けました。これが、動物の心の意志の立場から、「物質的な観点」から世界を認識することを意味します。

リグデン: そうですね、オブザーバーの支配者を切り替えて、問題の根本を確認したいという欲求はあるでしょう。



知識はシンボルやサインに固定されており、昔も今も存在しますが、秘密のベールの背後にある精神的な探求者だけが真実を見ることができます。

アナスタシア: このコピーには別の興味深い画像があります。瞑想している人の側面には、その場所に住んでいた野生動物、つまりそれの人々にとって理解可能な例が描かれており、4つのエッセンスを明確に特徴づけています。そして、特徴的なひづめを持つ「玉座」の下には、飼いならされた動物であるヤギが描かれています。古代インドでは、ヤギは豊饒、活力、食物(肉、羊毛、牛乳)の世話の象徴でした。神聖なヴェーダには、火、犠牲の火、囲炉裏の神であるアグニなど、ヴェーダの神々の一部がこの動物に乗っていると記載されています。しかし、これらすべてはハラッパ文明の文化の存在よりもずっと後のことでした。印章に描かれた精神的な象徴性と、その人が座る「ひづめのある玉座」の下にあるヤギの位置を考慮すると、これらすべては、瞑想者が日常的で地的な執着を超越していること、彼の精神的な象徴を象徴しています。気遣いは物質世界の気遣いを超えます。

リグデン: まさにその通りです。これらすべての動物は、精神的な知識、瞑想、三次元の世界とは異なる異なる世界観の特徴を特徴付ける、当時の人々の思考にとって理解可能な連想にすぎません。しかし、人は真似する傾向があります。原始的な知識、経験、精神的実践の発展、または単にそれらの誤解が欠如している場合、彼らは精神的な教えからの連想を物質的な現実として認識し始めます。



さらに、人々は物質的な心から、これらの連想イメージを「神聖」なものとし、物質界でそれらを崇拝し始め、そうすることで悟りを達成し、「天の恵み」を得ることができると考えます。だからこそ、歴史には知識、人間の心からの解釈が逆転する出来事があったのです。「神に関わるためには、自分の中の獣を殺さなければならない」というスピリチュアルな教えが示されたとき、無知な人々はそう受け取ったのです。これらの言葉は文字通り。その結果、宗教政策を主導したり、特定の宗教の信念の形成に影響を与えたりした人々による、かつての知識の残存物に対する誤ったまたは意図的な歪んだ解釈が原因で、人類の歴史の中で動物や人間の血なまぐさい犠牲が発生しました。人々。今日、テクノジェニック文明の人々の目には、宗教は、その犠牲とともに、いくぶん原始的に映ります。確かに、人間社会の存続と生存は、一般に。今、ほとんどの生きている人々にとっての物質的な「神」は、かつて家族の中の同じヤギと同じように、お金です。しかし、時間が経つと、物質的な優先順位は再び変わりますが、それが物質的なものであることを止めるわけではありません。失われた精神的な真実を更新しながら、今日どのような関連付けを実行する必要があるかを見てください。一般的に理解できる科学的な情報と比較して、確認してください。コンピュータやテクノロジーなどの働きとの関連性。もし今、人々のほとんどが靈的な面で変わらないとしたら、将来、この人間社会に関して言えば、この知識すべてが文字通り、靈的なものを倒錯して人々に認識される可能性は十分にあります。



アナスタシア：テクノジェニックな司祭たちがどんな呼びかけをするか想像できます。「最新の選択的修飾のナノ分子を神に捧げよ。そうすれば、あなたは丸一ヶ月ですべての罪を償うことができるでしょう。」世界のスーパーコンピューターの心を信じれば救われる！」

リグデン：それほど悲しくなったら、これはすべて面白いことになるでしょう。ですから、冗談は冗談であり、人々は真剣に考えるべきです。精神的な世界は正確に説明することはできませんが、物質的な世界とはまったく異なる世界です。しかし、霊性修行を行い、自己中心性を克服し、永遠の世界への道を開くことで、霊的世界を本当に感じることができます。

アナスタシア：本当だよ。特に、自分自身を律し、スピリチュアルな仕事や日々の実践を始めて初めて、自分が言ったことの本質を理解することができます。動物的な性質を打ち破り、自分自身をスピリチュアルに解放することは、旧石器時代から始まったすべてのスピリチュアルな教えの実際の目標です。もう一つは、情報の伝達に関する現代の理解とは対照的に、人々がこの知識をどのように記録したかということです。繰り返しますが、同じハラッパ文明でも、テラコッタにこのような非常に興味深い版画が見つかりました。タブレットの片側には、蓮華座に座っている人（観察者）が描かれており、頭上には対応する瞑想的なシンボルが掲げられています。そして彼の隣には、（動物的な性質を勝ち取って）水牛を殺している男がいます。水牛の上には、尾に6本の棘を持つトカゲがいます。もちろん、科学書はこれが狩猟や犠牲などであることを示唆しています。



図 55. 動物の性質に対する勝利を象徴する画像

(ハラッパ文明、紀元前 III-II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。

リグデン: ところで、トカゲ（トカゲ）は、特定の精神的な知識の古代の伝統的な象徴的指定でもあります。彼女はヘビと同様に神秘的な生き物と考えられていたが、これもまた、この両生類の生活が以前はさまざまな精神的なプロセスと関連付けられていたためでした。たとえば、彼女のイメージは、古代、古代の脳構造、水（別の世界）とのつながり、（観察者の）存在または没入の事実、変性意識状態への移行と関連付けられていました。）、浸透（トンネル、後ろエッセンスの象徴）。トカゲのイメージは、知恵のしるし、危険の警告、変化の象徴としても描かれていました。

この絵に関しては、トカゲの尻尾にはトゲがなく、山を象徴するだけです。



今日の社会において、私たちは次元、世界の多次元性、意識の変容について話す機会があります。そして遠い過去には、この知識は少し異なる方法で連想的に表現されました。生涯を山に囲まれて過ごした人々にとって、自己改善の困難な道、動物的性質(煩悩、自己中心主義)を放棄することは、山に登ること(自分自身を克服すること)や、克服などの精神的な実践で測定に合格することに喻えられました。最初の山の場合 - 2番目の山など。多くの国にとって、山は精神的な高揚、より高い世界とのつながり、異なる世界(たとえば、地球と空、地球と地下世界)のつながりの連想イメージ、それぞれ別の世界の生き物の住居の象徴です。。自分を克服することでのみ「あの世」に行くことができた。しかし、そのような連想のせいで、魂のない、空虚な物質的な模倣が始まると、山はおそらく「神に近い場所にある」ため、犠牲の場所として指定され始めました。

アナスタシア:このテラコッタの裏側の絵も面白いですね。それは、2頭の「トラ」(横方向のエッセンス)の喉を掴んだ笑顔の女性を描いており、彼女は象(ゆっくりと社交的で強い過去の象徴である背後エッセンス)の上に立っています。彼女の髪は12本の光線を象徴しているようです。そして頭の上には、円の中に斜めの十字があり、横のエッセンスが取り消されています。これは、エッセンスを完全に制御していることの象徴です。研究者らはこの画像の解釈に困惑している。なぜなら、この画像は「女性神の頭上にあるスパークの付いた車輪」を描いた唯一の「インダス文書」だからだ。



リグデン：えー、人類の精神史に、理論上ではなく実際にそのような「車輪」がもっとあったとしたら、この人類に代償は払えないでしょう！

アナ斯塔シア： そうですね、歴史的遺物を考慮すると、かつてアジアに住んでいたプラ・インディアン文明の最も優れた代表者だけが、側面のエッセンスを「喉元まで」しっかりと管理していたわけではありません。古代エジプト人(アフリカ)、古代ペルーのインディアン(南米)、スキタイ人、スラブ人(ヨーロッパ)の神聖なシンボルも同様のシンボルを持っています。そして、ところで、その後、この横方向のエッセンスの古代の連想シンボルが、杖の形をした対応する個別のシンボルに明確に変換されます。



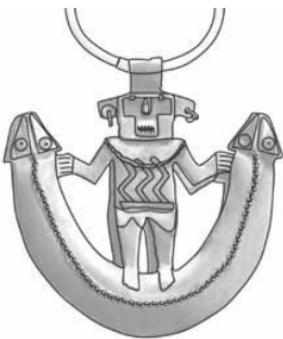
1



2



3



4



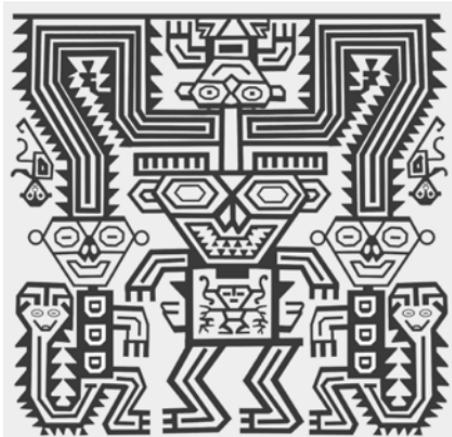
5



6



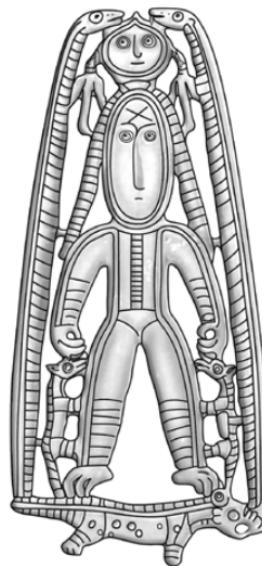
7



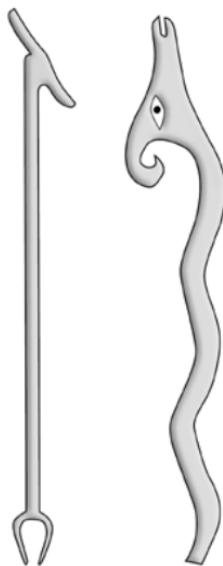
8



9



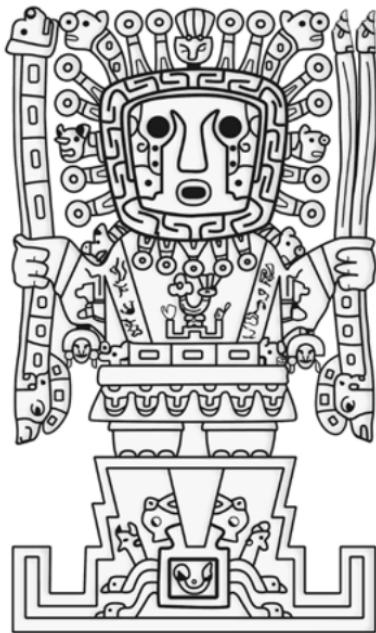
10



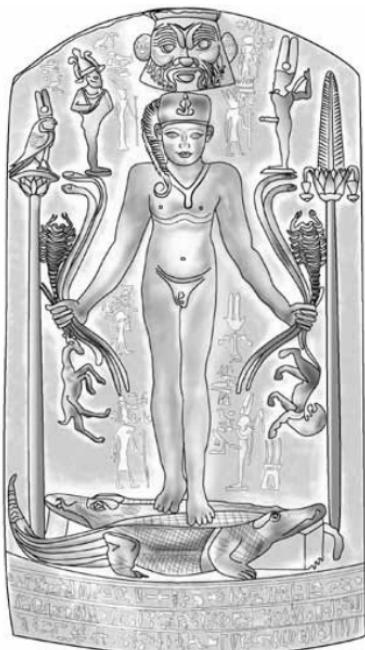
11



12



13



14



図56。さまざまな民族の間で、側面のエッセンスを持った人に よるスピリチュアルなコントロールの象徴的なイメージ:

- 1) テラコッタの形の画像: 2 頭の「虎」を喉に抱えた笑顔の女性の頭上の古代のシンボル (ハラッパ文明、紀元前 III-II 千年紀、インダス渓谷、南アジア)。
- 2) 七神のスキタイのパンテオンの一部であったスキタイの女神アルティンパスの像 (紀元前 VII ~ III 世紀、黒海北部地域)。
- 3) 古代エジプトの記号「アンク」が、ひづめを持つ 2 頭の神話上の動物を抱えて描かれています (エジプトのセベク神殿とハロエリスのレリーフ、紀元前 80 年、エジプトのコムオンボ市)。
- 4) 双頭の蛇の上に立っている立方体の形をした、南アメリカの人々の古代の金のペンダント。
- 5) 勝利の神のしるし、古代スラブ人の雷神 - ペルン (キリスト教が紀元9世紀のキエフ大公国) のパンテオンで最高の神とみなされる前)。伝説によると、ペルンが神話上の敵に勝利した後、水が解放され (神話の古風な変化では、敵に誘拐された聖なる女性 (マコシュ) が解放されます)、天の湿気 (雨) が降り注ぎます。
- 6) ドミトリエフスキイ大聖堂の南側ファサードにある白い石の彫刻 (ロシア建築の記念碑、大聖堂は 1194 ~ 1197 年に建設。ウラジーミル・スズダリ博物館保護区、ウラジーミル、ロシア)。
- 7) 岩絵 (紀元前 4 ~ 3 千年紀頃、白海沿岸、カレリア共和国、ロシア北西部)。
- 8) パラカス インディアン文化のマントルの断片 (紀元前 V ~ III 世紀、古代ペルー、南アメリカ)。
- 9) 手綱装飾上のスキタイの女神の像 - 金の馬の額 (紀元前4世紀、ウクライナ、ザポリージヤ地方のボリシャヤ・ツインバルカ塚、ロシア、サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館)。
- 10) 女神の像が刻まれた穴付きの銘板 (7 ~ 8 世紀、ロシア、ペルミ地方のチュド湖近くで考古学的に発見。アレクサンドル・セルゲイロヴィッチャ・ブーシキンにちなんで名付けられたチェルディン郷土伝承博物館)。
- 11) 古代エジプトの神聖な笏は、上部が湾曲し下部が二股に分かれた杖の形 (動物の頭とひづめ) で「あった」。古代エジプトの神々の属性であり、動物の性質に対する制御 (力) を意味します。
- 12) 北アメリカインディアンの神話に登場する、羽を生やした



ドラゴンのような蛇の象徴的なイメージ。神話では、彼は嵐を象徴していたと述べられています。そのようなドラゴンを倒すことができる原因是、道徳的純粋さと優れた不屈の精神を備えた偉大な英雄だけです。

13) 水と大地の最高神、インカの宗教におけるデミウルゴス - ヴィラコチャ(手に二匹の蛇を持っている - 1つは体の7つの「部分」を持ち、7次元性を示し、2つ目は3つの「部分」を持っている)体と割れたひづめは、世界とアニマルスタートの三次元性を示しています。(西暦 XI ~ XVI 世紀、南アメリカ)。

14) 石碑「ワニの上のホルス」(紀元前3世紀、古代エジプト)。ホルスは純粋さの象徴として裸で描かれ、この世界を旅する際に物質的な欲望に悩まされません(自分の本質を制御することの重要性、人間の生涯における非物質的価値の支配が示されています)。

リグデン: はい、人間の心からのこの「変容」がどれほどの規模を要するか、当時誰が想像したでしょうかかつては人の側面のエッセンスに対する精神的な制御を擬人化したシンボル(したがって、精神的な改善と物質からの解放の可能性)世界)、愚かな人間の模倣によって精神的な要素が失われた後、人々に対する権力の象徴として使用され始めました。さまざまな宗教の司祭、魔術師、君主、王、皇帝は、杖、王笏を、人々に対する包括的な権力と支配の物質的な象徴としました。ちなみに、ギリシャ語で王笏(セプトロン)を意味し、ラテン語の「セプトルム」は「杖、サポート」を意味します。



実際、人々がそれを所有して権力を求めて殺し合うこと也有ったこの普通の棒に、なぜ神と神との仲介者である「天の神々」の属性としての象徴性が与えられたのか、もう誰も覚えていない。人々(王とその臣下)、平和と正義の保証人?なぜそれは、「思いどおりに」という概念の持ち主の追加能力と最高の力の象徴と考えられたのでしょうか?なぜ彼女は、死と復活、勝利、浄化と再生の属性、天の守護の象徴、菩薩の属性、道の指針として、さまざまな民族の間で奉仕したのでしょうか?なぜ古代、人々の間で、このシンボルが隣に描かれていた先祖の人々が靈的権威を享受したのでしょうか?

アナスタシア:その通りです。しかし、古代エジプトでは、人々はまだシンボルの精神的な意味を認識していたようです。同じエジプトの三重笏は、物質に対する力を象徴する鞭(左のエッセンス)、感覚を制御するフックの付いた杖(右のエッセンス)、そして支配を象徴する指輪で構成されていました。自分自身の考え。もちろん、時が経つにつれて、この理解はエジプトでは失われましたが、それでも、かつての知識を記録したシンボルに関する情報の一部は今日まで伝わっています。

古代エジプトの遺物は、靈的知識の点でその有益性に今でも驚かされます。72 個の輪(体の「リンク」)を持つ 1 匹のヘビが尻尾を噛んでいますが、それには何の価値があるのでしょうか。ちなみに、考古学者が発見したハラッパ文明の装飾を描いた絵も持っていました。ハラッパ文明のいわばウロボロスの尻尾を噛む蛇の形をしたテラコッタのブレスレットや指輪が発掘現場で多数発見され、このシンボルが古かったことを証明しています。



さらに、儀式用のベルトかネックレスという奇妙なものが見つかりました。しかし、その説明は興味深いものです。42 個の長いカーネリアン宝石ビーズ、72 個の球形ブロンズ ビーズ、6 個のブロンズ ビーズ、2 個の三日月形のブロンズ エンド、および 2 個の中空の円筒形エンドで構成されています。ロング カーネリアンビーズ42個! 古代エジプト人にはちょうど 42 の道徳戒律があり、ユダヤ教の祭司たちはそのうちの 10 戒律だけを借りて宗教を創造したことを思い出してみると、面白い比較が生まれます。明らかに、この知識は古代世界では一般的であり、どの国も異なる時代にこれらの戒めを自分たちの神のものと考えていただけです。

これら 42 個のビーズがカーネリアンで作られているのは明らかに偶然ではありません。この宝石は、新石器時代にさまざまな製品の製造に広く使用されました。彼はメソポタミア、古代インド、エジプト、さらには古代ヨーロッパ、アジア、アメリカの人々の間でもよく知られていました。彼はルーシでも知られており、スヴァトラフのイズボルニクでも言及されている。さまざまな儀式の装飾品、お守り、お守り、宗教的な品物がそれから作されました。古代エジプトでは、カーネリアンは、生きている魂、死後の世界の保護、額のチャクラや透視能力を擬人化するさまざまなシンボルと関連付けられていたと読んだことがあります。人々はその薬効も知っていました。



しかし、ハラッパンの儀式の装飾で最も興味深いのは、それ以上でもそれ以下でもないことです。つまり、72 個の球形ビーズ、6 個の青銅ビーズ、2 個の三日月 宇宙の 72 次元の知識を考慮すると、宇宙の 6 次元の次元は、人間のエネルギー構造が位置する物質世界、および三日月の形をしたアラットの主な兆候は、そのような儀式の装飾を通してさえ、情報を固定および伝達するかなり興味深い方法があったことに注目することができます。スピリチュアルな知識を持っていると、あなたは実際に異なる、よりグローバルな視点で世界を見て、物質的な価値体系が示す以上のこと理解します。結局のところ、この疑問を考えてみると、なぜ人は多くの適応メカニズム、相互接続、驚くべき波動構造、そしてさまざまなモードや意識の変性状態で働くことができるユニークな脳を備えたこのような複雑な構造が必要なのでしょうか？他の真実と同様、答えは簡単です。その人には靈的成長の見込みがあるからです。そうでなければ、その人は他の動物と何ら変わらないでしょう。

リグデン：最大の価値は物質的な獲得ではなく、精神的な知識です。その知識のおかげで、本人も社会も向上し、全体として発展することができます。靈的な知識はもともと人間社会にありました。ただ、以前も今も、人間を選択するための条件は保存されていました。誰かが魂の解放を熱望したために人間をより深く掘り下げ、誰かが動物的性質に対処できず、人間を選択したため、そうではありませんでした。永遠ではなく一時的なもの。



当然のことながら、時々、人類のこの知識を更新し、特定の人々に理解できる関連付けを考慮して、それを適応させる必要がありました。同じ初期情報を含む、その後のこのような伝説のバリエーションはどこから来たのでしょうか。しかし、繰り返しますが、人間の靈的向上のためのツールに関する知識は、最初から存在していました。これは、会話の中すでに言及された古代のシンボルやサインによって追跡できます。

アナスタシア：これは議論の余地のない事実です。精神的な世界と人の完全な精神的解放を象徴する主要な古代の兆候を見てください。

リグデン：私は現代人類のアラトラのサインに特別な注意を払いたいと思います。その元のイメージは空の円で、下から上に角のある三日月で縁取られています。これは 18 のオリジナルの最も古い現役標識の 1 つです。この看板の名前「アラトラ」は、その力の質を物語っています。事実は、人類の黎明期に、原初の知識のおかげで、人々はその現れを「ラー」という音で表し、神(すべてを創造した神)について知っていました。万物の母である神聖な女性原理であるラーの創造力は、もともとアラートと呼ばれていました。そこから、靈的知識に入門した人々の間で、すべてを創造した者の創造力を表すこの原初のしるし「アラトラ」の名前が使われるようになりました。ちなみに、古代では、人々は神聖な原音に関するこの情報を、この世界の選択における複雑で不安定な主体としての人間にに関する情報の文脈における宇宙の世界秩序についての神聖な知識に起因すると考えていました。しかし現代人にとって、ラーの音はせいぜい連想されるものです。 ラー神に関する古代エジプトの神話だけを取り上げます。



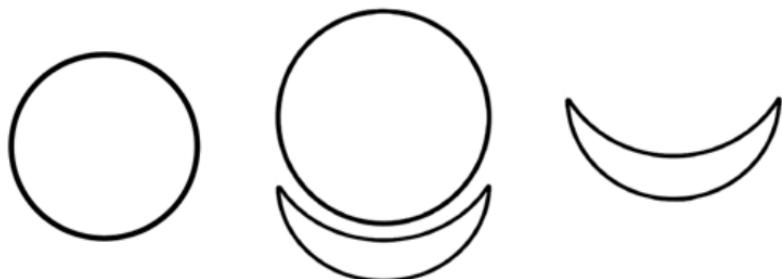
それにもかかわらず、神の創造力の指揮者としてのアラトラのサインは、古代から人々によって使用されてきました。それは常に活動しており、目に見える世界と目に見えない世界と相互作用し、人がそれを理解しているかどうかに関係なく、人のエネルギー構造に影響を与えます。しかしそれでも、この記号の主な効果は人間の選択に基づいています。靈的な性質が人の中で優勢である場合、この兆候は追加の靈的な力としてその人に作用します。つまり、サインはいわば共鳴し、人の創造的で精神的な力を高めます。そして、動物の性質が人の中で優勢である場合、この兆候は彼に対して中立のままです。原則として、否定的な人は、物質である動物の性質を活性化するように機能するまったく異なる兆候によって養われます。アラート サインは、毎日真剣に自分自身に取り組み、共同の精神的実践（祈り、瞑想など）。

ゲリア人、または、たとえば中世に寓意的に呼ばれた「主の軍隊の光の真の戦士」は、常にこのしるしを大衆に紹介しようと、そして何世紀にもわたってそれらの人々に援助を提供してきました。真にスピリチュアルな道を歩んだ新しい世代から。古代においては、宗教がこのサインを広める最良の方法でした。もちろん、これは人々によって発明された聖職者の権力の制度ではありましたが、それは真の靈的な知識（かつてはすべての人に完全に与えられていました）の粒と、真に靈的な道を歩いた人々に基づいていました。



後者はそれほど多くはありませんでしたが、さまざまな尊敬される神のイメージや属性に精神的なシンボルや活動的な兆候を導入したのは彼らでした。しかし、同じ熱意を持って、宗教を通じて、動物の心に奉仕する人々によって否定的な兆候（物質を活性化する）が大衆に導入されました。

円は魂の象徴であり、神の世界からの靈的存在的現れの象徴の一つであるとすでに述べました。そして、角を立てた三日月の象徴的なサインは、生涯に精神的に解放された人の象徴です。アラートサインは、失われた原初の知識を更新するために、精神的な世界（他の、より高い）からこの物質的な世界にやって来た人の指定としても使用されました。



魂、精神世界の象徴

アラトラサイン

シンボルマーク「アラット」

図57。アラートサインとそのコンポーネント。

アラトラサインがこの形、つまり角を立てた空の三日月の上の空の円で（きれいに）機能しているという事実に特に注意を払いたいと思います。



円や三日月の中に画像や記号が配置されている場合、その記号は機能する（きれいな）記号ではなくなり、一般的な情報を読む本と同様、単なる情報記号になります。この場合、なぜ標識が機能しなくなったのでしょうか？これは純粋な物理学です。ただ、何かで満たされるとき、記号の空虚の何らかのイメージ、たとえば記号と世界との量子相互作用が侵害されるだけです。つまり、塗りつぶされた円や三日月の記号は、二次元から他の次元と相互作用し、エズーモスを通過するときに、他の次元（三次元を含む）ではすでに情報を含んだ絵として認識されます。シンボル。

アナスタシア： つまり、この場合、それは象徴として機能するだけで、機能する記号ではありません。

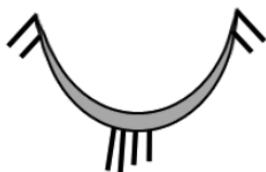
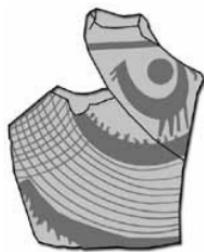
リグデン： そうですね。おそらく、私は人々に、機能する標識と単なる記号の違いをもっと明確に説明しようと試みるでしょう。作動サインは、比喩的に言えば、空のバケツと比較できます。観察者はそれを井戸に下ろし（サインを起動し）、そこから水（力）を取り出し、それから自分で飲む（補充する）か、他の人に水を与えます（力を与える）、または庭に水をやる（地理的な場所を活性化する）、それは将来、対応する結果をもたらします（遠い将来であっても、その場所に滞在する人格の精神的な活性化）。しかし、彼が井戸に降ろしたバケツが空ではなく満杯だった場合（作業の兆候ではなく、有益なシンボル）、彼らに水を得ることができないため、それは無意味になります。さらに明確にしたいと思います。そのようなバケツには底がまったくないようなもの、つまり、私が下げるから引き出したものですが、結果はありません。



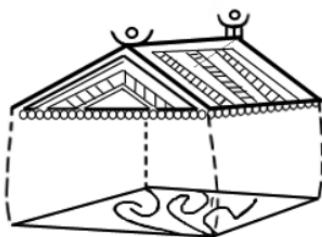
アナスタシア: おそらく、アラトラの作業サインは最も強力なサインの 1 つであり、スピリチュアルな道を歩む人々によってよく使用されていたことにも注意する必要があります。そして最も興味深いのは、例えば星座とは異なり、人格が精神的な性質からの観察者の位置にない場合、そこから力を得ることが不可能であるということです。

リグデン: アラトラサインは 6 次元よりも高い次元で機能し、これは、この世界で人が利用できる数少ないユニークな機能サインと同等になります。つまり、アラトラサインは、蓄積することを可能にする非常に強力なサインです。そしてそれ自体で、アッラートの力、つまり神ご自身から来て被造物、つまり神の計画の具現化に直接向けられる力を倍増させます。神聖な意味で、なぜこのしるしはアラットによる神の力の具現化であると考えられているのでしょうか。

アナスタシア: アラトラは、機能する記号として、また黒丸と特定の知識を示す追加指定を備えたシンボルとして、精神的な実践や教えについての秘密の文書として、さまざまな時期にさまざまな人々によって使用されました。この例は、関連する考古学的遺物、芸術記念碑、インドの同じ古代文化(ハラッパー文明)、トリピリア文明、シュメール文明、古代エジプト、古代のオリジナルの文化に精通することで見つけることができます。シベリアの人々など。考古学者は、岩の碑文、古代の印象、石碑、粘土板、お守り、儀式用具、衣服、そして古代の「聖域」の絵画の中にこれらのシンボルを見つけます。



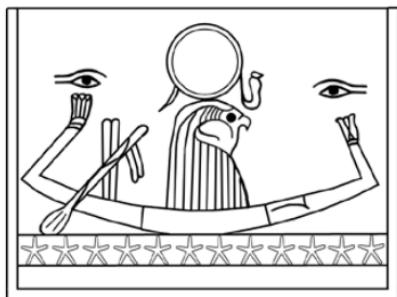
1



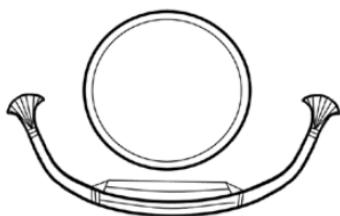
2



3



4



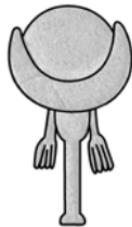
5-a



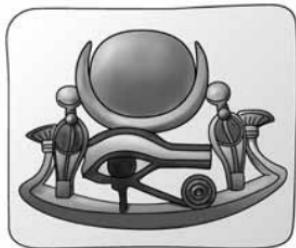
5-b



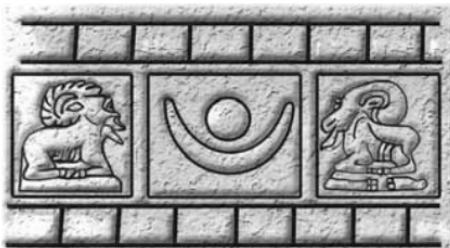
5-c



6



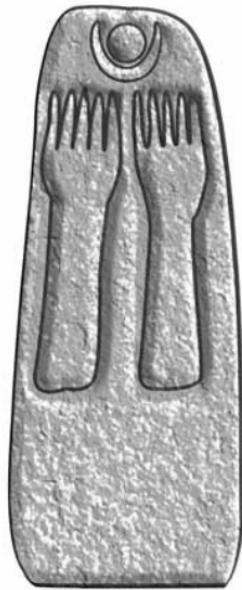
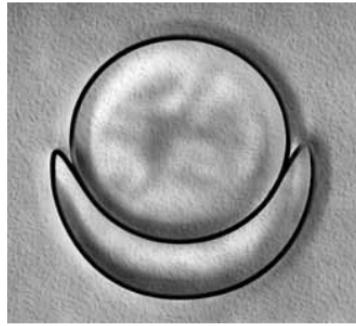
7



8



9



10



11



12



13

図58。古代ヨーロッパ、アジア、アフリカの文化におけるアラトラサインとそのシンボル:

- 1) トリピリア文明(ウクライナ、東ヨーロッパ)の儀式用料理の断片に「円の付いた太陽の船」(三日月が追加の要素で描かれているため、これはアラトラのシンボルです)の画像を含む考古学的発見。
- 2) アラトラの標識を冠した家を描いた四角い粘土板(バルカン・ドナウ地域の新石器文化。ブルガリア、プロブディフ市近くで出土)。
- 3) ミノア文化(紀元前2千年紀、クレタ島)の作業記号「アラトラ」。
- 4) 神聖な「太陽の船」(アラット)とラー神(ある場合には空の円盤を冠したハヤブサの頭に、他の場合にはラーのイメージの1つである空の円盤自体の形状)。
- 5) アーティファクト上のアラトラシンボル:
 - a) ハイラル文化(紀元前5千年紀)。
 - b) アペニン文化(紀元前2千年紀)。
 - c) ローマ帝国(西暦200年)の人々の文化。
- 6) フェニキア、パレスチナ、シリアで崇拜される全ユダヤ人の神バアルの象徴であるアラトラ記号。



- 7) ツタンカーメンファラオの墓(墓)で発見された胸部ペンドントの断片にあるアラトラのサイン。断片にはラー神の太陽船に乗っているワジェト(「ラーの目」または「ホルスの目」)の像がある(紀元前2千年紀末、古代エジプト)。
- 8) マリブ(紀元前5~4世紀、アラビア半島南部)のフリーズの断片 - 月の三日月の上にある金星(アスター)の円盤。
- 9) アッシリアとアッカドの印章の中にあるアラトラのシンボル。
- 10) リリース付きの中央石碑。ハツォル市(ガリラヤ上流、現在のイスラエル北部)の発掘中に、月の神の古代カナン神殿の遺跡の中で発見された青銅器時代後期の石碑にあるアラトラの標識。
- 11) 古代エジプトの神聖な寺院の石の浅浮き彫りに描かれた古代エジプトの天の女神、愛 - ハトホル(元の伝説によれば、ラーの娘)の伝統的な像で、頭にはアラトラのシンボルが付いています。
- 12) サーサーン朝時代(西暦7世紀、ペルシャ)の王室の狩猟を描いた皿のプロット。
- 13) シンボルとしてのアラトライメージ(黒丸付き)の例は、頭のてっぺんにある上部チャクラサハスラーラ(千の花びらロータス)の象徴的なグラフィックイメージ(ヤントラ)です。ヒンズー教、仏教、その他のインドの学校で瞑想の実践に使用されます。

リグデン: これは単に、元の機能する兆候についての神聖な知識を持った人々が常にいたということを意味します。

アナスタシア: さらに、アラトラのシンボルがどこに置かれ、どこに作動サインがあったのかがはっきりとわかります。

リグデン: シンボルと言えばアラトラサインの解釈に基づいたさまざまなシンボルがあります。それらのいくつかは、この知識に入門した人々が理解できる追加の説明を示していましたが、他のシンボルはその変形でした。

すでに強いものを強化しようしたり、いくつかの重要な点にさらに焦点を当てようしたりする人々。



アラトラ サインに基づくそのようなシンボルの例は、角を立てた三日月で、その上に十字が描かれた円、星、または顔の象徴的なイメージなどが立っています。



1



2



3

図59。アラトラ シンボルの例:

- 1) ペルシャ文化のシンボル(紀元前6世紀)。
- 2) シュメール文化(紀元前3千年紀)のシンボル。
- 3) アッシリアの太陽神アシュールとスメロ・アッカドの月の神シーナの属性。

これらのシンボルの意味を真に理解していない人々は、それらを太陽や月と関連付け、単に何らかの神の属性として考えていました。そして、知識を持つ人々にとって、これらのシンボルはヒントのようなものであり、この象徴主義を適用した人々からの過去からの開かれたメッセージでした。たとえば、角を立てた三日月のシンボルを考えてみましょう。その上に小さな円が大きな円の中に内接しており、小さな円の中に中心円が空の十字があります。これは、靈的世界からの存在によってこの世界にもたらされた靈的教えの象徴的なイメージでした(後者のシンボルはアラトラサインです)。大きな円に囲まれた小さな円は、この教えによって団結した人々(信者の輪)を象徴しています。



正十字は人のシンボルですが、この場合の十字の中心にある空の円は(一般的なシンボルと組み合わせて)単なる人格を示しているわけではありません。これは、この教えのおかげで靈的解放(人格と魂の融合)を達成したが、靈的な道で他の人々を助けるために留まり続けた人を証明しています。

アナ斯塔シア: はい、それは確かに真の精神的な偉業です。精神的な解放を達成することですが、アラートの力の指揮者として機能するために、この荒々しい物質世界に留まる勇気を持つことです。もう一つあります。これらのシンボルに関連する興味深い点。アラトラのシンボルは、原則として女性の女神の属性でした。最も有名なのは、例えば、イスラム以前の古代アラブ人によって崇拜されていた女神アル・ラット(「神々の母」)のしるしです。次に、彼女の象徴的なイメージの上に、精神世界とのつながりを示す角を立てた三日月と、円(人々は月の象徴として解釈しました)が配置されました。たまたま、三日月自体がダイナミクス、精神的な方向への動きの象徴として太陽光線で描かれていました。

リグデン: 女性の女神がアラトラのシンボルと関連付けられていたのは驚くべきことではありません。実際のところ、人類の歴史の中で、これまでそのようなスピリチュアルなガイドになったのは女性だけでした。おそらく女性には、スピリチュアルなケアと人々への愛という意味での母性本能があるからでしょう。女性も男性もガイドになることができます。ただ、人々は精神的な解放を達成し、より高い領域が彼らに開かれるとすぐに、彼らが言うように、遅滞なく、そしてここに残った人々の運命に共感することなく、非常に早くこの物質世界を去りました。



アナスタシア: わあ、たとえそのような問題であっても、女性は女性のままであり、男性は男性のままで。私はまた、アラットに関連するいくつかの調査結果を共有したいと思いました。あなたが話し、私が本「先生IV」に記録した知識の中で、あなたはアラート時間の基本的な意味、つまり 12 分、より正確には 11 分 56.74 秒についても話しました。私は偶然、エジプトのナイル川近くの岩に刻まれた、ファラオ・ラムセス2世治世の時代の神殿に関する情報を見つけました。20世紀の60年代に、ダムの建設に関連して、同じ岩の上の以前の場所より 65 メートル高い新しい場所に移動されました。そのため、年に 2 回、次のような光の現象がそこで観察されます。2月22日と10月22日の午前 6 時ちょうどに、太陽の最初の光線が寺院の共通の入り口を通ってカルトのニッチに差し込みます。聖域。その後、ビームはアモン・ラー神の像に 6 分間残り、ラムセス 2 世の像を 12 分間照らします。さらに、2月22日には彼の胸に光が当たり、10月22日には頭頂部に光が当たります。

リグデン: 人々はたとえ石片であっても自分の重要性を確認し、スピリチュアルな知識を使ってプライドを満たすことを好みます。

アナスタシア: 残念ながら。それでは、シンボルについて。あなたが言及したように、三日月は円ではなく星で描かれることがよくありました。しかし、星は五芒、七芒、八芒の可能性があり、尖った突起を備えた幾何学的図形、または単に中心から伸びる光線のいずれかとして描かれていました。



リグデン: 実際、三日月の上の星は強者の強化、つまりアラートの中のアラートです。ただし、そのような呼称は、アラートの力の 1 つを示す追加の表示としても使用されます。マルチビーム星には、古代からの象徴性の解釈にも独自の特徴があります。七芒星は7次元の象徴です。八芒星は、同じひし形(人の精神的な存在への変容、精神的な世界への出口の象徴として角の1つに配置された立方体)のシンボルです。しかし、五芒星はアラートの力(5次元のレベルで現れる)に関連する作用するサインであり、積極的に作用するサインのグループに属します。しかし、そのような微妙な点を理解できるのは、目に見えない世界で記号を扱う人だけです。

五芒星のサインは、人の中に(潜在意識レベルで)正義感と未来への希望を活性化し、人々を団結させるのにも役立ちます。しかし、残念なことに、この星座のこれらのユニークな性質は、動物の心に奉仕する人々によって頻繁に使用され、独自の目的のために使用され続けています。もちろん、これはアラトラ サインと比較すると弱い力ですが、それにもかかわらず、それが大量に使用されると、人々への一定の影響と三次元世界での出来事の変化に関連する結果が得られます。五芒星の場合、どのように回転させても、上を上にしても、上を下にしても、それは依然としてアラットの創造的な力の 1 つの兆候です。唯一の問題は、この追加の力が何に費やされるか、むしろそれを受け取った人々によってどこに向けられるかです。



アナスタシア： 確かに、五芒星は古代からさまざまな形の回転に使用されてきました。彼女の最も古い像は(今日知られている工芸品について言えば)9000年前のもので、私たちが話していた文化の中で小アジアで発見されました。新石器時代には、五芒星のサインが大女神のシンボルとして頭上に置かれていました。そして古代エジプト人の間では、五芒星は「神」を意味していました。一部の古代の信仰では、神聖な動物として雄牛の頭上に五芒星の像が描かれていることが知られています。さらに、この下向きの星のサインは、アラートのサイン(中央の三角形は創造的な神聖な女性原理の指定として下を向いている)の要素を含むポジティブな精神的なシンボルとしても使用され、星のサインとしても使用されました。同じ意味解釈で上を上に向けました。

古来より、星は物質に対する精神的な勝利の象徴として使われてきました。神話では、それは天と地の結合を意味しました。このサインは、古代ヨーロッパ、アジア(特にシュメール人、ペルシア人)、アメリカ(先住民インディアン)などの人々の間で人気がありました。さらに、特定の人々の魔法の儀式から判断すると、それは最も頻繁に使用されるシンボルの1つでした。五芒星のサインは、悪の力から身を守るためにお守りに付けられました。ギリシャ語のおかげで、この星は今日「五芒星」として知られています。現代世界では、五芒星は多くの州の象徴です。明らかに、知識の喪失により、秘教におけるそのイメージは人間の心から解釈され始め、頂点が上にある星は「白魔術師」のしるし、頂点が下にある星は「白魔術師」のしるしとみなされるようになりました。「ブラック・マジシャン」。



リグデン: そのような分け方は、実際には「人間」の心からの解釈です。しかし、それは、この星座を通して利用できるアラットの創造力を否定的な目的で使用したために起こりました。星の星座は、あらゆる変化に前向きな推進力、つまりエネルギーの爆発のみを与えます。そして、人々が彼をどこに送るかは人間の選択の問題です。簡単な例として、歴史上、五芒星のサインは革命や大変動を起こすためによく使われました。このスターは大衆のポジティブな高まりを促し、願望を与え、行動に駆り立て、人々の内なる世界観の概念において最高のものを求める欲求を刺激しました。したがって、人々は信仰、前向きな姿勢、より良い生活と将来への希望を持って、待望の自由を獲得したいという願望を持って、社会のこれらの変革に取り組みました。これは、この看板が大衆に及ぼす影響の現れです。しかし、このようなクーデターの指導者たちは、このすべての力をどこに、どの施設の助けを借りて方向転換したのでしょうか?当然のことながら、物質的なプログラムを実行するための人々の精神的な願望の概念を置き換える動物の心の力の方向に。つまり、革命や動乱の中で、人々は自らの自由を獲得することを望み、ある暴君を打倒し、代わりに別の暴君を「選択」し、自分たちが期待しているものから自分の人生が何も変わらないことに気づかないことがわかります。すべての魂が夢見る自由です。動物の心によるこれらの置き換えは、膨大な人的資源(力)を使ってこれらの大規模な「ショー」を手配する人々でさえ理解できません。人々は、動物の心の力を最終的に強化するために、独自の注意力、時間を費やします。彼らは、短期間ではありますが、物質的な世界に住んでいます。そして、動物的な性質の力が強ければ強いほど、彼らは自分たちの靈的な性質を忘れ、本当の自由と人生の意味についての真の理解を失います。



アナスタシア: はい、靈的な根源的な知識が失われると、私たちが何をしているのか、そして私たちが自分の選択で何を準備しているのかが理解できなくなります。

リグデン: 人々は歴史と自分たちの周囲の世界をもっと詳しく見る必要があります。まず第一に、過去と現在の間違いを理解し、それによって将来同じ間違いを犯さないようにするために、彼らの人生のベクトルを決定し、自分自身と社会についてすでに深い理解を持ってこの問題に取り組む必要があります。彼らが生きている社会。

アナスタシア: 知識は力だと言われるのも不思議ではありません!この点で、原始的な精神的実践についての話に戻りたいと思います。特に、スピリチュアル修行の基本の一つであるピラミッド瞑想について、読者の皆様にお伝えいただければ幸いです。この瞑想が、当時の私たちのような人々が現実を認識し、自分の魂を知るという個人的なスピリチュアルな経験を積み、深い感情のおかげで真の自由とは何なのかを理解するのに役立つことを願っています。

リグデン: それは可能です。



アナスタシア: しかし、このユニークな瞑想を実行するまさにそのテクニックの紹介に進む前に、主に瞑想中の変性意識状態がどのようなものであるかを理解することに関して、読者にとって重要ないくつかの点を明確にしたいと思います。ご存知のとおり、人々が本を読んだ後でも、瞑想に取り組み、控えめに言っても、裸のパフォーマンスでそれを実行しているケースに遭遇しました。詳細な議論の中で、彼らは瞑想についてたくさんの中の本を読んでいたにもかかわらず、瞑想とは実際には何なのか、実際に変性意識状態がどのようなものであるのかを単に理解していないことが判明しました。場合によっては、瞑想をしていると思っている人々が、実際には、わざわざ別の意識状態に切り替えることなく、日中は通常の覚醒状態を維持していたということもあります。したがって、この条件付きの職業の間、彼らはしばしば日常の出来事、現在の仕事、生活、日中の経験などについて考え、つまりさまざまな気を散らす考えを持ちました。当然のことながら、理論としてのそのような瞑想は、裸のアイデアに基づいて行われました。瞑想の代わりに、ただ眠りに落ちてしまうケースもありました。ほとんどの場合、彼らは勤務中に非常に疲れた後、座って瞑想を行っていました。ご存知のとおり、睡眠も変性意識状態のひとつです。つまり、彼らはそれを瞑想だと勘違いし、そのため、一日の仕事で疲れているにもかかわらず、強制的に瞑想に座るという意味での「強い意志の努力」をしたにもかかわらず、実際には成果を感じられなかったのです。

リグデン: これらの人々は、変性意識状態とは何か、それが何であるか、そしてそれらが互いにどのように異なるのかを理解する必要があります。



同じ夢や瞑想など、そのような意識の変化は、体の完全なりラックス、精神的な静けさ、半分眠った状態を特徴とします。しかし、これは変性意識状態の始まりを示すものにすぎず、そのとき初めて区別が生じます。誰が瞑想に没頭しているのか(目に見えない世界の微妙なプロセスを意識的に制御している)、誰が夢の中にいるのか(無意識の状態))。

アナスタシア: それが私が話していることです!つまり、人々は本当の瞑想とは何か、そしてそれが実際にどのように機能するのかについての実際的な理解を欠いています。

リグデン: 私はこうした人たちに、まず初步的な自律訓練法が何なのかを理解して理解し、体をリラックスさせ、思考をコントロールし、一つのことに長時間注意を向け続ける訓練をしてから、瞑想の練習を始めることをお勧めします。、変性意識状態へのより深い没入。最初の本『先生』やこのシリーズの他の本で説明した主な瞑想テクニックをマスターしてから、基本的なスピリチュアルな実践をマスターし始めます。

アナスタシア: 私もその意見に同意します。人はそれぞれ異なり、すぐに本質を理解する人もいれば、すべてをより詳細に理解するのに時間がかかる人もいます。しかし、ほとんどの場合、人は自分自身についての基本的な知識、さまざまな意識状態における脳の一般的なメカニズムを単に欠如しています。あなたが神経生理学と人間の脳の機能の分野において独特の知識をお持ちであることは承知しています。変性意識状態のトピックにもっと光を当てて、少なくとも読者が公開されている情報を方向付けるか、公開できる知識を共有していただけないでしょうか。



リグデン： そうですね、おそらく、科学による脳の機能に関する現代の理解の範囲内で、人々が何が危機に瀕しているのか、どの方向に研究を進めるべきかを理解できるようにするためにです。ご存知のとおり、脳の働きは電磁波と関係しています。脳はさまざまなモードで働くことができ、それぞれのモードは特定の精神生理学的意識状態によって特徴付けられます。人格としての人は、注意を集中することで、そのようないくつかの意識状態を制御することができます。日常生活では、科学界では覚醒状態と呼ばれる状態のいずれかにあることがほとんどです。科学者は、脳の電気活動を経時に測定する際に、条件付きで活動的な覚醒状態をベータリズム(β リズム)として指定します。範囲は $14 \sim 35$ Hz、電圧は $10 \sim 30 \mu\text{V}$ です。ベータ波は速い波であり、脳の全体的な(全体的な)電位の低振幅の振動です。脳波で見ると、その波形は 比較的言えば、尖った頂点を持つ「三角形」を思い出させます。ベータリズムは主に、脳の前頭中枢領域の働き中に固定されます。

しかし、人が何か新しい、予期せぬもの、聞いた情報、激しい精神活動、強い感情的興奮に注意を払うと、このリズムが大きくなり、脳の他の部分に広がる可能性があります。ベータリズムは、さまざまな刺激の作用下での人の精神的な仕事、感情的なストレス中の脳の働きの特徴です。



一般に、脳には疲労などの特徴がないことに注意する必要があります。それがどのように機能するかを理解し、あるタイプの活動から別のタイプの活動にタイムリーに切り替えて、意識の状態を定性的かつタイムリーに変更できるようにする必要があるだけです。日常生活は人の心理的な自己調整と常に結びついており、ちなみに、体の一般的な状態もそれに依存します。日中、人は目に見えない世界の影響はもちろん、音や光など様々な外的要因の影響を受けます。それらはすべて、何らかの形で人間の生活の生理学的およびその他のプロセスに影響を与える日常的な刺激物です。

過度の興奮、怒り、イライラ、精神的疲労は、顔、首、腕などの筋肉の緊張を伴います。同様に、緊張した筋肉は興奮性インパルスの発生源でもあります。自律訓練法を行っている人、または瞑想に集中している人の仕事は、刺激的な信号の流れを制限することです。したがって、彼は、沈黙の中で(刺激的な音を排除して)便利で快適な位置に座り、目を閉じて(視覚刺激源の影響を排除して)、日常のさまざまな思考、経験、心配から心の平和、沈黙に注意を切り替えます(つまり、可能であれば、目に見えない世界の直接的な影響を排除します)。次に、筋肉の弛緩に焦点を当て(別の興奮経路を除外します)、完全な休息状態に達します。したがって、人は自分の精神の動作モードを再構成し、その結果、神経系も再構成します。



この自己調整のおかげで、彼は明確な精神的自己秩序(オートポート)の助けを借りて自分自身を制御することができます。

アナスタシア: 思考の規律は人に大きなチャンスをもたらします。瞑想状態では、他の状態(覚醒状態を含む)ではアクセスできない複雑なエネルギー構造のメカニズムを制御できます。当然のことながら、瞑想法を正しく実践すると、精神的な高まり、洞察力、直観的な知識の発達が得られるほか、そのような作業の「副作用」として、強さの高まり、良い気分、創造性の向上が見られます。ひいては、人の全身状態に良い影響を与えます。

リグデン: 確かに。これらすべてのメカニズムを理解する必要があります。瞑想における注意力はネットワーク内の電流のようなものです。ネットワークに接続したものは機能します。したがって、瞑想中に起こる主なプロセスに注意を集中し続けることが重要です。一般に、精神的な修行を行う人は、超音速戦闘機で戦闘任務を遂行する軍のパイロットと比喩的に比較できます。まず、地上では、パイロットは航空(フライト)シミュレーター、つまり飛行機のフライトシミュレーターですべてのアクションを自動化します。これは、瞑想の最初の段階をマスターし始めたばかりの人に相当します。すなわち、リラクゼーションのプロセス、無関係な思考からの切り離し、瞑想状態への没頭、肉体のレベルでの主要な感覚、たとえば太陽神經叢領域の暖かさ、またはチャクラ領域のわずかなうずき、または手を通じたエネルギーの動きなど。



この段階は条件付きで「初級」と呼ぶことができます:瞑想の裸の理論的アイデアから最初の実践的なスキルの獲得まで。

瞑想の実践を習得する第 2 段階は、比喩的に言えば、戦闘車両に乗り込んで飛行訓練を行うパイロットとして、空中で直接実践的な経験を積むことに似ています。ここで彼は、空で飛行機を操縦することと、地上のシミュレーターで同じ訓練を行うことはまったく同じではないことを理解するようになります。パフォーマンスの技術ではなく、感覚、飛行プロセスの理解、まったく異なる空間、つまり空での生活に大きな違いがあります。パイロットのように、瞑想者は、自分自身に対する日々の内面の作業、つまり動物的性質をコントロールするときに、理論的知識と実践的知識の本質的な違いを理解します。その人は変わり始めます。これが重要なことです。瞑想自体は単なるツールだからです。言い換えれば、日常生活の中で、彼は自分の思考をコントロールし、その純度を監視し、心理的反応を監視し、否定的なものが意識に入らないようにし始めます。人が自分の考えをコントロールできないとき、すべての人が彼の悩みや侮辱の責任を負い、すべての人を非難し、多くのことに不満を持ち、すべての人に教え、人生の中で自分の教えに従わないなどです。しかし、人が自分自身の世話をし始めるとき、彼は外側の理由ではなく、なぜ自分の周りの世界をこのように認識し反応し、そうでないのかという内側の理由に注意を払います。人は、なぜ自分がこれらの外部からの挑発に屈するのか、そして自分の複数の自己中心的な欲望、憤り、動物的性質の攻撃性から注意をそらす方法、それを前エッセンス、魂から発せられる深い感情に切り替える方法、そして留まり続ける方法を理解し始めます。霊的な波動。



それは、人が自分の動物的性質に甘んじることなく、毎日自分で自分の世話をするとときであり、そのとき人は瞑想においてまったく新しいレベルの認識を開きます。彼は瞑想とは何なのかを理解し始め、彼にとってこの珍しいプロセスを掘り下げます。人は、覚醒時と睡眠時とは異なる、まったく異なる意識状態で働き、その状態に留まる方法を学びます。つまり、実際に意識状態の違いを感じ、深い感情や直観的な知識を通じて世界を理解することです。論理の産物。

そして最後の第3段階は、軍のパイロットが超音速戦闘機で飛行中に戦闘任務を遂行するときです。彼はもはや飛行機のメカニズムについて考えることではなく、ただ自動的に飛行機を始動させます。彼は自分がいる異常な空間については考えません、彼はすでにこの空間に住んでいます。パイロットは航空機のあらゆる動きを感じ、彼の注意は主要なもの、つまり戦闘任務の遂行に集中します。スピリチュアルな修行に真剣に取り組んでいる人も同様です。この段階では、彼は自分の動物的性質を制御することを習慣にし、明確な精神的命令によって自動的に瞑想のメカニズムを開始し、何も考えずに内なる深い感情だけで瞑想自体を実行します。スピリチュアルな実践のメカニズム(その人が日常生活で自分自身に真剣に取り組んでいる場合)は、人を4次元、5次元、または6次元を含むまったく異なる認識レベルに導きます。

そして最後の第3段階は、軍のパイロットが超音速戦闘機で飛行中に戦闘任務を遂行するときです。彼はもはや飛行機のメカニズムについて考えることではなく、ただ自動的に飛行機を始動させます。彼は自分がいる異常な空間については考えません、彼はすでにこの空間に住んでいます。パイロットは航空機のあらゆる動きを感じ、彼の注意は主要なもの、つまり戦闘任務の遂行に集中します。スピリチュアルな修行に真剣に取り組んでいる人も同様です。この段階では、彼は自分の動物的性質を制御することを習慣にし、明確な精神的命令によって自動的に瞑想のメカニズムを開始し、何も考えずに内なる深い感情だけで瞑想自体を実行します。スピリチュアルな実践のメカニズム(その人が日常生活で自分自身に真剣に取り組んでいる場合)は、人を4次元、5次元、または6次元を



含むまったく異なるレベルの認識に導き、彼は馴染みのある物質の世界、つまり世界を認識し始めます。微細なエネルギーだけを 論理や物質的な思考の助けを借りずに、深い感情を表現します。結局のところ、思考は物質的な産物であり、それ以上のものではありません。しかし、靈的で深い感情は、認識の全く異なる質であり、人々が啓発と呼ぶ包括的な知識の全く異なる範囲です。

アナスタシア： その一方で、そこで起こっているプロセスを驚くほど明瞭に、明確に理解できるようになります。しかし、瞑想の後、自分が経験したことを他の人に説明しようとすると、向こう側で感じたことを、見慣れたイメージや連想を通して確実に伝えることは不可能であることがわかります。このおかげで、あなたは日常生活の中で、現実のプロセスと心のゲーム、つまり世界の物質的認識の立場から論理が作用する連想との間には大きな違いがあることに気づきます。そうです、これらすべてを実際に学び始め、本当の現実に触れると、あなたは、自分自身へのスピリチュアルな仕事に費やして生きる毎日がなぜそれほど重要なのか、どのような考え方や行動に力を費やしているのかを成熟して理解するでしょう。毎日あなたの注意を払ってください。結局のところ、すべてのことは、まず第一に、あなたの魂と人格にとって避けられない結果をもたらします。

リグデン： もちろんそうです。動物の性質はさまざまな幻想で人格を落ち着かせ、その意識を物質的存在の厚い霧の覆いで包み込みます。得た経験のおかげで、本当の現実が何であるかを理解し始めるとき、人の個人的な精神的な成長だけがこの霧を払拭することができます。



比喩的に言えば、人の精神的な成長、自制心、自己改善のプロセスは、地面に植えられた木の種が成長するための条件を作り出すことに喻えられます。かつて大気環境(空)で熟した果実の一部としての種子は、条件付きで魂であり、地球は魂にとっての外部の地上の条件、つまり物質世界における私たちの思考と行為です。私たちが自分自身のためにどのような条件を作り出すか(干ばつを手配するか、凍結させるか、土壤に水浸しを許容するか、種子の成長に通常の条件を作り出すか)、たとえば、私たちの靈的発達のために、それが私たちが得る結果になります。結局のところ、種に従わなければ、種は枯れてしまい、木も木から実もなくなります。そして、もしあなたが種子の世話をすれば、それは地球から発芽し、空中の球体に突入するチャンスがあり、そこですでに地球とは異なるまったく異なる環境の影響を経験することになります。しかし同時に、それは依然として地球にその根を保ち、その影響を感じ続けますが、以前と同じ方法ではなく、新しい品質で影響を受け続けます。つまり、人が生きている間に、三次元では、人格は靈的に成長し、魂との融合を達成し、したがって永遠に行く機会があります。もちろん、「種」、「土」、「木」、「空」、「知識」、「発展」はすべて、人間とのつながりから生まれた言葉です。他の世界を認識し、言葉で表現できる以上のことを理解しています。したがって、瞑想は、比喩的に言えば、人間の複雑な構造の精神的なナビゲーションのシステムを作動させるためのツールです。これは、最終目標(精神的解放)に向けてコースに沿って動きの方向を修正し、途中でのさまざまな逸脱を回避し、動きの質の向上を達成するのに役立ちます。



そして、人は生きたエネルギー構造であるため、そのような検証されたツールの使用の結果として、制御オペレーター自身、つまり人格の精神的な発達のおかげで、それは改善されます。

アナスタシア: はい、今日の科学では、瞑想状態で起こるプロセスの重要性がまだ理解されていません。

リグデン: そうですね、科学者たちは今でも瞑想そのものを「穏やかな覚醒」の状態であると考えており、今日利用できる技術を利用して人間の脳内で特別な周波数のリズム、つまりアルファリズムが最も顕著に現れることを観察しています。後頭領域(骨端(松果体)に隣接する領域)。アルファリズムは、周波数 8 Hz ~ 13 Hz (平均振幅 30 ~ 70 μ V) のリズミカルな電位振動に対応することが条件付きで認められています。現実的ではありますが、瞑想ではこの範囲は 7 Hz から 13 Hz に及びます。また、人が思考を許可し、それに注意を払うと、このリズムが振動の振幅を減少させ、つまり振動が弱まるか完全に消え、別のリズムが振動に取って代わることも理解する必要があります。

アナスタシア: 7 から 13 まで、特にいくつかの比較を行う場合、非常に興味深い指標です。興味深いことに、7 と 13 は多くの国の神話において重要な数字です。難解な知識の象徴において、7 は人にとって精神的に重要な 7 次元を示します。



神話では、それは宇宙の概念の特徴と関連付けられており、世界樹の説明における主な数値指定、神のパンテオンの完全な構成、計算されるほぼすべての普遍的な特徴として使用されていました。世界のさまざまな民族の間にある神話の宇宙。興味深いことに、瞑想者は、特定の精神的な実践を行うときに、いくつかの神話の基礎に連想的に反映されているプロセスや現象を観察することができます。どうやら古代、人々は自分たちの精神的な経験を何とか次世代に伝えるために、同じ神話、伝説、寓話、物語の連想イメージを通じて最も重要な瞬間を記録したようです。

リグデン: あなたは、ある種の瞑想において人々が、たとえばこの世界の通常の構造とはまったく異なるものを発見するということを完全に正しく指摘しました。目に見えない世界のプロセスの存在を知らない人にどう説明すればよいでしょうか? リスナーが理解できる連想の助けを借りてのみ。結局のところ、世界の人々の神話は、目に見える世界と目に見えない世界、過去からの情報、そして人類の精神的経験についての知識を、将来の世代が理解できる連想的な形で定着させようとする人々の試みです。

アナスタシア: それで、13 という数字は?! 実際、それは力の完全な円 (12 1) を意味するという事実に加えて、たとえば同じ空間幾何学における特別な数でもあります。あなたはかつて、宇宙の空間の幾何学についての会話の中で、幾何学と物理学の直接的な関係について話しました。それから、三次元空間における半正多面体など、大昔に人々に与えられた幾何学の知識についても触れられました。



これらには、今日いわゆる 13 アルキメデス立体が含まれます。驚くべきことに、私たちはこのテーマについて、学生時代から長い間研究してきました。今この定義を思い出しました。半正多面体とは、すべての面が正多角形であり、頂点の多面体の角が対称である多面体です。しかし、ほんの数年後、私はあなたの話を聞いて、研究者としての興味を持って、まったく別の角度からこの知識を検討し始めました。13 個のアルキメデスの天体を配置した、なんと困難で神聖な意味で調和のとれたシーケンスが、今でも頭から離れません。

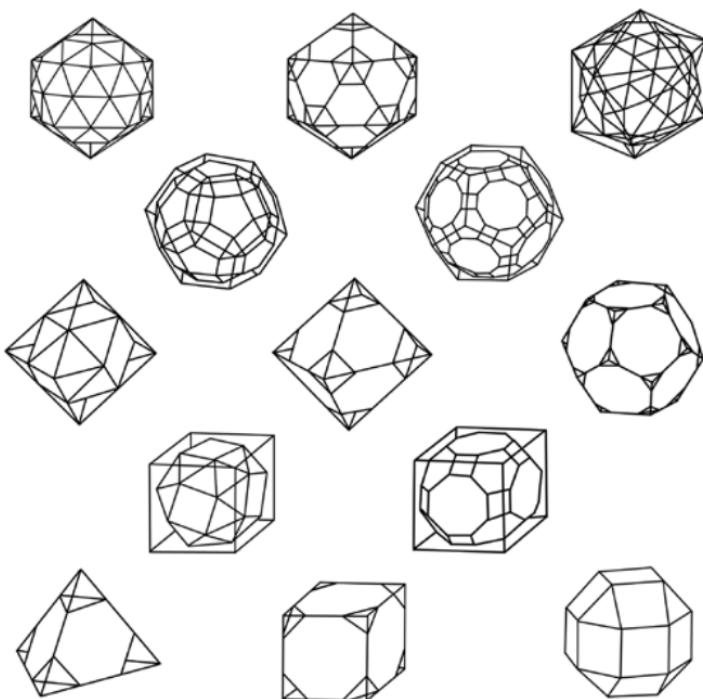


図60。13 個の半正多面体のオリジナルのレイアウト。



確かに、この順序では、すべての主要なシンボルと記号が観察され、さらに、4つのエッセンスと中心のマークが付いた数字自体で構成される、斜めの十字の形の一般的なパターンのスキームが観察されます。単純な空間形式からより複雑な空間形式への改善。しかし、人々は、古代ギリシャの科学者アルキメデスの著作の中でのそれらの言及を参照して、これらすべての半正多面体を少し異なる順序で配置します。しかし今日では、この知識の発見が彼の名前のみによるものであることは周知の事実です。原則として、そのような場合に典型的な、この古代の科学者によるこの問題に関する実証研究は失われているという参考文献があります。私は興味がありましたが、どうして彼はこれら 13 の数字について知ることができたのでしょうか？

アルキメデスは貴族の出身で、かつて彼自身も幾何学を含むさまざまな科学を勉強していました。当時最大の文化の中心地であるエジプトの都市アレクサンドリア（当時はギリシャ人の統治下にあった）には、ご存知のように、有名なアレクサンドリア図書館（アレクサンドリア博物館）がその時までにすでに設立していました。それは高等教育機関であり、国際的に重要であり、さまざまな国のユニークな古代の書籍（巻物）を保管していました。その後アルキメデスがそこで働いたことが知られています。私は、多面体や空間図形に関するそのような知識が当時またはそれ以前にまだ言及されていた史料に興味を持ちました。あなたが勧めたように、私はヒッタイト人（紀元前 2 千年紀に小アジアの中央部に住んでいたインド ヨーロッパ語族の人々）の文書記録を調べました。ヒッタイト人はバビロニア人から数学的知識を取り入れました。



つまり、大まかに言えば、古代ギリシャの数学者ピタゴラス、ユークリッド、アルキメデスが登場する 15 世紀前に、人々はすでに、たとえば、数値のべき乗、平方根と立方根の表、面積を計算する公式などの情報を知っていました。三角形、台形、円、体積立方体、直方体、円錐、普通および角錐台、その他の空間図形。実際、人々は古代からこのような知識をすべて持っていました。記念碑的な建造物から判断すると、それらは古代エジプト人、シュメール人、インディアン、メソアメリカ人、その他の古代の人々によって使用されていました。また、星状多面体、特にケプラー・ポアンソ体、有名な科学者レオナルド・ダ・ヴィンチによって現代人類のために再発見された星状八面体に関する情報を再読しました。自然そのものが人間に形を示唆していると考えられています。しかし、あなたは正しいです、これらの形式は何ですか？これらはまさにシンボルであり、サインです。三角形、ピラミッド、立方体、星などの同じ例です。今では、機能する記号の助けを借りて影響力の原理を理解するだけでなく、特定の瞑想テクニックをより正確に伝えるために、なぜ、どのようにこの象徴が使用されたのかをより深く理解できました。

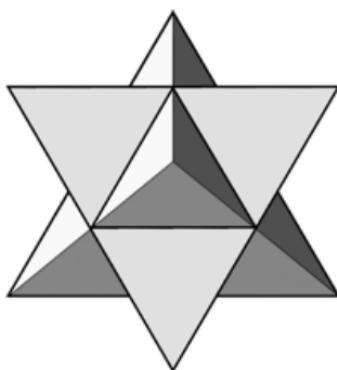


図61。レオナルド・ダ・ヴィンチの星型八面体。

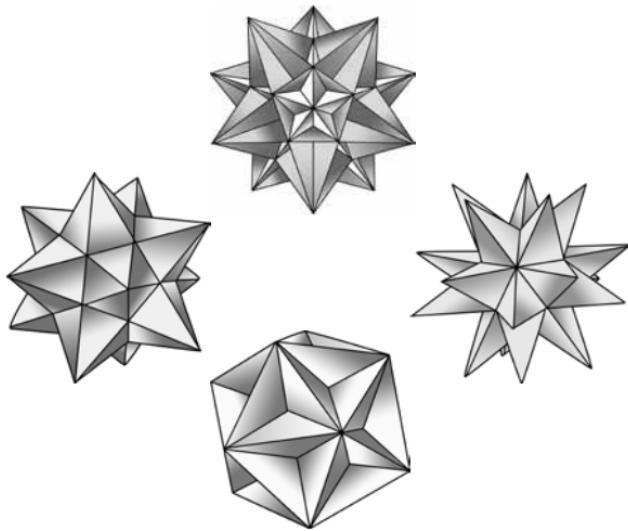


図62。星型多面体:

ケプラー・ポアンソ体。

現在、人々は大宇宙と小宇宙の両方の分野で知識を広げ、分子、原子の構造、ミクロ世界のより微細な組織のレベルで自然を探求する機会を持っています。驚くべきことに、すべては物理学であり、すべては波であり、特定の存在形態を固定しています。同じ氷の結晶またはロッククリスタル(クオーツ)を取ります。それらは多くの場合、尖った鉛筆、つまり上部に六角錐を備えた六角柱の形状に似ています。物質世界のすべてのものには、特定の空間的位置があります。私は、小さな粒子、特に振動板の表面にある乾燥した砂に対する音波の影響を研究する実験に関する情報にどういうわけか興味を持つていました。



驚くべきことに、振動の影響で、砂はさまざまな幾何学的に正しい装飾で並び始めます。さらに、その形状は音の周波数に直接依存します。このことを知らない読者のために、このような装飾品は、それらを発見した18世紀後半から19世紀初頭にかけて実験音響学の分野で働いていたドイツの科学者の名前にちなんで、クラドニ像と呼ばれていることを明確にしておきます。現在、彼の研究結果は、電話、スピーカー、マイクの振動板の固有周波数の研究に使用されています。

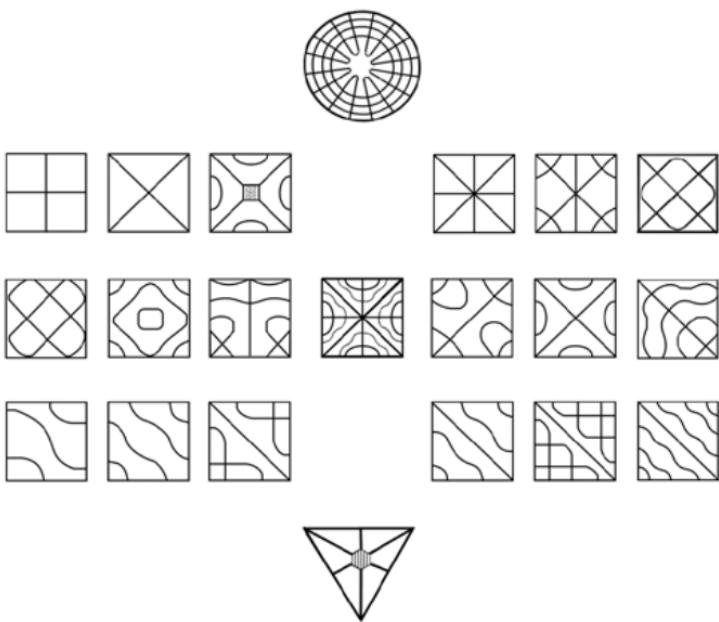


図63。クラドニのフィギュア。

特定の周波数の音波にさらされた後の小さな粒子の幾何学的な装飾。

リグデン： 音と幾何学的に正しい記号はすでに純粹物理学の領域であり、これは人類が世界的な音と機能する記号の秘密を理解する分野における最初の記号を意味します。



実際、これらは古代から人々に知られ、さまざまな民族の伝統に捉えられてきたことの科学的根拠に基づいた発見です。

アナスタシア： はい、聖杯について話したときにあなたが提供した、原音に関するユニークな情報を思い出さないわけがありません。聖杯は、霊的世界、つまり神の世界に対する一種の「対抗マーク」です。『先生IV』という本に収録させていただきました。結局のところ、一次音の公式は特定の機能する記号で構成されているとおっしゃいました。それらの活性化は、プライマリー・ロータスとアラットの組み合わせである超大国の発現につながります。たとえば、物理学、空間幾何学、地球時間、順序付けられた情報（基本的な情報の構成要素）などの既知の知識の観点から考えると、自分が提供した知識の深さがよりよく理解できます。世界へ。

リグデン： 恐れることなく深みに侵入する者は、遅かれ早かれ真実を認識します。表面にいると、深層に隠されたものが歪んで反映されることしか観察できません。

アナスタシア： はい、真実を認識するには、その深さまで実際に侵入する必要がありますが、それは精神的な性質からの観察者の立場からのみ可能です。賢者たちが言ったように、真実を知るためにには自分自身を忘れる必要があります。また、自然のフラクタル（ラテン語のフラクトゥスは粉碎される）、つまりそれら自体の中にある幾何学的な自己相似図形についても少し言いたいと思いました。会話の中であなたが言及したこと。フラクタルは、本当に予期せぬ空間構造と形状、美しさと調和の素晴らしい世界です。



これらの問題について知識を深めました。結局のところ、私はまだ世界について、そして認知のプロセス自体がどれほど魅力的で有用であるかをまだわかっていません。

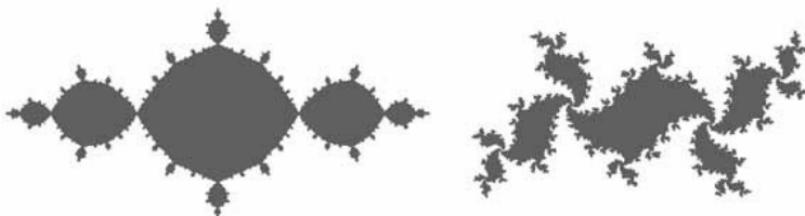


図64。ジュリアがたくさんいます。

フラクタルは、同じモチーフが連続的に減少するスケールで繰り返される幾何学的図形です。実際、自然界では、同じパターンの構造が繰り返されることがよくあります。これは、研究対象を何度も増減させることで確認できます。フラクタルの特性である自己相似性は、多くの物体、システム、自然構造に見られます。たとえば、雪の結晶、雲、炎、乱流、樹冠、DNA、人間の循環器系などです。フラクタルは多くの自然現象やプロセスで見られます。これは空間の幾何学の異なるレベルの複雑さのようなものです。私が理解しているように、あなたがかつて私たちに語った内容を考慮すると、それは最も難しいものではありません。あなたがアドバイスしたように、私はフラクタル幾何学の分野における現代科学の成果にも興味を持っていました。フラクタル モデルは現在、さまざまな科学の多くの分野で非常に広く使用されていることがわかりました。たとえば、化学反応速度論(ギリシャ語の「kinetikos」から) -「移動」)。



物理化学のこの分野が生物学や自然科学の他の分野とも関連していることを考えると、医学の分野も含めて、研究すべき内容がどれほど膨大であるか想像できます。フラクタル モデルはアンテナ構造の作成にも使用され、コンピュータ サイエンスではトラフィック、データ圧縮、情報の非常にコンパクトな保存を改善するために使用され、科学者はそれらを背景に現代のインターネットの代替未来を定義しています。

さらに、フラクタル モデルは、素粒子、太陽のプロセス、宇宙の銀河の分布を研究するために核物理学や天文学でも使用されています。実際、フラクタル特性はエネルギーの螺旋経路にも見られ、あなたはそこに私たちの注意を向けました。私はこれを、物理学者が渦巻きの形成を伴う外部の電場と磁場、および乱流の中でのフラクタル クラスターの挙動を観察したときに、間接的な確認として発見しました。そこでは、大きな渦が小さな渦を生じ、さらに小さな渦が生じます。螺旋エネルギーの分割は、科学者が技術的にアクセスできる目に見える限界まで観察されました。

リグデン：人は検索すると、実際には予想していた以上のものを見つけます。フラクタルに関する知識は現代人が想像するよりも古くからあります。人間社会では、知識を借りたり、隠したり、名前を変更したりする通常のプロセスがあり、世代から世代、世紀から世紀へと、いつもの虚栄心のゲームが行われているだけです。

アナスタシア：はい、ニュートンの代数フラクタルについて読みました。



リグデン: そうですね、これは歴史上最も興味深いことではありません。20世紀初頭にポーランドの数学者によって提案されたフラクタル、シェルビンスキーの三角形を思い出してください。

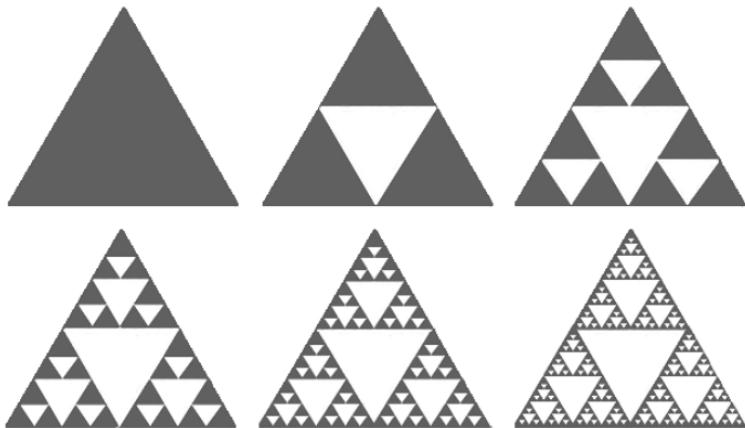


図65。フラクタル「シェルビンスキーの三角形」。4つの等しい正三角形への分割を絶えず繰り返すことによって、三角形のフラクタルを構築するプロセス。

アナスタシア: これは、平面上の閉鎖系における自己相似三角形の繰り返しの過程を観察できる三角形ですか？

リグデン: まさにその通りです。いわゆる再帰です。ラテン語の「recursio」(「戻る」)から来ています。

アナスタシア: はい、読みました。あなたがこの数学的プロセスを高度な物理学の観点から説明したとき、私はコッホ雪の結晶に関するあなたのメッセージに興味を持ったのを覚えていました。次に、この雪の結晶に関する情報を探し始めましたが、同時にこの自己相似三角形を含む他の情報も見つけました。

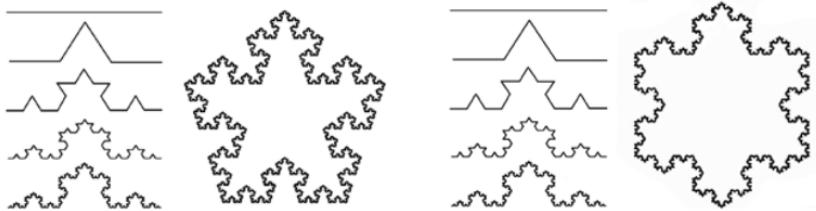


図66。フラクタル「スノーフレーク コップ」。

線分を 3 つの等しい部分に繰り返し分割し、中央の部分を同じ長さの 2 つの新しい線分で置き換えることによって、線を雪の結晶に変えるプロセスの 2 つの例。物質世界のこれらすべての自然な幾何学的形態を、私が興味を持って見つけたサインやシンボルだけでなく、働くサイン、人の精神的な発達に関連するプロセスに関する原始的な知識と比較したとき、それは私にとって本当に興味深い発見でした。人類の考古学的過去において。古代には、さまざまな文化の代表者が魔法、儀式、神聖な儀式などを目的とした岩や陶器の皿に施したものも含まれます。

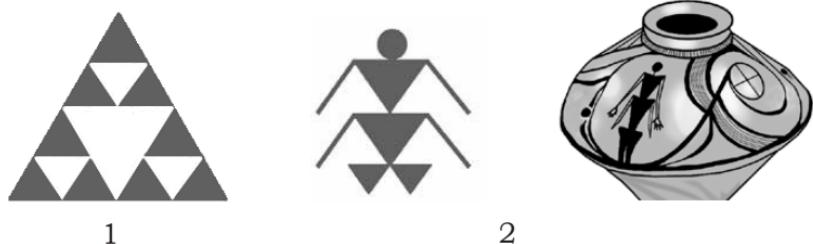


図67。トリピリオ文明のイメージにおけるフラクタル：

- 1) 数値を比較しやすいように、シェルビンスキービー三角形を示します。



2) トリピリア陶器の画像（紀元前 VI-III 千年紀、古代ヨーロッパ）：神聖な女性原理の力による人の精神的発達を模式的に示しています - アラット（上が下にある三角形）、他者への出口寸法。

リグデン：難しいことは何もありません。同じトリピロス文明や古代エジプト文明のシンボルや兆候を取り上げ、それらを並行世界、トンネル、アストラルミラー瞑想に関する情報と比較すると。

アナスタシア：トンネル、アストラルミラー瞑想について?!もちろん、物理学における再帰法です。アストラルトンネルとは何ですか？これは、異なる次元でのみ無限再帰が起こる典型的な例です。向かい合って配置された 2 つの鏡が、鏡の色褪せた反射の 2 つの回廊を形成します。これは、物理学で知られるフラクタルの無限反復の一例です。そして、多くの場合、古代人の装飾が空間の幾何学を実際に繰り返していることを考慮すると、理論ではなく実践の観点から、古代人はこれらすべてのプロセスについて私たちよりも多くのことを知っていたことがわかります。

リグデン：現代世界では、ほとんどの人が実際にこの知識を必要とする主な目的を忘れているため、残念なことに、すべてが世界を理解するための物質的な経路に変換されています。科学者でさえ、共通の全体の一部である材料、プロセス、現象を扱うのに、「私の人生の意味は何だろう？」という問いを自問するのをやめないのはなぜでしょうか。しかし、もちろん、人が自分の人生の主要な仕事である精神的な自己啓発に従事する場合、科学的研究でさえ、最終的には科学者が精神的な側面を理解するのに役立ちます。



古代に住んでいた多くの人々は、現代の科学者ほど物質世界についての詳細な情報さえ持っていましたが、精神的な知識は持っていましたが、重要なこと、つまり地上の世界とは何か、そしてそれを超えるために自分自身を管理する方法を理解していました。精神世界に到達するために。物質世界の大宇宙と小宇宙の両方に向けた鏡面反射と深化は相互浸透をもたらし、部分と全体の無限の類似性を感じるシステムの内部に観察者としての人間を生み出します。しかし、物質は一時的であり、その発現には限界があるため、これらの感覚は幻想です。人にとっての本当の永遠は、魂の中にのみ隠されています。この無限に小さい魂には、無限に大きいものへの出口があり、その交差部分に相互引力と相互浸透の領域が形成されます。これは、部分と全体の真の無限の類似性です。

アナスタシア: はい、あなたの言葉では、本質は真実です。今、内なる感情、これが宇宙の主な法則であるというある種の深い理解があります。興味深い状態: はっきりと理解できますが、この意識はあたかも魂から来ているかのように感じられ、そのスケール全体を論理でカバーすることは不可能であると感じます。

リグデン: そのようなことは、靈的な性質から発せられる深い感情によってのみ理解できます。そうしないと機能しません。結局のところ、6次元の人の構造は、新しい人格が世界を認識するのに最も便利な形式として作成され、精神的に成熟し、その魂と結合する機会を得ることができます。



このデザインは、物質的な身体での「永遠の命」のためにではなく、世界の知識のために特別に作成されたものであることを強調します。私たちの肉体は、実際には、三次元に位置する構造の一部にすぎません。新しい人格がそれを認識するプロセスを開始するだけです。

したがって、すべての人の中に科学者の潜在的な細菌が存在すると言えます。まず第一に、スピリチュアルな性質からの観察者の立場からこの世界を理解することを学ぶことが重要です。そうすれば、画期的な発見があなたを待たせることはありません。今日、人々は最新の機器を使っていても、あまり見ることができず、理解することもできません。彼らは物質的思考で多くのプロセスをカバーすることができません。なぜなら、彼らは三次元の非常に限られたシステム(肉体、地球など)の外側ではなく、その内側にいて現象を観察し判断しようとするからです。誰もがそのような機会を持っていますが、精神的な性質から観察者の立場から世界を知ることができます。精神的な修行を行うときの脳の古代構造の働き、接触精神的な世界とのつながりや宇宙の秘密の理解は、いかなる技術にも置き換えることはできません。

アナスタシア: その通りです。実際、職業に関係なく、誰もが何らかの形で科学者研究者です。そして、どのような職業においても、最も重要なことは何でしょうか? どのような関係においても、今ここで人間であるためには、まず第一に自分自身に取り組む必要があります。そうすれば、そのような内部の定性的な作業の結果は、人の外部の生活、他の人々への助けに反映されます。そして、社会にそのような人々が大多数であれば、それぞれの部分が全体の特性を担うので、社会は異なったものになるでしょう。



リグデン: 確かに、しかし、変性意識状態としての瞑想の話題に戻りましょう。脳や周囲の世界のさまざまな周波数範囲は、研究にはほど遠いですが、今日の科学はこの問題についてすでにある程度のアイデアを持っています。人には独自のエネルギー場があり、それが特定の放射線を生成します。人の構造を三次元で調べてみても、興味深い特徴がたくさん見つかります。同じ頭蓋骨は、異なる周波数の優れた共振器です。ところで、人は地球という惑星に住んでいますが、地球にも独自のエネルギー場があります。大気圏、より正確には電離層（地球の大気の上部、50 km 以上に位置する部分）は、巨大な球状の共振器、つまり電気伝導性を備えた導波管であり、そこではイオン化と再結合のプロセスが常に発生しています（ラテン語の "re" より）「更新、反復アクション」を意味する接頭辞；「組み合わせ」-「接続」）。

人はこの空洞共振器の空洞の中に住んでいますが、当然のことながら、何らかの形でその人のエネルギー構造に一定の影響を与えます。覚えているとおり、電離層の外側の境界は地球の磁気圏の外側の部分でもあり、地球を宇宙放射線から守るまさに「スクリーン」です。電離層のおかげで、同じ電波が何度も反射しながら長距離を伝播します。低周波振動を生成する雷は、大気の分子と共に鳴ると、電離層内で特定の性質の減衰しない振動を生成し、地球を何度も周回します。



アナスタシア: 動物の性質が支配的なときの人間の思考と同じです。これらの「放電」は時々共振し、減衰しない振動が継続して起こり、それが頭の中で一日中回り続けるという悪循環に陥ります。

リグデン: さて、共鳴とは何ですか? レゾナンスという言葉はラテン語の「resono」(エコー)に由来しており、「応答して鳴る」、「応答する」という意味です。これは応答です! 共振現象は簡単ではなく、音、電気、機械、その他の振動プロセスに影響を与えます。ニコラ・テスラが今日「テスラ共鳴変圧器」として知られている装置をどのようにして組み立て、高周波電流で自分の体の輝きを実証したかについて私がかつて話をすることを覚えていますか? その後、ソビエトの発明家セミヨン・キルリアンによって開発が改良されました。このおかげで、今日人々はいわゆるキルリアン効果を観察することができます。これにより、配置されたさまざまな生物学的、無機物体の周囲にある一種のハローである輝きを修正することができます。高周波の交流電場に印加します。

アナスタシア: もちろん、覚えています。その後、あなたは別の興味深い実験について話しました。それは、研究者たちがどのようにして木から摘んだ新鮮な葉から一部を切り取り、その葉そのものをこの野原に置くと、取り除かれた部分の幻影が現れるのを見たということです。葉っぱが写真に写りました。実際、私たちの言語では、物理的な部分は削除されても、シート全体に関する情報構造は保存されています。その後、これらの問題に関する知識を広げました。



率直に言って、この光の性質が人間の状態に依存することがわかったため、病気や人間のさまざまな精神生理学的状態の診断にこの現象を使用する可能性が研究されているという情報を含め、多くの興味深いことを見つけました。研究中のオブジェクト。

リグデン：これが現在研究されているという事実は注目に値します。科学者が人間のエネルギー構造について少なくとも一般的なアイデアを持っていて、その後、最も有望な研究分野についての理解を得ることができたときにのみ、この問題における重要な一步が踏み出されます。したがって、ご存知のとおり、共振振動は、これらの振動の励振器の近くで最も明確に表現されます。この変動は何でしょうか？これは環境の状態の変化であり、エネルギーを運ぶ摂動です。つまり、情報が入ってくることによって起こる環境の変化です。人間の思考も同様です。思考が浮かび、そこに注意を向けると、あなたの中の特定の感情が活性化されます。そして、この情報プログラム（思考）が、その思考によって現れた感情と共鳴すると、人の注意を自分自身に向ける「減衰のない振動」が現れます。多くの場合、これはパーソナリティが横のエッセンスによって攻撃されたときに発生します。でもすべて、これはそもそも人間の選択の結果です！彼はこのプロセスとその原因を事実上追跡していません。たとえば、朝になると何か考えが浮かび、それに注意を払うかもしれません。そして午後または夕方には、この情報番組に対応する感情が溢れますか、本人はすでにこの考えを忘れています。



しかし、プログラムに対する彼の注意力の強さのおかげで、プログラムはすでに彼の中に浸透しています。そして、彼女は感情と共に鳴る思考を発し、それによって、あなたが言うように、継続的な減衰のない振動を生成します。そうすると、悪循環で一日中頭の中でグルグル回るのも不思議ではありません。

世界のあらゆるものは相互につながっており、無視できるものは何もありません。同じ巨大な電離層共振器内で、同じ周波数と強度で反対方向に移動する進行波の影響下で、いわゆる定在波が発生します。定在波の振動の例としては、砂を注いだ金属円盤の端に沿って弓を引くときのクラドニ人形の同じ実験が考えられます。結果として生じる音はディスク内の定在波を励起し、その振動から特定の幾何学模様が形成されます。自然界の定常波の例は、今日シューマン波として知られる電離層共振器内の同じ振動であり、それらが生み出す共鳴効果がシューマン共振です。現在までに、科学者たちは、シューマン共鳴の周波数は 7.83 Hz であると計算され、その波はアルファリズムの周波数を含む人間の脳と同様の周波数範囲で共鳴すると結論付けました。

一般に、この周波数範囲は人々が想定しているほど単純ではありません。しかし、彼らが言うように、それを総合的に研究したいという願望はあるでしょう。結局のところ、アルファリズムはさまざまな変調、波(紡錘体)の振幅の増減の交互、「自発的」変化が特徴であるという理解がすでにあります。



ところで、このような変性意識状態、たとえば同じ夢を見ている状態では、周波数1～4Hzのデルタリズムが発生し、紡錘体が生成されるという事実に注目していただきたいと思います。視床の核（視床視床、間脳の主要部分）、より正確にはその網様細胞にあります。

アナスタシア：つまり、間脳です。はい、4つのエッセンスに関する瞑想を説明する際にあなたが間脳について最近話した内容を考慮に入れると、その比較は興味深いものになります。結局のところ、間脳の主要部分である視床は、あらゆる種類の感受性のインパルスを受け取り、そこで実際に分析および合成され、その後脳のさまざまな部分に再分配される主要な皮質下中枢です。視床の同じ網様体核は、新旧大脳皮質、および他の視床核と接続されています。名前もこのようなものです - ギリシャ語の「thalamos」（視床）に由来し、「寝室、部屋」を意味します。彼らは、あたかも、ある状態から別の状態への変化が起こる脳内の場所、いわば微細なエネルギーが粗い波動に変化する場所について、あらかじめ知っていたかのようにそれを呼んだのです。さて、全体としての網状形成（ラテン語の「reticulum」-「メッシュ」、「formatio」-「形成」から）は、一般に普遍的なシステムです。彼らはそれをいたずらに「脳の中の脳」と呼ぶわけではありません。脳と脊髄の両方に接続されています。

リグデン：さらに、アルファリズムと同じ周波数で動作するが、異なる波形を持ち、脳の他の領域に固定される他のリズムも研究されています。



たとえば、いわゆるミュウリズムの周波数範囲は 7 ~ 11 Hz です(脳波上の波形はギリシャ文字の μ (ミュー)に似ています)。興味深いことに、今日の科学は、ミューリズムがミラーニューロンの協調的な活動の一種の反映であるという仮定をすでに検討しています。

アナスタシア: はい、90 年代半ばにあなたとミラー ニューロンについての思い出に残る会話を覚えています。しかし、図書館でこの情報をどんなに一生懸命探しても、見つかりませんでした。あなたが言及したこれらのユニークな実験がマスコミに報道されたのは、ずっと後、数年後のことでした。これは、動物が特定の動作を実行するときに活性化されるコマンドニューロンの働きをサルで研究していた科学者が、いわゆるミラーニューロンを偶然発見したときのことであり、このニューロンは、サルが見慣れた動作を単に視覚的に見たときにも機能するものです。言い換えれば、ミラーニューロンは、あたかも猿自身がテーブルからピーナッツを取り出して食べるかのように発火したが、実際にはその時、猿は単に別の猿がこれらの行動をしているのを見ているだけだったのだ。さらに、動物に対するそのような実験の結果に関する情報だけでなく、その後の人間に対する実験に関する情報も現れました。共感の起源の性質に関するあなたの話にも興味がありました(より ギリシャ語の『enpati』「エンパティア」-「共感」)-他人の経験に対する人の感情的な反応、他人の意識を理解するためのいわゆる科学者のメカニズムについて。そして、あなたが上で述べたことをすべて考慮すると、それはこの現象の全体像の中で欠けている断片を示しているだけです。



あなたの情報は真にユニークであり、対象を絞った検索のベクトルを設定し、普遍的な重要性を備えた驚くべき個別かつ進化的な発見をもたらします。

リグデン: 一般に、ミラー ニューロンの話題には多くの興味深いことが隠されています。しかし、人類が人間の目に見えない性質の基本概念に到達し、意識の変性状態を通じて、特に精神的発達を目的としたさまざまな精神的な実践や瞑想を通じて、情報の拡大された認識の可能性に到達したときに、それは完全に利用可能になるでしょう。

アナスタシア: これは科学の発展における重大な進化のステップであり、テレパシーのメカニズム、宇宙環境、平行世界、その他の次元を含むさまざまな状況における人間の迅速な適応、人間のメカニズムの理解につながるでしょう。先見性、出来事や行動のモデル化。

リグデン: ミラーニューロンは、進行中の科学の小さな一步にすぎません。将来的には、人間の一般的な構造の実際のメカニズムの働き、つまり人が情報、感情、感情をどのように正確に読み取るか、の理解につながる可能性があります。対話者に関する口頭または視覚情報を受け取る前であっても、他の人。まあ、もちろん、この人類に未来があるという条件で。

アナスタシア: はい、人間の選択。すべてはそれに基づいています。

リグデン: 神経活動は本質的に部分的にのみ電気的です。



人々はまだ、脳の働きについて多くのことを理解しておらず、「見ていない」のです。なぜなら、他の次元のより微細なエネルギーを修正するような測定器をまだ持っていないからです。もちろん、目に見えない世界の知識に関連して最高のデバイスについて話す場合は、もちろん、他の世界や次元に浸透する能力を授けられているのはその人自身です。

アナスタシア: 言い換えれば、人は、このプロセスとその作用メカニズムに伴う現象の詳細や微妙さをすべて理解していくなくても、タスクを設定して、既製の答えや結果を得ることができます。つまり、科学者の言葉で言えば、理論的な計算をバイパスして実際的な結果を得るということです。とはいって、科学者自身(その多くは自らを唯物論者だと考えている)にとって、これは確かにナンセンスに聞こえるだろう。

リグデン: そうですね、これは信仰とは何か、つまり知識という言葉の対義語か同義語かについて理解するのと同じことです。知識のない信仰は疑いを生むからです。疑いは真実の理解を妨げます。真理を理解できなければ、信仰は無意味で空虚なものになります。一方、知識は真実の理解を与えるため、疑いを排除します。真理を理解すると、信仰が知識で満たされます。そして知識に満たされた信仰だけが真の信仰です。

アナスタシア: 人生ではこういうことが起こるんです。実際に、私はすでに、人がさまざまな瞑想をしようとしているが、自分自身を変えたくなく、自分を大切にせず、自分の意義を満たしたい利己的な性質のままであるというケースに何度も出会ってきました。すべてにおいて個人の力を得るすべてにおいて。



そのような人々は、しばしば疑い、プライド、単純な真実に対する誤解に悩まされます。しかし、私はまた、毎日自分自身を改善しようと努めている他の人々も見ましたが、同じ瞑想の結果は彼らにとってまったく異なります。日々人間になろうと努力し、自己啓発や精神的な修行に従事することで、彼らは沈黙の知識を理解し始め、真の信仰を獲得します。精神的に勤勉なそのような人々のために、基本的な瞑想の一つであるピラミッドについてお話をいただきたいと思います。

リグデン：これについては、古代東洋の知恵があって、こう言っています。「ある人が生涯に何度も戦いで多くの人を倒し、別の人人が生涯で自分だけを倒した場合、2番目の人のほうが最初の人よりも大きな勝利を得た」。結局のところ、人にとっては他のすべての人よりも自分自身に勝つことがはるかに重要です。

現在すでに知られている知識を考慮に入れて、ピラミッド瞑想をよりよく理解できることを願っています。したがって、すでに述べたように、高次元の観察者の立場から見ると、人間の構造は三次元の世界（腕、脚、頭、胴体）とは異なります。それは複雑な形状のように見えますが、もちろん、三次元の住人の思考に理解できる最も近い関連付けを選択した場合、それは最も上部が切り離された切頭四面体ピラミッドに似ています。ピラミッド瞑想のおかげで、人は4つのエッセンスに関連する自分のエネルギー構造を感じ、認識を広げることができますが、最も重要なのは自分の魂を感じることができます。



瞑想「ピラミッド」は、蓮華座に座って行うか、単に足を組んで「トルコ式」を実行し、手のひらを膝の上に置きます。ただし、何らかの理由でそのような姿勢に長時間留まる機会がない場合は、椅子に座るなどして瞑想を行うことができます。主なものは、人の内部で起こる精神的なプロセスです。

そこで私たちは目を閉じ、意識を合わせ、心を落ち着かせ、体をリラックスさせ、思考やあらゆる経験、感情の爆発から心を解放します。一般に、私たちは完全に変性意識状態、つまり瞑想に入ります。瞑想状態に入ると、私たちは 4 つのエッセンスに関連した自分のエネルギー構造を検討し始めます。つまり、切頭ピラミッドの内部にいる観察者は、切頭ピラミッドの「生きている側面」の形で右、左、後ろ、前のエッセンスを感じる必要があります。これらの側面は、人の身体からおよそ腕の長さの位置にあります。

アナスタシア: 比喩的に言えば、腕を伸ばした瞑想者の前に、条件付きで切頭ピラミッドの前壁の形をした生きたエネルギー場があります。側面と背面も同様に。これらのフィールドは四角形の基盤を形成し、その中央には蓮華座に座って瞑想する人がいます。

リグデン: はい。これら 4 つのエッセンスは、私たちのエネルギー・フィールド、言い換えれば私たちの個人的な空間の境界警備員のようなものです。

パーソナルスペースとは何ですか? 肉体と 4 つのエッセンスの間には、臨界の 7 センチメートルから 1 メートルまで変化する空間があります。パーソナル スペースは、輪郭がぼやけた橢円形 (古代では「卵」または「魚の泡」と呼ばれていました) に似ており、人体よりも体積が大きいです。原則として、記号や記号の暗号化では、条件付きで橢円形の記号として指定されます。

一人一人のパーソナルスペースは不安定である、つまり、一定の体積制限内で常に変化する、ということだけは言っておきたい。それはさまざまな理由によって決まりますが、個人の気分の変化によっても異なります。しかし、人々は原則として、



これに気づかず、理解せず、さらにはそれを管理することはもちろん、それに応じて自分の状態を物理的な視覚で見ることもありません。しかし、今はそんなことではありません。人のピラミッド構造におけるエネルギーの分布はわずかに異なり、人が3次元と4次元の観察者の位置から知覚するものと同じではないことに注意する必要があります。体、腕、脚のエネルギー経絡を通して。ここでは、高次元の空間の物理学と幾何学に従って、エネルギーがピラミッドの各セクションに分散されます。

したがって、切頭ピラミッドの条件付きの側面が私たちの 4 つのエッセンスです。魂はこの構造の真ん中にある、一種の光の繭の中に閉じ込められています。その位置は構造のおよそ下 3 分の 1 で、肉体に導かれている場合は、みぞおちと上腹部のレベルにあります。ところで、東洋では古来より、繭の中の魂は貝殻の中の真珠として象徴的に描かれてきました。



彼女は、ルネッサンスの奇跡である、建築の内側に隠された人の精神的な成長の象徴でした。そして、その真珠層のような白さは、精神的な純粹さ、知恵、完璧さ、そして秘密の知識の象徴です。魂と真珠のこの連想的な比較は、世界のすべての宗教で追跡できることに注意してください。ヒンズー教徒や仏教徒にとって、真珠は精神的な洞察力のイメージです。キリスト教徒にとって、「洗礼の水から得た貴重な真珠」は、魂と神の母、その靈的純粹さの概念と組み合わされています。イスラム教では、真珠は神の名前の一つであり、死後の世界では正義の魂の周りの球体がまさに真珠を形成すると信じられています。瞑想している人は、特定のスピリチュアルな実践を行っているときに、魂が位置する領域で起こっているプロセスを時々見るため、そのような連想は部分的にスピリチュアルなビジョンに関連しており、彼はそれを輝き、つまり魂から発せられる明るい光の遊びと関連付け、次のようなものに似ています。太陽の下でのマザーオブパールの輝きと融合。

アナスタシア：あなたはかつて、輪廻転生の際の魂の殻について話し、それがシャボン玉の上に虹の膜のように見えると、別の良い連想を与えました。私はこの知識を「エズオスモス」という本に記録しました。

リグデン：そうですね。ピラミッド台形の人間の構造に慣れてきたので、基部から分離されたその頂上に進みましょう。彼の考えが生まれるのは、人の頭の上にあるピラミッドの条件付きの頂上であるこの場所です。



これは頭のてっぺんから約0.5メートルです。(距離は人それぞれ異なるため、おおよその距離です)。これは、三次元の住人を理解するために、条件付きで上部が分離された四面の切頭ピラミッドに似た普通の人のエネルギー構造がどのように見えるかです。

さて、この瞑想を実行するテクニックに戻りましょう。したがって、4つのエッセンスすべてを感じる必要があります。この感覚は、まるで違う4人が近くに立っているような感覚で、目を閉じてリラックスすると、パーソナルスペースに一定の圧迫感を与えて彼らの存在を感じることができます。4つのエッセンスを感じたら、ピラミッドの頂上へ進みます。そこで私たちは、私たちのさまざまな思考の「誕生」の主要なプロセスを観察します(それはその後、あなたが本「鳥と石」で言及したカコデーモンとアガトデーモンの中心を介して変換され、いわば物質的な特徴を獲得します)。これらのエネルギーがどのように発生するか、それらの動き、相互作用、遮断の方法。私たちはそれらの影響を区別します。言い換えれば、これらすべてのプロセスを監視し、可能な限りそれらを落ち着かせるか、それらから完全に抽象化します。

次に、このピラミッドの頂点を離れ、より高いところをたどると、物質世界から切り離された観察者のレベルに到達します。言い換えれば、私たちは思考よりも、物質よりも高くなり、地上的なもの、何らかの形で私たちを人格として物質に結びつけるものから切り離された状態に達します。



多くの場合、瞑想を習得する最初の段階では、瞑想者が意識を持ってピラミッド構造から出てきて、空中に浮かんで鳥の目でそれを観察しているという考えが役に立ちます。現代的な連想を使うなら、意識はいわばこの高さにあり、あたかも真空の中、無重力状態にあるかのようになります。スピリチュアルな性質からの観察者のこのような状態は、完全な内なる平和、拡大された意識状態、進行中のプロセスの観察そのものの公平性を見つけるのに役立ち、物質的な体や思考から抽象化し、自分のエネルギー構造を宇宙から探索することを可能にします。新しいビジョンの位置づけ。さらに、私たちはそのような意識状態に留まり、自分のピラミッド構造とその中に閉じ込められた魂を外側から観察します。次に、瞑想の最も重要な部分が始まります。私たちは意識(人格)を魂に可能な限り直接的にアプローチし、それを深い感覚的なレベルで行います。つまり、私たちは(観察者として)ピラミッドの頂上から、ピラミッドそのものの内部エネルギー構造を通って、その中心部、つまり魂に至るまで浸されているのです。瞑想のこの部分を行うとき、脳は、あたかも人が水の中に潜っているかのように、深いところに潜っているかのように、この物理的プロセスの特徴である圧力なしで、連想的な知覚を与えることがよくあります。本質的にエネルギー・プロセスに特に敏感な人、特に直感的な知覚を発達させた人は、そのような没入中に、意識の動作モードがまだ知られていない新しいレベルの感覚知覚に徐々に切り替わる段階さえも気づきます。



したがって、精神世界からのこの粒子が配置されているピラミッドの中心にある発光繭にできるだけ近づく必要があります。そして、深い感情のレベルで彼女と連絡を取ってください。もちろん、人が靈的に成熟して魂と融合するまでは、魂を完全に感じ、その靈的深さを受け入れることは不可能です。しかし、この感情の接触でさえ、例えば、同じ仏教徒が涅槃との接触、他の仏教徒は善良な状態、神聖な至福の状態、調和の達成などと呼ぶ状態を生じさせます。この瞑想のおかげで、あなたは自分自身、自分の複雑な多次元構造をよりよく理解し、多くの思考が私たちの「意志」によって現れたり消えたりするものではないという認識を得ることができます。しかし、私たちにはそれらを観察し、影響を与え、それらから抽象化し、ブロックする機会があります。最も重要なことは、この瞑想の助けを借りて、人格としての人は神の存在を感じるだけでなく、自分の魂とのつながりの経験を積み、魂と絶えず接触するスキルを開発し、魂が実際に存在していることを理解することです。人間の構造全体の主要で最も重要な部分。魂はあなたですが、それは真実です。6次元のエネルギー構造の残りの部分は、それを中心に構築されます。この瞑想では、人は自分の現実に対するまったく異なる認識を経験し、精神的な性質から観察者の立場から自分自身を知ることができます。

他のスピリチュアルな修行の発展と同様、この瞑想を完了するまでの時間は個人差があります。最初は20分くらいからやることをお勧めします。都合に応じて、1日に1回でも、1日に数回でも構いません。主なものは品質です。その後、瞑想の時間をたとえば最大30分まで増やすことができます。



しかし、繰り返しますが、このプロセスで重要なことは時間ではなく、正確には内面の感覚、つまり魂との精神的で深く感覚的なつながりの発達です。

アナスタシア：この瞑想は本当にユニークです。私の個人的な経験から言えますが、この精神的な実践を習得し始めたばかりのときと、すでにその開発の経験を積んだときとでは、感覚に大きな違いがあります。最初は、そのテクニック自体が私にとって珍しいものに見えましたが、それは、たとえば「空間の幾何学」の中で精神的な修行を行うことについての私にとっての新しい理解につながりました。結局のところ、当時の私にとってすでに自然になっていたチャクラを使ったワークや、体のエネルギー経絡に沿ったエネルギーの動きの感覚などはありませんでした。しかし、それが彼女の面白さなのです。最初は、すべてがパフォーマンスでのみ私に起こりましたが、どうやらその時はまだ完全に変性意識状態に入る方法を知らなかったためのようです。しかしその後、自宅でこの瞑想を毎日実践する過程で、驚くべき感覚が現れました。たとえば、意識状態が切り替わった瞬間、深い没入が感じられ始め、言葉では説明できない、魂の存在の異常な感覚が生じました。あなたはまったくその通りです。言葉では言い表せない範囲の感覚全体を理解するには、自分自身の瞑想体験をする必要があります。そして瞑想の過程における時間の感覚についてもう少しメモしておきます。



以前、私たちが最初のスピリチュアルな実践をマスターし始めたばかりのとき、20~30分間座って瞑想しているのが非常に目立ちました。仕事中に身体に注意を払うのは、習慣的な思考モードにあるとき、実際には覚醒状態にあることがわかりました。この状態では、体や環境をよく感じ、無関係な考えが時々頭の中に現れ、それが瞑想から気をそらします。そして、ほとんどの場合、想像力が働くため、瞑想自体は条件付きです。何年も経った今、あなたが「ピラミッド」を作り、本当に変性意識状態に入ると、あたかも時間と空間が存在しなくなり、実際、三次元世界のすべての荒々しい現実が存在しなくなったかのようになります。あなたはこのプロセスを開始し、魂に向かって進み、そのスピリチュアルな側面からピックアップされているようで、前エッセンスが活発に働き始めます。

もちろん、この瞑想の作業のこの段階すでに起こっていることは、瞑想を習得しようとした最初の試みのときに起こったこととは比較にならないものです。さらに、このスピリチュアルな仕事には単調はありません。スピリチュアルな実践を行うたびに、新たな気づき、さらに豊かな感覚が得られ、目に見えないレベルで起こっているプロセスや変化についての明確な理解が得られます。あなたはすでにこの状態に住んでおり、瞑想を離れるとき、それはあたかも大切で身近なものを離れて、それを再び経験する瞬間を再び待っているかのようです。これにより、そこに長く滞在したいため、それをさらに発展させたいという意欲と積極的な欲求が生まれます。



結局のところ、この驚くべき状態では、あなたは、通常の意識状態では脳では理解できない深いプロセスをはっきりと認識し、何か非常に親密で、並外れた快適さを感じ始めます。重要なことは、この瞑想から抜け出すと、その微細な世界と三次元の物質の世界との間に大きな違いを感じるということです。私たちの現実における多くのプロセスは、粗大物質エネルギーの働きとして感じられ始めます。驚くべきことに、瞑想状態では、あなたは自分の存在の明確で明確な意味を獲得し、世俗的な生活であなたを心配していたものの多くは空虚でばかばかしいものに見えます。そこであなたは、現実の人生の価値観、つまり魂の価値観が何であるかを完全に理解します。そして、この驚異的な経験は、三次元のあなたの人生に一種の精神的な痕跡を残すようです。そして、これにより、自分のスピリチュアルな指針や人生の指針を失わずに済むようになり、自分自身にもっと熱心に取り組み、自分の考え方や状態を追跡し、他人からの挑発を防ぐことができるようになります。

動物の性質。靈的な経験は、本当の幸福とは何か、それが心の平安と安らぎの感覚を生み出し、なぜこの世の幽霊のような幻想を追いかけるべきではないのかを理解するのに役立ちます。最も重要なことは、あなたが本当の自分とは何なのか、そしてこの世界であなたが存在する意味は何なのかを理解することです。

リグデン：この世界の空間と時間は不連続(カスケード)の性質を持っています。物質的なもの、不連続なもの、発作的なもの、すべてがエゾオスモスです。この物質世界は不安定で一時的なものです。しかし、神の世界、靈的世界は安定しており、永遠です。実際、この瞑想の後、習慣的な意識状態であっても、得られた経験のおかげで、魂から発せられる深い感情、魂との微妙なつながり、無限の靈的な愛の感覚、故郷の感覚を感じることができます。— 涅槃と永遠。



かつて、この瞑想は人間社会における自己改善のよく知られたテクニックであり、人格と魂の間の感覚的なつながりである深い感覚を発達させるための基本的なテクニックの1つでした。しかし、社会の意識が具体化する過程が進むにつれて、この瞑想法や他の多くのスピリチュアルな知識は徐々に忘れられ、失われ始め、時にはそれについての言及さえ意図的に破壊されてしまいました。真の精神的な知識が社会に存在する限り、それは人の世界観において最も重要かつ自明なものとして、シンボルの形で次世代に受け継がれました。たとえば、ピラミッド瞑想の象徴的な指定(シンボルの完全版)は、斜めの十字と中央に空の円が付いた正方形でした。

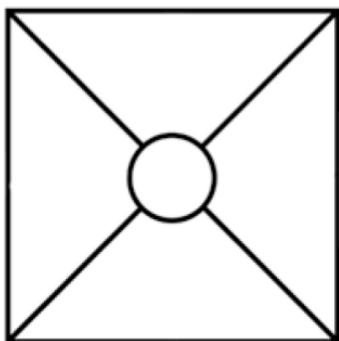


図68。瞑想の象徴的な名称「ピラミッド」。



アナスタシア: ご存知のとおり、あなたが最初にこの瞑想について私たちに説明し、エネルギーがピラミッドの断面全体に分布していると教えてくれたとき、私は好奇心から、それから幾何学の教科書を調べ、すでに学校で勉強していたときに非常に興味深く読みました。私の注意をすり抜けました。たとえば、ピラミッドと交差し、その底面に平行な平面が同様のピラミッドを切り取るとなります。底面に平行な複数の平面で四面体のピラミッドを切断し、これらの部分を底面の同じ面に投影すると、結果として、互いに内接する一連の正方形が得られます。そして、ご存知のとおり、正方形はあらゆる物質の象徴です。一般に、この追加情報のおかげで、将来的には瞑想中に発生するプロセスについてさらに理解できるようになりました。人にとって、汎用性の高い基礎知識を持つことがいかに重要であるか。

リグデン: ピラミッドの幾何学は物理学と密接に関係しています。このようなデザインを持ち、必要な知識を持っていると、自然の物理法則のおかげで、次元間の関係により特定の効果を引き起こすことが可能です。実際、司祭たちは何を知っていて、誰の手に元の靈的実践に関する情報を持っていたのでしょうか。考古学的事実、つまり古代のピラミッド型の建物に注意を払うだけで十分です。そして、人は、それらのほとんどすべてが非常に重要なカルト、儀式、宗教的、イデオロギー的な重要性を持ち、超自然的な力を象徴し、世界の特定の特性の発現を具体化しているため、人々によって神格化されたという情報に遭遇するでしょう。

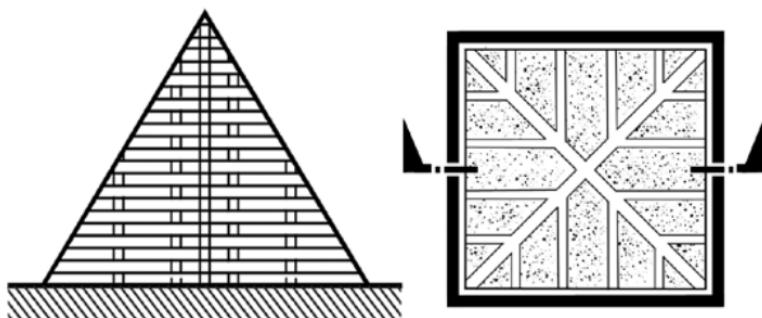


図69。ピラミッドとその基礎の図。

この図はピラミッドの構造(紀元前2千年紀の建造物)を断面図と水平投影図で示しており、充填された石枠が示されています。特にピラミッドの底面の幾何学模様に注目してください。

アナスタシア: はい、今日では多くの人が、アフリカの古代エジプト人のピラミッドや、中南米の古代民族の切頭ピラミッドなど、古代の記念碑的な建造物について知っています。メソポタミア(前アジア)のシュメール人が、切頭ピラミッドの形をした階段状の構造物(3~7段)、つまりジググラトを建て、その上に神聖な寺院が設置されたことが知られています。この複合施設全体は、彼らにとって「天と地のつながり」、神秘的で神聖な中心を象徴していました。

リグデン: さらに、死後の人々の運命もピラミッドの象徴性と関連していました。たとえば、同じ古代シュメール人、エジプト人、バビロニア人。またはシリア、パレスチナ、中国、韓国、北ヨーロッパ、シベリアなどの埋葬の伝統を取り上げてみましょう。



アナスタシア: 間違いなく、これらの埋葬には通常、階段状のピラミッド型の屋根があります（理想的には最大 6 段で、これは明らかに人間の構造が配置される次元の数を示すために使用されます）。上部には、原則として、半球または細長い形の石があります。彼は別の世界（7次元）の象徴として機能し、靈性、死者の全知、または亡くなった魂の象徴を意味しました。そして、墓そのもののレイアウトも正方形であることがわかります。

リグデン: 多くの人々は単にピラミッドに似た古墳を作りました。

アナスタシア: はい、これは大陸で最も一般的なタイプの埋葬構造物です。ここで注目すべきは、ロシアとウクライナの草原の丘です。たとえば、紀元前2千年紀のカルーガ地方からウラル（ロシア）までの地域で一般的だったアバシェフスカヤ考古学文化の墳丘。ちなみに、それは「火と太陽の崇拜」、幾何学的な装飾で豊かに装飾された陶器によって特徴付けられ、螺旋、ペンダント、ブラークなどの形をした多くの女性の宝石がその層で発見されました。そして、アルタイの古代の埋葬塚、たとえばロシアの考古学的発見「アルタイの黄金人」や、カザフスタンの同じ発見「イシクの黄金人」はどうでしょうか?! 土製のピラミッド塚は、ヨーロッパとアジアの草原地帯に住んでいたスキタイ人（紀元前 7 世紀から紀元後 3 世紀まで）の特徴でもありました。この人々はまた、女性の女神に関連した豊かな神聖な象徴性と、科学者によるいわゆる「動物スタイル」の芸術を持っていました。



そうですね、私は他の大陸の遺跡について話しているのではありません。たとえば、北米のミシシッピ文化、カホキア(西暦7世紀から13世紀)には、109個のピラミッド型の塚があり、そのほとんどは頂上が切り取られています。一般に、ミシシッピ州の文化にもかなり豊かな象徴的な象徴性があることに注意する必要があります。

リグデン: もちろん、古代世界のシンボルを見れば、その基礎に同じ精神的な知識を簡単に見つけることができます。もちろん、それらについて少なくとも一般的なアイデアを持っていればまたは、ここに別の例がありますピラミッドの形での知識の伝達。ストゥーパは、数千年にわたって東洋で最も古い象徴的な神聖な建造物の1つでした。ストゥーパはサンスクリット語で「王冠、土の丘、土の山、石」を意味します。仏塔は、より古代の埋葬を模倣して指導者や王の墓の上に建てられましたが、後には単に宗教の象徴的な建物、「精神的な宝物」の保管庫として頻繁に使用されました。

アナスタシア: ここで、読者のために少し説明するのが適切です。国によって、これらの建造物は、たとえば、ストゥーパ（インド）、ダゴバ（スリランカ）、サバーガン（モンゴル）、「バオタ」、「パゴダ」（中国）などと呼ばれます。現在、仏塔は仏教建築の記念碑的建造物として、また啓蒙の象徴としてよく知られています。

リグデン: もちろんですが、これらすべての仏塔を見ると、正方形、立方体、ピラミッド、そして原則として三日月の形をした頂上のシンボルの形で、同じ知識のしおりが見えるでしょう。角を立て、その上に円、つまり「アラトラ」の標識があります。



アナスタシア： はい、そのような柄頭を持つ仏塔が「周囲の空間に有益な影響を与える」構造物であると考えられるのは驚くべきことではありません。

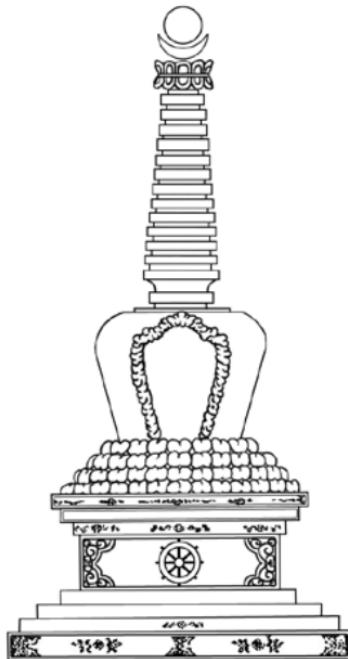


図70。東洋の宗教建築物は仏塔です。

以下のシンボルがこの建築に反映されています。下の 3 つの階段は 3 次元のシンボルです。ピラミッド型の構造が置かれている正方形 (4 つのステップは 4 つの次元 - 4、5、6、7 を示します)。続いて、精神的な変革の様式化されたシンボル、13 個のリング、蓮の花が続きます。建物の頂上には古代の アラトラの標識が付いています。

リグデン： ところで、仏教では、この古代の建築構造に人間の心から得た独自の詳細を追加し始めました。また、建築上の「宝石」を アラトラ の標識の上に設置しました。



アナスタシア: そうですね、この宗教では、「精神の不滅の性質とすべての欲望の実現」、「神秘的な力」も象徴しています。

リグデン: 一言で言えば、人は人であり続けるということです。ですから、世界のさまざまな地域で、このピラミッド構造の象徴性はすべて、学習と融合のための精神的な実践から始まる、記念碑的な建築物を通じた精神的な知識の伝達において重要な役割も果たしました。それは個人の魂であり、全人類の靈的発展のためにシャンバラから世界にもたらされた特別な知識と働く兆候で終わります。

アナスタシア: 今日、これらの古代のシンボルの意味は、スピリチュアルな知識、ピラミッドの形をした古代の呪物が持つ象徴的で連想的な役割と同じように、ほとんどの人にとって単純に失われています。これは人類の歴史を見れば明らかです。古代世界の住民(インド人、エジプト人、アラブ人、ギリシャ人など)にとってピラミッドの形をした品物はすでに宗教的崇拜の対象であり、伝説によると超自然的な魔法の力が与えられていました。そして、私たちの時代について話す必要はありません。今日では、「フェチ」という言葉自体も、さまざまな言語で独自の方法で解釈されています。フランス語の「フェティッシュ」-「アイドル」、ポルトガル語の「フェイティコ」-「魔術」、そしてラテン語では「ファクティシウス」という意味です。"人口的"。これは、さまざまなシンボルが付いた古代のお守りが今日どのように呼ばれているかです。かつては連想的な意味を持ち、精神的な実践や知識を伝達する役割を果たしていました。

リグデン: ただ、現代人はたとえこの情報を知ったとしても、聖職者や政治家からの伝令が彼らに課していること以上のことは考えません。



たとえば、遠く離れたインドに住んでいたインドのバラモン、かつて地中海の東海岸を支配していたフェニキアの司祭、そして異なる時期に互いに独立してヨーロッパに住んでいたドルイド僧が、なぜ普通の「山」と考えたのでしょうか。ピラミッド状に折り畳まれた石は神聖なものなのでしょうか？本当に石だけが原因なのでしょうか？そのような問題を研究している研究者でさえ、原則として、先人が表明した答え、特に古代の人々にとってこの形は地球と天国のつながりの神聖な象徴であったという答えに自分自身を限定するだけです。そして、なぜ「つながり」なのか、そしてなぜ正確に地球と空なのか、このピラミッドの象徴の背後にはどのようなスピリチュアルな知識が隠されているのでしょうか？もしこれらの研究者たちが精神的な自己改善に取り組んでいたら、人間の心のありふれた捏造を引用するだけではなく、もっと多くのことを世界に伝えるだろうと私は確信しています。

アナスタシア：間違いなく。ここで、すでに深刻な発展を遂げている「ピラミッド」瞑想に伴う「効果」を考慮しても、なぜさまざまな時代のさまざまな民族がピラミッドを中心、聖なる山、燃えるような祭壇、聖地と呼んだのかが明らかになるでしょう。これら的精神的な実践の経験があるので、かつてこの実践の精神的な本質をそのような関連付けで将来の世代に説明しようとした人々を理解することは難しくありません。

リグデン：あなたには靈的な経験があるので、理解するのは難しくありません。そして残念ながら、今日の人々のほとんどは、自己認識のスピリチュアルな実践はおろか、自分に魂があることすら知りません。



しかし、実際には、この知識は各人にとって、同じ食べ物や肉体の生存に必要な他の条件よりもさらに重要です。そして、無知は誤解を招き、スピリチュアルなことについての初步的な情報を頭から解釈してしまいます。動物的性質からのこのような文字通りの歪みの結果として、人々は自分たちの精神性を外部に探求し始めます。彼らは自分自身や自分の魂を知る代わりに、山、聖地、宗教的建造物など、あらゆるものを探しています。そして結果は何でしょうか？

アナスタシア： はい、今日、ほとんどの人はこの靈的実践の遠くの反響にしかアクセスできず、それを別個の概念として認識しています。

リグデン： まさにその通りです。そして、人間の理解によって処理された哲学の形で。これらのエコーは、世界のさまざまな人々の間の共通の中心(人間を含む)に関する概念の哲学的および宗教的なカテゴリーに入りました。人の中に含まれる魂だけが、それぞれが独自の方法で呼び出されます。神のすぐ近くの場所、靈、全能者の住まい、顯現しない存在。ピボット、つまりすべてが回転する静止点。世界間のコミュニケーション、多様性への出発と、あらゆる可能性の全体を含む統一への回帰。永遠の「今ここ」。純粹な存在、楽園、聖地。絶対的な現実。

さらに、さまざまな宗教で、それぞれが独自の理解に従ってこの哲学を描き始めました。たとえば、ヒンドゥー教では、中心は内なる証人であり、無条件の統一の場所です。時を超えた地点、イシュヴァラ。



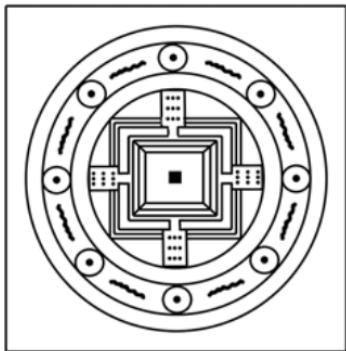
ちなみに、後者はサンスクリット語から「主」と訳され、文字通り「個人的な神」、独立した存在、人間の中の神聖な精神を意味します。「イシュヴァラ」というタイトルは、インドのさまざまな神に由来するものであり、世界の原因、神の化身、全能と全知の属性を示すものでもあります。

アナスタシア：はい、インドのさまざまな宗教や哲学の学派の代表者たちが今でもこの概念について議論しており、誰もが自分の頭でそれを解釈しようとしています。

リグデン：しかし、精神的な高みに達した人には言葉は必要ありません。人はこの現象の本質そのものについての内なる精神的な理解を獲得するからです。同じ仏教では、精神的な「中心」は涅槃、悟りを指します。ちなみに、私がかつて言ったように、この宗教では、特定の視覚的な瞑想実践とともに、マンダラ(サンスクリット語から翻訳された「円、球」)、つまり精神的および宇宙的な秩序を象徴する、概略的に描かれた幾何学的構成またはデザインが使用されます。精神的な中心への願望としての宇宙、それは啓発の明快さを与えます。しかし、その形は一体何なのでしょうか?通常、それは正方形で囲まれた円または三角形であり、ほとんどの場合頂点が下にあり、中央に中央のシンボル(円)があります。原則として、4つの部分、または4の倍数の部分に分割されます。または、マンダラの最も単純な形であるヤントラ(サンスクリット語から翻訳された「お守り」、「魔法の絵」)を手に取ってください。これは、使用される幾何学的形状の構成の概略図です。ヒンズー教や仏教の瞑想実践において、瞑想中の内部集中のプロセスを強化します。



それは、原則として、円、正方形に内接する三角形、蓮の象徴的なイメージ、点(中心、ゼロ点)を表します。もう一度、記念碑的建造物の象徴性について話すならば、ほとんどのヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教の寺院の建築レイアウトはヤントラです。



1



2

図71。マンダラ、ヤントラ。

例:

- 1) 中心に点のある正方形を指定した円の形の曼荼羅、6つの階段と4つの部分からなる四面体のピラミッド。
- 2) カリヤントラ(サンスクリット語で「カラ」は「時間」を意味します。この言葉は回転を意味するインド・ヨーロッパ語の語源に遡ります。ロシア語では「コロ」という言葉が意味に近いです)。ヒンドゥー教の神話では、それは宇宙の周期的な創造と破壊、魂の再生と運命の主題の概念における時間のサイクルを意味します。

一般に、精神的知識の一般的な古代の象徴性を示す二次構造は、他の宗教に属する寺院の建築レイアウトにも反映されていることに注意する必要があります。



たとえば、古代中国の寺院や修道院の複合施設は正方形と円に基づいていました。同じ最大で国内で有名な「天壇」は、レイアウトに従って 2 つの部分に分かれています。1 つは正方形(地球、地球の力の象徴)の形で、もう 1 つは丸い形(円は地球の象徴)です。天の象徴、天の力)。中国では、正方形と円(地球と空)を組み合わせたイメージは、今でも完全に(精神的に)バランスの取れた人を象徴しています。別の例として、メッカのカーバ神殿を向いたイスラム教のモスクの形状も正方形または長方形です。

アナスタシア: はい、あなたはかつてこのことについて、またキリスト教の教会についても話しましたね。キリスト教のクアドリフォリウム(ラテン語の「quadri」-「4 回」、「folium」-「葉」に由来する「四つ葉」)は、十字ドーム型の寺院で、その 4 つの枝はドーム状の丸みで終わり、「天空の金庫」。そのような寺院のギリシャ名はテトラコンク(「四つの葉」、ギリシャ語の「テトラ」-「4」、「コンチェ」-「貝殻」、「旋風」、「螺旋状にねじれたもの」から来ていると述べられました)。私はこの質問に興味を持ち、多くの興味深い事実を発見しました。このような建物は、古代ルーシだけでなく、ビザンチウム、コーカサス諸国(アルメニア、ジョージア)、ペルシャ(イラン)、インド、その他の古代国家でも人気がありました。彼らは、古代東洋の文化から多くを借用したヘレニズム文化を通じて西洋にやってきました。しかし、実際、注目すべきことは、中東やヨーロッパの初期のキリスト教会(そしてその後の古代ロシアのキリスト教会)では、祭壇が最初に正確に設置されたことです。 神殿の十字架の真ん中に「見えない神」の玉座として!



つまり、教会の中央にある中央の大きなドームの下です。そしてずっと後になって、神殿の祭壇は建物の東に突き出た部分に移されました。

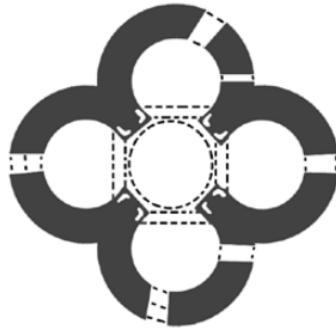


図72。クロスドーム教会 (quadrifolium) (クアドリフォルム) のスキーム。

リグデン：寺院の中央の十字架は、古代東全体が魂の指定として知っていた「貝殻の中の貴重な真珠」を象徴していました。ちなみに、古代キエフ大公国では、アヤのオリジナル版がキエフのソフィア（「神の知恵」）は、13 のドームを備えた 5 つの身廊を持つ十字ドーム型の寺院で、ピラミッド型の構成を持っていました。さらに、大聖堂のドームには十字架が置かれただけでなく、十字架が置かれ、その基部には角を立てた水平の三日月がありました。さらに、各十字の中央（円形）を斜めの十字が交差しており、全体としては正十字となっています。そして、古代の精神的なシンボルはすべてそこにありました：円、ひし形、3、4、6、7、8、9、12、13の表示、そしてアラトラの記号。この大聖堂は受胎告知、つまり神の母と大天使ガブリエルに捧げられました。

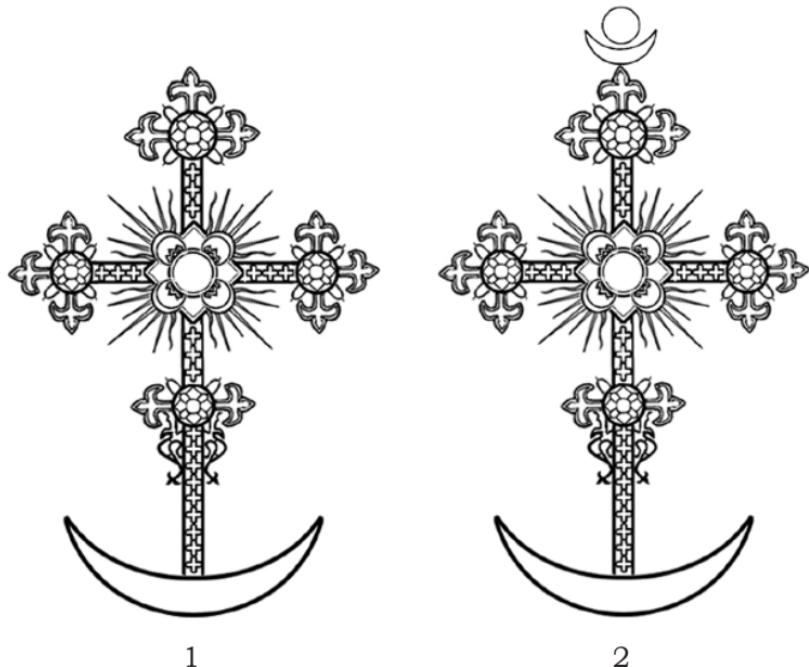


図73。大天使ガブリエルと聖母マリアのシンボル:

- 1) 聖母マリアの十字架のシンボル。
- 2) 中央の十字架は、靈界からもたらされた教えの象徴である柄頭を持つ神の母（聖母マリア）の象徴です - アラートラ記号（それは、イエス・キリストによってもたらされた眞の靈的な教えと両方を象徴していました）、そして靈的知識の伝達、靈的世界のメッセンジャーとしての大天使ガブリエルからの「ニュース」の概念における「靈的世界の意志の開示」）。このような十字架は、靈的知識の神秘とイエスの眞の靈的教えに入門した人々にとって、一冊の本です。これは、生涯に靈的な解放を達成し、肉体の死後も人々を助け続けたイエスの弟子としての聖母マリアの個人的なシンボルです。



その上に円がありました。これは、アラートラの働きのしるしです。この独特の特徴は、この教えが靈界からもたらされたこと、この場合は最高の靈的存在としてのイエス・キリストによってもたらされたことを示しており、イエス・キリストは人体への転生を通じてこの三次元世界を訪れました。また、イエスの真の靈的教えの普及と聖母マリアの靈的支援において重要な役割を果たした、靈的存在としての大天使ガブリエルの特別な重要性も指摘しました。さらに、これらすべては、キエフ大公国(の)首都の主要寺院の中央ドームにこの実用的な標識の設置を開始した人々の知識のレベルを証明しました。当時の宗教的な司祭や信者に対しては、特に、伝統的なシンボルを考慮すると、この象徴性はすべてスラブ民族にとって理解できるだろうという簡単な説明が与えられました。

アナスタシア: はい、この情報は特に注目に値します。私は、特にキエフ大公国にとって大天使ガブリエルが果たした重要な靈的役割について、『先生II』という本に詳しく書きました。そして、マリアとイエスの物語については、本「先生IV」の中で、イエスが弟子に真の靈的な教えを伝えたという話があります。マリアという名前の女性は、生涯に輪廻からの靈的解放を達成しました。そして、真のイエスの教会を導くのは彼女だったということです。しかし、その教えが歪められたという事実(権力を求める人々の陰謀と、宗教形成における根本的な改変により)により、今日、この教会はもっぱら男性によって率いられており、聖母マリアのイメージが関連付けられています。主に神の母と呼ばれるイエスの母親と。



しかし、後者は、その創造的な神聖な女性原理の靈的な力を少しも損なうものではなく、そのおかげで、靈的救いを真に渴望する人々は今日に至るまでそれを獲得しています。

リグデン：人々がこの情報をただ読むだけでなく、その精神的な本質を理解してくれることを願っています。イエスの靈的な教えは、全人類に共通の知識として、一粒の真理として、すべての人々に公然と与えられました。現代人にはこれを理解するのが難しいです。なぜなら、彼らは教えの代わりに、イエスの名前が現在関連付けられている世界宗教の概念だけを見ているからです。聖母マリアは、実際には靈的世界と物質的世界の間に位置しており、靈的な道を歩む人々を助ける靈的力の神聖な指揮者として今も働いています。ところで、イエスの眞の弟子たちはこのことを知っていて、密かにではありましたが、この知識を人々に伝えました。そして、賢くて、正直で、良心的な人々は、物質的な物や自分自身の利益ではなく、精神的な救いを真に求めていて、どんな状況においても常に十分でした。宗教。この知識を密かに所有していた彼らは、眞の靈的知識が靈的救いを切望する人々のために未来に伝わるように、真理を次の世代に伝えるためにそれぞれの立場で可能な限りのあらゆることを行いました。したがって、初期キリスト教徒が隠れていた

カタコンベの壁には、魚と正十字のサインだけでなく、角を立てた三日月のサイン(アラット)も見つけることができます。したがって、神学者ヨハネによるものとされる黙示録(12:1)には次のような記述があります。彼女の足の下には月があり、頭には12の星の冠があります。



したがって、XI-XIV世紀の同じ古代ロシア建築の最も古い記念碑には、まさに聖母マリアの象徴である三日月とそのような十字架があり、そのような複雑な標識を備えたそのような大聖堂の建設があったことを示していますそしてシンボルは真の知識と結びついた人々によって始められました。

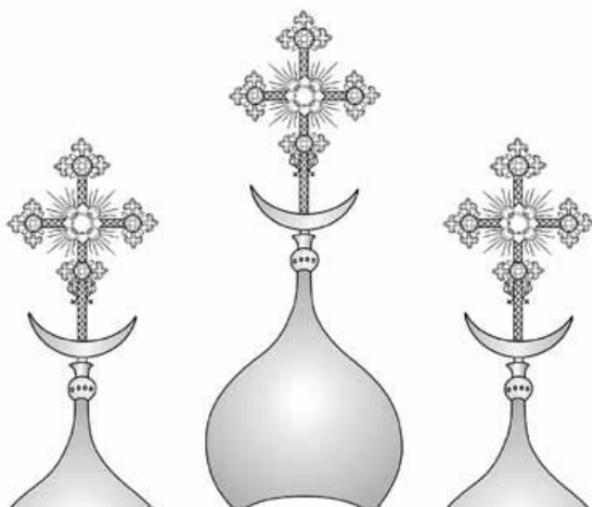


図74。聖母マリアのシンボルである十字架が付いたドーム。

アナスタシア: キエフ大公国的主要な大聖堂の建築におけるこれらの重要なシンボルや標識の存在に関する情報の反響は、今日まで生き残っています。たとえば、今日、キエフ・ペチエールシク大修道院の近くにあるベレストフの救世主変容教会(ベレストフの救世主教会)のドームには、聖母マリアの象徴として三日月の角を立てた十字架が飾られています。(ベレストフの教会についての最初の言及は 11 世紀に遡ります。ウクライナ、キエフ)、ウラジーミルのドミトロフスキイ大聖堂(12 世紀、ロシア、ウラジーミル)、モスクワ クレムリンの神の母の受胎告知大聖堂(15 世紀、モスクワ、ロシア)、その他多くの建築記念碑にも使用されています。かつて、それらはスラブの巨匠によって建てられました。

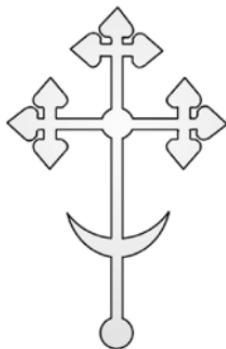


図 75。大聖堂や教会の再建が繰り返された後、その後人々によって使用されたシンボルの簡略図。

リグデン：まさにその通りです。アヤソフィアのキエフ大聖堂は、キエフ大公国におけるそのようなシンボルを持つそのような寺院の建設の一例として機能したことに留意すべきである。この城は、ペチェルスクのアガピットがヤロスラフ賢王に助言した計画に従って、11世紀にキエフの中心部に建設されました。この寺院には、当時のビザンチン建築の中でも類似のものはありませんでした。ヤロスラフ賢人(キエフ大公、元ロストフ公、ノヴゴロド公)は、病気をきっかけにペチェルスクの医師ベズメルズドニーのアガピットと出会った。当時、

アガピットの医術の名声はキエフ大公国の中をはるかに超えていました。そしてヤロスラフは股関節と膝関節の損傷により脊椎に問題を抱えていました。つまり、現代風に言えば、彼は常にアガピットの患者となっていました。このような強制的ではあるが、ヤロスラフにとって非常に有益なコミュニケーションのおかげで、アガピットは人間と社会の両方に関する知識に関連する多くの重要な問題について啓発することができました。一般的に、ヤロスラフ王子は「賢くなった」と言えるかもしれません。



このようなコミュニケーションの結果、最も神聖な生神女を讃えて、ロシア初の独立した修道院が誕生しました。外国の書籍(特にアトス)の翻訳、古スラヴ語のフォリオ(白樺の樹皮に書かれた古ロシアの「異教」文字も)の熱心な調査が活発な作業として始まりました。この本は公教育の基礎となった。アガピットの博学さとヤロスラフへのアドバイスは、王子自身が本を読むことに興味を持つようになり、側近と一般の人々の間でファッショニに啓蒙を導入したという事実につながりました。アガピットのアドバイスに導かれ、王子は最初の公立児童学校を組織し、首都の聖ソフィア大聖堂に国家レベルの大図書館が設立され、社会の主要な標識シンボルが修正され、外交活動がデバッグされました。国際レベルで。したがって、ヤロスラフ賢者の治世中にキエフ大公国が絶頂期に達したことは驚くべきことではありません。

アナスタシア: これらは、ヤロスラフの行動のこのような急激な変化で多くのことを明らかにする、本当に興味深い事実です。キエフで権力を掌握することをためらわない厳しい統治者から、アガピットとの出会い後のキエフ大公国の中間に「賢明な」指導者になったということです。ペヘルスクの。そして、聖ソフィア大聖堂の5つの身廊を備えたクロスドーム教会の非常に珍しい建築と同様に、シンボルはまったく偶然ではなく、13の章からなるピラミッド型の構成さえも偶然ではありません。ところで、建築における「身廊」という概念が何を意味するのか、読者に説明してもらえますか?

リグデン: この言葉はラテン語の「navis」(船)に由来しています。



そして建築では、それは建物の細長い部分を意味し、象徴的な「太陽の船」(トリポリ文明の時代に知られ、太陽の形の円で描かれていました)のような、船に似た細長い部屋を意味します。アラトラサイン)、または古代エジプトの神話で「永遠の船」と呼ばれていました。ちなみに、その後、12世紀には、航海する帆船(nave)はすでにそう呼ばれていました。そして、この大聖堂の象徴的な意味では、それは「時を航行する船」、一般的にはキエフ大公国(「精神の箱舟」)を意味していました。

アナスタシア: キエフのアヤソフィアの建物は、時と人々によって度重なる部分的な破壊を経験したことに注意する必要があります。そして、17世紀から18世紀にかけて、寺院の再建の結果、寺院の外観は大きく変わりました。

リグデン: それは本当です。しかし、興味深いのは、これらほぼ千年にわたる変遷にもかかわらず、同じ古代ロシア正教の真珠が、主祭壇の金庫室、いわゆる神の母の6メートルのモザイクという特別な隙間で今でも輝いていることです。「オランタ」。彼女はキリスト教では神の母の象徴的なタイプの1つであると考えられており、両腕を顔の高さまで上げ、肘を曲げて成長した姿で描かれています。

アナスタシア: つまり、神の母の手は、人格と魂の精神的な融合、真理の啓発と理解、精神的な達成の非常に古代の象徴であるアラットの象徴的な兆候の形で描かれています。



解放は、「バグ」に似た前述のシンボルや、手を上げた古代の女神のイメージの形で、さまざまな時期に古代の人々に知られていました。「先史時代」の人々によって岩面彫刻の形で固定された非常に古代のシンボルは、人がアラットの創造的な力の参加によってのみそのような精神的解放の状態を達成できることを示しています。

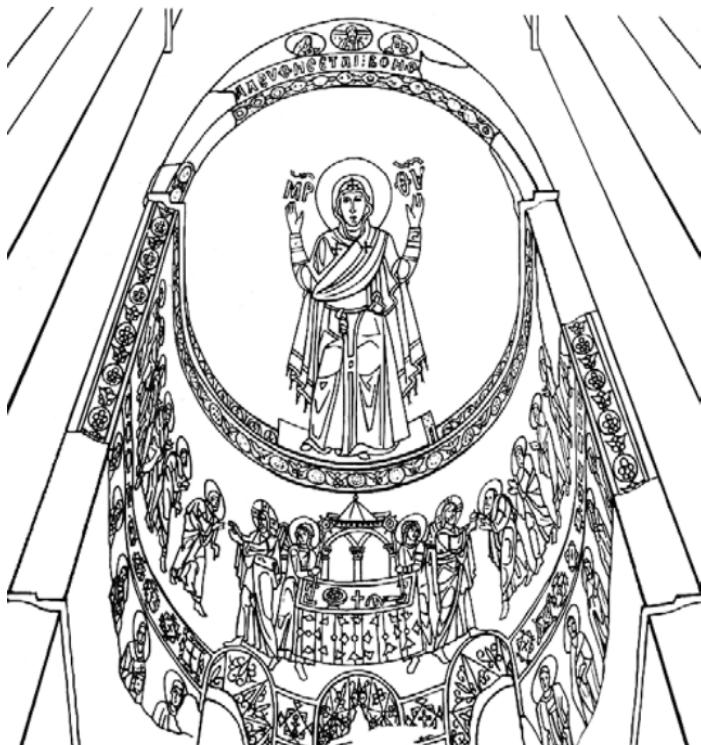
リグデン：まさにその通りです。それで、四角形の台座の上に青いローブを着た神の母「オランタ」の像が、丸い金色のモザイクの背景に配置されています。ちなみに、意識が変化した状態(靈的知覚の拡大)では、神の母を見ている人は、彼女から放射される輝く緑色の光の効果を見るることができます。このユニークな龕のアーチ上の半アーチの弧に沿って、キエフ大公国将来の世代のためにアトスの修行者から寄せられたギリシャ語の碑文が保存されていました。彼女は朝、朝に。」キエフ大公国についての物語の文脈において、私は歴史において同様に重要な次のに注目したいと思います。キエフ大公国では、当初、大天使ガブリエルと聖母マリアの崇拜は当然のことながら共同で行われていました。そして、それは真実ではありませんが、人々が至聖なる生母の受胎告知のカルトから大天使ガブリエルへの崇敬を選び出すようになったのは、ずっと後の 15 世紀になってからです。聖母が聖なるものを創造するところには、聖靈が常に聖母とともにおられます。ところで、スラブ人の信仰では(キリスト教が採用される前でさえ)、私たちの言語で、神聖なロータスの精神的な象徴の意味で、ペアの最高の男性と女性の神を共同で崇拜していました(計画))と創造的なアラトラ(計画の具体化)。



アナスタシア: はい、これは古代から保存されているスラブの神聖な物語の神話の登場人物に見ることができます。

リグデン: 大天使ガブリエルと聖母マリアについては、神の母「オランタ」が安置されているキエフの聖ソフィア大聖堂の東側の主要なアーチの祭壇の柱に受胎告知のモザイク画が今も保存されています。

アナスタシア: はい、ある柱には大天使ガブリエルが描かれており、その右手の指は祝福のしぐさで結ばれています。そしてもう一方の柱には、手に紡錘を持ち、人間の命の靈的な糸を紡ぐ神の母がいます。





2



3

図 76 大天使ガブリエルと聖母マリア

(アヤソフィアの 11 世紀のフレスコ画の図式、キエフ、ウクライナ):

- 1) 11 世紀のモザイク「オランタの聖母」(大聖堂の主祭壇)の概略図。角を立てた三日月と円のシンボル(「アラトラ」)。
- 2) 大天使ガブリエルの像。その右手は「祝福」のしぐさで描かれています(祭壇の柱のモザイク)。
- 3) 手に紡錘を持ち、人間の命の靈的な糸を紡ぐ聖母の像(祭壇の柱のモザイク)。



リグデン: 古スラブ語では、「紡錘」という言葉が「回転」(漏斗、らせん状の動き)という言葉と結びついていることに注意してください。ちなみに、それはスラブ人の間だけではありませんでした。古代インドの言葉「ヴァルタナム」も「回転」を意味します。古代より、紡錘はスピリチュアルな意味で天から授けられる魔法の道具と考えられてきました。つまり、現代の言葉で言えば、これは同じ祈り、瞑想、精神的実践の慣習的な呼び方です。紡錘の助けを借りて糸から紡ぐことは、多くの人々が「地と空」の統一、つまり、人のつかの間の人生における精神的な天の始まり(魂)との統一として知っていた特定の精神的なシンボルでした。宗教芸術の糸は人の精神生活を象徴し、世界的な意味では時間、過去、現在、未来のつながりの象徴でした。それは、すべての真珠(魂)を繋ぐ糸のように、存在するすべてを結びつける精神的な要素でした。多くの古代の人々にとって、「偉大な母」は糸車を手に持った姿でしか描かれていませんでした。

アナスタシア: 科学者たちが「偉大なる母」を「月」の女神に帰しているのは興味深いことです。人々は通常、彼女を「月の三日月」、つまり角を立てた三日月の形で、その上に円が置かれた非常に古代の記号で描いていたからです。

リグデン: はい、人は自分が知るまでは多くのことに注意を払いません。しかし、真の知識が彼の額に触れ、魂が目覚めるとすぐに、彼は知恵を獲得します。そして知恵は行動を生みます。



アナスタシア： 黄金の言葉。多くの読者にとって、そしてやがて私たちにとっても、当時キエフ大公国中に大量に配布されたアクティブな兆候に関する情報を見つけることは非常に興味深いものになると思います。歴史上のこの重要な瞬間にについて詳しく教えていただけますか。

リグデン： ペヘルスクのアガピットは、賢人ヤロスラフに活動的な標識の秘密を部分的に伝授し、首都と州に主要な礼拝所を建設するためにどのように、そして正確に何が必要であるか、そして最も重要なことに、どのようにそしてどのような種類の標識をそこに置くべきかを詳細に語りました。また、人々の間に靈的な爆発を引き起こし、目に見えない世界の否定的な力の影響から人々を守るために、これらの兆候を活性化するために何をする必要があるか。もちろん、アガピットは自分自身の目標を追求し、ヤロスラフのつかの間の人間的な目標とは対照的に、将来の世代に精神的な兆候を示しました。それでも、人は人であり、たとえあなたがその結果について10回警告したとしても、彼らは依然としてマインドを自分に提供された知識に調整しようとします。残念ながら、少なくともこの点においては、ヤロスラフも人類の例外ではありませんでした。逆元が大衆にどんな影響を与えるかを知っていたにもかかわらず、ヤロスラフは自分の地上の力を主張するために大聖堂の絵画にこのサインを入れるよう命じた。さて、どういう意味ですか？彼は何を達成しましたか？彼の人生は物質世界の幻想の中を矢のように飛び去った。そして、肉体の死後の人間の弱さ、つまり地上の力を得たいという渴望は、肉体の負担をさらに増大させ、亜人格としての苦しみを長引かせるだけでした。その一方で、動物の心は依然として人間の過ちを楽しんでおり、何世代にもわたって自分たちに有利な司祭たちを活動させ、生きている大勢の人々の中に負のエネルギーの急増を生み出しています。



しかし、そうでなければ、ヤロスラフは本当に知恵を示したと言わなければなりません。彼は志を同じくする人々のチームとともにこのプロジェクトを成功させ、そのおかげで短期間でキエフ大公国は繁栄した国家になっただけでなく、「最も神聖な神の母の家」にもなりました。当時、主にポジティブな兆候の正しい配置と普遍的な文化的および道徳的価値観の促進により、最高の精神的資質が人々の中にはますます頻繁に現れ始めました。当時のスラブ人の見方では、「神の真理」への奉仕は、善、最高の靈的善、恵みの勝利への奉仕と関連付けられるようになりました。実際、人々は自分たちの古い信念と、以前の政治家や司祭によって導入された新しい信念との間に平和的な接点を見つけました。宗教上の理由での争いの後、なぜこの時期に、内戦に溺れていた当時の他の州と何ら変わらなかった古代ロシア国家の領土に人々の精神的な団結という前向きな高まりがあったのはなぜでしょうか。

したがって、アヤソフィアはこのプロジェクトで重要な役割を果たしました。まず、キエフに建てられた聖ソフィア大聖堂は、当時の古代ロシア国家の重要な都市であるヴェリーキイ・ノヴゴロド(この都市はロシアに今も存在する)とポロツク(この都市は今も存在し、ベラルーシのヴィチエプスク地方にある)にも複製された(それほど大規模ではないが、5つの通路を持つ十字ドーム型の教会という同様の配置であった)。さらに、外観のレイアウトだけでなく、主要なシンボルやサイン、聖母「オランタ」のアイコンの配置から始まり、これらの寺院での教育図書館と学校の創設で終わる精神的な内容も複製されました。



今まで、ヴェリーキイ・ノヴゴロドの聖ソフィア大聖堂では、聖靈の象徴として鳩の置物が寺院の中央ドームの十字架に掲げられている。そして、ポロツクの大聖堂の浮き沈みの歴史の中で、18世紀には聖靈の降臨を記念して大聖堂を寺院に変えようとしたことさえ言及されています。鳩はすでに人々によって、より古代の十字架の柄頭、つまり角が上にあり、その上に円がある三日月の形をしたアラトラの標識に取って代わられています。以前は、鳩は翼を広げた状態で描かれていました。人が大聖堂の十字架を見上げたとき、鳩の代わりに、波のように掲げられた翼と小さな鳩の頭(角を立てて円を描いた三日月の形)から視覚的に形成された標識が見えました。

第二に、これらのコピーのオリジナルであるキエフのアヤソフィアは、単独で建設されたのではなく、複合施設として建設されました。明らかに、大聖堂から等距離にある大聖堂の角に、4つの「市の門」が建てられ、標識も付けられていました。ただし、これらは現在キエフの中心部であるスタロキエフスキーの丘にあった、いわゆるアッパーシティへの門だったと言ったほうが正確かもしれません。

アナスタシア: つまり、キエフのアヤソフィアの周囲にある4つの門は、4つのエッセンスと同様の斜めの十字であり、その中心は魂の象徴としての大聖堂そのものです。

リグデン: まさにその通りです。キリスト教の宗教的象徴における門は、前庭から神殿へ、そして神殿から祭壇へ通じる入り口です。



正教会の古代ロシアのイコノスタシスの正門は、(祭壇の)玉座の反対側に位置し、政治的優位性ではなく精神的な意味で「王の扉」と呼ばれていました。通常、上部には大天使ガブリエルと聖母マリアの受胎告知の場面が描かれ、下部には翼の上にペアで描かれた4人の福音書記者が描かれています。したがって、礼拝の特定の瞬間に、王室の扉が開くことは、「天国の開き」つまり、別の精神的な世界への入り口、通路を象徴しています。しかし、この象徴性は何もなしに形成されたわけではありません。別の世界への道を「開く」このようなエネルギーープロセスは、彼らがどの宗教に属していて、どの国に住んでいるかに関係なく、強力な靈的人格の(個人と集団の)スピリチュアルな仕事の中で実際に起こります。ちなみに、古代には、たとえば同じキエフ大公国の人々の間では、都市の「門を開く」、「門を開く」ことは都市に入ることができると考えられており、それが敵に関するものであれば、それは捕獲を意味しました。都市、あるいは武器を捨てたいという町民の願望。年代記が正門の閉鎖、つまり敵の前で「門を閉める」ことを報告した場合、これは抵抗する住民の決定を意味しました。

古代キエフの主要な「黄金の門」は、「神の母の住まい」と考えられていたアトスを向いていた南の門でした。より正確に地理的に言うと、それらは都市の南西部に位置していました。都市のこれらの主要な「黄金の門」に、大天使ガブリエルと神の母に捧げられた教会、つまり受胎告知教会が建てられました。これは、「主の聖なる受胎告知と聖なる神の母と大天使ガブリエルの祈りによって常にその都市に喜びを与える」ためでした。



アナスタシア: はい、これに関する歴史的情報はイパチエフ年代記に記録されています。今日に至るまで、古代ルーシの文学(11世紀から始まる)について語る歴史的な複数巻のコレクション「古代ルーシ文学図書館」(第1巻50)で読むことができる言葉が保存されています。小野井さんへ「喜べ、喜べ！主はあなたとともにおられます！」、都市に向かって：「喜びなさい、忠実な都市よ！主はあなたと共におられます！」キエフは歴史的に神の母と大天使ガブリエルの共同後援下にありましたが、これは今日では隠蔽されている明白な事実です。したがって、今日キエフの紋章には、当時の多くの権力者と同様に、内戦を含む戦争を行ったキエフの王子たちの象徴として、裸の剣を持った都市の守護者として大天使ミカエルが描かれているのを見ることができます。

リグデン: そうですね、これらの「政治家」に何ができるでしょうか。古代でもそうであったように、それは今でも変わりません。「王子たちは小さなことについて大きなことのように話し、自分自身に扇動を仕掛けます。」しかし、これが重要ではありません。重要なことは、現在の「王子」たちの煩悩にもかかわらず、大天使ガブリエルと聖母マリアの記憶と崇拝が依然として人々の間で生き続けているということです。

アナスタシア: もちろん、人々のこの精神的な記憶は世代から世代へと遡ることができ、人々は喜ばずにはいられません。しかし、歴史的な観点から見たこのような興味深い会話を戻りましょう。



これは、キエフの「黄金の門」が都市のシンボルであり、人についての知識の精神的な解釈における前エッセンスと同一視されたことを意味します。そこで、過去の都市の象徴、すなわち背後エッセンスは。

リグデン： そして、至聖なる生神女に捧げられたキエフ大公国最初の石造りの教会は、現在歴史上十分の一教会として知られており、北の条件付きの「門」となりました。ヤロスラフの父、ウラジミール王子によって建てられました。その近くにはウラジーミルの古い大公院全体があった。一般に、この場所にはキリスト教以前の宗教的建造物に関してより古い歴史があることに注意する必要があります。

アナスタシア： はい、考古学的発掘から判断すると、スラブ人の「異教」時代に遡るさらに古い建物の「宮殿」の基礎と、角に 4 つの出っ張りがある石の台の形をしたさらに古い宗教的建物（神殿）の遺跡がそこで発見されました。言い換れば、より古い時代においてさえ、スタロキエフスカヤ ゴーラはすでにこの地域に住むスラブ民族の重要な崇拜と宗教の中心地でした。

リグデン： まさにその通りです。そこで、賢人ヤロスラフはこの教会の修復作業を行っただけでなく、アガピットの助言を受けて、それを再び聖別しましたが、すでにあるべき姿でした。キエフ大公国で最初の教会は神の母に捧げられ、未来への道を開いた過去を象徴しました。そして彼女はキエフの標識の配置においても同様に重要な役割を果たした。

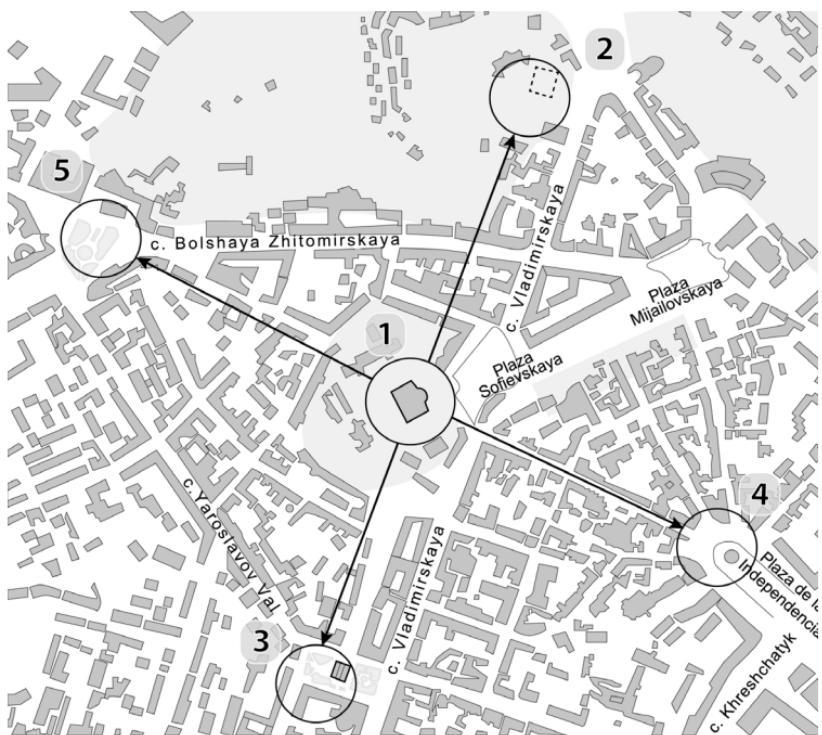


図77。「4つの門」のかつての場所と現在のアヤソフィアのマークを含む、キエフの歴史的中心部の現代の地図:

- 1) アヤソフィア;
- 2) 十分の一教会(聖母マリアに捧げられたキエフ大公国最初の石造りの教会)の基礎の場所。
- 3) メインの場所 - 「ゴールデンゲート」。
- 4) 「リヤツキー門」の位置。
- 5) 「西門」の位置

古都にふさわしい本質は「西の門」、あるいは人々が呼んだ「ユダヤの門」でした。地理的には、都市の北西部に位置していました。数世紀後、リヴォフ市が形成されると、キエフからリヴォフへの道がそこを通っていたため、この門は「リヴォフ門」と呼ばれるようになりました。



さて、キエフのこの場所はリヴォフスカヤ広場です。興味深いことに、時間が経っても、人々の動物的性質を刺激する活性化ポイントに関して、この場所では何も変わっていないと言えます。バザールは古代からここにあったため、そのまま残りましたが、「貿易の家」と呼ばれるようになりました。さらに、この都市(そして世界の他の多くの大都市と同様に)で物質的価値を蓄積し増加させようとするインセンティブは、人々にとって本当に重要で必要なインセンティブ、つまり「実り豊かな永遠の木」、つまり精神的な性質からの創造的な行為の代わりに、今再び雑草のように咲き始めています。

アナスタシア： 残念ながら、そうなんです。現代のキエフを見ると、最初に目に留まるのは、多くの商社、銀行、その他の同様の機関が、一方が他方よりも裕福であることです。文明化された人間社会にふさわしい真の精神的で創造的な行為ではなく、誰もが貿易だけに关心があるという印象を受けます。

リグデン： 世界のこのような大都市は、人類の選択が蔓延していることの明らかな例です。しかし繰り返しますが、状況を正すのは国民自身の手にかかっているのです。そのため、当時でさえ、アガピットはヤロスラフに、この場所を訪れる人々の動物的性質に対する偏見がないよう、目に見えない力のバランスを保つ標識を備えた精神的および文化的な物体でこれらの「西の門」を「強化」するようにアドバイスしました。そしてここに主の奉献に捧げられた教会が建てられました。それは象徴的でした。第一に、古スラブ語の「スレテニエ」という言葉は「出会い」を意味し、古スラブ語の信念によれば、人と神とその栄光との出会いを意味していました。



そして第二に、この集会の聖書の物語は、生後40日目に幼子キリストを神殿に連れてきた生神女(聖母マリア)に捧げられました。正教会では、この会合は2月25日のわずか1週間前に祝われ、靈的にはそれは刷新、新旧の会合とみなされました。したがって、古代キエフの「西門」がこの精神的および文化的対象物によって強化されたことは非常に象徴的です。 聖ソフィア大聖堂が中心であり、条件付きで「黄金の門」が表のエッセンス、神の母教会(デシャティンナヤ)が裏のエッセンス、そして「西の門」が右のエッセンスであるとすれば、リヤドスキ一門はキエフ・ルーシの古都の左のエッセンスの象徴となる。それらは現在市の中中央広場である独立広場、通称「マイダン」と呼ばれる場所に位置していた。

アナスタシア: ご存知のとおり、あなたからこの情報を初めて聞いたとき、私は非常に驚きました。「首都の中央広場をこの場所に移転することを、特にレフト エッセンスに焦点を当てて考えたのは誰だろう?」と思いました。しかし、この場所は大都市の広場のようなもので、大勢の人が集まります。

リグデン: まさにその通りです。そしてこれは誤解によってではなく、彼らが言うように、非常に意図的に、心と動物から行われたのです。ただし、まず最初に。現在キエフの独立広場があるこの地区は、ペチエルスクのアガピットの時代にはペレヴェシチエと呼ばれていた。そこには沼があり、太古の昔から人々はそれをヤギと呼んでいました 沼地。



そこで、現在マイダン通りが始まり大聖堂につながるソフィエフスカヤ通りが始まる市のほぼ南東部に、ヤロスラフ賢者は「東の門」を建て、キエフから洞窟修道院(現在のキエフ・ペチエールシク大修道院)と「ペチエネグの地」への道を開いた。歴史上、これらの門は「リヤドスキー門」と呼ばれていました。古スラブ語の「lyad」という言葉は、「不潔」、「不運」、および「lyada」-「荒地」、「雑草」、「密集した低木」、「未開の土地」と翻訳されます。ちなみに、その後、数世紀後、バトウ・カーンの軍隊が都市の長い包囲の後、リヤドスキー門を通ってキエフに侵入することができました。そしてこの場所自体に関しては、19世紀までフリーメーソンがスラブ人の精神的遺産の破壊に血道を注ぎ、この「不浄な場所」に市議会の建物の建設を開始するまでは「荒地」のままであった。

アナスタシア: そう、ヤギ沼の「独立」こんなところに街の中央広場を作るとは! そうです、諸国民のフリーメイソンは見かけだけ「自分たちのもの」ですが、心の中は異質です。

リグデン: だからこそ、彼らは人々の知識へのアクセスを遮断し、人々が彼らの本当の精神的歴史に興味を持たないようあらゆることを行い、嘘で彼らを毒し、明白な事実を彼らから隠しているのです。道具類を見てみると、いたるところに剣、矢、弓、斧、盾、コンパス、そしてフリーメイソンの象徴であるライオンがあります。歴史に興味を持つだけで十分です。そして、ほぼ同時に、当時の象徴的な建造物の小さな遺跡さえもどのように復元されたのかを知ることができます。

たとえば、アガピットの時代にキエフ大公国で人々のために建てられ、標識によって活性化されました。



例えば、キエフのアヤソフィアがバロック様式でこっそり修復・再建されたのは17～18世紀で、これにより建物の外観(幾何学的・空間的な外観も含む)が大きく変化した。

アナスタシア: そうですね、歴史文学では、当時の「バロック」は「西洋文明」のルネッサンスのファッショナブルなスタイルだったという同じフレーズを、著者たちは熱心にコピーし合っています。

リグデン: そしてその中心はイタリア、ローマでした。それはあなたにとって何の意味もありませんか？

アナスタシア: ああ、それはたくさんのことと言いますね。ここでは「バロック」という一言に価値があります。

リグデン: まさにその通りです。イタリア語の「バロッソ」は、ポルトガル語の「ペローラ・バロッカ」、つまり「不規則な形の真珠」、つまり「傷のある真珠」、宝石の欠陥、変形した真珠に由来しています。ラテン語でも同じ言葉です。

アナスタシア: はい、このスタイルの普及が貴族サークルや教会と関連していたことを考えると、変形した真珠の名前として「バロック」という言葉がその名前に選ばれたのは驚くべきことではありません。さらにその後、18世紀半ばまでヨーロッパ美術、特にカトリックが普及している国で主流の様式となつた。



バロック様式は「西洋文明」の凱旋行列と考えられています。

リグデン: そうですね、松明を持った行列です。ことわざにあるように、耳のある者は聞いてください。賢明な人々であれば、なぜ聖ソフィア大聖堂がウクライナ領土初の建築記念碑となったのかを理解するのは難しくないでしょう。聖ソフィア大聖堂はユネスコの世界遺産リストに登録されています。つまり、大聖堂の再建、いかなる宗教団体への移管、礼拝の実施も禁止されています。

アナスタシア: アルコンのフリーメーソンがオリジナルのものを再建し、今では彼ら自身のもっともらしいユネスコの手段を使って、地元住民に大聖堂の再建は不可能、さらにはそこで原初的な正統派の礼拝を行うことは不可能、いわば「真珠」を活性化することは不可能であるという条件を設定したことが判明しました?!まあ、物事は。不法行為としか言いようがありません。

リグデン: したがって、これがキエフ大公国的主要な精神的な「真珠」であると考えてください。そして、同じ年にフリーメイソンは残りの建物に何をしたのでしょうか?同じ18世紀に、彼らは建物の壁を強化するという口実の下で、幾何学的空间の外観に違反してヴェリーキイ・ノヴゴロドの聖ソフィア大聖堂を再建しようとしました。そしてポロツクでは大聖堂が完全に再建されました。さらに、ポロツクの聖ソフィア大聖堂は、前世紀に何度もこの建物が最初に破壊され、その後人間の心から復元されたかを考えると、18世紀までにすでに最初の建物とは建築が大きく異なっていました。そして、このような状況にも関わらず、万が一に備えてフリーメーソンは安全策をとり、代わりに 18 世紀初頭にバロック様式の非スラブ建築の教会を建てました。



さて、私はキエフの「4つの門」については沈黙しています。フリーメーソンがキエフの政治家を後援し始めるとすぐに、さまざまな口実の下で古代の象徴的な建築記念碑の遺跡の破壊と屈辱が始まりました。フリーメイソンの古くてよく知られた手法です。まずオリジナルを破壊し、次に「コピー」を滑り込ませます。そのため、今日では「黄金の門」の貧弱な「コピー」しか見ることができず、下院の建物が建設されたのと同じ19世紀に事実上破壊されたフリーメイソンの記念碑「リヤツキー門」の「コピー」についての憶測が飛び交っています。そして、年代記には、かつて「西の門」があったことと、キエフ市に最初の石造りの聖母教会が立っていたことだけが言及されています。これがあなたにとっての物語のすべてです。スピリチュアルな兆候がどのようにしてある人々の成長を助け、他の人々を激怒させるか、ある人はどのようにして生きている世代のために靈的な真珠を作り、他の人はそれに自分たちの「バロック」を加えようとするかについてです。

アナスタシア: そうですよね。

リグデン: 歴史上のほんの一例であり、同様のことは過去数世紀にも見られます。それは建物の問題ではなく、人々、人間の選択の問題です。

アナスタシア: ところで、真珠を含む主要なシンボルを使用した、世界の人々の寺院建築の特殊性についての会話を戻ります。



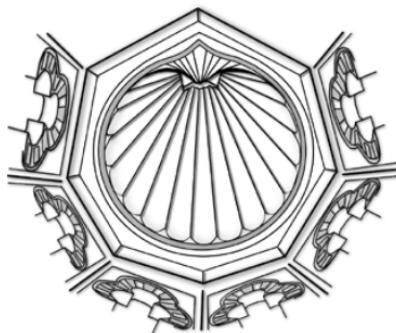
キリスト教の教会には半円形のニッチの形で東に向けられた建物の祭壇部分があるように、イスラム教のモスクにも特別な半円形のニッチ、ミフラーブ（アラビア語で「ミクルアブ」、「祈りの方向」）があります。それはイスラム教の聖地メッカ（南西アジアのアラビア半島に位置する）の位置に焦点を当てており、そこにはイスラム教の主要神殿の一つである立方体形の建造物であるカーバ神殿が位置しています。したがって、このニッチは装飾的な彫刻、絵画、象嵌で装飾されています。そしてその内側のドームは、貴重な靈的な真珠が保管されている場所の象徴である貝殻の形でデザインされることがよくあります。

リグデン： そうですね。イスラム教徒には真珠に関する多くの伝説があり、真珠を特別なシンボルとして区別しているため、このデザインは理解できます。たとえば、預言者ムハンマドの言葉によれば、世界は白真珠から創造されました。イスラム教の信仰によれば、全能者は七つの天と七つの土地を合わせた厚さの白真珠を創造したとされています。神が真珠を自分自身に呼び掛けると、その呼びかけに彼女は全身震え、あまりにも真珠は流れる水に変わった。昼夜を問わず、何らかの形で全能者の栄光を中断するすべての生き物の中で、すでに水である彼女だけが、創造主に栄光を捧げることを決してやめず、常に興奮し、泡を立てていました。したがって、神は彼女に他のものに対する優位性を与え、彼女をすべての生き物の生命の源および始まりにしました。このように、すべての生き物は水から作られました。そして、この貴重な水を運ぶために、全能者は風（空気）を創造し、それに「無数の」翼を与えました。

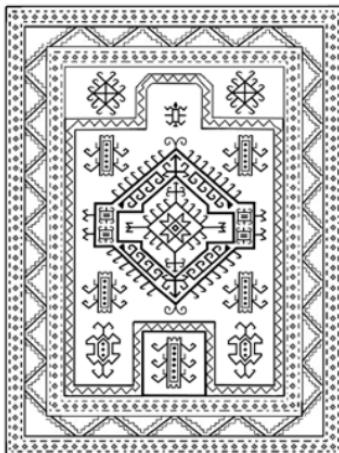


したがって、原則として、この神聖なニッヂは多くのシンボルで満たされています。彼女は聖母、汚れなき魂と結びついていました。以前は、世界や人の中の神の存在がランプの光に喻えられていたため、ミフラーブの内側に燃えるランプが吊るされていました。ランプはガラス製で、ガラスは真珠の星のようなもので、「世界の光」の象徴です。

アナ斯塔シア： シンボルという点では、イスラム教を信仰するチュルク語を話す民族の間で敷かれている礼拝敷物（ナマズリク）の構成も非常に興味深いです。カーペット敷きの伝統的な装飾画では、特定の地域のミフラーブを模倣することがよくあります。



1



2

図78。イスラム教における象徴的なイメージ：

1) ミフラーブ龕の貝殻形の丸天井（世界最大の一つと考えられているメスキータの柱状モスク大聖堂、785年 - 11世紀初頭、スペイン、コルドバ）。2) 祈りの敷物（トルコのナマズリク）。イスラム教を信仰するチュルク語を話す人々の芸術。



リグデン: ところで、他の多くの民族の文化や宗教にも見られるものと基本的に同じシンボルやサインがあります。八面体、六角形、ひし形、正方形、斜めの十字などです。一般に、古代において真珠のついた貝殻は魂、つまり創造的な神聖な女性原理の象徴でした。彼女は多くの女性の神々とその名前の属性であり、神聖な水の要素の象徴でした。後者は、すでに述べたように、地球とは異なる、人間の理解にとって質的に異なる生息地を意味します。しかし、すべての生き物はそれに依存し、それを必要として起こりました。聖書には、天国がどのようなものであるかを説明するイエス・キリストの言葉についての言及があります(マタイによる福音書13章45-46節)。「天国は、良い真珠を探す商人のようなものでもあります。商人は、貴重な真珠を一個見つけて、持っていたものをすべて売り払ってそれを買いました。」

虹色に輝くマザーオブパールは、真珠の「神聖な貝殻」と考えられていました。ちなみに、東洋では、真珠の形をした魂の最も内側にある精神的な意味も、蓮の上の水滴のイメージを通して詩的に描写されることがよくありました。実は、蓮の葉には白っぽいワックスのようなコーティングが施されています。古代から、蓮の珍しい効果が知られていました。蓮の葉に落ちる水や雨などは、折りたたまれてボール状の滴になります。そして、太陽の光の下では、白っぽいコーティングの上に真珠層の虹色に輝くこれらのしづくは、貴重な真珠のように見えます。当然のことながら、この効果は東洋の詩人たちにも気づかれないはずではなく、そのおかげで彼らの抒情詩は最も深い意味を持つ比喩を獲得しました。



「永遠の空から」
突然雨が降ってきた
蓮の上に落ちた
そして葉には軽い湿気が。
真珠になりました。

フランス語で真珠を表す「パール」は、ラテン語の「ピルラ」(粒)に由来しています。そして後者は、今度は「ピリウム」、つまり「球」という言葉から来ました。スラブ語の「真珠母」は、ドイツ語の「Perlemutter」から借用されています:「Perle」-「真珠」および「Mutter」-「母」。「mater Perlarum」はラテン語で「真珠の母」を意味します。古代ローマ人は真珠を「マルガリータ」とも呼びました。この言葉は古代ギリシャ語(「マルゴロン」-「真珠の母」)から借用されました。彼から、愛、美、豊饒、永遠の春、生命の古代の女神の形容詞に関連する女性の名前が生まれました。たとえば、マルガリータ(真珠)という名前は、古代ギリシャ神話によれば、処女懷胎の結果として誕生し、輝く真珠のように貝殻の中の海の泡から生じた女神アフロディーテの形容詞に由来しています。そして、マリーナ(「海」)という名前は、アフロディーテと同一視された古代ローマの女神ヴィーナス(ラテン語の「ヴェネリス」-「愛」)の形容詞「輝く」、「真珠の母」に由来しています。彼女の象徴の一つ鳩だった。ローマ帝国に端を発した初期のキリスト教美術には、「神の真珠」をもたらす象徴として、頭上に貝殻をかぶった聖母マリアの像があったのはなぜでしょうか。ローマ帝国におけるマリアという名前は、そこに住む人々にとって伝統的な愛の女神の概念、つまり「輝く」、「真珠の母」と関連付けられていたことに注意してください。そして、後にユダヤ教の司祭たちが彼女の名前を大衆に発表したときのように、「悲しい」ことも、「拒絶された」ことも、さらには「苦々しい」こともありますでした。



アナスタシア: これは。

リグデン: 彼らがそれができるのは、人々自身が司祭たちが彼らに決めたこと以上のことを知りたくないからです。結果は次のとおりです。しかし、世界の他の民族の間で類似した神聖なシンボルや呼称を調べるだけで十分です(その知識へのアクセスは、「異教徒」、「異教徒」などという言葉によって信者の心の中で特別に制限されています)。

アナスタシア: そうですね、司祭たちは古代の有名なシンボル、サイン、神のキャラクターの道具を誰からコピーしたのですか?!他の民族では。

リグデン: 聖母マリアに関しては、世界の古代民族の祖先、女性の光の神とその形容詞のシンボルと名前を比較するだけで十分です。そして、何世紀にもわたって、人間の魂の解放に関する同じ靈的知識がさまざまな民族に伝わり、そこでは神聖な女性原理(アラート)の創造力が重要な役割を果たしていたことが明らかになるでしょう。

したがって、古代ルーシでは真珠自体が「インチ」と呼ばれていました。これは、多くのスラブ人や他の民族では、「異なる」、「1つ」、「唯一の」、「本物の、正しい」を意味します。なぜその後、キリスト教の修道士を「モンク」、修道女を「モンク」と呼ぶようになったのか。真珠は、別の(スピリチュアルな)世界から来た魂を連想させるシンボルでした。古いロシア語の貝殻「真珠母」は、東ヨーロッパに住むスラブ民族の古代の言葉に由来しています。「Raky」、「rak've」 - 「シェル」、ラテン語の「arseō」 - 「私はロックする」のような。つまり、貝殻の中の真珠は、体の物質的な殻の中に閉じ込められた魂の象徴であり、別の世界からここにもたらされ、精神的、創造的な力、そして人の精神的な性質の支配の助けを借りて、人の意識(人格)が魂と融合(接続)したときにのみ解放されます。



アナスタシア: これは現代人にとって実に興味深い情報です。興味深いことに、古代には大きな真珠がオリエント(ラテン語の「オリエンティス」-「昇る太陽」)と呼ばれていました。この言葉は東洋から借用されたものです。そのため、詩的には、何かを「無知と内面の美しさで魅力的な他者」と呼ぶことがよくあります。

リグデン: まさにその通りです。大きな真珠は単に「ウニオ」(ラテン語から「单一」と呼ばれ、東洋では「オリエント」という言葉は最初は天然真珠の輝きを指しました。

アナスタシア: はい、スピリチュアルなシンボルの観点から見ると、すべてがまったく異なる見方になりますね。

リグデン: さらに言います。十字ドーム教会の十字路にある中央の大きなドームまたは塔の下にある円筒形の部屋は、中央後陣と呼ばれ、玉座と祭壇のための場所が割り当てられていました。半ドーム(conha - 「殻」、「螺旋渦」、「漏斗」)の形をした後陣の重なりは、「空」を象徴しました。さらに、建築では、アーチ、アーチを「ロック」するキーストーン、アーチ、そして今日までキーと呼ばれています。そのため、後陣の凹面内面には、原則として、当初は「天国の門のロックを解除する」ことの象徴として、両手を上げた神の母「オランタ」のモザイクまたは絵画が置かれました。



アナスタシア: はい、実際には、人の自分自身への精神的な働き、女性原理の神聖な力の助けを借りた解放の達成のすべての象徴があります。聖母「オランタ」のイメージは、古代ルーシでは洗礼のほぼ最初から知られていました。多くの人はそれをビザンチウムと関連付けますが、古代の東洋とは関連付けません。宗教と文化研究に関する参考書では、このアイコンの名前の由来について、ギリシャ語の「オランティス」、つまり「祈り」に由来するバージョンが提案されています。明らかに、無知や他文化について言及したことから、物事がこの「制限」を超えることはありません。しかし、結局のところ、歴史を掘り下げてみると、ここにはまったく異なる意味が込められていたことが明らかになります。

リグデン: おっしゃるとおりです。確かにここには別の意味があり、一見したよりもずっと深い意味があります。「祈り」という言葉との関連に関して言えば、人々は明らかに、ローマのカタコンベにある初期キリスト教の絵画のデータに依存しており、そこでは祈る人物がこの位置で描かれていました。しかし、このように上げられた手、これは私たちの会話ですでに述べたように、確かに長年の象徴的なイメージであり、旧石器時代と新石器時代、銅器時代(古代エジプト、メソポタミア、ハラッパン、トリピリア文明などの存在)の両方で知られていました。これはアラットの象徴的な指定であり、人格と魂の融合を達成するための精神的な実践に関する知識の象徴、精神的な洞察力、真実の理解の象徴です。

アナスタシア: 驚いたことに、すべての知識はまだ存在しており、世界観を逆の方向に根本的に変えたのは人々だけであることがわかりました。



同じキリスト教の寺院の建築であっても、主要な知識は固定されています。中心を持つ二次的な4つの葉の構造、円筒形の中央の部屋、建物全体のピラミッド型の建築です。後者は、ピラミッド型の尖塔や、先端が尖ったタマネギの形のドーム(オニオンドーム)を冠することもできます。これらすべては、人のエネルギー構造、魂の解放の道の象徴に対応しています。4つのエッセンス、中心は魂、個人的な空間、ピラミッド構造、正方形から円または八角形(立方体のシンボル)への変換の建築上のシンボルです。そして、すでに明らかに示されているように、キリスト教の宗教において、人々の世界から靈的世界への真のガイドの主な役割を果たすのは、女性原理の創造的な神聖な力です。それは、キリスト教の主要な女性像、つまり聖母マリア、マグダラのマリアを経ています。人々はそのイメージを共有していますが、それらの本質はすべて同じです-神の愛、神の母-愛を通して人のコミュニケーションを復活させるものです 神との魂を通して、以前の神とのつながりが回復します。それは、神の母の愛と創造の靈的で良い力であり、神からの主要な指揮、執行力です。受胎告知の場面では、聖母マリアは精神的な純粹さの象徴として、蓮の花、より正確には手にユリを持った姿で描かれることがよくあります。彼女は人間の動物的性質であるドラゴンを足で踏みつけている姿で描かれています。結局のところ、人についての靈的な知識と靈的な道の実践を考慮すると、これはすべて異なる、より深い意味を帯びます。聖母マリアは「靈的生命力」、「真の知識の化身」と呼ばれています。



彼女は「神の知恵」、つまり「すべての芸術家」、「創造の母」と呼ばれ、聖書には彼女について「彼女は神の力の息吹であり、神の栄光の純粋なほとばしりである」、「彼女は永遠の光の反映であり、神の行為の純粋な鏡である」、「彼女は一人であるが、すべてを行うことができ、自分自身の中に存在してすべてを更新し、世代から世代へと聖なる魂へと受け継がれ、神の友人と預言者を備える」と書かれています。聖母マリアの靈力は「天国の門」に例えられる! 彼女は「神の担い手」「世界の魂」「神の摂理」「ロゴスの化身」と呼ばれる。

リグデン: かつてイエスはマリアにこう言われました。「マリア、あなたは幸いです、なぜなら、これをあなたに明らかにしたのは肉と血ではなく、天におられるわたしの父だからです。そして私はあなたに言います:あなたは私の教会のマグダラであり、地獄の門は彼女に勝つことはできません。」「そして私はあなたに天国への鍵を与えます。しかし、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれるのです。そして、あなたが地上で解くものは、天でも解かれるでしょう。」

アナスタシア: はい、はい、これらの重要な言葉は覚えていました。私はこの知識を『先生IV』という本に記録しました。マグダラのマリアは、イエスが秘密の知識を託しただけでなく、今日人々が聖杯と呼ぶ「天国への鍵」を手渡した最も近い弟子であったということです。イエスの真の教えが今も息づく「信仰の柱」「イエス教会のマグダラ」。

リグデン: そして、真の靈的助けが人々の魂の救いのためにやって来ます。

アナスタシア: ご存知のとおり、キエフに行って寺院の一つに入ったとき、神の母「オランタ」の半身像の古い像を見ました。



彼女は明らかに椀型で三日月型の角を立て、腕を上げて横に伸ばしている様子が描かれています。そして、胸には、母親の胸の中のように、幼児キリストが彼女の保護の下に位置する円があります。つまり、アラトラシンボルが暗号化されたアイコンです。人は当たり前のことが見えていないことに驚きました。ただし、何年も前にあなたがこれらの問題について私たちに啓発していなかったら、なぜ私がこの特定のアイコンに飽き足らないのか、なぜこのアイコンから発せられるポジティブなパワーを感じているのか理解できなかつたでしょう。この「オランタ」の画像を撮影し、携帯電話のスクリーンセーバーとして設定しました。ここにあります。

リグデン（優しい微笑みを浮かべながら、画像を見ながら）：しるしの聖母。もちろん、他に方法はありません。神の輝く恵みです。スラブ民族の母の胸。永遠の兄弟よ、あなたの目の右手の喜びは今でもあなたの栄光の中で輝く光のようであり、この日を近づけています「アズ・アム、アズ・ビー！」良い象徴。古代ルーシでは神の母の像が人々の間で最も尊敬されていたと私はすでに述べました。このアイコンは、ロシア、ウクライナ、ベラルーシのスラブ人の間でのみ（そして後に歴史的に彼らと一つの大きな国に統合された人々の間で）のみ「サイン」と呼ばれ、他のどこにもありません。他の国では、彼女は神の母「グレート・パナギア」、「パントナス」、「プラティテラ」と呼ばれています。古スラブ語で「標識」という言葉が古ロシア語の「標識」を意味する「旗」に由来していることを知っている人はほとんどいません。ルーシでは、そのようなアイコンは11世紀に初めて登場しました。しかし、すでにペチェルスク医師ベズメルズドニーのアガピットの地上の生涯の後、このアイコンは人々によって「兆候」だけでなく、救いの兆候である「化身」とも呼ばれていました。ここがポイントです！



アナスタシア： そして今日に至るまで、これに関する言及を見つけることができます。ただ、残念なことに、教会の伝説では、人々の靈的なものよりも物質的な救いに焦点を当て始めました。しかし、それらの年の歴史を注意深く研究すると、たとえ間接的な報告であっても、最終的には特定の日付に関連付けられた歴史的出来事につながります。たとえば、1169年2月25日、「オランタ」のアイコンのおかげで、ヴェリーキー・ノヴゴロドの戦いの結果は奇跡的に解決されました。そのため、後に人々自身が神の母を仲介者として尊敬し始めました。確かに、権力者たちはユリウス暦では早くも11月27日（新暦では12月10日）にこの出来事を記念して祝日を定めました。

リグデン： そんな感じでした。この出来事はちょうど大四旬節の日に起こりました。そして、彼らにとって祝うことは不快なようで、断食も同じです。そこで彼らはそれを、当時のノヴゴロド・ポサドニクの聖名記念日である11月27日まで押し上げた。しかし、権力においてはすべてがいつもどおりであり、何も変わっていません。しかし重要なことは、人々が真実を感じているということです。公平を期すために言えば、11世紀以来、このアイコンはキエフ大公国で多くの精神的な奇跡を起こしてきたと言わなければなりません。そして、このアイコンのおかげで、さらに多くの秘密の、そして明白な奇跡が起こったことでしょう。彼女は正教会のエクメーネ全体で非常に人気があり、教会の壁画だけでなく描かれるようになりました。この標識は人々に公開されるようになりました。それは、お香の銅鑄造、クアドリフォリアのイコン、エンコルピオン（胸に吊るされる遺物。昔は「胸」、「ペルシャ」と呼ばれていました）、肩甲骨の追跡などを通じて広まりました。



1



2

図 79「オランタ」の画像:

- 1)「オランタ」をイメージしたブロンズのアイコンはめ込み(XII-XIII世紀、ベラルーシ、ブレスト)。
- 2) 蛇紋岩(表と裏)、表側に「オランタ」と神の幼子イエスの像がある(14世紀、ベラルーシのブレスト近くの考古学的発見)

そして今でも、このアイコンはロシア正教で最も尊敬されているアイコンの1つです。例えばベラルーシでは、4人の天使に囲まれた聖母のアイコンが今でも首都の紋章(ドイツ語の「エルベ」は「相続」を意味する)であり、ドニエプル川の支流の一つであるスヴィスロッホ川(スヴィスワッハ)のほとりに位置する古代古スラブ都市ミンスク(ムンスク)の独特のシンボルである。

伝説では、「サイン」アイコンと古代キエフの関係とその奇跡



的な入手についての部分的な言及が保存されています。これらすべてのシンボルとサインは、これらのスラブ民族の精神的遺産に特別な痕跡を残しました。

アナスタシア: はい、どのシンボルに社会の注目が集まっているかを理解するには、それらの場所の現代の紋章を見るだけで十分です。



1



2



3

図 80 ベラルーシの現代のシンボル:

- 1) ノヴォポロツク市の紋章 (ベラルーシ、ヴィチェプスク地方)
- 2) ミンスク市の紋章 (神の母は2人の天使と2人の天使に囲まれて描かれています)。
- 3) ミンスクの独立広場にある有名なカトリック教会、聖シメオンと聖ヘレナ教会 (20世紀初頭) の同じシンボル。



リグデン: 一般に、キリスト教以前の時代のスラブ人は、ほとんどが菱形のシンボルをまだ保持していたことに注意する必要があります。スラブ民族とバルト三民族は、伝統的な信仰へのキリスト教の象徴主義の介入に長年断固として抵抗してきた事実上最後のインド・ヨーロッパ民族であると言えるかもしれません。10世紀までに、宗教としてのキリスト教はすでに政治的影響力の手段として世界におけるその地位を著しく強化していたという事実に注目していただきたいと思います。そして、これらの民族の大部分は、精神的なものを指向した象徴主義を持っていました。しかし、先ほども言ったように、すべての変化はシンボルから始まります。キリスト教がイラン語を話す人々の豊かな神聖な象徴主義にほぼ6世紀から影響を与え始めた場合、ゲルマン民族は8世紀から、この宗教の象徴(否定的な影響を与える兆候を含むものを含む)のスラブ人に対する徹底的な攻撃は10~11世紀から始まりました。

しかし、このプロセスにおけるペチャルスキーのアガピットのタイムリーな介入のおかげで、キエフ大公国では正確にポジティブなシンボルが活性化され、その多く(AIアラトラ、アラット、ひし形、円、正十字のサイン)はキリスト教以前の時代によく知られていました。実際、アガピットは、人の精神的な解放に関する4つのエッセンスを含む知識を更新しました。もちろん、これは明示的に行われたのではなく、隠蔽されましたが、それでもなおです。



したがって、洞窟の医師アガピットの精神的な働きのおかげで、主に前向きな兆候が更新され、当然のことながら、これらの人々の精神的な将来に影響を与えました。

アナスタシア： はい、これはさまざまな古代の遺物に非常にはっきりと見られます。たとえば、当時のスラブ民族の間で大量に現れたシンボルとサインによると、アラットとアラトラサインのシンボルを備えたアイコン、神聖な陰謀を描いた民俗刺繡、腓骨リング（衣服の留め金の装飾品）の広がり、イヤリング、4つのエッセンスの属性を備えた正確に等辺の十字架（そして長い十字架ではない）のシンボルを備えたブローチ。さらに、興味深いことに、古代ルーシでは、イメージのある金と銀の指輪が都市では使用されていましたが、村では幾何学模様の銅の指輪が使用されていました。

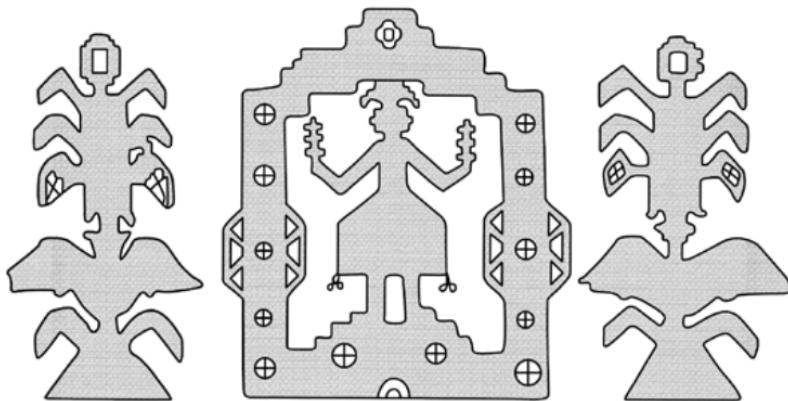


図81。古いスラブ寺院と女神マコシュをイメージした刺繡。

女神マコシュは、紀元前のキエフ大公国パンテオンの最高神の一人でした。彼女は、女性性、豊饒、紡績、機織りの主要なスラブの天の守護者でした。

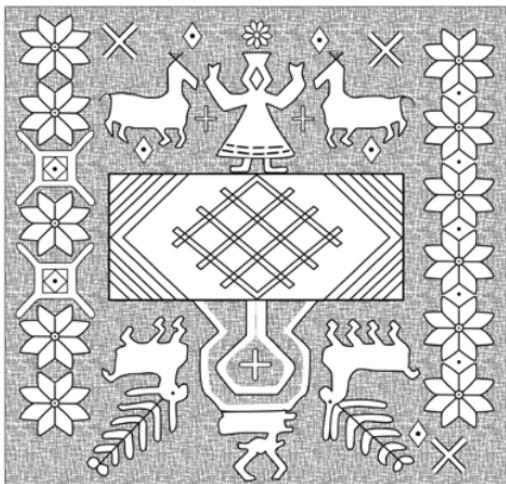
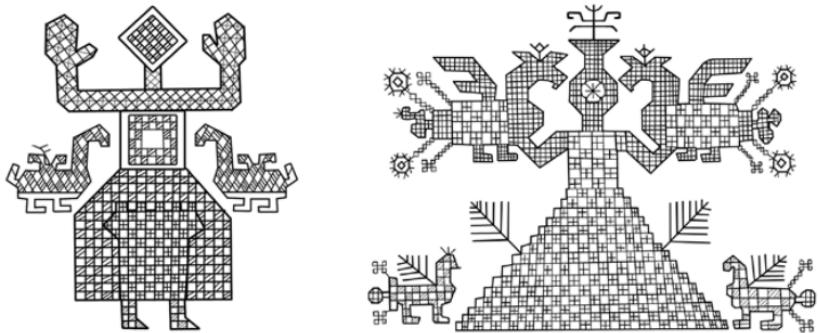


図82。神聖なシンボルを描いたロシアの民族刺繡のサンプル。



図 83 スラブ刺繡の要素。



図84。ヴァチチ・スラブ人の象徴主義

(12世紀初頭、モスクワ、カルーガ、スマレンスクの一部、ブリヤンスク地方の領土で見つかった遺物の画像、ロシア)。

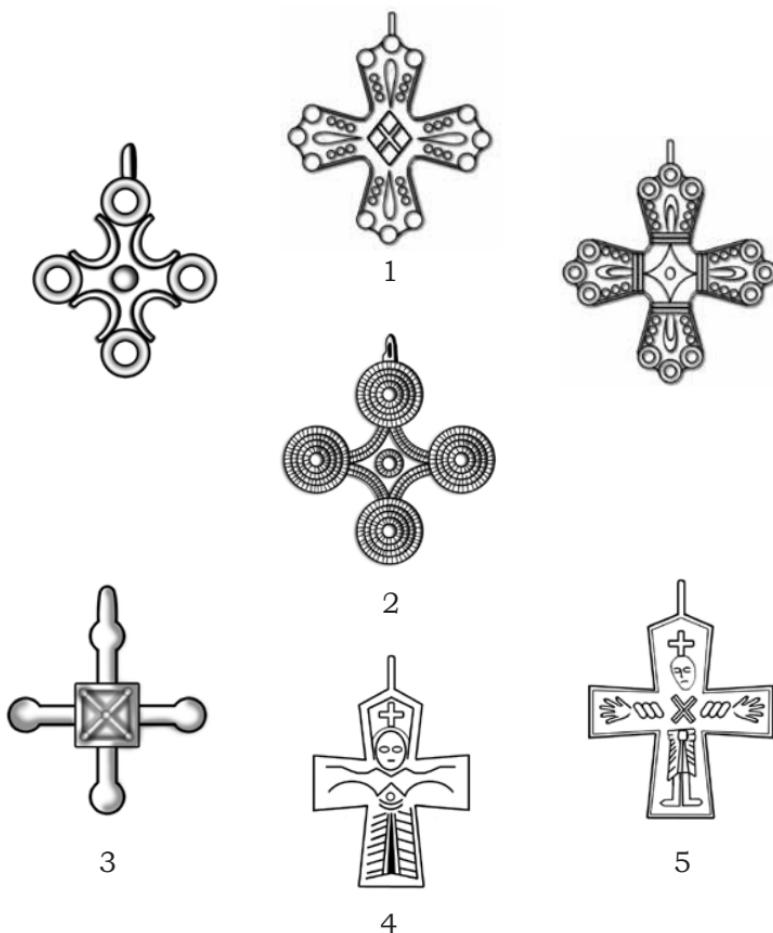


図 85。キリスト教の正十字
(XI ~ XIII 世紀、キエフ大公国):



- 1) 旧ヴィチェプスク州(ベラルーシ)の領土で発見された工芸品。
- 2) 金属製のクロスベスト(ベラルーシのヴィチェプスク地方ポロツクで発見)。
- 3) 金属製のクロスベスト(ベラルーシ、ミンスク地方のボリソフで発見)。
- 4) 碓刑をイメージした十字架(10世紀末から11世紀初頭、ベラルーシのグロドノ地方ノヴォグロドク市の出土品)。
- 5) 碓刑をイメージした十字架(10世紀末から11世紀初頭、ベラルーシのヴィチェプスク地方ポロツク市の出土品)。

リグデン: 原則として、人々の注意は特定の宗教の哲学や政治的イデオロギーに特に集中しますが、記号には注目せず、記号の真の目的にはさらに注目しません。しかし、それらの中には労働者もいて、人のエネルギー構造に影響を与え、人が理解しているかどうかに関係なく、潜在意識のレベルで働きます。人々は、家庭、職場、その他の生活の場所で、どのような兆候やシンボルが自分の周りにあるのかを詳しく観察する必要があります。それが人々自身の願望であり、この方向への実際の仕事であれば、知識があれば、状況をより良い方向に変えることは常に可能です。それで、「オランタ」についての会話に戻ります。これらのシンボルやサインが適用された聖母のイメージを持つアイコンはこれだけではありません。

アナ斯塔シア: そうです、神の母の奇跡的なオストロブラムスカヤ・イコン(ヴィルナ・イコン)の画像を見てください。これはビリニウス(リトアニア)市にあり、現在ではリトアニア、ウクライナ、ベラルーシ、ポーランドで非常に人気があり、カトリック教徒と正教会の両方から尊敬されています。



図 86。神の母のオストロブラムスカヤのアイコン

(ヴィルナのアイコン)の画像。

もちろん、コルスン(ヤロスラフ賢者の父であるキエフ王子ウラジーミルが洗礼を受けたケルソネソス市の古代ロシア名)からの彼女の起源に関する伝説など、彼女にはさまざまな伝説が関係しています。現在、この都市の遺跡はウクライナのセヴァストポリ市の地域にあります。しかし、このアイコンにある角の生えた三日月のシンボルは見逃せません。



リグデン：三日月の角を立てた聖母マリアのそのような像の多くは、テンプル騎士団の出現と強化の時期 (XII ~ XIII 世紀) に西洋で現れ始めました。一般に、以前の時代には、他の文化の女神が神の女性原理などの象徴性を持って描かれていたことに注意する必要があります。例えば、イランの女神アルドヴィシュラ・アナヒタ(アヴェスター語から文字通り「力強く、汚れなきアルヴィ」と訳される)は水と豊饒の女神であり、神聖な書『アヴェスター』(『ヤシュト』V)では別の贊美歌『アルヴィスル・ヤシュト』が彼女に捧げられている。ちなみに、もともとアルドヴィという言葉には、神聖な光の領域から流れ出て、あらゆる生命(アラットの原型)を生み出す普遍的な水の源という意味がありました。



図 87。聖なる鳥によって昇天したアードヴィスラ・アナヒタ。

銀のボウルに描かれた像の断片(6世紀、イラン(ペルシャ)、現在はロシア、サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館に所蔵)。



または、古代エジプトの女神イシスに関連した別の例は、古代においてその崇拝が東と西の両方、たとえば小アジア、シリア、ギリシャ、イタリア、ガリアなどの国々で広く行われていました。

アナスタシア： はい、ヘレニズム時代においてさえ、イシス崇拝はエジプトの国境をはるかに越えて広く普及していました。大衆にとって、彼女は女性性、豊饒(創造)の女神、航海の女神として表現されました。しかし、彼女の典型的なイメージで最初に注目を集めるのは、彼女の頭飾りです。これは、角を立て、その上に円がある三日月の形をした属性です（「アラトラ」）。

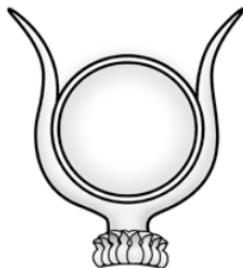


図88。古代エジプトの女神イシスの頭飾りの属性。

リグデン： 秘密の解釈では、彼女の名前は過渡状態、つまり別の領域と接続する状態を意味していました。ところで、ヘレニズムの時代には、すでに述べたように、同じ十字ドーム神殿の神聖な象徴性の解釈は主に東洋の宗教概念から借用されました。たとえば、私はすでに会話の中で、ギリシャ語の「アプス」(クロスドーム教会の大きな中央ドームまたは塔の下にある円筒形の部屋を意味します)について、金庫を「ロック」するキーストーン（「鍵」）について言及しました。



後陣の象徴的な意味は、ギリシャ人によって、古代エジプトの女神イシスの名前の神聖な意味と、その属性の1つであるエジプトの十字架アンクから借用されました。アンクは、「永遠の命」、「生命の鍵」、不死の象徴を意味しました。アプス(古代ギリシャ語の「 $\alpha\psi i\zeta$ 」-「弧、輪、金庫、棚」、「まとめる、接続するもの」から) - これは、ギリシャ人が円盤、球、円柱、天の天井などの丸い形をどのように呼んだかです。

アナスタシア: はい、さまざまな古代の国の司祭たちは、多くの場合、「彼らの群れ」による「異星人の女神」に対するそのような大規模な崇拜に同意することを余儀なくされました。国々の間での彼女の人気の高まりを克服するのは彼らにとって困難でした。

リグデン: もちろんです。司祭たちはこれに抵抗しただけでなく、少なくともいくつかの儀式、このカルトの要素、「地元の」女神の形容詞を借用して、魅力を高め、ひいては収入を増やすために、この運動を主導しようとした。しかし、これらすべての「借用」により、基礎知識も部分的にコピーされました。本物の修練者は、記号やシンボルの知識があり、人々の間でこの人気がある理由を理解していました。したがって、彼ら自身もポジティブな兆候やシンボルを広めるプロセスに貢献し、この知識を次世代に伝えるために、記念碑的な建築にそれらを刻印するなど、あらゆる手段と機会を利用しました。そしてその後、それは多くの場合、本質が理解されないまま、さまざまな民族の間で単なる伝統となつたのです。人々は、建築や芸術における過去の世代の経験を、一般的で表面的な哲学のみに導かれて模倣し始めました。



注意深い人であれば、神聖な建造物の建築を観察するだけで十分です。寺院、教会、その他の宗教的建造物は、古代にも現在にも建てられ、さまざまな大陸にあり、さまざまな宗教に属しています。そして彼は、それらが同じ基本的なスピリチュアルなシンボルを反映していることに気づくでしょう。多くの場合、そのような建物は、正方形(地上、人間のすべてを意味します)を球形(天、精神的な)に変換するという形の建築的解決策であり、前述したように、精神的な成長、つまり人の構造の変化を象徴しています。実際、これは人の4つのエッセンスの結合、魂の支配とその後の解放との結合の達成の象徴です。そして、神聖な建造物の建築における後者は、立方体の形、またはその8つの頂点(多くの場合、頂点として8つの尖った星)の象徴的な指定の形で描かれました。その後、立方体の原型は八角形として描かれるようになり、そのおかげで塔の四角形がシンボルとしてドームの円に接続されました。最後の変化、つまり人間性の質的変化と精神的領域への参入です。

古代美術についても同様です。たとえば、イスラム教の宮殿やモスクなどの東洋の幾何学模様、本、衣服、料理の壁画などを考えてみましょう。それらは、正方形、円、三角形、星、複数の花びらの花、蓮とその茎に似た織りなどのアラベスクに基づいています。ちなみに後者は、12~16世紀のイスラム教の中世装飾品をモチーフにした、ヒルガオの葉と螺旋を組み合わせたもので、チュルク語で「イスラム」を意味するイスリミ(名前はロシア語転写)と呼ばれている。



東洋では、このパターンは地球の美しさを称賛し、人々にエデンの園を思い出させ、また、継続的に発展し開花する新芽の中で示される人の象徴的な精神的な成長のアイデアを表現すると信じられており、その経路には、さまざまな成長のための多くのオプションが含まれており、世界のさまざまな状況が織り込まれています。そして、9世紀から16世紀には中東のイスラム美術に幾何学的な装飾が見られました。ギリと呼ばれていました(この名前はロシア語の音写であり、「結び目」を意味するペルシア語に由来しています)。最も一般的なシンボルの1つは、8線、5線、6線の星であることに注意してください。そして一般に、イスラム教の世界観における幾何学的な装飾は、統一、調和、秩序の概念を象徴しており、それに応じて、彼らの信念によれば、万物の創造主である唯一の神、アッラーによって創造された宇宙が存在します。これらのシンボルは、かつては知識を伝達する役割も果たしていましたが、今ではほとんどの人にとって、インド人にとっての同じ曼荼羅のように、単なる精神的な熟考の対象となっています。ちなみに、初期のキリスト教ではキリストを表すのと同様に、当初はシンボルと記号のみが仏陀を表すために使用されていました。そしてずっと後、宗教制度、たとえば同じ佛教が創設されると、仏陀を神として擬人化したものが登場しました。一般に、すでに述べたように、装飾品の幾何学的な記号は、イスラム以前の時代に東洋に存在した知識の象徴的な伝達の非常に古い伝統です。このような装飾品は、同じ遊牧民のアラブ人によって、大多数が理解できる開かれた本のようになっていました。



アナスタシア： そうですね、東洋、特にイスラム教、これは全体的な話です。昔、あなたは預言者ムハンマドについて私たちに話してくれました。これにより、イスラムの伝統、文化、芸術、建築、文学への関心が生まれました。ご存知のように、イスラム教徒の間では、本殿、巡礼の地はムハンマドが生まれた街、メッカです。この場所は山間の小さな谷にあります。イスラム以前の時代であっても、メッカはすでにアラビア半島の人々の主要な宗教の中心地であり、カーバ神殿(大きな立方体の形をした建物)はアラビア半島のさまざまな人々に一般的に認識されている神殿でした。誰が、いつ建設したのかは科学者たちにもまだわかっていないません。しかし、興味深いことに、アラビア語から翻訳されたカーバ(この言葉のロシア語転写)は立方体を意味します。さて、角(またはマークのある角)に置かれた立方体が、古代以来、世界の人々の間で重要な精神的なシンボルであり、人の精神的な存在への変化、変化を示していることを考慮すると、興味深い話が生まれます。

幾何学によれば、立方体は正六角形で、12 の辺、8 つの頂点(各頂点で 3 つの辺が収束)、および 6 つの面(正方形)で構成されます。72 という数字は 12×6 の組み合わせで表現できることを思い出してください。繰り返しになりますが、数字の象徴性と幾何学的な意味は単純ではありません。

そのため、イスラム教がメッカの主要な宗教となった後、メッカにおけるイスラム教徒の巡礼の主な場所は、古代のカーバ神殿があるマスジド・アル・ハラーム・モスクとなり、ちなみに、マカーム・アル・イブラヒムは、アラートの象徴的な記号が冠されたドームのある小さな建物です。そこには、伝説による預言者イブラヒム(アブラハム)のものである足跡のある石が含まれています。

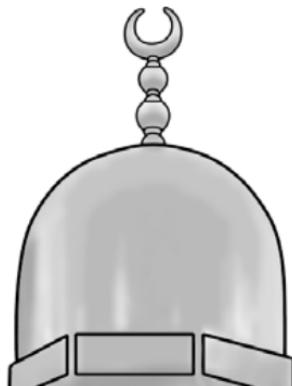


図89。 メッカのマカーム・アル・イブラヒムのドームを戴冠するアラットのサイン。

リグデン： まさにその通りです。この標識に関するコーラン（スーラ 3. アヤット 97）では、次のように明確に述べられています。そしてそこに入る人は皆、そこでは安全になります。」アラートの兆候はまさに精神的な解放を達成することの象徴です。これは人にとって精神的な変革の唯一可能な状態であり、この物質世界からのみ安全であることができる永遠への道を開きます。

アナ斯塔シア： 私もあなたに同意します。それは非常に明確に示され、明確に説明されていますが、人々だけがこれに気づいていないか、三次元の住人としての結論に基づいて独自の方法で理解しているようです。彼らの注意は外側に集中しています。たとえば、モスクの本殿があるカーバ神殿の東隅の外壁には、長さ30センチの卵型の石、いわゆる「黒い石」（ハジヤル・アル・アスワド）が建てられています。科学者たちは、この石が火山か隕石起源であることを示唆しています。しかし、それは問題ではありません。



古代アラビアの伝説によると、天使ジャブライルは

(キリスト教では大天使ガブリエル。ご存知のように、イスラム教では、ジャブライルはアッラーの意志と啓示を預言者に伝える最も尊敬される天使です)は、悔い改めの後、アッラーの神の許しのしとして、地上の祈りの祭壇としての白い石を楽園からアダムに引き渡し、これがカーバ神殿の基礎を築きました。これは、アダムとハヴァ(イブ)が楽園から追放されて別れ、何年も経ってメッカ地域で再会した後の出来事でした。伝説によれば、この石はもともと白色だったが、人間の罪によって黒色になったという。



図90。 天使ガブリエルを描いたイラスト「ムハンマドが天使ガブリエルから最初の啓示を受ける」の断片の概略図。

(オリジナルのイラストは、ラシッド・アドディン著『ジャミ・アット・タヴァリ』(文字通り「年代記集」)に掲載されています。この本は 1307 年にペルシャのタブリーズで出版されました。現在、スコットランドのエдинバラ大学図書館に所蔵されています)。



イスラム教の信念によれば、メッカのカーバ神殿は「神の家」、「地面にひっくり返った空の部分」、宇宙の中心、イスラム教徒の祈りが向けられる側とも考えられています。信者たちは、すべてのイスラム教徒は生涯に少なくとも一度はメッカを訪れ、神の秩序と单一の中心への服従の象徴として、カーバ神殿の7周を含む数多くの儀式を執り行うことが義務付けられている。

しかし、カーバ神殿に関するこのすべての情報を「知識」と比較すると、重要なのは外面向的な崇拝にあるのではないことがわかります。結局のところ、7次元で靈的に発達した人のエネルギーの投影は、角の1つに置かれた立方体の形に似ています。角の1つが指定された立方体は、精神的な知識の象徴的な伝達を表しています。そして、7つの円は7つの次元の理解の象徴です。

リグデン： まさにその通りです。多くの場合、さまざまな宗教の神聖な儀式では、生涯に7次元に到達すること、つまり神への道に沿った特別な靈的行進（生涯における人の靈的成长）の象徴として、何らかの7つの外部アクションが実行されます。たとえば、あなたが正しく指摘したように、イスラム教ではカーバ神殿の周囲を7周することと、7という数字に関連した多くの神聖な儀式が行われます。これは、アッラーの玉座が第7天国の頂上にある楽園、つまり「極限の蓮華」（シドラットアルムンタハ）にあるというイスラム教の信念によるものです。イスラム教にはそのような難解な傾向があります。スーフィズム、それは東方のイスラム教徒の宗教的教義、哲学、文学、倫理、詩に大きな影響を与えました。



ちなみに、有名な科学者で詩人のオマル・ハイヤームもスーアー・ルバイヤートのスタイルで書いています。したがって、スーアイズムでは、精神的な知識、神への道-これらは自己改善の道の7つの精神的なステップです(タリカット;アラビア語の「タリカ」(この言葉はロシア語転写で与えられています)から-「道」;「真実への道」)。それらはマカーム(アラビア語から翻訳された「場所」、「位置」、「駐車」)と呼ばれます。スーアーがあらゆる段階で到達する精神的で安定した状態です。「駐車」タリカット。神への道は、いわゆる「七つの谷」を象徴的に渡るものとして描かれています。

アナスタシア: はい、スーアイズムにおけるこれらの象徴的な「七つの谷」には、とても詩的な名前が付いています。1つ目は、人がすべての煩惱を断ち切る探求の谷です。2番目の愛の谷では、彼は神を唯一の最愛者として見つけようとします。3番目の直観的知識の谷では、スーアーは神を認識し、真理の光を認識し始めたばかりです。4番目の分離の谷では、神の探求者はついに中毒と欲望を放棄しなければなりません。5番目の統一の谷では、世界の統一を実現します。6番目の喜びの谷では、神の愛の海を熟考し、感じます。そして7番目の死の谷では、スーアーの理解によると、人間の「私」の喪失、自己中心主義、そして探求者の魂と神との融合が見られます。「私」が消滅し、人の中に神聖な真の本質だけが残るときの意識状態を、スーアー教徒は「ファナ」(「非存在」と呼び、仏教の涅槃に似ています)。



リグデン： そうです、これらは神への道における精神的なステップを連想させる概念です。ところで、仏教でも、実は同じことですが、悟りや解脱、つまり涅槃の境地に至るまでの六段階の完成段階があります。それらだけが「パラミタ」と呼ばれます。これはサンスクリット語で「渡る」、「救いの手段」、「対岸に到達するもの」(涅槃)を意味します。

アナスタシア： はい、スーフィーと同じレベルがインドの初期の信仰、仏教、そしてさらに初期のヒンズー教に反映されています。六つの完全性はパラミタです。

最初のパラミタは、寛大な施しの完璧さです。実際、仏教では、それは単に自分自身に対する内なる努力、物質、便利さ、蓄積、所有への渴望、権力への執着からの分離として理解されています。そしてまた、終わりのない煩惱による苦しみの輪を止めたいという願望(最初の谷のスーフィーたちの中には、求道者もすべての煩惱を手放した)、エゴイストから、利益や自分の栄光のためではなく、無私無欲に与え、分かち合い、助け、善を行うことができる寛大な人への変容です。 第二のパラミタは道徳の完全性です。道徳的純粋さは自己改善の他の段階の基礎であり、精神的な世界への扉を開くことができます(この段階では、スーフィーは高揚した感情を通して神を見つけようとします)。それは、心の規律の向上、良い考え方、行為、行為の実行、倫理的道徳的普遍的原則の遵守によって表現されます。そしてもちろん、他の宗教と同様に、仏教のこの段階は、この宗教が定めた誓いと規則の遵守に起因すると考えられています。



第三のパラミタは忍耐における完全性です。これは自制心の発達です(スーアーイーにとって、神を知るための初期段階、真理の光の認識)。興奮、否定的な感情、怒り、失望、憂鬱を鎮め、あらゆる困難、人生の問題を粘り強く克服し、意志力を向上させます。

第 4 のパラミタは、勤勉さにおける完璧さです。実際、これは自分自身を制御し、善行で喜びを受け取り、あらゆる仕事から喜びを受け取り、悟りだけを目的とした思考を生み出す能力です。このおかげで、人は自分自身の怠惰、羨望、嫉妬、利己的な欲望と決別することができました(スーアーイーによれば、探求者は最終的に自分の中毒や欲望と決別しなければなりません)。

五パラミタは瞑想の完成です。仏教徒はまた、人が利己的な観察者から狭い世界を見るのをやめ、瞑想を実践しながら自分自身の内側を見つめることを通して世界の本当の現実を見始めるとき、この段階を「包括的な認識」、「観想」と呼びます(スーアーイーには世界の統一の認識と観想の 2 つの段階があります)。それから彼は本当の現実が何であるかを理解し始め、さまざまな世界が彼の前に開きます。人は心の幻想が何であるかを理解し始め、現実の世界を知りたいという欲求が支配的になります。他の 4 つの完全性は、瞑想中に生まれた靈的な芽がその後熟した実を結ぶ好ましい分野を作り出すと信じられています。



第 6 パラミタは超越的（直観的）知恵の完成です。人の質的な精神的变化、精神的な目覚め。いかなる思考も欠いた純粹な初期知覚の獲得、高次の非概念的な意識形態の達成（スーエィズムでは、人間の「私」の喪失、探求者の魂と神との融合）、言語、イメージ、地上の連想、表現のカテゴリーを必要とする概念的な人間の心の参加なしに、現実全体の認識が瞬時に起こるときの靈的ビジョン。

リグデン： はい、これが彼らの涅槃を達成するための概念図です。ちなみに、彼らは直感的な知識の第 6 段階を般若波羅蜜多（Prajna-paramita、サンスクリット語で「智恵」、「理解」を意味します）と呼んでいます。この名前は、最高の完璧な知恵（直観）の女神である女性の菩薩、啓蒙の母に関連付けられています。彼女は通常、4 本の腕を持ち、大きな蓮の花の上に蓮華座に座って描かれています。両手はダルマの輪を回すサイン（ムドラ）を示しており、これは悟りの達成、精神的な変革の象徴です。彼女は右手にチンタマーニの宝石が付いた旗を持っており、左手には蓮に関する本があります。一般に、古代インド哲学を深く掘り下げるとき、この高次の直観の女神は実際、アラットの創造力の象徴であることがわかります。仏教徒の宗教は、ヒンドゥー教とは多少異なり、魂や神の概念を無視しています。しかし、私が言いたいのは、これは靈的な道の最終段階に近づいている人が自分自身、つまり魂と神にこれを感じていないという意味ではありません。



図91。女性菩薩、悟りの母、至高の完璧な知恵の女神 - 般若波羅蜜多

(13 世紀の彫刻、ジャワ島のマラン市近くにあるシンガサリ寺院の近くで発見。ジャカルタのインドネシア国立博物館)

それどころか、このより高い直観的全知と全知の状態は、人がスピリチュアルなツールの助けを借りて魂が何であるかを認識し、自分自身への毎日のスピリチュアルな作業のおかげで、自分の人格で可能な限りそれに近づき、魂を介して神とのつながりを回復したときに正確に達成されます。



もう一つの問題は、信者の軍隊全体のうち、靈的な道の終点に達するのはほんの少数で、残りは人間の本質を変えることなく哲学するだけだということです。

アナ斯塔シア： はい、瞑想の実践経験があるので、自分の言葉をより深く理解できますね。

リグデン： それは自然なことです。神への道における人の精神的な自己改善の同じ段階は、別の世界の宗教、つまりキリスト教にも見られます。人間の救いの概念に関連する秘跡は7つあります。信者の靈的な道を象徴的に反映しています。それは、洗礼、クリスマス、告解（悔い改め）、聖体拝領（聖体拝領）、結婚（結婚式）、聖別（宣教）、司祭職（叙階）です。それらを通して、目に見えない神の恵み、つまり神の救いの力が信者に降り注ぐと信じられています。

アナ斯塔シア： はい、自分自身に対する取り組みとほぼ同じ段階です。それはこの宗教の一般的な文脈において別の言葉で語られるだけです。たとえば、キリスト教の教えによれば、最初の秘跡である洗礼は、人が「肉欲的で罪深い人生のために死に、聖靈から靈的で聖なる人生に生まれ変わる」とき、信者を「教会の懷に受け入れる」とことと関連付けられています。それは人に精神的な救いの可能性を開くと信じられています。象徴的な儀式の間、人は「サタンと彼のすべての行為、そして彼の奉仕のすべてを放棄する」、つまり実際、動物的性質の欲望を放棄し、自分の靈的性質だけに奉仕するという人生の準備ができていることを確認します。この宗教では、それは神の原則との交わり、キリストへの奉仕と呼ばれます。



象徴的に言えば、洗礼の秘跡の基礎は儀式全体であり、その間に祈りが読み上げられ、人は水で満たされたフォント、貯水池、または水が振りかけられるフォントに浸されます。

リグデン: 一般的に、水に浸る清めの儀式は、古代にはエジプト人、ペルシア人、フェニキア人、スラブ人、ギリシャ人、ローマ人などの多くの人々に知られていたことに注意する必要があります。ちなみに、初期キリスト教会の規則では、イエス・キリストの生涯8日目を記念して、生後8日目に赤ちゃんに洗礼を授けることが規定されており、これは割礼の儀式を洗礼の秘跡という形での「靈的割礼」(罪からの解放)に置き換えたとされている。しかし、それ以前は、新生児を水で洗い、生後8日目に名前を付ける儀式がローマ人に知られており(すでに述べたように、キリスト教はローマ帝国で生まれました)、ローマ人はこの伝統を他の民族から取り入れました。あるいは別の例として、同じ仏教では現在でも8日に「釈迦の誕生」の祝日を祝います。旧暦4月のこの日は、伝統的にこの日に仏像を香りの水とお茶で洗い、祈りを捧げます。多くの例があります。

しかし、これについて私が言いたいことは何ですか。子供の誕生後8日目に体を洗い、名前を付けるという儀式的行為のこの伝統は多くの民族の間で行われており、それは靈的な原初の知識と関連しています。魂が8日目に、それに付随するすべての殻、すなわち亜人格とともに新生児の体に入るとき、実際、これは彼らにとって最も強いストレスになります。



結局のところ、物質世界の知的情報構造と同様に、亜人格はすでに再生のすべてのプロセスを完全に認識しており、完全な消滅が避けられないことへの恐怖を抱いています。再び新しい体のプラーナの生命エネルギーの流れに入り、生命を感じますが、以前のように（人格としての生涯中）これらのエネルギー、物質に最も執着していたサブパーソナリティを制御する機会はもうありません。彼らの選択によって、この世界と彼女の個人的な選択が現れ始めたばかりの、新しい初期の人格に対してより攻撃的になります。さらに、すでに述べたように、亜人格（特に、生前に魔法や超感覚的知覚などに従事していた場合など、エネルギーを「扱う」という特定の知識と経験を生涯で得た人）新しい人格が成熟するまでの初期段階では、たとえ新しい身体に「閉じ込められた」としても、少なくとも一時的に身体に対する権力を掌握しようすることができます。何のために？管理できるようになるためには 意識を高め、新しい体のエネルギーを使用し、短期的ではあるが物質世界での強さを獲得します。たとえば後者では、投影のおかげで、彼らは瞬時に宇宙に移動し、生前に愛着を持っていた場所を訪れることができます。しかし実際には、これは、新たな新生人格からのプラーナの生命エネルギーのささいな窃盗と呼ばれ、物質世界における彼女の滞在年数を短縮します。さらに、このような動物への恐怖の暴走とこれらの亜人格の攻撃的な攻撃は、ある意味、新しい人格の形成にとって不利な条件を生み出し、そのさらなる発展に否定的な痕跡を残します。



したがって、そのようなサブパーソナリティのトリックから新しい人格を守り、サブパーソナリティがそれに及ぼす最初のストレスの多い影響を最小限に抑え、また新しい人格に将来の精神的発達において前向きで精神的な推進力を与えるために、古代から彼らは以下のことを行ってきました。子どもが生まれて8日目に体を洗う儀式。実際、なぜ世界のさまざまな人々の信念の中で、そのような洗浄、油注ぎの儀式が人生の始まりに人を助けるならば、将来彼は親切になるだろうと信じられていたのはなぜですか。そうでないと彼が悪者になってしまいます。

そのような儀式の間、この儀式を実行する人々の靈的な力をチャージされた、たとえば祈りの水(または油注ぎに使用される植物油)の助けを借りて、最初のポジティブな靈的推進力(エゾオスモス)が新しい人格に伝えられました。実際、これはもちろん、短期的な精神的な助けでした。同様の信念が世界のさまざまな民族の間で一般的でした。それらは、(当時を生きていた人々の思考に適応したやや原始的な形ではあるが)、かつて社会で利用可能であった人間の真のエネルギー構造についての知識の本質を、亜人格の概念の中で反映し、人格の再生を反映しました。魂、新しい人格の形成。

さらに、古代においては、生後 8 日目に体を洗い、名前を付けるというこの儀式は、新生児がいかなる宗教に属しているかを意味するものではありませんでした。スラブ諸国や、たとえば古代東の諸国(エジプト、インド、ギリシャ、ローマ帝国など)には多神教(ギリシャ語の「ポリ」-「多くの」に由来)があつたことを思い出させてください。「テオス」-「神」)。



言い換えれば、彼らは多くの神の崇拜を認める宗教体系を持っていたのです。これは、原始的な共同体システムの時代にも存在し、世界と人間についての精神的な知識の痕跡を残した、信仰、習慣、さまざまな精霊の崇拜、トーテムのエコーです。したがって、人は成長するとき、その人格が形成され、そのとき初めて、彼は自分の人生と精神的な道において自分自身を決定し、宗教の問題も含めて意識的に個人的な選択を行います。

ところで、パーソナリティについて。新しい体の中の新しい人格は多かれ少なかれ5～7歳までに形成され、その後最初の急増があることについてはすでに述べました。その後、思春期になる11～14歳までに（個人ごとに）、2回目より強力なエネルギーの急増が起こります。実際、これらの急増は魂の力の現れであり、もともとは靈的解放の方法を模索する人格を助けることを目的としていました。しかし、力は力であり、それがどの思考プリズムを通過し、その後どこに方向転換されるかが重要です。したがって、この数年間、新しいパーソナリティにとって彼女の環境は重要であり、まず第一に、彼女が毎日連絡を取り、スポンジのように彼らからすべてを吸収する人々の世界観、言葉、行動、悪いものと良いものの両方を修正し、これを修正します彼女の意識の白紙にある情報。これらの主なブックマークは人格のその後の人生に刻印され、彼女の人生の選択、つまり精神的または物質的な選択に間接的に影響を与え、それが彼女の中で支配し、したがって彼女の死後の運命を事前に決定します。

アナスタシア：はい、この知識の反響は、ある意味、さまざまな宗教的伝統に組み込まれています。



たとえば、キリスト教では、正教では、7歳までの子供の洗礼は両親の信仰に従って行われるという規定があります。7歳から14歳まで、子供は両親の希望に加えて、バプテスマを受けたいという自分の希望を独立して確認する必要があります。そして14年後、彼はどの宗教に従うべきかを本格的に選択します。つまり、正統派では、その年齢での洗礼に対する両親の同意はもはや必要ありません。

リグデン: ところで、生後 8 日目に体を洗い、詠唱するというこの基本的な儀式は、後に 40 日目に行われるようになり、それによってこの行為の本質が失われてしまいました。彼らはこの秘跡をカルト的な儀式にするために儀式を複雑にし始めました。一般に、すべてがいつものように起こりました - 人間の心からの悲しみ。その結果、現在の聖職者自身も、教区民に説明することはもちろん、多くの重要な靈的質問を自分自身で理解して答えることができません。彼らは、その本質を深く掘り下げる事なく、単に伝統的に宗教的なパターンに基づいて答えているだけです。

アナスタシア: 人々はこれに遭遇することがよくあり、多くのウェブサイトやインターネット フォーラムで議論の対象になっています。ところで、洗礼の秘跡について、昔、あなたはとても興味深い情報を私たちに教えてくれました。私はそれらを本「先生-II」に含めました。一般に、世界の人々のさまざまな宗教におけるこのような水に浸る儀式の秘跡は、(キリスト教と同様に)人の道徳的浄化を象徴しています。精神的な生まれ変わり。これが大人の場合、秘跡はまず第一に、人に物質世界に対する自分の態度を再考させ、恐怖を手放し、内面を変えるようにさせると考えられます。



道徳律に従って未来に生き、善を行い、靈的な意味でより良くなり、自分自身に取り組んでください。そして最後に、これは、人格が神に向かって少なくとも最初の意識的な一步を踏み出すことを保証するという希望、靈的信仰への原動力です。幼児が洗礼を受けた場合、そのような「信仰の教え」は、子どもが成長したときに代父母(祖父母)に託されることになります。

キリスト教における洗礼は、仏教、スーフィズム、その他の宗教における自己改善の最初の段階と同様に、信者にとって象徴的な精神的な最初のステップであることがわかりました。つまり、自分自身に取り組むこと、終わりのない煩惱による苦しみの輪を終わらせること、物質的なものへの執着から離れること、精神的な救い、道徳の向上のためにすべての煩惱を手放すこと、という同じ意識です。

リグデン: はい、同じです、言い換えれば。

アナ斯塔シア: 洗礼の儀式には、第二の秘跡であるクリスマスも含まれており、その後、宗教規範によれば、人は第三の秘跡である第一聖体拝領(聖体)およびその他の教会の秘跡に入ることが認められます。

リグデン: これらすべての秘跡は、神への靈的な道を歩む人に対する教会の教えを象徴しています。たとえば、キリスト教の魔法カルトのクリスマスの儀式(ギリシャ語の「ミロン」-「平和」、「香りのよい油」から)。ちなみに、植物油を塗る同様の儀式は、キリスト教以前の時代にも魔法の神聖な儀式としてさまざま民族の間で行われていました。



それは、体の特定の部分に油を塗ると「悪霊を追い払う」という信念に基づいていました。そして、原則として、体のこれらの部分は人の主要なチャクラに対応しています。たとえば、目、額の中心（「第三の目」）、胸の中心、手のひら、足などです。実際には次のようなプロセスが行われます。

通常の植物油はその性質上、水や結晶と同様に、そこに投入された情報を長期間保存できる優れたエネルギー情報記憶装置です。もちろん、この問題では、誰がどのように、この油に情報を入れるという意味で、何を支配的に「調理」するかが重要です。そして「ものづくり」のプロセスそのものが、祈りの唱えか、魔法の公式か、呪文のいずれかである。ちなみに、基本的には静かに通過できます。結局のところ、重要なのは、この情報が声に出して発音されるか、心の中で発音されるかではありません。重要なことは、この背後にあるもの、人がこのプロセスにどのような内なる感情を込めているかです。これらの感情の強さがそれに応じてオイルを充電し、その中に定められたプログラムに従って、その後の行動のベクトルを設定します。このベクトルが具体的に何になるかは、油を「調理」する人によって異なります。これが靈的に強い性格であれば、靈的で前向きな助けが得られるでしょう。物欲の優位性を持つ精力的に強い人であれば、これは良いことです 待つ価値はありません。

このような「帶電」したオイルを人体（特にチャクラのある部分）に塗布すると、そのオイルにあらかじめ埋め込まれていたプログラム（エネルギー情報）が体内に入り込みます。



当初、そのような行動は人の精神的なサポート、つまり前のエッセンスの活性化を目的としていました。原則として、これらの目的には純粋な植物油が使用されました。そしてずっと後になって、知識が失われ、この儀式の単純な模倣が始まったとき、人々は油に香油や芳香物質を加え始めました。ちなみに、これは人々に香水などの製品を作成するよう促しただけです。

アナスタシア: まさに、香水は他の香水と比べてエッセンシャルオイルの濃度が最も高いのです。

リグデン: そして、初期のキリスト教では、この儀式には通常の純粋な植物油が使用され、ほとんどの場合、ミルラ科のコミフォラ属の植物からの油(木の幹を切るときに流れ出る芳香性樹脂)が優先されました。優れた消毒特性があるため、以前と同様に、創傷治癒やさまざまな病気の治療に使用されています。しかし、これらはすべて詳細です。一般に、キリスト教のクリスマスの秘跡は、神への道に沿った旅の初期段階での信者への靈的な別れの言葉を象徴的に反映しており、このようにして「聖靈の賜物が与えられ、戻ってきて強められます」精神的な生活の中で。」

アナスタシア: 他の伝統的な宗教でも同じ段階が自己改善の段階と呼ばれています。たとえば、仏教徒の場合、この段階を通過すると、精神的な世界への扉が開き、心の鍛錬、良い考え方、行い、善行の確認、そして倫理的道徳的普遍的原則の遵守において自分自身を向上させることができます。



スーアー教徒にも同じことが当てはまります。しかし、類似点は、人が自分自身への内なる働きのおかげで実行する精神的な道の他の段階でも見られます。

リグデン：まさにその通りです。もう一度、同じキリスト教の悔い改めの秘跡(告白)を受けてください。結局のところ、その本質は、彼がやって来て、自分の動物的性質のすべての罪を司祭に話し、司祭から「罪の許可」を受けて、同じ人生を生きるためにさらに罪を犯し続けたということではありません。その本質は、自分自身への実際の取り組み、自分の考えや欲望、人生の価値観の尺度を変え、利己主義、羨望、嫉妬、怒り、プライド、怠惰を拒否することにあります。一般に、「罪深い考えや行為を拒否すること」です。これは過去についての後悔というよりも、自分自身を新たに見つめ、自分の間違いを理解し、スピリチュアルな道に沿った自分の動きの方向性を確認するために自分の行動を分析することです。あなたが誰かに引き起こした侮辱を理解し、あなたを傷つけたすべての人を許す必要性。これは良心の自浄作用です。そしてその法律に従ってさらなる人生を送ります。これがポジティブシンキングの習慣の形成です。これは神への内なる信頼であり、動物的な性質から来る自分の考えや欲望を厳密に制御することであり、キリスト教で言うところの「将来罪を犯さないという意図」です。

ところで、動物性から思考をコントロールすることについて。信者が自分の内なる世界に集中し、神との一体感を個人的に体験する様子を描いたロシア正教の禁欲文学では、実際、他の多くの宗教でも同じことが言われており、これは靈的な道を歩む人の特徴である。



ここでのみ、罪の主な原因、つまり「人間の魂の罪の原因としての情念」の教義と呼ばれています。僧侶たちは、人間の心の中の「罪」の起源を、思考、あるいはむしろ動物的性質からの思考や欲望の形で追跡し、それらの発展と否定的な行動の形で現れるという実際の経験を共有します。

初期段階、「罪」が誕生する主要な瞬間を彼らは付属物(攻撃、トリック、罠、増加、攻撃の意味で)と呼んでいます。このような考えは、人を取り巻く誘惑の結果として、彼がそれらに注意を払った場合、または彼の過去の記憶によって引き起こされる可能性があるため、これは人の魂に対する外側からの行動と考えられています。自分や他人の罪、あるいは闇の勢力の影響など。さらに、これらの考えはランダムで外部のものであり、人の欲求に反して、人の参加なしに頭の中で自発的に生じることが強調されています。そのような挑発的な考えの出現とそれらの拒否は精神的な訓練と考えられており、自分自身を知る(認識する)ための一種の助けとなります。そしてこれが人の真の選択の自由です。動物の本性からそのような考えを止めるには、その考えが起り始めた瞬間にそれに注意を払わず、「敷居からそれを拒否する」必要があります。これが行われないと、思考(またはイメージ)が残り、心を占拠してしまいます。人は自分の注意と欲望によってそれを「養い」始め、こうして自分の選択によって、この考えを人工的に頭の中に保持します。



そして、次の段階が起ります - 「接続」、より正確には、この思考(動物的性質からの)と人間の意識(人格の選択による)の「組み合わせ」、または修行者が書いているように、「登場映像インタビュー」。つまり、人は自分の心に有害なことを熟考し、それに耳を傾けるときに、すでに自分自身を傷つけています。第三段階の「寛容さ」はアンバランスであり、「意志」が作用します。人は「喜んで」考えを受け入れ、外側からのこの考えを優先して最終的な選択をします。「意識の強さ」はその思いを実行に移すことを目指します。人は、その思考のより強烈な想像上の楽しみをもう一度体験することを目的として選択をします。これが「子宮の罪の発達」を終わらせる方法であり、むしろ動物的性質からの思考が力を増し、人格の意識を奴隸化する方法です。

そしてそれは対外的な行為に発展します。人が自分の思考を制御することに従事していない場合、彼はほとんど、またはまったくためらうことなくこの行為を実行し、そのような「外部からのランダムな思考」が彼に対する権力の状態はすでに習慣になりつつあります。したがって、彼は自分がすでに「エイリアンの意志」に支配されていることに気付かず、理解せず、動物的な性質の奴隸になります。したがって、キリスト教の教えでは、実際、他の伝統的な世界宗教の教えと同様に、人間の「罪」(高慢、怒り、高慢、落胆、悲しみ、金のむしりなど)を犯さないようにすることだけに重点が置かれているわけではありません。ただし、自分自身の中に非スピリチュアルな性質の思考を発展させることさえ許可しません。これはスピリチュアルな道を理解する際の基本原則です。

アナスタシア: はい、これは人が自分自身について知る上で非常に重要な瞬間であり、他の宗教と同じ基礎です。



ちなみに、私たちの会話の中で、正統派の伝統では、人は7歳から告白できると信じられているとすでに述べました。言い換えれば、新しい人格の形成の初期期間が終了した直後、人が自分の行動に対して意識的な責任を負い始めるときです。この年齢に関しては、宗教とは関係のないこのような事実は興味深い。例えば、日本では伝統的に、5~7歳未満の子供は親が好きなように振る舞うことを許されている。しかし、この年齢を過ぎると、「寛容」の時代は比較的厳格で規律ある教育プロセスに取って代わられます。つまり、これらすべては、新しい人格の形成の初期期間の終わりにちょうど起こります。子供はこの年齢からすでに自分の行動に対して意識的に責任を持つべきであると考えられています。

リグデン：過去の知識の同様の反響が、さまざま人々の間で記録されています。

アナスタシア：あなたはかつて、初期のキリスト教では真の悔い改めがギリシャ語のメタノイア（この言葉はロシア語転写で与えられています）と呼ばれていたとおっしゃいましたが、これは「心の後」、「再考」を意味します。

リグデン：まさにその通りです。これは人の精神的および道徳的変革であり、それは外部の儀式的行為によってではなく、自分の精神的な性質についての深い感覚的認識と認識によってより促進されます。なぜこの宗教は、人が真に悔い改めた気持ちがあれば神はどんな罪も赦してくれると言っているのでしょうか？なぜなら、このすべての認識は再び、深い感情、誠実な信仰、そして神に立ち向かうというレベルで起こらなければならぬからです。



人が自分自身で違って生きることを決心し、精神的な方向での自己教育を理解し、それを実行した場合、その人は本当に変わり始めます。人生の再考による過去への態度の変化を含め、現在では良い考え、行動、行動の発展があります。

アナスタシア： はい、仏教ではそれは完璧な熱意であり、悟りに向けた思考の生成であり、自分のエゴイスティックな欲望との闘いです。スーフィー派イスラム教徒にとって、これは神の探求者が最終的に中毒と欲望を放棄しなければならない段階です。

リグデン： そうですね。そして、キリスト教の秘跡である聖体拝領(聖餐、ギリシャ語の「エウカリスティア」から:「エウ」-「善」、「カリス」-「慈悲、感謝」から)を考慮すると、次のような象徴的な反映を見ることもできます。他の宗教にも共通する、精神的な自己改善の段階。聖体はキリスト教の礼拝(聖体礼儀)の主要な儀式、ミサ、ミサであり、その間、信者は象徴的にパンとワインにあずかります。キリスト教では、この秘跡は神との交わり、感謝、全能者との一致を得ること、神との交わり、神の愛を象徴しています。初期キリスト教の著者が聖体を「不死の薬」「命の薬」と呼んだのは偶然ではありません。信仰の深い人は、礼拝中(祈りを読んでいる間)、「天の奉仕を精神的に熟考」できる、つまり、祈りのおかげで、意識が深く変性状態に入ることができると考えられています。



アナスタシア: そうですね、儀式の主な作用、つまり信者の深い内面の感情に依存する場合、他の伝統的な宗教で変性意識状態に入るときと同じプロセスが発生します。たとえば、スーアフィーの間では、真理の光の認識、世界の統一の実現、そして瞑想、仏教徒の間では、瞑想における包括的な認識など、人々だけがそれを異なる呼び方で呼んでいます。そして実際、これらすべては、人の最も深い感情の助けを借りて、意識の変化した状態で精神的な領域に浸透することです。

リグデン: もちろんです。人間が神に至る真の靈的な道は、内なる深い感情を通る一つであり、この道については人間による多くの解釈があります。したがって、精神的に一致すべきものには人間の精神からの不一致があります。

アナスタシア: はい、残念ながら、靈的な事柄であっても、多くのことは人間の心から行われます。キリスト教の結婚式の秘跡を例に挙げてみましょう。これは伝統的に、教会によって神聖化された、男性と女性の結婚結合を締結するための儀式と考えられています(教会で結婚した人の頭に王冠をかぶせる)。過去には、この象徴的な儀式は君主の戴冠式(王国の戴冠)でも行われました。多くの人は単に物質的思考の立場からこの行動に言及し、この儀式全体の本質、その象徴性を理解していませんが、精神的な解釈では、その人自身の完成、人格としての彼の変容の全段階が隠されています。

リグデン: おっしゃる通りです。これらのスピリチュアルな問題に対する社会のアプローチは、依然として主に物質的な考え方の立場に基づいています。



だからこそ、世界中の多くのカップルが「自己改善のどの段階が結婚を象徴するのか?!」という質問に対する答えを知りたがっているのです。英国の学者である作家オスカー・ワイルドは、「不完全な人間にとて、結婚は完璧すぎる状態だ」と冗談を言いました。しかし、真面目な話、誠実な愛に基づいて築かれた男女の調和のとれた関係は素晴らしいものです。これは、彼らのそれぞれに最高の質の感情、つまり永遠で純粋で、すべての悲しみや人生の悪天候に耐え、インスピレーションを与え、インスピレーションを与え、力を与えると呼ばれるまさに精神的な愛の発達の芽、原動力となる可能性があります。しかし、そのような精神的な状態の達成はもっぱら、その人(男性であれ女性であれ)の個人的な努力の結果です。これは毎日のスピリチュアルな仕事であり、習慣を強化し、自分の中のスピリチュアルな性質を支配する立場を強化し、自分の動物的な性質を「鎖で」抑制することであり、思考の規律です。まず第一に、自分自身の中で靈的な愛を育むことが必要であり、それを期待するではありません。 いつか誰かがあなたを祝福してくれるでしょう。そして、人が自分自身の中に靈的な愛を生み出すことを学ぶとき、その人は周囲の人々を理解し、靈的に愛することを学びます。

そして、人々は原則として、自分自身に取り組むこと、自分の動物的な性質を飼いならすこと、比喩的に言えば、自分の目から「丸太」を取り除くことに取り組むことを望んでいませんが、パートナーの中に「モテ」があることに気づき、常にコントロールしようと努めます。誰かを支配する。多くの場合、家族の関係は愛とは程遠く、夫婦双方の利己心に基づいて構築されます。相互の争いや非難は、両者の動物的な性質の恣意性から生じます。



したがって、「幸せな結婚生活」という期待された期待の代わりに、完全な失望が判明しました。世界は新しいものではないので、これらすべては世界と同じくらい古いものです。

塵 - 嘉 - 地上 - 地上、そして靈的 - 靈的。一つの体、一つの魂、それが主な関心事であるべきです。肉体の命とともにそれは到来し、肉体の死とともにそれは去ります。それ以外のものはすべて、人々が自分の人生と自分の選択を正当化するために発明したテンプレートです。靈的な道は外の生活の中に求められるべきではなく、人の内側、感情、思考、言葉、行動の中にあるのです。これは彼の王冠への道、つまり彼の人生の頂点、頂点、最高のステップ、そして自己改善の最高点である精神的な頂点への道である。

アナスタシア: したがって、スピリチュアルな解釈では、結婚式は深い愛の感情、つまり人格と神との融合の感覚を構築する段階であり、それは外部条件や環境に依存するものではなく、人が自分自身に専らスピリチュアルに取り組むこと、支配状態に留まる能力 スピリチュアルな始まり。そしてこれは女性にも男性にも当てはまります。

また、Unction(アンクション)の奉獻などのキリスト教の秘跡についてもお話したいと思います。宗教的な考えによれば、これは事実上教会のやり方での癒しであり、精神的および肉体的弱さを癒すために病人や瀕死の人に対してオリーブ(木製)などの油を使って執り行われる秘跡である。植物油。本人またはその親族の依頼により行われます。



それは罪の赦し、油を注ぐこと、病人に恵みを呼び起こすことから成ります。

リグデン： そうですね、癒しに関しては、これは新しいことはありません。そのような行為は、古代エジプトやバビロンなどの司祭の魔法の実践では一般的でした。実際、これらの魔法の癒しの実践はすべて、古代の時代から常に存在していました。大衆宗教、そうでなければ後者はほとんどの人にとつて魅力的ではないでしょう。儀式自体の本質に関して言えば、これはかつて精神的な基盤を持っていたものの一一種の模倣です。初期キリスト教の著者の多くが、この宗教におけるイエス・キリストのみを「魂と肉体」の唯一の真の医師と呼んでいることに注目してください。数世紀前、一般教員は非常に健康な教区民を対象に教会で実践されていました(彼らは落胆、悲しみ、絶望などの靈的な病気にかかりやすいと考えられており、その原因是「悔い改めない罪」である可能性があり、おそらくは本人さえ気づいていない人)。この伝統は守られてきましたが、現在では儀式のようなものになっています。教会は病人を癒します。さらに、注意してみると、今日執り行われるキリスト教の秘跡には、7という数字が結びついています。例えば、原則として、7人の祭司がこの儀式を執り行い、7つの福音の物語、7つの祈り、病人への7倍の油注ぎなどが読まれる。実際、これは量によって質を達成しようとする試みです。この模倣はどこから来たのでしょうか？

東洋の古代の伝統では、菩薩は靈界から来た存在(キリスト教では、この靈的レベルは通常、大天使のランクによって示されます)として、手を触れる(置く)ことによって、あるいは、情報エネルギー媒体(植物油、水晶、水など)を通じて、人に特別な靈的な力を知らせます。



般に、菩薩は人に（もちろん、当然のことながら）そのような精神的な贈り物を与えました。そして人間は、自分の選択と信仰に従って、この力を自分の裁量で使用しました。現代の概念によれば、これは比喩的に言えば、車にガソリンを追加で注入するようなものです。旅の幅がさらに広がることは間違いないありません。しかし、この車がどのくらいの速度でどの方向に進むかは、すでにドライバー（性格）によって異なります。

当然のことながら、この力が作用したのは短時間でした。しかし、これのおかげで、たとえば、人は精神的な修行を行っているときに、個人の能力を超えて精神的な領域に侵入することができます。したがって、その現実に滞在するという貴重な経験、別の世界の実践的な認識を得ることができます。そこで、彼の成長における精神的な推進力（エゾオスモス）、新しい認識、世界観を受け取るために、三次元世界の幻想的な現実に対する彼の態度が根本的に変わりました。これにより、第7次元（涅槃、第7の天国、楽園）に触れること、最高の自由とは何かを理解すること、あるいは昔よく言っていたように「永遠の息吹を感じること」が可能になりました。」これは確かに、地上の何物とも比較できない、非常に貴重な靈的賜物です。

そして、この力が肉体に及ぼす影響については言うまでもありません。そのような精神的な力が人に伝わると、追加の創造的なエネルギーの流入のおかげで、彼の体がその仕事の質を向上させるのは当然です。



その結果、エネルギーの急増が起こり、多くの重要なシステムの機能にプラスの影響を与え、免疫力が向上します。伝説では、たとえ最も深刻な病気であっても、この靈的な力の影響を受けると言われているのはこのためです。しかし、物理的な効果はすべて二次的なものであり、主なものは、人格の精神的な助け、いわば「スピリチュアルヒーリング」、つまり、自分の本当の故郷、つまりスピリチュアルな世界に触れる機会です。したがって、例えばイエス・キリストは「魂と肉体」の唯一の真の医師と呼ばれました。神は靈界から来た至高の存在として、時として人々にそのような力を与えられることがありました。

同様の行動(ただし当然、より弱い力で)は、地上の輪廻から精神的に解放された人によって実行できます。つまり、その人は生涯の間に7次元に到達しました(7という数字への束縛はそこから来ています:7倍)行動や祈りの回数、儀式への参加者など)。そのような人格が、自分の魂と融合し、すでに質的に異なった存在、つまり新しい存在になった前では、まったく異なる可能性が開かれます。

しかし、人は人です。多くは単に人間の心からの羨望と模倣によって特徴付けられます。彼らには、人々が自分たちの魂の救いを永遠にキリストに求める機会があるのに、人々が自分たちの仮の体を癒してほしいとキリストに求めたとき、なぜキリストが「あなたの信仰に従って、そうさせてください」と言わされたのかさえ理解していません。

アナスタシア: そうですね、当時大衆の間で広まっていたイデオロギーを考えれば、それは驚くべきことではありません。



今日ではほとんど違いはありませんが。もし現代人が、彼が求めるものはすべて今与えられると言われたら。

リグデン： はい、何世紀も経ちますが、人々は変わりません。宣教の儀式に関しては、キリスト教では、さまざまな民族の間で行われていた初期の宗教の同様の儀式(たとえば、「呪文の祈りによる癒し」について)に関する知識に基づいて生まれました。原則として、それらは古代に使用されていた従来の薬(油など)を使用して行われました。つまり、キリスト教のイデオロギー概念の提示においてのみ、すべてが同じです。

そんな「呪文」ヒーリングの本質とは何でしょうか?祈りを実践する司祭、強力なシャーマン、超能力者などは、人に短期的な影響を与える可能性があります。しかし、もちろん、これらすべては動物の心の範囲内にあり、つまり、動物が六次元の位置から影響を与えることができるるのはせいぜいです。もちろん、これは、七次元が開かれている靈的に解放された人の力、特に菩薩の力と比較するのには遠く及ばない。人々のこれらすべての行動と現代の儀式は、人々を理解する際のお互いの一種の「助け」に起因する可能性があります。旧石器時代から社会で実践されてきました。しかし、これらの行動の非常に重要な点は長い間見落とされてきました。助けられている人が内面的に変化せず、自分自身に取り組み、靈的な性質を強化し、エゴイズムやプライド(つまり、動物)を飼いならすことに取り組み続けない場合、自然)などの場合、人の代わりには、誰もやりません。



自分自身を除いて、人のために主な精神的な仕事をする人は誰もいません。たとえ全世界がこの人の救いを祈っていても、彼自身が個人的な選択によって変化したくないとしても、人々のこれらの行動はすべて無意味になります。靈的な癒しの本当の秘跡は、「あなたの信仰に従って、あなたにそうなりますように」という言葉の中にあります。人自身が、自分の注意の力をどちらの源に与えるかを選択します：動物か靈性のどちらかです。したがって、人間の欲望は非常に異なります。誰かが彼の肉体の健康を懇願し、誰かが魂の真の故郷での彼の人格に永遠の命を懇願します。

アナスタシア： はい、確かに、今日の社会では本質を知ることなく、形を模倣するだけです。そのような精神的な強さを司祭の衣を着た7人で置き換えることはできませんし、もちろん、精神的な解放はお金で買うことはできません（これは肩書きでも地位でもありません）、自慢することでそれを獲得することはできません。

リグデン： その通りです。靈的な解放を達成するには、靈的に自分自身に熱心に取り組まなければなりません。そして、あなたが何らかの宗教の会員であるかどうかは関係ありません。これは各人の個人的なスピリチュアルな仕事です。

アナスタシア： 問題は、各人の独立した精神的発達の可能性に関するこの知識が、司祭たち自身によって社会から隠されていることです。知識を求める人々でさえ、物質的な一般に受け入れられている世界観に導かれて検索を開始し、それに応じて同じ世界観を持つ人々を見つけます。これは、聖書の表現にあるように、「盲人が盲人を導けば、両方とも穴に落ちるだろう」という靈的知識によって得られるものです。



リグデン: まさにその通りです。原則として、そのような人々は、自分自身で成長するのではなく、精神的な成長に対する責任を自分に移すために、教師を探します。しかし、社会全体を見ると、ほとんどの場合、いわゆる「教師」は精神的な発達において「弟子」と実質的に変わりません。（人間の心の）模倣者は、自らを人間と神の間の仲介者であると主張し、今日に至るまで、さまざまな宗教や宗派だけでなく、単に社会にも世界中に溢れています。彼らは皆、誰かに教えたいと思っていますが、自分自身を靈的に変えたいとは思っていません。そのような「ナポレオン軍」のあらゆる種類の「教師」の中で、本当に真実を知っていたのはほんの数人だけです！なぜそのようなパラドックスが起こるのでしょうか？そうです。なぜなら、どこを見ても、どこでも、物質的な世界観、政治、権力や金銭への渴望が精神的な世界観に置き換わっているからです。今日、多くの宗教において教会の地位が市場で種のように買われていることはもはや秘密ではありません。多くの人にとって、それは単なる政治ゲームに過ぎない。他人を支配する機会。しかし実際には、誰もが普通の人であり、さまざまな、さらには非常に高い地位に就いています。

アナスタシア: そうですね、彼らは人々に自分たちが神聖であるという幻想を人為的に作り出しています。ソ連時代、私が若かった頃、ソ連政府についてそのように考えていました。私にとって、彼らはほとんど半神であり、私たちから遠く離れたどこか（そして私たちの生活の中ではない）で会議に座っています、彼らはすべて正しいです、彼らは食べず、飲まず、そしてさえもしませんトイレに行きます。そして、あなたが私にこの通説の間違いを暴き、彼らも他の人と同じような人々であることを示したとき、私にとって最初はショックでしたが、その後、状況を真に理解するようになりました。



私はその鎖を解き始めました。なぜこの神話が作られたのか、なぜ私はそれをこのように認識したのか。そしてその過程で、私は自分自身で多くの興味深い事実を発見しました。たとえば、政治家や聖職者に対する好ましいイメージが世界でどのように作られているか、彼らの「イメージと神聖さ」(栄光の候補者にはまったく備わっていない)、これらの人々に関して「世論」がどのように人為的に形成されているかなどです。権力者にとって有利な世界観に人々がどのようにして大量に説得されていくのか、さまざまな国の国民全体の意識をコントロールするため、さらには世界征服のための闘争がどのように、またなぜ起こるのか。

リグデン： はい、情報を得ることが戦いの半分です。それよりもはるかに重要なのは、その認識の質です。さらに、たとえば、キリスト教の神権の秘跡(叙階)、つまり教会の階層における聖職者の階級への入門の儀式を考えてみましょう。残念なことに、今日のキリスト教では、それは儀式的、演劇的なショー、つまり特定の人々に「秘跡を執行し、群れを牧する」権限を与える行為に喩えられています。ここには精神性の匂いはなく、すでに政治が存在している。消費者の思考形式に従属した、さまざまなキリスト教会や運動内の現在の関係を考慮すると、ほとんどの場合、この儀式はすでに形式的であり、伝統への敬意です。式典の前から誰もがすでにすべてを知つており、彼らが言うように、高い地位が買収され、分配されます。そして、式典自体に出席している大多数の人々は何を考えているのでしょうか？「経験豊富」はチーム内の力の配分と関係に興味があり、「若い」は一連の行動を忘れないようにする方法、どのようなオブジェクトと「聖なる手」にキスするかに興味があります。まず第一にお辞儀の回数。



時間が経っても何も変わっていない。異なる時代に他の民族の宗教にも同様のものが存在し、呼び方が違っただけである。しかし、本質は変わりません。もちろん、この「力の群れ」の中には、外面的な儀式ではなく、神に対する靈的な感情に焦点を当てている真の信者もいます。しかし、残念なことに、これらは非常に少数です。

アナスタシア: 確かに、これらはすべて人間の事情です。誰もが自分自身で、秘密の欲望で彼をさらに誘惑するものを選択します。しかし、もし私たちが神権の秘跡の起源をそのように考えるならば、ここで私たちは人間の靈的発達の最後の最終段階を念頭に置くことになります。これは、スーフィズムでは人間の「私」の喪失、探求者の魂と神との融合、仏教では超越的(直観的)知恵の完成と呼ばれるものです。

リグデン: もちろん、当時の宗教に属していたかどうかに関係なく、自分自身への内なる努力を通じてスピリチュアルな道を歩む人々は、実際には同じ自己改善の段階を経てきました。同じ「祭司」という概念も元をたどれば、古代では「神の前に立つ者」を意味していました。実際、これは7次元への出口であり、人による真の神聖さの達成、生涯における彼の質的・精神的变化です。精神的発達のこの段階で、人は本当に神からそのような力を学び、そのおかげで彼は輪廻転生の輪を離れて解放され、天国、涅槃に行きますが、人々が精神世界をどのように呼んでも、この本質は変わりません。



したがって、人の靈的発達のこれらすべての段階は、意味も内容も同一であり、特別な秘跡、段階、靈的な道の部分の通過などの何らかのカバーの下で、すべての世界の宗教に存在していました。しかし、これについて私が言いたいことは何ですか。靈的知識は、各宗教がどのようにそれを自分たちのために利用しようと努め、規範や伝統に従って解釈しようとしても、どの宗教にも属しません。

アナスタシア： はい、そしてこれは、さまざまな民族の宗教文化における靈的知識を注意深く研究し、比較すると非常にはっきりとわかります。例として、先ほど話したキリスト教のクリスマスの秘跡を考えてみましょう。この宗教では、顔、目、耳、胸、腕、足といった体の特定の部分の聖別された世界による(正十字のしるしの形での)油注ぎは、神の恵みとの交わりの象徴と考えられています。人は「聖靈の賜物を受け取る」のです。キリスト教の宗教によれば、額(「第三の目」チャクラの近く)の十字架のサインは、思考の聖化を象徴しており、人はそれを清潔に保つ方法(スピリチュアルな思考)を知ることができます。胸の十字架のサイン(同じヒンズー教では愛のハートチャクラ「アナハタ」と呼ばれるチャクラの領域)は、人が生涯にわたって持ち続けなければならない神への愛を象徴しています。目の前(古代には「オープンチャクラ」と呼ばれていました) - 人が靈的なビジョン(あらゆる創造物における神の恵みのビジョン)を得るために。耳に - 人が靈的な言葉を聞くことができるようになります。



リグデン： ところで、古代、このプロセスについて真のスピリチュアルな知識を持っていた人々は、耳に油を塗ったのではなく、まさに私が 4 つのエッセンスについての瞑想について話したときに言及した各耳の上の点に油を塗りました。つまり、まさに耳の上の領域であり、変性意識状態においてさまざまな次元の空間で人の方向を知覚するプロセスに関与する構造が存在します。

アナスタシア： はい、かつてはすべてが熟練して行われていたことがわかりました。キリスト教における手の油注ぎ(手のチャクラがある領域)は、善行に対する別れの言葉を象徴しています。足(足の裏にもチャクラがあります) - 「神の王国」につながる精神的な道をたどる可能性。言い換えれば、油注ぎのプロセスを解釈するキリスト教の哲学にもかかわらず、プロセス自体は実際には主要なチャクラのポイントに従って実行されました。

リグデン： もちろん、油注ぎに関連する儀式に関する情報に精通していれば、古代から現代に至るまで、世界のさまざまな民族が油を注ぐ行為には、「祈り、聖別された」油を体のほぼ同じ場所に塗布するという「驚くべき類似性」、つまりある種の人間のエネルギーの関与が見出されます。ゾーン - チャクラ。たとえば、これらの儀式は、古代エジプト人、古代および現代のインドの住民、古代ヨーロッパ、ウラル山脈、シベリアの領土に住む人々の間で一般的でした。また、気配りのある人には十分です 地球上のさまざまな地域の人々が神や聖人をどのように描いているか、主要なチャクラをどのようなシンボルでマークしているか、特定の組み合わせで指がどのように接続されているかを見てください。



これらすべては、天と地の間の接続の形成、特定の神の創造と制御の方法の象徴として、一般的な概念的カテゴリーで無知な人々にのみ説明されています。しかし実際には、それらは靈的な象徴と人間の自己改善に関する実践的な知識を指しています。

たとえば、キリスト教、より正確には正統派には、「権力の中の救世主」というアイコンがあります。かつては正教会のイコノスタシスにおける中心的な位置の一つを占めていました。ルーシでは、これはちょうどその時(XIV-XV世紀)であり、祭壇の低い仕切りの代わりに、祭壇を寺院の主要部分から分離する大きな仕切り、つまりイコノスタシスを作り始めました。したがって、このアイコンには興味深い象徴性があります。



図92。アイコン「権力の救世主」

(1408年、芸術家アンドレイ・ルブレフ、国立トレチャコフ美術館、モスクワ、ロシア)の画像。



玉座に座るイエス・キリストが描かれています。彼は左手で開いた本を持ち、右手で指を折り、薬指と親指の指骨(パッド)が互いにつながる特別な動作で祝福します。特定のスピリチュアルな実践において、このような指の位置が人のエネルギー経絡の「リングに近づく」ときに使用されることはすでにご存知でしょう。

アナスタシア: はい、このジェスチャーは、人格がエネルギー構造、個人的な空間、精神世界とのつながりについての瞑想作業にどのような種類の精神的な道具を使用したかを明確に示しています。

リグデン: 古代東洋の秘密のしぐさや神聖な指定において、薬指は精神的な実践において追加の機能を実行することに加えて、条件付きで松果体（松果体、サードアイ チャクラン）の関与を示していたことはすでにお話ししました。。チャクラはサンスクリット語で「車輪」（以前は「円」、「円盤」）を意味することを思い出してください。チャクランは、人間の構造の目に見えない部分にある一種のエネルギーセンターであり、そこを通じてエネルギーの移動（エネルギー渦）が発生します。東洋では、「チャクラ」という言葉の代わりに、人の7つのエネルギーセンターを指すために「ロータス」（「パドマ」）も使用されます。ちなみに、同じスーアイズムでは、人間のエネルギー体（「ラターイフ」）の主要な（6つの）微妙なセンターを使ってスピリチュアルな仕事も同様に実践されます。「第三の目」は今でもさまざまな教えの中で「霊的な目」、透視能力のチャクラであると考えられています。



超感覚的知覚を使用すると、「第三の目」が「超越的な知識の獲得」、「精神世界への浸透」に貢献すると論文で言及されています。それは強力な影響力を持つ指揮者と考えられており、「創造行為と何かへの影響」に貢献し、過去、現在、未来の出来事を観察する可能性を開きます。東洋では「冷静さと超自然的な能力」のチャクラとも呼ばれました。このチャクラは条件付きで青(青)色でマークされていました。

アナスタシア: 確かに、薬指に関連付けられた古代の象徴性は、一見したほど単純ではありません。どういうわけか、あなたは右手または左手の薬指に指輪を着用する人間社会の伝統の起源に関する興味深い情報を共有しました。

リグデン: これは確かに古い話です。当初、薬指に指輪を着用することは、神聖な知識を教え込まれた人々の間の秘密の、純粋に慣習的なシンボルでした。リング 자체は円の中での動き、より正確には螺旋コイルの円の中での動きを意味していました。そして、象徴性は右側の交通(たとえば、正しいかぎ十字)と左側の交通(間違ったかぎ十字)に分割されました。人が右手の薬指に指輪をしている場合、これは光の力の信奉者、つまり唯一の神に向かう、永遠に向かう人の動きを意味します。このシンボルは、その人が精神的な道のみを選択し、知識を所有していることを条件付きで証明しました。人が左手の薬指に指輪をしている場合、これは人の動きを意味します。反対の方向(物質的な精神に向かって)では、闇の勢力の信奉者(これに対応する知識を彼が所有している)であり、動物の精神の意志に奉仕しています。



つまり、特定の手に指輪をしているかどうかの違いは、献身的な人々にとって、その所有者がどのような力で誰の意志に仕えているかという条件の違いでした。

そして、まさに「薬指」(名前のない指)という名前は偶然ではなく、前述の環境における特定の知識から来ています。古代と同じように、今でも神の御名は人々にとって謎のままです。神の本当の名前は、さまざまな宗教の司祭によってこれについて数多くの憶測がなされたにもかかわらず、今日に至るまで人々に明らかにされていません。なぜ? 発音できない神の名前が、自然のすべての力、宇宙のすべての次元(「レベル」)を制御できるという伝説が残っています。さて、原則として、この情報には、聖杯など、時代によって呼び方が異なる原音に関する伝説に基づいて編集された司祭からの付録が付属しています。それで、このあとがきには次のように書かれています。伝えられるところによると、「神の名前」(伝説では元々は「原音」でした)を正しく発音する方法を知っている人は、「望むことはすべて神に求めることができる」ということです。これまで、誰かが秘密の名前で神を呼ぶと、神の注意を自分に引き寄せることができるという伝説が保存されてきました。でも、たいていそういう願望を持って 精神的に未熟な人は燃えます。自分の中に神とともに生きている人々にとって、その必要はありません。彼らは自分の魂の中に神を見つけ、神の中に住んでいます。そして、精神的に未熟な人々は、その御名を知ることに飢えており、さらに、すべてのもの、すべての人に対する自分自身の動物的な力を渴望しています。しかし、彼らは、未熟な果物として、これが致命的であることを理解していません。



人間の中にある動物的な性質が優勢であるために人間の認識が狭くなると、神の理解を特定の物質的な対象に限定し、人間が自分自身を三次元で見るのと同じになります。祭司たちは神をさまざまな「名前」と呼び、自分たちで特定の宗教を作り出しました。さらに、彼らは依然として人々に、自分たちの宗教の優位性と神の「名」、競合する宗教に対する優位性、したがって「名」で語る唯一の権利をめぐって、互いに争ったり、争ったりすることを強いています。神の。異なる形容詞のせいで、祭司たちの意図的に異なる解釈のおかげで、人々は異なる最高神がいると誤って信じています。しかし、今日の神のさまざまな「名前」はすべて、実際には、禁じられた神の名前ではなく、古代に唯一のものを示したすべての形容詞です。

アナスタシア：あなたの言う通りです。これは誰でも納得できます。さまざまな宗教で神の名を意味する言葉の起源と元の意味をたどれば十分です。

リグデン：もちろん、賢い人であれば、比較した上で、宗教における神のさまざまな「名前」は、唯一なる神の形容詞にすぎないことを理解するでしょう。たとえば、古代エジプト人の最高神の名前であるオシリスについて考えてみましょう。この「名前」は、エジプトの名前ウシルのギリシャ語形です。つまり、ギリシャ語の「オシリス」は、「頂点に立つ者」を意味するエジプト語の「ウシル」に由来しています。あるいは、たとえば、預言者ザラトゥシュトラが唯一の神として宣言したゾロアスター教のアフラ・マズダ(後のオルマズド、オルムズド)というアヴェスタンの神の名前は何を意味するのでしょうか?ちなみに、預言者は当初、アフラ・マズダの名前は、人々の間では誰も知らない禁断の神の名前の単なる置き換えであると述べました。



この神は宗教暦にも「無名」と記されていました。アヴェスタン語の「アフラ・マツダ」は「賢明な主」、「思考の主」と訳されています。アヴェスタン語の「maz-dā」も「記憶に留めておく」という意味です。したがって、この「名前」は、アーリア人(インド・イラン人)のルーツを持つ 2 つの古代イラン語から形成されています。「アフラ」はサンスクリット語の「アスラ」(統治者)に対応し、「マツダ」はインドの「メーダー」、つまり「知恵、理解」に対応します。

ところで、実際のところ、人々は一つの単純な真実、つまり知恵とは実際には何なのかを忘れていました。これは決して獲得した本の知識、人生経験、優れた頭脳、洗練された思考論理などではありません。さまざまな民族の間の古代の伝統では、「知恵」はもともと人の精神的な成長中に天から与えられた贈り物(官能的な高揚感、洞察力)であり、その贈り物の助けを借りて、より高い悟り、全知、全知の状態が達成されました。ゾロアスター教において、アフラ・マズダーが長年にわたって粘り強い精神的探求を続けた後にのみ、「善なる思考」のおかげで預言者ザラスシュトラに自分自身を現したと述べられているのは偶然ではありません。「預言者は尋ねました、そして神は答えて神の知恵を彼に教えました」、つまり彼は「知恵と理解を与える人」でした。

つまり、祭司たちは形容詞から唯一の神の「名前」を形成したのです。そして、どの宗教でも、どのようなものを取り上げても、神のすべての「名前」は形容詞です。「救い主なる神」、「知られている神」、「価値のある」、「包括的な」、「すべてに浸透している」、「輝かしい」、「「覚醒」、「ベーシック」、「聖なる力」、「幸福をもたらす者」、「インビジブル」など。



これは、私が神のさまざまな「名前」(そして実際には形容詞)の言葉の意味論的な原始的指定をどのように呼んでいるのかであり、それらは現在、さまざまな世界の人気宗教の会員である多くの人々に知られています。言い換えれば、現在表面に存在し、この問題に興味がある人なら誰でも入手できる情報です。私が話しているのは、古代の宗教や信仰の同様の形容詞からこれらの言葉を借用した、より古いルーツについて話しているではありません。古代に人気があったことを裏付ける考古学的遺物が手元にあるにもかかわらず、今では誰も覚えていません。しかし最終的には、これらすべての「歴史的形容詞」は、ステップのように、すべての人々に共通する原言語における唯一の最初の指定につながり、言語学者は現在理論的にそれに近づいているところです。

アナスタシア：はい、辛くて面白いですね。社会の人々が、同じ「ワン・フォー・オール」の形容詞を求めて互いに敵対し、争い、議論していることがわかりました。

リグデン： 残念ながらすべての人々、人類全体にとっての単一の精神的な本質さえ理解していません。だからこそ、人間の本性を知って、すでに述べたように、最初は神の名前ではなく、「永遠なる(より高い)者」という概念を象徴する「ラー」という音で人々にその称号が与えられました。)」。そのため、古代からこの知識に入門した人々の間での従来の神の呼称でさえ、神の名前を示すことはありませんでした(ちなみに、これは薬指にも当てはまります)。それはずっと後になって、祭司によって煽られて社会で人々の間の争いが始まり、さまざまな解釈が現れ、「自国」の神と「外国」の神に分かれるなど、

最終的には原始的な知識の喪失につながります。しかし、これらはすべて人間のことです。



さて、指輪の話に戻ります。最初のリングはシンプルでスムーズでした。ちなみに、イニシエートが使用していたこのような指輪は、以前はエネルギー情報の保存装置としてクリスタルのみから作られていました。

アナスタシア: つまり、素粒子（原子、イオン、分子）が空間面と結晶格子の幾何学的法則に従って配置されている天然物質であり、基本的に幾何学的に規則的な形状と構造（すでに述べたものと同じ多面体）を持っています。会話の中で）。一般に、これは二次元ではなく三次元空間の同じ記号であると言えます。そこでは、外部の形状は素粒子の内部配置の対称性、したがって、エネルギーの分布を反映しています。それらを形成します。

リグデン: もちろんです。そしてその後、人々が知識を失い始めたとき、彼らは硬い岩、木、骨を使ってそのような指輪を作り始めました。ずっと後になって、それらは金属で作られ始めました。 したがって、古代の秘密結社の最初の指輪は単純で、唯一の違いは、左右どちらの手に着用されるかでした。しかし、彼らが言うように、一般の人々の間で修練者の属性に関する情報の漏洩と模倣があった後、社会では本質を理解することなく、さまざまな金属で指輪を作り、さまざまな指に指輪が一斉に着用され始めました。宝石などで装飾します。それから、修練者たちは、社会サークルに理解できる特定の記号、シンボルをリングに描き始めました。



たとえば、光の勢力に属する人は、右手の薬指に、尾を噛む蛇の形をした指輪をはめており、その頭は時計回りにありました。そして左手の薬指には闇の勢力の信者。彼の指輪では、蛇の頭は逆に反時計回りでした。しかし、これも長くは続きませんでした。

すぐに、人間による知識の模倣と歪曲により、指輪を着用するなどの慣習は、原初の知識に関わっていた人々にとってその意味を失いました。しかし、人々の間には、装飾品または特権のしるしとして指輪を着用する伝統が残っていました。彼らがお互いに自慢することを実践しなかったとたんに、人を病気、不幸から守り、「力を与える」とされる「超魔法の指輪」の発明から始まり、金持ちの指輪の形をした社会的不平等の象徴で終わりました。男性は「名誉市民」。一般に、すべてはいつものように、人間の誇りをゼロから作ります。

アナスタシア: 薬指と指輪に関する話題に関連して、もう1つの興味深い質問を取り上げたいと思います。あなたはかつて、「神の指」という表現がどこから来たのか、そして実際に「指輪」という概念がそこから形成されたのかについて話しました。

リグデン: はい、古スラブ語で「финガー」という言葉は「指」を意味します。そして、以前は「指」は右手の薬指と呼ばれていました。これまで、カザフ人などの一部の民族には、古代の信仰に関連した習慣がありました。

新生児に最初に母親の乳房ではなく薬指を吸わせて、赤ちゃんが善良で親切で靈的な人に成長するようにするためです。



これは、人間の解釈ではありますが、薬指の条件付きの象徴性に関する前述の知識のエコーにすぎません。現在、指輪を着用することは単なるファッショングであり伝統であり、たとえば、結婚指輪を左手または右手の薬指にはめます(国によって異なります)。しかし同時に、かつて人々が持っていた知識の残響を見つけることもできます。同じ正教会では、結婚式中に新婚夫婦が右手の薬指にはめる指輪は、今でも永遠のしるしと、王冠と精神世界が切り離せないことを意味します。

アナスタシア: ほとんどの人は、自分たちが守るさまざまな伝統がなぜ存在するのか、そのルーツがどこから生えているのかについてさえ考えません。しかし、そのような詳細を理解すると、他の情報もより理解できるようになります。たとえば、彫刻や神々の像において、この指と別の指の接続は何を意味するのでしょうか。これには、瞑想テクニックの条件付きの表示も含まれます。

リグデン: 指の位置については。瞑想的な機能によれば、薬指が精神的なビジョン、知識、超能力を象徴する場合、親指はその人自身の力の潜在的なエネルギーを象徴します。特に、親指は、チャクランが瞑想に関与していることを示しており、暫定的に下腹部、骨盤帯の内側、尾骨と恥骨結合の間の位置に位置していました。



外見上、それは条件付きで会陰にいる人の図に描かれています。しかし、これは単なる条件付きです。なぜなら、私たちは肉体についてではなく、人のエネルギー体について話しているからです。



図93。インドのムラダーラ チャクラの概略図。

ちなみに、インドではこのチャクランを「ムーラーダーラ」と呼んでいます（「ムーラーダーラ」はサンスクリット語から来た言葉で、ロシア語転写で「ムーラ」は「根、基礎」を意味し、「アドラー」は「基礎、基盤、サポート」）。人間の潜在的なエネルギーの目覚めもこのチャクランに関連しています。伝統的には赤色でマークされていました。

東洋におけるこの強力なエネルギーの可能性の目覚めは、「3回転半にとぐろを巻いて眠っているクンダリーニ蛇の目覚め」と呼ばれています。スパイラル構造については、すでに何度か言及しました。古代以来、この力は神聖な力（アラット）の女性的な側面と考えられており、その後のキリスト教ではその性質の一部が聖靈によるものであると考えられ始めました。それは、いかなる肉体的な感覚や荒々しいエネルギーの現れとも比較することさえできない、強力で創造的な精神的な愛の力を人の中に目覚めさせることに貢献しました。



インドでは、このチャクランはブラフマンの器と同一視されることが多く、このエネルギーセンターに含まれる力はすべての人に、睡眠状態にのみ備わっていると信じられていました。この力は、人が自分自身に取り組み、動物的な性質を飼いならし、自分の中の靈的な性質を優位にしようと努力するときにのみ目覚めます。キリスト教では、禁欲主義者(ギリシャ語の「アセスシス」-「運動、練習」)の精神的発達のこの段階は、冷静な状態の達成と呼ばれます。つまり、情熱や欲望の作用から外れた状態、美德の道における邪悪な思考や行為の拒否、心の純粋な状態です。自分自身に対するこの内なる取り組みがなければ、どんなスピリチュアルなツールも適切な結果をもたらすことはできません。

東洋におけるクンダリーニの覚醒の結果は、人間の意識の質的変化、靈的な目覚め、真理の直観的な理解と考えられています。そしてキリスト教では、この段階はすでに無感情の状態そのものと呼ばれており、「精神が超感覚的な領域に入り」、到達した人は「知識の地に移され、そこで精神は神の住まう靈の中に住んでいる」。東洋では、これは人格の変容、つまりクンダリーニのエネルギーが脊椎の基部から頭の中心を通して最高点まで上昇し、神聖なるものと融合するための非常に強力な推進力であると考えられています。意識が「一なるもの」と融合し、その状態が継続すると「解放」が起こります。

同じキリスト教では、より高い靈的状態の達成は「善」と呼ばれ、聖靈の個人的な財産として善が関与する運動において、普遍的な価値、人の願望の究極の限界と見なされます。



1



2

図94。最高の解放状態を達成するための主要なチャクラのシンボル:

- 1) 7つのチャクラを持つ蓮華座にいる人の現代の伝統的な図式的名称。
- 2) トリピリアの儀式用水差しに描かれた精神的解放の状態の達成の概略図。女性の手の位置は、第1チャクラと第7チャクラのループを示しています。

さらに、常人の感覚では理解できず、想像力も及ばず、いかなる論理的思考も超えたこの特殊な状態は「心に含まれない」ことが明らかになった。言い換えれば、それは、思考や想像力の不在下で、深い感情(普通の人には分からぬ「第六感」)の助けだけを借りて、意識が変性状態になり、自分自身にスピリチュアルに取り組むことによってのみ達成できるのです。神は不变、永遠、不滅の「最大の善」であり、力と知恵を含んでいると信じられています。すべての人間の魂が熱望するのはこの善です。



実際、これは人の質的な変化であり、そのエネルギーの性質が、人間の理解では角の一つに立っているエネルギー立方体に似た形に変化することです。

アナスタシア: はい、これは神の力とその人自身の潜在的なエネルギーを結びつける象徴として、薬指と親指を結ぶジェスチャーです。神の子であるイエス・キリスト自身からも、まさに本物のジェスチャーです。人類を祝福すること。

リグデン: さらに、「力の中の救世主」というアイコンには、幾何学的な図形を背景にキリストが描かれています。特に、背景には赤い広場があり、その角には翼のある人間、ライオン、子牛、鷲がいます。

アナスタシア: つまり、赤い四角を背景にした 4 つのエッセンスのシンボルです。

リグデン: はい。現在、キリスト教では、これらの像(四形体)は伝道者(それぞれ、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)の象徴として解釈されています。そのような聖職者の解釈により、現在ではこれらのシンボルの本質とその起源について知る人はほとんどいません。しかし、この世界宗教の「群れ」にとって、彼らは次のように説明されます:マタイは翼のある男のイメージです。彼は徴税人だったので、彼のイメージは通常、多額のお金、槍、剣。で描かれています。

アナスタシア: そうですね、人のイメージは人間の本性と欲望の象徴であり、4 つのエッセンスに関する知識の文脈における古代東洋の人々による背後エッセンスの伝統的な寓意的解釈です。



図95。カロリング朝写本の挿絵の概略図

(9世紀、フランス、ヴァランシエンヌ図書館で発見): 神秘的な子羊(中央)、本を持った4匹の「黙示録的な獣」。

リグデン: 全くその通りですが、これを長い間覚えている人がいないだけです。さらに、マルコの象徴は百獣の王ライオンです。ルカの象徴は翼のある雄牛であり、雄牛 자체が犠牲の動物として見なされます。

アナスタシア: つまり、原インディアン文明では雄牛は動物の性質を意味し、ほとんどの古代の人々の間では、人間の正しい本質の特徴を意味していたのですね。そして、人間が最も知的で権力に飢えた左派の本質、すなわち動物的性質の支援を飼い慣らした象徴として、ライオンとの闘争とライオンに対する勝利に、どれほど多くの古代東洋の物語が捧げられていることでしょうか!



リグデン： そうですね、明白なことを理解すれば、すべてはとても簡単です。しかし、ジョンのシンボルは鷲です。しかし、当初、4つのエッセンスに関する知識の文脈では、別の鳥がいました。実際、司祭たちが新しい宗教のプロットをコピーした一次資料に従うなら、ここにはハヤブサが描かれているはずです。エジプト人を含む多くの古代の人々にとって、鳥（ハヤブサ）は前エッセンスの象徴的な指定でした。ワシはすでに祭司たちが他の人々から借用した情報に組み込まれています。しかし、それはまた別の話題です。

したがって、注目に値するのは、正統派のアイコン「権力の救世主」のプロットです。これらすべての「動物のような生き物」は本を持っており、立方体から放射される光線の形をした斜めの十字という秘密のパターンの端にシンボルとして配置されています。後者は象徴的にひし形として描かれています。一般に、図では、青（緑）の楕円が赤い正方形に重ねられ、その上に赤いひし形があります（正方形からひし形への変換、つまり、正方形の形成の象徴として）立方体を角の1つに置きます）。

アナスタシア： すごいですね、等角図法の平面上の立方体は正六角形で、その各面はひし形ですからね。それはすべて、見方次第です。

リグデン： まさにその通りです。この場合、より正確に言うと、すべては正確に誰が見ているかによって決まります。したがって、赤い立方体を背景にしたアイコンでは、イエスが玉座に座っています。さらに、彼の足の片方はこの立方体の角を踏み、もう片方の足は青い楕円形の中にあります。



後者はキリスト教では「アーモンド型の後光」、「魚の泡」とも呼ばれ、キリストの復活と変容の際にキリストを取り囲む神の力の象徴と考えられています。この青(緑)の楕円形には、天の階層の象徴としてセラフィム(本来は赤)、ケルビム(本来は青)が描かれています。そしてそれぞれが6枚の翼に囲まれた顔として描かれています!

「大シギル偶像」の次元を象徴するマスク(人間の顔の模式図)を思い出してください。そして、このような従来の別の次元の指定は、シギル文化(紀元前5～4千年紀、中部ウラル山脈とトランスク・ウラル山脈、現代ロシア)だけでなく、南シベリアのオクネフ文化(紀元前2千年紀)の特徴でもありました。キリスト教や今日知られている世界宗教が台頭するずっと前の他の古代文化。ちなみに、オクネフ文化には、円、螺旋、三角形の形の標識やシンボル、さらには擬人化された様式化された人物、ハヤブサのイメージ、女性の女神、象徴的な精神的な兆候(アラート)が非常に豊富です。このような呼称は古代世界では非常に一般的でした。

さて、アイコン「フォースの救世主」についての会話に戻ります。キリスト教における赤と青の色の組み合わせは、イエス・キリストの人間性と神性の組み合わせとしても見られています。そして、キリストの像自体は、目に見える世界と目に見えない世界の主として、人々に対するキリストの新たな将来の啓示の象徴であり、不可知性と受肉の象徴です。



図96 アイコン「権力の救世主」

(1408年、芸術家アンドレイ・ルブレフ)のシンボルのレイアウト:

- 1) ライオン。
- 2) 青(緑)の楕円形(球)。
- 3) キリストが裁判官として座っている玉座。
- 4) 祝福のジェスチャー - 右手の指輪と親指の接続。
- 5) 翼のある男。
- 6) 金のローブを着たイエス・キリスト。
- 7) ワシ。
- 8) セラフィム、ケルビム。
- 9) 本を開く。
- 10) 赤いひし形。
- 11) 青(緑)の楕円が内接する赤い正方形。
- 12) 雄牛。
- 13) キリストの足は赤いひし形の角を踏みます。



アナスタシア： はい、これは知識のある人々の象徴として素晴らしいアイコンです。 4つのエッセンスを備えた地上の象徴としての正方形、角の1つに配置された立方体の象徴としての菱形、つまり精神的な変革と人間の解放の象徴である7次元。橢円形は、人とそのエッセンスの間の個人的なエネルギー空間の指定であり、他の世界(次元)とのつながりです。キリストは赤いひし形の中に、つまり7次元の楽園、「第7の天国」において、右手のこのような重要なジェスチャーで祝福さえしています! はい、神への道には、人とその靈的能力に関する基本的な知識がすべてあります。もう一つ確認します。知識を所有すると、過去の人々によって記録された情報の重要な本質が成熟して理解されます。

リグデン： 基本的に、この知識を伝達する方法は古代から使用されてきました。また、そのようないわば基礎知識は、原則として目に見えるところに置かれていました。この知識が常に存在していたことを理解するには、生活の中で私たちを取り囲む兆候やシンボル、伝統的な宗教的イメージ、または世界の人々の芸術の歴史を調べるだけで十分です。

アナスタシア： おっしゃるとおりです。私の知る限り、14世紀の「権力の救世主」というイコンは、今でもモスクワ・クレムリンの受胎告知大聖堂のイコノスタシスの中心に位置しています。しかし問題は、誰がそれを見るのかということです。キリスト教では、「力ある救世主」は複雑な神学的概念を象徴しており、キリストは時の終わりに、「最後の審判」と来るべき宇宙の変革のために、その力と栄光を最大限に尽くして現れるという。

世界に対する神の摂理の実現として、「地上と天上のすべてをキリストの頭の下に統合するために」。



リグデン: このイコンは象徴主義における一種の論文、イコン絵画の言語における未来の予言であると考えられています。

アナスタシア: この本に特別な重点が置かれているのは興味深いですね!再臨の間、開かれた本はキリストによって保持され、すべての動物の姿はその本によって保たれます。これは福音を意味するのでしょうか、それともこのシンボルはある種の一般的な寓意的な意味を示しているのでしょうか?キリスト教では、初期の頃から、イエス・キリストが本の形で象徴的に描かれ、その上に聖靈の現れとして鳩が降りてきたことを私は知っています。また、なぜ聖書の中でキジバトが頻繁に登場するのかにも興味がありました。ハトとは異なり、サイズが小さく、渡り鳥に属することが判明しました。キジバトは早春にパレスチナに現れました。彼女は先駆者であり、純粋な鳥であると考えられていました。

リグデン: それは本当です。さらに言っておきますが、初期キリスト教では、聖靈は正確に白い鳩(後に鳩)の形で描かれていましたが、鳩ではありませんでした。彼女は神の愛、創造的な女性原理、万物の始母(アラット)の象徴であったため。そしてこれは、神の三位一体が父、母、子として描かれたさらに古い知識と結びついています。たとえば、そのような三つ組は古代エジプトにありました:オシリス、イシス-ゴル。その後、キリスト教では、主に受胎告知(大天使ガブリエルと聖母マリアの陰謀を描くという文脈で)とキリストの洗礼の絵画に鳩(他の画像では鳩)が描かれ始めました。



本に関しては、あなたの言う通りです。重点はまさに、本そのものが存在し、公開された形式、つまり読むことができるという事実に置かれています。キリスト教文化では、この本の象徴性は非常に意味があり、深いものであるため、誰もが一般に受け入れられている規範に基づいて描きました。それは良い知らせかもしれないし、救われた者の名前が記された命の書かもしれないし、キリストの再臨の預言についての默示録かもしれない。ちなみに、後者には、小羊以外の誰も開いて読むことができない7つの封印で封印され、「内側と外側」に書かれた本についての物語があります。玉座の周りには守護者など4匹ほどの動物もいます。

アナスタシア： この話題に近い読者の皆さん、「默示録」のどこにこの本と4匹の動物に関する物語が正確に記載されているか思い出してください。

リグデン： 聖書で言えば、ヨハネの默示録の4章以降です。たとえば、第4章には次のような行があります。そして、最初の動物はライオンのようで、二番目の動物は子牛のようで、三番目の動物は人間のような顔をし、四番目の動物は空飛ぶワシのようでした。そして、4匹の動物にはそれぞれ6枚の羽があり、その中には目がいっぱいありました。」しかし、第5章では、その書について次のように書かれています。



そして、私は力強い天使が大声で宣言するのを見ました：誰がこの本を開いて封印を解くのにふさわしいでしょうか？そして、天にも地にも地の下にも、誰もこの本を開いたり、覗いたりすることはできませんでした。そして私が見た、そして見よ、玉座と四匹の生き物とその中にありました。長老たちの真ん中には、全地に遣わされた神の七つの靈である七つの角と七つの目を持った、屠られたままの小羊が立っていた。そしてイエスはやって来て、玉座に座っておられるイエスの右手から本を取り上げました。そしてイエスがその本を手に取ると、四匹の生き物と二十四人の長老たちが小羊の前にひれ伏し、それぞれがハープと、聖徒たちの祈りである香の入った金の杯を持っていました。そして彼らは新しい歌を歌い、こう言います。「あなたはその本を手に取り、その封印を解くのにふさわしい人です。あなたは殺され、あなたの血によって私たちをあらゆる部族、言語、民族、国家から神に救い出し、私たちを造ってくださったのです」王と祭司は私たちの神に。そして私たちは地上を統治するでしょう。そして、私は王座の周りの多くの天使と動物と長老たちの声を見聞きしました、そしてその数は一万と千でした、「力と富と知恵と力と名誉と栄光と祝福を受けるために屠られた小羊こそがふさわしいのです」と大声で言いました。そして、天にあるすべての生き物、地にあるもの、地の下にあるもの、海にあるもの、そしてその中にいるすべてのものたちがこう言うのを私は聞いた、「玉座に座っておられる方と小羊に、祝福と誉れと栄光と支配は永遠に。すると四匹の動物は「アーメン」と言った。そして二十四人の長老たちはひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝んだ。」

アナスタシア： はい、今、これらのセリフは、起こっていることの本質をより深く理解するという、まったく異なる観点から本当に聞こえます！



リグデン: 一般的に、私はかつてこれについて話しましたが、神聖な象徴主義における神聖な本は、世界に現れた神の言葉（創造の音）の指定である神聖なシンボルの記録と考えられています。たとえば、古代エジプト人はヒエログリフを神聖な記号と考え、概念全体を暗示し、場合によっては個々の音を暗示しました。その後、簡略化された文字が登場し、宗教だけでなく世俗の文書でも使用され始めました。

たとえば、さまざまな言語の現代文字とは何でしょうか？実際、これらは人々が発明した従来の標識です。それらの異なる組み合わせは、さまざまな情報を理解するための一種の条件付きコードです。さらに、従来の記号自体は中立です。しかし、さまざまな組み合わせによって、従来の標識でさえ、特定の勢力と意志の行動と行動のための一種の情報ポータルの一部になります。しかし、これらすべては、人がこのコードを読むことによって情報空間に自分の力（注意、意識）を適用したときにのみ、情報空間が活性化され、機能し始めるとしましょう。たとえば、人が閉じた本を見て、そこに何が書かれているかわからないとき、その従来の兆候は中立の状態にあります。しかし、彼が読み始めるとすぐに（彼がこれらの従来の記号を理解していれば）、これはこの情報空間を活性化するための最初の力の適用です。

しかし、現時点で人の中で何が支配しているのか、そしてこの応用力が何であるのか、つまりその起源の性質が何であるのかが非常に重要です。たとえば、ある人は現代の本、優れたフィクションを読みます。しかし現時点では、彼の中では動物的な性質（利己心、怒り、憎しみなど）が支配的です。



したがって、たとえ良い本を読んでも、その内容は彼をイラさせ、怒り、笑わせ、「原始的」な誇大妄想を楽しませ、羨望と憤りを引き起こすでしょう。彼はその中で自分のプライドを満たす瞬間を選ぶでしょう。言い換えれば、この本で規定されている従来の兆候は、その瞬間に人の中に広がる力、つまり動物の性質からのプログラムを遂行する意志のより大きな活性化に貢献するでしょう。そして、現時点で靈的な性質が人の中で優勢であれば、その人には別の側面が開かれるでしょう。彼は情報で豊かになるだけでなく、それを成熟して理解できるようになり、特定の物事の起源の認識を発見するかもしれません。著者自身によって起動されたシンボルコードを通じて、著者自身によって投入された力の源。

アナスタシア：つまり、同じ本ですが、彼らが言うように、魂の中にある神の愛を持って読むと、そこに含まれる情報を偏見なく認識し、本質を理解し、その起源を感じ、認識することができます。。言い換えれば、本は情報の条件コードであり、その認識はその人自身の支配的な選択に依存します。

リグデン：そうですね。本の中のこれらの条件付き情報コード（単語、文章）は、他の人々によって適用され、その固定（本の執筆）中に何らかの力が支配しました（または、より正確に言えば、精神世界からの意志が支配しました）、または動物の心から）。これらの条件コード、たとえば本が書かれている言語を知らない人は、当然、それを読むことができません。しかし、もし彼がそれを知っていて、それに応じてそれらを活性化すれば、彼は次のように感じるでしょう。

この活性化の作用、つまり、この意志の力が彼に与える影響です。



アナスタシア: つまり、動物的な性質があなたの中で支配的であれば、スピリチュアルな論文を読んでいるときでさえ、最も重要なことを見逃してしまい、その瞬間の意識が狭くなっているためにすべてを否定し、何も理解できないでしょう。そして、スピリチュアルな性質があなたの中で優勢であれば、どんな本でも世界の認識が拡張された状態で知覚できるようになり、「小麦ともみがら」を区別することが容易になり、作家の主な動機を理解することができます。そこに何が投資され、どのような目的で行われたのか。

リグデン: はい、つまり、スピリチュアルな性質が意識の中で支配的になるとき(したがって、深い感情の助けを借りて世界の認識が拡大するとき)、あなたは真の本質を理解し始め、知恵を得るでしょう。そして知恵を通して知識が生まれます。知識は象徴的なコードのようなもので、それが活性化されると、精神的な性質が人格の変容だけでなく、その周囲の世界の条件も形成します。したがって、本とその中にエンコードされた情報は、実際には(精神世界から、または動物の心からの)意志の指揮者です。情報コードは交換情報を指し、人がそれを活性化してその力と共に鳴るまでは中立です。これらの従来の文字記号は人々によって発明されました。それらを、外部からこの世界にもたらされた元のアクティブに機能するサインと混同しないでください。これらは完全に異なる概念であり、異なるサインです。

アナスタシア: もともとのサインのことですか？



リグデン： まさにその通りです。私が言っているのは、まさに人間社会にまだ存在する、元の 18 の作用サインのことです。9 つのポジティブで創造的なサイン（精神世界から持ち込まれた）と 9 つのネガティブな作用サイン（動物の心から持ち込まれた）です。これらの兆候は、人やその支配的な願望や力に関係なく活動します。彼らは独自に活動します。つまり、彼らは力を与えられており、周囲の目に見える世界と目に見えない世界、そして6次元の人間の複雑な構造全体と相互作用します。

アナ斯塔シア： はい、この情報については深く考える必要があります。

リグデン： 「力の救世主」のアイコンのシンボルに記録された情報に関して言えば、ルースでは同じ知識が後に生神女たちの「バーニング・ブッシュ」のアイコンのイメージを通して広まりました。したがって、主な幾何学的な詳細に関するこのアイコンの象徴的寓意的な構成は、実質的に「力の救世主」を繰り返しています。つまり、赤い四角形（動物のような黙示録的なイメージで男性、ライオン、子牛、鷲の4人の伝道者が描かれています）、斜めの十字架、隠れた橢円形、ひし形（聖母の像が刻まれており、ひし形の中に6人の天使が描かれています）。一般的に、すべてはあるべき姿です。説明では、幾何学的要素のみが異なる名前で付けられています。たとえば、2つの四芒星が上下に重なったもの（合計 8 つの頂点）、または下側の梁が切り取られた 8 芒星などです。さらに、菱形は原則として緑または青（青）で、その下の正方形は当然のことながら赤です。



図97 生神女のイコン「燃える茂み」の画像

(16世紀末、ソロヴェツキー修道院の変容大聖堂のイコノスタシスの地元の列より、モスクワ博物館保護区「コロメンスクエ」、ロシア)。

構図の中心には、左手に幼子キリストを抱き、右手にはしごを持った神の母がいます(そのようなアイコンでは、はしごが神の母の肩に触れることもあれば、神の母の肩の代わりに触れる場合もあります)はしごは救い主の象徴として門と杖を描きます)、これらすべては、神の母が人類を「地球から天国まで」靈的に高めることを象徴しています。このアイコンには、画像の中に、福音のシンボルであるユリの枝を持つ大天使ガブリエルもいます。



アナスタシア: はい、このイコンは美術史家にはよく知られています。たとえば、ソロヴェツキーの変容大聖堂のイコノスタシスの地元の列に由来する、生神女のイコン「燃える茂み」の16世紀の描写からです。修道院。はい、多くの人がそれについて知っています。ほとんどすべての正教会の家族にはこのタイプのアイコンがあります。このような象徴的な詳細に注目したのは人々の中で誰だけでしょうか?結局のところ、誰に尋ねても、多くの人はこのアイコンを「火事から家を守るもの」として知っています。せいぜい彼らは、このアイコンの書き方が「モーセが民をエジプトから連れ出す決意をしたときのこと」または「神がモーセに呼びかけた耐火性のとげの茂みについて」の聖書の物語に基づいていると言うだけでしょう。好奇心から、火で燃えるものと燃えないものを見に行きました。

リグデン(笑): 人々の言葉は面白いですが、その本質は真実です!司祭たちは常に好奇心と羨望に悩まされてきました。真の靈的存在におけるこれほど多くの神の力はどこから来るのでしょうか。神の母モーセと火災との関係は何だと思いますか?

アナスタシア: ご存知のとおり、この「つながり」全体が人工的に作られたように感じます。本質的に言えば、神の母は、すべての靈的な兆候から判断して、この数千年にわたって彼女のイメージを通して世界でどれほど多くの奇跡が起こったかから判断すると、これはまさに力の中の救世主です。

リグデン: その通りです。生神女のイコン「燃える茂み」は、聖職者のこれらすべての事柄とは何の関係もありません。



そしてルーシでは、彼らはそれを「クピナ」(とげ、茂み)という言葉からではなく、「接続」、「高さ」、「何かのセット」を意味する古スラブ語の「クパ」から呼び始めました。そして、彼女が火事からの保護の信念に関連付けられていたという事実は、あなたが正しく指摘したように、今では彼女の奇跡で有名になり、彼女はどの家にも立っています。しかし、そのような「開かれていない形」であっても、それを通じて知識が大多数に届いたことはさらに重要です。そして彼らは今、そしてこれが重要なのです！

「燃える茂み」が聖霊による神の母による無原罪懐胎の象徴と関連付けられているのは偶然ではありません。これは私があなたに話したもののが単なる象徴です。神の母は、霊的な道を歩むすべての人にとって神の力の指揮者であり、これは神の愛の力であり、その助けによって人の魂は地上の輪廻から解放されます。イエスは、別の世界から来た霊的なエッセンスとして、何世紀にもわたって失われた真の知識を新たにし、人々に霊的な救いのための霊的な道具を与えました。つまり、彼は鍵を置いていったのです。これらのツールの助けを借りて自分自身に取り組むことで、人は比喩的に言えば、記号の鍵を獲得しました。そして神の母に、神の力の指揮者として、人間の魂の霊的解放のために世界の間にある霊的に解放された存在として、神は力とするしそのものを与えました。そして、熱意、精神的に探求する自分自身への取り組み、そして神の母(アラット)の力の組み合わせによってのみ、人格は魂と融合しました、つまり、人は自分の魂、つまり7次元の解放を達成しました。のように キリスト教は「楽園」「父と子の王国」と言われます。そして、そのしるしが活動するかどうか、その人が神へと導くこの神聖な力を受けるに値するかどうかは、その人の選択にのみ依存していました。



キーは使用するために与えられます。そして、その鍵を使用するには、それに努力を費やす必要があります。これは靈的な人の道であり、神の創造力と組み合わせてのみ解放につながる、不燃性の靈的冷静さの道です。そしてこれはキリスト教だけでなく他の宗教でも知られています。これは、人々が神とその子、そして神の母(偉大な母)を別の方法で呼んでいた古代に知られていました。結局のところ、重要なのは、精神からの聖職者の概念やその形容ではなく、彼らのすべての宗教が基づいている同じ精神的な粒子にあります。簡単な例を挙げます。すでに述べたように、つい最近まで、古代エジプトに端を発した女神イシスの崇拜は、東洋と西洋のさまざまな人々の間で広く普及していました。ちなみに、古代エジプトの芸術、今日まで建物、古代寺院の絵画、彫刻像に残っているそのサンプルに注意を払うだけで十分です。そして、世界の他の場所と同じように、スピリチュアルな知識の基本を伝達するシンボルを見ることができます。アラトラの作業サイン、蓮、円、立方体、ひし形、ピラミッド、十字、正方形、4つのエッセンスの象徴的なイメージ。つまり、女神イシスへの崇拜はローマ帝国の時代を含めて1000年以上続いたのです。そして、その人気の本当の理由は何なのでしょうか?アクティブなサインでは、今日神の母のカルトの助けを借りて配布されているのと同じように、

当時女神イシスのカルトの助けを借りて配布されたアラトラサイン。原初の知識の大部分は長い間失われていますが、シンボルや記号は残っています。



アナスタシア： はい、「偉大なる母」としてのイシスは、すでに述べたように、頭の上にアラトラのサインを乗せて描かれることがよくありました。その形状は、角を立てたボウル型の三日月の形で、その上に、木の凸面のように描かれていました。パール、サークルがあります。

リグデン： この記号は、この力が宇宙のすべてを創造したものに属することを示しています。すでに述べましたが、かつて人々は「至高の者」(永遠なる者)の概念を「ラー」という音で表していました。その後、神権の誕生とともに、そこからラーという名前の神が現れました。伝説によれば、この神は世界の海から湧き出た蓮の花から生まれました。偉大な女神（さまざまな形容詞で呼ばれたが、後に名前に変化した）は当初、ラー（永遠なる者）の指揮力として機能しました。古代エジプトでそのようなしるしを持っていたのは、イシスのほかに、さまざまな時期に女神ハトホル（太陽ラーの娘、彼女の名前は「天国の家」を意味する）、女神イウサット（彼女の名前は「創造的な手」を意味する）であった。「神のもの」、「来る人々の中で最も偉大な者」）。たとえば、人が女神ハトホルの精神的な贈り物を味わうと、これは彼にさらなる精神的な力を与え、彼女はこの人が地上の世界から別の世界（精神的な世界）に移動するのを助けると信じられていました。そのため、彼女は愛と喜びの女神である偉大な母の異名を授与されました。靈的、「ラーの光で輝く」偉大な女性、すべての生き物の創造主。彼女を象徴する追加の連想指定の中には、「生命の木」としてのプラタナスや、伝説が言っているように、彼女が命じた色である永遠の命の象徴である緑と青が含まれていました。



後者は、人間の波動の性質と精神的な変容の瞬間にに関する暗号化された知識に関連付けられています。

アナスタシア： はい、すでに述べたように、これらと同じ色が、さまざまな民族で宇宙の秩序、生命の水、豊饒、母なる祖先、女性の創造的な神聖な力を体現する神のキャラクターの指定にも存在します。キリスト教では、これらの色は聖母に固有のものです。聖母マリアの像が配置されているバーニングブッシュの同じ菱形も、緑または青(青)の色で示されています。これは、同じ基本的な知識が世代から世代、人から人へと受け継がれてきたことを示唆しています。ところで、古代ギリシャ人がかつて現在のスラブの領土に住んでいた人々から神話のために借用した「グラフカ」という古い言葉がありますが、これは水に関連する神の原理の創造力の呼称として、これは「緑と青の色」も命令します。

リグデン： さらに言います。目に見えない世界の知識を人々に説明するには、三次元世界の住人が理解できる連想やイメージに目を向ける必要がありました。古代において、人の精神的な性質の創造力としての偉大な母(女神)(その反映は、後に、たとえば、女性の形で表された同じイシスとなった)は、もともと、次のような特別なポーズで描かれていました。神聖な立方体 - 人が膝の周りに手を置いて座っているとき。「立方体」の上には、その頂部を指す頭が冠されていました。そして、立方体自体の頭または面の1つに、アラトラのサインが配置されました。



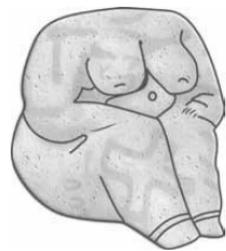
ポイントはシンプルです。これは、人格が魂と融合するときの人格の精神的解放の道の象徴的なイメージです(性別、人種など、その人が位置する身体に関係なく)。したがって、古代では最初、前母は立方体の形の位置に座って描かれていました。しかも、それは四角い平らな台の上に置かれていました。立方体は精神的な世界を意味し、人は女性(アラトラ)の神聖な力の助けを借りて達成し、彼の性質を質的に変え、別の精神的な存在になることができます。それはまた、人間の構造が位置する 6 つの次元を意味しました。平らな四角い石は地上の物質世界であると同時に、人の 4 つの主要なエッセンスの指定としての四隅も表しています。その後、人間の模倣が始まると、祭司たちは自分たちの顔を立方体の彫刻の形で再現し始めました(地上の栄光のために永続させました)。後の時代、同じ古代エジプトで神々が擬人化された彫刻の形で描かれ始めたとき、その神聖な本質を反映するために、神の姿は立方体の上に置かれました。そして、地上のものと天のもの(神聖なもの)とのつながりを指摘する必要がある場合、それは平らな正方形の上に置かれた立方体の上に置かれました。もしその人物が単に平らな正方形の上に置かれていたとしたら、それは存在の専ら地上的な側面を意味することになります。このような初期の立方体形の彫像(およびそのさまざまな菱形タイプ)は、かつては古代エジプトだけでなく世界の他の地域でも非常に一般的な正典彫刻像でした。



1



2



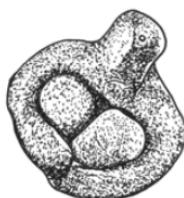
3



4



5



6



7



8



9



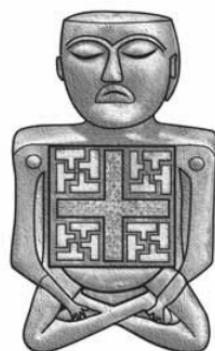
10



12



11



13



14

図98。古代世界の立方体の彫像とシンボル:



- 1) 旧石器時代の「ヴィーナス」の立方体形の彫刻。
- 2) 角に置かれた立方体の形をした中国の彫刻(碧玉石で作られています。古代中国では碧玉は天国を象徴する「純粋な石」として崇められていました。人は自己改善の道を歩むと信じられていました)、中国の論文では「素晴らしい真珠」、「碧玉の宝石」と呼ばれる、不死を達成するための手段を自分自身の中に創造(「精鍊」)する必要があり、それは彼の体全体を変え、彼を純粋で不滅(碧玉)にします)。
- 3) 膝を曲げ、両手で膝を握り、座った姿勢の女神の旧石器時代の立方体形の彫刻(身体にシンボルが適用されています。原則として、彼女は顔なしで、時には頭なしで描かれています)。
- 4) 古代エジプトのパピルスに描かれた「オシリスの審判」の画像の断片。古代エジプトでは、人、動物、神々は伝統的に横顔で描かれていました。
- 5) 膝を曲げて手を握り、ポーズをとて座っている人々のテラコッタの置物(ハラッパ文明の遺物)。6) 中央に菱形のシンボルを持つ新石器時代の物体。
- 7) 幾何学的な装飾を施した儀式用の新石器時代の立方体形(4本の脚の支柱の上に立っており、上部は6次元の象徴的なイメージの形で装飾されている)。
- 8) 古代エジプトの知恵の神トート(ヒヒの形をした)の像があり、その上にアラートラの記号が付いた立方体の座像(紀元前4~1世紀、カルナック神殿(エジプト、テーベ))。
- 9) 立方体の形をした青銅製の置物。その上には、真実と正義、宇宙の調和と秩序を司る古代エジプトの女神、マアト(紀元前XII~XI世紀、古代エジプト)が座っており、膝を曲げ、握りしめています。彼らの手。
- 10) アラトラの記号を持つ筆記者 Kha の立方体像(紀元前2千年紀、アビドス、古代エジプト)。11) アステカの水の女神の置物 - チャルチウトリクエ(西暦15世紀から16世紀、メキシコ、中央アメリカ)。



12) 中央アメリカのインディアンの神話に登場するアステカ族の「年の主」、火と火山の神、シウテクトリ(西暦14~15世紀、メキシコ、中央アメリカ)の置物。

13) 蓮華座に座る男性の立方体形の人物で、体にはシンボルが描かれている。神聖な桶を固定するために使用されます。バイキング船で見つかったバケツ(9世紀、ノルウェー)。

14) センウスレト・セネベフニの立方体像(紀元前2千年紀、古代エジプト)。

アナスタシア: 確かに、私は世界各地で発見された考古学的発見の中で、立方体のようなポーズで座っている同様の神々の像を何度か見たことがあります。また、旧石器時代の地層で見つかった人物(いわゆる「偉大な母」)は、足を持ち上げて膝に手を置いて座っています。ハラッパ文明に関連する出土品の中にも同様の小像が見つかった。古代インドや中国の神々の立方体の置物はどうでしょうか?私はメソアメリカのアステカ人、オルメカ人、マヤ人の複数の遺物についてはすでに沈黙しています。スラブ民族が居住する地域では、トリポリ文明の時代の偉大な先母の置物も発見されており、胸には内側に斜めの十字と点の中心を持つ菱形が施されています。そして、そのイメージの別のバージョンは、切り取られたピラミッドの特定のシンボル、または絡み合った2匹の蛇を伴うもので、「クンダリーニ蛇」の力についての同じ古代インドの知識を考慮すると、これらは人の精神的な再生の創造的な力を象徴しています。

リグデン: ところで、古代の人々の間では、二匹の蛇が絡み合ってボールになったものは、自然の滅びと復活、再生の元々の象徴の一つでした。



ヘビ(たとえば、ヘビ)は秋に地下に入り、土の穴の中で大きなボールに丸まって冬眠に入り、春に目覚めて穴から(地下から)出でてきます。したがって、それらは、魂の再生サイクルにおける人の輪廻、死、復活がどのようなものであるかを理解したい人々にとって、連想的な例として役立ちました。

アナスタシア: はい、特に東洋の多くの人々は、豊饒、女性性、大地、水、そして知恵に関連する象徴として蛇を崇拝していました。この知識をスピリチュアルな文脈で考えると、すべてがうまくいきます。トリピオス文明に関して言えば、神聖なシンボルが描かれた同じ陶器の水差しのほとんどが菱形の形をしていたのは興味深いことです。考古学的発見を注意深く検討すると、そのような水差しには、円、三日月(角を立てたもの)、螺旋、三角形(ピラミッド)、波状の蛇(ジグザグに分かれたもの)など、精神的発展の重要なシンボルや兆候が描かれていたことがわかります。線、水とのつながり、そして別の世界)、四芒星、「太陽と月」、4つの「太陽」。さらに、考古学的発掘によると、トリピリアの各家には十字形(斜めの十字の形)の神聖な「祭壇」があり、ストーブの最初の火がそこに点火されました。これは火の魂と 4 つのエッセンスの同じシンボルです。

リグデン: 菱形の形は古代の装飾品によく見られます。彼はユリ、ハスに関連して、地球と天の統一の象徴と呼ばれていました。



アナスタシア：ここで、「ひし形」という言葉の語源をたどっても、興味深い事実が明らかになります。この言葉は、「こま、魔法の車輪、タンバリン」を意味するギリシャ語の「ロンボス」に由来しています。この点に関しては、例えばシャーマンの間でタンバリンが魔法の行為においてどれほど重要な象徴的な役割を果たしたかを思い出すだけで十分です。そして通常、そのようなタンバリンは同じ基本的なシンボルと記号で描かれていました。

リグデン：まさにその通りです。ちなみに、シャーマンは片手でタンバリンの十字架を持ちながら、もう一方の手でタンバリンから神聖な音を抽出すると信じられていましたが、それは通常、斜めまたは正三角形の十字架のように見えました。結局のところ、象徴性によれば、円と十字の交差点は 8 つの面(八角形)を生成するだけです。シベリアの白人のシャーマンは、正方形、つまり 4 つの要素の記号を動かすと、永遠の記号(円)に変わるという「神聖な知識」を信じていました。西洋では、ギリシャ人は古代哲学でこれと同じプロセスを、第五の要素の理論であるクインテッセンス(ラテン語の「quinta essentia」から「第5の本質」と呼びました。

アナスタシア：そうです、それは「原初のエーテル」、「神聖」、「永遠」、「山」(天、上に位置します)とも呼ばれていました。アリストテレスは一般に、周期的な相互変換の対象となる月下世界の 4 つの要素とは対照的に、真髓を、超月世界全体の最も優れた要素、主要な本質、実質として定義しました。(「創造と破壊」)。すべてがとてもシンプルです!みんなが同じことについて、言葉が違うだけで話していることがわかりました。



リグデン：もちろん、知っていれば難しいことは何もありません。一度理解すれば、すべてが簡単になります。シャーマンに関して言えば、当時、この知識とその伝達の同様の形式はさまざまな民族にとって自然なものであったとあなたはまったく正しく指摘しました。しかし、さらに以前から、人類社会の大多数はこの基本的な知識を知っており、たとえ地球上の異なる地域に住んでいたとしても、追加の説明は必要ありませんでした。

したがって、立方体の形をした像は、物質に対する人間の靈的性質、つまり動物に対する靈的性質の勝利を象徴していました。それはまた、神の言葉を受け入れる準備ができている靈的に成熟した人を意味しました。当時、後者は聞こえない音と考えられており、そのおかげで神は人と「コミュニケーション」し、人の理解における精神的な啓発を行いました。したがって、神々は口を開けて描かれることもありましたが、多くの場合、対応する記号が立方体の像に置かれました。そしてその後、ヒエログリフが現れたとき、彼らは目に見えない性質を持つ一者に訴えかけるように刻み始めました。

アナスタシア： 読者にとって、遠い時代に人々が原初の音について何を知っていたのかを知るのは興味深いことだと思います。

リグデン：もちろん、彼らはそうしました。結局のところ、これは基本的な精神的な知識です。同じ象形文字は古代エジプトでは何を意味していましたか？それはもともと神聖な記号、「神の言葉」、音を表す記号と考えられていました。さらに、ヒエログリフは特別な順序で書かれ、さまざまな正方形や長方形の形にグループ化されており、それぞれに独自の意味がありました。



このような文字は「いのちの家」と呼ばれる寺子屋でのみ教えられていました。古代エジプト人の間で「生命」、「永遠の命」の象徴は、「命の鍵」、「永遠への鍵」と呼ばれていたアンクの記号であったことを思い出してください。ちなみに、不死の象徴としてのこの種の十字架は水(別の世界)に関連付けられていました。そして彼は古代エジプト文明だけでなく、マヤ文明、例えばスカンジナビア人などの古代ヨーロッパの人々にも知られていました。したがって、神聖な印を適用した古代エジプトの書記たち自身が、原則として正方形の平らな石の上に蓮華座(足を組んで座る)で描かれていることは注目に値します。古代の蓮華座は、条件付きで「ピラミッド」とも呼ばれていました。



図99 古代エジプトの置物「巻物を持った書記」

(紀元前19~18世紀、古代エジプト、プーシキン国立美術館、モスクワ、ロシア)。



古代エジプト人は、すべてを創造した目に見えない神の神聖な現れとして、音と特別な関係を持っていました。音は宇宙を目覚めさせ、魂だけでなくその中で最も美しいもの、つまり目に見えないものとのつながりも目覚めさせる、という伝説に記録されているような理解を彼らはどこで得たのでしょうか。

アナスタシア： したがって、古代エジプトでは、偉大な創造力としての音楽に特別な敬意が払われていたことは明らかです。いくつかの宗教儀式では、神聖な音で空間を満たすのは女性だけが信頼されていたという文献がある。たとえば、女神イシスやハトホルの巫女たちは、ちなみにその頭にはアラトラのサインがあった。

リグデン：もちろん、これらはすべて外部の儀式ですが、しかし、それはまさにアラートの神の原理の創造力を象徴しており、アラトラのサインを通して神の力（創造の原初の音）を明らかにしています。しかし、靈的知識の結合的伝達というこの演劇的行為すべてにおいて最も重要なことは、信者の気分と、大勢の人々が見る働きの兆しである。

その後、知識が失われ始めたとき、献身的な人々が新しい世代に理解できる形で知識を更新し始めました。その後、偉大な母なる女神の別のイメージが人気を博しましたが、立方体の形ではなく、平行六面体（立方体のように反対側があり、象徴的に意味する正六面体）の縁に座る女性の形でした。6つの次元は等しく平行です）。さらに、彼らは、女神が象徴的にまさにこの頂上に座っていることを強調しました。

立方体の頂点の 1 つをマークまたは装飾的に選択した形で描かれた立方体。



女神は四角い平らな石の上に足を置きました。これらすべては地球と天国のつながりを象徴していました。アラトラのサインは常に偉大な母の頭の上に置かれ、それを見ている人の精神的な活性化に重要な役割を果たしました。スピリチュアルなシンボルが偉大な母の手に置かれ始めました。たとえば、左手にはアンク(「永遠への鍵」)のしるしがあり、右手には長い茎に生えた蓮の花(時には女神が両手に右の象徴的な指定を持って描かれることもありました)動物の性質に対する勝利のしるしとしてエッセンスを残しましたが、後に杖に置き換えられました。ロータスはもともと、精神的な知識、精神的な実践、創造的な力、完璧さ、唯一性における永遠の象徴でした。なぜそれが光り輝く者(ラー)の神聖な花(知識)と呼ばれたのか。多くの神々(古代エジプトに限らず)が蓮の花の上に座って描かれています。

ちなみに、私がかつて述べたように、人の精神的な変化という意味で、不死、さまざまな民族の間での復活の最初の象徴の1つは蓮でした。その後、これは何らかの形で、古代インド、古代エジプト、アッシリア、フェニキア、ヒッタイトなどのさまざまな文化の宗教的思想に反映されました。さらに、蓮のつぼみが描かれている場合、これは人生における(人の)潜在的な機会を意味します。そして、逆向きの円錐台形のピラミッドの形をした熟した蓮の種の箱が描かれている場合、これは人の生涯の行為の結果、つまり死後の一種の「果実」(結果)を意味します。



種箱を備えたこの茎が神の手に渡ったとしたら、それは創造の実りの力を意味します。さらに、蓮はグレートマザー(科学者が月の女神と呼ぶ)と一緒に描かれることが多かったため、後に象徴的にボウルの形で描くようになりました。したがって、古代エジプト文化の母である乙女座の手において、蓮は貞操、精神的な豊饒、女性の創造的な神聖な力の処女の純粹さを象徴していました。その後、大女神の手中にある蓮の花にはさまざまな解釈がなされました。杖(物質を支配する靈的な力の棒で、一匹または二匹の蛇に絡みつき、開花した笏)、開いた巻物の形をした知識(開いた本)。さらに後になって、女神イシスは次のように描かれるようになりました。彼女は右手の手のひらをみぞおちに押し当て、左手で幼児(一人息子)を抱いています。その名前はホルスで、これは「彼」を意味します。誰が天国から来たのよ。」ホルスは創造の神として、通常ハヤブサの頭を持って描かれていました。

アナスタシア: はい、会話の中すでに述べましたが、世界の人々の神話の中で、鳥は長い間、靈的概念、つまり「天国から来た」靈的存在と関連付けられてきました。他の世界」、そして人間の前の本質も含めて。多くの国における翼のイメージ自体は、他の世界、次元とのつながりの指定であり、物質世界での肉体の死後の精神世界の永遠への魂の高揚の象徴でした。鳥のイメージは、翼のあるすべての生き物の原型となっています。



図100。幼児ホルスを抱いた女神イシスの小像

(紀元前 12 世紀、古代エジプト、エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルク、ロシア)。

リグデン： まさにその通りです。さらに、鳥は神の属性でもあり、目に見えない世界で作用し、人の選択を一方向に傾ける光と闇の力の間の闘争を擬人化しました。したがって、古代からの秘儀参入者は鳥の象徴的な部門を持っていました。たとえば、ハヤブサは光の力、精神的な警戒心、そして行動における勇気を象徴していました。鷺は闇の勢力、物質的な権力をめぐる闘争を象徴していました。



しかし、人間社会では、これらのシンボルの本質の模倣と誤解により、これらの鳥の象徴性は事实上それらを融合し、相互に置き換えていました。しかし、知的な人であれば、国家や国際機関の基準の現代的な象徴性を調べるだけで十分です。そこでたくさんのハヤブサが見つかるでしょうか?しかし、ワシが何羽いるか - 数えないでください!これは、今日の人類がどの辺に立っているのか、誰が人類を支配しているのか、そしてこの世界でどの勢力が勝利しているのか、数多くの事実を間接的に裏付けるものにすぎません。

アナスタシア: 同じ古代エジプトにおけるハヤブサの空高く飛行は、天球における魂の飛行と連想的に比較されました。ホルス(コーラス)はオシリスとイシスの息子として、天と地を統一し、闇の勢力と戦うために人間の世界に召されたと信じられていました。生命力と魂の化身である「ba」は、人間の頭を持つハヤブサの形で表現されました。また、逆に、ハヤブサの頭を持つ男の姿で描かれた神々もいます。

リグデン: そうですね。古代エジプトの神々は、ハヤブサの頭を持つ男の形で、例えば、頭に円の印があるラー、モントゥなど、古代から描かれていました。彼らのシンボルは翼のある太陽円盤(円)でした。それは古代エジプトのラー、モントゥ、ホルスの属性であるだけでなく、その後、他の民族の神々の象徴でもあり、例えば古代ペルシャ人の間では善の最高神アフラ・マズダーでした。

さて、グレートマザーと立方体の象徴性の話題に戻ります。女神イシスと同じ名前は、古代エジプト語からギリシャ語に翻訳され、「玉座」、「座」を意味します。転じて、ギリシャ語の「thronos」は「座席、高さ」を意味します。これはまさに、立方体の形をした偉大な母(座っているポーズ)の古代のイメージと関連付けられていたものでした。



図101.古代エジプトのハヤブサの画像

(胸のペンダントの詳細、紀元前7世紀、古代エジプト)。

イシスの名前に関連付けられた象形文字は、平らな正方形の石の側面投影の形で描かれており、女神がその上部(角)に正確に座っているという事実が強調された平行六面体です。この玉座(座)はまた、偉大な母の古代の形容詞の一つである彼女の名前の指定として、しばしばイシスの頭の上に置かれ、精神的な高揚、象徴的な聖地、天と地とのつながりに関連していました。したがって、象徴的な立方体は玉座になりました。



図102.古代エジプトの女神イシスの象形文字

(最初の文字は王座の側面投影)。



さて、さまざまな宗教で神に近づく場所、つまり自己改善における最高の啓発の場所と呼ばれているように、ここで類推するだけで十分であり、多くのことが明らかになるでしょう。たとえば、仏陀は「蓮」、「ダイヤモンド」という形容詞で呼ばれる「玉座」に描かれています。同じキリスト教でも、「玉座」という言葉の代わりに、似たような意味の「玉座」という言葉が使われていました。古スラブ語の「玉座」という言葉は、「テーブル」、「横たわる」という言葉に由来し、さらには「座席」、さらには「プラットフォーム」(より高いものとのつながり)という意味でもあります。なぜ「神の御座は天国である」という表現があるのでしょうか。

アナスタシア: 玉座（聖遺物が置かれ、ベールで覆われた四角形のテーブル）は正教会の主要な装飾品です。彼は祭壇の真ん中に立っています。ちなみに、多くの種類の祭壇の構図が玉座の聖母を表していることは注目に値します。

リグデン: 全くその通りです。しかし、精神的な知識を伝えるための典型的なシンボルで神を描くことと、物質的な模倣と権力に対する抑えられない渴望を持つ人々は別のことであることに注意する価値があります。人間社会における政治的および聖職者による権力機構の発展の過程で、権力者たちは「玉座に座る」古代の神々のイメージを模倣し、自分たちの望む「神の栄光」のあらわしの象徴で自分たちを取り囲むことを忘れなかった。愛されていますが、多くの場合、彼らの本来の本質を理解していません。この点に関しては、東洋(アジア)と西洋(メソアメリカ)の文明については言及しませんが、そのような事実は彼らの歴史の中に十分にあります。そして、私は例として、今まで生き残っているルーシの「王室のレガリア」、いわゆる「モノマホフ」についての年代記の伝説を挙げましょう。



王の玉座はかつて「ロイヤル・プレイス」と呼ばれていました。それは最高権力の象徴でした。それは王子の玄関ホール(宮殿)だけでなく、寺院にも設置されていました。さらに、寺院では、原則として、4つの柱のテント天蓋(ベール)の形でイコノスタシスのロイヤルドアの右手に設置され、別の入り口の後ろに柵で囲まれた座席がありました。そして、4匹の動物の姿がこのピラミッド型の玉座を支える役割を果たしました。そして、どんな動物ですか? 「獰猛なライオン、スキメント(獣の怪物)、ウエナ(ハイエナ)——首を巻いていない丸い獣と、2匹のオスクロガン。1匹はこぶがあり結び目があり、もう1匹は縁まで紡がれている。」



図103。モノマフの玉座

(1551年、ロシア、モスクワ、モスクワクレムリンの聖母被昇天大聖堂)



アナスタシア：つまり、王位の支えには人間の 4 つの本質すべての象徴があったということですか?ライオン、ハイエナは横のエッセンスで、節がありゴツゴツしているのはまさにバックエッセンスです。そして最後のフレーズは古スラヴ語からの翻訳では何を意味するのでしょうか?

リグデン：「そして二番目の光はエッジ(限界、頂点)まで満たされる。」

アナスタシア：まさに前部エッセンスのことです!ここには古スラヴ語の古代言語があります。はい、彼らが言うように、知らないのは残念です。

リグデン：4 つのエッセンスに関しては、すでに述べたように、古代スラブ人にとって、これはニュースではありませんでした。キリスト教が普及した時代に異教と呼ばれるようになつた彼らの古代の神々は、これらすべての知識を完全に反映しており、人々に理解できる連想的な形で定式化されました。たとえば、4 つの風の神であるスラブの神 ストロボジ (ストロボグ)について考えてみましょう。彼の名前の語源は「構築する」という言葉に由来しており、主な役割は「善の主催者」と定義されていました。異なる季節の 4 つの風は、人の 4 つのエッセンス、つまり人を支配しようとする目に見えない知的な空間を寓意的に表していました。さらに、それらのうちの3つは旋風を回転させ、遠吠えと口笛を生み出し、素早い踊りで「天の聖歌隊の音に」突入します。なぜ後の民間伝承(ロシアの陰謀)で、人々は「恐ろしい悪魔、激しい旋風、空を飛ぶ燃えるような蛇」に対する呪文を発明したのでしょうか。しかし、春の風は、前部エッセンス、最初の春の鳥、使者と関連付けられていました。「良い精神」、「天国の歌と音楽」。



したがって、人が「自分自身の中で善を整える」ために、すべてのツールが与えられました。残りは彼の人間の選択にかかっていた。

アナスタシア： はい、古代スラブ人は人の空間構造の性質とその精神的な要素についての真実に近い連想概念を持っていましたことがわかりました。結局のところ、有形空間の要素としての風は、4 つのエッセンスの目に見えない性質を最もよく特徴づけています。

リグデン： しかし、古代スラブ人についてさらに興味深いのは、彼らの知識が神話だけでなく建築構造にも記録されていることです。キリスト教のずっと前から、ルーシには神殿の建物があり、後に「テント式」として知られるようになりました。古ロシア語の「シャトル」は、チュルク語の「シャテュル」(テント、天蓋)に由来します。ちなみに、古代インドの言葉「チャトラム」は「障壁、ベール」を意味し、「光を開く、閉じる」という意味と結びついていました。

アナスタシア： 「私は光を開き、私は光を閉じます」? ということは、実はスピリチュアルな解釈では、これが「天国への鍵」なのでは?

リグデン： まさにその通りです。したがって、古代ロシアの建築では、テントは四面体または八面体のピラミッドの形をした中心的な建物の最上部と呼ばれ、塔、寺院、さらには通常の木造住宅の玄関ポーチさえも完成しました。それは、現代の言葉で言えば、靈的なもの(天国)への人間の積極的な願望の象徴でした。実際、このデザインは「四辺八角形」であり、同じ神殿の基部から八角形の頂部(テント)まで、正方形の層を移行させることができ、その上にテントが設置されました。小さなドームを半球の上部として配置しました。



アナスタシア: 半球状の裏地?! 「キューポラの表示が8面ある柄頭?! これが角に置かれた立方体の上部です! これらは光の柱の本当の建築上のシンボルです。

リグデン: ところで、古代スラブ語の「章」という言葉は、すべての始まり、基礎、最高のものとしての頭から生まれました。ビジネスの長、家の長、白樺の樹皮の文字の頭、そして後には本など。しかし、当人自身においては、頭頂部、つまり人の頂点が「本社」であると考えられていました。

アナスタシア: このようにして、「ノコギリソウ」チャクラン、またはインドでは「サハスララ」チャクラン(サンスクリット語で「千枚の蓮の花びら」を意味する)が、慣例的に常に頭のてっぺんに指定されてきました。これは人間の 7 番目のチャクランです。興味深いことに、ヒンズー教徒は、ここで靈的な意識が人の低次の本質をブロックし、永遠を望む魂を地上の執着や欲望と結びついていると信じています。このチャクランの助けを借りて、最高のものとの統一が、体の殻の中での魂の靈的成长の最終段階として起こります。インドのスピリチュアルな修行者の見解によれば、ここで、クンダリーニ(「クンダリーニの蛇」)の目覚めた創造力が、6つのチャクラを通って上昇し、その旅を終え、スーパーイルミネーションが起こり、超意識と一体化します。魂は神(至高者)とともにあります。



リグデン：彼らがこのチャクランをどのようなシンボルとしているのかにも注目する価値があります。透明なダイヤモンドの形をしており、後に仏陀の「蓮、ダイヤモンドの玉座」という名前が由來したものです。

アナスタシア：インド・ヨーロッパ語族の古代の知識に出会うたびに、彼らの靈的本質に関する知恵と知識の深さに驚かされます。

リグデン：古代以来、現在のスラブ地域に住む人々を含め、さまざまな人々がこの知識を持っていました。さらに、そのような構造を持つ古代ロシアの教会に特徴的なものは他にありました。それらは、その外部の象徴性とその構造の範囲でかなり強い印象を与えました。しかし、内部空間の観点から見ると、これらの古代寺院は非常に小さく、混雑した「礼拝」を目的としていませんでした。神殿の内側の狭い空間では、中央の十字架の上の信じられないほどの高さが強調されていました。多くの場合、そのような寺院は、女性原理の創造的な神聖な力として、特定の人々の祖先に特別に捧げられており、したがって、その内部空間はまた、その人自身の精神的完成への道を象徴していました。

アナスタシア：かつて現在のスラブの領土に住んでいた古代の人々は、紀元前 12 ~ 4 千年紀に遡る、対応する精神的なシンボルやサインを伴う考古学的発見によって証明されているように、実際に豊かな精神的な遺産を持っていました。ただ、今日、明らかに、これらの地域に住む現代人が、自分たちの祖先が精神的な遺産を持たない「野生の部族」の子孫であると誤って信じていることは、誰かにとって非常に有益です。



リグデン：人々は、なぜそのような「意見」が自分たちや自分たちの子供たちに押し付けられているのか、そしてなぜ権力者の定義によると、人々自身が「彼らが想定していること」以上のものには関心を持たないようにするためにあらゆることが行われているのかを考えるべきです。知ること」。なぜ現在の文明の技術力をもって、世界の聖職者たちはこれらの人々の意識を情報攻撃し続け、彼らを「血縁関係を覚えていないイワン」にしてしまうのでしょうか？

アナスタシア：はい、スラブ民族が靈的な冬眠から目覚めるなら、彼らの魂の寛大さに従って、彼らは他の民族を靈的に目覚めさせ、この全国的な目覚めは全世界に影響を与えるでしょう。あなたはかつて私たちに、ヨハネの「黙示録」に関する興味深い情報を教えてくれました。特に、ヨハネが黙示録の歴史をどのように書いたか、古代ギリシャの伝説、エジプトやバビロニアの神話を含む東方の人々の宗教的思想から多くを借用したユダヤ人の司祭の情報をヨハネがどのように利用したかについてです。これらすべてを『先生IV』という本に収録しました。それで、あなたが言及したように、ヨハネの書には、天に立つ玉座についても書かれており、その上に「座っている」のです。そして最も重要なことは、彼らは玉座の周りに立っている同じ4匹の終末論的な獣について話しているということです。

リグデン：はい、イオアンにも「石、碧玉、サルディスのように見える「座る人」がいました。そして玉座の周りにはエメラルドのような虹がかかっていました。

もちろん、すべて同じです。こちらも同じ色の石で、女神イシスとアラトラの他のガイドを象徴しています。繰り返しになりますが、すべて同じ「玉座が天に立っており、その玉座に座っていた人」、「玉座の前にはクリスタルのようなガラスの海がありました」、「その前に7つの火のランプが燃えていました」神の七つの靈である玉座です。」「玉座の真ん中と玉座の周りには、前後に目が詰まった4匹の生き物がいます。そして、最初の動物はライオンのようで、二番目の動物は子牛のようで、三番目の動物は人間のような顔をし、四番目の動物は空



飛ぶワシのようでした。そして、4匹の動物のそれぞれの周りには6つの翼があり、その中には目がいっぱいありました。そして昼も夜も休むことがなく、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能の神、主は、かつて、今、そして来られる方です」と叫びます。そして、動物たちが王座に座っておられ、永遠に生きておられる方に栄光と名誉と感謝を捧げると、二十四人の長老たちは王座に座っておられる方の前にひれ伏し、永遠に生きておられる方を崇拝します。彼らの王冠を玉座の前に投げて、こう言いました。「主よ、あなたは栄光と名誉と力を受けるのにふさわしい方です。なぜなら、あなたはすべてを創造され、あなたの意志に従ってすべてが存在し、創造されたからです。」ヨハネはユダヤ人の祭司たちの情報を利用しただけです。そして、この知識のほとんどは他の民族の伝説からコピーされたものであり、当然のことながら、それらを自分自身の精神から概念を設計し、独自の宗教を創造するために利用しました。

もちろん、生きている人々に対するアラトラの創造力についてではなく、肉体の死後のすべての人に対する裁きについて、この物語を基礎として受け取ったのは彼だけでした。古代エジプト人はこれを「最高神オシリスの死後の法廷」と呼びました(女神イシスが後者の妻と考えられていたことを思い出してください)。オシリスについてはすでに話しました。彼の名前は「頂点に立つ者」を意味します。彼は、地上での人生を終えたすべての人の魂に審判を下し、そのさらなる運命を決定する、あの世の支配者と考えられています。「死後の審判」について語ったパピルスのテキストの現代語訳では、この「法廷」に落ちた人の形容はかなり面白く聞こえます-「死んだばかり」。彼らが言うように、人は人生を理解するにつれて、それを別の言語に翻訳します。古代エジプト人は、肉体の死後も、形を変え、空間を変えてのみ生命が続くと信じていました。そしてこの考えは、かつてすべての人々に与えられた知識に基づいていました。「あの世」における裁きの場(肉体の死後の人の過渡状態)は、古代エジプト人によって「二つの真理の大広間」と呼ばれていました。高次の精神世界からの存在としての審判の際のオシリスは、立方体の「玉座」に



座り、足を正方形の台座に置くように象徴的に描かれました。彼は立方体の上部から判断しますが、それは原則として立方体のマークされた角を指します。（二つの真実の大広間での）審判では、オシリスの王座を擁護する4人もいます。

アナスタシア：あなたがかつてオシリスの審判を描いたパピルスのコピーを私たちに見せてくれたことを覚えています。異世界にもオシリスの王位を守る4人がいて、裁判官の前の蓮の花の上に立っていました。

リグデン：まさにその通りです。伝説によると、彼らはオシリスの息子であるホルス（ホルス、つまり「天から来た者」）の息子です。彼らはそれぞれ、翼のある女性として描かれた特定の女神の保護下にあります。ホルスの息子の名前：アムセット、ハピ、ドゥアムテフ、ケベクセヌフ（ケベセヌフ）。

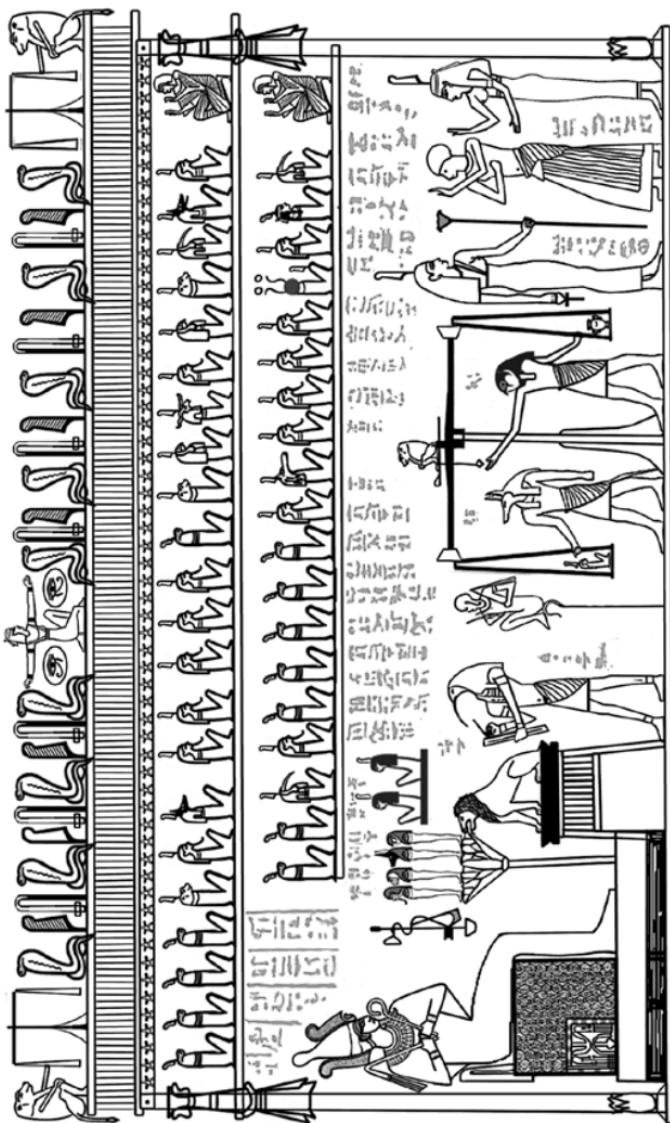


図104. オシリスの審判

(パピルスに描かれた古代エジプトの図式、紀元前6世紀、「死者の書」、エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルク、ロシア)。



アムセットは人間の姿をしており、ハピは猿の頭、ドゥアムテフはジャッカルの頭、ケベクセヌフはハヤブサの頭で描かれています。この主要な 4 つは、古代エジプト人の「ピラミッドの文書」、「石棺の文書」、「死者の書」、その他の宗教的および魔法の文献で常に言及されています。もちろん、精神的な知識の多くは、物質的な思考が優勢な心からの解釈により、すでに変化や歪みを受けていますが、それでもなお、いくつかの反響は残っています。

本来のスピリチュアルな意味では、これらは人間の 4 つの主要なエッセンスです。これは人間の構造の一部であり、目に見えない世界の本当の「証人」であり、飛行機のライトレコーダーのように、人格の秘密で公然の行為、考え、選択、好みなど、生きた人生の中ですべてを記録します。裏側の本質であるアムセットは、人間の過去全体、つまり魂の地上での輪廻におけるさまざまな人格(サブ人格)の過去世の象徴として人間の形で描かれました(ジョンによれば、この「動物は人間のような顔をしていました」)。正しい存在であるハピは、野蛮さ、群れ、動物の本能の現れ、強さ、怒り、攻撃性の象徴として猿(ハマドリラ)の頭で描かれています(ジョンによれば、この「動物は子牛に似ています」)群れの動物)。左のエッセンス - ドゥアムテフ - 高度に発達した動物、電光石火の握力、器用さ、知性、そして狡猾さの象徴としてジャッカルの頭を持っています(ジョンによれば、この動物は「ライオンのようなもの」です)。一般に、古代エジプト人は、ジャッカルの連想イメージの中で、対応する思考形態を持つ人への攻撃中に左のエッセンスの主な特徴を非常に正確に認識したことに注意する必要があります。結局のところ、ジャッカルも、いつの間にか被害者に巧みに忍び寄り、突然それをつかみます。

彼は不意打ちと不意打ちの厚かましさによって区別されます。ハイジャンプで空に上がった鳥を捕まえることもできます。さらに、彼はとてもうるさいです。この獣は狩りの準備をしながら泣き叫ぶ。そうです、その鳴き声はあまりにも大声で、近くにいた動物たちがそれに反響し、それに応じて鳴き声を上げ始めます。



そして最後に、前エッセンスのシンボルはハヤブサの頭を持つケベクセヌフです(ヨハネではそれは「空飛ぶワシのような動物」でした。ワシはすでに神権からの発言です)。ハヤブサは確かに、魂の解放に向けて(天国への)靈的な道に沿って努力する人の精神的な自由の象徴でした。 また、インスピレーション、あらゆるレベルの上昇、物質に対する勝利の象徴もあります。 エジプトでは、鳥の王、天の始まり、最初の現れの一つ、ラー神の象徴はハヤブサでした。 はい、他の多くの民族、たとえばインカ人の間でも、彼は太陽(太陽)の象徴でもあり、人の精神的な道を保護し、精神を強化しました。 これは、ハヤブサが高く高く舞い上がり、「太陽に近づく」能力と比較されました。「死者の書」では、これら 4 つのエッセンスは「真実と真実の支配者」、「オシリスの背後に立つ最高の王子たち」、「シュウの柱」とも呼ばれています (シュウ、宇宙論の伝説によると、「かつて高揚した者」空を地球から離して彼を保持します; 天と地を隔てる空気の神; 人間についての神聖な伝説では、目に見えない空間における彼の「影」の指定)。 それらは後に、玉座の側面、玉座の後ろ、または玉座の前(ヨハネによると「玉座の真ん中と玉座の周り」)の蓮の花の上に置かれました。

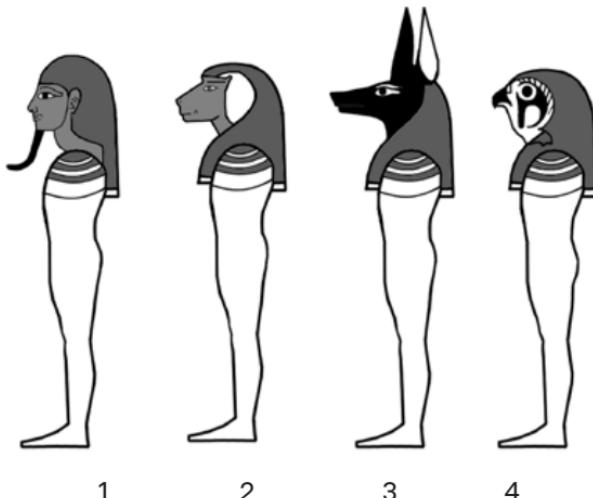


図105。オシリスの法廷の 4 つのエッセンス

(「オシリスの法廷」の絵の断片):

- 1) 人間の頭を持つ後部エッセンス (アムセット)。
- 2) 猿の頭を持つ正しいエッセンス (ハピイ) (ハマドリラ)。
- 3) ジャッカルの頭を持つ左のエッセンス (ドゥアムトエフ)。
- 4) ハヤブサの頭を持つ前 エッセンス (Kebekenuf)

アナスタシア: それでも、あなたは、「祭壇」の「立方体に座る像」(オシリス)の前に、ライオンや色褪せた蓮の花の形をした動物の心が象徴的に描かれているとおっしゃいましたね。後者からは、事実上 1 つのシード ボックスだけが残り、実際にはその上にこれら 4 つのエッセンスが立っています。

リグデン: 確かに、すでに述べたように、この形の蓮は通常、肉体の死後、人格の人生の道が精神的にもたらした結果の象徴として描かれていました。花びらのある蓮は活動的な生活の象徴であり、花びらが落ちると、本質、つまり人が人生で自分の中に獲得した精神的な穀物が残ります。 パピルスの絵には、証人として、この「本質」には 4 つの主要な本質があることが象徴的に示されています。



言い換れば、それらは人が生きている毎日に関する、いわば毎秒の情報です。 それらの上の指定は、原則として、各エッセンスによって記録された人の「思考と行為」(罪)の説明の象徴的なマークを表示します。 これは、パーソナリティが生きる人生における各エッセンスのアクティブな支配力と定量的に同等なものへの一種の条件付きピントです。 何も隠すことは不可能であり、すべての秘密が明らかになります。 これら 4 つのエッセンスは、決して嘘をつかない「沈黙の証人」のようなものになります。 人のすべての行為、彼の考え、感情、経験、すべての誘惑、彼が生涯を通じて何に誘惑され、何を選択したか、すべてが裁判官の前にあります。



図106。裁判官の前で、蓮の花の上に立つ沈黙の証人たち
(「オシリスの判決」の絵の断片)。



アナスタシア： 興味深いことに、古代エジプトのパピルスには、人間の魂はこのプロセスには参加せず、天秤に載っている4つのエッセンスの証拠の結果に基づいて運命を待つだけであることが明確に示されていました。

リグデン： はい、通常はその隣、ボウルの近くに、前 エッセンスのシンボル（ハヤブサの頭を持つ置物）が追加で描かれ、前 エッセンスが計量に参加していることを示し、それによって人間の生涯に前 エッセンスがどれほど活発であったかを連想的に示しました。 そして、動物の性質のエッセンスの1つ（後ろ、右、左）は、原則として反対側のスケールの隣に配置され、その上には正義と真実の女神（マアト）またはその属性の図がありました。フェザー。 ここでは、エッセンスの中で支配的な動物の性質が描かれており、それが人の生涯を通してどれほど活発であったかを示しています。 ほとんどの場合、この場所に描かれているのはレフト エッセンス（ジャッカルの頭を持つ置物）でした。彼女は最年長（バックエッセンスとライトエッセンスを率いる）であり、人間の動物的性質の最も賢明な仮説であると考えられています。



図107。魂の重さ



魂の重さ(絵「オシリスの審判」の断片):ジャッカルの頭を持つ人物(左の本質、ドゥアムテフ)が持つ秤の上には、正義と真実の女神(マアト)の人物が描かれている); ハヤブサの頭を持つ人物(前部のエッセンス;ケベクセヌフ)が持つ天秤には、古代エジプトの魂のイメージのシンボルが描かれています。天秤の上にはトート神(知恵の神、数えたり書いたりする神、「時の王」)があり、古代エジプト人もヒビの姿で描いた。伝説によると、トートは人々の誕生日と死亡を書き留め、年代記を書き、審判の際に各人の魂を量った結果を書き留めました。

アナスタシア: これをスピリチュアルな知識に基づいて考えると、これらのエッセンスはまず、その人の生涯に特定の思考を引き起こし、その後、その人の選択の事実に基づいて、その人が最も注意を払い、自分の考えを与えるものを修正することがわかります。生命力。そして、死後、彼の人格は、いわば、この裁判所のすべての「内臓」とともに「安置」されるのでしょうか?

リグデン: その通りです。確かに、この判決は、三次元世界の住人に理解できる連想イメージを通じて、目に見えない世界のプロセスを互いに説明するという、人々が考え出した方法では行われません。これらは単に各人格にとって避けられないプロセスであり、肉体の死後に待ち受けるエネルギー情報レベルで言えばいいでしょう。

アナスタシア: つまり、もし生前に人格が主に動物の性質に向かう選択をし、主にその背面と側面のエッセンスを活性化した場合、実際にはそれは「封印された」サブパーソナリティとなり、魂は再び物質世界に浸ることになります。アニマルマインド、つまり彼女の生まれ変わりが起こり、再び彼女は物質的な体に閉じ込められました。



リグデン： まさにその通りです。宗教の言葉で言えば、魂は再び「地獄」に閉じ込められました。同じ古代エジプトでは、これがアマトという怪物に魂を貪られる(飲み込まれる)という形で象徴的に描かれていました。この怪物は、そのイメージの中で合理的な物質の動物の世界を擬人化しており、さらに、魂が送り込まれた次元の三次元性を示しています。特に、アマトはワニ、ライオン、カバの 3 つの動物の特徴を持っていました。つまり、簡単に言えば、魂は輪廻転生し、再び三次元の地上生活に落ちたということです。

そして、その人の生涯の間に前部のエッセンスの活性化が「上回った」場合、「魂は解放された」ことになります。古代エジプトの信仰によれば、彼女は「永遠の船」、「何百万年の船」とも呼ばれた「太陽の船」に乗ってイアラ(イアル、祝福された「楽園」の野原)に送られました。つまり、もう一つの精神的な世界です。

アナスタシア： そして、古代エジプト人も、他の民族と同様に、たとえばトリピリア文明が、「太陽の船」をアラトラ記号(円の付いた三日月、「ラーの笑顔」)の形で描いたことを考慮すると、すると、かなり面白い比較が出てきます。かつてこの知識を与えた人は、明らかに、後にそれらの人々の宗教的概念や信念に反映されるよりも、宇宙と精神世界の次元についてはるかに多くのことを知っていました。

リグデン： これはすべて存在し、これまでずっとそうでした。これらすべては、魂を持った人格が肉体の死後に体を離れるときに起こる実際のエネルギープロセスの象徴です。これらすべては、当時の社会に理解可能な、三次元世界の連想的な例を使用して、精神的にまだ未熟な人間、物質的な心の論理のために簡単に説明されました。



アナスタシア： はい、「そこ」では何も変えることができないことが分かりました！ 彼がここで自分自身のために選んだものは、その後「そこ」で彼に値するものでした。確かに人生は非常に責任のある仕事です。現実の試練(負担)は自分の力に応じて与えられるものであり、それ以上のものではありません。そして最も重要なことは、実際、私が今ここで自分をコントロールし、背中と横のエッセンスのこれらの挑発的なささやきを無視することは難しいことではないことを理解しています。結局のところ、すべては私の手の中にあります！ 聞くか聞かないかは私が決めるのです！ あなたは私の側でもっとコントロールする必要があります：動物の性質の性質が現れた場合、あなたは自分自身の中でその性質の発達を防ぎ、現時点でよりポジティブな考えに集中し、日中にもっと精神的で創造的な行為をする必要があります。 これは何世紀にもわたって言われてきました。 少なくとも最近の時代を思い出してください。 たとえば、イエスによる聖書の山上の説教の一節を考えてみましょう。「体のともし火は目です。ですから、目が澄んでいれば、あなたの体全体も明るくなります。しかし、もしあなたの目が邪悪であれば、あなたの体全体は暗いでしょう。」「あなたの宝があるところに、あなたの心もあるでしょう。」

リグデン： まさにその通りです。「刈り取る者は報われて、永遠の命の実を集めるので、種を蒔く者も刈る者も共に喜ぶことになる。」 これは、靈的な種を持つ世界の人々のほとんどすべての伝統的な宗教で、何らかの形で言われています。たとえば、イスラム教徒の聖典であるコーランにはそのような言及があります。 全能者は6日間で天と地を創造し、その莊厳な玉座を水面に置き、天と地を覆い、そこから創造を導きました。「誰の行為がより優れているかを試すために、彼の玉座は水の上にありました」(スーラ 11. アヤト 7)。さらに、玉座はクルシ (玉座 - 座る高い場所) とアルシュ (存在するすべてのものを包み込み、その上にある最高の場所) という 2 つの用語で表されます。 アルシュはクルシを抱きしめ、その上にいます。 イスラム教の信念によれば、玉座は現在それを支える4人の大天使の肩の上に乗っていると考えられています。 伝



説によると、これらの天使は多様です。1 人は鷲の顔をし、もう 1 人はライオン、3 人目は雄牛、4 人目は人間の顔をしています。

コーランには、天使ジャブライル(全能者の啓示を巻物や本の形で預言者たちに伝え、必要に応じて助けに来る)がムハンマドに人間の魂の靈的神秘について語り、その使命を遂行していると記載されている。地上世界での行いに対する審判の日の各人の報酬について、時空の中で奮闘します。天使ジャブライルのおかげでムハンマドが第七の天に昇天したことを伝えるスーラ 17 章には、次のような言葉があります。

アヤット (11)

人間も同じように悪を呼び起しますが、
まるで彼が良いことを呼びかけているかのように、
やっぱり人は急いでるね
(彼の愚かさにおいて)。

アヤット (15)

まっすぐな道を歩む人は
自分用がいいですよ。
誰が騙されているのか
(あの道から)
彼は自分自身に不利益をもたらすためにさまよっている。
そして重荷を負った魂は一人もいなかった
他人の重荷を背負いません。そして誰もこれまでに

ナミさんに懲らしめられて、
(彼らに)送られるまで
メッセンジャー



(報復についての警告付き)
そして権利についての警告
まっすぐな道)。

ここで、既存の知識の理解の最上位から、これらの行とその後の行に注目する価値があります。たとえば、6 次元における人間の構造の特徴に関する知識。彼の主要な 4 つのエッセンスの活動 (死後の法廷での証拠を含む)。人間の魂の永遠への努力、物質世界「最後の人生」に生きたいというその「願望」について。魂を「はかない人生」に閉じ込め、人の選択を実現するための条件を作り出すために3つのエッセンスによって刺激される動物の性質からの多数の欲望について。

アヤット (18)

誰かが命(からの財)を望むなら
一時的な、一時的な
すぐにお届けいたしますので、
私たちが望む人
私たちが望んでいたものは何でも。
そして(すでに)われはかれのために
地獄を任命するであろう。
彼はどこで燃え上がるだろうか
追放され、卑劣な。



アヤット (19)

そして来世を愛する人がいるなら、そして(永遠)未来の世界を求めて、
彼には喜んで努力するだろう
十分な注意を払って、
(全身全靈をかけて神に)身を委ね、
彼はその熱意を持った人です
感謝を込めて(神を)受け入れます！

アナスタシア：はい、深い意味があります。ガブリエルは、人間に関連したこれら 4 つのエッセンスの活動について話したことが判明しました。つまり、もし人が注意を払い、右、左、後ろのエッセンスが提供するものを望むなら、その人は望むものを手に入れるでしょう。そのとき初めて、彼は自分の選択に対して自らの苦しみで答えなければならず、転生の中で亜人格となり(「地獄で」、「追放され卑劣な者を焼き払う」)、魂に物質の新たな奴隸化という重荷を負わせることになる。そして、人が地上の輪廻から抜け出して靈的世界の永遠に戻りたいと望み、この地上の人生が最後になるように、靈的成長において自分に依存するすべてのことを自分の人生で行おうとすると、その人には次のような手段があります。精神的な世界で受け入れられるチャンス。そうです、コーランのそのような賢明な文章は、時代の深みから今日まで伝わってきた精神的な本質を実際に反映しています。ただ、多くの人々、特に若い世代は、例えばヴェーダ、アヴェスタ、大藏經、聖書、コーランなど、さまざまな民族の精神的な文学にほとんど馴染みがありません。当時の私と同じです。したがって、彼らの多くは、コーランにも審判の日に関する情報が含まれていることさえ知りません。



リグデン: もちろん、審判のこと、そして人間の生涯にわたるすべての行為の記録、そして公平な秤についてです。たとえば、スラ 99「地震」(アズ・ザルザラ)(アヤツ 7、8)では次のように言われています。彼のために)。悪を行う者は誰でも、(たとえ)塵の斑点の重さであっても、彼はそれを見るでしょう(それに対する報酬を受け取るでしょう)。」 一人一人が自分の考え、行い、行為について説明します。イスラム世界は今日に至るまで、預言者ムハンマドの次の言葉を知っています。身体の使い方はどうでしたか? 財産をどのように稼いで、どのように活用しましたか? 宗教の知識をどのように活用しましたか?

アナスタシア: 実は、これは 4 つのエッセンスに関連した報告なのです。結局のところ、バックエッセンス(人間の過去)は、あなたが人生をどのように過ごしたかということです。正しい本質とは、人間の動物的本能、つまり人間が自分の身体をどのように使ったかです。 左の本質は権力への渴望とそれに伴う複数の煩悩です。正面の本質は、人が生涯を通じてどのように精神的に成長したかです。

リグデン: まさにその通りです。スーラ第 21 章「預言者たち」(アル アンビヤ)(アヤット 47)には次のように書かれています。なぜなら、私たちが数え方を知っているように、他の誰も(行為の)数え方を知らないからです。

アナスタシア: 確かに、人々は自分たちの知らない宗教の外側の殻しか見ていません。 しかし、そこに埋め込まれた精神的な要素の本質を掘り下げようともしません。



リグデン：残念ながら、これは本当です。古代インド・ヨーロッパの神話には、魂の 2 つの道、つまり真と偽についての言及もあります。 それらはまた、ヴェーダの最後の部分と考えられているウパニシャッドの論文にも保存されており、秘密の知識、靈的な道の秘密の内的意味の説明が述べられています。 この作品はインドの正統的な宗教および哲学体系の基礎となっています。 古代イランの宗教であるゾロアスター教も、その聖典が『アヴェスタ』であり、肉体の死後、人に対する個人的な判断について語っています。特に、人の死後の運命は、その人が生涯にどれだけ正しく善い考え、言葉、行為を積み上げてきたかによってのみ左右されることが述べられています。 遺体の死後3日後、人の魂は「報復の橋」(チンバット)に送られ、アフラ・マズダーの息子であるミトラ、スラオシ、ラシュヌによって裁かれる裁きが行われます。人の地上生活中に犯した行為は、ラシュナ(正義の精神、「まっすぐで正直な」)によって秤で量られます。ちなみに、宗教書によると、アフラ・マズダにはミトラ、スラオシ、ラシュヌ、アシという4人の息子がいました(真理の本質、宇宙の真の法則。「アシ」という用語は、神の名前の意味でも使用されました)運命、真実と正義の女神)。

古代イランの伝説では、死後、他の世界への入り口で、すべての人は必ず女性の姿で自分の内なる精神世界の化身であるダエナに出会うと言われています。 義人に対してのみ、彼女は美しい少女の姿で現れ、ストルは聖靈であると信じられていました。



義人はあたかも四段を歩くかのように通過し、最初のステップ - 善い思考の天国に入り、第二ステップ - 良い言葉、第三 - 善行に入り、そして第四ステップを踏み出すと、彼は「無限の光」に到達しました。しかし、地上の事柄に生涯を費やし、自分自身のために悪い考え、言葉、行為を身につけた人々は、呪われた魂とみなされました。そんな重荷を負った魂の前に、ダエナは恐ろしい老婆の姿で現れた。そのような魂は、邪悪な思考、言葉、行為の3つの地獄を通過し、最終的に第4段階で、邪悪の最高神アーリマンとその助手たちに直面することになりました。

アナスタシア：伝説、伝説ですが、そこにどれほどの本当の情報が含まれているのでしょうか。

リグデン： そうですね、それが、理解できない人を通してでも情報を伝えるために伝説が作られた理由です。したがって、生きている人間が肉体の死後に逃れることのできない、いわば個人的な判断は、さまざまな世界の宗教、たとえばキリスト教、イスラム教、仏教、ゾロアスター教、ヒンズー教などで何らかの形で語られています。事実上、世界中のすべての人々がこの知識を持っていますが、表現方法が異なるだけです。たとえば、スラブ人の間では古代から「宮廷」の概念が運命の意味で使用され、その後の神は人間の運命に関連付けられました。「法廷」は良いことも悲惨なこともすべてその手中に収めており、知性や狡猾さによってもその判決を回避することはできないと信じられていた。

アナスタシア：これまで、さまざまな民族の間で、この概念の解釈における「判断」(古代インドの言語のように)は「つながり」、「統一」を意味していました。たとえば、古代のスカンジナビア人とドイツ人の間では、ギリシャ人の間では「海峡、渡ることができる場所」-「貯蔵所」。



リグデン： まさにその通りです。 ちなみに、古代ギリシャ人の宗教的思想では、最高神ゼウスは運命の女神モイラのリーダーでした。 モイラ(古代ギリシャ語「μοῖρα」からの「Moīr̄a」-「運命、分かれ合い」)はすべての人々のものであると信じられていました。 初期の宗教思想では、これは避けられない自然法則、「神の予定説」に与えられた名前でした。 古代ギリシャ人の信仰によれば、ゼウスは地上とその地下を支配し、死者を裁きました。 人の運命の命令はゼウスには分からないことが多く、1つのボウルが人の人生を体現し、2番目のボウルが人の死を体現する黄金(天の太陽)の天秤でのみ、ゼウスは自分の運命を認識したと述べられました。 ゼウス自身は秤量の結果には無関心でした。 そして、生きている人々のために、彼は2つの容器から善と悪を取り出し、それを「盲目的に」人々に配布しました。

中国の信仰では、死後の世界に保管されている運命の本への言及があり、そこには生きている各人の主な出来事と彼の人生の期間が示されています。 シュメール・アッカド人の宗教的考え方では、「死ぬ」ということは、その人の「シムタ」、つまり目に見えない形で人に一生付き添い、将来の運命を決定づけるものに出会うことを意味すると信じられていました。 ちなみに、人の生命力の中に具現化され、その人の性格と運命を決定する2つの相反する力として、「シェドゥ」と「アラド」という概念もありました。 また、「アラド」という言葉は「創造」という意味でも使われていました。 そしてそのような例はたくさんあります。



アナスタシア: あなたはかつて、目に見えない世界、人間の構造、人間の発達の靈的段階についての情報が含まれていなかつたら、古代世界で一般に信じられていた一つの信仰も、一つの世界宗教も人々の間にこれほど普及しなかつただろうとおっしゃっていました。生きた人生に対する人格の責任と、彼の選択の結果についての警告について。

リグデン: 宗教は単なる外形であり、その多様性は主に地上の目的を実現するために、さまざまな時代に司祭によって発明されました。しかし、上部構造(さまざまな思索的な概念のこの形で)の基礎は、さまざまな民族によって世代から世代へと受け継がれてきた精神的な知識でした。そうでなければ、これらの宗教は大衆にとって魅力的ではないでしょう。司祭たちが人間の心から出たどんな殻をかぶせようと、人々は内面で、魂を持って、真の靈的な粒を感じます。

アナスタシア: はい、あなたは繰り返し私たちに、肉体の死後、望むか否かに関わらず、すべての人は目に見えない世界で「個人的な判断」を受けることになるとおっしゃいました。私の理解では、例えばキリスト教、イスラム教、ゾロアスター教などの宗教概念では、人の死後の個人的な裁きと人類に対する一般的な裁きの概念が融合されており、共通の「裁き」であるとおっしゃいました。「日」はすべての生きている人類のために定められています。

リグデン: まさにその通りです。岐路の時代。はるか昔、さまざまな予言で言われてきた、生きている人間には、ある時点で全人類共通の「審判」が訪れるということ。



アナスタシア: 本『クロスロード』の中で、私は今日実現しつつある世界のさまざまな民族の予言について書きました。シュメール人、マヤ人(「鳥人間の予言」)、ケルト人(「時の輪」の予言)です。)、古代ペルシア人など。ちなみに、ゾロアスター教のペルシア人も、あなたがおっしゃったように、死後の世界、復活、共通の審判の日(「(世界を)完璧にする」という意味の「フラシュガード」)について多くの情報を保存しています。ゾロアスター教徒の信念によれば、3人のサオ・シャントが地上の世界に来るはずです(サオ・シャントはアヴェスター語で、動詞「救う」の未来時制の分詞です)。最初の2人のサオ・シャントは、終末にアフラ・マズダの教えを復元しなければなりません。そして最後のサオ・シャントが「最後の審判」を下すために、悪の担い手との最後の戦いに臨む。千年進化の輪が尽きるとき(アシャ、真実、正義、善が勝利するとき)の終わりまでに、人々が幸せに暮らす「地上の楽園」がついに確立されるという事実もあります。地球は谷のようになるでしょう。すべての人々に対して1つの言語、1つの法律が存在することになります。そして、すべての義人が自分の考えと行動によって、この世界の変革の出来事を近づけるということです。今日の立場からすると、これらの予言はすべて伝説のようには思えません。

リグデン: はい、すべては人々自身、彼らの選択次第です。ただ、今日の大多数は、これらのプロセスの重要性、つまり人に永遠への道を開くだけでなく、常に彼の周囲の世界の変化を伴う個人の精神的な変化の重要性を完全には理解していません。終末の予言は長い間存在していました。司祭たちは、さまざまな宗教を創設し、それらを概念に含めました。



しかし、彼らはこの知識を物質的な目的のために利用し、自分たちの宗教だけを信じていれば、死後に救われ、「審判の日」に「肉体の復活」によって死者の中からよみがえると強調しました。さて、人間の心の物質的な置き換えは何をもたらしたのでしょうか？

さらに、今日、これをまったく笑い飛ばす人もいれば、これが「後で」、特に「私の死後」に起こるだろうと無責任に考えたり、「そうだ、その唯一の審判の日が来るときだ」と考えたり、さらには熱狂的にこう考える人もいる。動物の本能は、「信仰のために」お互いを殺し、そのために彼らは「そこで報われるだろう」と考えています。そして、信者の大多数は単に受動的に行動することを強いられ、他の宗教ではなくこの宗教だけの「群れ」に入る必要があり、天国のどこかで天使と悪魔の間で戦いが必要であるという意見を押し付けられました。彼らのためにすべてを決めてくれるでしょう。これらはすべて動物の心のトリックであり、この世の力に飢えた司祭による倒錯です。

実際、別の精神的な世界では、物質的な原理と精神的な原理の区別はなく、あるのは精神的な原理だけです。 精神世界の粒子（魂）が物質的な体の中に置かれているので、その人自身の中に分離と闘争が存在します。司祭たちがさまざまな装いを考え出して怖がらせる「天使と悪魔」は、実際にはすべて、ある意志（精神世界からの意志か動物の心からの意志）を持つ人の選択であり、彼はそれを選択します。受け入れてから自分のものだと考えます。 この選択によって、人は決定的な内部の戦いで自分の将来の運命を決定します。 すべて同じプロセスが社会にも投影されます。 さらに、各個人が自分自身の中で動物性を克服するよりも、社会全体で動物性を克服する方がはるかに簡単です。



人類の「終末」これは — にちのことではなく、人類（社会全体）が最初の日から最後の日までに到達した全体的な結果です。それは、宇宙現象に伴う地球規模の大変動と地球変動の時代に、人類自らが自らに下す、生者に対する「審判」である。

アナスタシア： はい、もし今日の社会が精神的な方向への発展のベクトルを持ち、人々間の友情と相互扶助に基づく宇宙統一の考えによって導かれているとしたら、確かに、現在の技術能力を考慮すると、それはそうなるでしょう。この期間を生き残るチャンスがあります。そして、政治家や聖職者による国家間の敵対行為の激化により、現在このような不和が生じております。この状況に未来はありそうにありません。しかし、実際にはすべては人々の手にかかります。あなたはかつて、本物の人生には常に武功の余地があるとおっしゃいました。よく言われるように、魂はすべての尺度です。

リグデン： まったくその通りです。残念なことに、現代世界にはまだ望まれないことがたくさんあります。しかし。すべては流れ、すべては変化します。実践が示すように、グローバルな性質のアイデアは、大多数の人々の共通の願望と行動、さまざまなグループの共通の利益に向けた努力の統合に基づいている場合にのみ実現されます。つまり、希望があれば、状況は依然として人々自身によって変えることができるのです。

アナスタシア： それで、全人類の未来のためにこのような軍事的・精神的偉業を達成するには、人々に何が欠けているのでしょうか？おそらく、かつてはすべての人々を主要な精神的な願望において団結させていた原始的な知識が、社会には単に十分ではないのでしょうか？



リグデン： これはすでに述べましたが、以前に述べたことの結果を一般的な言葉で定式化するつもりです。さまざまな文化における記号、シンボル、特定の精神的な粒子の存在を考慮すると、知識それ自体が常に存在していたという結論を誰でも導き出すことができます。さらに、それらは現在でも存在しています。そして、もし人が本当に靈的なものを望んでいれば、それを見つけることができます。

しかし実際には、物質的な世界観を持つ現代人は現在の社会の産物です。そして残念なことに、現在の社会は消費者的な思考形態を持っており、人々はますますアニマル・マインドの犠牲者、その意志の指揮者、調理室の奴隸になっています。結局のところ、動物性の支配状態にある人は、精神的な知識であっても、物質的な利益を得て、自分の重要性や動物性の他の性質を満足させるための別の機会しか見ないでしょう。これは、知識自体が存在する場合でも、複数の代替が存在し、眞の精神的な成長が欠如することを意味します。

歴史に深く立ち入るのはやめましょう。あなたの著書で簡単な例を見てみましょう。実際、それは全体の状況を特徴付けるものです。これらの本が出版されるやいなや、知識を求めて努力する人々に加えて、これらの本の知識を利用して自分の個人的なイメージを高め、自分の権威を強化し、物質的思考から自分の概念を促進し、壮大な妄想を満たすために使い始めた人々がすぐに現れました。 そしてその重要性。彼らの中には、この知識の背後に隠れて、自分たちを「教師」または「側近」と呼び始め、こうして試みを始めた人もいます。この情報に基づいて、お金ではないにしても、少なくとも個人的な権威を稼ぎます。



しかし、この知識が本の中で与えられているのは、無知や理解不足のために本質を歪めてしまうような、心から語る仲介者なしで、純粋な形で人々に広めることができるためです。

もちろん、私はこれらの人々に同情します。結局のところ、彼らが受け取った情報を人々と共有するよう促すのは、靈的な原則です。そして、以前の経験(さまざまな宗教や宗派で得られた)の基礎と公準によってコード化された彼らの思考は、魂から発せられるこの欲望と力を、すでに意識の中に描かれている物質的な経路に向け直します。したがって、彼らのパフォーマンスで起こっていることはまったくのバカナリアです。彼らは自分自身を理解することなく、利己的な性質であるため、他人に「教え」、瞑想をどのように行うべきかを示そうとします。彼らは、オカルト的で宗教的な性質を持つさまざまな疑わしい施設で得た以前の経験に基づいて、瞑想テクニックに変更を加えたり、組み合わせたり、歪めたり、修正したりすることが許されていると信じています。一般に、彼らは人間の心から他の人に「教え」ようとします。しかし、カートの荷物はまだそこにあります。

この本には精密な機械が含まれており、これらの人々は無知からそれらを破壊しようとしています。しかし、ご存知のとおり、悪いツールを使用して良いものを構築することはできません。つまり、これは今、あなたが生きている間に、あなたの目の前で起こっているのです。そして、もちろん、この文明に今回の時間があったとしたら、数千年は言うまでもなく、百年後には何が起こるでしょうか？

アナスタシア：はい、本当です。残念ながら、そのような人はたくさんいます。しかし、それでもまだたくさんいます。

この知識の深みを染み込ませた人は、自分自身を変え、この情報を無関心に広める人になろうと努力します。



友人たちと区別することなく、一緒にスピリチュアルな道を歩んでいる友人たちと区別することなく、本を読んで瞑想を実践する人々がいます。たとえ彼らの方がその実践の経験が彼らよりも少しだけ多かったとしても。そのような人々は、左右に叫びません。しかし、彼らの靈的な働きは、まず第一に自分自身に対するものであり、彼らの行いや行動の中に現れています。

リグデン：そういう人たちがいるのはいいことだよ。彼らには原初の知識が与えられています。自己啓発と最高を目指すためには、スピリチュアルなツールを使用する必要があります。したがって、社会には知識があり、欠けているのは、支配的なものが動物的性質の位置から靈的性質へ切り替わることだけです。毎日の確かな選択、自分自身での自主的な取り組みが十分ではありません。結局のところ、人自身が(人に自慢するためではなく、自分自身のために)変わりたいと願い、自分自身に取り組み、自分の考えや欲望をコントロールする実践的な経験を積むまで、認識できないほどに破壊された多くの歪んだ理論や実践に混乱することになるでしょう、粘着ウェブのように。

人は眞のスピリチュアルな知識に触れると、その単純さ、深さ、そして自然さを発見します。しかし、ご存知のとおり、実践のない理論は役に立ちません。何かについて知っているだけでは十分ではなく、その知識を実際に適用できる必要があります。自分自身に対するスピリチュアルな取り組みは毎日多面的に行われています。それには、靈的な道具の助けを借りて働くだけでなく、人間の称号にふさわしい純粋な思考、行為、行動を発展させることも含まれます。



このような包括的な自分自身への取り組みがなければ、たとえ知識を得たとしても、しばらくすると、その人は自分自身にこう尋ねます。つまり、この知識の存在は、心からさらなる疑問を生じさせて彼を混乱させるだけです。なぜ?なぜなら、人は自分自身の靈的な変革に熱心に取り組んでいないとき、この知識が物質的な生活を変えたり改善したりするのに役立つのではないかという密かな希望に満ちているからです。

アナスタシア: 言い換えれば、そのような人は、自分の周りの物質的な世界において、自分自身に目に見える急速な変化を期待しているということです。

リグデン: まったくその通りです。しかし、彼が五感で見たり感じたりする三次元世界の狭い範囲では何が変わるのでしょうか?同じレンガが足に落ちると、やはり同じ痛みが生じ、暑さや寒さは体に不快感をもたらし、人は依然として食事と睡眠の必要性を感じます。そして、彼の動物的な性質は、物質世界のあらゆる快楽に対する何千もの欲望と渴望で彼を恐怖に陥れるでしょう。動物の性質の影響下にある人は、無意識のうちに自分の人生に何らかの物質的な変化、何かに満足感を与える魔法の力の獲得、誰かへの秘密の影響などを期待しています。

アナスタシア: つまり、人は精神的な知識を考慮し、その助けを借りて、三次元の居住者(観察者)の立場から物質世界を精神的に超えることができます。



そして、この次元の形式での物質的思考は、原則として、動物の性質からの満たされていない秘密の願望に限定されています。そうですね、そうです、動物の性質が彼に他に何をささやくことができますか?「この知識の助けを借りて、あなたは他人を支配する秘密の力を受け取っていませんし、あなたの頭上の物質的な後光が群衆の前で輝くこともありませんでした。約束された標高はどこですか?

リグデン: スピリチュアルなプロセスについての誤解は、自分自身への取り組みの最初の段階では確かに存在します。外見的には、そうです、何も変わりません。問題を抱えた体は、年を重ねるにつれて老化し続けます。最初、人は原初の知識のおかげで、三次元の物質的で死すべきものすべてよりもはるかに重要で、何か別の、永遠の、はるかに重要なものを獲得していることに気づきません。知識は彼の中に靈的な強さと知恵を開花させる基礎を与えます。自分の動物的な性質を知っていると、人はすでにどこかでその発現を抑制し、どこかで自分自身を止め、どこかで悪い考えを無視し、こうして自分の未来を変えます。これは、実際に動物が始まったときからの考え方の発展を許可した場合に必ず起こります彼の精神性にとって否定的な状況にあります。このように毎日自分自身に取り組みながら、どこかで言葉で誰かを助け、どこかで善行で他の人に模範を示し、靈的な知識を共有します。そして、人はますます意識的に毎日の選択、つまり「今、ここ」を行うようになります。そして彼の生涯は、そんな「今、ここ」から紡がれていくのです。

したがって、そのような疑いは、靈的成長のプロセスの始まりにある人にのみ特徴的です。そして、すでにスピリチュアルな道をしっかりと進んでいる人は、自分自身を根本的に変え、その意味をより深く理解します。あなたの儂い人生を。



そのような人々は、人々と魂のために多くの有益なことを、計画的であれ完全に偶然であれ、毎日急いで行い、その人格が靈的救いを得る可能性を高めます。したがって、精神的な観察者の確固たる立場に留まり、原始的な知識を持ち、自分自身に取り組むことで、人は自己改善への実践的な鍵を受け取り、たとえそれがもみがらのエレベーターの中に隠されていたとしても、真実の粒を見つけます。

アナスタシア: 今日、情報技術の発展により、人々は人類文明の過去の間違いや経験を分析する時間と機会を手に入れました。さらに、現代人は、同じインターネット技術のおかげで、世界社会の生活におけるさまざまな問題について世界の状況を部分的に監視する機会を持っています。政治家や聖職者の生涯や活動に関する多くの事実がますます世間に知られるようになってきています。これには当然のことながら、社会からの対応する反応が伴います。つまり、人々は政府当局者を信頼しなくなります。

多くの人は、誰が世界政治、経済、そして最も重要なイデオロギーの「台所」の「料理人」である聖職者や政治家一族と共に謀して、人々のために出来事の「スープ」を作っているのかを理解し始めた。多くの人が、誰が顧客で誰がパフォーマーなのかを認識し始めました。しかし、人々は社会のこの状況を変えることはできない、「昔からこうなのだ」と信じ込まざるを得ません。しかし、実際には、人々(人民)自体が、政治的または宗教的な「商品」の「消費者」であるだけでなく、これらすべてのプロセスの実行者および参加者でもあります。



彼らは、もうこのようには生きていけないことを理解しています。しかし、彼らは社会生活を本当に良くするために何をする必要があるのか、机上ではなく実際に理解していません。人間の真の文化的、道徳的、精神的発達を刺激する道を歩み、消費者の思考形式による動物的性質の悲惨な泥沼にはまり続けないよう、社会の運動の軌道をどのように変えることができるでしょうか。戦争と紛争？

リグデン： はい、残念なことに、現代社会では、これらのプロセスの絶望性と不可逆性についての意見が長い間形成されてきましたが、実際には抜け出す方法があり、それは非常に簡単です。人々は情報、日常生活、そしてその出来事をできるだけ頻繁にスピリチュアルな性質からの観察者の立場から評価する必要があります。そうすれば、どのように生きるべきか、何をすべきかをより理解できるようになります。これは、意識の純粹さに取り組む例に似ています。思考は動物の性質から来ています - それを無視し、注意を払わないでください。動物の性質からの善、思考、行為、行動にもっと注意を払う方が良いです。精神的な性質。それは社会でも同じです。悪いことはすべて無視して、周りに良いもの、創造的なもの、親切なものを増やしてください。社会の問題に受動的になる必要はありません。社会の繁栄のための条件を、人々の動物的性質を活性化するインセンティブ、たとえば、プライドの発達、同じ賄賂、金銭的、利己的な関係の代わりに作り出してはいけません。友情など。人々のほとんどが、攻撃性や人々の動物的性質を刺激する聖職者や政治家の「意志」を支持し実行するのをやめれば、社会に人為的に生み出された多くの問題は消滅するでしょう。



私たちは皆人間であり、皆同じものでできているということを理解する必要があります。私たちには誰しも優れているとか劣っているということはありません。私たちは皆、物質的不純物のひとつの樽の中に座っています。つまり、私たちは皆、この物質世界、つまり「永遠の問題と尽きない欲望」を抱えたこの死すべき肉体に閉じ込められているのです。そして、誰もがいつか自分の命のために答えを出さなければなりません。司祭も政治家も、同じ境遇にある同じ人間であり、この世の権力に対する法外な渴望と物質的価値の蓄積に対する情熱を除けば、他の人々と何ら変わりはありません。

アナスタシア: その通りです。人類文明の発展の歴史から判断すると、聖職者(政治家と同様)は常に民衆の支持に依存しており、主に恐怖心に基づいてあらゆる方法を用いて民衆の間で自分の権威を高めようとあらゆる手段を講じてきました。しかし実際には、大多数の人々が特定の宗教を支持するのをやめれば、その宗教は消えていきます。

リグデン: あなたは、公衆意識の特定のテンプレートとして、別の宗教だけが消滅しつつあるだけで、人々の神への信仰は消滅していないと正しく指摘しました。ただ、司祭たちは常にこの信仰を利用し、それにに基づいて、民衆の意識を奴隸化するために彼らの権力に有利となる新しいテンプレートを作成しただけです。

アナスタシア: かつて、あなたとの思い出に残る会話の後、私は、人々の意識にとって特定の宗教の重要性について、さまざまな時期に聖職者が動機と正当化をするという問題について詳しく研究しました。そして、たくさんの興味深い事実を発見しました。ほとんどすべての信仰において、誰かに犠牲を捧げる儀式に重点が置かれていました。宗教儀式の主要な行為を構成する別の神に。



たとえば、今日では、伝統的な儀式に加えて、これは「宗教的ニーズのための」資金の平凡な金銭的寄付です。

その時に話されたあなたの言葉を覚えています。「人々は神への『犠牲』が何であるかさえ覚えていますか?」結局のところ、さまざまな時代のほとんどすべての宗教体系は、犠牲の儀式を中心に構築されました。なぜ古代からさまざまな民族の礼拝において「犠牲」がこれほど重要な役割を果たしてきたのでしょうか? 次にあなたが言ったことは、私にとって本当にひらめきでした。人類にとってこの重要な瞬間にについて読者に伝えていただけますか?

リグデン: まあ、それだけの価値はあるよ。おそらく、「犠牲」という言葉の古スラブ語の解釈から始めましょう。それは耳には面白いですが、本質を反映しています。キリスト教の普及に関連して11世紀にロシア語に登場した「犠牲」という言葉は、古教会スラヴ語の「zhirj」(「食べる」)という言葉の形成に由来していることはすでに述べました。、「犠牲を払う」)。そして、「zhru」(「zhirj」)は、以前はスラブ人によって「食べる」(インド・ヨーロッパ語起源の古教会スラヴ語の動詞)、つまり「吸収する」の意味で使用されていました。ちなみに、「吸収」という言葉は、古代ロシア語で「命」を意味する「腹」という言葉に関連付けられていました。そこから、古スラブ語の「動物」という言葉が生まれました。文字通りの意味では、「生きているもの」という意味です。ちなみに、「動物」という言葉がキエフ大公国で広まったのは、まさに 11 世紀から 12 世紀にかけての秘密のリニューアルのおかげです。ペチャ尔斯クのアガピットによる原初の精神的な教え(四つのエッセンスを含む)。



アナスタシア： 古スラブの寺院、特に特別な標識やシンボルが施された寺院は、それ自体はまったく「祭壇」ではなかったことがわかりました。おそらく、場合によっては、これらは、例えば古代の人々が神聖な洞窟に集まり、岩面彫刻から学んだように、何世紀にもわたって人々が靈的知識を(記号や象徴によって)学び、経験を交換するために来た有名な場所であったのでしょうか。

リグデン： 基本的なスピリチュアルな知識があれば、これを追跡するのは簡単でしょう。それで、「zhru」(「zhry」、「zhere-ti」)という言葉はその後、「司祭」という言葉を意味するようになりました。関連する言葉の語源をたどると、以前は「自慢する人、自分を思い出させる人、称賛する人」を意味していたことがわかります。ここで、「司祭」という言葉が、今で言うところの、従来の神にもたらされた贈り物の実際の消費者という概念の中で人々の間で生まれたのです。ちなみに、古代ルーシには「犠牲」という言葉がありましたが、これは「食べる」、「むさぼり食う」という意味でもありました。これは、「賄賂を取る人、抑圧者、強盗、犯罪者」を意味する「zherts」という言葉に由来しています。したがって、人々はこの世界で誰が誰であるかに間違いなく気づきます。ロシア語の「犠牲者」の意味を調べてみると、「食い荒らされた、破壊された、滅びる」という意味であることが分かります。これは、与えられるもの、または取り返しのつかないほど失われるものです。これは無私無欲であり、恩恵や喜びを放棄することです。

世界の多くの人々の宗教的信念において、犠牲はさまざまな種類の神への宥めの、または感謝の捧げ物です。主に地球や動物界の果物から得たものです。



これは「汚れを清め、靈的な純粹さを達成する」ことです。たとえば、聖書を考えてみましょう。そこには、先祖の息子たちが神に犠牲を払ったと述べられています。カインは大地の果実から、アベルは羊の群れからです。現代の世界の宗教では、犠牲は自分の富から自分にとって大切で楽しいものを寄付することの象徴とみなされます。

しかし、これらの信仰や象徴的な儀式の精神的な起源を深く掘り下げると、神への真の犠牲とは何か、つまり神と人間の関係を意味するものを理解することができます。神への本当の犠牲とは、人が自分の動物的性質を自分の人生の祭壇に犠牲にすること、つまり、多くの欲望、思考、つかの間の一時的な幻想を放棄し、それによって真の永遠、つまり世界への靈的な道を自分のために開くことです。神の。そしてかつて、人類の黎明期に、動物の性質は地球の果実に似ており、最初は目を魅了しますが、すぐに腐ってしまうと人々に説明されました。この短期間を神に犠牲にすることによってのみ、あなたは神の永遠の中に浸透する機会を得ることができます。つまり、動物の性質の誘惑を拒否し、自分自身に取り組むことによってのみです。そして、あなたが靈的に成長し、善を行い、動物のように本能に従って生きる他の人々を目覚めさせるのを助けるなら、神にとって、これはあなたが自分の群れの良い子孫から経験する喜びに似ています。

犠牲を捧げたり、信者と神々との間でコミュニケーションをとったりするための場所、つまり人々が今日祭壇と呼んでいるのは決して偶然ではありません(ラテン語から)「altaria」(「altus」-「高い」から)は、もともと古代では、主に正方形、円、橢円形(円柱)、立方体形(ひし形)など、単に記号またはシンボルの形で指定されていました。



これらすべての輪郭は、人が変性意識状態で行った靈的実践の明確な象徴として機能し、その瞬間に彼は深い感覚レベルで神と直接コミュニケーションをとりました。そして、そのような神との官能的なコミュニケーションの瞬間は、人格がこのプロセスに完全に没頭し、精神的原理によってのみ支配されている場合にのみ可能です。精神的な世界を優先してそのような選択をすることによって、人はそれによって意識の中で、物質的な世界ではよく知られている動物の性質の優位性を意識的に「犠牲」にします。その後、靈的な知識が失われ始めると、人々は同様の象徴的な形状の物質的な祭壇(粘土、木、金属で作られた)を建て始めました。それは、平らな円形または橢円形の石、正方形のテーブル、立方体などでした。彼らはそれらを寺院の高い場所に設置し、世界の特定の地域に向けて、物質的な犠牲を払い始めました。

アナスタシア: 確かに、宗教制度には非常に深刻な置き換えが起こっています。

リグデン: そして、それは精神的な世界観を物質的な世界観に置き換えるだけではありません。それは、自分の中にあるものを目に見えるようにする光を失うようなものです。置き換えは、人の世界、自分の人生と周囲の世界の本質、この世界に一時的に滞在する目的と目的についての理解のまさに根幹で起こりました。



主要な靈的要素、主要な靈的指針である神への奉仕と神との継続的なつながりが失われています。したがって、人々の意識は動物の心の意志によって非常に簡単に支配されます。その結果、彼らはこの世界の幻想を現実の世界だと思い込んでしまいます。何世代にもわたる靈的知識を手にしている人々でさえ、この世の塵、つまり物質的な利益や群れに対する平凡な権力を追い求めています。司祭たちは、誇りから、自分たちがこの普遍的な靈的知識の所有者であると考え、これに基づいて収益性の高いビジネスを構築しました。そこでは、人々は彼らの奴隸および永久のスポンサーになります。つまり、彼らは司祭が発明した公式に従って存在します。お金を払って私たちに奉仕してください。」重要なものの、つまり神と人々への無償の奉仕が失われています。これには、原始的な靈的知識の普及と伝達が含まれ、人格と魂の融合を可能にし、人が独立して靈的解放を達成することが可能になります。

アナスタシア：はい、アニマルマインドが現代人を奴隸にしています。古代人が言ったように、人間は精神的な高みを目指して努力する自由な鳥の代わりに、風の気まぐれに地球を駆け巡る鳥の羽のようになっています。物質的な利益と権力の莫大な増加が道徳の向上を伴わないことは、人々の間で長い間注目されてきました。

リグデン：まったくその通りです。つまり、犠牲は古代から存在していました。さらに、それは部族、民族、国家、世界など、宗教のさまざまな発展形態の特徴であることに注意してください。基本的には宗教の形式上、呪術的な行為、生贊(贈り物)を捧げる儀式として扱われていました。超自然的な力、精霊、神などを対象にして、これらの力への献身を表現し、それらの力のおかげで、たとえば、人間にとて超自然的な方法で物質(人々や自然現象)の状態に一定の影響を与えることができます。



この場合、さまざまな種類の犠牲が使用されました。たとえば、穢れを浄化するために香りのよいハーブを燃やしたり、靈や神にこの世的なものを求めたりします。山道や「聖なる泉」など、シャーマニックな靈の「力」や「住まい」の場所に、要素を和らげるために色とりどりの布地を吊るす。

アナスタシア: はい、来年の収穫が良くなるように採集や農業の産物を犠牲にしたり、次の収穫が良くなるように狩猟の獲物を犠牲にしたりすることも知られています。彼らはまた、より大きな子孫のために、あるいはこの世界の共同体や個人の事柄に関連するものを求める請願として家畜を犠牲にしました。

リグデン: そうです。つまり、さまざまな宗教的信念の体系における犠牲は、無害な香草の燃焼から、処女の犠牲、寺院の同性愛、人体の一部と人の命の血なまぐさい犠牲に至るまで、非常に異なっていました。そしてほとんどの場合、これらすべては物質世界で特定の力を獲得するために、つまり地上の目的のために祭司によって行われました。

アナスタシア: 最も興味深いのは、これは古代に起こっただけでなく、現在でも宗教と極秘の両方で行われているということです。同じアルコン同士のオカルト結社。



そしてそれは、国際社会が長い間、遠い過去の聖職者による人身御供や同様の残虐行為を非難してきたという事実にもかかわらずである。読者の皆さんも、当時の私と同じように、なぜ人類の歴史を通じてこのような犠牲が払われ、この現象が人間社会に生き続けているのかを知ることは非常に有益だと確信するでしょう。なぜこれが宗教構造においてこれほど細心の注意を払われてきたのでしょうか？この世の問題に対する熱心な奉仕を靈的知識に置き換えるということはどこから來たのでしょうか。

リグデン：もちろん、これはかなり深刻な質問です。しかし、今日の人々はすでにそれについて考え始めているので、その世界的な本質を伝える価値があるかもしれません。物質世界には単一の動物の心があり、それについてはすでに何度か言及しました。今日、現代科学でも、主に生物の集団の行動に顕著に現れる、その個々の症状が記録されています。たとえば、生殖、細菌の集団細胞への攻撃から始まり、動物の集団移動、攻撃、自滅などで終わります。ちなみに、ラテン語の「クオーラム」とは「十分な人」、つまりコミュニティの十分な数を意味します。科学では、この現象は集合知と呼ばれます。定足数の感覚（特に支配、制御、物質の捕捉、貪食を目的としたもの）は、ミクロの世界とマクロの世界の両方で多くのプロセスを制御します。たとえば医学では、がん細胞が知的共同体として一緒に行動することが観察されています。薬物にさらされた場合でも、相互に信号を送信し、しばらくの間フリーズします。つまり、薬物の効果を「共同で」ブロックします。



各セルは、定足数から特定の信号を受信すると、一般的な動作（集合知）に従って動作モデルを変更します。つまり、本質的に、それは合理的な有機体の中の合理的な有機体です。今日、生物学の分野では、ミツバチ、アリ、マウス、ラット、イルカ、大型哺乳類の集団生活に関する多くの研究が蓄積されており、そこでは集合的な精神の優位性がはっきりと目に見えています。ある物質が他の物質に対して優位にあるという現象は、宇宙を含むあらゆる場所に存在します。このことは、惑星や星系の挙動に関して天文学者によっても注目されています。たとえば、私たちからそれほど遠くない、天の川の星団には、本質的に吸血鬼である巨大な星があります。これらは二重星であり、星の一方が非常に近くに位置する「パートナー」からガスの形で物質を自分自身に引き寄せるだけです。そして、それに従ってこの星を完全に吸収し、その寿命を延ばし、しばらくの間超巨星になります。同じ物質支配の法則に従って、すべてが同じです。私は、宇宙で起こるプロセスに対する惑星や銀河のコミュニティの集合的な影響について話しているわけでもありません。それは、技術的能力のレベルが不十分であるため、今日の人類がまだ研究できないことです。しかし、これらの現象は存在しており、今日でもこれを間接的に裏付ける証拠が数多く見つかります。したがって、単一の動物の精神への従属は、部分的に物質的な性質を持つ生き物で構成される人間社会を含むあらゆる物質の特徴です。



一匹の動物の心は、共通の始まり(それ自体)と、集合的な心と個々の心の形での分割を持っています。比喩的に言えば、それは独自の多層構造と組織を持つ独立した有機体のようなものです。ちなみに、「オーガニズム」という言葉は、ギリシャ語で「道具、道具」を意味する「オルガノン」に由来しています。管理における複雑さと一貫性を理解しやすくするために、全体として機能する人体を例に挙げます。

身体にはさまざまなレベルの組織(分子、細胞、組織など)があります。それは、すべての生物学的システムの働きを調整する共通の心(脳)を持ち、それによって生物の生命を維持します。臓器が従属するシステムもあります。細胞が特定の全体的なリズムで働く器官があります。独自の構造と自己複製能力を持つ有機的個性の最低レベルとして細胞が存在します。しかし、同じ細胞が器官の一部、システムの一部、生物全体の一部です。つまり、それは物質の統一された動物の心の構造の中にはあります。集合的心と個人的心には多くの部門があり、それらは互いに密接に影響し合い、それによって単一の動物の心に従属する小宇宙と大宇宙のシステム全体が形成されます。

アナスタシア: 私たちは管理された物質について話しているということは、アーリマンがこれに何らかの関係を持っているに違いないということですか？



リグデン: まったくその通りです。アーリマンは統一された動物の心を支配する力を持つ者です。そしてそれを、たとえば物質的なフィルターを通して、神の世界の「純粋な魂」を強調するために使用します。

アナスタシア: 自己改善の道を歩む人なら誰でも、人の中でアニマルマインドがどのように働くのかを学ぶことに興味があると思います。

リグデン: 彼はさまざまな方法で意志を表明します：動物の性質を通して（背中と横のエッセンスが彼のモードで働くときの活動を通して）、物質的な体を通して。

アナスタシア: はい、ほとんどの人が鏡に映った自分だけを見て自分を識別し、人々が言うように、体がありのままの自分であると考えていることを考えると。

リグデン: もし人間がただの体だとしたら、彼はそれを管理する際の微妙なニュアンスをすべて完全に理解しており、体の中で絶えず発生する何万ものさまざまな重要な機能と動作を管理して生きているでしょう。しかし、身体は単一の有機体として、主に人格の意識から独立したモードで機能します。鏡がなければ、人は自分の体に何が見えますか？彼は今ここで、目に見える世界で開いた目で何を見ているのでしょうか？彼は、意識の「暗い部屋」からこの三次元の外界を観察するために当初意図されていた2つの「窓」（目）が彼に許可するものだけを見ます。この方法で、パーソナリティは自分自身や世界の多様性についてどれだけ見て学ぶでしょうか？思考や感情は彼の意識の産物なのでしょうか？そして、人は自分がどこにどのように現れるかを知っていますか？



動物の心は、何らかの形で、物質世界の一部である動物の性質という区分を通じて、常に人に影響を与えます。ほとんどの場合、人々はこれさえ理解していません。思考はただ存在しており、人はそれが自分の「所有物」であると考えます。動物の二面性を知らず、当然のことながら、これらすべてを自分自身で追跡していない場合、人々が動物の心からの行動や思考を自分自身で捉えることは困難です。その結果、彼らは動物の心の意志の現れを自分の考え、欲望、感情などとして認識します。実際、人は自分の選択においてのみ自由ですが、思考から自由ではありません。なぜなら、彼の意識(観察者)が実際に思考を生み出すのではなく、思考と精神的な性質(彼の意志)からの刺激という2つの流れの間で選択するだけだからです。)または動物の性質(その意志)からの思考と欲望。つまり、人は自分が好む、または誘惑する意志を選択し、それに注意力を適用することで行動を生み出すことができます。これが重要なポイントです。人間の選択。

アナスタシア: はい、人はただ、押し寄せる気分、感情、思考を受け入れるかどうかを選択するだけです。多くの読者は、一日を通して自分の思考を追跡することで、このことを実際にすでに理解しています。たとえば、ここに人々が手紙で説明する典型的な状況を示します。「結局のところ、すべてがうまくいっているように見えるのに、突然否定的な考えや感情が現れ、理由もなく気分が落ち込んでしまうことに何度も気づいたことでしょう」。すべてに対する無関心、内面の緊張感、不安、恐怖があります。しかし、私はこれを望んでいませんでした、まるでそれに加えたかのように、それはただ自然に起こります、私の欲求。



最も興味深いのは、突然押し寄せる悪い考え方や感情を単に無視し始めて、何か良いこと、たとえばポジティブな考え方や良い行為に意図的に集中し始めると、しばらくすると、この状態が消えたかのように、このネガティブな感情が後退することです。まったく存在します。そして、あなたが機嫌が悪いことに屈したり、自分自身を憐れみ始めたりすると、一般に、否定的な感情に注意を向けると、この状態は悪化するだけであり、むしろ寄生虫のようにあなたのうちに住み始めます。あなたの人生を毒すること。その後は、座って瞑想するのが少し難しくなっても、無理をして座ります。しかし、すでにスピリチュアルな修行を行っているときは、ここではあなたは本来の内なる自由の状態、存在するすべてのものに対する多大な感謝と愛の感情、そして感情の純粋さに切り替わります」。

リグデン：もちろん、この切り替え、動物的性質からの考えを無視し、スピリチュアルな性質の優位性を選択し、主張することは、自分自身に取り組むことの本質です。動物の心は、人々に自らの靈的性質と対峙し、物質の優位性、つまり「分割できない」「不朽の」物質の体だけを信じることを強います。人がうつ病に陥ったり、自己批判に陥ったり、逆に、この世の名声や富などを追求して物質的な欲望の夢に覆われたりするとき、これらすべては、現時点では、彼がそれに気づかずに、動物の心の意志に従属しており、そのシステムは管理が簡単です。

アナスタシア：実際、人は動物の性質からの刺激的な思考や物質的な欲望の存在によって、動物の心の発現の瞬間を追跡することができます。



リグデン： はい、ただし、人が自己の中で同様の考え方や欲望の出現を監視し、このプロセスに参加したり強化したりしないことが条件です。人間の生活におけるアニマルマインドのコントロールは日常的なものであるため、本人はほとんどそれに気づいておらず、その現れは自分の考え方、欲望、習慣、性格などに起因すると考えられています。しかし、動物の心の意志への明らかな服従は、心理学者によって、いわゆる表現力豊かな群衆の行動の中に追跡することができ、その活性化の重要なポイントが動物の性質の支配である場合、活動的な群衆ではさらにそうです。これは動物の心の支配であり、「熱狂的な」群衆の集合的な心を通してそれが現れたものです。

一般に、群衆の中のすべての「特徴的な」個人はすぐに「個性」を失うことを理解する必要があります。集合的な心のるつぼの中でそれらは柔軟になります。そのような環境では、誰もがすぐに一般的な興奮、衝動性、即興的で無思慮な相互反応に感染してしまいます。一般に、群衆の中の人々は非人格化され、塊になります。個人は自己認識を失い、群衆の一般的な意志に特徴的な衝動と感情が彼の中で目覚めます。さらに、これらの衝動や感情は、人が慣れ親しんでいる制限や日常的な制御の対象ではなくなります。つまり、人間も物質世界の一部であることを考慮すると、人間の共同体は集合的な心（動物の心に従属する）によって特徴付けられます。



人が群衆の中にいて動物の心の意志に従属する場合と、人が集団の中にいる場合には、大きな違いがありますが、その中の誰もが真の個性を保持しています。最初のケースでは、動物的な性質が彼の意識の中で完全に支配的であり、それは狭くなり、物質的な欲望と動機、動物的な本能だけが彼の中で活動し、精神的な性質はブロックされています。群衆の中で、個人は人格として無効になり、単一の動物の心を持った群衆の有機体だけが存在します。しかし、靈的な原則が人の中で支配的であり、その人が、例えば共通の善で創造的な行為を一緒に行う同じ考え方を持つ人々のグループにいるとき、その人は真の個性を保持します。魂(神)を伴う人格。彼は他の人々が、よく言われるように、彼らと同じ波長にあり、彼らの成功を喜ぶのを感じることができます。彼の意識は依然として拡大し、注意と深い感情を通じて魂との絶え間ない個人的なつながりを維持します。 同様のプロセスは、人々が一緒に精神的な修行を行う集団瞑想中にも起こりますが、誰もが自分の精神的な性質と個人的なつながりを持っています。

アナスタシア: 精神的原理に関する基本的な根源的な知識が社会で失われ、残った残響が宗教によって徹底的に処理されると、精神的原理の意志による社会とすべての人の支配が何を意味するのかを人が理解することは困難になります。今ではそれは「地上の天国についての」伝説のように聞こえます。しかし、群衆の中での動物の心の意志の支配に関しては、多くの例がありますが、ほとんどの人は目に見えない影響力の源の本質を理解していません。この現象は一般的に人間社会に固有のものです。



現代科学では、社会心理学や群衆行動の研究に関してすでに多くの研究が行われています。彼らと知り合いになれば、同じ攻撃的に行動する群衆にとって、動物の性質のすべての兆候が非常に特徴的であることが理解できます。

たとえば、攻撃的な群衆は、怒りと悪意、盲目的な憎しみという単一の感情によって動かされています。そしてこの意志は、人間の靈的性質とは異質であり、群衆の中の人々の行動を、同族の破壊と殺人に向けて導きます。パニックに陥った群衆は、ただ一つの恐怖の感情に支配されます。他の動物の群れと同様に、それにさらされた人々はパニックに陥り、親戚を踏みにじる可能性があります。この瞬間、人々は人間性を失い、恐怖と自分だけを救いたいという願望から、動物的本能が優勢な、いわゆる「頭がおかしくなる」生き物になります。いわゆる買収的な群衆の支配的な感情は、貪欲や大きな物質的価値を所有したいという動物の性質のような性質です。あるいは、たとえば、あらゆる革命やクーデターの変わらぬ属性である反乱軍の群衆。動物の心の意志の典型的な指揮者であり、その「狂気」の中でどのような行動をとっているかを考えると、人々の破壊、ポグロム、放火、武器を強奪したいという欲求、性癖などです。恣意性、暴力、凶暴性など。

リグデン： まったくその通りです。それは、動物の性質の意志の感情伝導体と、ある事柄を別の事柄よりも支配するための同じ影響力と闘争の法則に基づいています。



人類の大多数はアニマルマインドが人類に及ぼす影響について一般的な考え方を持っていませんが、そのようなさまざまなタイプの群衆行動などのその個人的な現れの問題は、特に諜報機関によって注意深く研究されています。さまざまな国の。さらに、特定の政治的または宗教的目標を達成するために、群衆の中の人々のそのような無意識の行動の事実を利用するテクノロジーが開発および実装されています。

たとえば、交通事故などの最も平凡な街頭事件には、好奇心旺盛な通行人という形でランダムな群衆が集まることが長い間知られていました。この群衆は、起こったことと同じタイプの感情に感染します。つまり、心理学者が「循環反応」と呼ぶものが発生します(群衆内の感情感染が増加します)。いつものように、誰が何を見たのか、誰がどのように運転したのか、どのように方向転換したのか、そしてどの運転手に過失があったのかという議論から始まります。しかし、この感情的な情熱の激化は、群衆が時折(ランダム、ラテン語の「occasio」から「場合」に由来)から表現力豊かなものへと急速に変化し、交通事故についての議論のテーマが事故の探求へと変化することで終わる可能性がある。道路のひどい状態、貧しい生活、社会の秩序の欠如を誰かが責めるべきだ。そのような感情が熱くなると、群衆が活発な感情に変わるのはそう遠くありません。

おそらく、これがどのようにして起こるかを正確に理解するために、群衆感染の同様の影響に基づいて、権力を変えるためのテクノロジーを情報機関が使用する典型的な図を示します。さらに、そのような方法は、さまざまな国の競合国家と独自のサービスの両方で実践されています。



たとえば、ほぼ同時に、首都のさまざまな場所で交通事故が「突然」発生します。当然のことながら、ランダムな「傍観者」の群衆が生じますが、その中には、時折（ランダムな）群衆を演説で活発な群衆に変え、それをポグロムや暴動、ある政権による別の政権の打倒に向けることができる専門家がいます。また、別の方針でのみ群衆に感染する同様の感染や、大衆にアニマルマインドの発現を引き起こすその他のさまざまな計画は、世界のさまざまな国で準備され、人為的に達成された一連の色彩革命を通じて追跡することができます。

アナスタシア：悲しいことに、ほとんどの人がこのことに気づいておらず、その結果、これらのテクノロジーが依然として群衆の中で機能しているということです。もし人がそれらのことを知っていたら、その人は他人の手に渡る駒になることはないだろうし、自分の靈的性質とは異質な意志に意識的に屈することもないだろうし、その人格に物質的支配者の重荷を負わせてその積極的な指揮者になることもないだろう。しかし、これは、日常生活の中で動物的性質の考え方や感情を優先する、その人の生活習慣によって起こる可能性もあります。さらに、人は他人の行動を真似する傾向があります。そして今日、多くの人は自分の考えがきれいであることを気にしません。

おそらくそれが、社会では「動物の気分」が、良いもの、精神的なもの、ポジティブなものよりもはるかに頻繁に、そしてより速く伝わる理由です。さらに、それは導火線に火がついたように、非常に速いスピードで国民の間に広がりました。多くの人がそのような現象に遭遇しますが、残念ながら、必ずしもそれに気づいているわけではありません。



たとえば、彼らは友人や親戚に会い、原則として、今日または今後数日会ったり話したりした人、そして自分の否定的な行動や言葉で非常に感銘を受けた人について話し始めます。そして興味深いのは、その人は「自分の平和を乱す者」の言葉を伝えるだけでなく、彼の怒りや特定の言葉の強調、身振りを正確にコピーしようとしているということです。言い換えれば、この情報を送信するとき、彼は同じ感情とアニマルマインドからの力に圧倒されます。さらに、理解も自覚もなく、ガイドとして、知人、友人、職場の同僚、家族に否定的なものを強制的に押し付けようとします。一般に、この現象が世界社会にどれほど広まっているのか、人間規模でさまざまな人々によってこれが一日に何回行われているのかを考えると、かなり悲しい状況が浮かび上がってきます。

リグデン：人々はそのような状況の理由を理解し、動物の心の意志を無視し、動物の次のガイドにならないようにする必要があるだけです。そうでない場合、現時点で人が、たとえば自分を魅了した会話に多くの個人的な注意を払っている場合、彼自身がこれに感染し、動物の心の次の指揮者になるでしょう。このような感染の結果として、人はこの「ニュース」を他の知人に伝えたがりますが、多くの場合、動物の性質からのトリックを使って(誰かについて議論したり、誰かを軽視したり、誰かを笑ったりする理由として)、そして間違いなく他の人に伝えようとします。同じ感情のコピーです。動物的性質は、人々がそれについて知らず、自分自身の中でその現れを追跡しない場合、人々の中で強くなります。



アナスタシア: 良いこと、親切なこと、特にスピリチュアルな意味で重要なことについてのニュースは、動物の性質からの感情的なニュースの場合ほどすぐには広まらないことも興味深いです。そして典型的なのは、人が良いニュースを伝えるとき、あたかもそのニュースから得た知恵を自分から再現するかのように、自分の声でそれを語ろうとすることです。

リグデン: 残念ながら、現代人はスピリチュアルな世界からのガイドとしての役割を果たすことがありません。したがって、彼らはテレビで出来事を見ますが、テレビなしでは見ません、人の言葉を聞きますが、言葉なしでは理解できません、さまざまな言語で本の読み方を知っていますが、本の読み方を知りません彼らの人生の。彼らは人生の川の流れに従い、流れに立ち向かい、そこに意味を求めようと努めますが、自分の存在の意味がその向こう側にあることを理解していません。多くの人は、単に物事の死んだ外観の中で生きており、盲目的に動物の心に仕えています。しかし、あなたは創造が始まるものに従って生きる必要があり、靈的な創造に従って生き、靈的な世界に奉仕する必要があります。そして初めて、人は出来事を見て、人々を理解し、靈的な性質からの観察者の立場から自分の人生を調整できるようになります。

アナスタシア: 現代社会における最も差し迫った問題の 1 つである、一部の人々のアルコールと薬物への依存についても触れたいと思います。あなたはかつて、動物の心がこれらの毒を通してどのようにして人格をその意志に従属させるのか、どのようにしてそれらへの依存がそれに気付かないうちに発達するのか、そしてその人の靈的な性質とは異質な影響下に陥ったとき人が何を失うのかについて話しました。



リグデン: はい、これは特別なトピックです。アニマルマインドが人を完全に征服する方法の 1 つは、その人の中にアルコールや薬物を使用したいという欲求を引き起こすことです。人がアルコールや薬物を使い始めると、動物の心が彼を完全に支配し、奴隸にし始め、靈的な性質からの力が発現する可能性をブロックします。神経生理学的レベルでは、不均衡が発生し、多くの脳ニューロンがブロックされます。その人はすでに情報をあまり認識していません。しかしその一方で、動物的な性質が彼の中で積極的に支配しており、彼にとっては自分が「英雄」であり、この世界ではすべてが許されているように見えます。そのようなシャボン玉(幻想)は、原則として、その人が実際にそのようなものだからではなく、単に脳の機能システムに誤動作が発生し、人格の意識状態が別のモードに切り替わるために発生します。動物の性質に完全に服従すること。人間の靈的な性質にとって、これは崩壊であり、比喩的に言えば、魂を猛毒の環境に置くことと同じです。彼女の強さはとても 部分的には「光フィルター」であるサブパーソナリティによってブロックされており、新しい人格における動物性のそのような完全な支配は、その最後のチャンスと希望を単に奪うだけです。アルコールと薬物は人を動物の心の従順な奴隸にし、たとえ少量でもその人の中の靈的な芽を殺します。

時間が経つと、人はアルコールや薬物中毒を発症しますが、彼はあらゆる方法でそれを否定します。同時に、その人は、あらゆる理由(伝統、休日、誕生日、葬儀、個人的なストレスなど)を理由に、頑固にこの毒を使用し続けます。



その結果、彼は自分の精神的基盤がどのように失われていくのか、この依存がどのようにして自分の人間性を動物的本能のレベルまで低下させることに発展するのか、どのように人格が劣化していくのかに気づきません。酩酊している人は情報の知覚が不十分であることはすでに述べました。ほとんどの場合、アルコール中毒（中毒を考えてください）の瞬間に彼らの中で支配しているのは、愛する自分自身について、自分の誇りの対象について、自分の満たされていない利己的な欲望、実現されていない法外な野心について、動物の本性から大声で出される思考だけです。これは本当に本当の悲劇であり、何よりもその人格そのものにとってです。

精神的な成長に真剣に取り組んでいる人の体は、これらの毒（アルコール、薬物）に物理的に耐えることができません。なぜ？ そうです。なぜなら、これらの有毒物質を使用すると、別の精神的な世界との微妙なつながりが破壊され、現代の言葉で言えば、超感覚能力が失われるからです。アルコールや薬物の影響下にある間、人は目に見えない世界から来る情報を読み取ることができず、彼の超自然的な能力は単に消えてしまします。この状態で彼が知覚するすべてのものは、人が自分の考えや欲望であると考える動物の心の意志の現れです。

このことは古代から知られていました。このことは今でもよく知られています。たとえば、ソビエト連邦には強力な特殊サービスのシステムがあり、その中にはとりわけ、超常現象の研究や超感覚的知覚の開発に携わる部門が含まれていました。

従業員、たとえばスリーパー（これは、他人の記憶に侵入できる人に与えられた名前であると説明しましょう）。



そのため、アルコールや薬物の厳格な禁止は言うまでもなく、ケフィアさえも彼らの食事から除外されました。喫煙は原則として許可され、ニコチンとタールは人体を酩酊させるものの、ミラーニューロンをブロックしないため、目に見えない世界を妨げられずに働き、必要な情報を読み取ることができる。

したがって、たとえ少量のアルコールを飲む人でも、期間を問わず、人格として靈的に低下します。アルコールや薬物を使用したいという欲求がある場合、これらはあなたが動物的な性質の力を受けていることを示す最初の症状です。これは、意識の支配的な部分を切り替えて、スポーツや肉体労働などのポジティブな側面にもっと注意を集中させるための措置を講じる必要があることを意味します。人が飲酒や薬物の使用を完全にやめると、体は時間の経過とともに回復し、その人は自己の人格の精神的な発達の機会を得ることができます。

物質の心は非常に活発です。これらは、物質的な考え方を持つ「不信仰な」人々が、アルコールや薬物の助けを借りて、ある種の「無限の自由」を達成することを考えざるを得なくなつたときに現れるものです。これらは、「信じる」人々が、アルコールや薬物の助けを借りて、おそらくある種の秘密の知識や「靈的頂点」を理解するための「機会」の一つを手に入れる考えざるを得なくなるときの現れです。これらすべての思考は動物の性質の幻想であり、何らかの形で人々を動物の心の意志に絶えず依存させ、この毒の次の投与に関連した魅力的な思考形態を生み出します。



アナスタシア：多くの人は単に明白な事実を見ていないだけで、なぜこれが自分や友人に起こっているのか、なぜこの問題が依然として社会に存在しているのかを考えていません。彼らは次のような質問をしません。「安定したアルコール依存症はどのようにして生じ、形成されるのでしょうか?」誰がそれを人為的に社会に導入し、靈的原則にとって致命的なそのような「伝統」を積極的に支持しているのでしょうか?しかし、人は自分自身や自分の人格を破壊するだけでなく、彼の周りの社会に問題を引き起こします。

これは、家族や子供たちに対して責任を負っている人には特に問題となります。結局のところ、重要なのは、彼が子供たちにどれだけの物質的な富を提供できたかではありません。重要なのは、どれだけの人が彼らの人生の模範を通して彼らに精神的な価値を与えることができたかです。結局のところ、子供たちは個人の所有物ではなく、人が老後に頼ることを計画している「松葉杖」でもありません。まず第一に、これらは意識が白紙の新しい人格です。彼らも他の人々と同じように、精神的な解放の機会を見つけるためにこの世界にやってきました。実際、これらの新しい人格は、幼い頃から、自分にとって権威のある人々、主に両親から、多くの点で彼らの模範となる前世代の人生経験を観察し、取り入れています。家族の中にアルコールの使用に関連した「伝統」がある場合、幼い頃から動物の性質への否定的な経験と依存の態度が子供たちに明らかに課せられ、大人はホームパーティーなどで飲酒するときにそれを示します。



人々は、その本質と長期的な影響を理解していないため、これを無害な行為であると考えています。

リグデン：彼らは、自分たちがこのようなことをすることでどれほどの悲しみを引き起こし、自分たちの子供だけでなく、将来の子孫の魂も苦しむ運命にあるのか理解していません。しかし、人々がまず自分自身に取り組み始め、自分たちが住んでいる社会そのものをより良い方向に積極的に変えれば、この状況は修正できます。そして社会はどうなるのでしょうか？ここで、誰がアルコールと麻薬を人々に広めているのか、そしてなぜ今もこの行為が行われているのか、その根源を見つめる必要があります。この情報は現在でも見つけることができます。

最初に麻薬とアルコールを人々の大量使用に導入し始めたのは、これに明らかな利点があると考えた聖職者と政治家でした。なぜ？はい、なぜなら、私が言ったように、薬物とアルコールの助けにより、人格の精神的な要素がブロックされ、人は他人の意志の影響に簡単に屈してしまうからです。アニマルマインドからのガイドがそれを制御し、群集（「バイオマス」）の一部としてその意識を操作することが容易になります。

今日の現実を見てください。世界中でこうした現象と闘っているように見えるにもかかわらず、なぜこのようなことが密かに奨励されているのでしょうか？古代と同じことが起こっていますが、アルコールと麻薬のより大規模なプロパガンダと配布が、製品自体やその広告だけでなく、ステレオタイプの形成や社会の大衆文化への導入を通じて行われています。たとえば、メディアの大きな影響や、大衆文化プロジェクトや長編映画などです。



結局のところ、アイドルのイメージとその「習慣」を通して、ステレオタイプを使用するのが最も簡単です。

すでに述べたように、どんな個人も模倣する傾向があるため、人をコード化し、システムに従属させることです。一般に、すべてが一見したほど単純であるわけではありません。

アナスタシア: 残念ながら、これが今日の真実です。

リグデン: しかし繰り返しになりますが、人々が自ら社会に秩序をもたらすことを誰が止めているのでしょうか? 人格者が自分の考えを規律するのを妨げるのは誰ですか? すべては人々自身の手の中にはあります。あなたは他の人の良い模範となり、少なくともこの点に関して自分自身とあなたの周囲に好ましい環境を作り出す必要があるだけであり、人々にアルコールや薬物の使用を奨励したり、この動物中毒が人々の間に広がる条件を作ったりしないでください。精神的な知識、文化的および道徳的価値観、そして大衆文化における本物の人間のイメージの例を普及させるために可能な限りのあらゆることを行ってください。

アナスタシア: 人々にこの知識が浸透することを願っています。そして可能であれば、アニマルマインドに関するいくつかの点を強調してください。あなたは、彼は主に集団と個人の心を通して、つまり自分の部門を通して活動していると言いました。人間社会を例にして、その現象をもっと詳しく説明してもらえますか?

リグデン: これらのプロセスは、ミクロの世界とマクロの世界の両方で追跡できます。人々は、その性質の二重性のおかげで、意識的に勉強に取り組むことができるだけでなく、真に精神的な基盤に基づいて独自の社会を創造することもできます。結局のところ、精神的な発達により、人には機会があります。スピリチュアルな性質からの観察者となり、それに応じて動物の心の現れを理解すること。



彼は自分の行動を監視し、自分自身の成長を修正し、彼の精神的な性質とは異質なこの意志が彼の人生に干渉するのを防ぐことができます。社会でもそうなのです。たとえば、現在では、大衆感情の性質を研究し追跡することに関する多くの科学的研究が行われています。ただそれらは主に大衆の政治的および聖職者による支配の結果に帰着します。しかし、それは問題ではありません。これらの作品の中でも、非常に興味深い瞬間がいくつか見つかります。

気分は心理的に派生したものです。大衆感情の主体は、何らかの要因の作用によって団結した一定の大衆(多くの人々、群衆)である。そのような要因としては、人々の行動を反映する感情、感情、その他の心理的症状が考えられます。集団形成のきっかけは噂であり、通常は否定的な性質のものです。それらは人の中に隠れた不満を生み出します(背面と側面のアスペクトの活性化により)。そのような噂がどれほど早く広まるか、そして人々がどのようにして動物の心の意志の指揮者として喜んで奉仕するかについてはすでに話しました。大多数の人々がそのような噂を信じる、つまり注意力をそれに注ぐと、それに応じて彼ら自身がこの意志の伝達者となり、そのさらなる拡散に貢献することになります。

一般に、噂の連鎖は「私たち」と「彼ら」の対立の上に築かれます。人々の意識は現状に盲目になっていて、その根源、つまり何が起こったのかが見えていないのです。緊張の源。



したがって、人々は自分たちの生活を改善したいと考えて路上に群がり、その結果、失望や生活の悪化、あるいは単なる血みどろの争いに終わります。歴史上、たとえ平和的に運動を支援するためだけに街に出た人々が群衆の中に紛れ込み、その後自分に何が起こったのか、何が彼らを他の人たちと一緒に逃げ出し、破壊したのか理解できなかったという例は歴史上十分にあります。彼らが明日暮らすことになる自分たちの街のインフラ。

したがって、大衆の気分は、刺激、それに対する反応、行動の準備によって特徴付けられます。このような塊は状況に応じて発生し、同じ刺激に対して同じように反応します。彼女は精神的なつながりによって結ばれており、そのつながりは再び同じような感情や衝動から形成されます。この特別な精神状態は、ほとんどの人にとって均一です。さらに、それは通常、特定の破壊的な電荷を含み、隠された負の方向性を持っています。もし人々が群衆の中での思考形態のエネルギーの動きを記録する機会があれば、それが反時計回りに緩む螺旋の形をしていることがわかるでしょう。同じ言葉や感情が何度も再現され、指揮者自身の興奮が高まることでその強度が増し、お互いにスイッチを入れ合い、話者を聴きたい、理解したいという新たな人々の意識を結びつける(捉える)。状況。それから、あらゆる種類の否定的な性質が原因であると考えられる犯人の搜索が始まります。そして最終的には 状況は、近くの物体や特定の物体、あるいは群衆の「意見」によれば問題の犯人に何らかの関与をしている、または直接彼らである個人に対して、この負の質量エネルギーすべてが爆発するところまで発展する可能性があります。ちなみに、お互いのそのような興奮やゴシップの周りの循環がなくなると、この雰囲気はすぐにその強さを失います。



アナスタシア: はい、伝統的な「スケープゴート」の検索は、人間の中にある動物的な性質の優位性の特徴です。ここでのみ、これらすべてが動物の心の意志の影響を受けて、単一の塊として現れます。

リグデン: まったくその通りです。アニマルマインドは、明らかに破壊的な罪を伴う大衆の気分だけでなく、すでに自分の「財産」であると考えているものの隠れた防衛においても、その意志を表明することに注意する必要があります。集団における動物の心の意志による感染は、ウイルスの蔓延と同様に非常に急速に発生します。同時に、この意志に従い、それに支配されている群衆は、これに違反して反対するすべてのものを無思慮に拒否し、あるいは何らかの方法でこの表面的な固定観念を打ち破ろうとします。この集団は、単一の全体として、この意志の潜在的な違反者に対してその否定性を向けます。動物の心の影響下にある群衆の願望がすべて表面的かつ表面的であることも特徴です。それらは内容が空っぽで、深い感情や個人とその靈的性質とのつながりが含まれていません。その後、その人が自分と二人きりになると、なぜ自分が荒れ狂う群衆の中であれほど不適切かつ不自然な行動をとったのか説明できなくなります。そして答えは簡単です。彼がミサに参加していた時点では、彼は動物の心の意志の指揮者の一人にすぎませんでした。



アナスタシア： はい、原則として、そのような症状は社会においても、動物性による個人への「攻撃」においても、どこかで同一です。例えば、聖なる長老たちの本の中に、彼らの「情熱」との闘いの例が見つかります。とりわけ、そこでは、人が靈的な状態にあるとき、私たちの言語で言えば、動物の本性は、誘惑的な考え方だけでなく、健康の悪化、攻撃性など、あらゆる方法で彼を試し始めると述べられています。彼の周りの人々、などなど。つまり、目に見える物質と目に見えない物質を通して現れることによってです。

同様の例は文献だけでなく、実際にも追跡されています。たとえば、あなたのおかげで与えられ、本に記録された知識に対して人々がどのように異なる反応を示すかなどです。それらを読んだ後、靈的に目覚め始め、知識の視野を広げ、自分の考えを鍛錬しようとする人々がいます。彼らは外の世界における自分自身へのスピリチュアルな取り組みへの関心を決して明らかにすることなく、自分自身の中にある動物的な性質を追跡し始めただけです。そして実際、彼らの多くは、自分自身に対してこの取り組みに責任あるアプローチを取り始めたとたんに、動物の性質からの攻撃的な攻撃にさらされたことに気づきました。さらに、彼らの環境(知人、親戚、友人、彼ら自身も彼らの中の動物的な性質の活性化の影響を受けることが多い)の側から、そして「彼ら自身の意識」の側から。動物の本性は、人間の心の中にあるその力、つまり染み付いた思考パターンの「不可侵性」に対する攻撃に応じて、必死の抵抗を示しました。



さらに、特に靈的な活動に熱心に取り組んでいた人の中には、突然、遠い親戚、以前の知人、長い間音信不通だった人たちからの、意味のない攻撃的な電話。しかし、ほとんどの場合、特に自分自身に取り組む最初の段階では、どこからともなく、職場や家庭の環境、さらには他の人よりも動物的性質の影響を受けやすい人々から攻撃的な攻撃が起こります。後者は、明らかに、その瞬間、自分たちがアニマル・マインドの攻撃の指揮者にすぎないとさえ疑いました。

リグデン： それは当然です。動物の心は、靈的に目覚めた人を動物の性質の通常の支配の古い軌道に戻し、その物質システムの緩んだ「ネジ」に対する以前の力を取り戻すために最善を尽くします。彼の任務は、人の中にある動物の恐怖を目覚めさせ、物質、その力、法則の優位性を信じさせ、その人が精神的に降伏するようにすることです。しかし実際には、選択は常に人格にあります。精神的な発達のプロセスのおかげで、人は自分自身だけでなく、自分の周りの世界の目に見えない側面も学びます。彼は、以前は現実だと考えていた幻想と現実を区別し始めます。人は自分の本当の靈的な性質を感じ、動物の性質によって課せられた恐怖を失い始めます。彼は自分の魂とその世界を感じ始め、自分自身が精神的原理の意志の導き手であるとき、実際、物質世界では彼にとって障害となるものは何もないことを理解します。したがって、人がそのように明確で拡張された状態にいるとき、意識状態を変えると、動物の心は、特定の人格に対する以前の力を回復するために、精神的な制御が弱まり、感情に負けたり、あらゆる考えによる誘惑や動物の本性からの欲望に屈したりするのを「見守る」ことしかできません。



このことを理解し、彼のトリックに騙されないようにする必要があります。しかし、人の靈的な目覚めの間の動物の心の活動のこのプロセス全体で重要なことは、その人自身が靈的な性質からの観察者の立場にあり、動物の心が何であるかについて実際の経験と理解を得るということですに対して無力。

アニマルマインドが抵抗できない唯一のものは靈的な力です。つまり、人がすでに意識的にスピリチュアルな道を選択し、自分の内なるスピリチュアルな世界、自分の魂を通した神の世界との深さ、感覚的な関係を生きているとき、自分の動物的性質を抑制するだけでなくコントロールする方法を知っているときです。そしてそのさまざまな感情や欲望の形での複数の現れ。もちろん、そのような「戦闘」経験は、ある意味では、靈的に目覚めた人が自分自身に呼び掛ける動物の心からの攻撃のおかげで獲得されます。意識が戦場となる。しかし、勝利の結果はそれだけの価値があります。人は自分自身の中にある靈的な力を目覚めさせ、その中でより強くなり、自分の存在の現実と意味をより深く理解し、意識的に神のために、靈的な世界、つまり靈的な世界に向かって努力し始めるからです。永遠。

人間に与えられた靈的な力は偉大です。現代社会の大多数の人々がこの単純な真実を認識し、自分たちの周囲のすべての脆弱性と一時性を理解し、精神的に目覚め始めることができれば、これは常に人間社会全体に影響を与え、モナドは方向転換するでしょう。以上。そして、人々が太古の昔から夢見てきた黄金の千年紀が到来します。



アナスタシア: すべては、この社会の構造の単位として、個人の精神的な方向への最初の一歩から始まります。したがって、各人にとって、自分の本当の性質、動物の心が何に対して無力であるのか、自分の中でのその発現を監視し、自分の人格に対する動物の支配と暴力を防ぐ方法を知ることが重要です。

リグデン: まさにその通りです。そして、人々が靈的に何も行動していない状態にあるとき、それは人々が考えるよりもはるかに簡単です。人はただ、動物の心の意志が自分の現実になることを許さなければよいのです。

しかし、物質的な犠牲に関する話に戻りましょう。集団的および個人的な心の存在に関する知識も、精神的な知識の不可欠な部分として当時の社会に存在していました。自分の二面性を理解することは、人がつかの間の人生をどちらの原理(スピリチュアルまたは動物)に捧げ、誰の意志に奉仕するかを意識的に選択するのに役立きました。ところで、集団的および個人的な心についての原始的な知識に基づいて、トーテミズム、アニミズム、物神崇拜、アニマティズム、シャーマニズムなど、同じ古風な信念が後に発展し始めました。たとえば、トーテミズム。当初、トーテムは一般に、精神的な知識を持つ人が自然の要素、プロセス、動物の世界、つまり物質に影響を与えることができる特定の兆候を指定していました。



そしてずっと後、魔法による人々の誘惑により、動物的性質の共同体における支配力の成長、豊かさと物質的な幸福を達成したいという願望、人々はそれらすべてをトーテム崇拜、部族間の超自然的な「親族関係」に対する信仰の複合体に変えました。および特定のトーテム(動物、植物、自然現象、無生物)。改めて、何が強調されたのでしょうか?アニマルマインドに人々に「力を分けてほしい」、つまり、この世的な利益を達成したり、他の人を支配する力を与えたりするための超自然的な力を求めることについて。ご存知のとおり、似たものは似たものの引き寄せます。

魔法、アニミズム(精霊や異世界の生き物への信仰)、フェティシズム(無生物の崇拜、人々によれば超自然的な力を与えられたフェティッシュ)も生じました。アニマティズム(人々の考えに応じて、自然界の生命過程、たとえば狩猟や戦争での成功、より良い収穫の獲得などを決定する非個人的で超自然的な力に対するカルト崇拜)、シャーマニズム(シャーマニズムに基づく)も登場した。精霊崇拜、カルト牧師(シャーマン)と精霊との超自然的なコミュニケーションへの信仰)。これらのカルトはかつて、動物の性質からの置き換えが始まり、聖職者の出現、権力闘争の後、霊的知識に基づいて形成されました。彼らの中で、物質の法則についての知識は、アニマルマインドシステムを支持して適用されました。つまり、人々の間で「最強」の崇拜と模倣、その神格化、そして不可侵のオーラの創造が始まりました。そして、場合によっては、一部のカルトで信じられていたように、彼のようになり、獲得するために「最強」を食べることさえあります。彼の強さ。



さらに、そのような信念の代表者は、反体制派に対する攻撃的な態度を特徴としており、「敵」(他のカルトを崇拜する人々)に対する攻撃とその破壊が強く奨励されました。さて、そのようなカルトの儀式を実行する目的は、それ自体を物語っていました。豊かさ、つまり物質的な富の増加、土地と人々の肥沃さの保証、自然の恵み、との契約を結ぶことによって達成されました。超自然的な力」(しばしば血の中に)が犠牲によって封印されました。

アナスタシア: 言い換えれば、これらはすべて、動物の心の意志の影響下にある物質的存在 (または集団) の特徴である同じ行動です。

リグデン: そしてそれはすべてうまくいきました。風雨は村を迂回し、自然は豊作をもたらし、物質世界における強さと器用さを「祈り」で求めた人々は、これらおよびその他の望ましい資質に恵まれました。一般に、多くの場合、人々は信仰の「祈り」(主な選択)と自分たちが住んでいた場所への物質的な犠牲と引き換えに、求めた恩恵を物質から受け取りました。

しかし、動物の心の意志によってこれらの一時的な地上の恩恵を定命の体に提供することに対する人格者たちの支払いは実際にはどうなったのでしょうか?!人々は、最も無害な「神聖な儀式」の実行中にさえ、信仰の力、内なる創造的な深い感情をこれに費やし、本来は人格と魂の融合、魂の囚われからの解放を目的としていました。



それ以外の場合はいいえ、その影響は物質世界では起こらなかったでしょう。このような人間の物質的欲求は、快適さと生活環境の向上、富の蓄積とともに、人間の動物的性質の強化、より大きな誘惑、「超自然的な力」を持つことの魅力、人々の間の分裂と争いを引き起こすだけでした。そして政治的権力と聖職者権力の制度の出現。結局のところ、あれやこれやの権力を独占的に所有することは、氏族の分裂、紛争、内戦を引き起こし、時には人々を自分の家族さえも無意味に破壊することになりました。隣の部族のトーテム。

しかし、そのような崇拜と物質の動物的精神への犠牲にもかかわらず、靈的な芽は依然として現れたと言わなければなりません、つまり、信仰において原始的な靈的知識を直観的に求め、平和、善良、統一を渴望する人々がいたということです。実際、カルトとともに、各国には世界と人間の起源に関する豊かな神話があり、それも当初はすべての民族に共通する原初の知識の精神的な要素に基づいていました。

もちろん、原初の知識を主に精神的な発達のために、つまり本来の目的のために使用する平和的な部族もいました。彼らは、自分たちの人生の一時的で儂いもの、それは人間の靈的な変革、つまり「永遠の別の人生への備え」のために与えられたものであることを理解しながら、つましく暮らしていました。これらの人々は、貴重な体力を無駄にすることなく、肉体労働によって部族に必要な食料を手に入れました。

(誠実な信仰に基づく深い内なる感情)、精神的な成長を目的としています。物質世界に関して言えば、彼らは非常にまれな場合、たとえば部族全体を滅ぼす可能性のある予期せぬ猛威を振るう自然災害による実際の危険があった場合にのみ、この独特の力を使用しました。



そして彼らの社会組織は現代人類の社会組織よりも優っていました。彼らはグループで暮らしており、お互いに友達でした。彼らには指導者はいませんでしたが、精神的、魔法的、医学的な知識を保持し、最も精神的に才能のある若者にそれを伝えた経験豊富な人々がいました。

これらの問題において最も経験豊富な人物が広く認められた首長とみなされ、コミュニティ全体の合意によってのみ選出されました。誰もが重要なアドバイスを求めて彼に頼ることができました。しかもこの人は集団の中で特別な特権や権力を持っておらず、他の人と同じように生きていました。

ちなみに、これらの民族の一部の子孫は今でも同じ社会組織で暮らしています。同時に、彼らは「文明化された」国の人々、より正確に言えば、より快適で経済的に安全な国の人々よりもはるかに劣悪な生活環境に置かれています。しかし、だからといって彼らが人間として地域社会で生きることを妨げるものではありません。という願望もあるでしょう! たとえば、同じブッシュマンは古代コイサン語のクリック言語を話すアフリカの人々です。古代に岩絵で記録を残したものと同じものです。ちなみに、「コイサンクリック言語」という名前はまったく慣習的なものです。「コイサン」という言葉は「コイ」(コイ)という言葉に由来しています。

これは「人間」を意味し、アフリカのコイコイ族(これもクリック言語を話す)の自称の呼称として使用され、「人々の中の人々」または「本物の人々」を意味します。



アナスタシア： はい、興味深い比較ですね。「本物の人々」はカチカチという言語を話していましたが、これは明らかに、あなたがかつて人々の最初の祖語として言及した「鳥の言語」のエコーです。彼は古代でも本物の男でした！よく言われるように、本当の人間とは、美しく話す人ではなく、正しく生きる人です。

リグデン： まったくその通りです。最近私たちの会話の中で、日本列島の最古の人口であるアイヌ民族のことが話題になりました。ヨーロッパの特徴を持つこれらの人々は、かつて、現在のロシアが位置する地域からそこにやって来ました。つまり、日本語から翻訳された「アイヌ」(この言葉のロシア語転写)は、文字通り「実在の人物」を意味します。もちろん、彼らの現代の子孫が、遠い祖先が持っていたすべての知識、神話、社会組織を保存しているとは言えません。しかし、彼らの民族衣装に注目してみると、多くのことを物語るおなじみの標識やシンボルが見つかるでしょう。

アナスタシア： 興味深いですね。なんて古風な信念なの！記号やシンボルについて語ることで、あなたは科学における深刻なギャップ、つまり古風な信念の起源の問題における「空白点」を実質的に排除しました。結局のところ、この問題については科学者の間で何世紀にもわたって終わりのない議論が行われてきました。



多くの人は、これらすべては原始人の精神構造に関連した「未開人の誤解」だったと信じがちです。しかし彼らは、この「胎児」には、犠牲に関することも含め、将来の世界宗教(理由は彼らには知られていないが、大衆に影響を与えた)の主要な要素がほぼすべて含まれていることを理解している。

リグデン (ニヤリと笑って): 「野蛮人の誤解」?! そうです、現代人は「原始人」と何ら変わりません。脳の構造においても、動物的性質の複数の欲望で思考することにおいても、靈的性質の衝動においても変わりません。すべてがそうであったように、それは依然として選択の瀬戸際にあります。

アナスタシア: おっしゃるとおりです。人は常に自分自身のプライドによって真実を理解するのを妨げられます。どの世紀にも、前世代の発展レベルを批判し、同時代の人々の功績を高らかに賞賛する「評論家」を見つけることができます。次の世紀には、これらの大聲での発言は彼らの子孫によって非難されました。遠い過去からの人類の精神的発達に関する興味深い事実に公平な注意を払った人はほとんどいませんでした。

そして、あなたが言及した平和的な部族の社会組織については、現代人が本当に学ぶべきことがあります。特に注目に値するのは、誰もが調和して暮らしており、最も経験豊富な人物がコミュニティ内で特権も権力も持たず、善のイデオロギーに従って生活し、無私無欲で積極的に人々を助けたことです。一般的に、彼はすべての国民と同じように暮らしていました。今日、自分たちを指導者や祭司、つまり政治家や聖職者であると考えている人々にとっては良い例です。



良識のある人なら誰でもそのような社会組織を望むと思います。興味深い比較です。過去において、他の人と同じように暮らしている経験豊富な人が、実際に自分の知識で社会を助け、人々と個別に協力していたとしたら、現代世界では、聖職者や政治家は人々から離れて存在するだけでなく、さまざまな約束を通じて大衆のムードを通じて彼らの権力を強化します。しかし実際には、千年前の歴史的例をたどっても、これらの約束を果たした人は一人もいません。聖職者や政治家にとって、これは人々の信仰に基づいた古代の約束のゲームにすぎません。

リグデン：なぜこれが起こるのか、そしてなぜ社会自体がこのプロセスをサポートし、毎回同じ熊手を踏んでいるのかを理解する必要があるだけです。社会における消費者の思考形式が支配的であることを考慮すると、これはすべて予測可能な行動です。政治家と聖職者の約束は何ですか？権力者にとって、これは大衆、つまり世論を操作する手段にすぎません。私が強調したいのは、これは大衆の欲望と願望をめぐるゲームであり、その思考パターンは権力者が所有するメディアの助けを借りて正確に形成されているのである。大衆にとって、政治家や聖職者の約束や保証は、真の精神性だけでなく、約束されたものの平凡な履行とも何の関係もない、顕著な消費者形式である。大衆に「無償で与えられる、または提供される」と約束されたものを、人々はすでに心の中では自分のものだと考えており、この希望の幻想を抱えて生きています。私たちがここで話しているのはもっぱら個人的な利益であり、それは彼らの物質的利益に影響を与えます。人々、聖職者、政治家のこの消費者の欲求を単純に知ることで大衆の気分を操作する。



例えば、人々は聖職者や政治家が約束を果たしてくれることを期待して生きていますが、後者は冷静に仕事を進めます。社会に不満が高まり、人々が忍耐力を使い果たすとすぐに、政治的な行動劇場が即座に展開されます。社会では、同じ聖職者や政治家の助けにより、否定的な感情が煽られ始めます。一体誰が国民を欺いているのか、すべての問題の責任は誰にあるのか(そして国民の怒りは次の政治家や聖職者に集中する)、誰が約束を果たさないのか、誰の言葉が正しくないのか、という噂が周囲から広まる。彼らの行為と一致します(そして後者は人々によって常に彼らのニーズへの裏切りとして認識されます)。その結果、権力者はメディアの助けを借りて、大衆を急速に危機的な状況に陥らせ、感情の爆発が起こります。司祭や政治家は自分たちの駒の一つを取り除き、その代わりに別の駒を置きます。それは同じように人々に約束や保証を投げかけ始め、人々自身の信仰を通じて人気を集めます。そして再び、動物の性質からのこれと同じ思考の渦が、新しい輪の人々の中で始まります。

アナスタシア: 実際、世界中のどの国の指導者も、その国民の消費者の見方に対応していることがわかりました。言い換えれば、選挙運動中に候補者や組織が大衆の要求の実現に貢献すると宣言すると、人々はまさに動物的性質からの欲望を満たすために急いで投票するのです。



そして選挙が終わった直後人々は、自分の欲望が満たされている、または「近い将来」満たされるだろうという幻想の助けを借りて、メディアによって支援されています。つまり、大衆の希望や願望はある時点まで延長されるのです。そして、そのような動物の心のゲームは世代から世代へと起こります。人々は、このようにして自分の注意力の方向を変え、つまり、自分的人格と魂の精神的なニーズを認識する代わりに、それを無駄に浪費してしまうことが判明しました。そして、彼らはただ座って、誰かが彼らのために物質的および精神的な生活を創造し始めるのを待ちます。これはまさに、動物の心による現実の置き換えです。

リグデン： まったくその通りです。そして、主に靈的な事柄において、人間の不作為を人間の行為で置き換えることは、まさに宗教そのものの創造から始まりました。特に神権制度の発展により、靈的な基盤が物質的な見方や約束に取って代わられ始めました。司祭たちは、精神的な自己改善に従事する人々が精神的な解放、別の世界での将来の至福を期待して生きているという事実を利用しました。これに基づいて、司祭たちは宗教体系を作成し、後に彼らから借用して独自の政治体系を作成しました。つまり、最初、司祭たちは、信念と提案を通じて、人は自分自身が靈的に弱く「罪深い」ものであり、司祭の助けがなければ精神的自由を達成する機会がないという安定した意見を人々に形成しました。彼らは、人は司祭の意志とその儀式を惜しみなく実行し、成人してからの生涯を通じてそれらを後援する場合にのみ精神的な自由を獲得できるということを大衆に鼓舞しました。つまり、精神的なものであることが示唆されました。人々は独立して自分自身に取り組むことによって解放を達成することはできず、仲介者である司祭を通してのみ達成されます。



しかし、司祭たちは大衆に影響を与える仕組みを開始することによって、人々に自分たちの主張の実現が「遅れる」という考えを即座に植え付け、彼らの精神的な願望の実現を無期限に延期しました。たとえば、終末論的な宗教や信仰では、人々を自分たちの宗教に特に縛り付けるために、司祭たちは他の古代宗教から収集した、世界の存在の最後の「審判の日」に関する情報を使用しました。しかし、信者たちは他の宗教における古代の言及については何も知らされず、ただこの宗教に留まり、生涯無償で司祭に奉仕することによってのみ、いつか救われるだろうというインスピレーションだけを与えられました。したがって、司祭たちは人々に将来の死後の至福を約束することで彼らの権力を支えましたが、実際にはそれは空虚な幻想であり、自分自身に対する真の精神的な働きがなければパーソナリティには未来がないからです。

政治制度においては、人々の精神的な願望を、「近い将来」の幻想的な自由の永遠ではなく、物質的な欲望と約束に置き換えただけです。聖職者とは異なり、政治家だけが、彼らなしでは人々は十分な物質的収入と平等を備えた真に自由で安全な社会を構築することはできないと常に示唆しています。彼らは人々に幸福な未来を与えてくれる善良な「王」(政治家)への信仰を植え付け、政治家や聖職者なしで社会が自力で築くことができる生活への信仰を絶えず損なっている。したがって、聖職者も政治家も、社会に対する権力を失わないように、社会の消費者の発展に关心を持っています。



そうでなければ、世界社会は真の靈的発展に向けたベクトルを強化し、選択することができ、当然のことながら、政治的権力や聖職者の権力のシステムを不必要なものとして拒否することになるでしょう。

アナスタシア： 現代世界を見ると、疑問が生じます。人々は心の中でどのような優位性を持って政治的、宗教的理論を思いつき、それを大衆に紹介しているのでしょうか。

リグデン： 本質的な質問です。その答えを見つけたい人は、現代社会とその支配的な価値観を詳しく見てみる必要があります。結局のところ、動物の心への犠牲は今も昔も続いています。人々はプライドに取り込まれ、(動物の心の構造に含まれる単位としての)動物の性質によって支配され、容易に制御され、「個人の心」に誇りを引き起こします。そして最も悲しいことは、現代人は動物的性質のこれらの性質で満たされているため、同じことをお互いに納得させている(思考がぐるぐる回っている)という明白な事実、つまり精神的な世界は存在しない、存在するということに気づいていないことです。彼らにとって見えるのは物質的な世界、「肉体の中の楽園」だけだ。つまり、人々は自分たちの靈的性質にとって異質なものを真実として認識し、聖職者や政治家が自分たちの世界観に与えた情報を複製するのです。

その結果、社会の大多数は動物の心の法則に従って生きることを選択しました。つまり、同じ崇拜、この物質世界で最も強いものを模倣することです(それが人々、国、組織、秘密命令であるかどうかは関係ありません)、より大きな権力を獲得するために戦う聖職者、政治家)、物質的な目標のみを追求します。



世界で人々がどのように団結していないのか、政治家や聖職者が自分たちの利益と権力のためにどのように戦争を始め、自分たちの利益、成功、幸福のために「血の契約」を結び、何百万もの人間の命を犠牲にしているかを観察するだけで十分です。彼らの子孫であること。大勢の人々が急速に攻撃的になり、動物の群れのような集合的な動物の心によって制御される様子。人生に落ち着こうとする人々が、より大きなもの、より良いものを手に入れるために、どのようにして上司に「屈服」し、賄賂を渡し、自分の良心と取引するのか、物質的な利益やビジネスの成功の保証、彼らの子孫のためのより良い物質的安全。そして、老後、彼らは健康と誰かに対するかつての権力を得るために、どんな「犠牲」も払う準備ができています。一言で言えば、彼らは物質の厳格な法則、つまり統一された動物の心に従って生きています。

結局のところ、物質世界で何かを得るには、何か価値のあるものを与える必要があります。これが動物の心の領域における犠牲の本質です。したがって、人は自分が持っている最も価値のあるもの、つまりそのためにこの世に生まれてきたものを手放します。彼は永遠を達成するつもりだった力を虚空に浪費し、短期的でつかの間の幻想を達成し、明日には塵となり、彼にとっては崩壊します。彼は、権力、健康、富という一時的で愚かな夢を達成するために、生涯にわたる靈的成長、パーソナリティと魂の融合、永遠の救いを目的とした、注意の力、誠実な内なる信仰の深い感情を浪費します。物質世界での成功。



したがって、人は実際に犯罪を犯します。それは自分自身、つまり肉体の死後も長い間彼に負担となる魂との関係においてです。結局のところ、これより悪いことはありません。これが、人が精神的苦痛の本当の原因を理解することさえせずに、すべてを外的要因や環境のせいにして、生涯を通じて苦しみ続ける理由です。しかし、選択肢はあります。人はつかの間の人生で何を優先するか、それがその人が得るものです。

すでに述べたように、イエス・キリストはこう言われました。「あなたの信仰に従って、そうなるようになさい。」もちろん祭司たちはイエスを「人類の罪を償う犠牲」として商品にしました。しかし、イエス・キリストは、かつても今も偉大な靈的存在であり、靈的世界(神の世界)の巨大な力を有し、あらゆる物質を変えることができる者の一人です。人々が求めた奇跡を行うとき、イエスは「あなたの信仰に従って、それがあなたのために行われますように」と言われました。健康(病気の治癒)を祈ってそれを受け取った人もいましたが、食べ物を求めて、獲物を求めて、そして肉体の復活を祈って受け入れた人もいました。しかし、十字架上でイエスの隣にぶら下がった強盗は、飢えと拷問に苦しみ、死の苦しみの中で、ただ自分の魂の救いをキリストに求めました。そしてこの人は、神の永遠の静けさにおいて真に神に近い人々によって靈的な解放を与えられました。正典福音書の司祭だけが、この真理を異なる方法で表現し、群れの肉体における復活の概念を導入し、輪廻転生についての詳細を省略しました。そしてイエスが教えの中で人々に語った魂の解放。それが、司祭たちがキリストの真の追随者、つまり司祭の宗教にもかかわらず、靈的な純粹さでキリストの教えを記憶し、保存していた人たちを滅ぼした理由です。



例えば、グノーシス派(西暦 1 ~ 3 世紀)、カタリ派(西暦 11 ~ 13 世紀)の、火と剣による無慈悲な迫害と絶滅について言及するだけで十分です。魂について、人間の二面性について、人間の本質について、世界の創造における女性原理の役割について、記号や象徴の力について、そして司祭たちが人々の記憶から消そうとした多くのことについて。

アナスタシア: はい、確かに、あなたの信仰に従って、それがあなたに行われますように。

リグデン: そして今、人々は教会に行きますが、彼らは神に何を求める、何を祈りますか? あなた自身とあなたの愛する人にとって、ほぼ同じ健康、幸福、富、成功、そして物質的な利益が得られます。物質的な目標を達成し、定命の身体を喜ばせるために、秘密の異世界の超自然的な力の力に目を向ける、団結した動物の心への同じ犠牲と奉仕。結局のところ、現在、ほとんどすべての宗教には、聖人、神、精霊への祈りや訴えがあり、それらはおそらく、さまざまな病気の治療、物質世界での人間の事柄の実行、そして特定の日常の問題で成功をもたらすのに役立つと考えられています。そのために人に何が求められますか? この世界の自分の問題や物質的な必要性について祈り(つまり、あなたの内なる最も深い信仰の感情を使って)、この寺院(より正確には、この寺院の所有者)に資金を寄付してください。司祭たちは、人間の必要性の下で、信者が何をどのように、誰に対して行うべきかについての詳細な指示を記載したリスト全体を作成しました。祈る。そして、このリストの最後にのみ、もちろん、靈的な強さの高まり、魂の救いを祈ることができるという小さなメモを見つけることができます。しかし、自分の背後と側面のエッセンスのこの長い欲望のリストを見るとき、人は何に注意を払うでしょうか?



アナスタシア： はい、明らかに、古代エジプトのパピルスの「オシリスの審判」で、これらすべてのエッセンスが特定の順序で次々と展示されています、前エッセンス(ハヤブサの頭を持つ人物)は、この«列»人間の欲望と生涯の請願で最後に立っています。

リグデン： 残念ながら、時間が経っても、個人との関係において、そしてその結果として社会全体との関係において、この問題に関しては何も変わっていません。現代人は、自分がどのような宗教に属していても、自分が宗教の外にいるとさえ考えていても、独立して精神的な道を歩いていても、自分の魂の救いだけを祈り、毎日真剣に自分自身に取り組む必要があることを理解する必要があります。あなたは自分の動物的性質を自分の人生の祭壇に置き、その欲望や幻想的な考えの多くを放棄する必要があります。なぜなら、これこそが神に喜ばれる唯一の犠牲であり(人々が神をどのような形容名で呼んでも)、それが人間に神の世界への靈的な道を開くからである。

アナスタシア： さまざまな宗教の信者である読者からの手紙から判断すると、人々は魂の救いに関するこの点についても懸念しています。結局のところ、多くの人は自分の健康や愛する人の癒しだけでなく、すべての人々の魂の救いを真剣に祈っており、自分の魂だけを救うという考え自体が利己的であると考えています。



これは正しいですか、それとも間違っていますか? ところで、読者は、世界と人類の救いについて哀れみを持って語りながらも、同時に自分自身の精神的変革に取り組もうとしない多くの人々に出会ったと述べています。

リグデン: 人は常に模範となる人物に例えられます。彼は、同時に靈的に未熟な存在であるにもかかわらず、自分も誰かのために祈ることができるというプライドにふける傾向があります。そして、そのような人はたくさんいます。私は彼らを、冬に愚かさのために川の真ん中に足を踏み入れ、氷に落ちた漁師たちに例えたいと思います。漁師の溺死は、現代の人類が陥っている状況です。同時に、多くの人はどん底に落ち、自分自身を救おうともせず、どうすれば他人を救えるかを考えて愚かにもエネルギーと時間を無駄にしています。しかし、自分自身が溺れている人はどうやって他の人を救うことができるでしょうか? 結局のところ、誰かを救うためには、まず自分自身が強い氷の上、あるいはもっと良いことに海岸に出て、それから他の人を救わなければなりません。真理の本質はシンプルです。他人を救う前に、まず自分自身を救いなさい。

たとえ地球上のすべての人々が一人の人の魂の救いを祈り、その人自身が変わりたくないとしても、そのとき、これらすべての祈りと靈的な力の支出は空になるでしょう。誰もパーソナリティとサブパーソナリティの蓄積された「罪」を祈り去ろうとはしません。内面的に変化し、自分自身に取り組み始めたその人自身だけが、実際の行動を通じて自分のパーソナリティと魂の融合を達成し、靈的な存在となり、永遠の中で真の救いを見つけることができるでしょう。



もちろん、人々は富や成功だけでなく、誰かの健康を懇願することもできますが、そうすることで自分自身と自分の魂を救うチャンスを減らすことになり、本質的には不当に永遠を塵と交換することになります。結局のところ、あなたが優先したもののはあなたが得るものです。靈的(永遠)を犠牲にするか、動物(短期)を犠牲にするか、これがパーソナリティのつかの間の人生における選択です。もし人が祈りの中で、朽ち果てる地上の祝福(体の健康から物質的な富に至るまで)を神に嘆願するなら、それによって彼は本質的にその人のパーソナリティ、つまり魂を破壊することになります。愛する人の健康のために善意を持って祈ったとしても、彼は本当に彼らの魂、特に自分自身の魂に利益をもたらすのでしょうか?あなたは神に物質的なものを求めるることはできません。実際には、あなたは自分の靈的な力を物質的な世界に求めるに注ぐことになるからです。そして、この世界を支配する者たちは、動物の性質からあなたに欲望をささやきながら、与えてくれるでしょう。彼らは、あなたが求めるわずかなものはすべてあなたに与えますが、それ以上のものをあなたから奪います。そして神はそれとは何の関係もありません。結局 あなた自身が物質を優先する選択をし、その選択によってあなたは自分の精神的な運命を台無しにし、永遠を死の瞬間と引き換えにします。

アナスタシア: 圧倒的多数の人々は単に無知から、自分たちの祖先がそうしたという事実を挙げて健康を祈っていますが、それよりも未知のこと、つまり命の喪失に対する恐怖からです。私自身、若い頃、動物の本性によるこのパニック恐怖を経験したことがあります。そして、そのような人々の状態を完全に理解しています。しかし実際、当時の出来事を公平に判断するなら、当時健康上の問題があったことが、私の人生に対する考え方を根本的に変えるのに役立ったということになります。



これにより私は別の解決策を探すようになり、最終的にはあなたの知識のおかげであなたと精神世界の発見につながりました。この出会いは私の将来の運命全体に影響を与え、私の人生を変えました、そして読者からの数多くの手紙から判断すると、私だけではありません。しかし、私は人生であなたに会いましたが、他の人はどうですか？

リグデン： 実際、人の人生において、すべての状況(良いことも悪いことも)はその人の強さに応じて与えられ、人が何かを理解し、何らかの形で自分自身を克服し、霊的な知識に出会うために与えられます。そして、彼はこれらの状況を意識の中でどのような支配力で認識するか - これは彼の個人的な選択であり、彼のパーソナリティのさらなる(死後の)運命は最終的に依存します。

人生の状況はさまざまです。たまたま、人はまだ活力とエネルギーに満ちていますが、突然致命的な病気に見舞われることがあります。原則として、これを知った人は、一方では自分の人生を再評価し始め、他方では絶望に陥り、動物の性質からの挑発的な考えに屈します。結局のところ、動物の性質は常に人に、彼がずっと長く生きるという同じ幻想を描きます。人々は時間のはかなさ、自分自身へのスピリチュアルな取り組みの必要性と重要性を理解していないことがよくあります。しかし人生の真実は、人間は死ぬだけではなく、突然死ぬことになるということです。実際、彼には「後で」という時間はなく、この変化する物質世界では「今、ここ」だけがあります。



結果が明らかでチャンスがない場合は、そのような場合でも絶望する必要はありません。私たちは諦めず、命を懸けて戦い続けなければなりません。しかし、重要なことは、自分の魂を大切にし、自分自身に靈的に働きかけ、他の人が人生の真の価値と割り当てられた人生の時間のはかなさを理解できるよう、二重の努力をすることです。自分自身でこれに気づくことができたら、他の人を助けてください。結局のところ、他の人を助けることは、靈的な意味で自分自身を助けることになるのです。このようにして、医師があなたの物質的な体を一時的に救うよりも、はるかに自分自身を助けることができます。そして、遅かれ早かれ、死は死です。しかし、それはどんな人にとっても避けられないものです。重要なのは生きた年数ではなく、靈的な観点から見た人生の質です。ある人はエゴイストの無益な人生で百二十年生きられるし、ある人は二十年と一年しか生きられないが、質の高い精神的な人生、つまり本物の人間の人生を生きることができる。そして、彼らの死後の運命の違いは非常に大きいでしょう。結局のところ、生命は肉体の死によって終わるわけではありません。命がまったく残されていない人にとって、パーソナリティと魂の救いではないにしても、少なくとも静けさに値することが重要です。

アナスタシア: 静けさ?

リグデン: はい。真実が人生の終わりに突然明らかになったとしても、実際にはその人は生涯無意識に真実に従い続けた場合、その人には知識があれば、残りの人生でも突破口を開くチャンスがあります。彼の精神的な成長において、魂の救いではないにしても、少なくとも静けさを獲得してください。後者は、ある人がその精神的な努力によって静けさを運命づけられている場合、その人の現在のパーソナリティは、サブパーソナリティとなったことで、人生の静かな熟考を奪われるわけではないものの、苦しみからブロックされることを意味します。新しいパーソナリティの道、その困難と間違い。



結局のところ、再生中、比喩的に言えば、車（身体）とともに運転手も変わり、人生で不適切に運転すると、沈黙しているすべての乗客（副パーソナリティ）に極度の不便をもたらします。ところで、人々は静けさの知識の反響に基づいて、故人の葬儀など、死後のさまざまな儀式を生み出しました。しかし実際には、この静けさは本人が生きている間に獲得しなければなりません。

もちろん、人がその活力の黎明期に真実について学びながらも、物質世界の幻想に誘惑されてそれを拒否する場合もあります。しかし、時間はあつという間に過ぎます。人生の旅の終わりには、世界についての幻想の嘘と動物の性質からの置き換えの両方が現れるため、通常、そのような人々は失望します。そして、人は喜んで真実に飛び込みますが、彼の戦争は敗れ、静けさはもはや得られません。したがって、人々は単に物質的なもの、精神的なもの、精神的なものを理解する必要があります。人が健康上の問題を含む物質的な問題を抱えている場合、それは通常の手段を使用して解決する必要があり、これにすべての注意を集中させたり、精神的な救いを目的とした独自の内なる力を引き付けたりしないでください。健康に関する疑問はまさに心の規律、つまり動物的な性質の法外な欲望を抑制することに関係しています。

すべての病気は知識によって治すことができます。すでに深刻な健康上の問題を抱えている人は、医師やさまざまな病気の専門家がいますので、相談してください。



科学としての現代医学は、遺伝学、薬理学、バイオテクノロジーの分野でその能力を大幅に拡張し、多くの病気が実際に治療可能になり、さらには今日では不治と言われている病気さえも治るようになりました。さらに、現代医学は、老化などの病気と戦うことを可能にします。

アナスタシア: 人間の生物学的寿命を種の限界を超えて延ばす、つまり寿命を長く延ばすこと?! そう、あなたのユニークな実験結果は今でも忘れられません!

リグデン: そうですね、私は今そのことについて話しているのではなく、今日の医学の可能性について話しているのです。

アナスタシア: これらの問題に関するあなたの科学的研究、特に実験動物の寿命を延ばす実験に非常に感銘を受けたことを告白します。この薬を作成する際に、大量生産可能なシンプルな成分を使用したことに驚きました。私たちの共通の友人は冗談めかしてそれを「クロノプロテクター」と呼んでいました。よく言われるよう、どんなジョークにもユーモアが含まれています。あなたの実験薬はまさに時間を守るものです。結局のところ、あなたの実験結果は、人間の脳の機能能力を考慮すると、人間の寿命を少なくとも 200 年、長期的には最大 200 年まで延ばすことが実際に可能であることを証明しています。1000年まで!

リグデン: それは可能ですが、生物学的な老化はありません。ポイントは何ですか?! まっすぐな道が見えるのに、曲がった道を走っても意味がありません。



アナスタシア: そうですね、もちろん。私の記憶の限りでは、実験開始時の実験動物の生物学的年齢は平均よりも高く、人間の年齢に換算すると 65 歳に相当しました。そして数か月後、薬をたった 3 回繰り返し投与しただけで身体が全体的に再生したため、実験動物の生物学的年齢は人間の 35 ~ 40 歳に相当しました。そして重要なことは、動物が実験から除外されるまでその状態が続いたということです。

リグデン: はい、実際の年齢が種の制限を 2 倍以上超えた動物は実験から除外されました。それで何が?

アナスタシア: 人間の年齢に換算すると200年以上ですね! そして、動物がこれらの、いわば「クロノプロテクター」をさらに受け取り続ければ、さらに長く生きることができるでしょう。

リグデン: もちろんです。もしあなたが人について結論を導き出しているのなら、私はあなたに次のように言います。老年まで生きた人(私は若者についてはすでに沈黙しています)がこれらの薬を投与し始めると、体は中年に若返り、この状態が長期間続きます。実験が示したように、200歳以上、同時に老化することなく、生涯を通じて体の平均年齢を維持します。当然のことながら、私たちは物質的な体の不滅について話しているのではなく、どんな物質も死すべきものです。しかし、種の限界を超えて、科学的に人の生物学的寿命を大幅に延長することは十分に可能です。ここには魔法はありません。ただ普通の知識があるだけです。結局のところ、私が使用した薬は細胞間マトリックスに基づくものでした。



アナスタシア: 細胞間マトリックスがユニークな細胞間物質として体細胞の再生に重要な役割を果たし、種の限界を超えて寿命の延長に影響を与えることを実際に証明したという事実は、素晴らしいことです。今日、科学は、細胞間マトリックスの構造に対する分子損傷が老化に伴うだけでなく、多くの深刻な病気の原因でもあることを知っています。

リグデン: 当然のことながら、細胞間マトリックスの構造における小さな変化でさえ、さまざまな種類の病状の発症に寄与します。老化の主な原因の1つは、まさに体内、主に細胞間マトリックスの構造における分子変化の増加です。

アナスタシア: 人体の細胞間マトリックスは非常に多様で、一般によく研究されています。しかし、あなたが指摘した、胎児の脊索に隠された細胞間マトリックスの原形の種類自体に特別な注意を払った人は誰もいませんでした。

リグデン: 古代の知恵があります。どんな終わりの理由も最初に隠されています。アナスタシア: それは事実です!科学の世界で今起こっていることは、控えめに言っても不可解です。結局のところ、老年学の問題を研究している科学者たちは、人間を含む各種の寿命が遺伝的にあらかじめ決められているという事実に固執しており、今日、人間の可能性はわずか100～120年の寿命で設計されていることが科学的に証明されています。



したがって、科学者は、これらの研究の範囲を超えずに、高齢者の活動期間を延長することに研究を集中しています。彼らは体の幹細胞を中心に展開し、ペプチド医薬品の開発と販売に注力しています。しかし、事態はこれ以上進みません。

リグデン： そうですね、私の意見では、答えは明白です。なぜ今日の社会では、強力な最新技術と世界的な科学的 possibility があるにもかかわらず、物事がこれ以上に進まないのかということです。

アナスタシア： いいえ、現代世界では、残念なことに、人生に対する消費者の態度が人々の心の中ではますます支配的になってきており、世間の世界観の形式そのものがまだ望まれていないことが多い残っていることは理解しています。しかし、あなたの知識と開発は画期的なものです。感覚！それらには、細胞間マトリックス、体の再生に必要な条件、人工重力を生み出す機能などに関する独自の情報が含まれています。これは、重力生理学や生物学などの科学にとっても、人間にに関する貴重なデータです。結局のところ、この認知領域は科学の空白地帯なのです。私たちが住んでいる重力場の影響は十分に研究されていません。宇宙について何が言えるでしょうか？私たちは、重力と他の惑星の人間にに対する重力の影響を研究することは言うまでもなく、地球の重力場を超えて宇宙にさえ行ったことはありません。人々はいつ実験的に、さまざまなものレベルの重力の影響の数値的特性に到達し、人体にはシステム全体が存在するという理解に到達するのでしょうか。重力の制御は言うまでもなく、重力の変化に反応するのでしょうか？これには何世紀かかるでしょうか？



リグデン： その人自身に何が変わるでしょうか?時代が違えば、負担も異なります。そして人々はこの時間を得ることができるでしょうか?

アナスタシア： そうですね、よく言われるように、遅刻しないよりはマシです!結局のところ、現在、科学者の間では、生物の機能が重力の大きさにどれほど強く依存しているのか、また、体が重力の減少にどのように迅速に反応して、同じ悪名高い細胞外液の量が減少するのかが理解されつつあります。まあ、それはここでは重要ではありません。結局のところ、あなたの知識と研究結果は、重力状態にある地球が人類の本拠地ではないという事実の証拠なのです。ここにいる私たちは皆、宇宙人だ! と言う人もいるかもしれません。あなたの情報は、人が体内で自己再生を起こし、それに応じて寿命が既存の寿命よりも数十倍長くなる重力条件の理論的計算の基礎を提供します。これは人々の世界観を何と画期的なものにするでしょう!

リグデン： 現在の社会における消費者の考え方が優勢であることを考えると、人々は猿から地球に降りてきたと考えたほうがよいでしょう。そして、あなたが話している知識は、世界社会全体、または少なくともその大多数が靈的発展、つまり人々の靈的原理の支配の方向に進んでいる場合にのみ役立ちます。そうでなければ、この知識は意味がありません。大多数の意識における動物性の支配により、人々の生活は溶けたろうそくのように苦いままになるでしょう。光も暖かさもありません。



この知識は今日の社会では何の役にも立ちません。さらに、人々の寿命を(20年でも)伸ばすと地球の人口が増加するという理由から、それらは悲惨なものになるだろうと私は言います。そしてこれには、政治家や聖職者によって部分的に人為的に引き起こされた食料と経済の両方の危機が必然的に伴うことになる。さらに、この問題では、地球上のさまざまな自然プロセスの活動の負のダイナミクスが増大していることも考慮する必要があります。このような時期にこれらすべての浮き沈みを回避し、人々の寿命を延ばすためには、まず第一に、普遍的な道徳的、精神的、道徳的法則が人々の間で浸透するように、社会の発展のベクトルを消費者から精神的創造へと変える必要があります。世界中の人々に、紙の上ではなく現実に。

知識にはまず責任が伴います。これらの開発が限られたグループの手に渡った場合、大多数の人々が所有していた場合よりもさらに悲惨な結果が全人類に起こることになります。一部の聖職者や政治家がこれらの発展を手に入れるだろうと想像してみてください。そして彼らは、自らの動物的性質の力によって自分たちを「不滅」にするために、科学におけるそのような「画期的な進歩」に常に最初に興味を持ちます。歴史を調べてみてください。太古の昔から、秘密結社の代表者たちは不死の秘薬を探してきました。もちろん、肉体の不死だけが神話であり、あらゆる物質は死すべきものであり、有限なのです。しかし、一定期間寿命を延ばすことは十分に可能です。これに基づいて、200 年間、人々、その子供、孫、曾孫が首に何かの食べ物を食べ続けたら何が起こるか想像してみてください。人々が何世代にもわたって死んでいく一方で、さらに年をとらない司祭と政治家のグループでしょうか？



はい、これは必然的に戦争と流血につながります。再び、人間の弱さを通して動物の心が同じように支配され、ある事柄が別の事柄を破壊するでしょう。で、何の意味があるのでしょうか？

人生の時間は、百年であろうと、二百年であろうと、千年であろうと、あっという間に過ぎてしまいます。しかし、そのせいで人の苦しみや精神的苦しみは治まるのでしょうか？そして、あなたはこれまで生きてきたすべての年月、この瞬間に自分の中で創造してきたすべてのことについて答えなければなりません。神の靈的世界に自分の感情の深さで実際に触れたことがある人なら誰でも、この幻想的な物質世界全体がいかにもろくて短命であるかを理解しています。私個人としては、この物質世界、永遠の問題と欲望を抱えたこの朽ちる肉体の中で、自分のために定められた生存期間を一分たりとも延長したくない。

アナスタシア： はい、はい。しかし、これは個人的な靈的経験を持つ人には理解されます。しかし、ほとんどの人は自分自身をコントロールすることさえできず、自分の動物的性質をコントロールすることさえできません。人は長生きすると、自分自身を理解する機会が増えるように思えます。彼らは、今のように急いで人生を駆け巡り、多くの間違いを犯し、他の皆と同じようにパターンに従って生き、そして人生の終わりになって初めて、これらすべてが空虚で注意を払う価値がなかったことに気づくことはないだろう。彼らには、過去の間違いの経験を考慮しながら、知識を学び、理解し、習得し、靈的に意識的に成長する時間があります。結局のところ、これは彼らの精神的な成長、融合を達成するチャンスとも考えることができます。魂を持った個性を持ち、物質世界を超えていきましょう！



リグデン：はい、これは人にとってチャンスかもしれません、それは社会のパターンや消費者の世界観が変化した場合に限られます。これに関しては何も複雑なことはありません。人が自分の本当の精神的な本質を理解することはただ必要なことです。そうすれば、彼は社会生活に真の変化をもたらし、周囲の人々を目覚めさせることができるでしょう。その点、フィールドに一人でもウォリアーがいると色々と便利な事が出来ますよ！結局のところ、彼の人生では、誰もがさまざまな人々とコミュニケーションをとる機会を与える多くの「役割」を持っています： 親、親戚、隣人、友人、専門家、スポーツ選手、学生、従業員、リーダー、著名人、インターネットの「住人」、そしてすぐ。そして、彼はこれまでの人生で何人の人々と出会ったことでしょう：幼馴染み、学校の友達、大学の友人、同僚、仲間、共通の関係者、遠い親戚、偶然の知人。ここはすでに小さな社会全体であり、彼が過去に出会った人々、そして現在コミュニケーションをとっている人々です。つまり彼は変わることができます。ということだ 国籍、社会的地位、宗教に関係なく、職場でも家庭でも、知人でも見知らぬ人でも、どこでも貢献できます。これらの一見異なる性格には、実際には多くの共通点があります。私たちはみな人間であり、動物の性質の現れに等しく苦しみ、真に靈的な現れを等しく喜びます。なぜなら、私たちはみなここ、物質世界に一時的に「客人として」いるからです。

アナスタシア：はい、その通りです。何も複雑なことはありません。あなたはただ常に自分自身を靈的に向上させ、靈的な世界に住み、この知識を実際に応用し、本物の人間にふさわしい人間として社会で暮らし始めるだけです。そしてこの知識をさらに伝えていきます。



周りを見渡すと、宗教や世界政治で何が起こっているのか。現在ではさまざまな宗教が存在しているようですが、そのほとんどすべてが人々に精神的な純粋さと道徳的価値観を大切にするよう求めています。しかし実際には、これはもはや秘密ではありませんが、あらゆる種類のカルトの牧師の大多数は純粋に商業的利益によって導かれ、人々の中に消費者思考を形成し、さらに人を物質の縛に引き込み、精神的基盤をノックアウトします。彼の足元に。どこを見ても代替品があります。聖職者たちは、金のなる木を育てる農民のように信者の群衆を搾取し、あらゆる口実のもとに彼らを物質的資源から誘い出します。彼らは何も軽視することなく、当然のことながら利己的な目的で、政治的影響力を強化するために群れに対する権力を利用します。 政治の話すらしてないよ。権力と支配に関連したこの活動領域を通じて、アニマルマインドが社会に及ぼす影響の結果は明らかです。利己主義、独占欲、そして「人間にとて人間は狼である」という原則は、社会において自然なものとなっています。人々は社会集団、政党、宗教に分けられ、指導者の利益のために互いに対立し、戦い、殺し合うことを強いられ、指導者は大衆をコントロールするためにさまざまな約束という昔ながらの手法を用いている。政治家が国際社会でどのように、そしてなぜ侵略を発動するのかは明らかですが、悲しいことに国民自身がそれを支持しているということです。



そして今は、逆に、自然災害のダイナミクス、頻度、規模の増大や、人類がもたらす諸問題を考慮し、人類が種として存続するためには、世界共同体全体の統合が必要な時期にある。人類は近い将来直面するでしょう。

リグデン： はい、社会が変わらなければ人類は生き残れません。地球規模の変化の時期には、動物の性質(一般的な動物の心の影響を受ける)の積極的な活性化により、他の知的物質と同様に、人々は生き残るためにただ単独で戦うことになります、つまり、人々は互いに破壊します、そして生き残った人々は自然に破壊されます。全人類の統一と精神的な意味での社会の質的変革によってのみ、来るべき大変動を生き延びることが可能となるでしょう。もし人々が共同の努力を通じて、靈的原理の優位性を伴って、消費者チャネルから真の靈的発展に向けて世界社会の動きの方向を変えることができれば、人類はこの時代を生き抜くチャンスがあるでしょう。さらに、社会と将来の世代は質的に新しい発展段階に入ることができるでしょう。しかし現時点では、それは皆の本当の選択と行動にかかっています。そして最も重要なことは、地球上の多くの賢明な人々がこれを理解していることです。彼らは差し迫った大惨事、社会の崩壊を目の当たりにしていますが、これらすべてに抵抗する方法や何をすべきか知りません。

アナスタシア： それで、今ここで社会を変えるには何をする必要がありますか?どこから始めればよいでしょうか?



リグデン: 自分自身で、簡単なことから始めてください。人が自分の人生の意味を理解したとき、精神的な成長の意味がわかれば、それ 자체が質的に変化します。そして、この知識が地球上の多くの人々に普及すれば、遅かれ早かれ社会全体が変わり、人類文明全体のベクトルが全く異なるものになることを意味します。

アナスタシア: 人間の心の創造物(多くの既存の宗教、その概念や教義)の中で混乱している現代人にとって、この世界に自分が存在する精神的な本質、意味、本当の理由を理解することは実際には非常に困難です。世界。単純な真実は複雑になり、その本質は理解できなくなりました。もちろん、今ではほとんどすべての人が、精神的な実践、祈り、瞑想テクニックなど、多くのツールにアクセスできます。最終的な目標は明らかです - 精神的な解放です。しかし、この最高の精神的状態を達成するための共通の基盤、本質は失われています。結局のところ、ツールだけでは基本原理を理解することはできません。それは、これらのツールの助けを借りて自分自身に取り組むマスターの意識と最も深い感情にあります。本来の真実、人間の精神的成長の意味を人々に伝えていただけますか？

リグデン: 人の精神的な成長の意味は、その人の内面の質的な変化にあります。これはまず第一に、自分の最も深い感情や神への誠実な愛を通じて、神との内なる靈的対話を日々回復することだけでなく、この秘跡を通して生きることも意味します。人間は実際、神とのそのような純粋な内なる対話に引き寄せられます。この根深い欲求は、まだ新鮮な子供時代に最も顕著に表れます。

生まれ変わる記憶。



彼は自分の魂を通してこの深い感覚の接触を感じており、それは子供のような誠実な喜び、すべてのもの、すべての人に対する包括的で純粋な愛の形で外に現れます。これが、大人よりも子供の方が神に近いと信じられている理由です。結局のところ、新しいパーソナリティはまだ純粋であり、その誠実さと信仰によって魂とつながっており、それは新しいパーソナリティに救いの希望を育んでいます。人は人生のほとんどの期間において、最善のことがまだ自分の先にあると考えるのはなぜでしょうか? 実際、小さな人は、自分の「心からの幸福」が現れた瞬間に、たとえ肉体に閉じ込められているという困難な状況であっても、自分の靈的性質、神の注意、愛、魂に対する神の配慮との深い接触を経験します。 時間が経つにつれて、新しい人格は私たちの周りの世界を認識し学び始め、この感覚コミュニケーションは、母親、父親、親戚などの愛する人たちとのコミュニケーションに移されます。このときの神から発せられる誠実な愛の深い感情の経験のおかげで、主な外面の目に見えるイメージは意識の中に固定されます。後者はもっぱら人間の内なる世界、つまり愛における神との言葉のない本当の会話と結びついています。たとえば、母親のことを、この世界で不可能なことは何もない全能の最愛の存在として、なぜ私たちは幼い頃から最も温かい思い出として持っているのでしょうか。しかし、成長した私たちはすでに彼女を、自らの運命を持った大人の女性として、別の目で見ていています。 体が成熟し始め、新しい人格が動物に有利な選択をするようになるとき最初、人間は理解力の欠如のために、神との目に見えない感覚的な対話を失います。



魂 자체は人を「ノック」して彼に信号を与えることをやめませんが。人の人生には、何らかの形で、この魂をなだめる神との対話に戻るよう促す状況が現れます。しかし、人間は、動物的な性質からの考えに導かれて、神の愛を伝える魂である自分の靈的な性質に耳を傾け、聞いてもらうことを拒否します。

現時点では、動物の性質がこの生きたコミュニケーションに取って代わります。人は自分の思考を観察しながら、必要に応じて自分の中でこのプロセスを明確に追跡することができます。それは、人が動物の性質の考えに気を取られ、古代で言わされたように「塵に」なり、永遠である方、最も大切で最も近い方との対話を失うという事実から始まります。この瞬間、人は内なる孤独を感じ始めます。そしてこの結果として、自分と同じように一時的にここにいて塵で構成されている人々との外部コミュニケーションを探したり、彼の動物的性質の思考に完全に屈服して「自分自身と話し始めたりする」という代替を行います。」しかし、このコミュニケーションは神との靈的な対話とは質的に異なります。彼の中には誠実さと精神的な純粹さの感情が消え、憤り、誇り、羨望、利己的な感情が現れます。

これらは、意識の中で支配的な動物の性質を根本的に置き換えたものです。そしてそれらは、人が自分自身、人生の本当の意味を構成する自分の精神的な性質を理解するのをやめたという事実から来ます。



彼の平凡な自己意識は、物質から自由になって独立し、その囚われから抜け出したいという魂の深い願望の力の理解を歪めています。そして、その人は自分の本当の気持ちを理解できなくなります。彼はエゴイスティックな要塞の中で、誰からも自分を遠ざけています。彼は、動物の自然が提供するマスクのイメージを次々と試着し始めます。この状態では、彼の精神的な訴えはもはや神ではなく、自分自身に向けられています。実際、彼は耳を傾け、自分自身とのみ、より正確には、永遠の真実を一時的な幻想に置き換えて人をそのガイドにする動物的な性質とのみコミュニケーションし始めます。そのような自分自身との対話は、死すべき人間の対話に変わり、それが彼を邪悪にし、多くの物質的なニーズに依存させます。彼はもはや神によって生きておらず、自由ではなく、物質の中で(生涯の時間と注意をその蓄積に捧げる)悲惨な存在、他者を服従させ苦しみを与えることに喜びと意味を見出す。さらに、この置き換えの本質は、その人自身が「彼は気づいていないが、彼には自分がすべて正しくやっているように見え、「彼の意見」では、それが他の人にとってより良いことになるだろう。

しかし、死すべき人間の対話の中にいると、彼は幸福を見つけることができず、振り子のように物質的な欲望の中で変動し続けます。時間が経つにつれて、これはすべて虚栄心の中の虚栄心であることが理解されるようになります。彼は子供の頃、心からの喜び、純粋な愛、信頼を持っていたことを思い出し、それが彼に驚くべき内なる自由の感覚を与えてくれました。そして今、誠実さも純粋さも信仰もすべて失われ、毎日が彼の魂の悲しみだけをもたらします。しかし、神の愛は人がそれを忘れたとしても離れません。



神は決して人を離れることはありません。なぜなら、魂のおかげで神の愛がいつも彼とともにいるからです。しかし、人は常にこの永遠の愛を受け入れたいとは限らず、死すべき物質の一時的な欲望に導かれて、その愛についての親密な知識を「後」まで先延ばしにすることがよくあります。しかし、人には「後」というものではなく、真の動きと選択が起こるのは「今、ここ」だけです。ただ心を開いて神を信頼する必要があります。貴重な人生の時間を無駄にしないでください。動物性の攻撃が始まり、孤独感を刺激されたら、すぐに自分の中にあるこのありふれた自己を克服し、子供のような誠実さで、神の意志に頼って神に立ち返る必要があります。自分が知っている方法で、誠実な言葉や考え、そして最も重要なことに、自分の内なる深い感情を使って、あたかも最も身近で親愛なる存在に話しかけているかのように、自分自身に話しかけてください。深い悔い改めの気持ちを持った人が自分の魂とコミュニケーションをとり始めると、神の愛がその人の中で何倍にも増えます。神は魂の中に入ってきて、魂に平安を与えます。彼女がソースになる 人の尽きることのない内なる力。それは彼への信仰の精神を復活させ、得た経験を認識し、彼の人生について新しい視点を獲得する機会を提供します。人は理解という賜物を獲得します。彼は愛の中にいます。なぜなら、彼は神の中におり、神も彼の中にいるからです。彼は神に言いたいことがあります。神の靈的な反応を感じる誠実さと信仰の強さを持っています。そして、愛し合う二人の間のこの対話は終わりがありません。神は愛におけるコミュニケーションだからです。人は、このコミュニケーション、靈性化、神との一体性の中にあることが現実であり、真の人生であることを理解しています。この神秘は、私たちがそれを受け入れ、誠実な気持ちで神に心を開くとき、私たち一人一人の中に起こります。



人が自分自身に依存する場合、たとえどれほど多くの親しい人、友人、親戚が彼を囲んでいたとしても、彼は自分自身で魂の門を閉じ、永遠の孤独を経験します。しかし、魂の門が神とのコミュニケーションのために開いているなら、人は決して孤独ではありません。なぜなら、人は常に神と会話しているからです。神とのそうした内なるコミュニケーションを再開すると、人生を部分的にしか見ていないという自分の限られた認識を冷静に理解するようになります。人の人生全体を見ておられるのは神だけです。最も深刻な苦しみでさえ、実際には神とのコミュニケーションの道、失われた靈的なつながりの再開につながる状況であるという理解が得られます。なぜなら、神は人間の誘惑と、人間の内なる靈的変化の可能性をご覧になっているからです。したがって、神はそのような状況を提供し、そのおかげで人は自分の選択について経験と理解を得ることができ、神とのコミュニケーションを回復する機会を得ることができます。最終的に人格と魂の融合と出口に貢献します。精神世界へ。しかし、死すべき誇りか永遠の恩寵か、どちらを持って生きるかという選択は常に人にあります。

精神的な実践は、純粋な意図が支配する深い感覚レベルでの神との対話において、人の向上に貢献します。彼らはガイドとして、人格と魂を結びつけ、内なる世界を豊かにし、知識と強さ、精神世界から発せられる感情の純粋さを補充するための条件を作成します。精神的な実践は、人が質的に異なる世界を理解し始め、それとの最も近い関係を認識するためのツールです。



それらは、知識の恐るべき最初のステップから靈的世界への完全な移行まで、自分自身を変えたいという願望から常に神の中に留まる必要性の理解まで、人に同行します。それは生き方なのです。これは永遠への道です。それはきれいな空気、水、光、暖かさの息吹のようなものであり、悔い改めの喜びであり、神の愛の中にいることの幸福です。

人は、精神的な実践を習得するために自分自身に取り組み始めますが、しばらくするとそれらを放棄し、落胆、消極的、怠惰に陥り、自分自身への言い訳をでっち上げたり、神との対話からさまざまな気をそらしたりすることがよくあります。しかし、そのような状態が現れたとき、あなたが神と交信することを許さないのは誰なのか、考えてみる価値があります。あなたの心の中に精神的な障害や幻想的な障壁を作っているのは誰ですか?この一時的で瞬間的な世界の出来事が、あなたの人生の主要なことである永遠の靈的救いよりも重要であると誰があなたに考えさせますか?あなたにスピリチュアルな道を進んでほしくない人がいるでしょうか?答えはただ一つ、それは動物の性質です。したがって、怠惰、気乗り、言い訳の形で明らかな反対がある場合は、二重に力を集めて、精神的に自分自身に取り組み始める必要があります。それどころか、瞑想の時間を増やし、何があっても感情にさらに深く潜り込み、靈的世界をさらに執拗にたたき、救いの誠実な神との対話を取り戻すことが必要です。少なくとも1日に2回は行う必要があります スピリチュアルな実践をし、日中は自分の内なる世界、魂、神の臨在の感覚とのつながりを失わないようにしてください。そして、それは単なる生き方ではなく、一歩一歩あなたを永遠に近づけるスピリチュアルな道となるでしょう。



神のうちに生きていると、人はもはや自分自身との内部の不一致や葛藤を持ちません。物質世界への恐怖と心配に満ちた個人的な要求に対する彼の欲求は消えます。なぜなら、彼は世俗的な自己からそれらの起源の本質を理解しているからです。彼はもはや、神がどこで作用し、どこで作用しないかを頭で理解しようとはしません。なぜなら、彼はこれらすべてを感じ、知り始めるからです。そして、この知識はマインドから来るのではなく、魂の最も深い感情から来ます。結局のところ、人は頭で信じますが、魂で知っています。彼は自分の内なる生活を魂だけに集中し始めます。なぜなら、魂を通じて彼は神と、彼の真の家である無限の靈的世界を知るようになるからです。人は自分の魂に対する誠実さを獲得します。彼は神の平和、神との接触の平和の中で生き始めるので、彼の中に悪いことが入り込む余地は残されていません。

そして、そのようなコミュニケーションは常に行われます。人の内面にはもはや神以外の何ものもなく、魂は純粹に神の前に立っています。このコミュニケーションは二人の間の秘密です。人は神の臨在を感じ、神を愛し、愛する存在の恋人のように神に手を差し伸べ、永遠の存在と神との終わりのないコミュニケーションを切望します。時間が経つにつれて、人は自分の中に神の絶え間ない存在だけでなく、彼の周りの世界全体のどこにでも神の存在があることを真に理解するようになります。人は神がすべての人にとってすべてであることを理解しています。このように、神との対話に入る人はすぐに自分自身を変え、世界について異なる理解と異なるビジョンを獲得します。しかし、最も重要なことは、そのような神との独立したコミュニケーションのおかげで、人格は生涯にわたって神の靈的世界に住み始め、魂との融合の状態を獲得し始めるということです。この状態は、宗教によって呼び方が異なります。聖性、涅槃、最高の結合などです。神とともに、など。この状態は真の自由、真の存在です。人は生涯を通じて努力します。



アナスタシア：皆さん、スピリチュアルな洞察を本当に渴望している皆さん、ありがとうございます!この理解により、各人の靈的成長の真の本質に真の目が開かれます。

リグデン：私にではなく、神に感謝します。指揮する人はただ柔軟に神の意志、神の知恵を伝えるだけですから!

アナスタシア：ありがとうございます! そう、言葉では言い表せない、たくさんの素直な気持ちがここにはある! 真実を渴望する多くの人にとって、これは真のスピリチュアルな洞察であり、自分自身を質的に変える方法の啓示です。

リグデン：人々にとって、日常生活における重要なポイントは注意力であるということを覚えておくことが重要です。人が自分の人生で何を支払い、何に注意を払うか(どのような考え方、好み、願望か)が、その人が受け取るものです。現在の生命は、人間が三次元世界で部分的に知覚する可視および可聴周波数の狭いスペクトルに限定されるものではない、情報交換です。情報ブリックの比喩的な例を使って、情報はどこにでも存在し、あらゆるものの中に存在するとすでに述べました。それは時間と空間を含むすべてを形成するため、時間と空間の外側に存在します。情報は常に個人に影響を与えます。しかし、彼がそれに注意を払い始めたとき、つまり自分の選択をしたときにのみ、情報はそのプログラムに従って彼の中で完全に働き始めます。



つまり、三次元世界（意識、潜在意識など）だけでなく、その一般的なエネルギー構造にも関連する人間の構造が関与しています。人は自分でも気づかぬうちに、この情報とともに生き始め、それが彼の現実の一部となります。したがって、人は自分の選択を通じて、さまざまな情報に注意を払い、その後の運命を創造します。それに彼の注意の力を与えることによって、本質的に、彼はそれに含まれるプログラムに命を与え、それが彼の人生を何らかの現実に変えます。

アナスタシア：はい、これは人がどのようにして動物の心の意志の指揮者になるのか、あるいは精神世界の意志の指揮者になるのかを理解する上で非常に重要な点です。すべては絶えず選択することなのです。人はどのような情報（誰かの意志のプログラム）に最も注意力を注ぎ、それを支援するかによって、その意志の指揮者となります。現代の人類の問題は、多くの人が自分自身を理解していないため、内なる世界ではなく外の世界に不用意に注意を向けています。

リグデン：人の主な構成要素であり、それを中心にその人の構造全体が構築されていますが、それは魂であり、この構造における人格は、この力の精神的で質的に新しい変容のためのモジュールです。ちなみに、ラテン語（「modulus」）から翻訳された「モジュール」という言葉は、「小さな尺度」、「測定」を意味します。言い換えれば、人の基本原理はその人の精神的な要素です。精神的な基本原則を備えた合理的な存在として人を創造するという考えは、選択の権利を維持しながら自分自身を精神的に変容させ、物質世界の条件の中で精神的な力の真の指揮者を創造することにあります。



実際、現代世界の多くの人々は、自分自身、自分の本当の能力、そして自分の中にある途方もない靈的な力を理解しておらず、したがって、質的に向上させるために自分の生活と社会生活をどのように変えるべきかを理解していません。彼らは本当の人生、本当の幸福が何なのかさえ理解していません。人々は、神とのコミュニケーションや靈的世界との接触という、人が精神的な修行をしながら深い感情を持って体験する、内的な精神的な休日さえも、人間の心が発明した外的な儀式や休日に置き換えようとしています。しかし興味深いのは、人々もこの人間の外での休日を大きな希望を持って楽しみにしているということです。そして、それが起こると、それは本質的に人を荒廃させ、彼を「孤児」のようにし、感覚で彼を欺きます。なぜなら、人は無意識のうちに娯楽や肉体の飽和ではなく、深い感情でより多くを期待していましたが、それを受け取りませんでした。これは、これが本当の精神的な休日（人が毎日経験する）の代わりとなるためです。精神的な世界との接触で）、外部の物質的な風景を連想させる心からの通常の演劇作品。人々の生活の中の多くの概念は、動物の心の意志のプログラムの設定に置き換えられます。それは、人々自身が動物の性質から考えや欲望を選択し、それらに注意と活力を集中させることが多いためです。



人々の問題は、自分で選択し、動物の心の意志の指導者および実行者となるにもかかわらず、それを理解することもなく、それ(動物の心)自体が存在しないと信じていることです。結局のところ、それは彼らの肉体や周囲の三次元世界とは異なり、彼らの目には見えません。そのような人々は彼の力と強さを過小評価しています。彼らは、人間の心をコントロールする彼の能力、そして最も重要なことに、人間社会全体にわたる人々の意識を完全に物質化したいという彼の願望を理解していません。そして後者はすべての人々をアニマルマインドの意志の指揮者にし、その力を大幅に増大させるでしょう。各人の設計における「永久機関」(魂)の存在に関連する能力を備えた人類の生命力の資源は、動物の心にとって非常に重要です。賢い人は、ここ数世紀の出来事を検討するだけですべてです。地球の人口はどれほど急激に増加し、わずか2世紀の間に、主に地球上の人々のマスコミュニケーションを確保すること、つまりすべての人を単一の情報フィールドに結び付けることを目的としたテクノロジーがどのように発展したことか。消費者の思考形式が世界中でいかに集中的に押し付けられているか、文明がいかに物質に向かって明確に傾いているか。これは、人類を完全に制御し、その力と資源をそれ自身の目的のために使用するためのアニマルマインドの準備にほかならず、それは三次元の世界とは関係さえないかもしれません。彼の力においては、人口が密集した物質世界の中に、より高く、より興味深い次元が存在し、そこでは小さな変化でさえ、より低い次元での世界的な変化を伴います。動物の心の力を補充する特定の結果につながります。



そして後者は、物質に依存する動物の心 자체が生き残るために必要であり、大きな力、つまりアラートの力に対抗してその一時的な存在を延長します。そして動物の心はこの目的のためにはケチではなく、その意志に従って集団的および個人的な心の形でいかなる犠牲も払うことはありません。

したがって人々は、世界社会が現在どのような瀬戸際に立っているのか、誰の意志を軽率に実行しているのか、そして各個人と人類文明全体にどのような結果が待ち受けているのかをよく考えるべきである。今、人類にとって、すべての人格と同様に、スピリチュアルな目的のためにアニマルマインドによって準備された技術的基盤を使用して、スピリチュアルに目覚め、スピリチュアルな基盤で団結し、「マイナス」の記号を「プラス」に変えることが非常に重要です。結果は長くはかからないでしょう。目に見えない世界では、このような人類の結束した決断と行動が、急速に拡大する逆元イベント推進の旋風を止めることができるのです。このおかげで、人々はアニマルマインドのプログラムに従って起こるはずの将来の出来事を防ぐことができ、人類の存在そのものを脅かすだけでなく、正しい方向に出来事の渦を回すこともできるでしょう。元。後者はアラットの創造力の活性化に他なりません。したがって、全人類にとって質的に異なる未来の創造。

アナスタシア： はい、あなたの言っていることはわかります。個人と社会全体の本当の可能性は 3 次元の世界に限定されないからです。



しかし、社会が質的に異なるレベルの理解に到達するためには、人々は自分たちの動物的性質をコントロールし、精神的な変革を経て生きることを学ぶ必要があります。

リグデン： まったくその通りです。この目的のために、原始的なスピリチュアルな知識の主な基盤が与えられました。これは、以前の本から始まり、この本で終わります。それらは、人が靈的に目覚めるだけでなく、自分自身に取り組むことによって、自分の人格と魂の精神的な融合を独立して達成するのに十分です。もちろん、人々が真に自己改善に取り組み、この知識を歪めることなく、まるでフェアウェイに沿っているかのようにこの知識に従い、世界についての知識の視野を広げ、この荒れ狂う海の中で精神的に自分自身を方向付けるという事実を考慮すると、物質的な生活のこと。 知識は、たとえ本人が気づいていなくても、人生の重要な段階で人にもたらされますが、人が自分自身を精神的に変え始め、それを受け入れる価値があるようになると、知識が明らかになります。そうでないと、彼らは彼にとって利益を得ることができません。人々がすでに受け取った知識をどれだけ吸収し、内面の靈的成长にどのような重大な変化が起こるか、そしてこれに関連して社会にどのような変化が起こるかが重要です。なぜなら、知識の次のレベルは、人々が物質世界のより高い次元で精神的な変革を達成する能力であり、すでに述べたように、それはより低い次元での世界的な変化につながる可能性があります。そしてこれは大きな責任であり、そう簡単にその地位を放棄しないアニマルマインドの力との衝突です。これは、お好みで言えば、「超自然的な力」、またはかつて呼ばれていた「高等白魔術」の技術、そして動物の心の力に直接反対する人々が関与する領域です。彼らは現実の向こう側で戦ったのですが、ゲリアーズと呼ばれていました。



アナスタシア: はい、残念ながら、今日ではほとんどの人が基本的なスピリチュアルなことを理解していません。そして、この知識を受け取った人でも、自分自身を変えることを急がなくて、アニマルマインドシステムによって課せられた古いパターンに従って生きていることがあります。人々には、靈的な始まりから生きて創造したいという強い願望がまだありません。これは生活場面でも見られます。たとえば、これらの本を読んで真理に触れた後、人はすぐにインスピレーションを受け、自分自身に取り組み、人生の精神的な変革を達成したいという願望が彼の中に燃え上がります。しかし、しばらくすると、再び日常の問題や物質世界の心配事に注意が移ると、彼の精神的な欲求はすぐに消えてしまいます。人間の魂はこの動物の抑圧によって非常に苦しんでいますが、システムは動物の性質を通して再び彼の意識を支配します。

リグデン: 動物的な性質の秘密の欲望に従って生きている人は、靈的に弱いです。したがって、真実と接触すると、彼はマッチのように燃え上がりますが、彼自身にも彼の周りの社会にもまだ精神的なサポートがないため、すぐに消えてしまいます。しかし、もし人が自分の動物的な性質の力の下から抜け出したいという強い意志を持っているなら、その人はより頻繁に真実の源、つまり注意を切り替え、狭まった意識状態から抜け出すのに役立つ本に戻る必要があります。さらに、精神的な形成の最初の段階では、志を同じくする人々とのコミュニケーションが大きな役割を果たすことを理解する必要があります。この精神的な相互サポートは、特に道の始まりにいる人にとって重要です。



あなたの仲間内でのこのようなコミュニケーションが、スピリチュアルな道を歩み始めたばかりのあなたが、自信や自分の能力に対する疑念を克服するだけでなく、動物の性質の隠れた攻撃に即座に抵抗するのにどのように役立ったかを思い出してください。実際のところ、人の覚醒の最初の段階では、初步的な混乱や固定観念の置き換えが頭の中で頻繁に起こり、その結果、どこに動物的な性質が現れ、どこに靈的な性質が現れるのかという誤解が生まれます。は。同じ考え方を持つ人々のグループの中で、他の人々とコミュニケーションをとることで、人は自分自身をより速く、よりよく理解し始めます。原則として、最初は、特にグループの中で、いわば自分の問題を公にさらすために、人々は自分の動物的な性質の秘密を「放棄」することを恐れていますが、これを行う勇気のある人の話に喜んで耳を傾けます。結局のところ、人が自分の動物的な性質の立場を「放棄」すると、本質的に、その抜け穴、つまり秘密の行動の可能性がブロックされます。さらに、志を同じくする人々のチームは、その人の話を聞くだけでなく、情報を共有します。似たような状況とそれを解決する方法を紹介します。したがって、人は同じ考え方を持つ人々から精神的なサポートを受けるだけでなく、知識と経験を広げるアドバイスの助けも受け取ります。この習慣は古代から存在していました。たとえば、初期のキリスト教徒は、小さなコミュニティでいわゆる公開告白を一般的に行っていました。これも同じソウルフルです。人に靈的な利益をもたらす友人との会話。そうですね、宗教という大衆管理の制度が創設されたとき、多くのことがひっくり返りました。



アナスタシア： はい、はい。公式には、「適切な年齢」のすべての信者に対する告解の習慣は、第 4 回ラテラン公会議の決定によって 1215 年にキリスト教に導入されました。ちなみに、教会の権威を強化する目的で、異端と戦うためのあらゆる範囲の措置(異端審問の創設を含む)が採用され、これには一連の「教会法」の改革と策定が含まれていた。これは、13 世紀初頭のカタリ派、アルビ派、ワルドー派などの集団的な「異端運動」の広がりに対する教会の対応でした。後者の欠点は、人々がキリストの真の教えについての真実を知りたいと願い、それを求め、仲介者なしで靈的に成長し始めたことだけでした。

さて、宗教で認められている告白の実践について。信者は少なくとも年に一度それを行うことが求められました。そしてそれは、信者が司祭に自分の罪を認める義務があり、司祭はイエス・キリストの名において、教会が特別に定めた「寛容な言葉」でこれらの「罪」を赦したという事実にあった。そして、これは人が「神の許し」を受けるための必要条件であると考えられていた。なぜなら、司祭たちは、告白がなければ人は「聖体拝領」を受けることを許されず、告白がなければ人はおそらく救いがないことを定めていたからである。なぜなら、教会の教義によれば、「交わりはキリストとの再会」、「永遠の命との恵みに満ちた魂の交わり」だからです。そうでなければ、その人は宗教から追放され、彼らは、キリスト教の儀式に従って埋葬される権利が否定されるのではないかと彼を怖がらせた。



はい、もちろんその違いは重要です。人自身が自己改善に努め、自分自身に取り組み、志を同じくする人々や友人とコミュニケーションを取り、自分自身を理解し、精神的なサポートを受け、他の人に可能な限りの助けを提供したいと願うことは別のことです。そして、破門や公衆の迫害の脅威の下で、さらには公式組織、つまり当時実際に行政権の機関であったローマ・カトリック教会を代表して、このような行為を強いられた場合は、全く別の問題となる。確かに、人が靈ではなく恐怖に導かれて悔い改めを行うように、すべてが意図的にひっくり返されており、自分で靈的禁欲に従事するという考え方を持たないようになっています。

リグデン: これらはまさに、人々が気づいていないアニマルマインドからの置き換えであり、そのガイドであり、そのような考えが彼ら自身のものであり、彼らの力を強化することを目的としており、同時におそらく「人口の精神的な成長」に貢献することを目的としていると考えています。」靈的な問題では、無理に優しくすることはできません。ここでは個人の自主的な選択が重要です。すべてはこれに基づいて構築されています。結局のところ、悪い人は存在せず、ただ自分の本当のスピリチュアルな能力を知らない人がいるだけであり、それが彼らが苦しむ理由です。

アナスタシア: 個人の精神的な変化は、常にその人の周囲の社会に一定の影響を与えることが知られています。



そういういた靈的に目覚めた人たちが多数派になれば社会は変わると繰り返しあっしゃっていました。消費者の思考形態である動物的性質の決まり文句やテンプレートから抜け出し、現代文明を精神的な発展に向けて方向転換するために、社会を質的に変革する方法を人々に教えていただけませんか？

リグデン： それは簡単です。人間の二面性を考慮し、社会のあらゆる領域で動物性の誘惑が現れる可能性をわずかでも排除し、根本的に新しい社会モデルの条件を作り出す必要がある。 そのような社会の構築はどこから始まるのでしょうか？大多数の人々が精神的な原則に従って生きる文明を創造するという意図を本当に持っているなら、すべては非常に簡単に解決することができます。まず最初にすべきことは、社会の精神的発展の秩序を回復することです。精神的なベクトルに焦点を当てた文明、つまり高度な発展を主張する文明では、さまざまな宗教に分裂してはならず、大衆を管理する機関としての宗教や仲介者が存在すべきではありません。神と人間の間。聖職のようなもの、あるいは世界中のさまざまな宗教の宗教制度や制度を生み出すこの構造が何と呼ばれるものであっても、それに近いものがあつてはなりません。そのような社会の基本的な構成要素として、人間の人格そのものの精神的発達のための生活条件を創造する社会自体の願望と具体的な行動がなければなりません。



人類の黎明期には、そのような人々の生活の組織化が始まり、共同体の精神的な生活により多くの注意が払われ、物質的な問題は二の次でした。地理的およびその他の理由により、同じ精神的な知識の粒を持つ人々の多くのグループが互いに孤立して存在していました。時間が経つにつれて、原始的な知識の喪失、つまり人々の動物的性質の優位性への偏見の結果として、グループ内で分裂が始まり、社会的不平等が出現しました。聖職制度の出現とさまざまな宗教の創設は、知識という主要な精神的な種の基礎に基づいていました。しかし、制度そのものは物質優位のもとに構築されたものである。実際、これはアニマルマインドが知的物質の集合体を完全に征服し、制御しようとする試みであり、動物のマインドはそのユニークな力の源、つまり精神的な目的を目的とした生命エネルギーを持つ人類であると見なしています。

アナスタシア: 宗教は、まさにその靈的要素のおかげで多くの人々を惹きつけているものの、システムとしては動物の心の利益に貢献していることがわかりました。そうです、聖職者制度とその概念の殻を捨てつつ、世界中の人々の精神的な教え、信念、宗教の多様性をすべて考慮すれば、同じ知識の存在が明らかになるでしょう。精神的な道を歩み、物質世界の誘惑に負けないでください。ただ、これらすべての知識の粒は、本質的には同じものについて、人間の異なる解釈で提示されているだけです。

リグデン: そうです。この知識は宗教ではないので、さまざまな場所で見つけることができます。惑星、異なる信念を持つ異なる人々。



この知識は、人種、国籍、居住地域、社会的所属などに関係なく、人の靈的成長の自然なプロセスに貢献します。しかし、司祭たちはこの知識を利用して、人間の心の成果である独自の宗教を創設しました。彼らは、多数の人々に対する権力を掌握するためにのみ、ある宗教の特徴や他の宗教との違いをでっち上げました。 人類の歴史の中で、人々が一斉に人々を無神論者に変えようとした時代がありました。聖職のくびきから人々を救うという崇高な目標が追求されたようです。しかし問題は、動物の性質の優位性が社会の領域に残っていることでした。したがって、人類の「明るい未来」の代わりに、人々の意識における動物の心の意志の支配というさらに悪い形が現れる条件が形成されつつありました。新しい世代にとって、魂や神そのものの概念は排除され、利己的な「私」と人生における物質的な優先事項に置き換えられました。動物の心による人類のそのような処理の結果は明らかです - 物質主義的な世界観が世界社会を支配しており、ほとんどの人々の意識は物質的なパターンと態度の奴隸になっています。今日、唯一の神を信じ、魂の救いを祈る人は、残念なことに、ほとんどの人にとって「過去の遺物」、社会から疎外された特定の要素として認識されており、その意識はおそらく「宗教によって目隠しされている」と考えられています。または たとえ彼がこれらの組織と何の関係もないとしても。



なぜ今日の社会では、人間の人生の主要な意味である靈的成長、神、魂に対するこのような否定的な態度が強くなっているのでしょうか。はい、アニマルマインドの優先事項が広く奨励され、美化され、社会を物質的価値観と消費者原則に向いているからです。人々の心は、お金、財産、不動産を蓄積し増加させ、それらを保存し相続によって継承する無制限の権利という考えに支配されています。人はこれに自分の人生の目的を狭く捉えており、生きている間だけでなく、死後もそれを保存しようとします（動物の心からの一種の代替要素、いわば代理）不死のために）。多くの人々の個人的な欲望は、結局のところ、何かを所有したい、物質世界で力を持ちたい、自分自身を含む周囲のすべてのものを分割できない財産に変えたいという欲望に帰着します。これらすべては、動物の心の態度が社会に感染する病原性の兆候を示すだけでなく、人類の自滅の危機に陥る。そして、彼の靈的健康を改善するために今すぐ緊急の措置を講じなければ、破壊的なプロセスは不可逆的なものになるため、明日には手遅れになる可能性があります。最も重要なことは、自分の選択と行動を通じて、自分自身と周囲の社会を救えるのは自分自身だけであるという認識です。

アナスタシア：はい、永遠の 2 つの質問です。「誰のせいですか？」そして「どうしたらしいですか？」

リグデン：人々は、犯人を探したり、動物的な性質を面白がったり、誰かが自分のために何かをしてくれるのを待ったりして時間を無駄にする必要はありません。



彼らが必要とす、自分から行動を起こして、他の人の模範になってください。社会では、人々は名誉と尊厳を持ち、無償で他人を助け、良心に従って生き、物質的な優先順位を無視して精神世界に真に奉仕する人に惹かれます。このような人になるためには、まず自分自身に取り組む必要があります。精神的な発展のベクトルを持つ文明社会では、誰もが子供の頃から動物的性質からの考えを無視でき、動物的性質、そのエネルギー構造とその能力を理解することができなければなりません。彼は、自分が靈的世界と直接つながっていること、神は一つであり、神とのコミュニケーションには仲介者がまったくあってはならないこと、これは人間と神という二つの秘跡であることを知らなければなりません。この世に誕生する新しい人格が人生の主な意味を理解できるように、社会に条件を作り出す必要があります。つまり、彼らの精神的な強さを高め、人間にとって自然な文化的および道徳的基盤を守り、より多くの人間性と優しさを示すことです。彼らの考え、言葉、行動は、あなた自身に対する内なる働きを改善し、最終的にはあなたの魂を救うためです。 私たちは過去の過ちを考慮に入れ、主要な精神的な指針を失わないようにする必要があります。現代世界では、人々は 1 つの単純な真実を忘れていました。それは、人生の時間が非常に早く過ぎてしまうということです。彼らは物質的な欲求を実現することにある程度の自由があると考えています。実際、この自由は条件付きであり、幻想です。現実の人は、たとえ物質世界の重要な領域、人々を征服し、権力を獲得したとしても、物質世界の誰かや何かを所有することはできません。彼の富の多く。彼は一人で生まれ、一人で死ぬ。人にとってこの世界は、自分の支配的な選択を確認するための条件を作り出す情報の幻想にすぎません。



このような質的に新しい社会に生きる個人は、自分自身に取り組むためのさまざまなスピリチュアルなツールを認識し、それらにアクセスできる必要があります。人が自分の靈的成長のために、例えば祈り、靈的実践、瞑想などの形で追加のツールを使用したい場合は、どうぞ、これがその人の願望です。しかし、道具はあくまで道具です。それらは、音叉のように、ある波に注意を向け、一瞬だけ、あの世、異界、神の世界を感じ、経験を積み、比較し、この世との違いを理解し、触れ合うことを可能にします。あなたの魂で深い感情を感じ、その力を感じてください。しかしその後、人は再び見慣れた三次元の世界に戻り、そこで再び毎日自分の選択をします。そしてここでは、そのような精神的な経験を積んだ彼が将来何を選択するかが非常に重要です。人は自分の性質を質的に変えてスピリチュアルな存在になりたいと思うのでしょうか、それとも動物の心からの一時的な幻想に誘惑されてしまい、それによって 彼は自分の魂と人格をさらなる苦しみに運命づけるのでしょうか?これらすべては特別なものであり、個人の個人的な選択の結果にすぎないようです。しかし、文明全体の動きは各人の選択にかかっています。それはすべて、社会のすべての人の意図の純粹さと誠実さ、そしてその非常に限られた時間枠を考慮に入れて、自分の人生に対する責任あるアプローチを伴う、彼の真の内なる選択から始まります。



社会に、主に精神的な面で文明的な秩序を確立するには、できるだけ多くの精神的な読み書きができる人々が必要です。これは、自分自身への取り組み、精神的な変革、知識の視野の拡大に取り組んでいる人々を指します。最初の段階では、社会のさまざまな領域に知識を広めるために、そのような人々の努力を団結する必要があります。世界社会において、世界と自分自身を理解するための原始的な知識に自由にアクセスできる、支配的な靈的性質を持つ、より啓発され、知的に発達した人々が存在するような条件を作り出すことが必要です。

アナスタシア：つまり、現在の消費者が物を買うという形式ではなく、「私は神のためにいる」「私は人々のためにいる」という善を生み出し、増やすという内なるニーズに基づいて社会で優先順位が確立されるように、できる限りのことをするということです。「私にとってあなたは私だ」という考えを販売します。

リグデン：まったくその通りです。ですから、神権の構造そのもの、この広大なさまざまな宗教階層、犠牲の儀式を執り行い、自らを人間と神との間の仲介者であると考える聖職者の軍隊(神がどのような人物であろうとも)を廃止する必要があります。さまざまな宗教で呼ばれています)、そして実際には、単に人々を犠牲にして生きています。彼らの多くにとって、宗教は単なる職業であり、(一般の信者の労働から得られる)収入源であり、政治的目的のために信仰を通じて大衆の意識を操作する手段です。聖職者の構造を廃止するために、革命を起こしたり、血なまぐさい対決や確執などを組織したりする必要はない。動物性の挑発。



この制度は平和的に廃止できる。結局のところ、司祭も他の人と同じ人間であり、他の人と同じように誤解したり間違いを犯したりする傾向があります。社会は単に聖職制度が不必要なものとして自然に崩壊するような条件を作り出す必要があるだけである。そうすれば、そこに含まれる人々は、実際の優先事項や人生の選択に応じて、社会にとってより役立つ他の職業に就くことになるでしょう。

アナスタシア： そのような状況を作り出すにはどうすればよいですか？

リグデン： 実際、これはすべてそれほど難しいことではありません。人々は自分自身が「罪を犯し」、施して司祭を誘惑するのをやめればいいだけです。最終的に、このビジネスが彼らに個人的な収入をもたらさなくなったら、彼らは聖職者のローブを脱いで、他のすべての人々と同じように社会のために働くことを余儀なくされるでしょう。

一般に、宗教用語としての罪の概念について話す場合、最も深刻な罪の 1 つは、どの特定の告白に属しているかに關係なく、司祭への施しと呼ぶことができます。なぜ？ある人は、司祭とその軍隊に雇われた召使を与え、彼らが自分より神聖であり、異なる服を着ているこれらの人々が神に近く、したがって彼らの祈りがより効果的であると誤って信じています。しかし、司祭たちは他の人と同じ人間であり、自分自身と自分の魂をまだ救っていないのに、どうやって他人を救うことができるのでしょうか？そしてもう一度、人はこの物質的な犠牲が誰に、どのような目的で払われているのかを考えるべきです。したがって、信者からの物質的な施しを必要とするのは司祭の軍隊だけです。



神はお金や物質世界の富を必要としません。人と神との関係は、靈的世界との接触から得られるその人の深い個人的な感情、神への心からの愛、感謝のみに基づいています。神に対する人のこうした真の深い感情こそが、その世界が人から認識できる本当の、唯一の価値なのです。さらに、これらの靈的世界との関係は、何の仲介者も介さずに行われます。

人は三次元の住人の立場から、つまり物質的思考のプリズムを通して世界を評価する一方で、多くの精神的な事柄において、その人は自分のプライドに触発された幻想で満たされることを理解しなければなりません。彼は、自分の注意の一部を靈的世界に捧げようと決めたのだから、大勢の天使たちが彼の世話をし、彼の要求を満たし、ほとんど王室の枕の上で彼を天国に連れて行ってくれるはずだと考えています。実際、人格が靈的に成熟するまでは、靈的世界では認識されません。ありきたりな人間の比較で申し訳ありませんが、そのような人格は何百万もの生殖細胞のようなものです。配偶子には一連の染色体があり、遺伝的特徴を持っています。人は自分の物質的な外観、存在、そして死にさえ気づきません。また、知らず知らずのうちにその力を利用してしまうこともあります。しかし、2つの配偶子の融合によって接合子が形成され、胚が発育し始めると、すでに少なくとも1人の人間、つまり女性(そしてスピリチュアルな意味では神)が存在します。女性原理)はもはやこの事実を無視できなくなるでしょう。彼女は間違いなくこの現象に細心の注意を払い、将来的には新しい生き物の世話をすることでしょう。



精神的な面でもそうなのです。人は自分自身に熱心に取り組み、精神的な実践を理解し、神の世界との深い感覚レベルでのコミュニケーションをとて生きる必要があります。そうすることで、人格が魂と融合し、それによって彼は永遠に受け入れられる権利を獲得します。そうすれば、靈的世界はその人に注意を向け、待望の新しい完璧な存在のように、彼を注意深く取り囲むでしょう。残念ながら、現代世界では、人格と魂の融合を達成するという古代の真実は失われており、人は神への愛と感謝を表現したいと願って、司祭に物質的な施しをし、それによって助けを求める。聖職者のローブを着たこの人を物質世界と誘惑し、誘惑する動物の心。あなたは罪を犯し、司祭もこの施しを受け入れることによって罪を犯し、それが彼にとって誘惑の対象となります。あなたの施しによって、あなたは彼に靈的なことではなく物質的なことを考えさせ、彼の魂や神への真の奉仕ではなく、物質的な収入を増やすことを気にするように強制します。この罪の重さがわかりますか？人間は自らの施しによって、この司祭の人格と魂を「地獄」に押し込み、自らの選択を物質、つまり動物の心を支持する方向に傾け、この罪深い行為を自らに課します。この罪は人体を殺すことよりもさらに恐ろしいものです。人体は一時的な衣服であり、実際には塵だからです。そしてこの罪は魂にとって猛毒のようなもので、魂が突破する機会を奪います。この人を永遠の命に導きます。そのような物質的な施しや犠牲の基礎は、あなたが言及したように、典型的な販売と購入の公式、つまり「あなたが私に与える - 私があなたに与える」、物質的な「身代金」の可能性への信念の形で動物の心を置き換えることです。、自分の罪と将来の獲得に対する「支払い」、健康から幸福に至るまでの新しい物質的利益。



アナスタシア: 多くの人はそれについて考えたこともありません。そして、一般の信者にとって、教会の必要のために施しを求めるることは、他の人々を助けることを伴うものであるため、自然で人道的なものに見えます。結局のところ、通常、司祭とその牧師は、たとえば寺院の建設、教会の必要性（説教では、教会という言葉はしばしば天の教会の概念と結びついています）、援助の援助などによって、施しの要求を動機づけます。貧しい信者など。これらの公的資金の分配に関する実際の状況について群れに報告する人は誰もおらず、収入と浪費に関する財務報告も提供しません。

リグデン: 通常の文明社会では、他の人々を助けることや、共同の精神的修行を目的とした同じ寺院の建設は、一般市民、特定の地域または集落の住民の団体によって実行でき、また実行されるべきです。これはすべて、地元住民にとって本当に重要であり、彼らの願望がある場合に、彼らが集まり、決定し、実行するという原則に従って行われます。たとえば、ある村の人々が寺院を建てたいと考えました。自分たち、子供たち、村の仲間たちのために、彼らはここに住まなければなりません。上から来た誰かのためではなく、自分たちがどのように生きるかを決める必要があります。そして安心してください、自分自身と彼らの愛する人、知人、子供たちのために、靈的に読み書きできる人々は、人の物質的原理を活性化する兆候なしで、精神的な要素を目覚めさせる兆候だけを備えた適切な神殿を建てます。



寺院や集団的な精神的実践を目的としたその他の場所では、人々は平等な条件で知識と経験を交換し、栄光と神の愛への感謝の中で魂の救いを求める集団的な祈りを捧げます。彼らは、今日の教会のほとんどの司祭のように、司祭プログラムに従って、靈的知識と動物的性質からの願望や態度、提案を混ぜ合わせて、群れに対して政治的または宗教的な司祭の独白を行うことはありません。結局のところ、この寺院は真に人々のため、彼らの靈的発達を目的としたものであり、靈的な穀物と物質的な態度を混合するためのものではなく、司祭の仕事や司祭の祭服を着た「新兵」による群れからの強奪のためのものではありません。その中で、人々は自らの精神的向上に取り組みます。

靈的成長やコミュニケーションのために人々が集まる場所である寺院からは、誰もお金を稼ぐべきではありません。恐喝、販売、有料サービスの提供、教会や「聖地」での誰かへの給与の割り当てが始まるとすぐに、より多くのお金を稼ぎたい、そしてより多くの権力を得るにはどうすればよいか、同時に特別なことは何もしないという誘惑が生じます。結局のところ、怠惰な心にとっては、地雷の中で削岩機として働くよりも、壮大な演劇の儀式でろうそくを持ち、自分のプライドを高次の存在との類似に喻える方が簡単です。したがって、人は自分が悪徳の網にどのように陥るかさえ気づかないでしょう。これは動物界の古くから知られているテクニックです。

そして重要なのは寺院そのものではなく、人々にあります。精神的な自己改善は、屋外でも屋内でもどこでも実践できます。



古代、人々は一般的に洞窟で精神的な自己啓発に従事していたことはすでに述べましたが、何千年もの間、何世代にもわたって人々がそこに来て、祖先によって岩壁に描かれた標識やシンボルから精神的な実践を学びました。そして、これらの洞窟は今日まで存在しており、その物質的な悲惨さに誘惑される人は誰もおらず、精神的な価値である知識は、靈的に読み書きできる人々によって今でも使用できます。古代においても、例えば古代エジプト、バビロン、古代ギリシャなどでは、さまざまな宗教の司祭たちが、祭祀を行うために金や宝石で装飾された壮大な神殿を建てました。そして、これらの寺院は今どこにあるのでしょうか？代わりに遺跡があり、その物質的な宝物に誘惑された人々によって金が長い間盗まれてきました。精神的な啓発の場があるところで、物質的なもので人々を誘惑するのは良くありません。 したがって、一部の人々が他の人々の靈的な願望から利益を得る機会を得るのは決して不可能です。精神的な知識の普及は、人に経済的またはその他の物質的な利益をもたらすべきではありません。これが物質的な誘惑を避ける唯一の方法であり、そうすれば人は自分の精神的な意図の誠実さで魂からそれを行うでしょう！

アナスタシア： はい、ほとんどの信者の問題は、人々が宗教に寄付をすることで、本質的に自分自身の靈的な仕事を買い占め、良心の問題を神権に帰していることです。彼らにとっては、自分たちで世の中に良いことをするよりも、「祭壇奉仕者」にお金を持っていくほうが簡単です。そして神権はこれを何の処罰も受けずに利用する。



その通りです。しかし、完全に罰を受けないわけではない。なぜなら、個人的な判断を回避することに成功した人はまだいないし、今後も成功することはないし、誰もが自分の行いと考えに応じて報われるからである。司祭に施しをすることで自分自身の靈的業を報おうとする人々自身に関して言えば、これは彼らの妄想です。本質的に、これは自己欺瞞です。なぜなら、人が自分のためにどんな物質的な見返りを思いついたとしても、誰も彼のために靈的な仕事をしようとはしないからです。結局のところ、重要なのは神殿に預けられたお金ではなく、社会の創造的な事柄への個人的な参加と、それに伴う個人的な靈的な変化です。

寄付と教会については、知的な人なら今日の現実を直視するだけで十分です。現在、都市における教会の建設はビジネスプロジェクトに変わっています。彼らは質ではなく量を重視し、実際に何人の人がスピリチュアルに参加できるかではなく、経済的利益や政治的利益がどのようなものになるかを重視します。さらに、どの宗教団体も、特に大都市では、自分たちで利益を得ようとしています。教区民の最大の流入を確保するために、人々が大量に集まる場所に近い土地。

宗教が宗派に分裂し、宗派間で闘争することは、単なる権力闘争であり、個人の重要性は財布によって評価され、一般的な信者に対する権力は有権者に対する政治権力とみなされます。すべてがひっくり返る!これは、社会の人々自身が靈的な事柄についてより読み書きできるようになり、知識や世界観の視野を広げ始め、社会生活に可能な限り参加し、神とともに内側に住み、善を行い、創造的な行為。そうすれば、神と人間の間に商業的な仲介者は「必要」なくなります。



アナスタシア: この点に関して、別の重要な疑問が生じます。もちろん、聖職者の「軍隊」の中には、そのシステムに参加する前はそのシステム内の本当の状況を知らずに、靈的な救いを願って何らかの宗教に仕えることを選んだ人々もいます。しかし、その中に留まり、大勢の信者に宣伝されていないことを観察しながらも、この政治的泥沼の中でも、彼らは信仰の純粋さと、祭司一族ではなく神だけに仕えるという誠実な意図を失うことはなかった。あなたはかつて、いかなる大衆宗教や信仰の栄光も、そのような、本質的には「神の民」の真の靈性にかかっているとおっしゃいましたが、残念ながらそのような人は世界中にはほとんどいません。このような宗教制度が廃止されたら、真に神のもとへ行き、精神的な修行をし、同時に無償で誠実に他者を助ける人々はどうなるでしょうか？

リグデン: まず第一に、今日、プライドではなく神に仕えたいという誠実な願いを持ち、対価を受け取ることなく人間の魂の世話をする人があまりにも少ないので。実際、軍に奉仕しているさまざまな宗教の何百万人もの司祭のうち、実際にはほんの数人しかいません。宗教関係者の圧倒的多数は見知らぬ人で、精神的な救いではなく、物質的な目標に誘惑されています。そして第二に、真の「神の民」にとって、生活の外的的な変化が彼らの内なる靈的な過程を止めることはありません。たとえ職業を変えて他の人と同じように社会のために働き続けたとしても、彼らは同じように誠実に取り組み続けるでしょう。精神的な自己啓発を行い、自由時間を他の人々を助けることに捧げます。



これは彼らの靈的な必要性であり、この世界の状況を支配する彼らの内面の生活であるためです。したがって、外部の変化は彼らを止めることはなく、むしろ彼らが直面しなければならないことや、宗教共同体の内部生活、そして「同僚」の行動や行為の中で毎日見ているものを考慮すると、彼らを喜ばせることさえあるでしょう。

社会の質的变化を達成するために必要な条件の一つは、人々自身が自らの靈的成長の意味を理解し、権力や物質的価値觀による神權の「軍隊」に属する人々の誘惑に参加するのをやめるということである。彼らにお金(寄付)や供物を与えたり、お辞儀、平伏、キス、卑屈、服従、請願、その他同様の動物的性質の誘惑で彼らのプライドを喜ばせてはいけません。

つまり、自分自身が「罪」を犯したり、他の人にそうするように仕向けたりする必要はないということです。結局のところ、この人はあなたと同じです。彼(犠牲のカルトの牧師)は、この物質世界では彼の魂が肉体の中にあるので、普通の人と何ら変わりません。

すべての人間の魂はこの物質的な囚われに苦しんでいるので、ここでは誰もそれよりも低くもより高くもなることはできません。

人がこれらの物質的な挟み込みから抜け出す方法はただ一つ、靈的に成長して魂を解放し、神の世界に行くことです。人生で少なくとも一度は、この欲求が魂から発せられ、それ自身が現れていることを感じなかった人はいないでしょう。本当の精神的な自由を追求するために。



もう一つのことは、人間の動物的性質がこの魂の欲求を独自の方法で解釈し、「自由」という概念そのものを歪め、靈的性質とは異質な物質的性質をそれに与えているということです。すべての人は信者であり、誰もが自分の信仰の力を自分の選択どおりに使用するだけです。ところで、自分を非常に熱心な無神論者であると考えている人々は、実際には、信者と同じ恐怖や迷信にさらされているのと同じように孤独です。社会のこれらの人々は、本質的に、「小規模な」規模でのみ同じ司祭であり、彼らとは異なり、動物の性質の性質(彼らのプライド、虚栄心など)を公然と称賛します。

アナスタシア: 社会で聖職制度が廃止されたとき、人々は将来同じような間違いをどうやって避けることができるでしょうか?靈的な知識を広める際に、私が意味するのは、プライドや虚栄心に誘惑されないこと、同族に対する権力を望まないことなど、つまり動物の性質の誘惑に抵抗することです。

リグデン: 文明が精神的な方向に進むなら、この問題は非常に簡単に解決できます。人間には二面性があり、動物原理とスピリチュアル原理の間で絶えず変動が生じることを理解する必要があります。したがって、靈的知識、つまり人類の普遍的な原初的知識の普及は、物質世界とその利益を代表する動物的心の指揮者としての人間の動物的性質にとっては好ましくないが、人間にとっては絶対に受け入れられ有益であることを保証する必要がある。 精神性質の発達人間の中で靈的世界の指揮者として。



原始的な靈的知識をすべての人がアクセスできるようにすること、そしてその普及において、動物的性質の刺激で人を誘惑する可能性を排除することが重要です。

アナスタシア: つまり、他人の精神的啓発に従事する人が経済的に不採算となるような状況を、人々自身が社会に作り出す必要があるのです。

リグデン: はい、この問題を解決するには、アニマル・マインドの指揮者による国民の意識操作、経済的利益や政治的利益を得る者によるあらゆる可能性を排除する必要があり、特に情報の歪曲や情報操作を許さないことが必要です。彼ら自身の利益、つまり知識の普及における裁量権の表明です。

アナスタシア: しかし、これは実際には、多くの人が原初の知識の基礎を学んだ場合にのみ可能です。そして、世界社会がこの情報を知ると、大多数の人々は靈的な小麦ともみ殻を明確に区別し始め、悪意のある人々の影響や挑発に屈しなくなるでしょう。彼らは自分自身の中の動物的性質からの現れを無視し、チームや周囲の靈的性質をサポートすることができるでしょう。

リグデン: まったくその通りです。まず第一に、人々は精神的に目覚めなければなりません、そうすれば社会ではこれらの植民地時代の考え方の原始的な考え方は自然に消え去り、全体が人々の信仰によって生計を立てている、さまざまなバッカベンチャーとその取り巻きからなる軍隊。



結局のところ、彼らは人々を犠牲にして生きている限り、社会の寄生虫、社会の寄生虫として自分の人生を生きるために、さらには人々がそのために手にキスをし、彼らに敬意を払うために、何でも発明します。人々は自分のスピリチュアルな運命のマスターになることを学ぶ必要があります。誰かが自分にとって重要なスピリチュアルな仕事をしてくれるのを待つのではなく、自分自身を改善し、自分自身に取り組み、世界の知識の視野を広げることです。司祭や政治家からの慈悲を期待せず、幻想にふけったり、自分を操作されたりしないでください。しかし、あなたはより成熟した人格、社会的に活動的で靈的に責任のある人間になる必要があります。そして、過去の過ちを繰り返さないために、動物の心の意志へのさらなる依存、靈的知識の歪み、そして聖職者計画への回帰を避けるために、自分自身と他の人々を靈的に助けると決心した人々は、次のことを行う必要があります。問題は、彼らのプライドと物質的利益を損なう行為です。なぜなら、すでに述べたように、経済的利益が現れる場所には、プライドを満たす機会、利益や特権、誰かに対する権力、遅かれ早かれ誘惑が確実に生じ、人間の精神の弱さが現れるからです。

これは実際にはどうなるでしょうか?人が自分自身を改善し、靈的な経験を持ち、靈的な知識を広めるという内なる欲求を持っている場合、その人は自由な時間に人々を助け、彼らは学び、ひいてはこれらの問題で他の人を助けることになります。人々、そして次の人々。



しかし、誰もが社会のために働くかなければならず、何らかの民間の職業に就き、その労働で日々の糧を稼がなければなりません。そして、仕事から自由な時間には、勉強に行き、善良な友人と同じように、他の人々と経験や知識を平等に共有し、同時に自分の動物的な性質を抑え、スピリチュアルな性質に導かれて行動してください。これは人々にとって真の助けであると同時に、自分自身に取り組むことです。自分自身の中にある靈的原理と動物的原理の現れを認識し、自分の考えを注意深くコントロールし、自分の性質を研究し、靈的成長をすることです。これがポイントです。自分自身を成長させ、他の人を助けるのです。

この靈的知識の普及の何が特別であるか理解していますか?人は神についての知識を人々と分かち合いに行き、自分の個人的な時間、体力、お金をそれに費やしますが、見返りに物質的なものは何も受け取らず、動物的な性質の誘惑や満足感も得ません。彼が受け取る唯一のものは、彼と同じように苦しんでいる人々の魂との冷静なコミュニケーションを通しての精神的な成長です。自分の中に蒔いたものは、最終的には刈り取ることになります。精神的なものへは精神的なものへ、物質的なものへは物質的なものへ。つまり、この人は、人生の精神的な祭壇に世俗的な自己を提示します-動物的性質の野心の形での犠牲であり、また、人々とのコミュニケーションから彼の精神的な「贈り物」を増やします。さらに、これらの贈り物は物質的なものではありません(お金、食べ物、物、プライドによる人間の野心ではありません)。これは、人が靈的な知識を通じて他の人に伝える靈的な要素です。結局のところ、人間は原始的な靈的知識を広めることによって、それによって統一された動物の心に対抗し、助けを与えるのです。他の人たちには、物質世界とは関係のない、自分たちの中に隠された神の本質を少なくとも少しは知り、感じ、理解してもらいたいのです。物質は死にますが、魂は不滅です。人には選択の自由があります:死ぬべき者になるか、永遠に行くかです。これが要点であり、すべてが成長するべき場所です。



動物の心は非常に強いのに対し、人間はその二面性のせいで、2つの原則の選択の間で迷ってしまうため、弱いということを覚えておかなければなりません。スピリチュアルな道を忠実に貫いている人でも、動物的な性質からの攻撃にさらされることはあります。人は気を散らし、その内容に少し誘惑されるだけで十分であり、アニマルマインドがすぐに彼の意識を引き継ぎ、人格の選択が特に重要である人生の瞬間に勝利することがよくあります。だからこそ、常に警戒し、たゆまぬ努力を続け、動物的な性質に屈しないことをお勧めします。

一度熊手を踏めば、次回からは回避できるはずです。スピリチュアルな知識の普及には、常に動物的な性質からの誘惑があり、プライドが高く、自分を高次の存在に喻え、この知識を自分に適用したい、自分のやり方で解釈したい、会話の中で自分の考えから解釈したいという欲求があります。他の人と。このようにして動物の性質が歪められ、物質的な概念に置き換えられ、その結果、原始的な知識が失われます。人は靈的な知識が与えられるものであることを理解する必要があります。すべての人。人間は神ではなく、天使でも、智天使でも、聖靈でもありません。彼の魂は物質世界に属する多次元エネルギー構造に閉じ込められているため、彼はすべての人々と同じ単なる人間です。



アナスタシア： 読者の興味を引くもう一つの重要な質問があります。人は誰かの「罪」を赦したり、高次の靈的存在に代わって靈的に何かを赦したりすることができるでしょうか？

リグデン： 人は、自分自身が不完全であるため、誰かの「罪」を許すことも、誰かのために祈ることもできません。そして、地球上の誰も、最高の靈的存在に代わって許す力を与えられておらず、ましてや神の名においては許されません。

「罪」の赦しは告白と関係していますが、それについては会話の中すでに述べました。私たちは、宗教における告白のような現象の起源の心理的性質を理解する必要があります。カタルシス(ギリシャ語の「カタルシス」-「浄化」に由来)の効果は、宗教牧師だけでなく、精神分析者や心理療法士にもよく知られています。それは古代から知られていました。これは、内なる葛藤や精神神経障害の深い経験のきっかけとなった人生のエキサイティングな瞬間を思い出す治療法です。実際、人にとって、それは心理的な解放であり、たとえば、悩みや問題についての友人との親密な会話の特徴であり、うつ病の状態が消えた後、人は一種の心理的な解放を経験します。人々が言うように、「喜びを分かち合うと喜びは 2 倍になり、悲しみを分かち合うと悲しみは半分になる。」さらに、ほとんどの場合、人はプライドが高いほど、それを認めるのが難しくなります。何かが終わった中で。宗教に奉仕する人々はこの習慣を採用しました。



行われたことの告白は一種の犠牲として提示されるようになり、その報酬には必ず「不義の行為の許し」、「罪の赦し」が与えられることになる。実際、人々は自分自身を靈的に努力することから引き離され、よく求めれば必ず許しが得られるという考えを教えられてきました。繰り返しますが、これは単に人の信仰に基づいた純粋に心理的なテクニックです。

しかし、これについて私は何が言いたいのでしょうか？親密な会話はもちろん良いです。しかし、それは一時的に人が内なる葛藤の結果の一つとして現時点で生き残るのに役立つだけで、主要なこと、つまり葛藤の原因を取り除くことは解決しません。後者のルーツは日常の思考習慣にあり、そのほとんどは動物的性質の考え方や欲望に対する人格の注意の集中に関連しています。そのような対立の出現の原因を根本的に取り除くことができるのはその人自身だけであり、他の誰も彼のためにこれを行うことはできません。彼自身だけが、自分の選択によって、内面の変化を起こし、善行と自分自身への真剣な取り組みを増やし、自分自身を靈的に浄化し、成長し、成熟した存在として物質的な囚われから抜け出し、魂を解放することができます。彼自身だけが、その靈的な働きのおかげで、独立して七次元（「第七の天国」、「楽園」、涅槃へ）に入ることができます。真にスピリチュアルな道を歩み、自分自身に取り組み、神との個人的で親密なコミュニケーション、愛、スピリチュアルな原則とのつながりによって人生が支配されている人は、遅かれ早かれ彼自身がこの理解に達するでしょう。



人々は自分の二面性を理解し、あたかも自分自身がこの教訓を経験し、それが自分に起こったかのように、お互いの間違いを理解し、許し合うことを学ばなければなりません。誰でも不正行為を行うのはよくあることです。しかし、靈的に強い人は自分の間違いを認めるだけでなく、そこから学ぶ方法を知っています。彼らは自分が犯した間違いに気づき、可能であればそれを取り除く勇気と忍耐力を持っています。解決できないことについて悲しむ必要はありません。しかし、自分だけでなく他の人たちにも常に靈的な喜びをもたらす力を倍加する必要があります。人生は本当の学校であり、間違いは教訓となり、獲得した経験は指導者となります。

よく言われるように、穏やかな海では経験豊富な船乗りにはなれません。靈的な経験のおかげで知恵を獲得することによって、人は自信を持って目的を持って人生の嵐の海の真ん中で自分の船を操縦し始め、過去の間違いを避け、過去の要素が彼を左右に投げることを許さないようにします。内部対立を引き起こします。古代の賢人たちが言ったように、人生の荒れ狂う海で人生の舵を握るには、まず第一に、自分自身に対する精神的な努力が必要です。人生の要素の嵐の中を船を率いるそのような勇敢な男にとって、遅かれ早かれ、彼が以前は自分の中に知らなかった、まったく異なる、精神的で純粋な世界が彼の内なる視線に開かれる日が来るでしょう。この世界は魂に平和を生み出し、知恵が物質の要素から勝利を収めて永遠の岸辺に着陸することを可能にします。



アナスタシア: まず第一に、心の中にさまざまな物質的な誘惑についての考えが現れ、強化される理由を自分自身に説明すべきではありません。これは事実です。

考える人生を共に歩む人々が、利己的な野心、否定的な感情、その他の動物的性質の現れの泥の中でお互いを踏みつけず、社会の善良さを刺激し、お互いを大切にするような社会で多くの人が生き、創造したいと願っています。理解と敬意を持って。人類の歴史から判断すると、これは人々の長年の夢です。

リグデン: まったくその通りです。したがって、社会そのものが社会の精神的な問題に取り組み、それが自然で優先事項となるとき、そのとき秩序が生まれるでしょう。そしてそのためには、この文明の大多数の人々が今のように物質的な優先事項のためではなく、精神的な目標のために生きるような条件を作り出す必要があります。そのとき、真の靈的知識を隠すことによって維持されている人々に対する秘密の権力の構造は存在しなくなるため、司祭の構造自体が消滅します。人々は真実について知り、誰もがそれを利用できるようになるでしょう。

アナスタシア: はい、社会の質的変化には、この社会を構成する人々の考え方を変える必要があります。これらすべては、社会そのものの主導で導入される革新的な考え方、革新的な文化と行動を前提としています。

しかし、実際には、新しいものはすべて古いものとしてよく忘れられています。人々は、自由と平等が君臨する理想的で公正な社会を築くことを長い間夢見てきました。しかし、聖職者や政治家は人々のこの願望を利用し、約束にはそれを盛り込んでいますが、実際にはこれが起こらないようあらゆる手段を講じています。



したがって、実際には、この「平等」は、聖職者や政治家が社会大変動、改革、革命、ある宗教、政党、社会制度から自分たちにとって有益な別の宗教、政党、社会制度への変化を引き起こした後でも、常に形式的なものであることが判明しました。このような混乱の結果は常に同じであることは簡単にわかります。聖職者と政治家が再び管理階層(特権を持つエリート)を作成します。つまり、社会の状況は実際には世界的に変化しません。社会制度や支配的な宗教の名前を変えるのは広告看板だけです。おそらく、人々が真の平等と自由が何であるかを忘れて久しいために、このようなことが起こるのでしよう。

リグデン：人々は樹冠を見ますが、根は見ません。そしてその本質は、すべての人々は平等であり、まず第一に、この物質世界における投獄の条件、彼らの精神的および動物的性質の特徴、彼らの人生のはかなさ、そしてこの世界に滞在する一時的な性質において平等であるということです。世界！すべての人は孤独に生まれ、孤独に死んでいき、誰もが独自の精神的な運命を持っており、それは自らの選択によって形成されます。すべての人は、その靈的な性質により、善良です。なぜなら、誰もが魂を持っているからであり、この意味では、誰もが家族であり、互いに非常に近いのです。なぜなら、魂は一つであり、彼らは神の世界から来ているからです。そしてこれは、社会的地位、居住地、宗教、身体の国籍に関係なく、すべての人々を結び付けます。結局のところ、人々(新しい人格)は、特定の人種の特定の遺伝的継承を持つそのような体を受け取ったという事実、彼らの一部は中国人、他の人はイギリス人、他の人はナイジェリア人などに生まれたという事実について責任を負いません。つまり、彼らの生物学的な物質的な殻が再現されたということです。ある民族グループまたは別の民族グループで。



しかし、生理学的な違いがいくつかあるにもかかわらず、人々は、特定の人種に属しているかどうかに関係なく、人間性の程度に応じて、自分自身と他人、自分が知っている人も知らない人も評価しており、すべての民族は善と悪の概念を持っていることに注意してください。この評価は、スピリチュアル原則と動物原則の間の選択に基づいて、彼らの意識の戦場で行われます。そして、人々にとって重要なことは、友人の身体がどのように見えるかではなく、その人自身が内面の資質、つまり「精神的な美しさ」の点でどのようなものであるかです。

そして体は体です。ほとんどの人は、自分の体についての本当の知識は、「ここが痛い」という言葉の中に含まれています。そして人間社会における身体の美しさの理想は相対的なものであり、一部の人々の広告や他の人々の模倣によって決定されます。さらに、この体の美しさについては国によって独自の考えがあり、子供の頃から指輪で首を長くすることが美しいと考える人もいれば、10代の頃の体型が美しいと考える人もいます。しかし、それは問題ではありません。人々の魂が特定の肉体に詰め込まれたのは責任ではありません。人格の本体は、その存在のすべての外部条件と同様に、選択された優先順位、支配的な願望、および現在の人のサブパーソナリティによってかつて行われた選択の結果です。 そして今日、人々をこれほど激しく分割し、人類という全体を、人種、民族グループ、さまざまな社会的および宗教的グループといった構成要素に断片化しているのは誰でしょうか？政治家と聖職者。それらは、特定の分野における科学の発展の方向を決定し、人々が特定のトピックを拡大し、深めるための条件を作り出し、それに応じてそれらを若い世代の教育システムに導入します。



たとえば、誰が国家やナショナリズムを研究するのでしょうか?政治学者。彼らは、政治的命令に従って、科学的称号、これらの「研究」に対するさまざまなインセンティブ、および彼らによって決定された一般的な方向へのさまざまな推測的概念の発展を受け取ります。それで彼らは広範囲に調査し、さまざまな理論を発明しますが、彼らは皆、豊かに暮らし、まともな給料、名誉、尊敬を得ることを望んでいます。

世界の政治家たちは、自らの権力のために人々を分断し、それを自らの手で行っています。例えば、同じ科学の代表者たちが(意識的に、あるいは世界的本質を理解せずに)金銭的補償を求めるプログラムやガイドラインを実行し、政治的決定を実行し、実際に権力者にとって有益な概念を社会に普及させている。さらに、彼らはこれらすべての理論を(歴史的知識というもっともらしい口実の下で)数多くの歴史的事実に基づいており、「そんなことはできない」という世間の非難のスローガンのもと、過去の破壊的なモデルを実証しているとされています。しかし、実際には、これは模範、行動の固定観念、「他に何が可能か」という選択肢を人々にデモンストレーションし、押し付けることであり、それがさらに大きな分断、つまり社会の分化に寄与することになります。例えば、階級闘争、不平等、人種差別、社会的不正義、人々を「上級」と「下級」、「エリート」と「群れ」に分ける、戦争を始める方法などの考え方方が説明されています。世界のどの国の中の政治学の教科書でも読んでみてください。



これは、外国人嫌悪(ギリシャ語の「クセノス」-「見知らぬ人」、および「フォボス」-「恐怖、恐怖」から)の継続的な激化、つまり、人々の互いに対する拒絶、恐怖、憎しみ、

異物、なじみのないものに対する不寛容、したがって無意識のうちに人に対して敵意を抱くこと。しかし、権力のトップが現実にどうなっているのか、現代の政治家や聖職者が実際にどのように権力を築いているのか、そして彼らが商業的利益のために国家全体をどのように搾取しているのかについては、一冊の教科書にも書かれていない。

つまり、社会の分裂と断片化は世界の政治家や聖職者によって人為的に刺激されているのです!何のために?そして、人々の心の中に敵のイメージを形成し、そのイメージによって社会全体を恐怖と従順に保つためです。そのため、誰かと戦うことを目的としたこの口実のもとに、社会は躊躇なく自国の国家予算から「治安対策の強化」などに多額の資金を投入することを承認するだろう。言い換えれば、国家は人々に対する管理と権力を強化したのです。国家を代表するのは誰ですか?政治家のグループは、それぞれの利益を持った個人です。彼らは、この人為的に生み出された、時には後援された国民の「恐怖」を利用して権力を強化し、秘密保持と国民の安全確保を口実に予算を盗んでいるだけです。

テレビで人々が映し出されているものを見てください。完全な脅迫、殺人、爆発、強盗、スキャンダル、自然災害の犠牲者、つまり継続的な緊急事態や事件など、彼らの国ですべてがどれほどひどいかです。一体どんな正常な精神がこれに耐えられるでしょうか?なぜ彼らはこれだけを見せているのでしょうか?世の中には良いニュースはないのでしょうか?

存在しますが、意図的に十分に示されていません。結局のところ、それらは人の靈的性質にとって非常に嫌悪感を与えるものですが、その人の動物的性質を激しく活性化させるものです。



政治家や聖職者にとって、人が狩られた動物のようになること、生涯にわたって動物の恐怖に支配されること、そして大衆の間では、人工的に作られた敵のイメージに対する動物の卑屈さと攻撃性は、実際には有益です。そして、そのようなゾンビ化した人々に対する権力は無限になります。したがって、社会は変わらない結果をもたらします。大多数の人々が平等、自由、正義を望んでいる一方で、実際、世界社会では、政治家や聖職者が絶え間ない戦争を刺激し、人々の間の人種的、国家的、宗教的な敵意を煽っています。

アナスタシア： はい、完全な欺瞞です。これは国民にシャベルを与えるのと同じであり、多国籍の家族のために新たな家を建てるための基礎を掘っていると考え、自らの手で墓穴を掘ることになる。どこを見ても、条件付きの人為的な人類の分裂と断片化が見られます。しかし、人々自身がこの状況を変えるまで、このような欺瞞はすべて存在し得る。

リグデン： まったくその通りです。すべては人々の手にかかりており、むしろ彼らの考え方にはかかっています。真実は一つだけです。しかし、人が精神的にその小さな違いを許容すると、最終的にはそれは彼の中で無限に分割された空虚になります。真実を知るということは、その中のすべてを「賛成」か「反対」かで頭で分けることではありません。真実を知るということは、その唯一の本質と無限の靈的自由を魂とともに理解することを意味します。精神的な性質から、平等、兄弟愛、全人類との団結、地球上のすべての人々が家族であるという認識の中で生きるという人間の自然な必要性が生じます。そして、それらの精神的な要素において、互いに非常に近いものです。



動物的な性質が人の中で優勢になると、この欲求が歪められます。そして、人は消費者形式の考え方で自分と他人を比較し始め、自分の意見ではある意味で「自分より上」にいる人々と自分は同等であると考え、自分の意見では「上」にいる人々のことさえ覚えていません「ある意味彼は彼よりも下だ」そして、これは政治家や聖職者によってうまく利用されており、平等や兄弟愛、宗教経典、政治概念、紙上の法律などについてのスローガンにそのような考えが含まれています。

アナスタシア： そうですね、それで人々は、憲法や国際条約と同じように、すべての兄弟姉妹が国際人道法、あらゆる形態の人種差別の撤廃、すべての人々の平等などについて語るのはどういうことなのか不思議に思います。つまり、人を世話すること、平等の原則に基づいたその人の権利について詳しく説明されています。しかし実際には、私たちは誰にとっても平等な機会とは程遠い世界に住んでいます。

リグデン： 人々を隔てるのは物質とそのニーズ、つまり動物の性質です。しかし、もし人々が自分の靈的な性質に焦点を合わせれば、集団として、自分たちの間の意見の不一致を克服することができるでしょう。

おそらく私は、人間の選択とその結果について語る、二人の兄弟についての古代東洋の寓話についてお話しするつもりです。「昔々、同じ村に双子の兄弟が生まれました。そして、出生の差は数分で計算されましたが、その後の人生を通じて、長子は自分が最年長であり、したがってより賢いと考えていました。



兄弟が成長したとき、たまたま旅行者が彼らの家に一晩立ち寄りました。彼は靈的で賢い人であることが判明しました。当時、この村の人々は近隣の人々と戦争状態にありました。この戦争はすでに人々に多くの悲しみをもたらしています。しかし、誰も戦争と死を回避する方法を知りませんでした。そして兄弟たちは賢者にアドバイスを求めました。

靈的な人は彼らの話を聞いた後、生と死の本質についての単純な真実を語りました。彼は人間の世界で何が起こっているのか、人間の二面性の性質、何が人間を無知の鎖に閉じ込めてているのか、そしてそれから自分を解放する方法について話しました。彼は、真の道を見つけ、魂を救い、生と死の先にあるものに到達する方法について話しました。そして最後に彼はこう言いました。「真実を知ることによってのみ、死から自由になれるのです。真実は内なるものの所有物です。真実への道は外部プロパティです。そしてこの道を歩むことによってのみ、あなたは真実を知り、死から自由になることができます。」しかし、兄弟たちはそれぞれ自分なりの方法で賢者の言葉を理解しました。そして誰もが自分の魂を救うために自分の道を選択しました。

兄は靈的な知識を高めようと決心しました。彼は戦争への参加を避けるために故郷を離れた。彼は多くの国を旅し、現地の人々の宗教を研究し、その中から自分が最良と考えるもの、つまりすぐに「内なる財産」の獲得につながるものを探りました。そして最終的に、彼は幅広い知識と経験を獲得し、その努力で非常に成功を収め、自分を選ばれし者の恩恵に恵まれた啓発された人間であると考えるようになりました。同時に、彼はそれを非常に信じていたため、多くの人も彼を信じて彼から学び始めました。



そして弟は人々のところへ行き、賢者から聞いた単純な真実を語り始めました。彼の言葉に耳を傾けた人もいた。この世のすべては神の助言を聞く支配者によって決定されると信じて笑った者もいた。しかしすぐに、笑った人々さえも青年のスピーチに耳を傾けるようになりました。なぜなら、彼の言葉は真実であり、そこには真実が含まれていたからです。そして人々は、戦争はしたくない、誰も殺したくないし、自分も死にたくない、と彼に言いました。しかし、支配者が彼らに戦いを強いているので、彼らに何ができるでしょうか?それに対して若者はこう答えました。「統治者が破壊することはできても、創造することはできないとしたら、彼らに何のメリットがあるというのか?」死者を蘇らせることができないなら、どうやって生者を死刑に処することができるでしょうか?誰でも木の枝を切ることができます、それを木に取り付けることができるのマスターだけです。そして統治者もただの人間だ。そして彼もまた、皆さんと同じように死を恐れているので、戦士たちの命の陰に隠れて法令を発令しているのです。しかし、あなたは彼の命令を実行します。支配者は一人ですが、あなた方はたくさんいます。彼はあなたを騙して、自分は強い、なぜなら彼の強さは、あなたの意志に反して彼の意志を行うあなただからです。人々が武器を捨てれば、戦う者はいなくなる。山の強さは頂上にある石にあるのではなく、その堅固さにある。」そして人々はその知恵を吹き込まれ、戦争中の近隣の人々にそれを伝えました。真実が聞こえてきました。そして人々は腕を下ろした。そこで、その場所では、賢者の真実の言葉を人々に伝えた素朴な若者のおかげで、戦争は止まり、平和が訪れました。そして真実は多くの命を救い、多くの人が真実への道を見つけました。

しかし、時間はすぐに過ぎます。兄弟たちの地上での年月は過ぎました。同じ日に生まれたのと同じように、彼らは亡くなつた。



たゆまぬ熱意のおかげで、兄は精神的に完璧な高みに達し、ガーディアン自身の前に姿を現すことができ、ガーディアンの後ろにはチンバット橋が立っていた。そして彼は、弟がどのようにしてこの橋を通過したのか、そして門番自身が彼の前でどのようにして永遠の門を開いたのかを自分の目で見る機会を与えられました。そして、彼が見たものは靈性の高い兄に非常に感銘を与え、その後の9回の転生すべてで弟の靈的な道をしっかりと追い、見たものの記憶を保存し、それを人々に伝えました。」

アナスタシア：はい、とても良い例えですね、勉強になります。確かに、多くの人々の精神性は、自分自身に真剣に取り組むというよりも、高い自尊心のレベルにとどまっています。しかし、社会全体と同じように、すべては紙の上にありますが、人生においては、それは苦しみを通過する旅にすぎません。

リグデン： 実際、人々は個人から集団まで、小さなコミュニティから大きなコミュニティまで、生き方を選択します。世界の政治家や聖職者は、行政機構としての自分たちこそが求心力であり、彼らなしでは人民は何もできないと人々に鼓舞する。それらは絶えず人々を植え付け、分離させます。そうでなければ、人々は実際に彼らなしで、そして一緒に行動し始めるでしょう。結局のところ、すべては人々にかかるており、彼らは聖職者や政治家の計画を具体化し、現実の事柄や社会のさまざまなプログラムを実行する人たちです。国民自身の支持がなければ、政治家や司祭になることはできないし、成り得ない。政治家や司祭がそのような支援を剥奪されるとすぐに、彼は権威と権力を剥奪され、誰もが彼のことを忘れ、彼は他の人と同じように普通の社会の一員になります。



アナスタシア: 教えてください。社会のモデルは何であるべきですか？ 今日、さまざまな形の国家政治構造（社会統治）、政治体制、およびイデオロギーが存在します。確かに、個々のイデオロギーやそのような形式を注意深く研究し始めると、すべては人間的な方法ではなく、動物の性質に基づいて構築されていることがわかります。理論がどこかで美しく説明されていたとしても、歴史的な出来事から判断すると、実際には、のことわざにあるように、「彼らは紙にそれを描いたが、障害を忘れていた」ことが判明しました。

リグデン: はい、なぜならあなたが列举したものはすべて政治、つまり経営、権力、社会に対する政治家と聖職者の分断されない支配に基づいて構築されているからです。「国家と社会」という言葉さえも別々に書かれていることにお気づきでしょうか？さらに、国家は社会に対する政治的上部構造、つまり人民に対する権力の支配であると考えられています。

たとえばロシア語の「国家」という言葉の語源を見てみましょう。「国家」は「主権者」の領域です。古いロシア語の「主権者」は、「権力を持った特定の人物」と「契約上の形式」の両方を意味していました。たとえば、「ヴェリーキー・ノヴゴロド氏」などでした。この言葉は、所有者、主人、王子統治者の名前である「主権者」に関連付けられています。そして、古代東のペルシア人は、「羊の所有者」（「ゴスパンダール」）というさらに正確な定義を持っていました。「政治」という言葉がどのようにして生まれたか知っていますか？

アナスタシア: そうですね、私の知る限りでは、ギリシャ語の「politike (techne)」、つまり「国家を導く技術」から来ています。そして、これらの言葉がギリシャ語の「ポリ」（「多くの」）、「テクネー」（「芸術」、「工芸」）から来たという事実に言及する人もいます。



他には、古代ギリシャ人が都市国家と呼んでいたギリシャ語の「ポリス」に由来するものもあります。

リグデン：この答えはかなり予測可能です。この情報は、多くの教科書や本のおかげで人間の意識に導入されています。しかし、詳細を見てみましょう。古代ギリシャは一体どこでそのような社会管理の形態を手に入れたのでしょうか?しかも、古代ギリシャの都市国家の最高官であるアルコンが自称したとしても?古代ローマから - 当時まだ形成されつつあったフリーメーソンの司祭のこのサポート「巣」から、彼らは宗教的カルトの設立、独自の目的のための社会の統治形態、工芸品のワークショップの創設などに正確に従事していました。ギリシャ人はどこから民主主義(ギリシャ語の「デモス」-「人民」、「クラトス」-「権力」、つまり「人民の力」)という政府形態を獲得したのでしょうか?ローマ人が共和国を取得した場所(ラテン語の「res」-ビジネスと「publicus」-公共、「res publica」-「公共(共通)ビジネス」から)。これらすべての政府形態は、フリーメイソン(アルコン)の聖職者によって開発され、公人を通じて人々に普及させました。

今日世界では共和制や民主主義となっているこれらのいわゆる「人民的」政府形態、政治体制の下で、なぜ国民自身が国家の統治から実際に排除されているのか考えますか。紙の上ではすべてが美しく説明されていますが、法律では「機会均等」、「国民への個人的および政治的権利と自由の付与」などの集団的意思決定の方法が考慮されています。しかし実際には、地方および中央の聖職者と政治家による実際の占領が存在します。

「人民の力」の統治機関のエリートとその恣意性。



これらの自称「エリート」たちは、ほとんど公然と公有財産を彼らの間で分割し、国民の利益を無視して搾取し、陳腐な利益のために国家資源を自分自身や氏族の利己的な目的のために使用します。そして大衆は、いつものように、選挙から選挙へと公約に踊らされている。実際には、金融グループと政治グループ、半封建的な「王子たち」と「灰色の枢機卿」の間で、自分たちの影響力の範囲、つまり「食料の谷」を拡大するために戦っている、通常の舞台裏の闘争が存在する。これは世界中で起こりますが、主に「文明化された」国家で起こります。同じことは、政治権力のイデオロギーモデルにも当てはまります。たとえば、個人の自由の実現を伴う同じリベラリズム（ラテン語の「リベラリス」から「自由」）、社会主义（ラテン語の「ソーシャルリス」から「公共」）、社会正義、自由、平等などの公共の理念に基づいています。私は、攻撃的な方向に向けられたイデオロギー、政治体制、権力に基づいた形態をもはや採用しません 個人の支配 - 専制政治（君主制）または少数派の支配 - 寡頭政治（貴族政治）について。 では、なぜこのような現象が現代社会で起こるのでしょうか？そうです、なぜならこれらすべては当初、物質主義の法則、あるいはむしろ動物の心に従って、大衆をコントロールするための2つのインセンティブ、つまり信仰と恐怖に基づいて開発され、人間のより低い本能、彼の世俗的な自己、精神的な目標に有利に開発されたからです。紙の上で宣言されたものは、政治家と聖職者の実際の分割されていない権力の隠れ蓑にすぎませんでした（そして今も機能しています）。だから今日はみんなおしゃべりばかり理想的で人間らしい人間社会について。



しかし、実際にそれを作成した人はいるのでしょうか？そして、理想的な社会を創造するという問題の定式化そのものは、常に社会そのものではなく、同じ聖職者と政治家による同じ世界的な人民統治システムを維持しながら、その社会に対する国家権力の形態が正確にどうなるかに関係している。

アナスタシア：それは確かに！人々にとって、いかなる権力も二つの悪の間で常に選択を迫られます。

リグデン：その通りです。さて、「政治」という言葉に戻りましょう。「ポリシー」という言葉は、「受領」、「合意」を意味するイタリア語の「polizza」に由来しています。アルコンは、二重の意味を持つ言葉の下でプロジェクトを立ち上げることの大ファンです。自分たちを神と人々の間の仲介者であると考えているアルコンは、司祭の統治モデルを社会、より正確には、何らかの理由で彼らの宗教的権威に従属していない社会の部分に投影しました（たとえば、それは、次のような人々を受け入れます）他の国に住んでいて、その土地の神だけを信じていたり、異なる文化を持っていたりなど）。「政治」という言葉は彼らによって、「多くの」を意味する「ポリ」と「神」を意味する「テオス」という2つのギリシャ語から作られ、社会に対する「多くの神」の力以外の何物も意味しませんでした。そこから、地元の「神」、つまりアルコンの権力体系に従属する政治家が登場しました。今日、多くの国が世界で最も一般的な法体系の一つであるアングロサクソン法と大陸法に従って生活していることは驚くべきことではありません。



しかしあつて、それらの創造の基礎はまさに古代ローマの聖職者によって開発されたローマ法でした（「十二表の法典」および動物の性質の最良の伝統で規定された、民族を統治するためのその他の聖職者の文書）。

アナスタシア： そうですね、だから人々が言うように、宗教法と同様に政治法も常に懲罰的であるのです。もちろん、一般的に、世界社会がアルコンの攻撃的な兆候の下で、アルコンによって確立された規則に従って生活しているのは悲しいことです。

リグデン： 彼らがこのように暮らしているのは、人々が実際に誰がどのように自分たちをコントロールしているのかを知らず、また、これらの問題を深く掘り下げていないため、分からぬからです。人々が世界史、または少なくとも紋章学（中世ラテン語で「ヘラルドゥス」-「ヘラルド」、紋章の科学）に興味を持てば、彼らはあまり興味を示さなかった非常に興味深い事実に目が開かれるでしょう。その前に注意。特に、公国、都市、州の基準、旗、紋章を考慮すると、それらは原則としてアルコンの区によって開発され、無知な支配者に与えられたものであり、その中に記号と特徴が見られます。潜在意識に影響を与え、人の動物的な性質を活性化するシンボル。

これらすべては現在も存在しており、以前と同様に、密かに人々の意識に影響を与えることを目的としています。世界の近代国家の公式シンボル、中央および地方自治体、省庁、部門、サービス、および世界のさまざまな通貨の紙幣に印刷されているシンボルに注意を払うだけで十分です。これらは基本的に十字架であり、前エッセンス（記号またはシンボル、ほとんどの場合地上の王室の属性）の遮断を示します。

王冠の形の権力）と動物の性質の強調、つまり人の側面の側面を意味し、主に中央のシンボルの側面に特定の攻撃的な動物の形で描かれています。



都市や国から国際機関や企業に至るまで、どれだけ多くの紋章にフリーメイソンの記号やシンボルが刻まれているかを見てください。弓と矢(一緒に、または個別に)、斧、鎌、ハンマー、剣、銃器、コンパスなどです。ライオン、ヒョウ、ドラゴン、ワシ、フリギア帽、オリーブの枝(ユダヤ教の神権)。私は、星の形をした特定の数字記号(6、13など)が多くの場合に存在することについて話しているわけでもありません。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

図108。さまざまな国の国章:

- 1) ガンビア。2) ブタン; 3) ガイアナ。4) ドイツ連邦共和国。
- 5) ドイツ民主共和国 (1949 ~ 1990 年)。6) フランス。7) 米国。
- 8) オランダ; 9) フランス帝国 (1804 ~ 1815 年)。10) ノルウェー。
- 11) ジョージア州 (1991 ~ 2004 年)。紋章の 7 つの部分の構造 (7 つの光線、7 つの星) は、紋章との比較のために示されています。
- 12) ジョージア州 (2004 年以降)。
- 13) ベルギー。
- 14) バチカン市国。

これらの攻撃的なサインは、大量配布を目的とした公共の道具で使用されます。つまり、人々は文書、建物、衣類、メディアなどで、それを当然のこととして目にし、使用することがよくあります。人間の精神に対するそれらの影響は、石を研ぐ一滴のようなものです。

それらは無意識のうちに動物の性質、攻撃性、低次の本能を目覚めさせるものを刺激します。そしてその結果、鉱山の切羽にメタンガスが発生するように、これらすべてが社会の緊張を高める一因となります。特定の瞬間に、火花を散らすだけで十分です。つまり、特定の集団の攻撃性を誘発し、国家全体が暴力の波と取り返しのつかない破壊的な結果、あるいはむしろ予測可能な必然的な結果に圧倒されます。しかし、国家を秘密裏に統治するこの計画全体は、ほとんどの人がそれを知らない限り機能します。アルコンはあらゆる機会を利用して「管理領域」に侵入します。彼らの記号やシンボル、いわば「決まり文句」です。



さらに、これらすべてはそのような議論への正式な「国民の参加」の上で「静かに」行われる。原則として、決定は一部の役人によって行われ、一般大衆に対しては、これらの特定のシンボルや標識が、特定の都市または州の住民にとって「非常に重要」であるという観点から別の論議が構成されます。この地域の歴史、哲学、文化を紹介します。さらに、科学者がこの問題に関与することもあり、科学者には他の意見ではなくまさにこの意見を実証するという任務が与えられます。しかし、これについて私は何が言いたいのでしょうか?誰の意見に關係なく、人々自身が自分の国の歴史、国民、シンボルや記号に興味を持ち、これらの問題について視野を広げ、スピリチュアルな世界からの観察者の立場から責任を持って認識のプロセスにアプローチするなら。自然であれば、彼らがだますことは困難になります。結局のところ、私たちは彼らと彼らの子供や孫が住む地域について話しているのです。言い換えれば、人々が真実を知れば、彼ら自身が現地の秩序を回復するでしょう。結局のところ、主な強みは多数派、まさにその人たちにあります。聖職者や政治家の手下の集団ではなく、社会です。

アナスタシア: アルコンたちは、世界政治を利用して世界社会を支配し、国家そのものを、人々に対する暴力の手段であり、自分たちと彼らが操る少数の強力な傀儡を富ませる手段として、自分たちのために作ったことが判明しました。

リグデン: 世界のどの国でも、現実の政治は「舞台裏」で行われており、決定や取引は原則として有権者と話し合われないことは周知の事実です。



アナスタシア： はい、そして社会自体でも、「強者が弱者を滅ぼす」というモデルが密かに普及しています。これは、小さなチーム（家族、会社、組織）内の関係から始まり、強い国家が弱い国家を吸収し、国家間の関係で終わるというものです。互いに競争します。つまり、アニマルマインドのすべて同じ法則です。

リグデン： まったくその通りです。このようなシステムが人間自身によって人工的に作られ、動物の心の意志の指揮者として働いている証拠は、政治家が過去と現在の両方で何をしてきたかを隅々まで知ることによって観察することができます。おそらく、よりよく理解するために、歴史からの典型的な例を示します。数世紀前、中世ヨーロッパには、さまざまな地域の総督が率いる多くの封建公国がありました。そのような「高貴な政治家」はそれぞれ、自分の兵士、自分の旗、紋章、自分の従者、つまり政府のようなものを持っていました。彼の王子的な傭兵軍は「ギャング」という言葉で呼ばれていました（ケルトの「バンド」-「つながり」から）。それで、彼らは何をしていましたのでしょうか？王子たちは絶えず互いに争い、支配下の領土を拡大し、占領された土地に対して地元の商人、職人、農民のために独自の課税を確立しました。つまり、彼らは、本質的には同じ「強盗」である他の王子たちからの庇護と保護の対価として、彼らから税金（手数料）を取っていました。そして、そのようなことを拒否しようとします 王子のような「慈悲」、なぜなら保護者と脅威は同一人物だったからです。しかし実際には、他の人々の財産を狙うそのようなハンターがたくさんいたということは、王子たちの間では、いわば「戦闘（安全）サービス」を国民に提供する際に激しい「競争」があったからです。



今日は一人の「王子政治家」が血なまぐさい対決を組織しており、明日には別の「政治家」がいる。それにもかかわらず、彼らは「孤児と抑圧された人々」の仲介者になることを切望していました。しかし実際には、住民の保護を装った本物の強盗が進行していた。よく言われるように、ギャングはギャングです。

そして今、世界政治は何も変わっていない。人々に対する公然とした暴力のみが「平和的課税」と呼ばれます。強奪のシステムは変わりません。この種の暴力的かつ平和的な、自発的かつ強制的なお金の徴収は、大規模でも大規模でも地球上の人口を奪う行為です。ただし、現在ではこれらすべてがより美しい言葉で呼ばれ始めています - 法的暴力の独占(関税、食料、情報などの独占)。

アナスタシア: はい、多くの国では、単純で正式な紙片であっても（書類の処理、権利の確認、検討のための苦情の受理などに）手数料を請求されます。これは間違いなく国民の生活を楽にするものではありません。

リグデン: そうですね、結局のところ、ギャングは昔も今もギャングであり、彼らが定めた法律に基づいて、異なる規模で国民から強盗を行っているだけです。それはすべて人々自身の問題ではありますが、彼らはアルコンは多数派ですが活動的ではありません。アルコンは少数派ですが、常に非常に活動的です。それがすべての違いです。国籍、人種、居住国を超えて、人々自身が目覚め、見識の幅を広げ、世界社会の統治に積極的に参加し、力を合わせ、互いに友人となることが必要である。



そうすれば、人類は最終的に、長い間夢見てきた公正な社会のモデルに到達するでしょう。

アルコンは、多くの人々が政治に取り組むこと、つまり人間の潜在能力が大きく関わるようにしました。さらに、世界の科学全体が彼らの管理下にある組織や財団によって後援され、管理されているため、人類の革新的な資源の大部分は彼らの力によるものです。さらに、アルコンは、大衆を制御する方法を研究し開発するさまざまな科学の創設を開始し、人々自身が自分たちを束縛に追い込む方法を見つけました。たとえば、社会学(ラテン語の

「societas」-「社会」、「ロゴス」-「教育」から)を考えてみましょう。これは、社会とその発展の法則、社会集団、個人と社会の関係を研究する科学です。科学者は、この科学の枠組みの中で、彼らをひいきにする人々のプログラムタスクを実行しながら、正確に何を研究しているのでしょうか?社会学は人間の内面を扱いません。権力者たちはこれを心理学のせいだし、もっともらしい口実のもとに、その開発の優先順位が社会でエゴイストを育成することに向けられるよう圧力をかけている。そして、靈的な問題は、宗教を糧とする司祭たちの力に完全に委ねられています。人が問題の真相に到達するのを妨げるために、すべてが分割され、複雑になります。つまり、自分の人生の意味は何なのか、彼は実際には誰なのか、彼が実際にどのような途方もない能力を持っているのか。したがって、社会学では、多数の人々の行動だけでなく、小さな社会グループでのさまざまな相互作用も研究されます。



言い換えれば、これらの科学者は、個人の行動の観察に従事しています。

そして集合的なアニマルマインド。しかし、研究結果は誰が、何の目的で使用するのでしょうか? そう、同じ政治家や聖職者が、人々をコントロールしやすくし、彼らの心の中で正しいボタンを押し、動物の性質を活性化させるためなのです。 そうですね、私は政治学については基本的に沈黙しています。この「科学」にどのような目標が設定され、そこで何を研究されているかを言うのは、面白くもあり、苦々しいものもあります。たとえば、与党政権の交代や政党間の政治闘争の結果を予測し、候補者の政治的イメージを発明し創造し、選挙運動に参加し、どのような演説(行為ではなく!)を行うか、次の約束が国民の共感を呼ぶかを熟考する。選挙運動中の候補者の人口。しかし、政治学者は、社会学者、心理学者、ジャーナリスト、その他のこの政治ショーの参加者と同じように、国民から見た同じ人間です。政治家は、自分自身の利益のためにより大きな権力を得るために、一部の人々のためにお金を払って、他の人々のために自分についての神話を作り出すだけです。それで、それ自体は、自分たちの手でその推進を実行し、さらに彼ら自身がこの政治家の命令を実行し、それに苦しんでいる人々の支持なしでは意味がないことがわかります。世界では長い間、政治選挙が「人々を支配する権力」と呼ばれる一回限りの大衆政治ショーと化してきた。その隠された目的とは何なのか、国家への影響は何なのか? 大衆は何を見ているのでしょうか? テレビでの候補者のキャスティング、「主人公」たちの私生活の辛辣な詳細を描いたリアリティーショーの要素、とんでもない発言での彼らの競争、際限なく続く相互非難の流れなど。



つまり、人々の動物的性質を刺激するためにあらゆることが行われ、悪循環の中で感情と思考が渦巻き、その結果、政治的傀儡の中で誰が勝ったとしても、この大衆はコントロールしやすくなるのです。 今日の世界社会の発展のベクトルを設定するのは誰ですか?人々を支配する独自の権力手段として世界政治を操作するアルコン。アルコンはアニマルマインドシステムに従属しており、政治家を通じて「彼らの」考えを具体化します。しかし、ほとんどの人は、世界の舞台裏でこうしたことが起こっていることに気づいていません。彼らは特に、自分の国の政治舞台で起こっている行動の舞台だけに困惑しており、それによってより多くの知識の範囲が制限され、意識が狭くなり、その結果、出来事を比較し分析する意欲を奪っています。世界社会規模で。したがって、人々は政治家が社会を生きていくための法律を制定していると見ています。しかし、彼らは、なぜこれらの特定の法律と特定の政治家がこれらのプロジェクトを実施しているのかという疑問さえ掘り下げていません。なぜ同様のものが世界の他の国々で導入されているのか、またはすでに導入されているのか、そしてそれが現実の社会生活にどのような影響を与えてているのか、社会の中でどのような支配的な影響を及ぼしているのか?

せいぜい、人々は、自国の政治家が、自分たちが代表するギャングの立場を擁護しているということを理解させられるだけだ。しかし繰り返しになりますが、これらすべてのプログラムを実装しているのは誰でしょうか?どの州でも時事問題の管理は役人と職員によって行われます。同じ人々に属している。



どこの国の政治家は誰ですか?政治家は、ほとんどの場合、自分たちのビジネスを確保し、誇大妄想にふけるために権力を握った「エリート」の人々です。結局のところ、アニマルマインドシステムの依存と権力に陥ったそのような人々は、もはやお金では満足できません。彼らはそれ以上の何か、たとえば、多数の人々をコントロールし、彼らに対する隸属を密かに楽しむ機会を望んでいます。彼らの多くは、自分たちが動物の心の意志の指揮者にすぎないことさえ理解していません。人がこれを認識しているかどうかに關係なく、彼の魂は間違いなくそのような人格の選択と不当な生命力の浪費に苦しんでおり、それによって精神世界からますます分離されています。結局のところ、人生はあっという間に過ぎ、力が与えられるのは短期間ですが、その代償は不釣り合いに高いのです。人間の弱さの重大な瞬間は、亜人格の長い苦しみと、物質の捕らわれの中での魂の苦痛の長期化に変わります。蒸気のように、短時間現れてすぐに存在の暗闇に消えてしまうような幻想を選択するには、多大な代償を払わなければなりません。この世界的なブラフを何とか解き明かし、「逆元」に沿った世界社会の動きの現在の破壊的な方向性を理解する同じ賢明な政治家は、今度は、世界の否定的な出来事の形成における悪の根源がどこから生じているのかを理解しています。何をすべきか分からぬ。彼らは、感染した根がタコのように全世界を巻き込んでいる、世界の聖職者の権力体系の「古くて病気の木」を実際に取り除くにはどうすればよいかという問題への答えを探している。



実際、地上の資本の大部分がアルコンの手に集中しているアルコンが使用するツールそのものを理解していれば、ここでは何も複雑なことはありません。アルコンの任務は、別の幻想であるアニマルマインドのイデオロギーをできるだけ多くの人々に押し付け、大衆がそれを信じられるようにすることです。たとえば、物質的な考え方や社会関係の消費者形式の利点を社会に納得させるため、次の世界の危機で人々を怖がらせるため、特定の戦争や民族紛争を始める必要性を人々に納得させるため、あるいは争いを起こすためなど。異なる宗教の信者が互いに対立し、血なまぐさい確執、紛争、色彩革命などを組織する。そして、多くの人々がこれらの考えに感染すると、彼ら自身がそれらを具体化し、この恥辱のすべてを自分たちの手で作り始めます。

アルコンにとっての主なことは、人々の動物的性質、あるいはむしろ彼らの集合的な動物的精神を活性化することです。結局のところ、彼らはシナリオを書き、政治家を後援しているだけです。そして、彼らに共通の世界的な政治網は、まさに大衆に影響を与えるための積極的なツールです。結局のところ、政治家とは誰ですか？パフォーマー、自分に与えられた役を演じる人。彼の仕事は、自国のテレビ画面や報道機関に頻繁に登場し、美しく話し、特定のアイデアを人々に伝えることです。政治とはアーリマンから伝わる嘘の技術であり、もともとはアルコンによってこのように形成され、今でもこの形で世界社会に存在し続けています。つまり、政治家は本質的には俳優なのです。アルコンのために働く政治家は、国の公の舞台で、アルコンの存在についての聖職者の「脚本家」や「プロデューサー兼スポンサー」の考えを伝えている。人々はそれを疑うことさえしません。



そのような「俳優」の演説を聞いている国民は、発言のすべてが政治家自身の「素晴らしい考え」であり、おそらく「この国民の幸せな将来」の名のもとに、説得力を持って戦争や国家紛争を呼びかけるものであると考える。」しかし、戦争が死をもたらすことや、紛争が社会の不安定と経済的衰退をもたらすことについては誰も言及していません。群衆はその幻想に耳を傾け、注意を払い、動物の性質を活性化するアイデアに感染し、概して動物の心の意志のプログラムと態度から発せられます。

アルコンが地球上のすべての正気の人々に、アルコンが仲良く暮らすために兄弟と戦争をするべきだという考えを個別に提示したとしたら、想像してみてください。それぞれはどこに送りますか?そうです、特定のよく知られた住所です。自分の家族、親戚、友人の平和と静けさを破壊したいと思う賢い人がいるでしょうか?多くの人にとって戦争とは何でしょうか?これは死であり、破壊であり、悲しみです。アルコンにとって国家間で引き起こされる戦争とは何ですか?これは、一攫千金を目指す方法というよりも、戦争中の国々の人口に対する支配を強化し、拡大し、権力を主張するための条件を作り出す政治的なゲームである。結局のところ、戦争中、敵対国は資源を枯渇させるだけではありません。その終焉後、生き残った人々は依然として恐怖の中で暮らしており、国家は「この世の権力」に政治的、経済的に依存したままで。双方の人々はお互いを恐れ続け、その後に生まれた新しい世代さえも憎み続けています。戦争。言い換えれば、大衆は新たな戦争の脅威に常に怯えて暮らしているということだ。



つまり、あらゆる戦争は社会を分断し断片化する手段であり、人々を脅迫する手段であるということです。戦争を望んでいるのは国民ではなく、政治家や聖職者です。どの国が別の国を攻撃しているわけではありませんが、大勢の政治家や聖職者たちが何百万もの一般人の命を犠牲にして自分たちのゲームをしています。しかし、もし人々の間に友情が芽生え、人々自身がこれに積極的に貢献すれば、世界社会全体を統一するプロセスが始まるでしょう。団結することで、人々はいかなる戦争も防ぐことができるようになる。なぜなら、現代世界におけるすべての紛争は、まず情報によって、つまり、まず第一に人々の頭の中で、つまり国際社会によって実現され、その後、それらが解き放たれ、実行に移されるからである。その手。なぜなら、最初に情報、選択、意識の変化があり、その後に初めてこれらすべての結果が行動となるからです。

人々はこのことを理解するだけでなく、特にインターネットやメディアで世論を準備する段階では、いかなる戦争の勃発に対しても、できる限り積極的に抵抗しなければなりません。さもなければ、アルコンは政治家や聖職者の軍隊を通じて群衆を「感染」させ、公演を行い、何十億ものテレビ視聴者を脅迫し、彼らの心を恐怖と物質的システムへの従順に固定させるという効果を利用し続けるでしょう。もし私たちが自治の問題における世界社会の活動を目覚めさせ、管理プロセス自体とその情報をオープンにし、アルコンのこの手段である政治と神権を、アルコンが影響力を及ぼす世界システムとしてさえ排除することができれば、そうすれば、社会生活の多くが質的に変化する可能性があります。



アルコンは全人類に比べて哀れな集団であり、たった一つの欺瞞によって生きており、死んだものと同じように永遠に存在することはできない。かつて自分自身を裏切った人にとって、彼の精神的な性質、真実は悪臭を放つように思えます。彼は他人を欺いて生きており、本質的には自分自身を欺いている。嘘をつく理由は言葉の中にあるのではなく、自分の本性を欺きたいという欲求にあります。

アナスタシア: 政治の状況も社会の精神的な側面と同じであることが分かりました。世界社会から政治という大衆に影響を与える手段が廃止されれば、実際、人々の財産から利益を得る人々の権力などの現象は消滅することになります。そして、人々の命と運命を言葉ではなく行動で真に気遣う賢明で正直な人々は、残念ながら政治制度の中にそのような人々がそれほど多くなく、政治権力の制度の廃止によって今後も助けられるだろう。社会も同様に良心的かつ無私無欲に。たとえば、公共の自治と管理の基本を人々に教えること、その経験を社会の善行に応用することなどです。宗教における「神の民」と同じように、政治の世界にもそのような人は少数ですが、依然として存在します。彼らにとって、名誉、良心、社会への誠実な奉仕、仕事への献身と献身は単なる言葉ではなく、生き方そのものであり、人類への奉仕という祭壇に自らの命が捧げられています。

リグデン: はい、これは本当に偉業です。システム内に存在しながら同時に人間であり続けるということです。そして、これらの正直で賢い人々の助けは社会にとって重要なものとなるでしょう。一国だけでなく、全世界のあらゆる人々に変化が起こることが必要です。



そうなると、このプロセスを止めるのは難しくなります。もちろん、人々自身が知識においてより成熟し、自国から始まり社会のあらゆる領域の前向きな変革にもっと積極的に参加できるように、世界の大多数がこの考えを浸透させる必要があります。世界コミュニティ。人類は団結する必要があります。人々は努力を団結することによってのみ、真実が統治し、人々に対する暴力の手段としてのいかなる権力も入り込む余地のない、根本的に新しい世界社会を構築することができます。そうすれば、この統一された世界共同体には、聖職者も政治家も大統領も、つまり人々を支配する人々も存在しなくなるでしょう。

ちなみに、「大統領」という言葉も、二重の意味を愛するアルコンの安易な提案によって社会に登場しました。たとえば、彼らはこの「チームリーダー」という立場を前文(ラテン語の「*praeambulus*」、つまり「前進する」という言葉から)とは呼びませんでした。彼らはこの言葉を自分たちの大義の推進のために留保しており、フリーメーソンの管理下にある法律、宣言、または国際文書の序文として使用しています。そして、国民を統治する行政府の長の地位は大統領と呼ばれ、ラテン語から翻訳された「*プラエシデンス*」は文字通り「前に座る」を意味し、実質的に国民の移動を阻止した。政治は言うまでもなく、世界中で何人の企業、企業、科学アカデミーの会長が離婚したかを見てください。しかし、本質は同じです。聖職者が神の名の陰に隠れて権力を行使するのと同じように、政治家も各国の大統領の椅子に座って権力を行使します。人の名前の陰に隠れて。



アメリカ植民地の独立戦争中、アルコンは初めて、「国家元首」の称号として大衆の意識の中で「大統領」という言葉を大規模に試した。これについて私が話した内容を覚えてていますか？

アナスタシア：これは、アルコンが「世界で最も自由で最も民主的な国家」を形成するプロジェクトを指揮し、後援したときですか？はい、もちろんこの内容は『先生IV』という本に載せました。彼らは作戦を慎重に検討し、何年も前から計画を立て、同じ記号やシンボル、さらには大衆に潜在意識に影響を与える名前さえも巧みに使用します。

リグデン：大多数の人々がこれらの問題について読み書きできるようになれば、そのような問題自体は消えるでしょう。生活のあらゆる領域において、人間自身が人間の中に動物的性質が発現する可能性を排除し、動物的心の意志への従属から自分自身と社会を守らなければなりません。あらゆる人々の参加と努力のおかげで、人類に精神的な発展のベクトルを与えることが必要です。つまり、人の精神的性質の再生とその繁栄のため、また世界社会全体に文化的および道徳的価値観を普及させるための健全な条件を作り出すことです。人々自身、そして世界社会が、まさに権力の概念を意味するそのような制度を廃止すれば、人為的に生み出された多くの問題は消滅するでしょう。社会の運営はアルコンやその代表者ではなく、社会そのものに属すべきである。



単一の社会では、境界線がまったくありません。世界中のすべての人々は、完全に自由に移動できる空間に住まなければなりません。つまり、制限なく地球上を完全に自由に移動するあらゆる機会が与えられるべきです。民族間の争いを含め、人々の間に争いが生じるような条件があつてはなりません。世界にはさまざまな民族の文化があり、そこには人類のさまざまな伝統や知識が含まれています。しかし、より高次の概念、つまりあらゆる国籍の人々を団結させる精神的な概念もあり、これはたとえばロシア語では「人間」という言葉で知られています。

ところで、「人間」「ロシア語でチェロベク」という言葉 자체が非常に難しいです。「額」「ロシア語でチェロ」はもともと「より高い」という意味で、古代ではこの言葉が「額」を意味していました。そして「年齢」「ロシア語ベク」という言葉は「強さ」であり、本来の意味は「力に満ちた」「永遠」です。人はより高い(靈的な)力で満たされます。そして、本物の人間、あるいは本来の人間とは、この最高の永遠の力、つまり靈的原理が支配する、その力に満ちた人なのです。したがって、すべての問題は、小さなコミュニティから世界レベルに至るまで、人々自身によって共同で解決されなければなりません。そして、このプロセスは社会のすべての参加者に絶対に開かれていくなければなりません。最新のテクノロジーにより、この条件を実際に実装することが可能になります。さらに、社会生活におけるこれらすべての問題は、主な仕事から自由な時間に議論され、受け入れられるべきです。このような自治社会のシステムは、人々自身が社会全体の生活を改善することに責任を負い、定期的に利用する意欲を表明するときに機能します。

集団的な創作活動を含む公務への実行可能な参加のための個人的な時間。



これは、人が動物的な性質から自分の考えや欲望をコントロールすることに似ており、人はこれらの問題で自分自身をコントロールするだけでなく、靈的な性質から良い考え、行動、行為を生み出すことに責任を負います。

また、社会においては、社会の自治に関する事項において「秘密主義」という概念すらあってはならない。まず、資金調達、つまり支出資金の配分と手続についてでございます。現在、世界では金融の流れの方向に関するほとんどの情報が人々に公開されていません。

一般に、各国では、この隠蔽は、国家安全保障、経済的、政治的利益などの問題に影響を与える国家機密によって動機付けられています。しかし、人々はお金が実際にどこに行くのか知りません。

なぜこうなった? はい、すべては世界的な政治ギャングと聖職者のギャングが活動しているため、権力と資金の流れの制御をめぐる闘争が存在します。この「秘密」を装って、政治家は政府や企業に有利な法律を可決し、国家予算を盗みます。そして人々は再び困窮して暮らしています。同じことが世界レベルで国家間で発生しますが、この盗難だけがより大規模です。そして、もし世界中の政治的権力と聖職者権力の制度が廃止されれば、その秘密は消滅するでしょう。世界社会が創造的なプロセスと精神的な願望において団結すれば、秘密という概念は消えるでしょう。



どの支出項目が優先されるのか、生活を改善するために最初にどこに資金を使うのかを社会自体が決めるだけだ。そして、世界社会のすべての人が、資金がどこに使われたのか、何に使われたのか、最後の一銭に至るまですべてを正確に管理できる必要があります。一般に、公的資金の盗難とそこからの私利私欲の抜け穴が一つもないように条件を作ります。

世界社会の自治の問題の解決は、あらゆるレベルで公然と透明性をもって行われるべきである。現在、人々は地球規模だけでなく、自分の国でもこのプロセスに参加していません。多かれ少なかれ忠実な例として、スラブ諸国を挙げてみましょう。現在のシステムでは、人々は一度権力を掌握した議員に自分たちの「権利」を与え、その後は何年も「手つかず」でそこに座り、数々の恩恵や特権を受け取っている。ほとんどの場合、これらの議員は自分たちの個人的利益、または聖職者や政治家(権力者)が所有する一部の企業の利益を擁護します。同時に、彼らは人々の権力によって活動しており(人々に代わって、あるいは人々の名のもとに行動している)、これらの問題の解決とは何の関係もありません。ちなみに、「代理」という言葉自体も、死語(アルコンのお気に入りの1つ)であるラテン語に由来しています。「Deputatus」(デプタレ)は「示す、意図する」という意味です。選ばれた人ではなく、任命され、(権力者によって「上から」)送られた人物であることに注目してください。原理的には、これまでそうでした。たとえば、古代ギリシャでは、「代理」は、デルフィやオリンポスへの「神聖な使命」に派遣された司祭の召使いに与えられた名前でした。



そして、古代キリスト教会では、聖職者の一人は「代理」と呼ばれていました(聖職者)教会長の前を歩き、彼のために道を空ける。

発展の精神的なベクトルを指向する新しい世界共同体では、現在の議員などのような「常任」委員が存在すべきではありません。特定の地域の人々の意見を伝えるために、公的集会に権限を与えられた代表者を委任する必要がある場合は、そうしてください。しかし、これらの人々は実際には、個人的、道徳的資質、責任のレベル、プロフェッショナリズム、および社会のためにすでに行なった具体的な行為に基づいて国民から選出されなければなりません。これらの代表者はいかなる利益も特権も剥奪されるべきである。物質的な報酬やその他の報酬、または社会の他のメンバーとの関係でいかなる利益も受け取ることなく、仕事から自由な時間に、自分の費用で社会活動を行うこと。そして、この人が他の人たちと一緒に、社会のすべての参加者の生活条件を改善する場合にのみ、彼は自分自身の生活を改善します。このような状況の創出の結果として、社会生活の現在の問題が解決されるでしょう。自分自身のためではなく、社会に奉仕するために、見返りを何も受け取ることなく、ある意味、自分の物質的な生活を犠牲にするために個人的な時間を犠牲にする用意がある、正直で知的な人々です。当然のことながら、社会はそのような問題の解決を管理し、優先順位を策定します。そして最も重要な生命維持の問題は、世界社会全体で解決しなければなりません。



ちなみに、現代のテクノロジーのおかげで、このような公開会議を、高価な旅費や手数料なしでリアルモードで開催し、その場ですべてを冷静に決定することが可能になります。これにより、時間と費用が大幅に節約され、問題解決に向けて迅速に行動できるようになるだけでなく、重要なことに、そのような「インターネット会議」を一般に公開することで、不必要な大規模な「集会」が排除され、会議の裏話も排除されます。社会に不利益をもたらすゲームや私的の利益のロビー活動。

アナスタシア: わかりました、投票、投票の監視とデータのチェック、問題の迅速な解決、さまざまな意見の表明 - これらすべては実際にインターネット経由でも行なうことができます。しかし、誰かがデジタル技術とインターネット技術を私的な手に独占し、自分自身の権力の手段を作りたいと思ったらどうなるでしょうか？

リグデン: デジタル、インターネット、その他の技術や通信手段を私手に独占しようとするあらゆる試みを社会そのものが管理し、抑圧すれば、このようなことは起こらないでしょう。そして一般に、そのような世界社会を構築する際には、すべての戦略的で生命を支える企業とその資源は社会自体に属さなければならぬことを考慮する必要があります。これは、エネルギー部門、金融機関（銀行など）、医薬品、医療機器の製造および販売、鉱業および鉱物採掘、および大規模な工業、農業および科学企業に適用されます。これらすべては世界社会全体のものであるべきです。このすべての民間資本の所有権を認めることは不可能です。つまり、これらすべてが何らかの形で私的な手に集中し、一部の人々によって所有されることを許可することは不可能です。特定の個人または個人のグループ。



このような状況下でのみ、汚職、物価上昇、金融危機が存在しない可能性があります。社会は生活に許容できる価格を自ら設定し、サービスの質などを決定します。

そうでなければ、何も変わらなければ、今と同じか、それ以上になるでしょう。つまり、汚職、さまざまな詐欺、「空気」の売買、想像を絶する融資、インフレ、その他「自由市場関係」の領域におけるアニマルマインドの罠が蔓延することになる。現代世界を見てください。国内および国際通貨のすべての崩壊と急騰、さまざまな世界経済、食糧、政治、その他の危機 - これらはすべて人為的であり、すべて人間の手の仕業です。ただ、誰かがこのための条件を作り出し、そこから莫大な資本を稼ぎ出し、誰かが人工的に刺激されたプロセス中にそれを失うだけです。これは通常の人間社会では受け入れられません。

アナスタシア: 金融機関は世界社会全体に属すべきだとおっしゃいましたね。これは、人々が何らかの形でお金を扱うこと前提としているということを意味します。

リグデン: お金は交換に相当します。強さを持つという意味で同等(ラテン語の「aequus」-「等しい」、「valentis」-「価値がある、強さ」に由来)。この力は物質世界から派生したものであり、そこから逃れることはできません。人間は物質世界に住んでおり、肉体を持っています。



そして肉体は三次元世界の法則に従う、つまり、食事を与え、衣服を着させ、必要な生命維持のニーズを満たし、清潔に保ち、病気と闘わなければならない、などである。そのためには、当然のことながら、食べ物、薬、衣類、その他の物質界のアイテムが必要になります。したがって、人は体の中での生存を保証するための基本的な生活のニーズのためにお金を稼ぐ必要があります。

アナスタシア：しかし、どんな形であれお金が使われている限り、貧しい人と裕福な人の間には分断が存在することは歴史が証明しています。さらに、富は民間企業の存在、したがって財産の存在を前提とします。

リグデン：貧しい人々と裕福な人々については…社会には貧困がまったく存在しないような、その存在のための条件を創り出さなければなりません。現在の技術レベルであれば、すべての人々に食料を供給すること、砂漠を花の咲く庭園に変えること、汚染された水さえも浄化して消費に適したものにすること、化石資源の代わりに代替エネルギー源を使用すること、これらすべてを達成することは十分に可能です。これらのテクノロジーはすべてすでに存在していますが、利用できるのは一部の人だけです。世界のほとんどの人はそれについて知りません。この情報は意図的に隠蔽され、世界の聖職者の命令により世界中でそのような進歩的な技術の開発が人為的に抑制されています。なぜこれが行われるのでしょうか？同じアルコンが自らの権力を維持するために、世界社会における影響力の政治的手段として、何十億人もの人々を搾取し続け、世界の緊張を高め、大多数の人々の間で取り残されるという恐怖を維持しています。貧困ライン。



なぜなら、大衆の意識が生存の問題で占められているとき、大衆が操作しコントロールし、動物の心の意志の実現に向けて人々の選択を傾けることがはるかに簡単だからです。したがって、新しい社会を構築する際には、現象としての貧困が地球上にまったく存在しないようにする必要があります。中程度および高度の繁栄しか実現できないようにするには、人々に必要なものがすべて提供されることが必要です。仕事中毒の人はお金を稼がせてください。たとえば、国民への何らかのサービスの提供など、正直な民間事業はまったく容認できますが、「工場、汽船」、つまり社会の生活を保障する大企業、独占企業、産業全体の所有権は容認できません。

富には明確な制限がなければなりません。社会の単位としての 1 つの家族の資本金の上限は、動産および不動産を合わせた金銭換算で（今日の価格に基づく）1000 万ドルを超えてはなりません。それはたくさんあります！私が今日高すぎる数字を言っているのは、はるかに大きな資本を持っている人々がショックを受けないようにするためだけです。これらの資金は家族を養うのに十分です。そして、この金額を超える余剰分、つまり世帯収入は社会のニーズに充てられるべきです。言い換えれば、人はこれで金持ちになることはありませんが、同時に他の人を助けることになります。結局のところ、勤勉な人の真の価値は精神的な富にあることが古くから知られています。



そして、普遍的な人間の精神的および道徳的価値観が優勢となる社会において

人の価値観、そのような行動、模範は名誉あるものとされなければなりません。

結局のところ、現代世界のお金持ちを動機づけているのはお金への渴望そのものなのでしょうか？いいえ。彼らは、他人に見せびらかしたいという動物のありふれた欲求によって動かされています。彼はクーラーの効いた車、クーラーの家を持っており、靴下さえも隣人の月収よりはるかに高いと言われています。これはすべて面白いことであり、消費社会によって押し付けられたナンセンスであり、愚かな人を騙し、お金をだましやすくするために賢い人によって作られたファッショングです。無制限の資本は社会に攻撃性をもたらし、羨望や他人を操作したいという欲望を引き起こし、人間の動物的性質の支配に貢献します。通常の文明社会では、このようなことは決して起こらないはずです。それは醜くてありふれたものです。しかし、社会や人々を助けることは「クールで、立派で、名誉ある」ものでなければならず、単に誰かに食事を与えたり、おもちゃを与えるだけではなく、村、都市、地域などに実際の定期的な実践的な支援を提供する、つまり可能な限りすべてのことを提供する必要があります。社会への支援。

アナスタシア：責任ある立場で自分の立場を利用したいという誘惑から人々を守るにはどうすればよいでしょうか？

リグデン：はい、初級です。社会の時事問題に関する行政官僚機構は必要最小限に削減され、個人的、私的な利益のためにその公職を利用するあらゆる機会から最大限に保護されるべきである。言い換えれば、これらの地位にある人々が働くためには、労働者を排除するような条件を作り出す必要がある。権力、地位、物質的利益によるあらゆる誘惑の可能性。



さらに、人々がアパラチク、つまり行政機関のノーメンクラトゥーラ従業員の活動を(リアルタイムを含む)継続的に制御できるようにすること。そして、役人が公務を遂行する過程そのものが非常に公開されるべきであり、こうした人々がその職務において動物的な性質を発揮できないようにする必要がある。そうすれば、役人は眞の従業員となり、眞實に国民に奉仕し、眞實に職務を遂行することになります。

アナスタシア: もちろん、それは良いことです。しかし、個人的には、それが実際にどのようになるのか想像することさえできません。

リグデン: 心配しないでください。社会のどの領域にも(そしてこの社会にも) 賢くてプロフェッショナルな人々がたくさんいます。彼らは、共通の考えを吹き込まれれば、(社会に限らず) 同じ考え方を持つ人々と団結することができるでしょう。自国)、最小から最大まですべてを知的に考えます。人々(この情報に無関心ではなかったすべての人)が、何もせずに座っているのではなく、少なくとも彼らに最も馴染みのある社会の専門分野やその他の分野で物事を整理し始めれば、遅かれ早かれすべてがうまくいくでしょう外。社会、特に公的地位における腐敗の発現に対して、考えられるすべての抜け穴、入り口と出口を塞ぐシステムを人々自身が作り出すでしょう。特定の分野での経験があり、その落とし穴を知り、彼らの動物的な性質を監視し制御することで、あらゆる可能性を排除する方法を考えるでしょう。

人を誘惑する条件を作り出すための前提条件。



アナスタシア: 分かったけど、公衆は例えば科学をどうやって管理していくの? 結局のところ、科学は多様であり、そのような特定の問題について、少なくとも私たちが話していることを理解し、その発展のための有望な方向性を選択するには、専門家である必要があります。

リグデン: 科学の何らかの分野に従事する専門家や科学者がおり、彼らはそれを発展させています。今日の世界社会全体にとってそれが重要で、必要で、効果的である限り、社会はそのために資金を割り当てます。社会は貯蓄を善良な所有者のように扱い、本当に必要なものにお金を使うべきです。同じ科学においても、人々に対して何らかの権力を持ち、科学に従事し、いわゆる「詐欺」を行い、自分自身は何も役に立たない人々に資金を割り当てるケースを排除する必要があります。科学環境からそのような人々を解放するか、彼らを別の仕事に移し、そこで彼らが排除されるような条件を作り出すことが必要である。社会に利益をもたらす。科学とは真理を認識する過程であるとすでに述べました。それは権力を獲得する手段であってはなりません。専門家は自分の仕事を誠実に遂行し、生活と本格的な専門活動に適切な条件を備えていなければなりません。

一般に、どのような産業や生活圏においても、動物の性質の優位性が現れる機会すらなく、すべての情報が人々に公開され、社会が基本的な情報を提供できるように、そのような条件を作り出す必要があります。一緒に決断を下す。



チームは各個人をケアする必要があり、その人はチームをケアする必要があります。私たちは人間の性質である模倣を利用しなければなりません。模倣は人間の動物的性質の本能です。私たちは物質的な体を持ち、物質世界に住んでいるので、それらを取り除くことはできません。正しく使用する必要があるだけです。たとえば、善を行うこと、無私無欲で人々を助けること、無償で社会の利益のために奉仕すること、一般的には誠実さ、責任感、誠実さなどの資質を備え、真の人間であることが社会で流行し人気になると、同じ模倣の結果として、これは多くの人に受け入れられるでしょう。しかし最も重要なことは、これらの考え方が新しい世代を受け入れ、そのような人間の願望、文化的および道徳的価値観、そして支配的な精神的性質が完全に自然な生活規範となることです。これは、新しい世代が動物的な性質を克服し、個人の精神的な成長を達成することが容易になることを意味し、それは当然、世界自体の改善に反映されるでしょう、コミュニティ。

アナスタシア: はい、これはまさに、市民社会の理想として人々が長い間夢見てきた、まったく新しい人類モデルです。私たちは、これらすべてが動物の性質からの欲望の範囲内で狭くなっていると想像しました。なぜ彼らがこのアイデアを実現できなかったのかがわかりました。人々はそのような社会を、自分たちの真の靈的な性質の立場からではなく、何らかの形で動物の心の意志のプログラムと交差する、権力と支配の物質的なシステムの立場から創造しようとしました。ほとんどの場合、彼らは動物的性質の欲望を混ぜ合わせた新しい社会システムのアイデアそのものを規定しました。



リグデン: まったくその通りです。しかし、これについて私は何が言いたいのでしょうか?私たちの時代、歴史上初めて、その存在の全期間において、人類はこのようなユニークな機会、つまり精神的な発展の方向を持った自治統一世界共同体の創設という機会に恵まれています。約 30 ~ 50 年前には、このアイデアを地球規模で実現することは不可能でした。技術的な条件が整っておらず、現在では多くの人が使い慣れている通信手段を使用して、ほとんどの人が双方向通信を利用できるようになるためです。モバイル通信、インターネット。彼らの歴史的時代には、原初の知識への入門者の別々のグループ、つまり同じイムホテプとその民、あるいはテンプル騎士団が社会を変革しようとしました。そしてしばらくの間、彼らは自国の人々、さらにはいくつかの州の人々の生活を少なくともわずかに改善することができ、短い人間の生涯の間に多くの人格を精神的に成長させる機会を与えました。しかし、これらはすべて特殊なケースであり、社会に対する政治家や聖職者の権力が存在する条件下で、より正確に言えば、社会に対する政治家や聖職者が存在する条件下で行われたため、その後その実践は適切な発展を遂げなかった。アニマルマインドの意志のプログラムに従って、人類を統治するために人工的に作られた司祭制度。そして今、人類は自分自身とその未来を救う唯一の本当のチャンスを持っています。今日、動物の心は人間社会において頂点に達し、人間の思考に勝利しました。消費者の思考形式が世界で導入されているペースをもう少し見てください。

そして社会と個人の意識の両方において、あらゆる靈的刺激は破壊されるか置き換えられるでしょう。



そして原則として、世界中の人々の間でアクセス可能な技術的コミュニケーション手段が急速なペースで広く導入され、これらの問題に関する「許容できる最低限の読み書き能力」を人々に普及させることは、まさにアニマル・マインドの世界的ガイドが組織化する仕事である。その後の人類の完全な支配と人類の従属。しかし、これは動物の心の弱点でもあります。人類は、自己組織化と統一のために用意した同じツールと技術的基盤を使用して、アニマルマインドと直接対峙し、地球上に自由な社会を構築するまたとない機会を持っています。今、モナドをひっくり返すまたとない機会があります。そうでないと、もう少し時間が経つと手遅れになってしまいます。すべては人間の選択にかかっています！

アナスタシア： はい、これは確かにモナドをひっくり返す本当の機会です。社会における権力と統制の原則が、現在では上から上へのピラミッドの形で人々に提示されているのは興味深いことです。その底辺にいるのは人口の大多数であり、政治家や聖職者によって人為的に生み出された悲惨な状況の中で本質的に「生き延びている」のである。そしてその頂点に立つのは、この社会によって権力を「授けられた」単位であり、彼らは公の富を利用して生活し、恩恵と特権の大部分を持っています。

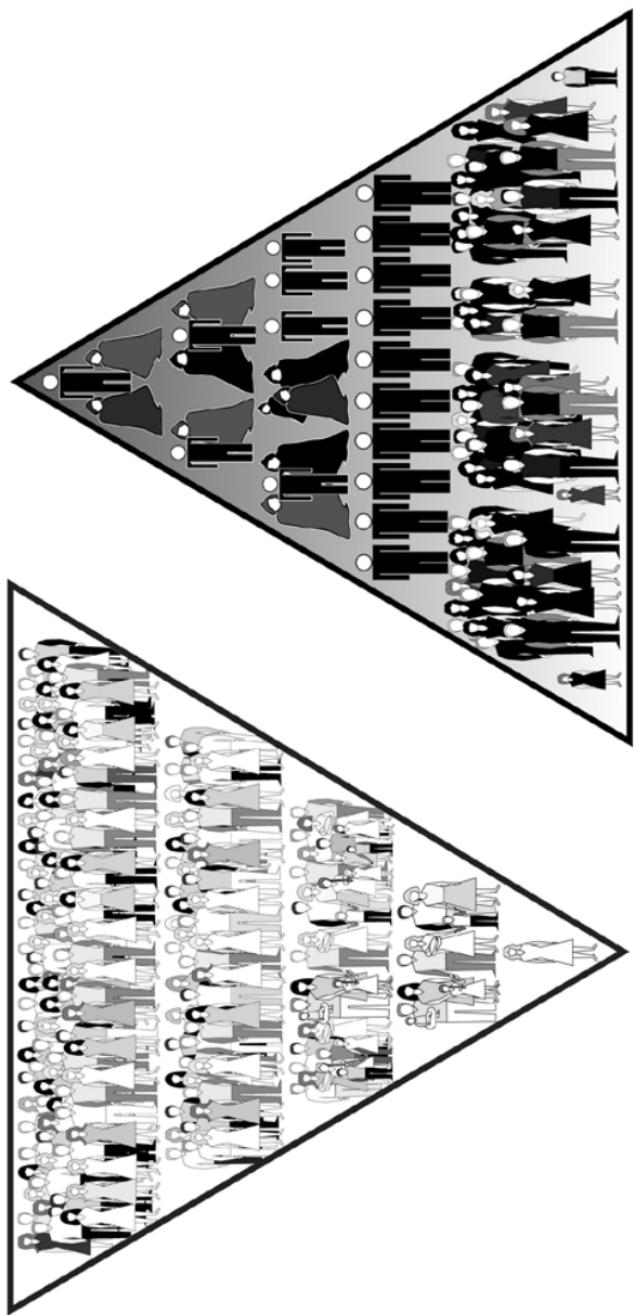


図 109. 人間社会のピラミッド: 頂点を上にした三角形は、人々に対する聖職者と政治家の権力の象徴です。頂点を下にした三角形は、自由で平等な社会、つまり人々のアラットの象徴です。



しかし、サインをひっくり返すと、創造的なアラットの原則に従って、権力そのものが存在せず、すべての人が社会の象徴として上向きの三角形が得られます。

靈的に自己改善する彼は、世界社会がその人生のプロセスを制御し、精神的な方向に進み、すべての利益と資源を享受する中で、彼自身が全人類に利益と利益をもたらしているという事実により、自分の人生を改善します。これは低位から高位への動きであり、これは真の進歩であり、人類文明の質的進化の飛躍です。

リグデン：全くその通りです。ですから、実際には何も複雑なことはありません。ただ、人々自身が社会を変革するプロセスに積極的に関与し、人々を啓発し、世界共同体を団結させ、精神的な発展のベクトルに沿って人類の文明を追うために必要な条件を、自らの能力の限り創造する必要がある。

そのような社会を形成するための基本的な条件は次のとおりです。

- 1) 人々の精神的および知的リテラシーを高める。
- 2) 人の精神的な自己改善と社会生活への積極的な参加。3) 単一の世界社会への人々の独立した統一。
- 4) 聖職者と政治家の権力による世界システムの廃止。
- 5) 個人の大文字使用の厳格な制限。
- 6) 企業の経営は社会全体にのみ帰属すべきである。
- 7) 最も重要なことは社会のイデオロギー的変革であり、それは個人と社会の両方における道徳的価値観と精神的原則の支配と密接に結びついています。



すべての人が動物の本性から発せられる否定的な思考の発現を監視しなければならないのと同じように、社会全体が自らの「社会的、公共的思考」を制御しなければなりません。そして、あらゆる形態のメディアが主に後者の情報源として機能するため、社会自体がメディアの「純粹さ」を監視する必要があります。つまり、精神的および道徳的価値観、知識、善良さ、良心、名誉、尊厳、人々の間の友情、ポジティブで創造的なモデル、考え方の例、個人とグループの両方の人間の最良の行動を普及させる文化でなければなりません。発展した。アニマルマインドによって押し付けられる、戦争、暴力、殺人、争い、憎しみ、利己主義などの否定的な宣伝があってはなりません。さらに、創造的なイデオロギーを普及させるためのイニシアチブと取り組み、そして人々に破壊的なイデオロギーを押し付けようとするあらゆる試みの防止は、社会そのものによってもたらされるべきです。これらの条件は、発展の精神的なベクトルを持つ単一の世界共同体を形成するための基礎です。

ここで、動物の心の意志の指揮者または靈的世界の意志の指揮者である人間自身によって作成される人工情報場が、人類の生活においてどれほど重要な役割を果たしているかを理解することが重要です。今日、マスコミュニケーション手段のおかげで、世界では人間のコミュニケーション集団が形成されており、その数は物理的な最大規模の人々の集まりよりも何倍も大きいことは周知の事実です。



しかし、この人工情報場では、人間の同種の知覚、思考、行動、行動のさまざまなパターンが生成され、(感染や模倣によって)拡散し、機能し、この目に見えない単一の塊を形成します。つまり、客観的には無関係な社会集団や文化に属する多くの個人の意識や行動が集団化しているのです。トランスペーソナルコミュニケーションは、さまざまな人々を結びつけ、結びつけます。しかし、注目すべき点は、物理的な群衆とは異なり、この大きな塊の中で、各個人が自らの選択により、さまざまな情報の流れに接続し、最終的には共通の異種情報フィールドを構成するということです。これらの流れは、何千もの流れと同様に、独自の方向性を持ち、拡張し、強化し、それらを結び付ける情報チャネルのプログラムへと深化していきます。物質世界の中には、動物の心の意志と靈的世界の意志からの情報の正反対のベクトルが 2 つだけあり、それぞれが形成されます。 その情報フィールド、そしてそれに応じてその「臨界質量」。「臨界質量」とは、物質世界(地球規模のみ)の物理法則に従う現象であり、人間社会において膨大なエネルギーを伴う自立的な連鎖反応を開始するために必要なまさにその質量を前提としている。したがって、人間のコミュニケーション量のおかげで、(動物の心の意志または精神世界の意志から) 2 つの情報フィールドのうちの 1 つのプログラムの世界的支配において明らかな優位性がある場合、モナドはひっくり返ります。



アナスタシア: つまり、外見的には（幻想的には）人々の最大限の個性化が保たれているように見えます。そして、人には情報を得る選択の自由があるようです。たとえば、ラジオを聞く、新聞、雑誌を読む、テレビでさまざまなチャンネルを見る（そしてそれについて他の人と議論する）、またはテレビのさまざまなメッセージやエンターテイメントに注意を払うなどです。インターネット。しかし、実際には自由などというものは存在せず、これらはすべて個人化の幻想にすぎないことがわかります。実際、人は文明が提案したものから何かを選択することによって、人工的に作成された情報フィールドに接続し、いわば突然塊を形成します。結局のところ、ほとんどの人は、彼と同じように、テレビで同じチャンネルを見たり、同じ新聞を読んだり、同じラジオを聞いたり、同じウェブサイトにアクセスしたり、インターネット上のソーシャルネットワークでコミュニケーションしたりしているのです。

そして、そのような大衆の活動の方向性の程度は、最大のテレビチャンネルの同じ視聴率を使用して常に監視および制御されます。

Web サイトのトラフィック、報道機関での特定の記事の人気など。

しかし、これは精神の真の大衆化であり、以前はタンバリンを持つシャーマン、儀式の助けを借りた魔術師、および同様の魔術師が公衆の前で実践していました。人間の意識に影響を与える古代の同じメカニズムが、今になって初めて、新しいツールの助けを借りて、より地球規模で実行されつつあります。しかし、原則は同じです。結局のところ、まず聴衆に一定の情報が提供され、大衆によるその認識の統一システム、共通の態度、価値観が作成されます。現代のコミュニケーターは、無感覚、無批判な模倣、盲目といった同じ暗示を呼び起こすメッセージをブロードキャストします。従属、つまり観客に共通する感情的および心理的状態。



最終的に、これは、この情報とその注意の方向によって形成される人間のコミュニケーション集団の思考と行動の特定のパターンの組織化につながり、したがって、この集団の一部である個人には気付かれずに、プログラムされた方向に行動することになります。

リグデン： まったくその通りです。人間の意識に対するこの影響は古くから知られていましたが、現在では根本的に新しい能力で使用されています。そして、その世界的な違いは、人間の指揮者を通じて動物の心の意志を伝達する人工の情報フィールドでは、人間の動物の性質を刺激するさまざまな情報があり、個人には実際には選択の余地がないということです。人格にとって、これは、人がこの情報源からどれほど多くの情報を受け取ったとしても、精神的な発達の行き止まりです。なぜなら、これらすべての情報は、動物の心の寿命を延ばすことに彼の注意を集中させるからです。

しかし、人間が人工的に作り出し、人間の指揮者を通じて靈界の意志を伝達する情報フィールドでは、依然として個人に選択の余地があります。なぜなら、同じ人工情報フィールドを介してそのような人々が真実を純粋な形で複製するおかげで、真実を受け取ることによって、誰でも自分自身を知り、靈的な性質からの観察者になる機会を得るからです。それは、地球規模の情報場に接続することであるが、この情報場は、物質界における人類の人工的に創造された限定された情報場とは本質的に比較することはできない。これは、人が自分の人格の精神的な成長、新しい存在への質的な精神的な変化に貢献することを意味します。そしてこれが重要な違いです。



アナスタシア：あなたは間違いなくそれを言いました - 限定された、人工的に作成された情報フィールド。メディア(主にテレビ、インターネット)を通じて、大衆意識のために神話が創造され、積極的に支持され、育成され、特定の世界観を形成し、態度を形成し、その多様性において情報の相互強化に貢献します。この神話は、個人の心の中で現実の物体間の本質的に架空の因果関係を強化し、過去と現在の出来事や著名人についての伝説を生み出し、現実との関係の架空のモデルを完成した形で形成または現在にもたらします。世界についてのこの断片的な知識は、このような神話の美しい包みで表現されていますが、大衆に世界と起こっている出来事についての包括的な知識があるかのような錯覚を与えます。彼らは、マジシャンのセッションで一般の人々と同じ、「私はそれを見た、だからそれは真実だ」という誤った認識の原則を持っています。実際、人は受け取った情報を自分で分析することすらしませんが、彼らは、その理由、誰がなぜそれを必要としているのかを理解することに苦労しません。そのため、大衆はこの情報に注意を払い、三次元世界の非常に狭い範囲の物質に注目しています。

情報の外的多様性にもかかわらず、実際、人々は自分自身で考えることから離れ、視聴者の認識や考え方を独自の方法で再構築しています。さまざまなメッセージのストリームがクリップのような性質を持っていることに注目してください。主な目的は、感情を呼び起こし、特定のメッセージに注意を引くことです。



リグデン：より正確に言えば、ここでの主な目的は、人を惹きつけることではなく、人の注意をその人の内面の精神的な成長からそらすことです。さらに、今日の情報の多様性に目を向けると、その基礎には単一の物質的な根と、人間の動物的性質の欲望の活性化がわかります。そこでは、すべてが特定の感情を呼び起こし、感情を形成することに基づいて構築されています。さまざまな情報源の相互影響下にある群衆の特定の考え方。

アナスタシア：確かに、もし人が動物性の波に乗っているなら、実際、彼には選択の余地がありません。なぜなら、彼は自分が外部操作の対象であることさえ認識しておらず、自分に押し付けられたイメージや思考を次のように認識しているからです。自分自身の考えを、その起源の本当の源について考えずに。そして、人がスピリチュアルな性質からの観察者であるとき、彼には比較する対象があり、実際に選択があり、動物の心がどのように彼に影響を与えるか、スピリチュアルな世界とは何か、人生がどれほど儂いものであるか、個人的なスピリチュアルな自己がどれほど重要であるかを理解しています。-改善がその中にあります。

リグデン：はい、それはすべて本当です。残念なことに、多くの人は、これらの考え方やその考えがどこから來るのか、なぜそれらに注意を払い、自分の中で特定のプログラムの命を維持しているのかについてさえ考えていません。誰が、なぜ、大勢の人々（あなたも含めて、点のように）に、あれやこれやの印象的な物語、映画、衝撃的なメッセージを見て、感情豊かな記事を読んでもらう必要があるのです。人々は、元の情報源、この情報が何を伝え、それが実際に誰に役立つか、人が注意を払っているこの人工的に作成された情報フィールドの背後に世界的に何があるのか、貴重な人生の時間を無駄にしていることについて考えません。



忙しい一日を終えた後、夜に家でリラックスする現代の平均的な家族の生活からの簡単な例を紹介しましょう。誰もが自分の情報エンターテイメントに忙しいのが普通です。インターネットをサーフィンして、最も興奮し、注目を集めるメッセージ、ゲーム、エンターテイメントに注目する人もいます。公式統計と、最も大量のアクセスがあったサイトの名前を見るだけで、動物の性質のどのフックが依然として人々の注意を引きつけ、独自の特徴を持つ特定のタイプの塊を形成しているかを理解するだけで十分です。他の家族は、たとえば音楽を聴き、このメロディーに対応する感情を経験します。さらに、テレビを見て映画や番組の登場人物に感情移入し、心の中で仮想的な行為に参加する人もいます。さらに、宿題で忙しい一方で、心理的に影響を受けた瞬間、その日の出来事、メディアから集めたニュース、現在の個人的な問題など、情報をスクロールして考えている人もいます。しかし、リストされている人たちは皆、同じように情熱によって最大限の注目を集めていますが、その情熱は実際には物質的なベクトルを持ち、動物の心の力と関連しています。実際、これらの「クラス」はすべて空であり、情報提供のみを目的としています。人生の時間を破壊する気晴らし。



そして、人生は手に持った水のようにすぐに乾いてしまいます。その人は何も悪いことはしていないように見えますが、その存在によって良いことも何もありません。充実した人生は、結局のところ、風に吹かれて前後に投げ飛ばされた穀物の穂のように、靈的な実を結ばずに根元から腐ってしまい、空虚なものになってしまいます。したがって、ここでは誰もがトウモロコシの穂のように、精神的な成長からの外部情報に気を取られています。人々の意識は非常に狭くなり、あれやこれやの感情や動物的性質からの考えに執着するため、このような瞬間には誰もスピリチュアルなことについて考えることさえなくなり、ましてや真剣に自分自身に取り組むことさえありません。しかし、精神的な成長は、どんな人の人生においても最も重要なこと、つまりその人の存在の意味です。

人は感情的に共感し、空の幻想に多くの注意を払いますが、それは彼を精神的に豊かにしないため、彼に何も与えません。しかし、この幻想は、それが形成する大勢の人々から感情(力)を汲み上げます。大衆の精神に対するこの幻想的なパフォーマンスに大々的に(強迫的に、衝動的に、感情的に抑制せずに)参加した後に個人が受け取るものはすべて、荒廃、動物的性質からの思考、感情、欲望の強化であり、実際、魂にとっての毒です。このようにして、各個人をある種の幻想的な忘却に導き、精神的成长のヒントを無視する、さまざまな情報錯覚に囚われた形成された大衆は、目に見えないところで動物の心の制御と管理下にあります。



人々は日々、知らず知らずのうちに彼に生命力を与え、情報を捧げている

動物の心はその注意を払い、これにより、ドナーとして、彼らは動物の心の力を絶えず養い、増殖させます。しかし、人が靈的に目覚めると、自分にとって重要なこれらの問題について考え始めます。彼は、これまで、そのような塊の再生産と動物の性質からの情報の複製において、単に強制された要素であったことを理解し始めます。精神的に目覚め、自分自身に取り組んでいる人は、本質的に、自分の本当の選択をします。彼は精神世界の意志の積極的な指揮者となり、人々が人工的に作成した既存の情報フィールドでの真実の普及に貢献します。真実は彼の能力を何倍にも高める力となる。

アナスタシア: はい、真実は非常に単純であることが判明しました。現段階のアニマルマインドは、理論的には地球上の大多数の人々の意識を世界的に受け入れるはずのシステムを積極的に作成していることが判明しました。

リグデン: 残念ながら、その通りです。現在、このツールは積極的に改良されており、新しいマスコミュニケーションのスーパー効果がすべて組み込まれています。このツール、つまりインターネットは、今日の精神を集中させる最も効果的な手段の 1 つとして、地球上のほとんどの人々にすでによく知られています。現在、テレビに代わってインターネットの普及が世界各国で盛んに行われています。さまざまな人々に大量のアクセスを提供するために、つまり、できるだけ多くの人を World Wide Web に引き付けるために、可能な限りのあらゆることが行われています。



テレビ、印刷メディア、ラジオに対するインターネットの利点は、インターネットがこれらすべてのマスコミュニケーション手段を組み合わせているにもかかわらず、安価であるため、大衆がよりアクセスしやすいことです。それは人の個性化の程度を保存します。しかし最も重要なことは、最も形成された大衆や「オピニオンリーダー」や活動的な人々を犠牲にして、世界中で情報を複製し複製する傾向を導入していることです。しかし、この世界的なテクノロジーにはアニマルマインドの弱点も隠されています。そして、賢い人はこれを考慮する必要があります。

以前は、物理的な群衆の中にいて、自分が行っている行動の不条理を理解している人は、状況を変えるために事実上ほとんど何もできませんでしたが、今ではすべての活動的な人にそのような機会が与えられています。言い換えれば、インターネット技術のおかげで、一人の男がすでに戦士の分野に属しており、彼だけが精神的な真実を多くの人々に伝えているからです。各人は情報を複製し、迅速に送信し、複製する機会を与えられます。この情報を受け取るすべての人には、動物の心の破壊的な意志に奉仕し続けるか、精神世界の創造的な意志を体現するかという意識的な選択をする権利が与えられます。

現在、人類がそのチャンスを利用してモナドを文明の精神的発展に向けることができるこのような独特的の条件が形成されました。それは、人々に対するアニマルマインドの情報影響力というツールを使用して、全く新しい社会的世界秩序を作り出すことができますが、その目的と方向性は全く逆です - 精神的に創造的な方向への人類の発展。



社会の精神的および道徳的変革という共通の目的に対する各人の個人的な貢献は非常に重要です。真実を広めることを目的として行われた、最も一見単純で「取るに足らない」行為であっても、最終的には何らかの形で社会の世界情勢に影響を与え、社会の未来を形作ると言えます。海が多くの小川や川から形成されるのと同じように、地球規模の創造的な情報フィールドは、真理を認識し、その積極的なガイドとなった多くの人々の思考と行動から形成されます。このすべての情報を持っている人がそれを広めたい場合、次のことを行う必要があります。 1) これらの書籍に含まれる知識の全量を人々に提供し、同時に地球上の最大数の人々に配布するよう努める。 2) この情報に基づいて人々を団結させるプロセスを促進します。これには常に行動、態度の変化、新しい価値観の形成、コミュニティの精神的な自己教育が伴います。とすればこれらの課題の実行において、自給自足の世界社会が必然的に形成され、自己組織化し、重要な問題を解決し、下された決定を実行することができるでしょう。各参加者の積極的なコミュニケーションは、この情報の影響を強化し、サポートし、拡大するだけであり、特定の感情的および心理的トーンを他の人に伝え、行動の例、一般的なアイデア、および行動を感染させるだけです。一般に、複雑なことは何もありません。大切なのは、情報をありのままに人々に伝え、新しい社会の形成過程に積極的に参加し、常に自己研鑽に努めることです。



人々は太古の昔からそのような社会を夢見ており、伝説の中でそれを「善の国」、「至福の状態」、「黄金の千年紀」、「正義の世界」、「千年紀」と呼んできました。未来は神の介入によって近づくことができますが、人間の行為によって達成されました。たとえば、同じキリスト教では、「千年王国」の概念は終末論(ギリシャ語の「エスカトス」-「最後の、最後の」、「ロゴス」-「言葉、教え」)、つまり最終的な運命についての宗教的な教えに属します。世界と人間の最終段階について、人類における動物の心の支配。終末論では、「再臨後の将来の千年にわたるキリストの統治 - キリストの地上への帰還とサタンに対する勝利」、「終末における善と惡の最後の戦い」であるハルマゲドンについて考察します。「人の住む地球全体」が参加します。しかし、このキリスト教の教えの文脈においてサタンと呼ばれるのは誰でしょうか?物質世界の動物の心。

今何が起こっているかを見回してみてください:権力闘争、人々に対するアルコンのギャングによる聖職者的、政治的、経済的暴力、市場の支配、人々の中に純粹に物質主義的な考え方を形成する消費者関係、人間関係に基づいた関係。動物の本能。人間社会に対するアニマルマインドからの実際の攻撃的な情報攻撃、実際には情報戦争が存在します。現代人は物質に向かって選択をすることが多くなり、動物的性質、現実的な自己、エゴイズムの影響範囲から離れることがほとんどありません。



彼は、自分自身が自分の精神的な性質とは異質な意志の力の中にあることにさえ気づかずに、ガイドとしてこれと同じモデルを他の人に押し付けます。これは権力であり、「サタンの装い」であり、人類を奴隸にし、マスクなしでその中を歩き回るアニマルマインドです。

しかし、すべてを変える機会は人々自身の手の中にはあります。人々は神の介入を待っています。しかし、これは人間と神の対話においても同じです。それは、本人の選択、行動、そして真の精神的变化によってのみ達成できます。聖書にはイエスが弟子たちに語った次のような言葉があります。彼を見ても知らないし。」。知識はすでに人間に与えられており、人間の選択と行動は人間だけに依存します。そしてみんなの行動から、世界社会全体が変わります！すべての生きている人々にとって、これはまさに、自分自身と文明を精神的に救う最後の残されたチャンスです。

このような社会を構築することは、人類が将来にわたって生き残るための唯一のモデルであるため、必要不可欠です。実は構築するのは簡単です。基本は説明されているので、この新しいモデルの詳細と一緒に検討するのは難しくありません。アルコンのスローガンに基づいて紙の上でではなく、精神的な性質を持つ人間の支配的な立場から、現実に現代社会を変え、自由で平等なものにすることができる、そしてそれを望んでいる、読み書きができる知的な人々がすでにたくさんいます。そのような社会を構築できるかどうかは、一人ひとりの行動と個人的な選択にかかっています。アルコンは人々に、非活動的で受動的に誰かがやって来るのを待ち、すべてを決定して実行するように教えました。そして、彼らの制度では、人間の「刑務所の自由」はソファの上の場所に限定されており、そこではテレビに唾を吐き、政治家や聖職者を好きなだけ罵ることができるが、とにかく誰も彼の言うことを聞くことはできない。



しかし、この押し付けられた幻想は誰にとっても簡単に打ち破ることができます。私たちはただ黙って座っているのではなく、私たち自身と社会を変革し、言葉の完全な意味での平和の使者となる必要があります。

アナスタシア： メッセンジャー？確かに、それは非常に正確に言われています。結局のところ、メッセンジャーは最初は知識をもたらす人なのです。そして現代世界では、これは古典的な悲劇の登場人物に与えられた名前でもあり、舞台の外で何が起こっているかを語ることになります。上記のすべてを考慮すると、平和の使者は、世界の舞台でパフォーマンスを観ているすべての人々に何が起こっているかの隠された意味を知っており、説明する人です。

リグデン： 私たちは皆、肉体を持っているので、物質の劇場に参加しています。パフォーマンスは衝撃的ですが、啓発的です。真実が明らかにされる人もいますが、偽善に夢中になる人もいます。唯一の違いは、この幻想的な光景の場所であなたの意識がどちら側にあるかです。

メッセンジャーは、友人、親戚、知人、見知らぬ人など、多くの人に真実を伝えることができます。神は彼らの中に、この真実を周囲の人たちに、そして他の人たちに伝えたいという願望を引き起こすことができます。そしてそのニュースは、素早く飛び立つハヤブサのように世界中を駆け巡ることになる。この情報がどれだけ早く社会全体に広まるかは、人々自身、そして各メッセンジャーの努力にかかっています。真理に染まっている人が増えれば増えるほど、その地域の能力に基づいて世界社会の状況を変え始める人も増えるでしょう。

利用できる情報を広めるため

口頭での伝達、ラジオ、新聞、テレビなどのメディア、そして今日のマスコミュニケーションの主な手段はインターネットです。



全員がこれに手と心と純粋な意図を捧げれば、最初の情報はすぐに世界中に広がり、短期間でこの考えが大部分をカバーするでしょう。そして大多数は本当の強さです！人々がこの情報を受け取り、その情報に染まるとき、彼ら自身が自分たちの本当の能力に基づいて社会生活を改善する方法を理解するようになり、宇宙統一の波が押し寄せるでしょう。したがって、多くのことは一人に依存しています。重要なことは、座ってアルコンからの慈悲を待つことではありません。

社会に対する人の眞の精神的な側面は、社会の利益のための誠実な意図と無私の行動に現れます。この意図に団結することで、人々はより多くのことを達成し、「アラトラ」という言葉の本質に導かれた質的に新しい文明、つまり人類を形成するための条件を作り出すことができるでしょう。

この言葉の秘密は、かつて、その現れのいづれにおいても動物の心の力に反対する靈的に献身的な人々によって、彼らのサークル内に保管されていました。彼らは眞の光の戦士であり、原初の知識の守護者でした。彼らの戦争の偉業に対して、次の真実が彼らに明らかにされました。原初の知識を持っているあなたには力もあります。力を持っているあなたは、栄光、名声、そして使命である言葉で影響を与えます。栄光は、唯一者に近づくことで栄誉を戴く者たちに、不滅の輝きの中で真実を宣言します。名前は原始の兆候を明らかにし、それが基礎であり鍵です。出来事の理解。永遠の呼び声は原初の音、創造の音です。



彼は記号をアラットの力で満たし、創造においてそれを強力なものにします。なぜなら、アラットは神の意志の現れであり、すべてに存在する力であり、神の意志に従って創造されたすべてのものの祖先だからです。価値のある者は魂の永遠の呼びかけに従い、彼女の勝利の叫びを告げます：「アラトラ」！聞く者一人一人が呼ばれた者であり、力を合わせると全世界を変える力が生まれます。」神から発せられる創造の力は、

アラトラ

この本に終わりはない、最後の言葉は人々に残るから。

アナスタシア・ノヴィクの公式ウェブサイト:
schambala.com.ua

アナスタシア・ノヴィクさんのメール:
anastasija_novix@mail.ru

ISBN 978-966-26-9007-1